うはり　傳襲雛十六雛譜の一。
うはぬり（名）上塗壁等の上を塗ること。
うはを（名）後夫、のちぞひ、のちのつま、のちのなつと。
うはねそび（名）上羅、うはぎ、うはがけ。
うはかは（名）表皮、おもてのかは。
うはかは（名）外面、そとがは、十おもて。
うはかは（名）荷草の莖甲即ち葉の外の皮。
うばかち（名）續斷（佐渡の方言）、をどりさう（植物。
うばがたけ　嫗岳日向と豐前の界にある山。
うばがつづら（名）夜合藤、桃柳藤、九眞藤（植物）。
うはがけ（名）外套、うはおそひ。
うはがき（名）表書、おもてがき（書信等の「十なあて。
うばがゆり（名）蕃家蕃貝母、うばゆり（植物）。
うはがみ（名）上紙、うはつつみがみ。
うはがひ（名）袵衣の前部にて左右より合するところ。
うばがひ（名）右馬劍氏。
うばたま（名）烏羽玉（野干の質にして黑き髮に用ふ、又料理の名。
うばそく（名）傳襲靡（俗體の男僧をいふ、「うばいに對す「蔑語」。
うはつ　烏髮、くろかみ、黑髮。
うはつ（形）有髮、かみあるかみのけある。
うはづつみ（名）上包、表包、おもてづつみ。
うはつく（自）浮輕、うはうはする。
うはなり（名）後妻、のちづま、のちぞひをんな、後妻。
うはなり（名）謠歌雛伎十八番の一。
うはなりうち（名）後妻毆、昔の風俗にて後妻を先妻の親族が來りて擊つこと。
うはなみ（名）茨、いばら、荊、荊棘植物。
うばら（名）表皮、おもてのかは。
うばらむら　兎原村丹波國天田郡の村名。
うはむき（名）上向、うへのかたにむかふこと、十たかくなること直段が。
うはむしろ（名）表蓆、寢床に敷き用ふる蓆。
うはり（名）烏鵲、うみすずめ（動物）。
うはりは（形副）浮浮、うきてゐもつかぬ樣、さだまらぬ。
うはりどり（名）羽蓐鳥（五彩の羽をあつめて幟とせし物）。
うはりちがみ（名）覆背紙、うちうちがみ。
うはりのり（名）上乘、荷物と共に船に乘りて之を監督し行く人、十又かるわざ。
うはのそら（形）浮空、上空、ききながし、かけかまはぬ。
うはくちびる（名）上唇、上唇、上吻、うはくちびる。
うはくちひげ（名）上髭、うはひげ。
うはぐすり（名）上藥、うはぬりぐすり、塗布藥。
うはやく（名）上役、上官、めう（のやくにん。
うはまへ（名）上樣衣服の前の上なる袵、うへにかさなるなり。
うはまへ（俗）（名）上前、勒掠金、かすり、十わけまへ。
うはまぶた　上瞼、うへのまぶた。
うばふ（他）奪、奪取、しひてとる、十奪、奪奪、掠奪、剝奪、かすめる。
うはこと（名）諺妄、諺語（熱海十浮かされていふ言）。
うはて（形）上手、上やうず、まさりてたくみなる。
うはあご（名）上顎、うへのあご。
うはさ（名）噂、風説、風聞、はなし。
うはざうり（名）上草履、床上にて穿く草履。
うばざくら　姥櫻（一重白色の櫻花にして葉の出でざる前に咲く）。
うはき（名）浮氣、輕浮、うはつくこころ、うはうはするこころ。
うはき（名）上衣、うへにきるもの、上服、表着。
うはきもの（名）遊治郎、遊蕩兒、放蕩漢、あそびずきのひと、のらくらもの、輕浮子、輕薄子、十また浮提子弟、みもちあしきひと。
うばゆり（名）蕃家蕃貝母、かばゆり、しががくれゆり、うばがゆり（植物）。
うはめ（名）上目、上の方を見る目、十をちめ。
うはめがしは（名）菁蒯樫、ちりめんがし、いまめがし（植物）。
うはみづ（名）上水（上に溜り或は清む水）。
うはみづざくら（名）上不見櫻、犬櫻、いぬざくら、家櫻、山櫻桃（植物）。
うはしかけ（名）上仕掛、弓の上の弦輪を云ふ。
うはしき（名）表敷、鞍、もてじきもの。
うはしき（名）況、增、鶴の品類、竹鶴とは異なり、やましき（動物）。
うはじき（名）鞍鞍、くらしき、馬具。
うはぶ（名）上縫、鉤染、染むる布の上に書く畫。
うはえり（名）襲領、襲袖、うえにかけたるえり、襟の上に袖垢などを防ぐために二重にかけたる襟。

うはひ（名）外陣、眼疾に云ふ、雲翳、くもがかり、外翳。
うはひぼさざず（形）鼻挺、おびときひろげ。
うはひげ（名）上髭（鼻の下の短毛、はなしたひげ、うはくちひげ、十八字ひげ、ムスタン。
うはも（名）上裳（昔し宮女が裳の上にまとひし廣き帽を云ふ、しびら。
うはずみ（名）上清（液物の上の方の清みたるものをいふ。
うに（名）雲丹、海膽、かぜ（はりせんぼん）の類（動物。
うにう（名）鼠鮫、おつとせい、骨鮫、海狗（海獸の名）（動物。
うにこうる（名）一角獸（動物。
うぼく（名）烏木、黑檀（植物。
うぼせ（名）いぼぜ、いぼたひ（動物。
うへ（形名）上、かみ、十陽、おもて。
うへ（名）筌（魚を捕る具、竹、やな、簀にて作れるもの。
うへ（名）上人を尊敬して呼ぶ時の詞即ち「ちちう（「あねう」の如し）。
うへ（名）夫人、內室（翻人の尊稱）。
うべ（形）宜、もつとも、むべ。
うへはら　上原氏。
うへわらは（名）上童（昔し宮中に召し使はれし少女の稱）。
うへだ　上田氏。
うへだまち　上田町（信濃國小縣郡の町名）。
うへだじま（名）上田縞（信濃國上田より織り出す絹）。
うへつぼね（名）上局（禁裡にある女御が召されし時の休息所）。
うべなるかな　宜哉、もつともなるかな。
うべなふ（自）　蹲、がてんする、うけがふ、しようちする。
うへの　上野（氏また大和の地名、又うへのやまを見よ）。
うへのはかま（名）表袴、褪、ひちみ。
うへのをのこ（名）殿上人、雲客（四位以下の公卿を云ふ）。
うへのやま（名）上野山（東京下谷の西北に在る小丘にて舊名を忍岡（しのぶがをか）と云ひ市內六公園の第一と稱す、其山脈北に走り朝霞王子に及ぶ、また此山を支那風に東台と呼ぶ）。
うへのきぬ（名）袍、かりぎぬ（公服）。
うへやな（名）筌、筍、すだれやな（魚を取る具）、うへ。
うへすぎ　上杉氏。
うへすぎむら　上杉村（越後國中頸城郡の村名）。
うべ（名）　烏兎（日月を云ふ即ち金烏玉兎の略）。
うど（名）　獨活、つちたち、獨搖草、長生草、土當歸、水白正（植物）。
うどねり（名）　內舍人（禁中警衛の官にて武勇の士をもて之に任ず、唐の通事舍人に當る）、うちのとねり。
うどむ（他）　蹴、蹴、疎、疎、疎

る地にして最良の茶を產出す。

うち（名）姓（源、平、藤原、菅原、清原、在原、紀、橘、大伴、小野の類）、十氏人の屬する族の類。

うちぢゐ　雲林院（山城國愛宕郡の地名）。

うちいと（名）打絲（山城國より製出する一種の絲。

うちいへまち　氏家町（下野國塩谷郡の町名）。

うちいる（自）打入、討入、せめこむ。

うちは（名）團扇、氷紋、便面、まるあふぎ。

うちは（名）内事、公けならぬこと。

うちば（形）内端、うちき、十ひかへめ。

うちはたす（他）打果、ころす。

うちはらふ（他）打拂、たたきはらふ、十煽、おひはちう、十きた（敵）を打拂ふなどを云ふ、大砲にて擊ちて撃ふなり）。

うちはし（名）打橋、殿中にて屬のときれに此より敵（打渡したる橋）。

うちはし（名）團扇匠、うちはづくり。

うぢはしいも（名）宇治橋芋、料理の名、芋をよく湯でて水蠟にて潤し白砂糖をまぜて赤色は紅にて、青色は挽茶にて染め米の粉を少し入れて蒸籠にて蒸したるもの。

うちはしらす（他）擊走、せめておひはらふ。

うちはえび（名）團扇蝦、てながえび（動物）。

うちはん（名）打鞦、攜硯、きぬたうつばん、うちだい。

うちには（名）内庭、なかには。

うちほろぼす（他）討亡、せめほろぼす。

うちぼり（名）内壕、裏壕、なかのほり、城の内壕。

うちざ（名）内舍、つぼね、ながつぼね、をんなぐや。

うちざる（他）討取、打取、たおす、十くびきる。

うちざける（自）打解、うちくつろぐ、十開胸臆、こころをひらく。

うちどめ（名）終、をはり、しまひ（演劇、相撲其他の終りをいふ。

うちざめる（他）打覺、うちころす。

うちちらす（他）擊散、せめはらす。

うぢちや　宇治茶（山城國宇治郡宇治里より出づる天下第一の名茶）。

うちたたす（他）打壓、打落、たたきおとす。

うちわ（名）團扇（「うちは」を見よ）。

うちわ（名）内句（内の方へ曲りたる脛また蹠人の如く足の先を内の方へ曲ること）。

うちわ（名）内緣、家族中、いへのもの。

うちわに（名）内戾脚、脛が内へ曲がりたるをいふ）。

うちわる（他）打割、割、打、こはしさく。

うちわた（名）綿鞴、はうれいわた。

うちわたす　打渡（「竹田の歴」「なかはえなす」等の枕詞）。

うちわれ（名）内分、うちもめ、うちわあらそひ。

うちわけ（名）内譯、ことわけ、かどがき。

うぢがは　宇治川（近江の湖水の下流なり、鎌倉久世紀伊の三郡を經て淀川に入る）。

うちがへ（名）憂（なき袋にて食を納れて腰に帶ぶるもの、たびぶくろ、こしぶくろ、無底囊、行縢行囊、十また縛袋囊の具にいふ、動飼袋）。

うちかた（名）疾疫、はやうちかた、けんべき病名。

うちかた（名）令改、貴き人の妻を尊びて言ふ詞。

うちかつ（名）打勝、かつ、まかす、制勝。

うちがね（他）火鉦、鉦鼓、鐘鼓のはじきがね。

うちがらくり（名）藏機（内部に備へたる機關）。

うちかけ（名）肩、かひがちばね。

うちかけ（名）桂衣、うちき、桂、襷（往昔婦人が衣服の上に纏ひしもの。

うちかけ（名）綿襖、そでなしのはもり（上下の上の如く袖のなき物にて男が禮儀の際に着物の上に打かけたる物なり貧家の頃も行はれしと太宰の閑話に見ゆ）。

うちかぶと（名）裏兜、かぶとのうち。

うちかぢ（名）撩鈎職船の用具にて敵船をひつかくるもの）。

うぢがみ（名）氏禮、元は家々の祖先を祭りし故に氏神と云ふ、うぶすながみ、ちんじゆ。

うちかみ（名）麓紙匠、きやうじや。

うちかひ（名）織短き機。

うちよせる（自）打寄、よせきたる、せめきたる。

うちよする　打寄（「敷河」の枕詞）。

うちた　内田氏。

うちたをり　打手折（「たむの山の」の枕詞）。

うちたむ（名）打奏弓袋の上部の餘り餘りを云ふ。

うちたむすく（名）打奏基、まんまく。

うちたふす（名）打倒、うちころばす。

うちだし（名）雪煎、うちだしたるやめん、丈出田地（檢地丈量の際に打出し餘したる田地）。

うちだし（名）打出（機機を金版に打出すこと、十

また打留、をはり。

うちだす（他）打出、たたきいだす。

うちだす（他）丈出（田地を丈量して餘分の地面を見出すを謂ふ）。

うちぬげ（名）錄毛、ちぢみげ、ちぢれげ。

うちそ（名）打麻（麻を打つて和らかに露せる物）。

うちそはし　打麻舖（「おみのこち」の枕詞）。

うちそと　内外、はかうち、中外、表裏。

うちそを　打麻（「おみのおはきみ」の枕詞）。

うちつづく（自）打續、ひきつづく。

うちつつみ（名）天鼓（神の儀鼓）。

うぢつく（自）逡巡、ためらふ、十きた曙隈、十蜘。

うちつくに　畿甸（京師の周圍の國、五畿内）。

うちつけに（副）明白、つつみかくしなく。

うちつける（他）打著、なげつける。

うちならし（名）内調、したなちひ、したげいこ。

うちならし（名）鋼磬、けい、きん（樂器の名「どうけい」の下に圖あり、就て見るべし）。

うちなびく　打靡（「草香のやま」「ひころ」「春等の枕詞。

うちむきのひれ（名）内向鰭（鯉の胸に接せる右の鰭）。

うちち（名）羽織（織物の名）（絹毛布等の縫に大小の絲を交ぜ織りたるもの、「あぜもり」）。

うちち（名）宇宙（天地をいふ、或は云ふ四方上下を宇といひ、往古來今を宙といふ）。

うちち（「する」（自）雨注、あめのごとくそそぐ（强雨等が）。

うちちざ（名）氏人、うぢこ。

うちちざも（名）牛毛石花菜（植物）。

うちちら（名）裏稱、うちぎぬ。

うちちみ（名）内海、裏海、内洋、いりうみ、雲地の内に入りたる海）。

うちちのぼる　打登（「佐保」の枕詞）。

うちちのぢぬり（名）内舍人、うどねり。

うぢのちやうじや　氏長者（一族の長なり、例へば源氏の長者など云ふ）。

うちちのり（名）内規（器物等の内のす法、うちのひろさ、内寸尺、内部寸方）。

うぢのりきち（名）宇治離宮（山城國の宇治橋の傍に在り）。

うちのたくみのつかさ（名）内匠寮、たくみづかさ。

うちのうみ　内海（丹後國の海）。

うちのしるすつかさ（名）内記、ないき。

うちのもの（名）從者、ともびと、嘗喰（酒船の車の外に見えぬを いふ）。

うちくるぶし（名）内踝、うちかたのくるぶし。

うちくたく（他）擊砕、うちこはす。

うちくつろぐ（自）打解（「うちとける」を見よ）。

うぢくさ（名）木槿蘆、みそはし（植物）。

うちくび（名）斬罪、首を切落す刑の名）。

うちくもり（名）内雲（紙の名）。

うちやうてん（名）有頂天（佛書にいふ高き天の名、十（俗）そち、うはのそら）。

うちやま　内山氏。

うちやましたちやう　内山下町（東京市麹町區の町）。

うちやぶる（他）破、打砕、碎粉、撃壞、うちこはす。

うちまはし（名）鵜鞦（船の帆艙に云ふ、擂子、絲麻升）。

うちまかせる（他）委任、委托、推委、まかせおく、ゆだぬ。

うちまた（名）内股、股の内の方）。

うちまたもの（名）反閉子（開方にくつつく者）。

うちまく（名）内幕（金欄、緞子又は布を以て作りたる幕をいふ、又幕内の襖子、案内の襖子及び内閣等をいふ）。

うちまける（自）打負、敗北、まけおとる。

うちまき（名）精米、くましね（神を祭る米、散米）。

うちまめ（名）打豆、扣豆、たたきつぶしまめ。

うちけす（他）打消、たたきけす、十けす、きやす、いひけす。

うちふせる（他）打伏、たたきふせる。

うぢと（名）氏子（氏神の下に在る民、うぢがみにつくひと。

うちところす（他）打殺、撲殺、擊殺、たたきころす。

うちとはす（他）打毀、たたきやぶる。

うちどほり　宇曾郡（大和國の郡の名）。

うぢどほり　宇治郡（山城國の郡の名）。

うちとむ（他）打込、たたきいれる。

うちとま（名）打闘繰（こまを打合せて勝敗を決する遊戯）。

うちて（名）礮手、たいはうかた。

うちでのはま　打手濱（近江國滋賀郡大津邊の湖濱にて有名の勝地）。

うちでのこづち（名）打出小鎚（用ひて地を打てば寶物の現出すといふ鎚、金槌子）。

うちあはせ（名）鬼、内殿、うちども。

うちあはび（名）煎鮑（鮑の肉をのしたるもの）。

のし。
うちあける(他) 打明、胸の思ひ等を。
うちあふび(名) 鬼魅(うちあはび)に同じ。
うちあみ(名) 撒網、たうあみ、毫、ときあみ。
うちあひ(名) 打合、たたきあひ、たたかひ。
うちさいはひちやう 内幸町(東京市麹町區の町、國會議事堂の所在地。
うちさ(名) 内氣、うちばのきまへ。
うちぎ(名) 袿(婦人の上衣)(うちかけ)を見よ)。
うちぎり(名) 打錐、孔をあける錐)。
うちきず(名) 夫人、貴人の妻をいふ。
うちきず(名) 打傷、撲傷、たたききず。
うちみ(名) 打肉、打身、撲身、打撲傷(打つて傷つけたる肉、うちきず。
うちみ 内海、うつみ氏。
うちみだりのはこ(名) 巾箱(櫛、手拭等を容れる箱)。
うちじに(名) 討死、戰死、戰没、いくさにしぬること。
うちしたがへる(他) 打從、うちなびける。
うちしき(名) 打敷(燈臺の打敷など云ふて、卓圖、つくるかけ、根子、テーブル、クロス十銅地敷(佛前の壇上に布く敷き物)。
うちひ(名) 樺、あぶちもめぎ、十醴、さけこし。
うちび(名) 燧火、きりび、十うちだすひ。
うちひらめる(他) 打手、打匿、たたきてひらたくする。
うちひめみこ(名) 内親王(天子の姉妹及皇女の尊稱)。
うちひも(名) 打紐、打紐、紐、くみひも。
うちもらす(他) 打洩、討漏、ころしもらす。

うちもの(名) 打物、かたな、たち、つるぎ、短兵、兵刃。
うちもも(名) 跨、また、跨胯、内股。
うちせき(名) 撞鉤、戰船の具。
うちすゑる(他) 打居、たたきふせる。
うちすずめ(名) 雛鳴、ひとりむし、ざしきすずめ(蟲蟲の屬)(動物。
うり(名) 瓜(甜瓜、胡瓜の類の名)(植物。
うりいへ(名) 賣家、うるべきいへ。
うりばたけ(名) 瓜田、うりのはたけ、うりをつくるはたけ。
うりはらふ(他) 賣拂、てばなす。
うりぼひ(名) 蠅瓜の葉を喰ふ蟲(守瓜)(動物)。
うりどき(名) 瓜期、うりのじゆくするとき。
うりぬし(名) 賣主、うるもの、うりて。
うりわりみぬ 瓜割樹(磐城國苅田郡に在る山)。
うりわたしがき 賣渡書、賣券、うりたるかきつけ(賣買、沽券。
うりわたす(他) 賣渡、うりやる。
うりわへる(他) 轉賣、ふたたびうる。
うりかけきん(名) 賣掛金、うりかしがね、かけうりがね。
うりかひ 買賣、うることとかふこと。
うりかだね(名) 轆、うりごめ、うることめ。
うりだね(名) 瓜核、うりのたね、うりざね。
うりたねがほ(名) 瓜子臉、ほそながきかほ、うりざねがほ。
うりたす(他) 賣出、發賣、販賣、いだしうる、うりはじむ、十發兌。
うりのき(名) 八角楓、大空樹(植物。
うりくち(名) 賣口、うりどころ。

うりふ(名) 瓜生、うりばたけ、十又氏。
うりふの 瓜生野(長門國に在る落の名、また山城國の地名。
うりふやま 瓜生山(山城國愛宕郡に在る山。
うりこ(名) 賣兒、賣者、愛賣屋をいふ。
うりこ(名) 賣子、うりあるくもの(四方を賣りに歩くために屋はれたる人、新聞賣子、賣藥賣子などあり)。
うりこむ(他) 賣込、うりいれる。
うりて(名) 賣手、賣人、賣主、うりぬし。
うりさばく(他) 賣捌、發賣、うること、發賣。
うりざね(名) 瓜核、瓜瓣(瓜の中の實、うりのたね。
うりざねがほ(名) 瓜核顔、うりだねがほ、ほそながきかほ。
うりさき(名) 賣先、かひて。
うりきれ(形) 賣切、皆賣り了る、のこちずうりたる。
うりきれる(形) 賣切、皆賣り了る、みなうれをはる。
うりゆうのさき 宇龍崎(田雲國淡川郡の北端に在る岬)。
うりゆうごほり 雨龍郡(石狩國の郡の名)。
うりしろ(名) 賣代、うるものあたひ、十又うることと衣類道具を賣代なしてなど云ふ。
うりひろめる(形) 賣弘、うりつたへる。
うりもの(名) 賣物、賣品、商品、賣貨、うりしな。
うりもみ(名) 瓜縅、胡瓜等を切りて作りたる食物。
うりすゑ(名) 賣居、もとのままにすゑおきてう

ること(家等を。
うりん(名) 羽林(左右近衛府の唐名)。
うりんぐん(名) 羽林軍(營室の南に在る四十五星の名。
うりんしやうぐん(名) 羽林將軍(中將の唐名)。
うぬ(名) 犬、いぬ。
うぬぼれ(俗)(名形) 自惚、自慢、自負、高慢、じまん、ひとりぼめ、十てぼめ。
うぬぼれかがみ(名) 自惚鏡(自己の顔を美しく見せる機中鏡の名。
うる(他) 得、獲、占得、てにいれる、える、十ふたふ、能、よくする、できる。
うる(他) 賣、售、賣、ひさぐ、沽、沽却、賣却、てばなす。
うる(自) 黙、果實の食ふべくなりたるをいふ)。
うるはしむ(他) 爲美、以爲善、よくおもふ。
うるはしき(形) 美麗、嬋娟、麗麗、事美、美好、婚麗、妖好、麗麗、うつくしき。
うるほふ(自) 潤、潤、潤、沾潤、潤澤、浸潤、厭潤、浸漬、ぬれる。
うるほひ(名) 潤潤、ぬれ、十又看潤、ゆたかさ。
うるほす(他) 潤、ぬちす、しめす。
うるち(名) 粳米、ただのこめ、うるごめ、うるしね。
うるり(名) 細魚(動物)。
うるか(名) 江豚魚、いるか(動物)。
うるか(名) 鹽鹿、しほづけうるかの、はちちど。
うるむ(自) 眩、くろくなる(打傷があざになる。涙にて潤ふをいふ)。

うるま 漆間氏。
うるまのくに 琉球國(りうきう、沖繩。
うるけ(形) 魯鈍、愚騃、おろか、ぐ。
うるふざし(名) 閏年(二月の日數が二十九日ある年)、平年に對していふ。
うるふづき(名) 閏月、閏餘(太陰曆にて十二ヶ月の外に今一つある月をいふ)。
うるふづきうめ(名) 閏月梅、山樓、さんざし(植物。
うるどめ(名) 秔、うるしね、うるち、ただのこめ、粳米。
うるあは(名) 粳粟、ねばちぬあは。
うるさき(形) 煩、あづちはしき、厭煩。
うるさき(形) 厭膩、きたなき。
うるさぼし(名) 女宿(二十八宿の一にして北方に在り)。
うるさび(名) 錆、ねばちぬきび、ただのきび。
うるめ(名) 鰞、海うをのな(動物)。
うるみしゆ(名) 鰞朱(黒赤色にて塗物にいふ)、朱染。
うるし(名) 漆(木より脂を取りて物を塗るに用ふ)(植物。
うるしいし(名) 鳥石、くろいし、からすいし。
うるしばけ(名) 漆刷毛、髹毫、うるしぬるはけ、髹筆。
うるしぬり(名) 漆塗、漆を以て塗りたる物。
うるしをけ(名) 漆桶、うるしいれをけ。
うるしかぶれ(名) 漆瘡、うるしかぶれ、うるしふきて。
うるしかき(名) 漆取、うるしとり、漆戸、うるしをとるひと。

うるしかき(名) 漆柿、しぶかき(植物。
うるしね(名) 秔、うるごめ、粳、うるち(植物。
うるしむろ(名) 漆室、漆器の塗りを乾かす室ゆのむろ。
うるしのき(名) 漆樹(植物。
うるしや(名) 漆屋、ぬしや、うるしぬるひと。
うるしこし(名) 漆布、うるしこすぬの、髹布。
うるしこし(名) 蕎麦、吉野低の一名。
うるしきび(名) 錆、きび、明禾(植物。
うるひ(名) 鰞(物に遇氣を含むこと、十餘(又餘裕あること。
うるもち(名) 餮、こめのもち、しんこ。
うを(名) 魚、いを、さかな、うるくず。
うをいちば(名) 魚市場、さかないち。
うをはさみ(名) 水蛇蟲(丹波日向の方言、かつぱむし(動物。
うをざり(名) 漁父、漁夫、漁翁、漁人、さかなとり、れふし、むらぎみ、漁子、漁豎。
うをどうふ(名) 魚豆腐(料理の名、魚をよく擂り胡野菜などを混ぜて豆腐の樣に箱の内に布を敷きて蒸すなり)。
うをどひや(名) 魚問屋、魚屋、さかなどひや。
うをぬまごほり 魚沼郡(越後國の郡の名)。
うをかご(名) 魚籠、魚籠、さかなかご。
うをがし(名) 魚河岸、さかながし。
うをたな(名) 魚市、魚市、さかなまち。
うをつり(名) 釣徒、釣客、釣人、釣者、つりびと。
うをづまち 魚津町(越中國下新川郡の町)。
うをとり(名) 魚津港(越中國の地名。
魚戸、賣魚人、さかなうり。

うをのと（名）魚子、鮞はちちこ、鮞鱭已に散じて草に在るもの、鰭鰭うまれいでたるもの、蘇鱭（稍長ずるもの）。

うをのあぶら　膏魚、鱗鱭、魚白、魚脂。

うをのめ（名）魚目、石砌、魚眼疣、疣目、疣眼、まめ、身體に出る。

うをや（名）魚屋、魚鋪、さかなや。

うをあきんど（名）魚商、さかなや、さかなうり。

うをあみ（名）魚網、さかなあみ、うをとるあみ。

うをせんべい（名）魚煎餅、料理の名、何魚にても片身をあぶし皮をむき上等の葛粉を溶て之を包み大なる竹葉にて卽きのばし適宜の猪口にて丸く押切り助炭にて燒くなり。

うわ　宇和氏。

うわる（自）積、うえてある。

うわう　禹王、夏の代の明天子にして洪水を治めしを以て著はる。

うわうさわう（副）右往左往、あちちこちち、しよしよはうばう（戰ひ負けて右往左往に散亂すなど云ふ。

うわどほり　宇和郡伊豫國の郡の名。

うわじま　宇和島伊豫國北宇和郡の一都會。

うか（名）食、くもの（古語）

うか　宇下、のきした。

うがは（名）鵜河鵜を使ひて水魚を捕ること。

うかべる（他）浮、心附かずと、ふと。

うかざ（副）浮、心附かずと、ふと。

うかがふ（他）窺、闚、伺、候、偵間、窺伺、闚視、歌、みる、のぞむ、十卽覩、ねらふ。

うかがひ（名）伺、察識、諜訓、諜旨、たづねることと（上官に。

うかがひしよ（名）伺書、たづねぶみ（官府に出す。

うかがひざ（名）間諜（敵地にいたりうかがふ人を云ふ、しのび、かんじや。

うかがひずみ（形）伺濟（官にとひあはせを爲し了りたること。

うかれどり（名）狂雞、くるくるにはとり時を誤りて早く鳴きて人を驚かすが如き雞雛をいふ。

うかれる（名）浮戲、浮狂、うきたつ、うきうきする。

うかれがらす（名）烏、月夜烏（時なちぬになく烏。

うかれづま（名）遊女、うかれめ、ぎようろ、ぎよちう。

うかれうた（名）戲歌、うきたつうた。

うかれぶし（名）浮節（都都一などを歌ふ節をいふ。

うかれとぶね（名）風聲、かざごえ、寒胃聲、（俗）いきなこえ。

うかれめ（名）遊女、たはれめ、あそび、あそびめ、遊君、娼婦、娼妓、きそびめ、十私窩子、ぎどく。

うかれびざ（名）浪人、浪客、浮浪人、さすちひびと。

うかれびざ（名）輝客、あそびて、たはれを、いろごとし。

うがつ（他）穿鑿はる、十とはず、十みぬく。

うかねらふ　如浮金（うきみの枕詞。

うからら（名）氏族、同族、やから、親戚。

うかむ（自）泛、うく（うかぶを見よ）。

うかう（名）芋煎、芋粥、いものくき、いものから、ずわき。

うかうか（副）虚虚、うつかり、不注意。

うがのかみ　宇賀神、稻魂（五穀の神。

うがのみたま　倉稻魂（五穀の主宰の神、とようけのかみ。

うかく（名）羽客仙人を云ふ、羽士、やまびと、僊人。

うかましま　宇加麻島琉球諸島の一。

うかぶ（自）浮、泛、浮淡、浮謎、浮動、うかむ、うく。

うがふ（形）島合、よりあつまり（處々より知ちぬ人などが寄集りたるを云ふ。

うかひ（名）鵜飼、鵜雀、鵜を飼ひて魚とる人、うつかひ。

うがひ（名）嗽、くちすすぎ。

うがひちやわん（名）嗽茶椀、くちすすぎちやわん。

うかひがは　鵜飼川、駿河國富士郡より出づ。

うかひぶね（名）鵜飼舟、鵜を使うて魚を捕る舟。

うより（名）雨餘、あまあがり。

うよりやう（名）雨餘獲、いしなだんご（土中にある柳色の鏤鏑の類。

うよく（名）羽翼、はねつばさ。

うた（名）雅樂、音樂をいふ。

うた（名）歌、謳、謠、うたふことば、十唄、うたひもの。

うだ　宇陀氏、また大和國に在る有名の地。

うだいべん（名）宇内、あめがした、天下。

うだいべん（名）右大辨官名、べんを見よ。

うだいし（名）右大史（古の官名、唐の尚書右大都事に當る。

うだいしやう（名）右大將、右近衛大將をいふ。

うだいじん（名）右大臣、みぎのおとど（左大臣の下、內大臣の上に在り、唐の大保、右丞相、右僕射に同じ）。

うだいせう（名）右大少吉（への官名、撿非違使に屬す）。

うたへ（名）訴、公事、訴訟（事件の曲直を官に訴へ其判決を受くるを云ふ）。

うだち（名）宇立、棧橋上の一橋、たたりがた、はりのう（のちひさきはしら。

うたを（名）歌男、うたうたふとこ（歌を詩くする男と日本紀に見ゆ）。

うたがはちやう　宇田川町、東京市芝區の町名。

うたがはし（形）可疑、怪、いぶかしき、疑疑。

うたがるた（名）歌牌、歌かきたる骨牌。

うたかた（名）泡沫、浮漚、あわ、水の、十又しばしのま、十かりそめ。

うたかたぐさ（名）升麻、とりあし、とりあしし、ようま（植物。

うたがふ（他）疑惑、惑疑、疑疑、疑貳、いかにとところにかんがふ、十あもひまどふ。

うたがき（名）歌垣、男女大勢して歌をもて賦を遊べるなどして遊ぶ古代の風俗、かがひうた。

うたがきやま　歌垣山、摂津國豐能郡に在る山。

うたがみ（名）宇田紙、大和國より製出する紙の名。

うたがひ（名）疑、疑心、疑念、疑團、いかがとおもふところ。

うたよみ（名）歌人、うたびと、うたよみひと。

うたた（副）轉、いよいよ、十いたく、十うたて。

うたたね（名）假寐、假睡、假眠、かりね、轉眠。

うたつ（俗）（名）遥遠、うん、さかえ、しやつせ。

うたね（名）前胡、かつぼくさ（植物。

うたながめ（名）詠歌、歌をよむを云ふ。

うたうたひ（名）娼女、うたひめ、十うかれめ。

うたうたら（名）歌占（歌に由りて事の吉凶を占ふを云ふ。

うたのほふし（名）宇陀法師（大和琴の名、檜にて作れるものなりしが、一條院のとき燒け失せたりといふ）。

うたのかみ（名）雅樂頭、音樂を司る古の官名。

うたのつかさ（名）雅樂寮、ががくれう。

うたのくわい　拘懷、だきかへる、いだく。

うたく（他）歌貧、うたよみあつまり。

うたぐち（名）歌口、和歌の詠み風、歌體、十歌を詠む巧なること。

うたぐち（名）歌口（笛の吹く所の口を云ふ。

うたまくら（名）歌枕（國中の名所を歌に詠みいるるを云ふ。

うたまひのつかさ（名）雅樂寮、ががくれう。

うたげ（名）宴、さかもり、酒宴、饗宴。

うたげる（自）賜、こしかくる、あぐちかく。

うたふ（他）歌、謠、謳、詠歌、唱歌、吟詠、歌頌、唄、ながめる、ふしつけていふ。

うたふくろ（名）歌袋、歌を書きたる紙を入れて柱にかくる飾袋。

うたごほり　宇陀郡、大和國の郡の名。

うたて（副）轉、うたた、十いたく、あはいに。

うたて（形）太甚、はなはだしき、十寡情、なさけしちぬ。

うたてんわう　宇多天皇、人皇第五十九代の帝、紀元一千五百四十八年（西洋紀元八百八十八年）より一千五百五十七年迄、在位十年御譲六十五正統紀七十六といふ學子院と號し又寶平法皇と號す。

うたあはせ（名）歌合、うたくらべ（歌の優劣をくらぶる戲。

うため（名）歌女（歌を詩くする女、十うたひめ、うたうたふをんな、十妓女、歌妓、校書、げいこ。

うたゑ（名）歌謠、歌にて說き或は書く譜。

うたひ（名）謠曲、ふしをつけてうたふ一種の曲。

うたひばね（名）謠羽、鳴羽、鶴の尾にある長き羽。

うたひて（名）歌者、うたふもの、うたうたふひと、十又うたひかた。

うたひじり（名）歌仙、歌聖の名人、歌聖。

うたひもの（名）謠物、うたふことがら。

うたすつどほり　歌墨郡、後志國の郡の名。

うたん（名）羽緞、ごろふくりん、織物。

うたんせん（名）羽團扇、はうちは。

うち（名）内、さき（枝の、ちゞ丈、十末、すえ、はし。

うれへ（名）憂、患、愛、憂愁、かなしみ。

うれへぶみ（名）愁訴狀、憂を官に訴ふる文書。

うれる（自）賣、うれゆく。

うれたき（形）憎、ねたし、なげかはしき。

うれくち（名）憎口、うれゆくさき。

うれふる或**うれへる**（自）憂、患、悔恨、悲憂、憂愁、憂慮、愁傷、憂感、恨恨、かなしむ、なげく。

うれしがる（自）嬉、喜、よろこぶ。

うれしげ（名）嬉氣、うれしきこころもち。

うれしぶ（自）嬉、うれしがる、よろこぶ。

うれしき（形）愛、歡、よろこばしき、歡、悅。

うれひ（名）憂、患、憂愁（うれ（を見よ）。

うそ（名）鷽、鳴鳥、紺老鶯、雄を（てりうそ）と云ふ）。

(動物。)

うそ(名形) 虚言、讒言、いつはり、妄言、十まことなさぬ、虚偽、妄誕、虚誕、虚妄。

うそがへのしんじ 諏訪神事、京都洛西島原にて正月十四十五日の夜遊郭中の男女が色紙短冊に古歌を認めて天満宮の神前へ奉納し先の古歌と取替る例あり之を鶴替といふ太宰府の鶴替之神事に類似るなり。

うそつき(俗)(名) 虚言者、食言者、浮詐人、いつはりて。

うそらしき(形) 似詐、似妄、いつはりちしき。

うそむく(自) 嘯(うそぶくに同じ)。

うぞく(名) 羽族、羽氣ある動物。

うぞく(名) 右族、れきれき貴神をいふ。

うぞく(名) 鳥賊、墨魚、いか(動物)。

うそくらき(形) 嗚曖、こゞうき、うすくちき、をぢちき。

うそふく(自) 嘆、いきふく、十くちぶえふく。

うそぶむ(名) 微笑、含笑、わづかにわらふ、ゑひをふくむ。

うつ(名) 鬱、ふさぎ、きふさぎ。

うつ(する)(自) 鬱、ふさぐ(氣が)、いんきになる。

うつ 宇津氏。

うつ(他) 打、擊、敲、撲、搏、批、ぶつ、たたく、十拍手をう、十搗布或は衣を、十擣(鐘などを)、十撞、つける紋をつける也、白銀もて中黒の紋うつたる兜など云ふ。

うつ(名) 討、討伐、うちはらぼす(敵等を)。

うつ(他) 組、あむ、くむ、十掴。

うつ(他) 罰、罪をかこむを云ふ。

うづ(名) 島頭、茂草、とりかぶと(毒草)植物。

うづ(名) 渦、うづまき、みづわ、ぐるぐるまくみづ、巻水。

うづ(形) 珍、めづらしき、たふとき。

うづる(名) 閉塞、うづくまりをる乙と、かがみすわること。

うついふ(名) 鬱悒、きふさぎ、十いきどほり。

うつろ(形) 冲、虚、空、空洞、中空、から、うろ。

うつろぞうふ(名) 空洞豆腐、料理の一法、豆腐を岩の如き形に造るなり。

うつろふ(自) 變移、かはる、うつりかはる。

うつろぶね(名) 空舟、獨木舟、まるきぶね、刳舟、全木舟(うつぼぶねを見よ)、うつをぶね。

うつは(名) 器、器皿、うつはもの、十器具、だうぐ。

うつはり(名) 偶、虚言、いつはり。

うつばり(名) 梁、棟梁、屋樑(家の屋根の下に張れる大なる木。

うつばり(名) 雉、きぎす、きじ(動物)。

うつはぎ(名) 全剝、まるはぎ皮の。

うつはもの(名) 器物、うつは、器用、器具。

うつぼ(名) 鱧魚(動物)。

うつぼ(名) 空虚、洞、中空、空、ほら、うろ、うつろ、から(木の中の空なる處。

うつぼ(名) 箙(矢を入るる器。

やつぼ。

(此圖は薩摩國武庫郡農の家鷲尾次郎兵衛藏鎮義經所用。)

[圖] 鎮義 一尺七寸 熊毛 金物赤銅

うつぼいちご(名) 覆盆子植物。

うつぼばしら(名) 水路柱、たてどゆ、あめをうくるたてのとゆ。

うつぼがひ(名) 琵琶蟹、うつぼ貝(動物)。

うつぼつ(形副) 鬱勃、いきどほりふさぐ貌。

うつぼぐさ(名) 夏枯草、蓋面草、鍵色草、薬州夏枯草、かんたんのまくら植物。

うつぼぶね(名) 艙艙、冲舟、虚舟、なかくりぶね、十まるきぶね(うつろぶねを見よ)。

うつぼぎ(名) 空木、うろのき、からのき。

うつへい(する)(形) 鬱閉、ふさぐ(氣が)。

うつさり(副) 忽爾、俄爾、急の如き心地をいふ。

うづち(名) 卯槌(正月の第一の卯の日に作りて邪除を攘ひし小さき槌。

うつちやる(俗)(他) 打遣、うちやすてる。

うつちやり(名) 鬱金香の草より香氣を取りて離ぜたる酒にして支那にて祭祀に用ふ、さくさ。

うつり(名) 映、照、鏡、對照、彼れと此れと相てりあふを云ふ。

うつり(名) 鬱季、さすもも、植物。

うつりが(名) 移香、うつれるにはひ。

うつりかはり(名) 遷革、變遷の次第。

うつりかはる(自) 變遷、代謝、移換、移易、轉變、かはりゆく。

うつりがたけ 移嶽(攝津國田村郡に在る山、美山(うつくしだけとも呼ぶ。

うつり宮(名) 遷、迂、徙、推遷、移動、移轉、遷徙、ゆきかはる、ところをかへる。

うつる(自) 傳染、とりつく(病が)。

うつる(自) 映、えいずる、てる日光火氣等に云ふ。

うつを(形) 空、うつろ、うつぼ。

うつをばしら或うつをばし(名) 空柱(うつぼばしらを見よ)。

うつをぶね(名) 刳舟、全木舟、まるきぶね、空舟。

うつかり(俗)(形副) 無心、不注意、うかうか。

うづかひ(名) 鵜遣、鵜匠、鵜を以て魚をとる人、鵜師、うかひ。

うつたい(する)(自) 鬱滯、ふさぎとどこほる。

うつたへ(名) 訴訟、くじ、訴訟民事上の。

うつたへにん(名) 訴人、訴訟人、うつた(する)ひと。

うつたへる(他) 訴、訴訟(裁判所へ裁決を願ひ出づる)。

うつたどり(名) 杜鵑(ほとときす)の一名)(動物。

うづだかき(形) 堆、穹窿、やまなりなる。

うつたち(形副) 鬱陶憂(鬱る貌。

うつたちしき(形) 鬱陶敷、くもりてくちき、十又うるさき。

うつたけの 空竹之(とをを)の枕詞。

うつそう(副形) 鬱蒸、草木のしげれるを云ふ、こんもり、あをあを。

うつそみ(名) 顯身(此世に生存するひと)、うつせみ。

うつそみの 現身之(やそものを)の枕詞。

うつつ(名) 現、まことのさま、十いまのよ、十めさめたるさま、十又(俗)まぼろし、幻。

うつつのひざ(名) 顯人、押黙者、つれになれたるひと(古語)。

うつつく(自) 楚痛、ちくちくいたむ。

うつつごころ(名) 現心、たしかなるこころ、しやうき。

うづなく(副) 必極、たしかに、きはめて。

うづなふ(自) 協同、うべなふ、承諾、うけひく、神が認して人を助くるをいふ。

うづなき(形) 確、うたがひなき、たしかなる。

うつら(形) 鶉、四月捕るを「むぎどり」と云ひ冬月雪中に捕るを「ゆきどり」と云ふ(動物)。

うづら(名) 中棧敷、なかさじき、劇場の見物所に云ふ。

うづらなく 鶉鳴(ふりにしさと、ふるし等の枕詞)。

うづらなす 如鶉(いはひもとほりの枕詞)。

うつらうつら(形) 昏昏沈沈、うとうと、ねむりを催すこころもち。

うづらまめ(名) 斑豆植物。

うづらごろも(名) 鶉衣、道人山人等が著る短かく敝なる衣服をいふ。

うづらひき(名) 山蛤、伊豫の方言、やまがへる(動物)。

うづらもち(名) 鶉餅、菓子の名。

うづむ(他) 埋、地を堀りて物を土中に入れるをいふ。

うつむろ(名) 無戸室、周圍を土もて塗りたる室。

うつむく(自) 低頭、俯伏、俯俛、したにむく。

うつうつ(形副) 鬱鬱、もやもや、昏昏、きふさぎて。

うつつのやたらげ 宇津谷峠、駿河國安倍郡の山。

うづのふ(他) 鬱(うづなふを見よ)。

うつのみや 宇都宮氏。

うつのみやし 宇都宮市(下野國河内郡の中央に在り)。

うづく(自) 痛、疼、疼痛、楚痛、酸痛、傷痛、ちくちくいたむ。

うつくよし(名) 寒蟬、かむせみ、くつくつぼふし(動物)。

うつくつ(する)(自) 鬱屈、ふさぎかがむ他に壓せられて伸び得ざる貌。

うづくまる(自) 蹲、踞、蹲下に座して首を下ぐるをいふ、うづなする、うづゐる。

うつくしき(形) 美、妹、麗、妍、鬱、うるはしき、十麗妍、可愛、いつくしき、かわいい。

うつくしみ(名) 憐、憐愍、あはれみ、いつくしみ。

うづまる(自) 埋、塡、埋没、うまる、うづもる。

うづまく(自) 渦巻、渦、渦旋、渦潮、渦紋、めぐりまはる、ぐるぐるまきてめぐる(海水等が)。

うづまさむら 太秦村(山城國葛野郡の町名)。

うづまき 渦巻、うづまくこと、うづまくところ上を見よ、うづ。

うづまきどうふ(名) 渦巻豆腐、料理の名。

うつけつ(する)(自) 鬱結、むすぼれる。

うつけもの(俗)(名) 虚空者、虚氣者、癡人、ばかもの、たはけもの、愚物、おろかもの、方藥。

うつぶるひ 十六島(雲州藤川郡の地名)。

うつぶるひのり(名) 十六島海苔(出雲國十六島に産する佳香の海苔)。

うつぶるひのさき 十六島崎(出雲國の岬の名)。

うつぶく(自) 俯、うたむく、うつむく。

うつぶし(形) 向下、うつぶせ。したむき、俯臥。

うつぶん(名) 鬱憤、いきどほり。

うつと(名) 珍兒、美はしき子。

うつとえ(名) 宇都越、日向國諸縣郡に在る山。

うつとん(名) 鬱金、がとん(次を見よ)、植物。

うつとんかう(名) 鬱金香、此草の花は純黃にして黃金の如き色を帶ぶ、さくまかう(植物。

うつとんかう(名) 鬱金香、かをりよきしなものなり、かうばしきかう。

[圖の鬱金香]

うつて(名) 打手、打手、せめよせて。

うつてざる 鼎、毀屑非の言。

うつあし(名) 鼎、うちくろぶし足の。

うつさん(俗)(名) 鬱氣、きふさぎ、しづみごころ。

うつき(名) 宇津木氏。

うつぎ(名) 鬱積、太陽、金萬、陽萬、暗萬、ひ。

うつき(名) 漫疏、うのはな、しはみやさ(植物)。

うづき 卯月、太陰曆の四月の異名。

うつゆふの 鯖之(「こもりて」、「ささき國」等の枕詞。

うづめる(他) 埋、埋沒、擾、うゐる、いける、十擾埋、壞充、淫慶、ふさぐ。

うつみ 內海、うちうみ、裏海、十また氏)。

うづみどうふ(名) 埋豆腐(豆腐を槻の中へ入れ上より飯を盛りたる料理。

うづみざひ(名) 陰摺、うめみぞ、土中に埋めたる下水溝。

うづみび(名) 埋火、いけび。

うつし(名) 膳寫本、かきうつしもの、寫本。

うつしよ(名) 顯世、うきよ。

うつじより(する)(自) 鬱蒸、むれる、鬱蒸。

うつしうま(名)(他) 移植、うゑか(る。

うつしのつゆ(名) 憂滴、男女一點の露。

うつしやう(名) 鬱症、ふさぐやまひ。

うつしやく(する)(自) 鬱積(きのむすぼるを云ふ。

うつしやま 美山、摩城國田村郡に在る山、鬱蒸(うつりだけ)とも云ふ。

うつしまき(名) 寫本、かきはん。

うつしふ(名) 影戲、かげうつしえ、かげゑ。

うつしふあんどん(名) 影照行燈、幻燈。

うつしびと(名) 浮世の人、凡俗の人。

うつしもの(名) 寫本、膳寫、うつし、うつしき。

うづふ(名) 卯杖(支那の闢杖に似たる物にて正月第一の卯の日に作りて邪氣を攘ふに用ひし杖。

うづふほがひ(名) 卯杖觀(「うづふ」の祭。

うづふのほふし(名) 卯杖法師、卯杖を天子に奉呈する者。

うづもる(自) 埋、うづまる、うもる(物の下にあはれてあるを云ふ。

うつもり(形) 鬱膿、うすぐらき、くらき。

うつもも(名) 股、うちもも、十又物の內間。

うつもん(名) 鬱悶、ふさぎもだへること。

うつせがひ(名) 空貝(貝の殼、空殼、かひがら、からがひ。

うつせがひ 空貝(「みなき」の枕詞。

うつせき(する)(自) 鬱積、つもりつもる、みつる蓄に憤恨などが心中に積り充つるをいふ、かきみつもる、やるかたなくつもる。

うつせみ(名) 現身、此世に生て在る身、うちしみ。

うつせみ(名) 鶺鴒、三四月に鳴く蟬、動物。

うつせみ(名) 蜩蟬、せみのぬけがら、もぬけのから、遷蟬、空蟬(古來之を世上の枕言に用ふ。

うつせみの 現身之(「命」、「いも」、「常」、「人」、「八十ことの」へはしけくとも」、「世等の枕詞。

うつせん(形副) 蹔然、物の盛んなる貌。

うつす(他) 寫、寫、書寫、搨寫、摹寫、謄寫、國寫、かきうつす、かきとる。

うね(名) 畔、畝、嶺、さく(はたけの)。

うねべ(名) 采女(「うねめ」を見よ。

うねぬの(名) 畝布、よついりのたぐひ、うねぬり、あぜぬの(「うねたり」をみよ。

うねる(自) 蜷曲、まがりくねる、十蜷嶺。

うねれり(形名) 畝織(絲を畝の如く高くあげて織れる布をいふ、起絞、嶺布。

うねくる(自) 蜷嶺(「うねる」を見よ。

うねめ(名) 采女、古(後宮にて養育の事にあづかりし官女にして諸國の國守等の女妹の形容雜正のものをもて之に充てたり。

うねめちやう 采女町、東京市京橋區の町名。

うねめづかさ(名) 采女司(采女の事を司る官署、唐にて采女署と云ふ。

うねめのしやう(名) 采女正、古(への官名。

うねびやま 畝傍山、大和國高市郡に在り、鬱飛、雲根火等と書く、今俗に橿明寺山といふ。

うねんじゆ(名) 晷枯樹、植物。

うなゐる(名) 髫髮、頭髮を項まで垂れたる童。

うなゐはなり(名) 放髮髫、小童の髮を振り分けをる者をいふ、はなり。

うなゐまつ(名) 稚松、十萬鬱松(墳墓の標に植ゑたる松。

うなゐこ(名) 童子、髫髮、垂髮子、かみたれたるわらは、うなゐ、うなゐはなり、ふりわけがみのこ。

うなは(名) 鵜鶘、鵜を使ふ時につける繩。

うなばら(名) 海原、もはうみ、海海。

うなり(名) 風等(低高に施して鳴ちす物、たこのぶいぶい。

うなりどろ(名) 喉、呻吟、唸喉、うめき、ごろ病人の。

うなる(自) 項垂、項垂二人互に手を項にかけて親しく並びあるくをいふ。

うなかぶす(自) 項垂臥、うなだれふす、低頭、かうべをたれる、草稻などの項垂るるに云ふ。

うながみ(名) 項髮、鬢、たてがみ、馬等の。

うながみごほり 海上郡、下總國の郡の名。

うながす(他) 促、もよほしたつる、備、備進、十また催促、督促、いそがす、せく、せきたてる。

うなだれる(自) 項垂、低首、くびをさげる、かうべをたれる、低頭、うなかぶす、かぶす。

うなづら(名) 海面、うみのもも。

うなづく(自) 頷、點頭、首肯、首話、がてんする、そくしんする。

うなや(名) 檻、罪人を入れおく處、牢屋。

うなふ(他) 鍵、たが(へす。

うなどじ(名) 蕈中蛆、かみきげむし、くそむし(動物。

うなて(名) 畝手(田に水をひく窪めの)、溝、たみぞ。

うなさか(名) 海界、うみのさかひ。

うなされる(自) 魘、魘夢、魘、もはれる、夢に。

うなぎ(名) 鰻鱺、鰻鱔、むなぎ、鰻(八目、鰻魚動物。

うなぎかき(名) 鰻鍵、うなぎとるかぎ、鰻を引きかけて捕ふる具。

うなぎだし(名) 鰻鱔、鰻汁、蒲、たたちび植物。

うなぎづる(名) 雀麻、うなぎつかみ、植物。

うなぎつかみ(名) 雀麻、うなぎづる植物。

うなぎつき(名) 鰻叉、うなぎつくうつは。

うなぎのかばやき 鰻瀑燒、炙鰻、鰻に醬油をつけて燒きたるもの。

うなぎや(名) 鰻店、うなぎくはするれうりや。

うなぎめし(名) 鰻飯、うなぎまぜたるめし。

うなめ(名) 鯨、めうし、をんなうし、牝牛、十乳牛、ちうし。

うなみ 海上氏。

うなじ(名) 項、くびすぢ。

うなひ(名) 杜鵑、蜀魂、ほととぎす(動物。

うなび(名) 海邊、濱、うみべ。

うなひどり(名) 杜鵑、ほととぎす動物。

うなひこどり(名) 杜鵑(ほととぎすの一名)動物。

うら(名) 占、うらなひ。

うら(名) 浦、はまべ。

うら(名) 裡、うち、裏背、なかのかた、うちかた。

うら(名) 梢、こずゑ、えだのさき。

うら(名) 己、おのれ、われ。

うらはづかしき(形) 裏羞、心恥、こころはづかしき。

うらはら 表裏、反對、うちもて(相反對するを云ふ)。

うらはひ(名) 占兆、うらかた、うらのもて。

うらはず(名) 卿司の末をいふ、ゆはず。

うらはん(名) 裡判、うらにおしたるはん。

うらぼし(名) 金星草、植物。

うらぼん(名) 盂蘭盆(舊曆七月十五日の祖靈祭)。

うらべ(名) 卜部、うちなひやく、卜官。

うらべ(名) 卜部氏。

うらどほり(名) 捕邊、はまべ、海濱、うみべ。

うらどふ(他) 後巷、うちまち、隋巷、翁巷。

うらちどり(名) 卜間、うちなひしてとふ。

うらちどり(名) 浦千鳥、呼湖鳥、はまちどり。

うらちきぬ(名) 裏地織(衣服の裏に用ふる絹。

うらはき(名) 日者、卜人、うちなひし。

うらはもて(名) 裏表、裡表、うちそと。

うらはもひ(名) 猶豫、狐疑、ためらひ、躊躇。

うらわ(名) 浦回、はまべのめぐれるところ、うちめぐり。

うらわきち 浦和町、武藏國北足立郡の町名。

うらかはどほり 浦河郡、北海道日高國の郡名。

うらがへる(名) 裏反、裡反、反心、うちぎりする、裏切、內訌、內通。

うらかた(名) 卜筮、龜占、兆、占、卜方、龜卜、うちなひ。

うらかたがめ(名) 鬢龜、占卜に用ふる龜。

うらがれる(自) 末枯、さきがかれる(木の枝の)。

うらかなしき(形) 心悲、心中に憂ふる聲。

うらかく(自) 祠甲、とはる(矢等が鎧を貫くをいふ。

うらがまち　浦賀町（相模國三浦郡の町名）。
うらがとひ（名）　裏國（庭園の裏の處に施す垣）。
うらがき（名）　裡書、裏記（文の裏に書き記す保證の文）。
うらがきにん（名）　裏書人、かはせてがたにうちがきするひと（爲替手形の下を見よ）。
うらかすみがせき　裏霞ヶ關（東京市麹町區の地名）。
うらだいくやう　裏大工町（東京市深川區の町名）。
うらだな（名）　裡店（人家の裏にある貧人の居家）。
うらづたひ（名）　浦傳（海邊より海邊とつたひ行くを云ふ）。
うらつじ　裏辻氏。
うらなふ（他）　占、うらなひする、卜。
うらなき（形）　無裏、無隔心、（だてなき、十ごろおおきなき、十又なにもなき。
うらなし（名）　草履（ざうり）裡を拘けざる）。
うらなひ（名）　占（神に願ひて事の吉凶を定むる事、又は墨色人相等に因りて其吉凶を判斷する事）。
うらなひじや（名）　卜人、卜筮師、卜者、占家、うちなひするひと、うちなひし。
うららか（形）　麗、暄暄、遲遲、うちうち、暄、のどか、のどやか、しづかにあたたかなる（春の日の遲く暖かくして長閑なるをいふ）。
うらむらさき（名）　紫蛤（動物）。
うららへ（名）　裏表、うらおもて、あべこべ。
うららち（名）　裏打、裏背（書物等の裏に紙を張りて強くすること）。
うららら（形副）　遲遲、のどやか（うちらかを見よ）。
うらぐち（名）　裡口、うしろのいりくち、十かつてぐち。
うらやか（形）　柔從、やましき、十ごころよわき、十うちちか。
うらやむ（自）　羨、歆羨、豔羨、羨慕、うらやましくおもふ。
うらやまし　浦山氏。
うらやましき（形）　羨敷、我も彼の如くあれば善からんと思ふをいふ、十又れたましき、十けなりがる。
うらやすのくに　浦安國（日本國の古稱）。
うらやまち（名）　傳馬、傳舍、うちどほり（市街の裏の貧人の多く居る町）。
うらやまち　裏町（東京市赤阪區の町名）。
うらまつ　裏松氏。
うらとひしき（形）　心戀、こころにしたふ（心中に戀々之情を懷くを云ふ）。
うらて（名）　後方、うしろ、うしろみち。
うらさるがくちやう　裏猿樂町（東京市神田區の町名）。
うらき　末木、すゑのえだ、きのさき。
うらきり（名）　裏切、反應、內應、內通、通款、詫款、反應款に通じて味方を裏ふること）。
うらなく（名）　裏菊（菊の花を裏より見たる形の模樣、十はましをん（植物）。
うらめしき（形）　怨敷、恨敷、うらみおもふ。
うらみ（名）　怨恨、怨望、怨怒、怨經、怨嗟、心恨、にくみおもふこと、十遺憾、殘憾、殘念、くやしくおもふこと。
うらみる（他）　怨、恨、恨望、憾、憾、憾、あしくおもふ、にくむ。
うらみのたき　裏見瀧（下野國上都賀郡に在る瀧の名、間より上れば瀧の裏がみえるゆゑ然か名く）。
うらむしろ（名）　鳳尾草、もろむき、はなが、はながくび、やまわらび、きじのを、しだ、格注草（植物）。
うらしま　浦島（昔し浦島子が住ひしといふ（うちしまがとを見よ）。
うらしまがと　浦島子（丹後國與謝郡の人にて龜宮に入りて長壽を得たりしと傳ふる者、浦島太郎）。
うらしまぎく（名）　虎紫、まひづるてんなんしやう（植物）。
うらじんばうちやう　裏神保町（東京市神田區の町名）。
うらびざ（名）　浦人、はまびと、漁夫に住む人）。
うらす（名）　浦洲、うちのす。
うらんぼん（名）　盂蘭盆（七月十五日を云ふ（うちぼんを見よ）。
うむ（他）　生、產、母が胎より出だす、十又まうくる父が子を、儲。
うむ（名）　有無、あるなし。
うむ（他）　紡、績、絲、紡、長くつぎ出す、つむぐ。
うむ（自）　倦、倦厭、倦怠、倦退、あきつかれる、あきる、つかれる、いやになる。
うむ（自）　熟、つゆる、あかくなる果實に云ふ。
うむ（名）　結膿、うみもつ（膿物に云ふ、膿成、膿化。
うむしがひ（名）　蚓、あかがひ、魁蛤（動物）。
うむし（名）　蝨、にしやどち（動物）。
うむす（他）　炊、かしぐ（物をにたきすること）。
うむす（他）　孵、卵（牝雞の卵をあたむるをいふ）。
うら（名）　島芋、くろぐわの（植物）。
うの　宇野氏。

うのはな（名）　卯花、波流花、鬼花、水晶花、瑞蹟、うつぎ（植物）。
うのはな（名）　卯花、雪花菜、豆腐、豆滓、きらず、から（豆腐の滓をいふ）。
うのはなねとし（名）　卯花縅鎧の異に云ふ。
うのはなづき（名）　卯花月（太陰曆四月の異名）。
うのはなの　卯花（名）（うきことの枕詞）。
うのはなくたし（名）　迎梅雨（初夏の雨をいふ）。
うのはら（名）　海原、うなばら。
うのけ（名）　鬼毫（鬼に用ふる鬼の毛なり、極微の意味に譬ふ）。
うのめいわう（名）　崑崙草、いわうのたぐひ、うのめ。
うのみ（名）　鵜呑、まるのみ、かまずにのむこと。
うく（自）　酸、酢、梅等を多く食ひて齒が一種の快ちぬ感じを起すをいふ、酸、酸倒。
うく（自）　浮、泛、うかぶ、汎、水上に出る。
うぐろもち（名）　土龍、鼴鼠、鼹鼠、田鼠、土豹、もぐらもち（動物）。
うくは（名）　苴、さかづき。
うくわ（名）　島禾、すずめのは（植物）。
うくわ（名）（する）（自）　羽化（羽が生ずる也、仔蟲羽化すなど云ふ、又仙人となることにて、即ち羽化して登仙すなど云ふ）。
うくわい（名）　芋魁、たうのいも（植物）。
うくわい（する）　迂回、まはりみちする。
うくわつ（形）　迂闊、うつかり、十まはりどほい。
うくつ（する）（自）　紆屈、まがりくねる。
うぐえ（名）　打鍋殿、うけ、盥具の名。
うぐひ（名）　石斑魚（動物）。
うぐひす（名）　鶯、黃鶯、黃鳥、黃袍、黃鸝、鶯鶯、春鳥、倉庚、鶯、搏黍、傳春鳥、報春鳥、江梅、歌黃、金衣公子（梅の開く頃來りて鳴く有名の鳥）（動物）。

うぐひす（名）　山慈姑、攝津の方言、あまな（植物）。
うぐひすちや（名）　鶯茶、鶯褐、あをみがかりたるちやいろ（染色に云ふ）。
うぐひすかぐら（名）　鶯垣（藤を密に並べて造れる垣）。
うぐひすがき（名）　鶯貝、かひのな（動物）。
うぐひすだけ（名）　鶯脂（脂肪酸、紅酸、べにたけ（植物）。
うぐひすな（名）　黃花菜、なのたぐひ（植物）。
うぐひすのたき　鶯瀧（大和國の瀧の名）。
うぐひすのこのみ（名）　櫻桃、ゆすらうめ（植物）。
うぐひすもち（名）　鶯餅、餅菓子の類。
うぐや　島夜、やみの上、暗夜に同じ。
うぐや（名）　禮、敬、ゐや。
うぐや（名）　雨夜、あめよ、あめふるよ。
うぐや（形）　有耶無耶、あいまい。
うぐやむやのせき　有耶無耶關（羽後國の有名なる舊蹟）。
うぐやうやしき（形）　恭、敬、禮貌、うやまふ、尊敬。
うぐやく（名）　島藥、嶋國樣、旁其、はたうこん（植物）。
うぐやさふ（他）　尊敬、非敬、尊崇、敬服、たふとぶ。
うぐやまふ（他）　尊敬、非敬、尊崇、敬服、たふとぶ。
うま（名）　島廐、くろごま（植物）。
うま　右馬（官名にして左馬と對す）。
うま（名）　午（十二支の一）。
うま（名）　馬、むま（牡馬一名父馬、牝馬一名小馬）（動物）。
うま（形）　甘、あまき、あぢのよき。
うま（名）　賽（雙六のさい）。
うまい（名）　熟睡、よくねむること、熟睡。
うまいくさ（名）　馬寇、馬戰、騎兵を以て戰ふ事）。
うまいひ（名）　甘飯、うまきいひ。
うまば（名）　馬場、ばば、十良馬を蹂する地。
うまはる（自）　蕃息、うまれふえる、繁殖。
うまに（名）　豆煮（醬油と砂糖と味醂とにて煮たるもの）。
うまに（名）　馬荷、駄荷（馬に負ふる荷物）。
うまざめ（名）　歇馬（亭馬を休まする亭）。
うまざり（名）　馭者、馭人、驅人、うまつかひ。
うまさめ（名）　馬梁（馬をつなぐ木、杙、うまかせ）。
うまる（自）　埋、うづめられる、いかる。
うまかた（名）　馬方、馬奴、馬夫、馬丁、馬僕、うまひき。
うまかひ（名）　馬人、牧士、飼、べったう。
うまかひば（名）　牧馬場、馬飼場、まき、まきば。
うまかせ（名）　馬杙、馬梁、うまをつなぐき、よせばしら。
うまよろひ（名）　馬介、馬鎧、馬甲、うまにきせるよろひ。
うまたはけ（名）　馬婚、馬種することをいふ。
うまたらひ（名）　馬鹽、うまあらふたらひ。
うまたし（名）　馬出、圓城、月城城の三の丸、そとがはのしろ。

うまれざし（名）生年、うまれたるとし。
うまれる（自）生、降誕、誕生、生産、出産、よにいづる。
うまれかはる（自）生變、轉生、ふたたびうまれ変、再生。
うまれたて（名）生立、うまれたるばかり。
うまれつき（名）稟性、生質、氣質、天性、氣稟、資性、氣性、うまれえたるところ、十生得、天賦、天稟、うまれえたる。
うまれう（名）右馬寮（古へ朝廷に屬して馬を掌りし官局の名。
うまれご（名）生兒、あかご、赤子、嬰兒、うまれたてのこ。
うまれあはせる（自）生合、うまれてをる（他と同時に）。
うまれび（名）生日、誕辰、たんじやうび。
うまつなぎ（名）柳、うまをつなぐはしら、うまかせ、うまとめ。
うまづら（名）馬面、ながきかほ。
うまつぎ（名）驛、宿、しゅくば馬をつぎかふる宿驛。
うまねぶり（名）馬睡馬上にて居睡りすること。
うまり（名）羽毛、はね（鳥の）。
うまのはなむけ（名）餞、餞別（旅行する人を見送ること又物を贈ること）。
うまのり（名）馬乘、騎士、騎兵、うまにのれるもの。十調馬師、うまつかひ。
うまのをぶくろ（名）馬尾騨（馬の尾に蒙せるふくろ）。
うまのたま（名）馬璽（馬の腹中より出る玉の如き物にて、牛黃、うしのたまに似たり）。
うまのつめ　馬爪（つくしの枕詞）。
うまのくつ　馬音、鳴（うまのはきもの）。
うまのこ　駒、駑、こま動物。
うまのす　馬尾、うまのをのけ。
うまのすずかけ（名）馬兜鈴、うまのすずぐさ（植物）。
うまのすずぐさ（名）馬兜鈴、うまのすずかけ、ゐはぐるまばな植物。
うまぐは（名）馬耙、馬鍬、方耙、まぐは、まんぐは馬にひかせて田をかきたがへす具。
うまぐつ（名）馬沓、鐵馬甲、鐵蹄、かなぐつ。
うまぐし（名）馬櫛、馬梳、うまをくしけづるくし。
うまくすし（名）馬醫、獸醫、はくちく。
うまや（名）厩、馬坊、うまかふい（、
うまやばし　厩橋（武藏國隅田川に架する橋にして東京市内六大橋の一なり）。
うまやぢ（名）驛路（國の内の大道をいふ。
うまやざき　厩崎（柳前崎の一名、遠江國榛原郡の海中に突出したる處）。
うままはり（名）馬廻、大將君王等の左右を守る人。
うまけぶり（名）馬煙（馬の蹴たてる煙）。
うまぶね（名）馬槽（馬の食物をいるる桶）。
うまぶき（名）牛蒡、ごぼう（植物）。
うまふせぎ（名）行馬（橫釘架長五六尺の杙端に鐵釘を附して路を塞ぎ騎馬隊を防ぐに用ふるもの）。

うまごぼり　宇摩郡（伊豫國の郡の名）。
うまこりの（名）美師之（あやの枕詞）。
うまごやし（名）苜蓿、うまをやしなふによるしきくさの略植物。
うまあぶ（名）鹿虻、牛馬を咽み刺すむし、馬虻、うまばひ動物。
うまあきんど（名）博勞、伯勞、ばくちう。
うまざくり（名）蹄跡、馬の足跡の窪き處、十また跡洛其中に溜れる水。
うまざけ　美酒（三輪（みもろの山（うまかの市等の枕詞）。
うまさけを　美酒乎（かみなび山の枕詞）。
うまさし（名）馬差（組場の馬を買する者、促馱、傳吏。
うまき（形）牧、うまかひば、まき。
うまき（名）甘、旨、豐味、厚味、甘美、至腰、あぢはひよき、くちにかなふ。
うまきぬ（名）馬衣、馬被、ばきぬ（馬に着する衣）。
うまきさかな　佳肴、よきさかな、よきさけのさかな。
うまきさけ　旨酒、美酒、よきさけ。
うまゆみ（名）騎射（馬上にて弓射ること）。
うまみ（名）旨味、旨味、うまきあぢはひ。
うまみちまち　馬道町（東京市淺草區の町名）。
うまみつば（名）豐豆葉、あにみつば（植物）。
うましばる（名）馬戲、曲馬、うまのりげい。
うましるし（名）馬幟、干旗（戰場に用ゐる大將の記號）。
うましもの　味物（あべたちばなの枕詞）。
うまじもの　旨物（立もて、つまづくに繩とりつけて等の枕詞）。
うまひ（名）馬原妃、あまのじやく。

うまびさ（名）貴人、たふときひと、あてびと、辯論。
うまびる（名）馬蛭、馬蠅、馬蠅（動物）。
うまひじり（名）普化僧、こむそう。
うませりり（名）馬芹、馬蘇（植物）。
うませがは　馬瀨川（飛騨國に在る川の名）。
うませやま　馬背山（磐城常陸に跨る山）。
うませみ（名）蜻蛉、鳴蟬、馬蟬、蟬（動物）。
うまず（名）石胎女、うまずめ、こをうまぬをんな。
うますぎのゆ　馬杉温泉（安房國の有名の温泉）。
うまずめ（名）不產女、石婦、石女（孕まざる女を云ふ）。
うけ（名）毬子、釣絲に附くる木片。
うけ（名）罠、あみのうけ、浮題、浮子、浮頭。
うけ（名）浮標、うきじるし。
うけ（名）笑、うへ、笑。
うけ（名）有卦、幸運の年まはりをいふ。
うけぼる（自）強慢、がうじやうはる、こだはる、なびかぬ。
うけばらぬ（形）不面白、おもしろからぬ、ききよかちぬ。
うけはらひ　請拂、うけとりしはらひ、受領償却。
うけはん（名）保判、うけあひのはん、うけにんのいん、十うけにん。
うけにん（名）受人、保證人、うけあひにん。
うけさり（名）受取、領收證、收取、うけとりじるし。
うけさりにん（名）受取人（金を受取る人、爲替手形の下を見よ）。
うけさりわたし　受渡、收支、交收、うけとりしはらひ。
うけざり（名）貴人、たふときひと、あてびと、辯論。
うけびる（名）馬蛭、馬蠅、馬蠅（動物）。
うけひじり（名）普化僧、こむそう。
うけせりり（名）馬芹、馬蘇（植物）。
うけせがは　馬瀨川（飛騨國に在る川の名）。
うけせやま　馬背山（磐城常陸に跨る山）。
うけせみ（名）蜻蛉、鳴蟬、馬蟬、蟬（動物）。
うけず（名）石胎女、うまずめ、こをうまぬをんな。
うけすぎのゆ　馬杉温泉（安房國の有名の温泉）。
うけずめ（名）不產女、石婦、石女（孕まざる女を云ふ）。
うけ（名）毬子、釣絲に附くる木片。
うけ（名）罠、あみのうけ、浮題、浮子、浮頭。
うけ（名）浮標、うきじるし。
うけ（名）笑、うへ、笑。
うけ（名）有卦、幸運の年まはりをいふ。
うけぼる（自）強慢、がうじやうはる、こだはる、なびかぬ。
うけばらぬ（形）不面白、おもしろからぬ、ききよかちぬ。
うけはらひ　請拂、うけとりしはらひ、受領償却。
うけはん（名）保判、うけあひのはん、うけにんのいん、十うけにん。
うけにん（名）受人、保證人、うけあひにん。
うけさり（名）受取、領收證、收取、うけとりじるし。
うけさりにん（名）受取人（金を受取る人、爲替手形の下を見上）。
うけさりわたし　受渡、收支、交收、うけとりしはらひ。
うけざり（名）受賢者、うけうりするもの、十また沽見一般の「酔見酒の「うりと。
うけざる（他）請取、受取、承受、領收、受納、收貿、收受、てにいれる。
うける（他）受、稟、承、承、とる、てにいれる。
うける（他）浮、うかせる。
うけれり（名）汎續、浮綱、白羅布、繪子の如く横様をあげてあれるもの（うきもり）。
うけれふ（他）請負、受負、ひきうける（工事等を、包辦）。
うけれびにん（名）請負人、包辦人、立釣人、ひきうけにん。
うけれびしごと　請負賣事、包辦工、ひきうけしごと。
うけがふ（他）賣、賣、うけひく、がへんずる。
うけがき（名）受書、承書（承諾の由又は受領の義を書きたる書）。
うけたち（名）受太刀、まけざみ、まけかかれるたちつかひ。
うけたきはる（他）承、うけるる、きく、十奉、うけたてまつる、十請賜、つつしみてきく。
うけたす（俗三他）賜出、收贖、あがなひだす（質物網紋などを「十かひもどす。
うけづつ（名）雨月太陰曆五月の異名。
うけづくりいし（名）請造石（庭に竪て置うる石にて全庭の勢を受けとむるの義に取りて名づく）。
うけつけ（名）受付（官署にて人民の用事願願等を聞きて受取る處）。
うけね　浮穴（氏）。
うけねごほり　浮穴郡（伊豫國の郡の名、上下にわかる）。
うけうり（名）受賣、擬賣（買ひ受け來りて更に賣ること）。
うけりし（名）受賢者、うけうりするもの、十また沽見一般の「酔見酒の「うりと。
うけぐつ（名）歌鞋、やぶれぐつ、ふるぐつ（萬葉集に出ず）。
うけふ（自）誓約、祈誓、ちかふ、誓をして誓ふを云ふ。
うけふね（名）綿綱舟、綿綱を附けて引き綱するふね。
うけふぎよ（名）鳥賊魚、すみやきだひ（動物）。
うけふみ（名）請文、うけがき、うけしよ（命を承りたる由を記せる文書）。
うけこたへ（名）應對、應答、あしらへ。
うけとむ（他）受入、のみこむ、ゆきうける。
うけあふ（他）受合、保證、たしかといひきかす、十うけにんになる。
うけあひ（名）請合、保證、うけあふこと。
うけあひにん（名）受合人、保證人。
うけさく（俗）（名）借作、小作（こさく、かりづくり、個戶。
うけさくにん（名）小作人（小作を業とするもの）。
うけき（名）羽搏、はやふれぶみ、飛檄、いそぎぶれいそぎのふれぶみ、急回文。
うけみ（名）受身、うけかたのみがまへ、十うけかた。
うけしよ（名）請書、うけがき、うけぶみ。
うけじやう（名）請狀、うけがき、ひきうけじようもん。
うけひ（名）誓約、ちかひ、ちかひごと。
うけひがり（名）誓狩（新嘗して狩して吉凶を占ふこと）。

うけひく（他）承引、承諾、領諾、甘諾、聞諾、うけがふ、ひきうける。
うけもどす（他）贈回、收贈、かひもどす、十あがなひいだす。
うけもち（名）受持、擔任、擔當、ひきうけ、十つとめば。
うけもちば（名）受持場、つとめば、擔任場。
うけもちのかみ　保食神、宇賀神（五穀の神をいふ。
うげん（形）有限、かぎりある（無限に對す）。
うげん（形）有驗、あらたかなる、しるしある。
うげん（名）曇顯、いろにしき（雜色の錦）。
うげんべり（名）曇綱錄（白地に雲形のある疊のへり）。
うふ（形）迂闊、まはりどほき、やくにたたぬ、ふるめかしき、迂腐之說など云ふ。
うふ（名）右府、右大臣の稱。
うふ（名）羽布、織物の名、旗布、はたぬの。
うふ（形）生嶽、うまれつきのままなる、うまれつきの、き、生、天性。
うぶはと（名）胎屎（對州等の方言、かにばば。
うぶかた（名）生方氏。
うぶがみ（名）胎髮、うぶげ（生兒の髮毛。
うぶがみ（名）産神、うぶすなかみ、ちんじゆのかみ、鎮主神。
うぶね（名）鵜船、うづかひぶね。
うぶや（名）産舍、産室、とをうむい（さんをする（や。
うぶやしなひ（名）産養、子の産れたる祝、うまれどのいはひ。
うぶげ（名）毳、産毛、胎髮、幼毛、うまれこのかみのけ。
うぶごろ（名）産髮、胎兒の生れて啼く聲。
うぶぎ（名）産衣、初衣、生衣、胎衣、産衣、うまれこのきもの。
うぶぎぬ（名）産衣（「うぶぎ」に同じ）。
うぶゆ（名）産湯、産兒湯、初生湯（生れ子をあちふ湯。
うぶめ（名）孕鳥、はらみをんな、みもちをんな。
うぶめ（名）産婦妖（孕婦の妖怪、はらみをんなのばけもの）次を見よ。
うぶめどり（名）姑獲鳥、乳母鳥、夜行遊女、隱飛鳥、よなどり（産婦が化したりといふ惡鳥にして夜中飛んで妖を爲す、若し小兒の衣を夜分外に乾しあるに過へば之に血をそそぎて去る、然る時は其子病となると言ひ傳ふ、蓋し妄想のみ）。
うぶすな（名）産土、生れたる土地を指して云ふ、又、うぶすなかみ（に同じ）。
うぶすなかみ（名）産土神、ところのちんじゆ。
うぶんぼく（名）馬文木、黑檀（に同じ）（植物）。
うと（名）雨戸、あまど、ゆた、雪打。
うと（名）雨虎、あめふらし（動物）。
うど（名）羽後、東山道の國名。
うどかす（他）動、ところをかへさする、うつちする、十かんずる。
うとつけい（名）烏骨鷄、はねのくろきにはとり（動物）。
うとなはる（自）集、あつまる、よる。
うとなへす（自）射集合して弓を射るを云ふ）。
うとく（自）搖動、揺、うつる、ところをかへる。
うとき（名）五加木、文豆草、木骨、八角茶（植物）。
うどめく（自）蠢蠕の動くをいふ、蠢動、蠢蠕、蠕動、むごめく。
うどもつ（自）暴陶器の歪をいふ。
うどもつ（自）墳（土の高く起るを云ふ、墳起、土起、ふきあがる、十又ところとろにたかくなる。
うとん（名）鬱金、鬱金、かをりざきのくさ、金母蚊（植物）。
うとん（いろ）（名）鬱金色、金黃色をいふ。
うとんかう（名）鬱金香（うつこんかう）に同じ其下に圖あり（植物）。
うとんぞめ（名）鬱金染、金黃色に染めたること。
うとんこ（名）鬱金粉、うこんのこな。
うとんぞのちうじやう（名）右近衛中將（古への武官）。
うとんぞのたいしやう（名）右近衛大將（古への武官の極官）。
うで（名）腕、ただむき、かひな。
うでぬき（名）腕貫、劍、くしろ、うでわ、ひぢのたまき。
うてる（自）鰒、あざれる、あきる、魚肉の腐れたるをいふ。
うてる（他）捨、放棄、すてる（古語）。
うでる（他）湯煮、ゆにでにる。
うでれし（名）相撲、たがへし、抛腕、うでのあしくらべ。
うでかけいす（名）圍手椅、ひぢかけいす、安椅。
うでたて（名）腕立、俠腕、抗俠、遊俠、うでこき、をとこぎわざ、任俠。
うでだめし（名）腕試、ちからだめし。
うでづく（名）腕強、腕力、ちからづく。
うでつこ（名）腕奇、うでぶくろ（手袋の如く腕を覆ふ具、重に目利安比て製す）。
うでつこ（俗）（名）腕觀、うでくらべ、十ちからくらべ。
うてな（名）蕚、花托（花の附ける部分、かかえ。
うてな（名）蕚屋根なき建物。
うでぐみ（名）腕組、てをこまぬくこと、てをくむこと、叉手。
うでくび（名）腕首、てくび、うでのさき。
うでまくり（名）捲腕、擼臂、攘臂、捲腕、うでをあらはすこと。
うでとき（俗）（名）遊俠、抗俠、任俠、をとこだて。
うてん（名）雨天、あめふり、あめふりぞら。
うさ（名）憂、愁、うれ（へ、ふさぎ。
うさ　宇佐氏きた地名。
うさい（名）烏犀、さいかち、皂角子、皂莢（植物）。
うざい（形）有罪、つみある。
うさいかく（名）烏犀角、さいのつの（藥用に供す）。
うざいがき（名）有財餓鬼、守錢奴、しわんぼう、つましいひと、かれたぬ。
うさいぞん（名）烏犀觀（ねりやくの名）。
うさはらし（名）散鬱、遣鬱、消憂、遣悶、きさんし。
うざうむざう　有象無象、かたちあるかたちなき（有形無形の萬物をいふ）。
うさのみや　宇佐宮（豐前國菱形山に在り廣幡八幡といふ）。
うさまち　宇佐町（豐前國宇佐郡の町名）。
うさごほり　宇佐郡（豐前國の郡の名）。
うさぎ（名）兎、屎を明月砂と云ふ（動物）。
うさぎ（名）驢、驢馬、ろば（動物）。
うさぎうま（名）驢馬（「うさぎ」に同じ）（動物）。
うさぎあな（名）兎窟、うさぎのすむあな。
うさぎあみ（名）兎網、罠、兎罠、置網、うさぎとるあみ。
うさゆづる（名）儻弦、ひかへのゆみづる（餘分の弓弦）。
うさみ　宇佐美氏。
うさん（名）雨傘、あまがさ。
うさん（名）烏鐵、もはぐは、たうぐは。
うさん（名）烏散、からすのごとくちる。
うさんらしい（俗）（形）胡散臭、あやしい、あやしむべき。
うさ（名）烏葵、くさのなを（植物）。
うさ（名）浮子、浮標、うくもの（水の上に浮かする具、うけ。
うさ（名）烏鳥、密夫、まをとこ。
うさ（名）沼、ぬま。
うさ（名）酉、さかづき。
うさ（名）羽蟻、はあり、はねあるあり（動物）。
うさいは（名）浮石、かるいし。
うさば（名）繻齒、齵、齵、うきたるは（酸を物を食ひて浮きたる齒）。
うさはし（名）浮橋、艀、浮梁、ふなばし。
うさぼり（名）隱起彫、うきあげぼり、ふきあげぼり、たかくほること。
うさりうけい　有期流刑（年數に限りの有る島流）。
うさぬなは（名）蒐、じゅんさい（植物）。
うされもひ　憂思、うれ（へ、かなしきおもひ。
うさわ（名）浮輪、うきぶくろのたぐひ（水に溺れぬ機に身にまとふ輪）。
うさぎま（名）驢馬（「うさぎうま」に同じ）（動物）。
うさぎかぶ（名）浮株、虛勢（偽造にかかる株券を云ふ）。
うきよ（名）浮世、人世、世界、このよのなか、しやば（俗に當時の世態風俗などを然か云ふ、浮世畫、浮世風呂の如し）。
うきよ（名）芋蕷、芋魁、いもがしら、たうのいも（植物）。
うきよく（形）紆曲、まがる、くねる、まはりどほき。
うきよざうし（名）浮世草子（德川時代に成りし小說にして浮世のことを書けるものの總名、八文字屋自笑の製作の如きをいふ）。
うきよし（名）浮世師（遊客または狎客通客などをいふ）。
うきよぞめ（名）浮世筆、風俗畫の類にして時の世態人情等を畫ける繪畫をいふ。
うきた　宇喜田、浮田氏。
うきた（名）丁斑魚、西京の方言、めだか（動物）。
うきたる（形）浮、漂、浪、たしかならぬ。
うきだから（名）浮寶、昔し船舶を然か稱へしかり。
うきたつ（自）浮立、うきうきする、十たのしくなる。
うきたのろくくわし　宇喜田六花士（花房志摩、花木主馬、花田權兵衛、花岡傳兵衛、花淵與左衛門、花村三右衛門）。
うきたのもり　浮田森（山城國の地名）。
うきね（名）浮梶、うきたるね（水中に）。
うきねどり　浮屋鳥、うきたる如く水上に浮び寢ること。
うきねのはら　浮寢原（近江の地名）。

うきな（名）浮名、醜名、あしきな（多くは色事に関はる。）

うきな（名）蕪菁、かぶな、かぶちな（植物。）

うきな（名）菘、菁（植物。）

うきむしや（俗）（名）遊武者、遊兵、遊軍、ひかひつはもの（戦場に加はらずして萬一に備ふる兵。）

うきう（名）扇面、いはたけ、はちしのぶ、えんざんごけ（植物。）

うきうぼく（名）扇曰木、なんきはぜ、たうはぜ、鴨曰（植物。）

うきうくわ（名）雨久花、みづあみひ（植物。）

うきうき（副）浮浮、うきたつ様、いきはひよく。

うきくるみ（名）義経眼鬼頭にて義経を然か呼ぶ。

うきぐつ（名）浮鞋、うきぶくろ。

うきくさ（名）浮草、萍、水萍、漣、浮渭、十また萍、白萍、四葉菜、田字草、（共に水面に浮ぶ水草なれども前者と後者とは別なり、後者は其葉田字の如くにして白き花さく。）

うきぐも（名）浮雲、空に浮びたなびく雲。

うきやから（名）荊三稜、黒三稜、みくり（植物。）

うきやう（名）右京、京都の區分の名、又之を管理せる官人、倘は次次の語を見よ。

うきやうのたいふ（名）右京太夫、古代（への官名。）

うきやうまち（名）右京町、東京市四谷區の町名。

うきやうし（名）古京職（左京職とならびて京都を管轄したる職をいふ、支那の京兆又馮翊は此所職にあたる、「みぎのみさとのつかさ。」）

うきやく（名）雨脚、あまあし、あめあし（雨の降り来る形を脚にたとへて云ふ。）

うきふ（名）浮萍、萍子の名。

うきぶくろ（名）浮胞（魚の腹内に在る風袋、「氣胞、風胞、はばち、みづぶくろ。」）

うきぶくろ（名）浮囊（水中を泳ぐ時に沈まぬ爲に帶ぶる空氣袋。）

うきこと　憂事、うれたきこと、かなしきこと。

うきあがる（自）浮上、浮揚、うかびあがる、うかぶ。

うきあな　浮穴、安寧天皇の都したまひし地にて大和國に在り。

うきあなどほり　浮穴郡（伊豫國の郡の名）。

うきあげぼり（名）　陰起彫、陽浮工、陰起工（表面より少しく高めて彫りあげたる細工。）

うきあげざいく（名）浮揚細工、凸鏤（高く起きあがれる細工。）

うきき（名）浮鳥、翻車鳥、まんばう（魚の名）（動物。）

うきき（名）浮木、樣水中に浮べる木、樣。

うききみ（名）浮君、うかれめ、あそびめ、けいせい、傾城。

うきゆひ（名）杯賢杯を取りかはして誓ふこと。

うきめ（名）憂目、かなしきめ、辛かきめ。

うきみ（名）憂身、つらきみ、ものもひあるみ。

うきみをやつす　憂身、ほれをる、みをいれる、十はまりこむ。

うきしづみ　浮沈、うくことしづむこと、十きかえあとと（、幸不幸、廣衰。）

うきしま　浮島（浮島沼また浮島が原と云ふ、駿河國富士郡富士山の南にある沼また原、又陸奥國の小島にて能に和歌に名高し。）

うきしま　浮島（海湖等に浮びたる小島。）

うきしまのやま　浮島山（伊勢國の山。）

うきもん（名）浮紋、（うきもりの模樣を云ふ。）

うきす（名）浮洲、すなす（沙洲、すなのたかくあつまれるところ川口に。）

うきす（名）丁斑魚、めだか（動物。）

うきす（名）浮巣（水の上に「にはとり」が作る浮きたる巣。）

うきん（名）　鳥金、赤銅に同じ。

うぎん（名）　鳥銀、ふすべがね、くろくせるしろかね。

うきんかう（名）銀金香、紅豆花、雲錦香（「うつとんかう」を見よ。）（植物。）

うきんせき（名）　鳥金石、かちすいし、石英。

うめ或むめ　梅（樣、花魁、はなのあに）（植物。）

うめはら　梅原氏。

うめぼし（名）　梅干、霜梅、白梅、乾梅、ほしたるうめ、十又つけうめ（鹽と紫蘇とにて漬けたる梅。）

うめどひ（名）　埋樋、いけたるとひ、地中にて、うづかび。

うめち（名）　埋地、うめたてどころ。

うめちや（名）　梅茶（今は是を「さしきもち」と呼ぶ。）

うめる（俗）（他）　埋、うづめる、埋、坦、ふさぐ。

うめる（俗）（他）　運入、そそぎたす（湯に水を）。

うめがか　梅賀、うめのかを、十又食品の名。

うめがえ　梅枝、うめのえだ。

うめがえでんぶ（名）　梅枝田夫（「きざみするめ」を上等の酒と醤油とにて柔付け山椒をかけたる食品にて梅に非らず。）

うめだ　梅田氏。

うめだに　梅谷、日向國の地名。

うめだに　梅澤氏。

うめたて（名）　塡立（不足を補ふこと、又海抔に土を入れて陸にすること。）

うめぞの（名）　梅園、梅林、うめばやし。

うめぞの　梅園氏。

うめぞのちやう　梅園町（東京市本郷區の町名。）

うめぞめ（名）　梅染、染色にいふ。

うめづぼ（名）　梅壺（禁中の凝花舎を云ふ。）

うめつぼ（名）　梅醬、梅漬、梅儲、つけうめ、うめぼし、梅干。

うめづけ（名）　梅贄、梅漬、梅儲、つけうめ、うめぼし、梅干。

うめのはる　梅の登踊りの名。

うめのはな　梅花（「心ひちけて」の枕詞。）

うめのはら　梅原（山城の地名。）

うめのくらゐ（名）　梅位（天神といふ娼妓の綽號。）

うめく（自）　呻吟、うなる。

うめくさ（名）　埋草、埋種、うづめふさぐべきもの、十たし、もぎなひ。

うめやうかん（名）　梅羊羹（豆後梅を入れ作りたる羊羹。）

うめあげる（他）　埋上、うめたてる。

うめざけ（名）　梅酒（梅の花をいれたる酒。）

うめき（名）　埋木（穴等を塡じ木片。）

うめゆ（名）　陰陽水（湯に水を加へてぬるくしたるもの。）

うめみず　陰漂、したひ、暗渠、うづみどひ、いけみず（地中にいけて汚水をとほす溝。）

うめみづき　梅見月（太陰歴二月の異名。）

うめびしほ（名）　梅贄、梅酥（大なる陶器を梅干の種子を去りて砂糖に漬けて作れる食物。）

うめもざき（名）　梅擬、落霜紅（梅の如くにして小さき果を結ぶ木（植物。）

うめず（名）　梅笹、梅酸、梅頭、梅汁、つけうめしる。

うみ（名）　海、洋、大洋、滄溟、鯛海、うなばち。

うみ（名）　膿、はれものの、しる。

うみいは（名）　礁、暗礁、うみのいは、かくれいは。

うみばた（名）　海邊、うみのほとり、うみべ。

うみばうず（名）　海坊主（海に居るといふ奇怪の動物の名、和國鳥、また人魚、鮫人、鮫客、水人、淵客。）

うみほほづき（名）　海酸漿、鬼灯、（あかにしの卵なり。）

うみべ（名）　海邊、うみばた、うみのほとり。

うみへちま（名）　海絲瓜、海絨、海籠（海中の生物の惱を覆ふ綿の如きもの、「スポンジ、うみわたのぼちや。」）

うみべた（名）　海畔、うみばた。

うみべの（形）　沿海、うみにそへる、うみのほとり。

うみぢ（名）　海路、うみのみち、ふなぢ、航路。

うみを（名）　紡麦、うみたるあき。

うみをさす（他）　分娩、うむ子を、産生。

うみをそ（名）　海鰕、とど（北海道十勝に産する海獸（動物。）

うみをねす　如綿屋（なかうの宮、「ながとの捕鯨の枕詞。」）

うみわた（名）　海綿、うみへちま、スポンジ、海絨（海中の生物の外衣なり、取り乾かして水氣を吸ひ取ちす用に供し、又海浴にも使用す、「石劫交、かぼちや。」）

うみがに（名）　海蟹、あしがに（動物。）

うみがつき（名）　產月、うみづき、りんげつ。

うみがや（名）　石帆、うみひば（植物。）

うみかぶろ（名）　海鳥、鷺、紙蟹、鯨蟹魚、鯨蟹（鳥、小笠原島の近海に住める鳥にて正黒坊に似て全く異なり其大なる者は三尺四五寸に至る（動物。）

うみがめ（名）　海龜、綿蟹（鳥、小笠原島の近海に住める鳥にて正黒坊に似て全く異なり其大なる者は三尺四五寸に至る（動物。）

うみがも（名）　疑鳧、みづとり（動物。）

うみかもめ（名）　海鷗、みづとりのこ（動物。）

うみかぜ（名）　海風、うみをふくかぜ。

うみよけづつみ（名）　捍海堤、うみよけづつみ、海岸堤防。

うみたけ（名）　竹蝶貝の名（動物。）

うみたす（俗）（他）　產出、うむ子を、はらよりいだす。

うみつぼ（名）　海藻、たこのまくら（動物。）

うみつぢ（名）　海路（「うみぢ」に同じ。）

うみつかれる（自）　倦怠、よわりはてる。

うみづら（名）　海面、うみのおもて、十海邊、うみばた。

うみつける（他）　生附、ひりつける（卵等を。）

うみづき（名）　產月、臨月、生月、うまれるつき。

うみつみち　東海道、とうかいだう。

うみうなぎ（名）　海鰻、あなご（動物。）

うみうま（名）　海馬（動物。）

うみのはは　生母、實母、まことのはは。

うみのちち　實父、實父、まことのちち。

うみのおや　生親、實父母、まことのおや。

うみのおきな（名）　海老、えび（動物。）

うみくさ（名）海藻海中に生ずるひじき、のり、あらめ等の總名。

うみやなぎ（名）海柳、紐玉餘算（植物）。

うみやめ（名）危宿（二十八宿の一）にて北方に位す、危（き）を見よ。

うみやし（名）海鄧子、石鼎、うみぐさのな（植物）。

うみまつ（名）鐵樹、黒珊瑚、くろさんごじゅ（海中にある黒珊瑚の如きもの）（植物）。

うみまつ（名）海松、高麗松陸中國盛岡邊に多く生ず、松傳（云ふ、元祿征の韓の役に南部の人某が彼地より種子を齎らし來たりしものなりと）、甘松（植物）。

うみどひ（名）鰍、あかひめ（動物）。

うみさち（名）海幸、うみのえもの。

うみきは（名）海際、海濱、うみのそば、うみばた。

うみきじ（名）吐綬雞、山鷄の別種、功豊島、秩父島、ときんけい、十また七面鳥（動物）。

うみしる（名）臓汁、はれものうみ。

うみえび（名）海蝦、伊勢蝦、鎌倉蝦（動物）。

うみひば（名）石柏、苔柏、石帆、羅漢松の如き海中の木（植物）。

うみもつ（自）宛臓成臓、うみができる臓物に。

うみすずめ（名）海雀、海牛（「ふじ」の類にて頭に長き二本の角あり）（動物）。

うし（名）牛角ある家畜にして能く車を引く、其肉は食ふべく游養分多し、十帙（二識）を、独（三識）を、擒（四識）を、拾五識を、擒八識を云ふ、十様牛形小にして農家に畜ふもの、十水牛、雨牛、くるまうし力強くして能く重を載す（動物）。

うし（名）丑十二支の一）。

うし（名）桀、つつかいぼう、ささへ傾ける家等をささふる木、十又つつみ、みづとめ。

うし（名）雨師、あめのかみ。

うし（名）雨師、糠柳、しだりやなぎ（植物）。

うし（名）雨糠、こさめ、きりさめ。

[うし]（名）羽廻子、はね、はご。

うし（名）羽廻、つばさ、はがひ（鳥の）。

うし（名）鳥柿、あまぼし、ほしがき。

うし（名）大人師父などを尊びていふ詞（家翁）。

うし（名）羽士、仙人または道教の師をいふ。

うじ（名）蛆、はいのこ、蠅蛆、蛞（動物）。

うしろ（名）後、背、寄、後背、後面、背後、あと、あとへ、十せなか。

うしろべた（名）後方、背部、あとのほう、うしろのかた。

うしろかろき（形）後輕、こころやすき、きがろき。

うしろかげ（名）後影、うしろすがた、うしろ。

うしろだて（名）後楯、後援、しりおし、あとおさへ、くろまく。

うしろづめ（名）後詰、ごづめ、かせい。

うしろむき（形）背面、後面、後向、背面、背をわけること。

うしろぐらき（形）後暗、有陰臓、こころおそるる罪過を行ひし者が、十又のもしちぬ未來を知り得ぬをいふ。

うしろくび（名）後頸、頸の背面。

うしろやすく（副）後安、きがかりなく、しんぱいなく、やすらかに君を後ろ安く務さんと思ふ、或は人を後ろ安くするなど云ふ。

うしろごと（名）後言、しりうごと、かげごと、かげぜしり。

うしろで（名）後手、手を背にまはすこと。

うしろでにしばる　背手縛、反縛、面縛。

うしろあはせ（名）背胸、背合、せなかあはせ、せあはせ。

うしろあたま（名）後足、あとあし、馬等の。

うしろあし（名）後頭、頭の背部。

うしろゆびをさす　指後指、背後にて人を嘲るをいふ。

うしろめたき（形）影護、しんぱいなる、きづかはしき、あんしんならぬ夜中に少女一人を送る（人へ遣るが如きを影護と云ふ、十はばかるところある（白地にその事を告ぐるもうしろめたくなどいふ。

うしろみ（名）後見、こうけん、十阿衡（あかう）を見よ。

うしろすがた　後姿、背姿、あとすがた、うしろよりみるかたち。

うしばくらう（名）牛伯勞、牛曾牛を買買する者（牛商）。

うしばひ（名）糊、菊海水、うみのさしし（あきしほ、十沒、ゆふしほ）、しほ。

うしほに（名）糊蚕水に鹽をいれて煮たるもの、略して「うしほ」といふ。

うしほほづき（名）鼠麹、山城の方言、いぬほほづき（植物）。

うしほけふり（名）糊煙、うしほの波の磯に碎け

てとびちるもの）。

うしべや（名）牛室、牛桐、牛屋、うしごや、うしのをり。

うしざら（名）丑寅、艮、東北の隅、東北維。

うしざらかぜ（名）東北風、融風。

うしぬすびさ（名）盜牛者、牛賊、うしをぬすむひと。

うしぬすびさ（名）杜父魚、いしぶし、かくぶつ、伏念魚（動物）。

うしれく　牛奥氏。

うしかひ（名）牛飼、牧童、牧人、うしかふひと。

うしかひば（名）牧牛場、うしをやしなふところ。

うしかひわらべ（名）牧牛兒、牧童、うしをかふわらべ。

うしかひぶえ（名）牧笛、草笛、うしかひのふくふえ。

うしよ（名）羽賢、いそぎぶみ、飛書。

うしよう（名）芋蹲、いもむし、鳥蠅（動物）。

うしよく（名）芋蹲、いもむし、鳥蠅（動物）。

うしたはけ（名）牛婚、牛の交接するを云ふ。

うしつく（自）嚙嚙、つつやく、ささめく。

うしつき（自）牛飼（「うしかひ」を參看せよ）。

うしなし（名）猪、むじな（動物）。

うしなふ（他）失、遺失、喪失、亡失、失却、なくする。

うしらん（名）鳥絲綱、墨引紙、けいびきがみ。

うしむし（名）砂接子、ぎごくむし、ありぎごく、すりばちむし（動物）。

うしり　羽州、羽前と羽後をいふ。

うしりうま（名）牛馬、薩摩種子島に產する馬の名（動物）、十又うし及うま。

うじうじする（俗）（自）逡巡、ぐづぐづする。

うしのはねつら或うしのはねづし（名）牛貫、うしのはなぐ。

うしのはねき（名）牛鼻木筆。

うしのちち　牛乳、牛奶、うしのいだすちち。

うしのをやま　牛尾山、山城國宇治郡に在る山（音羽山とも稱す、近江に跨る）。

うしのたき（名）牛黄、牛の腸中より出る玉、飾笄。

うしのつの（名）牛角。

うしのと（名）鎖、こうし（動物）。

うしのさらめん（名）牛索麺、ねなしかづら（植物）。

うしのした（名）牛舌（西洋料理に用ふ）。

うしのした（名）羊蹄、しのね、ぎしぎし、牛膝草、牛舌菜、敗毒菜（植物）。

うしのひたひ（名）石鼎髮、りゅうがひげ、たつのひげ（鬚雲草、鼎鬚草（植物）。

うしくは（名）犂、牛鍬、犂牛に牽かする農具。

うしくぼ（名）牛窪氏。

うしくぬま　牛久沼、常陸國稻敷郡に在る沼、銚子口に入る。

うしや（名）坑者、左官、泥工、かべぬり。

うしや（名）羽紗、ごろふくりん。

うしや（名）牛商、うしあきうど。

うしや（名）牛肉店、うしにくうりや、十牛肉料理店。

うしや（名）鳥蛇、からすへび（動物）。

うしや或**うしやう**（名）鳥模、釣模、くるもと（植物）。

うしやう（名）右相右大臣をいふ、右府。

うしやう（名）羽鷹、さかづき。

うしやう（名）鷄匠、うづかひ、うづかひ。

うしやう（名）有牺、いのちあること、十ところのあるもの（人畜の類をいふ）。

うしやうふ（名）右相府、右大臣、うだいじん。

うしやうとく（名）右相國（「うしやうふ」に同じ）。

うしやくけう（名）鳥鳴機、かささぎのはし。

うしまどのみなと　牛窓港、備前國邑久郡に在る海港の名。

うしまつどり（名）鷄冠、あほどり（動物）。

うしふかみなと　牛深港、肥後國天草郡下島の南端に在り。

うしところし（名）屠牛兒、うしをほふるもの、ほふりて獣畜の。

うしどや（名）牛國、うしいれごや。

うしどめく　牛込區、東京十五區の一）。

うしどめきたまち　牛込北町、東京市牛込區の町名。

うしあはせ（名）牛鬪、牛と牛とをたたかはせて勝負を決すること。

うしあきうど（名）牛商、うしや、うしばくろう。

うしざき（名）牛裂、罪人の兩手兩足を四頭の牛に繋ぎて牛に疎を負はせ火を點ずれば四牛四方に驅けて體を四裂すること牛裂といふ。

うしざきばら（名）月季花、ちゃうしゅんくわ（植物）。

うしゆ（名）鳥蛇、くろまなこ、くろめ。

うしゆつまち　宇出津町、能登國鳳至郡の町名。

うじゆきつ（名）雲州橋、雲州宮柑、たねなしみ

かん(植物)。
うしみつ(名) 丑三夜分の深更の時即ち丑の時をいふ。
うしぜり(名) 石菖(西植物)。
うしん(形) 有心、こころのあること、十有意。
うゑ(名) 飢、餓、饑、饑饉、はちすき、ひもじさ、かつゑ。
うゑはうさう(名) 植瘡瘡、種痘牛痘等を以てつけたる瘡痘)。
うゑる(他) 植、種、蒔、栽、種園、園藝、栽培、地に草木をいけるをいひ、又住民少なき地方に人民を移すをもいふ。
うゑる(自) 飢、ひもじくなる。
うゑかへる(他) 植替、うゑなほす、うゑどころをかへる。
うゑた 植田氏。
うゑつけ(名) 植附作物を植ゑたつること)。
うゑつき(名) 植機、かぐちうたの曲の一)。
うゑむら 植村氏。
うゑまつ 植松氏。
うゑどみ(名) 植込、庭などに樹木を多く植ゑたるところ)。
うゑき(名) 植木、うゑたるもの、十また氏)。
うゑきばち(名) 植木鉢、弁盆、磁盆、草木を植ゑる鉢。
うゑきぐら(名) 植木屋、花匠、花戸、園丁、園藝師、にはつくり、はなつくり。
うゑきばち 植木町(肥後國飽本郡の町名)。
うゑめ(名) 植女、たうゑをんな。

うゑじ(名) 活字、植字(活版の字、「くわつじ」の下を見よ)。
うゑじに(名) 餓死、飢死、うゑてしぬること。
うゑじかた 植字職、くわつばんしよくにん。
うゑびと(名) 飢人、うゑたる人。
うゑもの(名) 植物、草木をいふ。
うゑものかみ(名) 右衛門督、右衛門督古(の官名、唐の金吾將軍に當る)。
うゑもんのすけ(名) 右衛門佐、古(の官名、唐の金吾將軍に當る)。
うゑもんふ 右衛門府、天子の宮門を守れる者。
うゑん(名) 迂遠、まはりどほきこと、十うくわつ。
うゑんば 烏羽馬(字書が傳寫の時に誤りゆくを云ふにて魯魚亥豕の類と同じ、三冨して烏羽馬となる杯と云ふ。
うひ(形) 初、はじめての、はじめの。
うひぢにのみこと 泥土煮尊、天神七代の第四の陽體すひぢにのみことに對す。
うひぢん 初陣、兵士が初めて戰場に出づること)。
うひかむり(名) 初冠、元服を云ふ。
うひかうぶり(名) 初冠(「うひかむり」に同じ)。
うひそ(名) 鼻祖、始祖、元祖、しはじめて、はじめしひと。
うひうこんがう(名) 右弩金剛、那羅延金剛、二王門の右の偶像。
うひうひしき(形) 初初敷、稚稚、みづみづしき、わかやかなれぬ。
うひやうゑのかみ(名) 右兵衛督古(の武官の名)。
うひやうゑのふ 右兵衛府、天子の宮殿の守護兵の府。

うひやうゑのすけ(名) 右兵衛佐(古(の武官の名)。
うひまご(名) 初孫、初生孫、はつまご、はじめてみるまご。
うひご(名) 首生兒、鼻子(初產の子を云ふ、初子、首子、はつご。
うひごゑ(名) 初聲、うぶごゑ(生れて初めて發する聲)。
うひしき(形) 初敷、うひうひしき。
うも(名) 芋、いも、さといも。
うもれいたき(形) 憂鬱、こころのむすぼれる。
うもれる(自) 埋、うづもれる、うづまる。
うもれ炭(名) 埋木(永く土中浴しくは川底等に埋もれて其色黑くなり、其質石の如くなりたる舊時代の遺木をいふ、陸龍仙蔓の埋木炭下に石高し)。
うもれき(名) 埋木細工、うもれきのつくりもの。
うもれみづ(名) 埋水(地中等見えぬ處を流るる水。
うせい(名) 烏睛、くろめだま、くろめ、烏珠。
うせる(自) 失亡、なくなる、紛失、失敗。
うせる(他) 氣絕、絕息、絕命、絕氣、絕息、絕命、絕氣、絕息、絕命、絕氣

うすゆき 薄雪、淡雪、すこしのゆき。
うすゆきこんぶ（名） 薄雪昆布、昆布を削り薄くしたるものにて其色白し、摂津國の名物。
うすゆきせんべい（名） 薄雪煎餅、菓子の名。
うずめ（名） 鴎用鳥、うすめどり（動物）。
うすみどり（名） 淡緑、あさきみどりいろ。
うすみの（名） 薄美濃、うすきしほあんぱい、あさじは。
うすじほ 淡鹽、うすきしほあんぱい、あさじは。
うすえふ（名） 薄葉、薄き紙の名。
うすひがは 碓氷川、上野國碓氷峠より發す。
うすひたちげ 碓氷峠、上州より信州へ越ゆる三黒駒の大峠。
うすひく（自） 磨挽、轉磨、うすをまはす。
うすひごほり 碓氷郡、上野國の郡の名。
うすもの（名） 羅、羅帛、紗しや、うすぎぬ。
うすものおり（名） 織羅匠、うすぎぬをおるもの。
うすもや（名） 薄靄、うすきぎり、うすがすみ。
うすずみ 薄墨、淡墨、うすきすみいろ、十うすずみのりんし。
うすずみのりんし（名） 薄墨の綸旨、薄墨にて書ける天子の綸旨部命。
うすずく（自） 急走、いそぎくい、いそぎはしる。
うん（名） 運、しあはせ、めぐりあはせ。
うんる（名） 云爲、言行に同じ、ことばもことひ。
うんば（名） 転把、支那の農具の名。
うんぱん（名）—する（他） 運搬、はこび、もちはこぶ、運輸。
うんばん（名） 雲版、ちやうはん、飯齋の時に衆を集むる具。
うんぼ（名） 雲母、きらら、礦物。
うんぼう（名） 雲茅、くものみね。
うんぼう（名） 雲邊山、讃岐の三豐郡と伊豫の宇摩郡とに跨る山。
うんどう（名）—する（自） 運動、うごき、うごきまはること、うごく、まはる。
うんどう（名） 云動、ことばかひしたかたち、ものいひしうち、言動。
うんどけい（名） 運度計、日月の運行を計算するに用ふる器。
うんどん（名） 饂飩、湯飩（麥粉を捏れて作れる食品）。
うんどんどうふ（名） 饂飩豆腐、豆腐を水にしぼり蒟粉を混ぜよくすり美濃紙に平にのばし蒸籠にて蒸し饂飩の如く細長くきりたるもの。
うんちう 運籌、はかりごとをめぐらす。
うんちく（名）—する（他） 蘊蓄、つつみたくはふる。
うんちく（名） 運貨、もちはこびちん。
（うんりんゐん） 雲林院、うずもう（山城國愛宕郡の地名）。
うんれう（名） 蘊奥、奥義、おくそこ。
うんか（名） 雲霞、くもかすみ。
うんが（名） 運河、はりわり、ものはこびかは。
うんか（名） 浮塵子、極小さき蟲にて常に群をなして居る、ぬかが（動物）。
うんかう（名） 芸香、七里香、さんばん、へんるう（植物）。
うんかう（名） 芸蒿、柴胡、あまあかな（植物）。
うんかう（名）—する（自） 運行、めぐる、ゆきめぐる、まはる。
うんかく（名） 雲客、雲のうへびと、殿上人。
うんかん（名） 雲漢、あはぞら、あまつそら、十あまのがは、天河、銀河、銀漢、銀潢。
うんかん（名） 雲間、くも、まくものたえま。
うんかんきちほり 雲間九巻九つの高き峯ある支那の山の名。
うんよう（名）—する（他） 運用、とりまはし、はこび、十つかひもちふる、めぐらす。
うんたい（名） 雲苔、雲蘚、ゐも、だつたんな、あぶちな、なたねな（植物）。
うんたいのにむふはつしやう 雲臺廿八將（馮異、馬成、吳漢、王梁、賈復、陳俊、耿弇、杜茂、寇恂、傅俊、岑彭、雲遲、馮異、王霸、朱祐、任光、祭遵、李忠、景丹、萬脩、蓋延、邳彤、銚期、鍾離、耿純、臧宮、馬武、劉隆を云ふ。
うんたち（名）—する（自） 雲鋼、めまひたふれる、たちくらむ。
うんたん（名） 雲鷹、うに（動物）。
うんそ（名） 運底、しあはせ、天運。
うんそう（名） 芸窓、まなびのまど、書齋の窓をいふ、書窓。
うんそん（名） 雲孫、つるのこ（つるのまごゝの下を見よ）。
うんらいのかた 雲雷形、陶器の古製の模樣などに云ふ。
うんむ（名） 雲霧、くもきり。
うんう 雲雨、楚の襄王が夢に巫山の神女と會したりと云ふ故事により男女の交りに喩へ云ふ。
うんうん 云云、しかじか、これこれ。
うんの 海野氏、また地名。
うんけい（名） 雲磬、磬器の名。
うんけい 運慶、南都の佛工にて法橋定朝六世の孫、後鳥羽院の朝の人。

うんけい（名） 雲霓、くもだち、雲の立ちのぼる事。
うんけつ（する）（自） 蘊結、むすばれる。
うんけつかん（名） 雲月簡、菓子の名。
うんけん（名） 雲絹、なんきんどんす。
うんけん（名） 雲綱、種種の文理模樣ある錦にて「うげん」に同じ、十また順文紗、十くまどり。
うんげんべり（名） 雲綱線、白地に雲形のある桑の綾。
うんぶ（名） 雲布、いとおり織物の名。
うんぶ（俗） 運否、しあはせふしあはせ、幸不幸、風物。
うんぶつ（名） 雲物、けしき、光景、風物。
うんこ（俗）（名） 糞、くそ（小兒の語）。
うんこん（名） 雲根、石の異名。
うんてい（名） 雲梯、くものかけはし、攻城に用ふる機子にて巻殼と共を造り初めしといふ。
うんてい 雲泥、くもとどろ（其相遠の大なるをいふ）。
うんてうしゆく（名） 紅鬪粥、往日の正月十五日の赤豆粥を云ふ。
うんてん（名）—する（自） 運轉、めぐること、まはること、まはる、めぐる。
うんてんかう 運天港、琉球神龍島の港。
うんてんしゆ（名） 運轉手、汽車、電車などを操つる人。
うんさい（名） 雲斎、太き木錦絲にて厚く織りたるものにて足袋の底などに用ふ。
うんさう（名）—する（他） 運搬、はこぶこと、はこび。
うんさう（名） 運籌、文事をいふ。
うんき（名） 運氣、うんめい、うん。
うんき（名） 雲氣、くもきりのありさま、吉凶を考ふる爲に見る所のもの。
うんき（俗）（名） 温氣、あたたかさ、十あつさ。
うんきやく（名） 雲脚、雁茶の一名。
うんめい（名） 運命、天命、しあはせ、まはりあはせ。
うんめん（名） 雲麺、三麺の一なり、磐城國刈田郡白石の駅近に係る最良の素麺の類。
うんし（名） 雲脂、いろこ、ふけ、頭の。
うんし 云爾、しかいふ、かくいふ（支那の文章の終に用ふ）。
うんじる（俗）（自） 倦、うむ、うんじる、つかる。
うんじがほ 倦顔、うみたるかは、たいくつがほ。
うんじつ（名） 雲實、はまさぼ、ヒやけついばら、かはちふぢ（植物）。
うんしう 雲州、出雲國をいふ。
うんしうきつ（名） 雲州橘、温州橘、たねなしみかん（植物）。
うんじやう 雲壤、雲泥に同じ。
うんじやう 雲上、くものうへ（禁裏を斯くたとへいふ）。
うんじやう（俗）（名） 運上、幕府時代の語にて國稅金をいふ。
うんじやうしよ（名） 運上所、稅國をいふ。
うんじやく（名） 雲雀、ひばり（動物）。
うんしふ（する）（自） 雲集、くものごとくあつまる、むらがりあつまる。
うんしゆ（名）—する（他） 運輸、はこぶこと、もちはこぶ、つみはこび、俗にうんゆことよむ。
（うんえい） 雲英、きら氏。
うんえい（名） 雲嶺、くもり、かげり。
うんえふ（名） 運葉、ふさざくら（植物）。
うんえき（名） 瘟疫、はやりやまひ、やくびやう、虎列拉の如き病を然か云ふ。
うんえん（名） 雲煙、くもけぶり、十もや。
うんびつ 運筆、ふでをはこばすること、ふでづかひ、ふでまはし。
うんも（名） 雲母、きらら（鑛物）。
うんき（名） 運命、運命をいふ、しあはせ。
うんせい（名） 雲生、太陰曆十一月の異名。
うんせう（名） 雲膏、くものそら、あはぞら、蒼穹。
うんせき（する）（他） 蘊積（うんし）、つみたくはふ。
うんせん（する）（自） 疊旋、ふらつく、めまひする。
うんせんがたけ 温泉嶽、肥前の吉井が嶽。
うんせんどほり 温泉郡、伊豫國の郡の名。
うんする 雲水、行脚遊歴の僧を云ふ。
うんするをけ（名） 運水桶、みづはこぶをけ。
の 「機野之、乃 是はぬ」の父音をあの母韻と合して生ずる音にして五十音の中にては第五行第五段に位す。
の（後置詞） 之に屬する所運動の由つて出づる所等を表はす詞、例へば我の書といへば我に屬する書の義なるが如し、的、北京南京等、嶽、廣東、輻、はば、ひろき、布疋等の。
の（名） 野、畑、のはら、のち、十郊。
の（名） 篠、真、やがちだけ、十竹、やがら、矢の幹。
のいばら（名） 野薔薇、金櫻子、山石榴（植物）。
のいしき 野一色氏。
のいずみ（名） 肉刺、靴ずれに因て出來るきず。

のろ（名）　麗、しかのたぐひ（朝鮮に產す、麋、こびと動物。

のろ　野呂氏。

のろい（俗）形）　遲緩、おそき、てぬるい。

のろのろ（俗）副）　緩緩、そろそろ。

のろま（俗）名）　癡漢、ばかもの、十魯鈍、おろかもの、ぐず。

のろけ（名）　戯話（俗字、のろけばなし、婦人に愛せらるると云ふが如き自分の惚話をすることを俗に然かいふ。

のろけばなし（名）　戯話、のろけ。

のろける（自）　惚心、ことろとける、十まよふ（女に）。

のろふ（他）　呪、咀、呪咀、いのる、あしかれと、詛呪、發呪。

のろし（名）　烽、燧、烽火、狼煙、狼燧、あひづのはなび。

のろしだい（名）　烟臺、のろしをあぐるだい、烽火臺、烽燧。

のろしもり（名）　烽子、のろしばんの、のろしをまもるひと。

のろひ（名）　呪咀、かじり（「のろふ」を見よ）。

のろと（名）　野鎚（野に在りて人の畜はざるものをいふ）。

のばかま（名）　野袴、くくりばかま。

のはら（名）　野原、郊原、原野、平原、の、のち（樹木多からぬ市外或は山邊の平地）。

のはらむら（名）　野原村（大和國宇賀郡の村名）。

のはまぐり（名）　蛤（朝志州の方言、あまをぶぬ動物。

のばふ（他）　伸、延、ながくする、のばす。

のはぎ（名）　野萩（植物。

のばす（他）　伸、延、展舒、ながくする。

のにんじん（名）　野人參、やぶにんじん、ながじちみ、篠俟、やぶじちみ、野胡蘿蔔（植物。

のぼり（名）　幟、旗旛、はた、はたじるし（節句等に立つる）。

のぼりはし（名）　梯、はしご、梯子、十のぼりだん、梯子。

のぼりゆうくだりゆう　昇降降（上に向つて上る間と下に向つて下る間の形をいふ。

のぼりつめる（自）　登窮、のぼりきはむる。

のぼりくだり　上下、昇降、陟降、あがりさがり、十講讀、所沿。

のぼりふね　溯船、さかのぼるふね、川に。

のぼる（自）　登、升、上、昇、騰、あがる、高きに。

のぼれるよ　上代、上世、あがれるよ、むかしの、。

のぼの　能登野（伊勢の國三重郡に在る地の名にして日本武尊を葬りし處）。

のぼしま　乃保島（琉球諸島の一）。

のぼせ（名）　逆上（熱氣の頭上にのぼるを云ふ）。

のぼせる（自）　上氣、上衝、逆上、せきあげる、くわつとする。

のぼせる（他）　令登、令上、のぼらせる。

のべ（名）　野邊、のほとり、十のち野邊の送りは死人を野邊に葬送するをいふ。

のべはらひ（名）　延排、かけ（後日に代金をはらふこと）。

のべちむら　野邊地村（陸奥國上北郡の村名）。

のべる（他）　申、いひたてる、宣、述、展、布、紆、陳述、演說、陳供、供述、陳啟。

のべる（他）　述、いひあらはす、演、陳、發言。

のべる（他）　伸、延、ながくする、十扇、舒、暢、ひろくする。

のべをかまち　延岡町（日向國東臼杵郡の町名）。

のべれくり（名）　野邊送、葬式、送葬、郊送、葬儀、とむらひ（野邊の下を見よ）。

のべがね（名）　扇金、いたがね（鐵等を展ばしたるもの）。

のべがみ（名）　延紙（紙の一種）。

のべ（名）　祝詞、のりと（神に告ぐる詞）。

のざ　能登（北陸道の中の國名）。

のざ（名）　明、喉、のみど、のんど（食物の通りて腹に入る處）。

のざい（名）　魚筍（越中の方言、うけ）。

のざに（副）　融和、のどかに、こころよく。

のざぼさけ（名）　喉佛、のどのふえ、吭。

のざぼね（名）　喉骨、のんどのほね、結喉。

のざり（形）　野取、のよりとりたる（鳥等の）。

のざわ（名）　喉輪（兜の具にして喉にあつる物、此の圖なるは出雲國日御崎社藏義家朝臣の所納と傳へ云ふ）。

のどか（形）　長閑、融和、悠然、融融、あだやかにこころよき、しづか。

のどがはの　能登川（之「のちには淸むの枕詞。

のどだんご（名）　喉團子（男の喉の外に表れたる堅き骨。

のどらかに（副）　長閑、こころよく、のどかに。

のどのたれしし（名）　頸下垂肉、銀などの喉に垂れたる肉「胡」、のどぶくろ。

のどのひこ（名）　懸壅垂、會厭（喉に垂れをる柔かき錘形のもの「喉子眼、吊鐘、喉嚥、のどぼとけ。

のどやか（形）　融和、のどか。

のどけ（名）　喉疾、喉痺、のどのやまひ（病名）。

のどぶくろ（名）　喉嚢（牛などの頸下の垂肉をいふ「胡」。

のどぶえ（名）　咽喉、結喉、氣管、のどのかざみち。

のどとびと（名）　獵師、かりびと。

のどさざき　能登崎（能登國の岬「すずのみさきをいふ）。

のどみち（名）　吹、のどぶえ。

のどびと（名）　厭食喉、のどのひこ、懸壅垂、喉の上部にある柔き松子形の肉「喉子眼、喉嚥。

のち（名）　末葉、苗裔、子孫、ばつそん。

のち（名副）　後、あと、十うしろ、十あとにて。

のち（名）　野路（のみち、のはらみち。

のちいりのをどこ　捺脚夫、驛場、にどめのいりむこ。

のちばら（名）　後胎、後母胎、繼母胎、のちぞひのはら（繼母の產めるをいふ。

のちほど（副）　後程、後刻、のちに、のちかた。

のちれひ（名）　後生（後に生れる人、若年。

のちかた（副）　後刻、のちほど、のちに。

のちぞひ（名）　後妻、にどめのつま。

のちづれ（名）　後夫、のちのおつと、にどめのをつと、十繼配、後妻、のちのつま。

のちのよ　後世（今より後の時代また死後を云ふ）。

のちのたまがは　野路玉川（近江國に在り）。

のちのつき（名）　閏月、うるふづき。

のちのつきみ　後月宴（太陰曆の九月十三日の夜をいふ。

のちのあした　後朝、つぎのあさ、つぐのあさ、十きぬぎぬ。

のちのしのはら　野路篠原（近江國の地名、和歌に名を留めたるもの）。

のちぐい（名）　後悔（こうくわい、のちにくゆること、あとでやみ。

のちまき（名）　後詰、おそくまきたるたね。

のちざん（名）　後產、あとさん（產後に下る物）。

のちせ（名）　後瀨、のちのあふせ、後實、再會。

のちせざん　後瀨山（若狹國遠敷郡に在る山）。

のぢん（名）　野陣、野營、露營、鄙次（野原に陣を張ること）。

のり（名）　鑑、範、法、模、規、矩、典、式、術、儀、則、法式、規則、おきて、さだめ。

のり（名）　糊、糨、糊、漿、ればつくもの（物をつけはする等に用ふ、十米糊、著物にひく）。

のり（名）　殷血（血の刀に附きたるもの）。

のり（名）　矩、尺寸、すんしやく）。

のり（名）　程、道程、とほさ、（だたり）。

のり（名）　海苔、水苔、海菜、石髮、石衣、水綿、苔、藻、うみくさ（植物）。

のり（名）　佛道、ほとけのみち。

のりいた（名）　糊板、そくひのの。

のりいれ（名）　糊器、のりをいれるうつは、十鉢の名「のりいれがみ」を見よ。

のりいれる（他）　乘人、のりこむ、馬を進めて入れる也）。

のりいれる（他）　乘習、のりならす、しこむ、馬を乘りてしこむをいふ。

のりいれがみ（名）　糊入紙（白く柔かき紙の名、のりいれ。

のりいし（名）　乘石（茶庭に据うる石、庭造法に云ふ語）。

のりはけ（名）　糊刷毛、のりつけるはけ。

のりと（名）　祝詞（神の前に誦ふる祭文）。

のりとりば（名）　採藻場（海苔を採收する場）。

のりとる（他）　乘取、せめとる、敵城等を）。

のりぢ（名）　乘地（賛成の勢をいふ）。

のりれろす（他）　乘下、のりくだす（馬船等を）。

のりかへ（名）　乘替（乘りかへる爲めに從がへたる馬船車などをいふ、十副船、のりかへ、ばね、十副車のりかへ、るくるま、十副馬、驛馬、のりかへうま）。

のりかへる（他）　乘替、はかのにのる他の馬船等に乘りうつる。

のりかかる（他）　乘戀、うにつきかかる船車等が物の。

のりかける（自）　乘掛、のりかかる船等が暗礁淺瀨等に。

のりかき（名）　糊篦、そくひへら。

のりだす（名）　乘出、のりてだす（馬船等を）。

のりぞめ（名）　乘初、はつのり（馬船等の）。

のりつけ（形）　乘附、のりをひきたる海物に云ふ）。

のりつける（自）　乘附、はせつく（馬にて）。

のりうち（名）　乘打、のりてはること（馬に乘りて通る事、昔は二本さしたる人即ち士の傍を平民は馬に乘りて通る事を禁ぜられたり、之を乘打ならぬと云ふ）。

のりうつる（自）　乘移（船車馬などに、十また過託、よる、つく（風雅天物等が人にかいるを云ふ）。

のりうま（名）　乘馬、騎馬、のるうま。

のりのはね（名）　法華佛經（のるま。

のりのつかさ（名）式部省官名、唐の吏部に當る、文官の除授考選の事を掌る、「しきぶしやう」。
のりのふね（名）法舟、教誓の船即ち導人を救ふ佛の船。
のりのし（名）法師、佛教の僧徒をいふ。
のりくら（名）乘鞍、乘るに用ふる鞍。
のりくらやま　乘鞍山、飛彈國大野郡に在る山にて鞍馬とも書く。
のりくみ（名）乘組、船員、船中に乘組みをる人人。
のりまはす（他）乘廻、のりめぐらす、馬を。
のりまき（名）海苔卷、酢飯などを海苔につつむを云ふ。
のりふり（名）綸旨、天子の。
のりごと（名）詔言、みことのり、天子の。
のりこむ（自）乘込、搭のりいる船に。
のりこえいし（名）乘越石、茶庭の中潜りの處に設けたる飛石の一。
のりとえる（自）乘越、のりこす、次を見よ。
のりとす（自）乘越、のりこえる、馬あるひは車にて人より先へ進み越ゆるをいふ。
のりて（名）乘者、のるもの、十乘者、のれるもの。
のりあと（名）血痕、血蹟、のりのあと、ちのあと（人を切りたる等の）。
のりあひ（名）乘合、ともにのる多くの人が。
のりあひばしや（名）乘合馬車、衆人の乘るに供する馬車。
のりあひぶね（名）乘合船、衆客の同乘する船。
のりき（名）神託、遷宮、かみがかり、たくせん、託宣。
のりき（名）乘氣、きののること。
のりきり（俗）（形）乘切、のりつめ、のりとはし。
のりゆみ（名）賀射、昔の正月十八日の公事にして賀して弓射る事を行ふもの。
のりめし（名）海苔飯、淺草海苔を火にてあぶりて細末にもみて飯に混ぜたるもの。
のりもとす（他）乘還、のりかへす。
のりもの（名）賀物、賀宴、賀筵、賀表、慶等にかける材料、かけもの。
のりもの（名）乘物、駕籠、かご、十又輿、くるま。
のりものちやや　乘物町、東京市神田區の町。
のりものかき（名）舁夫、轎夫、擔夫、かごかき。
のりすてる（他）乘捨、ありてすてゝゆく馬舟等を。
のる（他）告、つぐる、いふ、宣に天子神或は貴人の。
のる（他自）鳴、雷、ののしる、十いひさわぐ。
のる（自）乘、うへにまたがる、馬の、十はいる、船の中に、十騎、馬に、十駕、車に、十登、のぼる。
のれくり（名）野筍、のべわくり、とむらひ。
のわき（名）暴風、颱風、野風、あきあらし、秋くれ暴き風。
のがる（自）脫、免、逃、にげる、まぬかる。
のがれる（自）逃、遁、遁、脫、遁、免、遁免、遁、遁、遁、まぬかれる。
のがけ（名）野懸、野兎、野兎、のあをび、野遊、ゆさん、ピクニク、花見、杯の時山野にてする酒宴。
のがみ（名）繁縷、しげきたてがみ、十騏、たてがみ、みゝはきうま。
のがひ（名）野飼、放牧、はなしがひ、牛馬を野に。
のがひ（名）牧馬、のはなしがひ、馬の。
のがひのうま　牧牛、はなしがひのうし。
のがす（他）合脫、にがす、のがれゆかする。
のがん（名）野雁、鶴、鴻、野鳥、動物。
のだいわう（名）羊躑躅、羌菜、しのね、ぎしぎし（植物）。
のだいこん（名）野大根、肥後國に產する大根（植物）。
のだち（名）野立、野に立ちて、眺望する、と、十又のにたちをる、と、樹木が。
のだち（名）野刀、野劍、あはだち、十かりがたな（機刀）。
のたりのおり（俗）（副）紆紆、うねくりうねくり（のたる線、のたくり）。
のたる（自）卿行、はひまはる。
のたれじに（名）倒死、たふれ死に、ゆきだふれ。
のたつ（自）伸立、背長、のびそだつ。
のたら（名）閑話、しらうと、植物。
のたりちまはる（自）苦轉、七轉八倒、もだへくるしむ。
のたのたまがは　野田玉川、陸前國に在る有名の川。
のたくる（自）蛇行、うねくりあるく、のたる。
のたくる（俗）（他）筆、ぬる、塗等を。
のたまはく　宣、いひたまはく、のたまふちく。
のたまちまち　野田町、下總國東葛飾郡の町名。
のたまふ（他自）宣、曰、言、云、いふ、いひたまふ、天子或は神につきて用ふ。
のたけ（名）篇竹、陸前國牡鹿郡に在る山。
のたけ（名）前胡、みつはれんげ、植物。
のたけ（名）篇總、矢竹をたばねたる器。
のためがた（名）野田潟、甲斐國の地名。
のだじり　野田潟、甲斐國の地名。

のれん或**のうれん**（名）暖簾、商家の店前に垂るる布帽の如きもの、「のうれん」の下を見よ。
のぞむ（自）臨、莅、いたる、まゐる。
のぞむ（他）望、眺、眺、みる、ながめる、十、又れがふ、とのむ。
のぞく（他）除、露、除去、芟除、蠲除、削除、剔除、蛻、のけさる、すてる、とりはらふ、十擲除、はちひのぞく、聘鬼等を。
のぞく（自）覗、窺、覘、覷、覘、うかがひみる、すかし見る。
のぞく（名）除、太陰曆中段十二直の一稱にて從來世俗は之に依つて萬事の古凶を判せり除とは斗柄の指の辰也、萬物折衝し百凶をのぞくゆゑに除といふ也。
のぞましき（形）望、ほしき、あらまほしき。
のぞこる（自）除、しりぞく、のぞく。
のぞき（名）藍碧、藍碧茶の其。
のぞき（名）奇觀鏡、のぞきめがれ、畫を中に陳列して外より目鏡にて見さする箱。
のぞきいし（名）覗石、博淨石（しやうじいし）をいふ。
のぞきはな（名）覗鼻、鼻の障子が外に顯はれ出たる鼻をいふ。
のぞきめがね（名）奇觀鏡、種種の透鏡を以て畫を見さする構造の物。
のぞみ（名）希望、もとめ、ねがひ、このみ。
のづ　野津（氏）。
のつさ（名）祝詞、新嘗詞、神拜詞、のりと（神前に誦ふる詞）。
のつさ（俗）（副）兀、によつこり。
のつさり（名）焦、きぎす、きじ（動物）。
のつとる（自）法、則、鑑、ならふ、倣、まねる、したがふ。
のつとる（他）乘取、乘捕、のりとる、せめとる。
のづち（名）野槌、蝦蟆、千歲蟆、野槌の如き形せる一種異樣の蛇類（動物）。
のつかる（俗）（自）乘、のる、うへになる。
のづら（名）野面、あつかはづら、鐵面皮。
のつけに（俗）（副）突然、いきなり。
のづけに（副）背向、仰氣、あふのけに。
のつけだう　節見堂、武州久良岐郡六浦莊に在り。
のつけごほり　野付郡、根室國の郡の名。
のつきる（俗）（他）乘切、のりこえる。
のつびき（俗）（名）退引、のきひき、てをひくこと。
のねと（名）野嶺山野に住む一種の猫（動物）。
のねずみ（名）野鼠、の鼬鼬、のちねづみ（動物）。
のなか　野中、野間、のはらのなか。
のながせ　野長瀨、氏。
のら（名）野、草野、のはら、淺間ののちなど歌に見ゆ、又（俗）田野、はたけ。
のらいぬ（名）野犬、飼主なき犬。
のらどり（名）鵰、動物。
のらよもぎ（名）白蒿、植物。
のらねこ（名）野猫、野住の猫、十ぬしなきねこ。
のらねずみ（名）鼬鼬、とねら、動物。
のらまめ（名）回鶻豆、鵝豆、ゐんどうまめ（植物）。

［圖の猫野］

のらまめ（名）蠶豆、尾州の方言、そらまめ（植物）。
のらぶだう（名）蘿蔔、蘿蔔の方言、のぶだう（植物）。
のらえ（名）植花（植物）。
のらもの（俗）（名）匙子、だうらもの。
のむ（他）飲、のどにいれる水等を、十呑、啜、嚥、まるのみする、十嚥、たべこ茶等を。
のむど（名）咽喉、飲食物をのみくだす道、のど。
のう（名）能、藥、藥の名。
のう（名）能、ちから、わざ。
のう（名）農、たつくり、ひやくしやう、農夫、十また農業。
のう（名）膿、うみ、腫物の。
のうるはやう（名）野茴香、馬芹、うまぜり、馬蘭（植物）。
のうろ　濃露、ふかきつゆ、こきつゆ、しげきつゆ。
のうにん（名）農人、農夫及農を見よ。
のうべん（形名）能辯、よくしやべる、べんのよい、十さはやかなるべん。
のうぢく　能得、藥等の功能と效。
のうちう（形）濃稠、あつくこまかき、こき。
のうりよく（名）能力、ちから、身體精神開方の官能にも用ふ。
のうるし（名）鬱垣、大蔵、漆、櫨花草、さはうるし（植物）。
のうか（名）農家、ひやくしやうや、田舍。
のうかう（名）農耕、たがへすこと、たつくること、農業。
のうがく（名）農學、農業の學。
のうがく（名）能樂、能樂、能の藝をいふ。

のらがくかう(名) 農學校(農業に關する事を教ふる學校。

のらがくし(名) 農學士(農學に達したる人、きた學位の名。

のらがき(俗)(名) 能書藥の効能書。

のらよう 農用(農業に用ひること)。

のらたん 鐵鈍、こきうすき、十いろどり、くまどり。

のられん(名) 腰巻、腰帷、腰輪、門帷、布帷(のれんに同じ)。

のらねし(俗) 無能、無芸、やくにたたぬ。

のららう 鐵鈍、こきまけ。

のらむ(名) 農務、農業、農事、たがやすわざ。

のらのり(形) 鐵鈍、つゆこき、つゆしげき。

のらぐ(名) 農具、たつくりうつは、耕具。

のらくわい(する)(自) 鐵鈍、うみをもちてやぶれる腫物に云ふ、うむ。

のらくわり(名) 農學農學校をいふ。

のらやくしや(名) 能役者能をつとむる人。

のらま(名) 野馬、のにすむうま、のそだちうま、散馬、野馬、驟、驟、驟動物。

のらまい(名) 能米、こごめ。

のらまちむら 能町村(越中國射水郡の村名)。

のらけ(名) 能化、ししやう(僧家の語にて師を能化と云ひ弟子を所化と云ふ)。

のらけつ(形) 能傑、すぐれたる。

のらけつ(名) 腰血、ちうみ、うちのち。

のらげふ(名) 農業、ひやくしやうわざ、たがへすわざ、たつくりわざ。

のらげき(名) 農隙(農業の間隙)、たつくりするひま。

のらけん(名) 壘夫、むくいぬ(動物)。

のらけんたち 能見堂(武藏國久良岐郡六浦莊にある有名の古社の名、但し今は唯其跡あるのみ、のつけだう。

のらふ(名) 農民、ただれぐさり。

のらふ(名) 農夫、たつくり、田夫、田者、田父、耕夫、耘夫、野人、ひやくしやう。

のらとり(形) 鐵厚、こき、うすからぬ。

のらとり(名) 農功、ひやくしやうわざ、たがへしわざ。

のらとり(形) 能功、たくみ、じやうず。

のらさい(名) 能才、もちもちかち。

のらさち 農業、たつくりかひこかふこと。

のらさち(名) 鱗魚(播磨の方言、しろふか(動物)。

のらさく(名) 農作、たつくり、ひやくしやうしごと。

のらさぎ(名) 野鬼、動物。

のらさん(名) 農産、田産(田地の産物、たはたのなりいでもの。

のらさやらげん(名) 能狂言(能の舞をいふ)。

のらめ(名) 野梅、植物。

のらみん(名) 農民、ひやくしやう、農夫、農人、たつくり。

のらじ(名) 能事、よくすること、はたらくわざ、つとめ。

のらじ(名) 農事、たつくりしごと、ひやくしやうわざ、たがへしわざ。

のらじ(名) 農時、ものつくりどき(農業上の)。

のらしよ(名形) 能書、よくかくこと、十かくことをよくすること。

のらしら 遠州美濃國をいふ。

のらしら 能州能登國をいふ。

のらしや(名) 農車、農事に用ふる車。

のらしや(名形) 能射、よくゆみいる、いることをよくする。

のらしや(名) 能者、よくできるもの。

のらしやうむだいじん 農商務大臣(農商務商務の長官。

のらしやうむしやう(名) 農商務省(農商務商務を監督する官衙)。

のらしふ(名) 鐵汁、うみしる、はれもののうみ。

のらしゆん(名) 農畝、田畝、こはりぶぎやう(田地を監督する官人)。

のらえん(形) 鐵鈍、つややか、うつくしやか。

のらひつ(名形) 能筆、能書、かくことをよくすること、みごとにかく。

のらせん(名) 農船、たぶね(農作に用ふる船)。

のらぜんかづら(名) 紫葳、凌霄、花陸花、くまかつら、女蔵、鬼目、武紋、靈陵(植物)。

ののん(さん)(俗)(名) 佛、はとけ(小兒の語)。

ののがき 野野垣(氏)。

ののぐち 野野口(氏)。

ののめく(俗)(自) 咲、しやべる。

ののみや 野野宮(氏)。

ののみやのはら 野宮原(山城の地名)。

ののしる(他)(自) 罵詈、そしる、あしくいふ、十のる、いひさわぐ。

ののふ(名) 假屋、ねずみぐさ(植物)。

のく(自) 退、退去、辭退、退出、退散、たちのく、しりぞく。

のぐは(名) 柘(野蠶がやどる樹)(植物)。

のぐち(名) 野口、鞍の具、また氏。

のぐるま(名) 旋覆花をぐるま(植物)。

のぐるみ(名) 化香樹、のぶのき、虫樹(植物)。

のくれやまくれ 野七里山七里、のをこえやまをこえ。

のぐさ(名) 野草、野邊或は路傍に生ずる草(植物)。

のくず(名) 野葛、冶葛、鈎吻草、斷腸草、いぬくず(大毒あり)(植物)。

のま 野間(氏)。

のまを(名) 野苧、のからむし(此苧の條を以て網の如き織物を織す)。

のまめ(名) 野豆、まめのたぐひ(植物)。

のまやのほろ(名) 野交綾、やよけ、矢をよける具。

のげ或**のぎ**(名) 鯉、のぎ(魚の刺の喉にたてたるもの)。

のげ或**のぎ**(名) 穎、はさき、ひげ(稻等の穗の穎)。

のげいたら(名) 野雞頭、鼠眷草、青葙草、草蒿、雞冠草、えひすぐさ(植物)。

のける(他) 除、退除、のぞく、よける。

のけそる(自) 仰反、あふのけにそりかへる、紀倒、のけさまにたふれる。

のけくび(名) 突襟、つきえり、ぬきえもん(襟を背に下げて著る著物)、えりごし。

のけさまに(副) 仰樣、あふのけに。

のぶろ(名) 野風呂、水火鑪、携火鑪、涼鑪、野遊などに携帶し得る製作の火鑪、ちやべんたう。

のぶさい(俗)(形) 大膽、こころたくましき、きもふとき。

のぶた(名) 野豚(山野に住する一種の豚、此圖なるは小笠原島の山中に居るものにて猪の如く雙牙あれども猛猛なちげ)(動物)。

のぶたら(名) 野芋(植物)。製蒡、野くさぶだう、えびかづら(植物)。豚野

のぶつらがひ(名) 珠母(能[圖の豚野]登の方言、あこやがひ(動物)。

のぶし(名) 野武士(強盜を爲すを常とせし軍人をいふ)。

のぶし(名) 野伏(野に伏すことにて山伏と云ふに同じ、修行者たちびに其修行をいふ)。

のぶせり(名) 野伏、野臥、こじき、ものもらひ。

のぶすま(名) 野衾、雪風、鼯(動物)。

のぶすま(名) 野槇(小鳥と鯛とを以て料理したる食物)。

のこ(名) 鋸、のこぎり(大工の道具)。

のこりれほき(形) 殘多、ざんねんなる、くやしき。

のこりのよはひ(名) 餘年、餘齡(老いて僅に殘れる年月)。

のこりのきく(名) 殘菊(冬までも殘りさきたる菊)。

のこりゆき(名) 殘雪、宿雪、春まで殘りをる雪をいふ、のこんのゆき。

のこりしね(名) 稻米のなかにまじれるもみ。

のこりひさしき(形) 殘久敷、さきのながき(生命等の)。

のこりせん(名) 餘錢、あまりぜに、つりせん。

のこる(自) 殘、遺、贈、あとにつたはりある。

のこれるゆき 殘雪、宿雪春にのこれる雪、のこんのゆき。

のこらず(副) 不殘、みな、悉皆。

ののごまり 能解泊(筑前國の船著場にて和歌に名高きもの、また能解浦とも云ふ)。

のごま(名) 野胡麻、のうま(動物)。

のごふ(他) 拭、拒、拔、ぬぐふ、ふく。

のごろ(名) 野心、あらきこころ、十のをもふこころ(鳥獸が)。

のこぎり(名) 鋸、木をひき切る器。

のこぎりば(名) 蕎、越前の方言、鬱草、めどぎ(植物)。

のこぎりのめたて 修鋸子(鋸の歯をつくる人)。

のこぎりくづ(名) 鋸屑、をがくず。

のこぎりぐさ(名) 地楡(近江の方言、われもかう(植物)。

のこぎりやま 鋸山(安房國の西海岸に在る山)。

のこぎりざさ(名) 鋸笹、薄草、鬱草、めどぎ、はどろもまう(植物)。

のこぎりざめ(名) 鋸鮫(動物)。

のごしやう(名) 白英(越後の方言)、まるばのはろし(植物)。

のこしぶみ(名) 遺書、ゆゐしよ、かきおき。

のとんのゆき(名) 殘雪、宿雪、のこりのゆき、春に殘れる雪。

のあ 諤亞(世界大洪水の時に只一人其子女とともに救はれし人)。

のあひ(名) 野次、のみち、の。

のさばる(俗)(自) 跋扈、はびこる、ろばる、傲慢。

のざかもり(名) 邪妻、ゆさんざかもり。

のざらし(形) 野晒、野曝、屋外等に棄ておくこと

ふ、あまざらし。

のざらし（名）天蓋茎、ひとがしち、しやれかうべ。

のさのさと（副）徐徐、遲遲、しづしづと。

のざき（名）荷先、新穀（國々より首し天朝に奉る所の初穂にて神にささぐるもの）、荷前。

のざきのつかひ（名）荷前使（年末に御陵（荷前を奉獻する使。

のざんせり（名）野山椒、蔓椒植物。

のき（名）軒、霞、檐、櫺、屋根の端、やれさき。

のき（名）鰓、のどにたちたるほね（喉に刺さりたる魚の骨）。

のぎ（名）芒、芒頴、籾殻、はのさき、はさき（のげを見よ）。

のぎ　乃木氏。

のぎは（名）檣端、のきさき、のきのそば、香牙、屋鷹。

のきり（名）緩底農具。

のきたがひ（名）蛤蜊（筑前の方言）、あまをぶね（動物）。

のきつね（名）野狐、つれのきつね（動物）。

のきむら（名）能義村（出雲國能義郡の村名）。

のきく（名）野菊、苦意（植物）。

のきく（名）牡蠣（奥州の方言）、をとこよもぎ（植物）。

のきぐち（名）軒口、のきば。

のきげた（名）廂桁、のきのけた、のきにはどこせるけた。

のきごほり　能義郡（出雲國の郡の名）。

のきした　軒下、のきのした。

のきしのぶ（名）玉蕨、くさのぶ（植物）。

のめ（名）鋤（わたの類にて等物杯のもるをふさぐに用ふ）。

のめる（俗）（自）前倒、まへ（へたふれる。而已、ばかり、耳、爾。

のみ　野美、能見氏。

のみ（名）蚤、蚋、狗風、跳蚤（動物）。

のみ（名）鑿穴をうがつ具。

のみほす（他）飲乾、飲竭、酷、醪、の蚤みつくす酒を。

のみど（名）喉、のど、のんど（古語）。

のみどり（名）蚤捕、のみとるうつは。

のみち（名）野道、野路、郊道、郊徑、野徑、のはみち。

のみれく（他）飲呪、まへ（もつてのむ、のみたくはへる。

のみかは　呑川（武蔵深澤村に發し北大森村に於て東京灣に注ぐ）。

のみつば（名）蜀葵（植物）。

のみむし（名）鼠蟻（紳蟻、地風、蟻巣、をめむし、ねずみのゆ（動物）。

のみのえ　鑿柄、機、のみのもつところ。

のみぐち（名）飲口、酒口、水管、吸口、管注、嘴注、管放、吸子嘴、じやうご（桶等に施す口）。

のみくらふ　飲食、飲喫、のむことくらふこと。

のみくひ（名）蚤嚙、のみのくひたるところ。

のみくひ　飲食、さけのむことのみくひとめしくふこと。

のみごほり　能美郡（加賀國の郡の名）。

のみとむ（他）呑込、嚥下、呑下、のどにくだす、十許既、うけひく、十理會、さとる。

のみて（名）飲者、のむもの、十飲客、さけのみ、ほさけのみ。

のみきりあめ（名）膠牙飴、くろあめ、蕊飴。

のみもの（名）飲料、のむべきもの（酒水の類）。

のし（名）紫蘇草の名、しをに（植物）。

のし（名）長鰒、腹平鰒（人に物を贈るに添ふる物にて石決明を乾してけづれるもの、のしあはび）。

のし（名）碑、舟の。

のし　腹平、ひのし、火平、鎬鉋。

のしいと（名）製絲、あちきぬいと。

のしろぬり　能代漆（羽後國山本郡能代邊より出づる漆器をいふ、世に之を春慶塗と呼ぶ）。

のしろみねとまち　能代港町（羽後國山本郡の町名）。

のしちぢみ（名）腹平縮（地合薄き縮物の名なり、皮薄なること腹平縮の如しなど云ふ）。

のじり　野尻氏、また信州の地名。

のじりのいけ　野尻湖（信州に在る有名の大湖）。

のしかたのくぎ（名）鉛鐶釘、浮高釘、鋪首門扉等の飾浮り（鐶に用ふる釘、くわんがう、訂の かざりびやう）。

のしつけ（名）鋼（劍の飾に云ふ）。

のしね（名）野稻、陸稻、をかぼ（植物）。

のしうめ（名）伸梅（醫理の名、蘊製の梅醫うめびしほ）に蔕を解きて入れ蔕詳板の如きものにつけて落したるもの）。

のしのつづり（名）雀舌草（植物）。

のじま　野島（近江國の地名、—の崎、—の瀬、—の蛭など云ふ、また淡路國の地名）。

のしぶき（名形）舒葉（屋根の葺き方にいふ）。

のしあはび（名）腹鰒、腹平鰒（「のし」を見よ、のしにするあはび、のし。

のしあがる（俗）（自）伸騰、のびあがる、十あがる。

のじゆく（名）野宿、露宿、のどまり（屋外山野等に寢ること）。

のしめ（名）腹平目（薄服の一種にして絵分けに作れるもの）。

のしし（名）野猪、ゐのしし（動物）。

のふんどう（名）野豌豆、鼠藤（かちすのふんどう（すずめのふんどう）の一種あり）（植物）。

のび（名）野火、野山に燒ゆる火。

のびちぢみ　伸縮、舒縮、盈縮、延促、屈伸、なかくなるみじかくなる。

のびる（名）茗荷、野薤、野蒜、山蒜（植物）。

のびる（自）伸、ながくなる。

のひつじ（名）野羊、山羊、羱羊、やまひつじ（動物）。

のびらかに（副）伸、ながちかに、ゆたかに。

のびのび（形）伸伸、すくやか、せいせい。

のびのび（になる）（自）延引、遲延、捲緩、遲緩、怠慢、緩延、遲緩、おくれゆく、おそくなる。

のびやか（形）舒、のびのび、せいせい。

のびあがる（自）伸上、みをのす。

のびき（名）野引、やどびき。

のびきやし（名）仙人掌、くさのな（植物）。

のびゆ（名）野莫、細莫、くさのな（植物）。

のびえ（名）野稗（植物）。

のもと　野本氏。

のもり（名）野守、野を守る人。

のもりのかがみ　野守鏡（郊野の清水を云ふ、是れ物の形をうつせば也）。

のもせ（名）野地、ののもて、田面、のはら。

のもせに（副）野道、のもせまきほど、のいつぱいに。

のせ　野瀬、野勢氏。

のせ（名）鏡鵲、鶺子、つぐり（鵲の一種（動物）。

のぜり（名）花蕊、菫菜、芹菜、せりのたぐひ、あまかな（植物）。

のぜり（名）前胡、射香菜、みつばぐき（植物）。

のせる（他）載、うへにおく、十乘、のちせる、記載、かきのせる。

のす（他）伸、のばす。

のす（他）載、のせる。

のす（他）熨、しわをのばす（衣服にひのしかける。

のんべ　野邊氏。

のんど（名）咽喉、喉、のど、のみど。

のんどぶえ（名）吹、丸、結喉、ふえ、のどぶえ、氣管。

のんたらう（俗）（名）呑太郎、のんだくれ、さけのみ、よつぱらひ。

のんたくれ（俗）（名）混醉漢、さけのみ、よつぱらひ。

のんと（俗）（形）靈顏的、ぼうぼうしい、はぎしらぬ。

のんき（俗）（形）暢氣、呑氣、きらくなる、しんぱいなき。

のんじ（名）尺蠖、しやくとりむし（動物）。

ク、玖、矩、久、九、十グ、具、倶、逑　是は（くの父音とう）の母韻と合して生ずる音にして五十音の中にありては第二行第三段に位す。

く（名）句、ふみのことば、文句。

く（名形）苦、くるしみ、十にがき、十くるしき。

く（名形）九、玖、ここのつ（四と四とに一を加へたる數）、十きた第九。

く（名）狗、いぬ、犬（動物）。

く（名）區、まちのわかち、十又ところ、ば。

く（自）來、きたる。

ぐ（名）具、うつは、うつはもの、だうぐ。

ぐ（形名）愚、もろかし、ばか、十もろかもの。

ぐ（する）（他）具、そなへる、具備、十ゆしつれる（從音零を）。

くい（名）悔、非を憂（かなしむを云ふ。

くい（名）句意、句の意味。

くい（名）區劃、區殺所にて其區のために屈ひるく賢者。

ぐい　愚意、もろかどころ（また己れの心を指すの謙遜の辭）。

くいく（する）（他）腹育、やしなふ、そだてる、あたためやしなふ。

くいあらため（名）悔改、改悔（惡事を悔いて改むること）。

くいあらためる（他）悔改、さんげする、くやみてなほす。

くゐな（名）區城、さかひ、かぎり、十又ばしよ。

ぐいひ（名）胡頽子（中國の方言）、ぐみ（植物）。

くろ（名）畔、畦、たのくろ、あぜ（田と田の間の細き路）。

くろ（形）黑（くろきに同じ）。

くろ（名）區劃、小窠、ちひさきいへ。

ぐろ（名）　愚昏、もろか、ばか。
くろいろ　黒色、鰹色、からすいろ。
くろいと　黒絲、くろきいと。
くろいさをどし（形）　黒絲縅、くろきいとにてぬひたる鎧に云ふ。
くろいし　黒石氏。
くろいしむら　黒石村　陸中國江刺郡の村名。
くろいしまち　黒石町　陸奥國南津軽郡の町名。
くろろ　黒絽、くろきろ織物の名。
くろろ（名）　門晴雨、あとし門戸の。
くろろ（名）　櫨機（くるるに同じ）。
くろばい（名）　山欒（紀州の方言）、そめしば（植物。
くろばり（名）　黒方　薫物の一種。
くろはぶたへ（名）　黒羽二重　織物の名、くろきほそぎぬ。
くろはせ（名）　崑崙八仙（高麗藥の名）。
くろはぜ（名）　珍珠花（植物）。
くろぼ（名）　麥奴、發奴、くろん（麥の麩等の黒くなりたるもの）、むぎのくろぼ。
くろぼく（名）　黒木　鹿石の名。
くろほぶしやま　黒法師山（遠江榛原郡に在る山名）。
くろぼし　黒點、くろきぼつ。
くろほん（名）　黒本　德川時代の草雙紙を然か名づけたり、是れ其表紙を黒くしたるに因りて然か稱せるなり。
くろほんぞん（名）　黒本尊（東京市芝區增上寺の本尊なり、元は參河國額田郡龍田の大樹寺に安置せられし者にて家康公の身代りに立ちしと信ぜられ、後駿河の久能山に移ししを二代將軍秀忠公增上寺を建立して其處に本尊として安置せし也と云ふ）。
くろべがは　倉部川（越中國新川郡に在り）。
くろべりし（名）　黒表紙　正德享保の時代に行なはれたる役者評判記を然か呼べり、其表紙の黒かりしに因りてなり。
くろへび（名）　烏蛇、からす（び）（動物）。
くろどり（名）　鴉　水鳥の名（動物）。
くろどびいろ　黒土色、暗褐色、鐵褐色、褐色、くろかついろ。
くろち　黒地、くろいろの地、織物の。
くろちりめん（名）　黒縮緬、烏縮緬、いろくろきちりめん。
くろりん（名）　克魯林　藥品。
くろぬり（形）　黒塗、くろくぬれる。
くろかはごほり　黒川郡　陸前國の郡の名。
くろがつたい（名）　烏頭、くろきちいびやう、くみ、烏蘭。
くろがね（名）　鐵、鉄、てつ、鋼鐵、生鐵、熟鐵、鋼鐵の三品あり。
くろがねさり（名）　鏑夫、くろがねはり。
くろがねのはだ（名）　鐵膚、かぢくそ。
くろがねもち（名）　冬青の一種、ふくらしば（植物。
くろかげ（名）　烏蘿、黒鹿毛の馬を云ふ（動物）。
くろがき（名）　黒柿、濃褐木（器を作るに用ふる貴き木）（植物）。
くろかみ　黒髮、賢髮、くろきかみのけ。
くろかみやま　黒髮山　下野國河内郡と上野國群馬郡とに跨る山にて男體山と稱す。
くろがも（名）　黒鴨（動物）。
くろた　黒田氏。
くろたに　黒谷（飛彈國の地名）。
くろだね（名）　黒胤（書紀と云ふ）。
くろたま（名）　烏珠、くろきたま（眼の）。
くろたま　璧玉、くろこはく、琥珀。
くろたひ（名）　黒鯛、黎類魚、尤魚（動物）。
くろぞめ（形名）　黒染、くろくそめたる。
くろつぱら（名）　鼠李、なべかうじ、ぬはくろうめもどき（植物）。
くろつち（名）　黒土　黒色の肥えたる土。
くろづる（名）　陽鳥、つるのたぐひ、きぬかづき（動物）。
くろづく（名）　桃蟲子、づく（植物）。
くろつぐみ（名）　鶺鴒、とりの名（動物）。
くろなまず（名）　黒鯰（皮膚病にして黒點を生ずるもの）。
くろむらさき（名）　黒紫、こいむらさきのいろ。
くろむぎ（名）　蕎麥、そばむぎ。
ぐろう（する）（他）　愚弄、なぶる、あざける、ばかにする。
くろうど（名）　點檢者、考錄者、巧者、そのみちにあかるきひと、れれけものの、なれたるもの、十また粹人。
くろうま　黒馬、驪、くろきけのうま（動物）。
くろうめもどき（名）　鼠李、半錦子、くろつぱら（植物）。
くろうし　黒牛、極黒色の牛（動物）。
くろうしのうみ　黒牛海（紀伊國の海にて和歌に名高し）。
くろうんも（名）　黒雲母、くろききらら。
くろくは（名）　黒鍬、鋤役、鍬人（鋤鍬を執りて働く人）、十しごとし。

くろくわゐ（名）　烏芋、勃勃、發花、田烏芋、黒三稜、地栗（植物）。
くろくさ（名）　漏蘆、夾蒿、野蒯、鳥油麻、鬱蒿草（植物）。
くろくも　黒雲、鬱雲、陰、あつきくも、ときくも。
くろくもさり（名）　黒雲草、きくぶき（植物）。
くろやなぎ　畔柳氏。
くろやき（形名）　黒燒、くろくやける。
くろやき（名）　黒燒　物を火にて黒く蒸焼にしたるもの、蛇の黒燒などの如し、藥品として用ふ。
くろまだら（名）　黒斑、くろきぼつぼつ。
くろまつ（名）　黒松、をまつ（植物）。
くろまなこ（名）　黒睛、烏珠、漆瞳、くろめだま、くろめ。
くろまく（名）　黒幕　傀儡を使ふ者、拐が内に隱れて操縱の術を行ふ所。
くろまめ（名）　黒豆、烏豆、雄豆、櫨豆（植物）。
くろませる　令渥、くろくする（くろむ）の他動詞。
くろげらま（名）　驪馬、くろうま（動物）。
くろぶた（名）　火豚　炙する後に生ずるかきぶた。
くろぶだう（名）　烏葡萄、のぶだう（植物）。
くろふね（名）　黒船　外國船をいふ、西洋船。
くろふねちやう　黒船町　東京市淺草區の町。
くろと（名）　地耳、丘陵或は小樹下に生ずる黒色の菌（植物）。
くろどろも（名）　黒衣、緇衣、くろきもの（僧徒等の著る）。
くろとはく（名）　黒琥珀、璧、地松脂、くろきいろのこはく。
くろとがねむし（名）　蜣蜋　一種大にして長さ四五分のものを胡蜣蜋と云ふ（動物）。
くろごま（名）　黒胡麻、巨勝子（植物）、また其實。
くろごめ（名）　黒米、玄米、つかぬこめ。
くろあばた（名）　黒痘瘡、くろいも。
くろあめ（名）　膠牙飴、逢遇、のみさりあめ。
くろさはしりまち　黒澤尻町　陸中國和賀郡の町名。
くろざたう（名）　黒砂糖、黒糖、黒砂、紫沙糖、くろいろのさたう。
くろさきしま　黒岬島　對島國の島の名。
くろさき（形）　黒崎、玄、烏、黛、黝、緇、黝、湿、烏の如き色なるをいふ、十髹くろうるしぬりたる）。
くろき（名）　黒木　薪を云ふ、たきき、しば。
くろき　黒木氏。
くろきつね（名）　烏狐　北海道根室地方に產する動物。
くろきうり（名）　賣薪女　たきぎうるをんな（西京にて柴新を頭にのせて賣りあるく婦人、しばうりをんな。
くろきまち　黒木町　筑後國八女郡の町名。
くろきび（名）　秬黍　植物。
くろめ（名）　紆魚　筑後の方言、いな（動物）。
くろめ（名）　黒晴、くろめだま、くろまなこ。
くろめ（名）　鯢　動物。
くろめ（名）　滑鱁、あらめ、うみくき（植物）。
くろめだま（名）　黒睛、くろまなこ、くろめ。
くろむじ（名）　玄雀、すみやきあをじ（動物）。
くろし　黒白、くろきしろき、十烏鷺（碁子にいふ）、十善題、よきあしき。
くろしほ（名）　黒潮（南方熱帶地方の海より流れ來る潮流にして四國に沿ひ九州に至り其支流進みて日本海に入る、此潮潮あるが爲めに南方の人我に漂着し我國の水夫など又南米に流着せり又之を黒潮川と稱す、黒溝、東洋、滄海（以上三箇は支那名）、ラック、デッチ（英語名）。
くろしようま（名）　黒升麻、毛茛の一種（植物）。
くろしま　黒島　薩摩國及び琉球國に此名の島あり、また對馬國の島の名。
くろじゆす　黒繻子　織物の名。
くろえちやう　黒江町　東京市深川區の町。
くろえぬり（名）　黒江塗　一種の塗法。
くろび（名）　黒目、受死、太陰暗中段の國目の名。
くろびかり（名）　黒光、くろくひかるいろ。
くろひつじ（名）　黒羊、黒獸（動物）。
くろひら　黒平　甲斐國の地名。
くろひめざん　黒姫山（信州水内郡と越後の中頸城郡とに跨る山）。
くろもじ（名）　鈎樟、烏樟、くろもんじ、とりしば、きのな（植物）。
くろもじ（名）　小楊子、ちひさきやうじ、はをほじるやうじ、くろもじのはやうじ。
くろもんちやう　黒門町　東京市神田區の町。
くろもんじ（名）　烏樟（大和の方言、くろもじ）（植物）。
くろせがは（名）　黒瀬川（黒潮の一名なり、くろしほを見よ）。
くろせみ（名）　蚱蟬　東京の方言、あかせみ（動物）。
くろせんだん（名）　川楝、たうせんだん（植物）。
くろす（名）　黒酢（昆布を火にてあぶり、能くもみて細かに擂り酢にてときたるもの）。
ゾロス（名）　庖（英語にして十二ダースをいふ）。

くろするしやう（名）黒水晶　寶石の名。
くろすげ（名）黒菅　植物。
くろすけいなり（名）九郎助稲荷　昔し江戸吉原新町に在りし有名の宮也。
ぐろん　愚論、おろかなるろん。
くろんぼ（名）黒奴、黒人、崑崙兒、黒鑾奴、天竺亜非利加等に住む色黒き人。
くろんぼう（名）黎奴、むぎのくろぼ。
くろんぼう（名）木狗　形は搗林狗に似て色は深黒なり足は鍵かにして能く木に上り又壁に上る）（動物。
くは（名）鍬、鋤、鍬農具。
くは（名）桑、かひこをやしなふき植物。
くばいゐん（名）駆國院　協藩をなはす病院。
くははる（自）加、う（にのる、ふえる、ます。
くはばら　桑原氏。
くはにんじん（名）黄花菜　植物。
くはへる（他）加、増加、添加、加尅、追加、増補、そへる、ます、つけそへる。
くはへる（他）咽、咥、嚙、くちにふくむ。
くはざるをんな　桑殘、くはつむをんな、十かひこするをんな。
くはざるむら　桑富村　三河國寶飯郡の村名。
くばる（自）按穀、穀をける、ひにいる入火。
くばる（他）配、賦、配布、配賦、分配、分賦、わりわたす、十賦課、わりつける。
くはたり　桑折　昔代國の地名、土俗、とうり、と訛る。
くはがた（名）鍬形、九萬形、鍬形　昔し大將が戴きたる兜の上に設けたる飾物の名。

くはがたむし（名）鹿角蟲、むしのな動物。
くはがたざり（名）鍬形草、丹參　植物。
くはがさきまち　鍬ヶ崎町　陸中國下閉伊郡の町名。
くはたけ（名）桑耳、桑菌　植物。
くはたごほり　桑田郡　丹波國の郡の名。
くはたてる（他）金、もくろむ、たくむ、はかる。
くはつみ（名）桑摘、きのな　植物。
くはなまち　桑名町　伊勢國桑名郡の町名。
くはむし（名）蠶、かひこ、おこさま（動物）。
くはら（名）苦鉄、にがひきご（植物）。
くばり（名）公方　將軍を常に然か呼べり。
くばりけ（名）公方家　將軍家を然か呼べり。
くはのかど（名）桑門、佛門、佛道、のりのみち。
くはのき（名）桑　蠶を養ふべき樹（植物）。
くはのゆみよもぎのや　桑弓蓬矢、追儺の時などに悪魔を攘ふために射る弓矢。
くはのみ　桑椹　桑の實なり。
くはく（名）琥珀、こはく玉の名。
くはく（名）猩猴、なでしこ、かはらなでしこ、ぎなでしこ、とこなつ　植物。
くはやま　桑山氏。
くはまゆ（名）繭、まゆ（かひこのす）。
くはこ（名）桑兒、蠶、かひこ、おこさま（動物）。
くはざいく（名）桑細工　桑にて造れる器物。
くはざいく（名）桑樣酒　桑の實にて作れる酒、丹波國八木の名産。
くはさりぼん（名）霞桑綻、くはをさざわまない た。
くはしく（副）委敷、精細、こまかに（くはしきを見上）。
くはしき（形）委、精密、緻密、詳悉、詳細、委細、委曲、こまかき、つぶさ。
くはしき（形）精、精巧、たくみ、あきらか。
くはしめ（名）美女、うつくしきをんな。
ぐはひ（名）恰好、かつかう、ものごとのをりあひ。
くはせる（他）含、くちはせる、たべさせる、十あたへる。
くはずいも（名）野芋　植物。
くはずきらひ　不食嫌　其味を知らずして嫌ふ。
くに（名）國、郡、州、城（人民の住する一區域の地をいふ）。
くに　郡仁　聖武天皇の都したまひたる地にして山城國の相樂郡に在り。
くにいみ（名）國忌、こくき　天子の喪をいふ。
くにさり（俗）（名）國君、諸侯、くにのきみ。
くにさとたちのみとさ（名）國常立尊　天神七代の第一の神。
くにさも　國友氏。
くにが（形）陸くが、りくろ。
くにかかす　國懸　國懸神社は紀伊國那賀郡にある官幣大社。
くにがた（名）地形、とちのきま、くにのもやう。
くにつ（形）國津、國之、くにの。
くにつかみ（名）地祇、地神、國神、くにのかみ（地上に住せし神をいふ）。
くにつやしろ（名）國社、こくへいしや　官幣社。
くにつもの（名）方物、國産、土毛、くにぐにのきんぶつ。
くにのはは（名）國母、こくも。

くにのれや（名）國寶、天子、みかど。
くにのかみ　國守、州牧、くにのつかさ、知事。
くにのつかさ（名）國司、知事（くにのかみに同じ）。
くにのうち　國内、宇内、邦内、域内。
くにのみやつこ（名）國造　上古地方を治めたる世襲の官にて其區域は後の郡程なり、始めて其名を命ぜられたるは神武天皇の第二年に見ゆ。
くにのみやこ　帝仁都（山城國相樂郡にて聖武天皇皇居の地をいふ。
くにくづし（名）國崩、破城槌、しろくづし（大槌にて石垣を崩すもの）。
くにくのけい　苦肉計、なかまわれさするはかりごと。
くにやしき（名）國邸（幕府時代に大名がその本領の國に設けし邸宅。
くにふ（俗）（名）口入、斡入、中保、仲媒、くちいれ、けいあん。
くにぶみ（名）國書、こくし　上古昔くにのつかさよりみづぎものに捺へて奉るふみ）。
くにことば（名）國語　一國の言語をいふ。
くにざかひ（名）國境、國界、封境、くにのはて。
くにさだ　國貞氏。
くにさつちのみとさ　國狹槌尊　天神七代の第三の陽神。
くにみたらげ　國見嶽　羽後國仙北郡弁に陸中國岐手郡に跨る山。
くにしま　國島氏。
くにえだ　國枝氏。
くにひろ　國弘氏。
くにもの（俗）（名）國香、おなかもの。

ぐにん（名）愚人、おろかびと、ばかもの。
くぼ（名）陰門、をんなのまへ（かまへ）。
くぼ（名形）窪、ひくきところ、十ひくき、おちいりたる。
くぼ　久保、窪氏。
ぐぼ（名）鳳母、はぐり、おはあれのしるし。
くぼち（名）窪地、ひくきとち。
くぼちやう　久保町　東京市芝區櫻田の名。
くぼた　久保田、窪田氏。
くぼたまり（名）窪處、くぼみ、くぼきところ、十坳、へこみ、凹。
くぼやかに（副）窪、くぼみて、なかびくに。
くぼまる（自）窪、蹲、ひくくなる、かがまる、くぐむ。
くぼまなこ　窪眼、暗、凹眼、くぼめ、ひくきめ。
ぐほふ　弘法、のりをひろめる（宗教を世に弘むるをいふ）。
ぐほふ　衆法、のりをもとむる（佛法を求むる）。
くぼさ（名）利潤、まうけ、りえき、益。
くぼさよ（名）狗母魚、えそ（動物）。
くぼめけづる　刳刻、木を刳めて丹を鑄り木を刻りて模を鑄るをいふ。
くぼみ（名）窪、凹、坳、窩、陷凹、凹處、ひくきところ、へこみ。
くぼんのじやうど　九品淨土　上品上生、上品中生、上品下生、中品上生、中品中生、中品下生、下品上生、下品中生、下品下生にして佛教にいふ極樂の差等なり。
くぼんのじやうせつ　九品淨刹（九品淨土を見上）。
くべ（名）鞭、かきねえ、まがき。

くべる（他）純、焚火に、もやす、たく。
くべつ（名）—する（他）區別、けじめ、わかち、わける、わかつ。
くへんたらする（名）苦鬱桃水　顯品。
くど（名）竈、かまど、へつつい。
くど（名）曲突、かまのあく、十へつつい。
くどほどほり　久遠郡　後志國の郡の名。
ぐどつく（俗）（自）嗚咨、ぐぐぐついふ、つぶやく。
くどう（名）句讀、くぎり、よみきり　文章の一句一句の差別を云ふ、句は「。」、讀は「、」を用ひてしるしとす。
くどうてん（名）句讀點、よみきりじるし　文章の。
くどうし（名）句讀師　漢文の教師を然かいへり。
くどく（名）功德、こうとく、てがら、よきわざ。
くどく（俗）（他）口說、述說、喋、ときすすめる、いひ、いひよる　女に「十又はなす、ものいふ（字治拾遺物語に橫座の鬼の鼎にねりいでて口說くと見ゆ）。
くどくいう（名）苦曾嘔、わうどん　植物。
くどくど（俗）（副）嘀嘀、訥訥、こやかましく、くりかへりくりかへし。
くどくしゆ（名）功德主、だんな、施主。
くどさん　九度山　紀伊國伊都郡に在る山。
くどきれさす（俗）（他）口說、説、ときつける、てにいれる女を。
ぐどん　瞿曇釋迦の姓、ガウタマ。
ぐどん（形）愚鈍、おろか、ばか。
ぐどんしや（名）愚鈍者、おろかもの、ばかもの。
くち（する（自）驅馳、かける、はせる馬にて。

くち（名）口、玉池、飲食し且つ物言ひ或は唇を出す機関。

ぐち（形名）愚痴、おろか、おろかさ。

くちいはひ（名）口臭、正月目出度き物を食ふことを口臭なりなど云ふ。

くちいれ（俗）（名）口入、なかだち、ひいあん（くちにふを見よ）。

くちば（名）朽葉、くされば（樹の）。

くちばいろ（名）朽葉色、くさればのいろ。

くちはにかかる　掛口端、そしらるる、十わるくいはるる。

くちばた（名）口端、くちのはた、くちのまはり、十くちびる。

くちばたのできもの　口物瘡（「あくち」を見よ）。

くちばやし（形）速口（ものいひのはやきを云ふ）。

くちはてる（自）朽果、くさりきる。

くちばみ（名）蛇、蝮、へび、おろち、うはばみ（動物）。

くちばし（名）嘴、嘴、喙、はし（鳥の）、十又くち。

くちばしる（自）口走、發言、うつかりいふ。

くちべに（名）口紅、くちびるにつけるべに。

くちさり（名）口取、茶食、茶點、點心（料理の名、雛鉾、きんとんになどをつけあはせたる皿を云ふ）。

くちざり（名）壺卒、擦馬卒、べったう（馬の）。

くちざめ（名）口止、封口、封舌、禁舌（人に語るを禁ずること）。

くちりとり（俗）（形）口利口、巧言、くちたつしや、いひはしのうまい。

くちぬき（名）栓鑽、枳鑽、せんぬき（瓶の）。

くちる（自）朽、くつる、くさる（木等が）。

くちれそき（形）喃辯、ことばのぬるきを云ふ。

くちをきく（形動）利口、くちのたつしやなる、ざろんができる、十發言、ものをいふ。

くちをしき（形）口惜、遺恨、遺憾、殘恨、殘憾、くやしき、ざんねんなる。

くちをもらふ（俗）餌口於人、寄食人の家に養はるるをいふ。

くちれもき（形）口重、ものかずいはぬを云ふ、むくち。

くちをすふ　吸口、接吻、唇口、親嘴（口と口とを合はする）。

くちわき（名）口分、ぶわけ、しなわけ、分類。

くちわき（名）吻口の開端、口角。

くちかるき（形）口輕、くちばや、よくはなす。

くちがき（名）口書、口供（こうきよう、訊問、供詞、供狀、裁判所にて筆記せし原稿の申し立て書）。

くちがしこき（形）口達、辯口、辯舌、くちのたつしやなる、くちりこう。

くちよはふ（名）驅除法、害蟲などを除く法。

くちよ（「する」（他）驅除、おひはらふ（害蟲などを）。

くちよく（形）愚直、ばかしやうぢき、おろかになほき。

くちよどし（名）口污（少しばかり物を食ふを俗に然か云ふ、蓋し只口を污すのみにて腹に滿たぬといふ義なり）。

くちよせ（名）遺鬼術、扶壁居ちぬ人の言を問ふの占卜、十また遺鬼者、くちよせするもの。

くちたたく（俗）（自）多言、しやべる、喋喋。

くちそそぐ（自）嗽、漱、漱、くちあらふ、うがひする。

くちづから（副）口自、自分の口にて。

くちつたへ（名）口傳、くでん、ことばを以て傳へること。

くちつけ（名）接吻、接脣、親嘴、くちすふこと、外國の經法。

くちつき（名）口際、くちもと、くちのやうす。

くちつき（名）口附、くちとり（牛馬等の）。

くちなは（名）蛇、くちばみ、（びゝ動物）。

くちなはいちご（名）蛇苺、地苺、（びいちご植物）。

くちならす（他）口習（口癖の如く平素いひならはすを云ふ）。

くちなぐさみ（名）口慰（口の退屈を慰むる爲に話し等すること）。

くちなめすり（名）舌爻、したにてなみまはすこと、犬等が食後に）。

くちなし（名）山梔、巵子、實梔花、越桃、鮮支、林檎、玉殘、瓊（植物）。

くぢら（名）鯨（この發音のものは凡て「くじら」として出だせり、其條を見よ）。

くちち（名）苦裏、くるしきこころ。

くちち（名）宮中、禁裡、おほうち、きうちう。

ぐちち（名）愚裏、わがこころ、我裏心。

ぐちち（名）愚思、おろかにまめまめしきこと。

ぐちち（名）馬中、昔の時刻にて午前の巳の時を然か云ふ、十二時の下を見よ。

くちりやく（名）驅蟲藥、むしころし、むしゐひぐすり。

くちりざい（名）驅蟲劑、むしゐひぐすり、むしころし。

くちのは（名）口端、齒牙、うわさ、ことば、風評。

くちくかん（名）驅逐艦、敵の水雷艇を驅逐する艦、水雷驅逐艦。

くちのと（名）口籠、くつご（牛馬の口にかくる籠を云ふ）。

くちく（名）鞠竹、竹馬に同じ。

くちく（「する」（他）驅逐、かる、おふ、おひはらふ。

くちく（名）苦竹、かはたけ、くれたけ、まだけ、はちく、こまだけ（植物）。

くちぐちに（副）口口、皆皆口を開きて、てんでに。

くちぐるま（名）口車（人の甘き言を云ふ、口車にのるなどいふ、うまきことば）。

くちぐせ（名）口癖、いひなれ、いひなちひ。

くちぐすり（名）口藥、線藥、細火藥、鐵砲の火口に入るる火藥。

くちぐすりいれ（名）鍋鼈（昔し鐵砲の口藥を容れし器）。

くちやかましき（俗）（形）喋賀、斧鳶、しかりちらす、こどをいふ。

くちやち（名）區長、都會にて一區の長たる人。

くちまい（俗）（名）口米（俵より米斗にてさして見本に取る米）。

くちまね（名）口眞似、學舌（人の言語の如く眞似て言ふこと）。

くちまめ（形）饒舌、弄喋、長舌、弄辯、おしやべり、多言。

くちぶえ（名）口笛、口笛（口にて出す笛の如き音）、うそふき。

くちどたへ（名）口答、反口、口答、口ひかへし。

くちとりしや（俗）（形）口巧者、くちまめ、くちりこう。

くちどもる（自）口瞿、口澁、十ことばつかへる、訥。

くちあけ（俗）（名）口開、うりはじめ、うりそめ、十しはじめ。

くちあみ（名）口網（「ひきあみ」の類）。

くちさがねき（形）不雷口、くちをつつしまぬ、不側口。

くちさきさら（名）嘴、吻口角、くちのさき、くちばし、十くちびる。

くちき（名）朽木、腐木、くされぎ。

くちき（名）漆子、ろろつぶ、栓（瓶等の口を塞ぐもの）。

くちきたなき（形）口汚、おしきことばをはく、十又ものくひたがる。

くちきたけ（名）朽木茸、きのこのたぐひ（植物）。

くちきれい（俗）（形）口奇麗（過ありながら舞きが如くに奇麗に物をいふ）。

くちきのはし　朽木橋（陸奥國にありし橋にて和歌に名高きもの）。

くちきのき（名）漆子樹、せんのき、ろろつぶのき（植物）。

くちきき（俗）（形名）口利、巧言、辯口、くちだつしや、くちりこう。

くちゆがむ　禍、口歪、喎、蝸斜、喎僻、くちまがる。

くちめ（名）和琴、大和琴、やまとごと。

くちじほ（名）口鹽（口より鹽をいれて魚を漬けるをいふ、又口もとに少しく鹽をふるをいふ）。

くちゑ（名）口實、口繪（海藻の衣紙の處に掲げたる圖畫）。

くちゑぼし（名）口島帽子（陸奥國にて製する一種の帽子）。

くちびる（名）脣、紅脣（口の上下の覆）。

くちびなは（名）口火繩、鐵砲の口へ火をうつす火繩。

くちびぎを（名）雙砲竿（鐵砲等の口火をうつす竿）。

くちびび（名）口唇、くちばたのひび、くちびるのできもの（口の邊に發する細きふきでもの）。

くちもと（名）口元、口本、吻、くちのそば、十又いりくち。

くちもらふ（自）餌、もちひぐひする（くちをもちふ）を見よ。

くちせん（俗）（名）口錢、こうせん、くちいれのまうけぜに。

くちすぐし（名）糊口（「くちすぎ」に同じ）。

くちすふ（自）合吻、接吻、合唇、くちをあはする、親嘴、接脣。

くちずさむ或くちずさぶ（自）口誦、口吟、そぞろにいふ、くちくせにいふ、十口頻、いひはやす、いひのべしる（次の文字を見よ）。

くちずさみ或くちずさび（名）口誦、口吟、口遊、口頻、吟唄（己れの好む文字または思ふ所などを坐ろに口に擧げて獨り言ふこと、また人の是非評判などを口に言ひはやすこと）。

くちすぎ（名）糊口、生活、よすぎ、生計、活計（くわつけい）。

くり（名）栗、くりのき（植物）及び其果。

くり（名）車裏、寺殿、香積殿、庫院、食堂、寺院の內なる僧の居處をいふ、てらのだいどころ。

くり(名) 涅、水中の黑土、くろどろ。
くり(名) 鬚、鬚絲等のかたいと。
くりいろ 栗色、色、くりのかはのいろ、あめいろ、鼠色、黃と黑との間色。
くりいれる(他) 繰入、くりこまする(兵士等を、十くりまはす(金子等を。
ぐりいきけう(名) 希臘教、歐西亞派の耶蘇教。
くりいし(名) 栗石、わりぐり、わりたるいし、磊山、十いしころ、こいし。
くりいも(名) 栗薯預、薩摩芋の水氣少なくして栗の如くなる者を俗に然か呼ぶかり、倘は「みづいもを參看せよ。
くりはち(名) 栗鉢、昔し茶事に用ゐし道具の名。
くりばら 栗原氏、また陸奥國の地名。
くりはらどほり 栗原郡、陸前國の郡の名。
くりはしまち 栗橋町、武藏國北葛飾郡の町名。
くりる 古里利、北海道の千島の總名。
くりわた(名) 繰綿、綿の實を去りて未だ彈たざるもの。
くりわたし(名) 紡車、いとをとるわく。
くりわく(名) 紡車、いとをとるわく。
くりかは(名) 鳥革、くろきかは。
くりかはちや(名) 繰茶、栗皮茶、染色の色。
くりかへる(他) 繰返、とりかへもちふる、轉寢、流用、轉用、換用、十くりかへす、反覆。
くりかへしどさ 諺諺言、慢言、くりごと、かさねごと。
くりかへす(他) 繰返、反覆、かさねていふ。
くりかた(名) 栗形、刀室の飾。
くりからだに 栗殼谷、氏。

くりからたらげ 栗殼峠(或は倶利加羅に作る、加賀國河北郡と越中國礪波郡とに跨る山)。
くりがんな(名) 曲鉋、刳鉋、くりぬくかんな。
くりよ(する)(自) 苦屬、しんぱいする、おもひわづらふ。
くりたけ(名) 栗蕈、栗樹茸、栗茸、植物。
くりたす(名) 繰出、すすめいだす(兵士等を)。
くりぞめ(名) 皂染、くろきそめいろ。
くりうめ(名) 栗梅、衣服の染色の名。
くりのいが 栗毬、栗房、栗刺、毛毬、くりのとげ。
くりのかは 栗殼、栗の實の皮。
くりのき(名) 栗櫪、くり、植物。
くりのしぶかは 栗荏、莢、栗の實の中に在るしぶき皮。
ぐりぐり(俗)(名) 結核、かたまり(身體中の)。
くりくりした(俗)(自) 豐滿、まるくふとりたる(人の面などに云ふ)。
くりくまやま 栗隈山、山城國久世郡に在る山、栗籠山とも書す。
くりや(名) 廚、廚房、だいどころ、れうりばや。
くりやがは 厨川、陸中國盛手郡に在る古來有名の川、また舊跡。
くりやま 栗山氏。
くりやしどさ 厨工、だいどこわざ、みづしわざ。
くりやびと(名) 厨人、料理人、割烹人、れうりばん、みづしをとこ。
くりげうま(名) 栗毛馬、騮、鬣馬、騮、動物。
くりふ 栗生氏。
くりふみなさ 繰言、諺言、くりかへしごと、反覆言同じ言をくり反していふ。
くりとまやま 栗駒山(陸前栗原郡と陸中西磐井郡と羽後雄勝郡とに跨る山、實川岳(すかはだけ)とも、駒岳(こまがたけ)とも呼ぶ。
くりとめち(名) 栗櫛、栗にて造れる櫛子。
くりあはせる(他) 繰合、くりまはす、十やりくりする。
くりあげる(他) 繰上、うへへあげる。
くりき(名) 功力、ちから、くどく。
くりびき(名) 轉退、回退(兵士が順順に引き退くをいふ。
くりもど 栗本氏。
くりん(名) 九輪塔の上に置く蠟形物にて其樣ける數九つ有り、上刹、相輪。
くりんさう(名) 九輪草、空輪草、しちぢゆうさう、族節草、寶珠花、山萬苣、植物。
くりんゆきふで(名) 九輪雪筆、植物。
くぬが(名) 陸地、りくち(くがを見よ)。
くぬぎ(名) 櫪木、鉢羅樹、とちまき、くのぎ、植物。
くる(他) 繰、いとをとる。
くる(名) 刹、刹、くじりとる。
くる(自) 來、到來、來著、きたる。
くる(形) 僅僕、くぐせ、せわし、せかがめる。
ぐる(名) 仲間、同腹、共謀するをいふ。
くるり(名) 連枷、穀を打つ具、まひぎれ。
くるり(名) 燒、支矢、水の鳥を射る矢。

ぐるり(名) 周、まはり、周圍、四面、四方。
くるりと(副) 旋然、めぐる樣。

くるりかいけふ(名) 久留利海峽、カムチャツカに對する處。
くるりまち 久留里町、上總國君津郡の町名。
くるる(名) 福機、くろろ戸の軸の轉ずる處。
くるるど(名) 福戸、まはしど。
くるわ(名) 花苑、樂陌、遊里、狹斜、遊郭、いろまち、いろざと。
くるわ(名) 郭、曲輪城のそとまはりを云ふ。
くるわひきやく(名) 郭飛脚、ふみつかひ。
くるつひ(名) 來日、明日、あした、あす(くるひに同じ。
くるむ(他) 包括、つつむ、かぶせる。
くるくる(副) 宛轉、旋旋、旋轉、くるりくるり回る樣。
くるくさ(名) 大黃、はとくさ、植物。
くるま(名) 車、地雷、輪にて進む器械。
くるまいす(名) 輪椅脚下に輪の附きたる椅子。
くるまばな(名) 風輪菜、植物。
くるまべや(名) 車房、馬車房、車を入れ置く處。
くるまへび(名) 背鰐、へびのなし、動物。
くるまどめ(名) 車止、車の入るを禁ずること。
くるまめ(名) 車機、わどけ、輪鼎、十また鞦、くるまのとめぎ。
くるまどんぼ(名) 鉄鑿(土佐の方言、てふとんぼ、動物。
くるまちやう 車町、東京市芝區の町名。
くるまかへし(名) 車返、中輪八重一重の咲き分けの櫻、植物。
くるまがかり(名) 車懸、戰鬪に兵を進むる一法、十先番に勝ちたるものに新手の代る代るにかかること、角力劍術等にて。
くるまがひ(名) 車螺、石蛇の殼、かひのな、動物。
くるまよせ(名) 車寄、宮殿の玄關をいふ、此處に車をよせて上下するが故なり。
くるまだいく(名) 車工、輪人、車を作る人。
くるまぞひ(名) 車回、徒輦、主輦、天子の御車を御する人。
くるまつかひ(名) 車房、車匠、くるまがし。
くるまのどう 轅、車箱、車上の坐する處にして車輦を置く所。
くるまのさと 初、車輦の運行を止むる具。
くるまのさめぎ
くるまのさじきみ 軾、車の前のよりかかる橫木、扶手板。
くるまのぢく 車軸、くるまのしんぼう、よとがみ。
くるまのわ 車輪、輪車が由りてまはる具。
くるまのわぶち 車輞、くるまのわのまはりのかね。
くるまのかりも 釭、車の轂中の鐵環。
くるまのよとがみ 車軸、軌車の心樣。
くるまのながえ 轅、轅馬車の兩方の長き樣。
くるまのや 輞、輪、輪を張り持つ所の多くのちひさき樣。
くるまのやかた 車蓋、くるまのふほひ、くろまのやね。
くるまのことぢ 轄、車の後の橫木。
くるまのとしき 轂、車輪の心軸を受くる處。
くるまのあぶら 軍脂、くるまにさすあぶら。
くるまのしさね 車臀、輞、車のとこのふとん。
くるまのしぢ 車踏、車の長柄を支へ持たする臺、車床。
くるまのしぢもち 持踏者、くるまのしぢをもつひと。
くるまぐさ(名) 曾鬱、豐後の方言、はみ、をどりこさう植物。
くるまざ(名) 輪坐、國坐、圓坐、團欒、まるくすわると。
くるまざかちやう 車振町、東京市下谷區の町。
くるまざき(名) 車裂、支那にて用ひし所の刑にて人を車に乘せて裂くこと、轘。
くるまき(名) 鈒車、輕輦、ききろくろ、しやち。
くるまゆり(名) 車百合、ゆりのたぐひ、植物。
くるまじかけ(形名) 輪裝、わじかけ(時計の中の如く車輪を多く合せて機成せるをいふ)。
くるまえび(名) 斑節蝦、えびのな、植物。
くるまひき(名) 車夫、車力、挽車、くるまひくもの、十人力車夫、じんりきひき。
くるふ(自) 狂、きがちがふ、十違、まちがふ。
くるぶし(名) 踝、つきぶし、つぶねき(足頸の傍の高き骨、脚踝。
くるめる(他) 包括、つつむ、くるむ、十又だます、あざむく。
くるめむら 久留米村、武藏國北多摩郡の村名。
くるめく(自) 眩、蠱、眩、まふ(目が)。
くるめし 久留米市、筑後國の都會。
くるみ(名) 胡桃、宛耨、核桃、たうぐるみ、てふせんぐるみ、植物。
くるみ 來海氏。
くるみどうふ(名) 胡桃豆腐、胡桃と葛粉とを豆腐の如く造りたるもの。
くるみわり(名) 胡桃鉗、胡味を壞りて實を出す器。

くるみわた（名）　容錦（錦錦の中にくるみて著物にいるる木綿）。

くるみもち（名）　胡桃餅（胡桃に米の粉と白砂糖と味噌とをまぜて蒸し餅につきたるもの）。

くるしむ（自）　苦、困苦、困窮、困厄、困難、苦悩、苦患、苦慮、苦難、苦艱、苦銀、苦楚、苦鍵、せつない、なやましき、にがにがしき。

くるしめる（他）　令苦、くるしみをあたへる、なやます。

くるひ（名）　歪、ゆがみ、まかり、そり。

くるひびさ（名）　狂人、きちがひ。

くるす　來栗氏。

くるすの　栗栖野・城州宇治郡の地名、和歌に名高し。

くわ（名）、—する（他自）　化、變化、かはり、かはらせる、かはる、なる。

くわ（名）、—する（自他）　和、やわらぎ、なだやかさ、平和、十やはらぐ、したしむ、十まじる、まぜる。

くわ［する］（他）　課、わりつける、十いひつける（租税などを）。

ぐわ（名）　糞、ふる山水人物等の形を書けるもの。

くわい（名）　回、たび（一たび二たび）。

くわる（名）　火熨、ひのし衣服の皺を伸す具）。

くわい（名）、—する（自他）　食、よりあひ、あつまり、あつまる、あつめる。

くわい　華夷支那と夷狄とをいふ。

くわい　慈姑、水芋、白地栗、荸薺、烏芋植物）。

くわる（名）　外、ほか、そと。

ぐわい（名）　瓦衣、かはらごけ（植物）。

ぐわる（名）　瓦蕊、のきしのぶ、丹創（植物）。

くわいい（形名）　快異、あやしき、けしからぬ、あやしき、ふしぎ。

くわいい（名）　會巡門、口等の字の如く意味を形象にて書きあらはすをいふ。

くわいる（形）　怒憤、あやしきまでにむはいなる。

くわいる（形）　蒼罰、しげる、むひしげる、十さかんなる。

くわいる［する］（自）　乘邊、乘戻、乘反、そむく、そむきもとる。

ぐわい（名）　外奥、ゑびす、夷狄。

ぐわいい（名）　外衣、そとぎぬ、うはぎ。

ぐわいいう　快遊、ことよきあそび。

くわいいのもんじ　會意文字（會意を見よ）。

くわいいん［する］　會飲、よりあひてのむ（酒を）。

くわいいん（名）　會陰、ありのとわたり、ゐいん（前陰と後陰の間の部をいふ）。

くわいるん（名）　會員、くみのひと、なかま。

くわいろ（名）　懐爐、火を入れて懐に抱きて體を温むる器。

くわいろはひ（名）　懐爐灰、くわいろにいるるはひ。

くわいろう（形）　穢膿、むさい、きたなき。

くわいろう（名）　職墓、つんぼ、みみしひ。

くわいろく（名）　回祿（火災をいふ）祝融の災、わし。

くわいろくじん（名）　回祿神（火事の神）。

くわいはい（自）　懐敗、やぶれる、つひえる。

くわいはい［する］（自）　潰敗、つひえやぶるる。

くわいはう［する］（他）　懐抱、いだく、だく、ふところにいれる。

くわいはう（名）　回報、かへりごと、返答、（んじ。

くわいはく（名）　檜柏、いぶき、びやくしん（植物）。

くわいはん（名）、—する（自）　乘反、そわく、もとる。

くわいにん（名）、—する（自）　懐妊、みもち、みごもり、懐孕、懐胎、懐身、はらむ。

くわいほ　快歩、はやあるき。

くわいへい（名）　怒兵、さきがけのつはもの。

くわいへう（名）　回廊、つむじかぜ、旋風、つちかぜ、まひかぜ。

くわいどう（名）　會員、くみのかしら。

くわいどう　回頭、かうべをめぐらす。

くわいどう［する］（自）　會同、よりあふ、よりあつまる、蒼蒼。

くわいどく［する］（他）　會得（ゑとく）、ところえる、のみこむ。

くわいどく［する］　會讀、よりあひてよむ。

ぐわいちう（名）　懐中、外待、げくわ。

ぐわいちう（名）　懐中、ふところ。

くわいちう（名）　鉈墓、鮪墓、はちのもし（動物）。

くわいちうどけい　懐中時計、そでどけい、たもとどけい（懐中に携ふる小時辰儀をいふ、懐頭表）。

くわいちうもの　懐中物、ふところのもの。

くわいちうすずり（名）　懐中硯、ふところすずり（携帯せらるる硯箱）。

くわいちやう（名）　廻腸、腸に當て左に廻る十六曲の腸の名。

くわいちやう　會長、くみのかしら、會頭。

くわいり（名）　回禮、回鶻（書翰の返書を云ふ）。

くわいりき　怪力、つよきちから、大力。

くわいりん（名）　回鶻（書翰の返書を云ふ）。

くわいを（形）　穢汚、よごれたる、きたなき、けがれたる。

くわいわ（名）　會話、會談、あひむかひばなし、はなしあひ。

くわいか（名）　槐夏（太陰暦四月の異名）。

くわいが［する］（他）　怪戯、いぶかる。

くわいかい（名）　諧謔、おどけ、とぼけ、たはふれ、とぼけ。

ぐわいかい（名）　外海、そとうみ、外洋大洋をいふ。

くわゐかばやき（名）　慈姑雁燒（慈姑を搖りて圓餅粉を少しまぜ淺草海苔にのべ油にて揚げ雁燒にしたるもの）。

くわいかう（名）　茴香、うゐきやう、くれのあも（植物）。

ぐわいかう（名）　外交、外國との交際。

ぐわいがう（名）　外鑿、そとぼり（城外の）。

ぐわいかうか（自）　外交家（外交の道又は外交の術に精しき人）。

くわいかく［する］（自）　乖角、そむく、もとる。

くわいかふ（名）　魁蛤、あかがひ（動物）。

くわいがふ（名）、—する（自）　會合、よりあひ、よりあふ。

くわいかきん（名）　會下金、ゑげかき（禪家にて用ふる金）。

くわいかん［する］（他）　回看、かへりみる、ふりかへりみる、回顧。

くわいより（名）、—する（他）　懐孕（くわいにんを見よ）、はらむ。

ぐわいより　外用、そとにもちひる藥にいふ。

ぐわいよく（名）　外欲（外物を得んと欲する感心）。

くわいたい（名他）　懐胎（くわいにんを見よ）。

くわいたつ（形）（名）　回達、まはしぶみ、回文。

くわいたり（形）　憤闘、さわがしき、せくせくする。

くわいたう（名）　脇刀、さしみばちもう。

ぐわいたう（名）　外套、はおり、うはばれり。

くわいたふ（名）、—する（自）　回答、こたへ（こたへる）。

くわいたん（名）　會單、瀧草、かはせてがた（支那の語）。

くわいたん（名）　怪誕、あやしきこと、あやしさ。

くわいだん（名）　會談、よりあひばなし。

くわいれい［する］（自）　乘戻、そむきもとる。

くわいれう［する］（自）　回綾、めぐる、まはる。

くわいそ（名）　偕組、けいあん、くちいれ。

ぐわいそ（名）　外祖母の父母、ははかたのおほぢ。

ぐわいそぼ（名）　外祖母、ははかたのばば。

くわいそう［する］（自）　潰走、つひえにげる。

ぐわいぞく（名）　外族、ははかたのしんるゐ。

ぐわいそふ（名）　外祖父母の父をいふ。

ぐわいそん（名）　外孫（己の女子が他に嫁して生めるる子女をいふ、たゐやうのまご、むすめのこ。

くわゐづる（名）　島芋、くろぐわゐ（植物）。

くわいぬん［する］（自）　懐念、おもふ、かんがへる。

くわいらい（名）　傀儡、くぐつ、でく、あやつりにんぎやう、でくのぼう、しばゐにんぎやう。

くわいらいぢよ（名）　傀儡女、くぐつめ、にんぎやうつかひのをんな。

くわいらいぢやう（名）　傀儡場、にんぎやうつかひば。

くわいらいしき（名）　傀儡戯、にんぎやうしばゐ、でくつかひわざ。

くわいらいし（名）　傀儡子、にんぎやうつかひ、くぐつかひ（人形を生けるが如く遣ふ藝人）。

くわいらいし（名）　傀儡師（前に同じ）、にんぎやうつかひ、くぐつかひ。

くわいらう（名）　回廊、めぐりはそどの（寺院殿堂等に設けたる細くして回りわたれる建物）、廻廊。

くわいらく（名）　快樂、たのしみ、ことよき。

くわいらん（名）　回鑾、さとがへり（離せし女が禮と借に父母をみまふをいふ）。

くわいらん（名）　回鑾（天子の還幸をいふ、還御）。

くわいらん［する］（自）　憤亂、ことみだれる、もめひまどふ。

くわいらん［する］　回覽、みめぐる、よみめぐる（六八部集）。

ぐわいむ（名）　外務外國に關したる總べての事務をいふ。

ぐわいむだいじん（名）　外務大臣（外務省の長官）。

ぐわいむしやう（名）　外務省（外國に關したる事務を執り行ふ官署）。

ぐわいくわ（名）　外科、げくわ（身體の外部の療治をいふ）。

くわいぐわ（名）　繪畫、ゑ（山水人物等の形を寫けるもの）。

くわいくわい［する］（自）　壞潰、やぶれつひえる。

くわいくわい（形副）　恢恢、あはいなる、ひろき

（天鵝絨々など云ふ）。

くわいくわいべい（名）回回米、ずずだま、十ずずだまのみ、蕃豆（よくい）の下を見るべし。

くわいくわいべいさう（名）回回米草、ずずだま（よくい）の下を見よ。植物。

くわいくわいそう（名）回回蒜、あさつき。植物。

くわいくわいさん（名）回回蔡、きつねのぼたん。植物。

くわいくわいけう（名）回回教、フキフキけう、マホメット教、回教。

くわいくわいしよく（名）回回織、もうるもり。

くわいくわつ（形）快活、こころよき、くわつぱつ、いきいきしたる、はきはきしたる、活潑。

くわいくわく（形副）恢廓、ひろちか、ひろびろしたる、おほいなる。

ぐわいくわく（名）外郭、そとぐるわ、そとがまの。城等の。

くわいくわん（名）會館（集會の爲めに設けたるい）。

ぐわいくわん　外觀、そとのみえ、うはつち、みえ、外面、外邊。

ぐわいくわん　外患、そとのうれ（外國より來る災害）、そとのわざはひ。

くわいくわんくわはう（名）回環裹包、はなのかかえ、かかえ。

くわいくん（する）（他）訓訓、をしへる。

ぐわいや（名）外野、のはち、郊野、まちそとのの。

くわいやう（名）潰瘍、できもの。うみたるはれもの。

ぐわいやう（名）外洋、そとうみ、外海、大洋、おほうみ。

くわいま（名）苗麻、ささやきぐさ。植物。

くわいまう（形）晦冥、くもき、十めのみえぬ。

くわいけい（名）會計、かんぢやう、金錢の計算。

くわいけいのはち　會稽恥（支那にて古々越の王勾踐が吳の王のために會稽山にて苦しめられし事をいふ）。

くわいけいのさんかう　會稽三康（孔敬康、張偉康、王世康を云ふ）。

くわいけいざん（名）會稽山（支那の越州の地にして山上に禹王の墓あり）。

くわいけつ（名）魁結、もとどり。

ぐわいげつが（名）外月牙（支那の武器）。

くわいけう（名）回教（回回教の略）。

くわいけん（名）懷劍、ちひさきつるぎ、ふところがたな。

ぐわいけん　快嶮、はやききめ（麵等の）。

ぐわいけん（名）外見、そとのみえ、みせかけ、みかけ。

くわいけん（名）、—する（自）會見、あひみること、對面、對顏、面會。

くわいぶ（する）（自）回舞、まひをどる。

ぐわいぶ（名）外蹈、かくしめ、かこひをんな、てかけ、かこひめ。

ぐわいぶつ（名）外物、ほかのもの、そとのもの。

くわいぶう（名）回風、つむじかぜ、まはりかぜ、旋風。

くわいふく（する）（他）回復、とりもどす、ひきもどす、とりかへす。

くわいふく（する）（他）恢復、ひきかへす、回復、とりもどす。

くわいふく（する）（自）快復、なほる（病が）。

くわいふく（名）繪眼、もやうぎもの。

くわいぶん（名）回文、まはしぶみ、回章、回狀、移文、廻狀、回達、十又まはりまはりてよむぶん、耶馬臺の詩の如きもの。

ぐわいぶん（名）外聞、よそぎき、はたぎき。

くわいと（名）灰燼、めつぶれたひ、馬勃（植物）。

くわいと（する）（自）回顧、ふりかへる、かへりみる。

くわいど（形）魁梧、たけたかき、たくましき。

くわいど（する）（自）悔悟、くいさとる、くいあらたむる。

くわいど（する）（他）回護、かばふ、たすけまもる、擁護するをいふ。

ぐわいど（名）外姑、そとのしうとめ（妻の母をいふ）。

くわいとつさう（名）回忽草、のちまめ（植物）。

くわいとう（形）恢弘、ひろき、十はがらか。

ぐわいとう（名）外構、そとがまへ。

くわいとく（名）回國、くにめぐり、くにぐにをめぐる。

ぐわいとく（名）外國、とつくに、はかぐに、異國、異邦。

ぐわいとくご　外國語、よそぐにのことば。

ぐわいとくとうし　外國公使（外國政府より遣はす使臣）。

くわいとん（名）、—する（自）悔悔、うちみ、十くちをしさ、十うらむる。

くわいてい（名）快艇、はやふね、はやきしぶね。

くわいてつ（名）塊鐵、てつのかたまり。

くわいてう（名）怪鳥、あやしきとり、十又よた

か動物。

くわいてう（名）獃嘲、おどけ、十あざけり。

くわいてふ（名）晦蝶、てはん（手本）。

くわいてき（形）快適、こころよき、きにかなふ。

くわいてき（名）灰燼、あかざ、あをあかざ、しろあかざ（植物）。

くわいてん　回天、よをなほす（天下を改革するをいふ）。

くわいてん（する）（自）廻轉、回轉、まはる、めぐる。

くわいてん（名）會典（法律を蒐集し大成したるものをいふ）。

くわいてんさうだい（名）回轉燈臺（回轉して航海者に注意を與ふる燈明臺）。

くわいあい（形）徽媚、ねびさき、陳臭（食物等の）。

ぐわいさい（名）外皆、まじり、まなじり、めのさき。

くわいさう（形）快爽、はれやか、さはやか。

くわいさう（名）蒯草、あぶちがや（植物）。

くわいさう（する）會葬、とむらひにゆく、のべおくりする。

くわいさう（する）（自）回想、おもひいだす、おもひかへりみる。

くわいさう（する）（自）憤騰、うろたへさわぐ。

くわいさう（する）（自）懷想、なつかしくおもふ。

（ぐわいさん）　外山、とやま氏。

くわいざんぎよ（名）鱠殘魚、きすご、しらうを、吳王魚、白飯魚、銀魚（動物）。

くわいさ（形）怪奇、あやしき、くすしき、ふしぎなる、奇怪、怪異。

くわいさ（名）快氣、ところよきこと、十全快。

くわいさ（名）獃鬼、うそ、いつはり。

くわいさ（名）會期、あふとき、後日の。

くわいさ（名）、—する（自）會議、よりあひやうぎ、あつまりてはなしあふ。

ぐわいさよ（する）外居、ほかね、ほかのところにをる、別居。

くわいさう　懷舊、懷古、ふるきをおもふ、むかしをしたふ。

ぐわいさう（名）外舅、妻の父をいふ、岳父。

くわいさく（名）獃謀、たはむれごと、むだけごと、ことば、滑稽。

くわいきふ（名）會及、五味子、さねかづら（植物）。

くわいきん　礦金、かねをくること、送金。

くわいゆ（する）（自）快癒、なほる（病が）。

くわいゆ（する）（他）誨諭、をしへさとす。

くわいめい（する）（自）會盟、よりあひてちかふ（二三の邦國が）。

くわいめい（形）晦冥、くらき、まつくら。

くわいめい（名）會明、ほのぼのあけ、あけぼの。

くわいめつ（する）（自）灰滅、はろびうせる。

ぐわいめん（名）外面、うはづら、そとも、そとがは、外表。

くわいし（名）懷紙、ふところがみ、はながみ。

くわいし（する）（他）誨示、をしへしめす。

くわいし（名）快嘴、はやくち、快口、はやこと。

くわいし（名）怪鴟、いひとよ、みみづく（動物）。

くわいじ（名）喘耳、みみしひ、つんぼ。

くわいし（名）誨淫、てがみ（他人の）。

くわいし（名）外史（民間の歷史家また其書ける歷史、また唐の官名、「げき」を見よ）。

ぐわいじ　外事、よそごと、はかごと。

くわいしよ（名）獃豊、ましぶみ、回文、回章、回狀。

くわいしよ（名）會所、よりあひどころ、あつまりどころ。

ぐわいしよ　外所、よそ、はか、他所。

（くわいしつ）（名）晦日、つごもり（太陰曆の月の終の日をいふ）。

くわいしつ（名）回側、へんじ、回答、こたへ。

くわいしつ（名）冤魂、かしも、をさ、頭人。

くわいしつ（名）會衆、あつまれるひとびと、あつまりびと（數會への）。

くわいしつ（する）（自）回周、めぐる、まはる。

くわいしつ（する）回收（既に出したる金子などを取りまとめる）に云ふ。

くわいじつ（する）（他）懷柔、なづけやはらげる（異狀などを）。

くわいしや（名）會社、くみあひ、なかま（商工業上の）。

くわいしや（する）鱠炙人（人の知りて常に言ふ所なるをいふ）。

くわいしやう（名）回章、ましぶみ、回文、回狀、回書。

くわいしやう（名）回狀、ましぶみ、回書、回文、回章。

ぐわいしやう　外陣、まはり、そとのさまたげ。

くわいじふ（名）灰汁、あく、はひしる。

くわいしゆ（名）回首、かうべをめぐらす。

くわいし（名）會主、よりあひをもよほすひと、十あつまりをつかさどるひと。

くわいしゆ　創手、きりて、たちとり（罪人の首を

切る人。

くわいしゆ（名）　魁首、さきがけ、をさ、かしら、あたまかぶ、張本。

くわいじゆ（名）　槐樹、ゑんじゆ（植物）。

ぐわいじゆつ〔する〕〔自〕　外出、そとにでる、わき（ゆく）。

くわいしん（名）　會心、會意に同じ。

くわいしん（名）　懷身、くわいにんを見よ、みもち、はらみ。

くわいしん

くわいじん（名）　灰燼、もえかち、もえさし、やけぼくひ。

ぐわいしん（名）　外臣、外國人にして君王に臣たる者。

ぐわいしん（名）　外辰、冬至の異名。

ぐわいじん（名）　外人、とつくにびと、異國人、よそくにびと、外國人。

くわいしんじよ（名）　會心處、心に會得する處。

くわいえふひん（名）　槐葉飯、さんせうも（植物）。

くわいえん〔する〕　會宴、さかもりする、よりあひてさかもりする。

ぐわいゑん　外援、かせい、そとよりのたすけ。

くわいひ〔する〕〔他〕　迴避、よける、さける。

くわいひ（名）　檜皮、ひはだ、ひのきのかは。

くわいひつ（名）　回蹕、天子の卿還りを云ふ、回鑾。

くわいもん〔する〕〔自〕　憒悶、じれる、もだえる。

くわいもん（名）　槐門、大臣をいふ。

くわいせい（名）　魁星、弓の形に列びたる三星の名。

くわいせい（形）　快晴、よくはれたる、てんきよき、はれやかに、はれば晴れしたる。

くわいせい（名）　乘性、もとれるさが、いぢわるきこと。

くわいせい　回生、いかす、いきかへらす。

ぐわいせい（名）　外甥、姉妹の他家にて產みし子女をいふ。

くわいせいざう（名）　回生草、だいだい（植物）。

くわいせつ（形）　快絕、いとこころよき。

くわいせう（名）　諧笑、じやうだん、おどけ。

ぐわいせふ（名）　外妾、かこひめ、かこひもの。

くわいせき（名）　劇蹟、ゐむしろ、かやむしろ。

くわいせき（名）　會蹟、よりあひぼ、十（俗）上等の料理屋を然か呼ぶ。

くわいせき　筐石、形の奇妙なる岩石をいふ。

くわいせき（名）　繪蹟、ゑむしろ、はなござ。

くわいせき（名）　外蹟、はばかたのしんるゐ。

ぐわいせき（名）　回船、運漕船、貨物を運ぶ船。

くわいせん〔する〕〔自〕　回旋、めぐる、まはる。

くわいせん（副）　魁然、ひいでて、ぬきんでて。

くわいせん（副）　快然、こころよく、こころよげなる樣。

くわいぜん（副）　和淺、なぎ海上の。

くわは（名）　火把、ひかき、火斗。

くわは（名）　花馬、つきげうま（動物）。

くわば（名）　騾馬、こうばいくりげ（動物）。

くわばい（名）　和買、あひたいがひ。

くわはう（名）　果報、わるい、佛語、いんぐわ。

くわはう（名）　花穂、はなび、烟花。

くわはう（名）　貨包、かねいれ、巾著。

くわはう（名）　花包、はなばかま花の木に蒙れる葉形の物。

くわばう（名）　火防、ひぶせ、ひふせぎ、鎭火。

くわばう（名）　花芒、はなすすき（植物）。

くわばう（名）　蕾蔽、やかたぶね、うるはしき船。

ぐわばう（名）　臥房、ふしど、れどころ、ねま、ねや、寢室。

くわはうもの（名）　果報者、しあはせもの、うんよきひと。

くわはん（名）　過半、なかばすぎ、大半。

くわはん（名）　過犯、とが、つみ。

くわはん（名）　過般、さきごろ、先般。

くわばん（名）　驛伴、つれ、なかま。

くわはんてう（名）　花班鳥、かぶとどり（動物）。

くわはんすう　過半數、多數半分以上の數。

くわにちせき（名）　花乳石、石の名。

くわぼく（形）　和穆、やはらぐ。

くわぼく（名）　華木、木美樹、もくふよう（植物）。

くわぼく（名）　花木、はなさくき。

くわろ（名）　火鑪、ひばち、ゐろ、ひたきどころ、火鉢。

くわろう（名）　火鑪、ふせご、ひかご。

ぐわろう　蕾櫃、うつくしきたかどの（蕾色を施せる樣。

くわぼく〔する〕〔自〕　和睦、むつましくある。

くわぼく（名）　樺木、ひざくち、しらかんば、かばのき、しらかば（植物）。

くわぼくかう（名）　花木香、必栗香、ひつりつかう（植物）。

ぐわぼん（名）　瓦盆、ほうろく、つちのいりなべ、淺鍋。

くわへい（名）　貨幣、かね、貨寶、たから、通用金錢をいふ。

くわへい（名）　花瓶、くわびん、はないけ、はないけがめ。

ぐわへい（名）　雲餅、ゑがけるもち、無用物、やくにたたぬもの。

くわへう（名）　華表、支那の神廟の前に在る木にして日本の鳥居の如きものなり、十とりゐ。

くわべん（名）　花鋼、はなびら、花の片片をいふ。

くわべ（名）　花斗、はないけ、花瓶。

くわべ（名）　火斗、ひのし、鉢鉢、十ひかき、火把。

くわべ（名）　過渡、すぎわたること、此處より彼處へ、經過の途中、過渡時代など云ふ。

くわど（形）　過度、どにすぎる、過量、ゐまりゐはき。

くわざり（名）　顆塊、款冬花、ふきのとう（植物）。

くわざり（名）　花筒、はないけ、はないけづつ。

くわざり（名）　火鬪、がんくび、烟管の。

くわざり（名）　蝌蚪、科斗、かへるのこ、ゐたまじやくし（動物）。

ぐわざり（名）　瓦燈、瓦製陶製の燈籠の類。

くわざりのもんじ　蝌蚪文字、支那の古文字の體をいふ。

くわざりぐち（名）　火燈口、舞臺の後部に在りて役者の出入する口、十五燈。

くわざりさち（名）　化倫草、えびね（植物）。

くわざりし（名）　火箭嘴、やがうを（動物）。

くわざく（名形）　寡獨、ひとりもの、どくしん（獨身）ひとりみ。

くわぞく　花頭、ゐてがみ、人の送り來りし書翰をいふ。

くわどんす（名）　華段子、どんすのたぐひ。

ぐわち（名）　月、つき、俗に野暮を然かいふ。

ぐわちよう（形）　過重、ゐもすぎる。

くわちよう（名）　華綱、うつくしきぬ。

くわちう（名）　華買い、へがち、よきやかち、華族、貴族。

くわちう（名）　華蟲、きじの類（動物）。

ぐわちく（名）　蕾蟲、ゐまきもの。

くわちやう（名）　課長、かかりのかしら、官署の）。

くわちやう（名）　花娘、あそびめ、女郎。

くわぢやう（名）　火定、僧等が柴薪を積みて自ら焚け死するを云ふ。

くわちやうざん　華頂山、山城國愛宕郡に在る山。

くわり（名）　花利、まうけ、り、とく、えき。

くわり（名）　貨利、かねまうけ、りえき。

くわり（名）　寡婆、やもめ、寡婦夫を失ひし女。

くわりよ（名）　瓜樹、瓜蔓、栝樓、きかちすうり（植物）。

〔くわりよ〕（名）　花樹、くわりん（植物）。

くわりよ（形）　過慮、おもひすぎ。

くわりう（名）　騾騾、くりげうま（動物）。

くわりうさい（名）　花柳菜、はなばたん（植物）。

くわりう（形）　過量、過分に同じ。

くわりん（名）　花櫚木、樹子樹、花寧、花絞あるものを花櫚と云ふ、くわりん（註音轉なり）（植物）。

くわりんせん（名）　火輪船、ひふね、蒸氣船。

くわをく　華屋、美屋、りつぱなるいへ、うるはしきいへ。

くわをく（名）　鍋屋、くわろを見よ、いやしきいへ、ちひさきいへ。

ぐわをく　五屋、かはちや。

くわわい（名）　貨賄、まひなひ、わくりもの、賂賄。

くわわう（名）　花王、ぼたん（植物）。

くわわか　花下、はなのもと、はなのした。

くわわか　果下、朝鮮より出づる所の馬にて本朝の土佐駒に類す、ときごま（動物）。

ぐわか（名）　蕾家、ゐし、ゐかき、蕾師、蕾工、蕾伯。

ぐわか（名）　瓦家、かはちや、瓦屋。

くわがい（名）　花街、いろまち、遊郭、遊里、いろざと、いうぎよまち、くるわ。

くわかい（名）—する（自）　和解（わかい）、なかなほり、十とけあふ、なかなほす。

くわかい〔する〕〔自〕　和諧、やはらぐ、よくとととのふ。

くわがい（名）　鬧街、わざはひ、災禍、まが。

ぐわかい〔する〕〔自〕　瓦解、くづれる、こわれる、くつがへる、顚覆。

くわかば（名）　果下馬、果下を見よ（動物）。

くわかつのしん　瓜蔕之親、むつましきなかちひ、よしみ、ちなみ。

くわかう（名）　花梨、はなざと、はなあはきところ。

くわかう（名）　禾蔗、わら。

ぐわかう（名）　蕾桐、ゐのしたがき。

くわからせき（名）花崗石、花崗石、みかげいし。
くわかく（名）蝸角、かたつむりのつの。
くわかく（名）火鬧、こたつぐら。
くわがく（名）化學、舍密學、せいみがく物體を分析して研究する學。
ぐわかく　畫閑、うつくしきたてもの。
くわがくし（名）化學士化學の達人、せいみがくしや。
くわかふ（名）花蛤、いたやがひ動物。
くわがふ（名、—する）（自）和合（わがふ）、なかよきこと、むつましきこと、十むすびあふこと、十むつみあふ、十むすびつく、くつつく。
ぐわがふ（名）瓦合取るに足らぬものの集り。
くわかさんきやく（名）火架三脚（五德ごとく）をいふ。
くわかん（形）果敢、はきはきしたる、ものはかちぬ。
くわかん　花間、はなのあひだ。
くわよ　過譽、ほめすぎ、滋美。
くわより　綺麗、うるはしきかたち。
くわた（形）過多、おほすぎる。
くわた（形）夥多、おびただしき、あまた。
くわたい（名）花蕊、はなはぐ、へた。
くわたい（俗）（名）過怠、とがのばち、ばつ（罰、十又くわれう）罰金。
くわたい（名）花蕾、はなのうてな。
くわたい（にする）（自）寺大、詩大、粉大、おごりたかぶる。
くわだい（名）課題、詩文を作らす爲に出だす題。
くわだい（名）科第、學士の等級をいふ。
ぐわだい（名）臥内、ねどころ、ふしど。

くわたい（形）過當、あたりまへにすぎる。
くわたう（名）禾稻、いね、穀物。
くわたく（名）花托、うてな、はなのうてな、かかえ。
くわたく（名）火宅、佛氏世の中を然か名づく、是れ苦患多ければ也。
ぐわたぐわた（俗）（副）瓦瓦瓦瓦物の動き鳴る音をいふ、がたがた、忽ち後ろにぐわたぐわたといふ音してなど云ふ。
くわたん（名）詩誕、いつはりはとり。
くわたん（名）貸段、たんもの（反物）。
くわたん（形）寡單、ひとりみ、獨身。
くわたん（名）花壇、花場、花旺、はなのくさをかこ、庭中に土を高くして花卉を植ゑたる處。
くわだん　果斷、決斷の迅かにして躊躇せざるをいふ、はきはきしたる、てきはきしたる。
くわたんのしん（名）華誕之辰、たんじやうび。譽めて言ふ辭。
くわたんもり（名）花壇守、園丁、くわだんをせわするもの。
くわれい（名）火鈴、ひはさみ（支那）。
くわれい（形）華麗、はなやかな、うるはしき。
ぐわれつ（する）（自）瓦裂、瓦解に同じ。
くわれう（名）禾解（鼻孔の下人中の兩旁五分に在る穴）。
くわれう（名）科料、過料、贖罪金、ばつきん、罰金。
ぐわれき（名）瓦礫、かはらこいし、つぶて。
くわれん（する）（他）譯斂、とりたてる租稅を。
ぐわれん　蓋覆、ふすだれ、うつくしきすだれ。
くわそう（名）花蕊、はなのくさむら、はなよせ。

ぐわそう（名）瓦罐、かはらがま、かはちをやくかま。
くわぞく（名）禾粟、こめあは米穀をいふ。
くわぞく（名）華族、たふときい（おち、貴族。
くわつ（名）活、いかすて柔術に云ふ所にて暫く人の氣息を止めあきて絶ゑれが身體の腎臓の部を推して其氣息を復するをいふ、之を活をいれると呼ぶ。
くわつろ（名）活路、くらしのみち、すぎはひ、生計、十いのちをたすかる路、辛うじて助かるべきみち（一條の活路を開きて抓いふ）。
くわつろう（名）活櫓、きかちすうり（瓶物）。
くわつろくさう（名）活鹿草、みのしりぐさ（瓶物）。
ぐわつばい（名）月牌、死人の靈前に行ふ月毎の供養、日牌に對す。
くわつばつ（形）活潑、いきいきしたる、げんきよき、ぐわつぐわつせぬ。
くわつばつ（名）髮髮、さばがみ（喪の時にかぶるもの）。
くわつぱふ（名）活法、妙法、捷徑、（便利の方法をいふ）。
くわつぱん（名）活版、うゑじばん（活字にて印したる物、活版印刷）。
くわつぱんずり　活版摺（活版にて印刷してあること）。
くわつぽ（する）（他）活捕、しばる、とらへる。
くわつぽ（する）（自）闊步、あばりあゆむ、横行。
くわつさう（名）活棗、かへるのこ、蛸子。
くわつどうしやしん（名）活動寫眞、寫眞が實物の如く活動するもの、シネマトグラフ。

くわつどう（する）（自）活動、うごきはたらく、十いきはたらく。
くわつちう（名）滑蟲、あぶらむし（動物）。
くわつか（形）鰯國、ひろびろしたる、なにもなき（虛空の如く）。
くわつかいさう（名）滑海藻、あらめ（植物）。
くわつかん（形）活潑、かしましき、十かまびすしき。
くわつかん（する）（他）活絃、むすびかちげる、くくる。
くわつがん　活眼、いけるまなこ（善く物事を見わける眼）。
くわつより（名、—する（自他）活用、はたらき、はたらく、いかしてつかふ。
くわつたいちう（名）活詛蟲、なめくぢ（動物）。
くわつたつ（形）闊達、鰯達、さとりひろき、十又こころひろき。
くわつたう（形）闊套、ありふれたる、めづらしからぬ文章に云ふ。
くわつたく（形）滑濯、なめらか、光澤、つやつやしき。
くわつそ（形）闊疎、うとき、とほどほしき。
くわつそん（名）滑荪、なめすすき（植物）。
くわつぬい（形）滑滑、ぬめる、すべる、なめらか。
くわつなう（する）（他）活藝、くくる、くくりしめる。
くわつくわつ（形副）聒聒、かまびすしき、やかましく。
くわつくわつじ（名）聒聒兒、くつわむし（動物）。
くわつくわん（形）聒讙、かまびすしき。

くわつくわん（形）闊寬、ひろき、ひろもかなる。
くわつきん（名）活鈞蟲、しめくくるすぢ、十くひしめるすぢ（身體中の）。
くわつけい（名）活計、すぎはひ、くらし、生計、なりはひ。
くわつけつ（する）（他）活結、はなむすび、むすびきすぶ。
くわつけつ（名）活結、くくる、くくりむちぬむすびかた、ひきむすび。
くわつげふ（名）活業、なりはひ、活計、くらし、くちすぎ。
くわつけん（形）聒喧、かまびすしき、やかましい、聒噪。
くわつぶつ　活佛、いきぼとけ（靈驗あらたかなる佛または現世に人となりをる佛）。
くわつぶつ（名）活物、いけるもの、生物。
くわつと（名）活弧、文字を挾むに用ふ、凹ち（）「」『』〔〕等の記號をいふ。
くわつあつてう（名）活亂鳥、よしむすり、けけし、削茅ほうる、よしきり（動物）。
くわつさつ　活殺、いけつころしつ、いかすころす、生殺。
くわつさう（形）聒噪、さわがしき、かまびすしき、聒噪。
くわつき（名）活機、耶物を觀るに頗敏なるをいふ、機敏。
くわつき（名）火氣、あつきいきほひ（俗）。
くわつき　活氣、いきいきしたるこころ、十火氣。
くわつきよ　活魚、いけうを、十又いけうを。
くわつゆ（名）蛾蝗、なめくぢ（動物）。
くわつゆきよ（名）蛾蝗魚、なめくぢうを頭蓋心臓眼等の無き極下等の魚（動物）。
くわつめい　活命、いのちいきる。
くわつし（名）嘴子、めくら、盲者。
くわつし（名）滑尾、なめはち、どろどろくだり。
くわつじ（名）聒耳、みみにかまびすしき、さわがしき。
くわつじ（名）活字、うゑじ、うゑるもじ（活板に用ふる者にて日本に於ては土御門院元久年間に始まれりと云ふ、紫珍板、しうちんばん）を參看せよ。
ぐわつしよく（名）月蝕、げつしよく（月が地球の影に掩はれて光を失ふこと。
くわつしや（名）刹車用水より田に水を引く水車。
くわつしや（名）滑車、せみ（車井戸杯に用ふる滑附き車。
くわつしや（名）活寫、いきうつし、いきいきとうつすこと、活寫する杯動詞にも用ふ。
くわつじん　活畚、いけるかみ、いきがみ。
くわつじんぐわ（名）活人畫、活きたる人々が古人物に扮裝して人形の如く見せかけたるを云ふ。
くわつしふちやうきよ　潤袖長裾僧侶の服などに云ふ、十僧侶自身。
くわつえふじゆ（名）闊葉樹、濶の闊き樹にして針葉樹に對す。
くわつひ（する）（他）刹制、けづる、けづりとる、そぐ。
ぐわつひ　月日、つきひ、十ひづけ。
くわつもく（する）刹目、めをぬぐふ物を善く見る爲に。
くわつせき（名）滑石、礦物。
くわつぜん（副）鰯然、くわちり、明瞭、きつぱり。

ぐわつすゐ（名）月水、つきのさはり、てなし、月經、月信、經候、天癸、經水、めぐり（女の）。

くわなん（名）火難、やけること、火災、くわじ。

くわら　果蓏、このみくさのみ（木果草實）。

くわら（名）螺蜆、蝸蠃、こしぼそ、ゆするばち、じばち、土蜂　動物。

くわらいじん（名）火實神、ひがみなり、かみなりさま、雷公。

くわらりと（副）皪然、さつぱり、はつきり、ひろびろと。

くわらう（名）花老、太陰曆三月の異名。

くわらく（名）火老、太陰曆六月の異名。

くわらく（名）（室家などが）花活、はなのみやこ（京師即ち京都）を美する詞。

くわらく（名）掛絡、絡子、掛子、かけおび、たすき。

ぐわらぐわら（副）瓦落瓦落、碍碍物の崩れ倒るる音するをいふ。

くわらふきよ（名）過膿魚、さけ、しやけ（動物）。

くわらせき（名）蝸羅石（伽羅石（きやらせき）に同じ）。

くわらん（名）花欄、うつくしきころも。

くわらん（名）花瞻、はなかご。

くわらん（名）扁闌、よのさわぎ、みだれ、わざはひ。

ぐわらん（名）靈欄、えをかけるらんかん。

くわり（名）花塀、はなばたけ、花堤、花圃、花床、はなとこ。

くわり（名）過雨、むちさめ、とはりあめ。

くわう（形名）黄、き、きなる、十又きいろ此の語にして此に見えぬ者はわうの下を見るべし）。

くわうゐ　皇威、天子の御威光。

くわういう（名）黄鵬、てん、黄狐　動物。

くわういふ（形）煌煌、ひかりかがやく。

くわうゐえきぼさつ（名）荒爵益母草、めはじき植物。

くわういん（名）光陰、ひのかげ、日景、ひあし、十とき、時間。

くわういん（名）皇胤、天子の御子孫、たけのそのふのすゑ。

くわうろ（名）黄櫟、はぜのきちふのき植物。

くわうろう（形）荒酷、あらか〳〵んび、野蛮。

くわうろく（名）光祿、唐の官名、我大膳職にあたる。

くわうろくたいふ（名）光祿大夫（從二位の唐名）。

くわうろくじらう（名）光祿侍郎、唐官の名、我大膳死にあたる。

くわうろくせりけい（名）光祿少卿、唐の官名、我宮內卿にあたる。

くわうろくぜん（名）黄楓蟄、はぜぞめ（天子の衣服の黃青色染をいふ）。

くわうはい（する）（自）荒廢、あれすたれる、あれはてる、荒蕪。

くわうばい（名）黄醅、どぶろく、濁酒、濁醪、にごりざけ。

くわうばい（名）黄糜、かちうめ、臘糜、なんきんうめ　植物。

くわうはつ（名）黄髮「わうはつ」を見よ。光訪、來覆、光臨、他人の來訪をいふ。

くわうばり（形）恍惚、あきれる、恍惚。

くわうばり（名）光芒、ひかり、光線、星等が發する。

くわうばう（名）黄眶、あぶ　動物。

くわうはく（形）宏博、廣博、ひろき、あはいなる。

くわうはく（名）黄柏（わうばく）を見よ）植物。

くわうはく（名）黄白、黄金白銀の義にて即ち金銀をいふ、黄白に目を眯ますなど用ふ。

くわうぼく（形）廣漠、ひろき、ひろびろしたる、十なにもなき沙漠の如く。

くわうばく（名）廣漠、北風の異名。

くわうばく（名）藤麥、葛草、こうばふ、ゐぎ　植物。

くわうばく（名）黄檗（わうばく）をみよ。

くわうはくらう（名）黄伯勞、うぐひす。

くわうはん（形）廣胖、ひろくゆたかなり（身心等にいふ）。

くわうはん（名）黄胖（わうばん、で腹病、はちいたみ）。

くわうにょ（名）皇女、ひめみこ（天子の御息女）。

くわうにんてんわう　光仁天皇（人皇第四十九代の帝、紀元一千四百三十年（西洋紀元七百七十年）より一千四百四十一年迄、在位十二年。

くわうほう（名）黄蜂、くまばち　動物。

くわうぼう（名）廣袤、ひろさ、ひろがり。

くわうへき（形名）荒僻、かたなか、ひな。

くわうさう　皇綱、みかどのちすぢ（天子の血統をいふ）。

くわうさう（名）黄豆、しろまめ　植物。

くわうぼう（名）黄蜂、しんちう、十又きいろあ

かがね。

くわうざうらう（名）黄頭郎、さをとり（船をこぐ人）。

くわうざけん（名）黄杜鵑、れんげつつじ、羊躑躅　植物。

くわうち（名）潢池、ためいけ、せんすゐ、いけ。

くわうち　廣智、ひろきちえ、大智。

くわうちよ（名）皇儲、よつぎのみこ、ひつぎのみこ、太子、皇太子。

くわうちよ（名）皇女、ひめみこ、內親王。

くわうちう（名）蝗蟲、いなご　動物。

くわうちやう（名）廣場、はらば、ひろきところ。

くわうちやう（する）（他）皇張、擴張、おしひろめる、ふはいにする、ひろくする。

くわうちやう（する）（他）擴張「くわうちやう」をみよ。

くわうちやう（名）黄蟲、うぐひす（異名につきてはうぐひすの下を見よ）動物。

くわうりよう（名）荒陵、あれはか、あれつか。

くわうりよう（名）皇陵（天子の墓所を云ふ）、みさざぎ。

くわうりようし（名）光綬子、ぬめりんず。

くわうりやう（する）（自）或形）荒涼、あれさびれる市邑等が、あれたる。

くわうりん　光隣（人の來訪を尊みていふ詞）、光來、來賀。

くわうをく（名）荒屋、あばちや。

くわうれん（名）光蓮、ありがたきめぐみ。

くわうれん（名）皇恩、すめらぎのめぐみ（天子の恩德）。

くわうわく（する）（自）惶惑、あわてまどふ。

くわうわか（名）逸暇、いとま、ひま。

くわうわか（名）黄苑、きんなすび　植物。

くわうわが　光賀（人の來訪を尊びていふ詞）。

くわうがい（名）黄蓋、支那の長柄傘の名。

くわうかいふ（名）荒海布、あちめ　植物。

くわうかつこう（名）黄褐侯、あをばと　動物。

くわうかつしよく　黄褐色、きびいろ（色の名）。

くわうかう（名）皇考、天皇の亡父帝。

くわうかう（名）鑛坑、かなあな、かれほるあな。

くわうかうてんわう　光孝天皇（人皇第五十八代の帝、紀元一千五百四十五年（西洋紀元八百八十五年）より一千五百四十七年迄、在位三年御齡五十八歲、小松の天皇と稱す）。

くわうかくろう（名）黄鶴樓、支那の武昌府城西にあり、昔し費登仙と云ふ人黄鶴に駕して此にいこひし故に其名ありとぞ）。

くわうかくてんわう　光格天皇（人皇第百十九代の帝、紀元二千四百四十年（西洋紀元一千七百八十年）より二千四百七十六年に至る、在位三十六年御齡七十歲。

くわうかふ（名）黄蛤、きはまぐり　動物。

くわうがきよ（名）黄牙魚、黄則魚　動物。

くわうがんじや（名）黄頷蛇、あをだいしやう　動物。

くわうたい（形）廣大、ひろくゆはいなる、洪大、宏大、鴻大、高大。

くわうたい　曠代、曠世に同じ。

くわうたいとうぐう　皇太后宮（天子の御母后を尊みて云ふ詞、あはぎさき、國母、仙院、慈母門、渭陽。

くわうたいとうぐうしよく　皇太后宮職、あはきさいのみやのつかさ。

くわうたいし（名）皇太子、みこのみや、よつぎのみこ、儲君、まうけのきみ。

くわうたう（形）曠濶、ひろびろしたる、なにもあちぬ、空濶。

くわうたう（形）荒唐、いつはりなる、あてにならぬ、無稽、謊誕、妄誕。

くわうたう　橫刀、よこがたな。

くわうだう（名）黄道、天體の通る軌道。

くわうだうにつし　黄道日子（吉日をいふ、よきひがち。

くわうたうび（名）黄眉、ははじろ　動物。

くわうたく（名）光澤、つや、ひかり。

くわうたく（する）（他）擴拓、ひろくする。

くわうたふ（名）橫撻、ゆまき、ゆもじ、こしまき。

くわうたん（名）謊誕、いつはり、うそ。

くわうれいさい（名）皇靈祭、ごせんぞまつり（天子歷代の御祭典）。

くわうれいじや（名）黄頷蛇、ねずみくひへび　動物。

くわうれう（名）潢潦、たまりみづ、あまみづたまり。

くわうそ（名）光雲、ねりぎぬ。

くわうそ（名）黄貝、てん、黄鼠、十或いたち　動物。

くわうそ（名）皇祖、天子の先祖を云ふ。

くわうそ（名）皇祖、みかどのくちの天子の位。

くわうそ（名）黄瑣、地を祓する時に用ふる支那の祭器。

くわうぞく（名）皇族、天子の親一族、みやがた。
くわうぞく（名）礦鑛、礦物の類。
くわうそけい（名）黄素馨、りうきうわうばい（木犀科の樹）植物。
くわうそん（名）荒年、皇孫、まどみや、天子の親孫。
くわうねん（名）荒年、あれどし、ふさくどし、凶年、ゐしきんどし、ききんどし。
くわうらい　光來人の來訪を尊みていふ詞。
くわうらう（形）曠朗、はがらか。
くわうらう〔する〕〔自〕　慌惚、うちわる、十おもふことかなはぬ。
くわうらう（形）　晃朗、はがらか、あきらか。
くわうらう（名）　桂櫚、つど、つどのき（棕櫚科）植物。
くわうむ　皇務、天子の職務。
くわうり（名）　潢汪、たまりみづ、どろにごりのたまりみづ。
くわうりのたき　光瀧、河内國南河内郡に在り。
くわうりく〔する〕〔自〕　惶懼、おぢおそれる。
くわうりくわ（名）　黄瓜、ひめうり（植物）。
くわうりくわちよじ（名）　黄花女兒、きむすめ、ていちぢむすめ（小說の語）。
くわうりくわかう（名）　黄花禹、くそにんじん（植物）。
くわうりくわつ（形）　光燿、なめらか、十つやある。
くわうりくわつ（形）　廣闊、てびろき、ひろちか。
くわうりくわう（形副）　曠曠、ひろびろしたる、十あはいなる。
くわうりくわう（形副）　皇皇、あはいなる。
くわうりくわう（形副）　煌煌、きらきら、晃晃、ひかりかがやく。
くわうりくわさい（名）　黄花菜、にがな（植物）。
くわうりくわきう（名）　黄樺弓、支那の弓の名。
くわうりくわもん　皇嘉門、禁裏の門の名。
くわうりくわん（名）　鬱館、ものまなびどころ、學校。
くわうりくわん（名）　黄環、ふちかつら（植物）。
くわうりくわん（名形）　曠官、つかさをむなしくする其官職に在りて其事務を爲さざるをいふ。
くわうや（名）　荒野、あれの、十曠野、あちの、あちのち。
くわうや（名）　曠野、ひろの、あちの、あちのち。
くわうやう（名）　黄楊、つげ（下を見よ）植物。
くわうやうぼく（名）　黄楊木、くきつげ、ひめつげ、つげ（植物）。
〔くわうやま〕（名）　黄麻、わうま、かなびきを、つなそ（植物）。
くわうけい（名）　光莫、ありさま、模樣。
くわうけつ（名）　黄結、山豆根、さんづこん（植物）。
くわうけつちやう　光月町、東京市淺草區の町。
くわうけう（名）　黄歌、唱唱歌の一派。
くわうけふ　廣狹、ひろきせまき。
くわうけふ　宏藁、ゐはいなるわざ、大藁。
くわうけん（名）　黄卷、書籍をいふ古人露を避くる爲に黄樂を以て染めたる黄紙を之に用ひたるが故に云ふ。
くわうけん（名）　黄絹、はぶたへ（つやぎぬ）。
くわうけん　黄絹、きぎぬ、きいろのきぬ。
くわうげん（名）　廣言、大言、はち、十ゐはきいこと。
くわうげん（名）　詭言、いつはり、うそ。
くわうげん（名）　曠原、のはら、ひろの。

くわうげつ（名）　黄花菜、にがな（植物）。
くわうけつ（名）　黄樺弓、支那の弓の名。
くわうけふ　廣狹、ひろきせまき。
くわうけふ　宏藁、ゐはいなるわざ、大藁。
くわうけん（名）　黄卷、書籍をいふ古人露を避くる爲に黄樂を以て染めたる黄紙を之に用ひたるが故に云ふ。
くわうけん（名）　黄絹、はぶたへ（つやぎぬ）。
くわうけん　黄絹、きぎぬ、きいろのきぬ。
くわうげん（名）　廣言、大言、はち、十ゐはきいこと。
くわうげん（名）　詭言、いつはり、うそ。
くわうげん（名）　曠原、のはら、ひろの。
くわうげんゐん　光源院、足利義輝の諡號。
くわうふ〔する〕〔自〕　惶怖、おそるる、惶懼、惶惑、おぢる。
くわうふ（名）　曠夫、嫁なき男、ひとりみをとこ。
くわうふ（名）　鑛夫、かねはり、かなやまびと。
くわうふ　光武、東漢の天子にして民間より義兵を起し王莽の亂を平ちげ漢室を中興せし人なり。
くわうふ〔する〕〔自〕　荒廢、あれはてる、あれる、荒廢地が。
くわうふつ（名）　鑛物、礦物、金石玉土砂鹽化石などの類。
くわうふつがく（名）　鑛物學、きんせきがく（金石學）。
くわうふん（名）　黄粉、きなこ。
くわうふん（名）　光粉、あしろい。
くわうと（名）　蕾鼓、よをつづみ（樂器）。
くわうと（名）　光顧、めをかくること、ひいき、贔負、十めぐみ。
くわうとつ（形）　恍惚、はれぼれ、うつとり、ところとろける。
くわうどう（名）　皇后、きさき、天子の御配偶。
くわうどうぐう（名）　皇后宮、きさきのみや（天子の御妻）。
くわうとく（名）、—する（他）　廣告、弘告、ひろくしらせること（新聞雜誌等にて）、十つげひろめる（世間に）。
くわうとく（名）　皇國、すめらぐに（日本の美稱）。
くわうとん（名）　光根、あぶれもの、わるもの。
くわうとん〔する〕〔自〕　惆悵、うちわる、十かなしむ。
くわうとん（名）　黄質、たそがれ、ひぐれ、日暮、ゆふぐれ、薄暮（昔の時刻にて午後の戌の刻を然か名づく、十二時の下を見よ）。
くわうとんてんわう　光嚴天皇（北朝初代の帝にて北條高時が立てし者、紀元一千九百九十二年（西洋紀元一千三百三十二年）より一千九百九十三年に至る。
くわうてい（名）　皇帝、すめらみこと（至尊の稱にして秦の始皇帝より始まる。
くわうてい　黄帝（太乙五帝の一にして含樞紐と名づく、ていを見よ）。
くわうていのろくしやう　黄帝六相（蚩尤、大常、奢龍、祝融、風后、后土。
くわうてつ（名）　黄鐵、しんちう（眞鍮）。
くわうてう（名）　黄鳥、うぐひす（動物）。
くわうてうきよ（名）　黄蹈鳥、あかえい（動物）。
くわうてふ（名）　黄蝶、きいろのてふてふ（動物）。
くわうてん（名）　皇天、上天をいふ。
くわうてん（名）　皇典、みくにのふみ（日本の古書）。
くわうでん（名）　荒田、あれた。
くわうあう（名）　黄鶯、うぐひす（異名につきては「うぐひす」の下を見よ）動物。
くわうさい　光彩、いろどり、つや、光澤、精彩、光潤、潤色、ひかり。
くわうさい　宏才、廣才、ひろきちゑ、ゐはいなるちゑ、高才。
くわうさい（名）　荒疏、あれどし、凶年、不作の年、荒年。
くわうさう（形）　宏壯、さかん、けつかう、壯大。
くわうさう　黄蒼、いぬたか、かりいぬ及かりだか、黄犬蒼鷹。
くわうさう（名）　黄顙鳥、たち（動物）。
くわうさく（名）　蝗蚱、いなご（動物）。
くわうざん（名）　鑛山、礦山、かなやま、金屬を掘り出す山。
くわうざんがく（名）　鑛山學、礦山學、鑛物學（礦物採掘の學）。
くわうさんさう（名）　黄鐵草、いくち（植物）。
くわうざんしよう（名）　黄山松、ねあがりまつ（植物）。
くわうさ〔する〕〔他〕　謊欺、あざむく、だます。
くわうさ（名）　皇基、くにのもとゐ。
くわうさ（名）　幾瑾、ひかりかがやくこと。
くわうさ（名）　光輝、てりかがやくこと、ひかり。
くわうさよ（名）　皇居、天子の御居所。
くわうさよ（名）　荒墟、墟址、あれあと、あれたるところ。
くわうさよ（名）　黄墟、あのよ、よみ、泉下、黄泉。
くわうさよ〔する〕〔自〕　惶惑、あぢおそる。
くわうさよ（名）　黄玉、きのたま。
くわうさよくてんわう　皇極天皇（人皇第三十五代の帝、紀元一千三百〇二年（西洋紀元六百四十二年）より一千三百〇四年迄、在位三年、さいみやうてんわうを見よ）。
くわうさよくせき（名）　黄玉石、きのたま。
くわうさよつ（名）　黄橘、しちはかうじ（植物）。
くわうさう（名）　黄牛、あめうし、くりいろうし（動物）。
くわうさやう〔する〕〔自〕　恍惚、うつとりする、十ぼつとする、はれる。
〔くわうさん〕（名）　黄禮、はきばう（木の名）（植物）。
〔くわうきん〕（名）　黄蕈、〔わうきん〕とよむ、きけまん（植物）。
〔くわうきん〕（名）　黄芩、〔わうごん〕とよむ、こがねばな（植物）。
くわうきん（名）　黄巾、東漢の末に起れる賊徒の一、黄巾を身に著けて目標としたり故に然か名づく。
くわうめい（形）　幾明、あきらか、ひかる。
くわうめい（形）　曠明、あきらか。
くわうみやう（名）　光明、あきらかなるひかり、かがやき、光輝。
くわうみやうくわうどう　光明皇后（聖武天皇の御妃）。
くわうみやうてんわう　光明天皇（北朝二代の帝にて足利尊氏の擁ずる所、紀元一千九百九十七年（西洋紀元一千三百三十七年）より二千〇八年に至る。
くわうみやうじのいけ　光明山、山城國相樂郡に在る山。
くわうみやうさん　光明寺池、武州鶴木村に在る池。
くわうみやうしゆ　光明宋、宋の極上なるもの。
くわうみやく（名）　鑛脈、岩石の間に滯留したる鑛物が流れ入りて後に凝結したるものの。
くわうし（名）　皇子、親王、竹園、蘭園、蓮池、鬼園、張園、宗枝、藩王、邸孝、淮南、江都、肇石、天孫、天枝、採琴、霞岫、皆天子の御子を云ふ。
くわうし（名）　皇嗣、ひつぎのみこ、天子の後嗣、皇太子、よつぎのみこ。
くわうし（形）　橫恣、ほしいまま、わがまま。

くわうしより（名）黄鍾、太陰暦十一月の異名。
くわうしよくき（名）黄蜀葵、とろろ、とろろあふひ、植物。
くわうしよくきよ（名）黄櫨魚、あまだひ（動物）。
くわうしつ　皇室、天子の御家を云ふ。
くわうじつ　曠日、ひをわなしくする（空しく多くの日を費す）。
くわうしう（名）蝗蟲、いなご（動物）。
くわうじう（する）（他）鑛充（「くわくじう」をみよ）。
くわうしやりさん（名）廣目散、昔し正月元日に屠蘇と併せ用ひたる散藥にして邪氣を拂ふものとしたり。
くわうじやく（名）黄雀、にうないすずめ、あぐちすずめ（動物）。
くわうしけい（名）黄雌雞、かしはどり（動物）。
くわうしきよ（名）黄剌魚、黄牙魚（動物）。
くわうじゆはらしやら　黄綬裘章、海防費に歟金したる人に賜はるもの。
くわうしゆつゆ（名）光田油、きんだしあぶら。
くわうじゆくかう（名）黄熟香（名香の一なれども實物は未詳なり、或は云ふ沈香の類、或は云ふ奈良の關寺待の類）。
くわうじゆん（名）光潤、つや、光澤。
くわうしじやく（名）黄嘴雀、いすか（動物）。
くわうしん（名）黄蜆、いくち（植物）。
くわうじん（名）荒神、かまどのかみ（佛教にて考に對す）。
くわうもくてんわう　立し西方を守る神。
くわうもん（名）黄門、中納言の唐名なり、醍朝の黄門官は王宮内に仕ふる侍臣の類なり、また小黄門は王侯に隨從する風從の類なり。
くわうもん（名）宮門、參内をいふ。
くわうせい（形）曠世、よになき、ならびなき、希世、不世出、絶世人物に云ふ。
くわうせい　荒政、あしきまつりごと。
くわうせい（名）黄精、わうしやう、なるとゆり（植物）。
くわうせいてい（名）黄蟶鬚、きとんぼ（動物）。
くわうせいえふとうふん（名）黄精葉鈎吻、なべわり（植物）。
くわうぜう（する）（自）惶遽、うろたへる、あそれまどふ。
くわうじんだな（名）荒神棚、臺所に設け荒神を記る棚。
くわうじんしま　荒神島（讃岐國の北方の海中にある小島）。
くわうじんしゆ（名）黄人種、黄色人種の略。
くわうしんじゆ（名）黄心樹、むがたまのき（植物）。
くわうえい（名）光耀、かがやき、ひかり。
くわうえふ（名）黄葉、もみぢ（植物）。
くわうえんさい（名）黄蜀葵、おにたびらこ（植物）。
くわうひ（名）皇妃、きさき（天子の御記稱、中宮、ちうぐう）。
くわうひ（名）皇祇、崩御遊ばされたる皇太后、皇考に對す。
くわうぼう（名）廣目天王（法界を安立し西方を守る神）。
くわうもん（名）黄門、中納言の唐名なり、醍朝の黄門官は王侯に隨從する風從の類なり、また小黄門は王侯に隨從する侍臣の類なり。
くわうもん（名）宮門、參内をいふ。
くわうせい（形）曠世、よになき、ならびなき、希世、不世出、絶世人物に云ふ。
くわうせい　荒政、あしきまつりごと。
くわうせい（名）黄精、わうしやう、なるとゆり（植物）。
くわうせいてい（名）黄蟶鬚、きとんぼ（動物）。
くわうせいえふとうふん（名）黄精葉鈎吻、なべわり（植物）。
くわうぜう（する）（自）惶遽、うろたへる、あそれまどふ。
くわうせき（名）鑛穿、つかあな、はかあな。
くわうせきこう　黄石公　張良に兵略を授けしといふ人。
くわうせん（名）鑛泉、いでゆ、溫泉、炭酸等の氣を含める溫水等をいふ。
くわうせん（名）黄泉、よもつくに、よみ、泉下、冥途、陰府、冥府、あのよ。
くわうせん（名）光線、ひのひかりのすぢ（太陽等の）。
くわうせん（副形）恍然、うつとり、恍惚然、ぼつと、十又髣髴、はつきり大に悟る貌。
くわうする（名）鑛水、鑛泉の水。
くわうするかう（名）黄瑞香、わすびき、みつまた（植物）。
くわうすう（形名）荒陵、かたすみ、十かたみなか。
くわうん（名）火雲、ひのくも、十又ひでりぐも。
くわう　礦（此音のものは、かくを參看せよ）。
くわう（名）花蕊、はなのちまた、十又いろざと。
くわう（名）獲、やまを（動物）。
くわう（名）郭、廓、細殿、はそどの。
ぐわぐ（名）雲具（雲に必要なる具、顔料、刷子などすべての稱）。
ぐわぐ（名）臥具、ねだうぐ（夜具ふとんの類）。
くわくばつ（する）（他）劃伐（ある區域を限りて材木を伐り採る）。
くわくさ（副）確、しかと。
くわくさく（する）（他）獲得、手に入れる。
くわくちう（名）郭中、くるわのなか、遊里の中。
くわくちやう（する）（他）獲罪、わしひろめる、あはきくする。
くわくちやう（する）（他）確定、かたくさだむる、きめる。
くわくりん（名）獲鱗（一切の事の終りを云ふ、孔子の春秋は筆を獲麟に絶つより起る）。
くわぐわ（名）導鶯、うつくしきゑ、美童。
ぐわくわ（名）臥瓜、支那の武器の名。
くわくわつ（名）廻活、すぎはひ、活計、生計。
くわくわん（名）火管、ひふきだけ。
くわくわん（名）火用、ほぐし、松明をはさむ大、たいまつ、十ぐきぐし、十花火の管。
ぐわくわん（名）豊卷、ゑまきもの。
くわくわんふ（名）火浣布（火に入れても燒けぬ布機の物、石絨布、ひれずみのかはごろも、石綿布、いしわた（石絨を以て作りたる布或は石絨自身を謂ふなり、石綿の下に詳解あり就て見るべし、之を火浣布と名づくるは石綿を以て造れる布は火に燒けざるが故に其汚れたる時は之を火に投ずれば汚穢だけ火の爲に去りて布は浣（あらが）如く潔なるに因りてなり、即ち火にて浣はるる布といふ義なり、今は之を以て火事羽織又は擬石版を製造す）。
くわくかう（名）蕎香、排草香、蒙去病、かはみどり（植物）。
くわくかうちよろぎ（名）草石蠶の一種（植物）。
くわくよく或**かくよく**（名）鶴翼、つるのつばさ、戰陣の一法にして其狀開羽翼を張りて恰も鶴が翼を伸べたる如くなるに因りて然か名づく。
くわくそう（名）蠶綾、はさみむし（動物）。
くわくつ（名）富窟、かくれあな、十ぐくのすみ（逆賊の巣窟）。
くわくない　郭内、くるわうち（城の）、十又（俗）遊女町、いろざと。
くわくちやう（する）（他）確定、かたくさだむる、きめる。
くわくりん（名）獲麟（一切の事の終りを云ふ、孔子の春秋は筆を獲麟に絶つより起る）。
くわぐわ（名）導鶯、うつくしきゑ、美童。
ぐわくわ（名）臥瓜、支那の武器の名。
くわくわつ（名）廻活、すぎはひ、活計、生計。
くわくわん（名）火管、ひふきだけ。
くわくわん（名）火用、ほぐし、松明をはさむ大、たいまつ、十ぐきぐし、十花火の管。
ぐわくわん（名）豊卷、ゑまきもの。
くわくわんふ（名）火浣布（火に入れても燒けぬ布機の物、石綿布、ひれずみのかはごろも、石綿布、いしわた（石絨を以て作りたる布或は石絨自身を謂ふなり、石綿の下に詳解あり就て見るべし、之を火浣布と名づくるは石綿を以て造れる布は火に燒けざるが故に其汚れたる時は之を火に投ずれば汚穢だけ火の爲に去りて布は浣（あらが）如く潔なるに因りてなり、即ち火にて浣はるる布といふ義なり、今は之を以て火事羽織又は擬石版を製造す）。
くわくかう（名）蕎香、排草香、蒙去病、かはみどり（植物）。
くわくかうちよろぎ（名）草石蠶の一種（植物）。
くわくよく或**かくよく**（名）鶴翼、つるのつばさ、戰陣の一法にして其狀開羽翼を張りて恰も鶴が翼を伸べたる如くなるに因りて然か名づく。
くわくそう（名）蠶綾、はさみむし（動物）。
くわくつ（名）富窟、かくれあな、十ぐくのすみ（逆賊の巣窟）。
くわくない　郭内、くるわうち（城の）、十又（俗）遊女町、いろざと。
くわくらん（名）雲亂、あつけあたり（病名）。
くわくまち或**かくまち**（名）鶴毛、つるのけ、十雲、ゆき。
くわくげき（する）（自）獲激、いきほひはげしくながれる、みなぎる、さかまく水の）。
くわくふ（する）（自）獲佛、むぢおそる。
くわくとうてう（名）郭公鳥、ほととぎす（動物）。
くわくてい（する）（他）確定、かたくさだむる、きめる、（くわくぢやう）を參看せよ。
くわくてい（する）（他）霍定、かぎりさだむる（區域拓を）。
くわくあく（する）（他）攫握、つかむ、にぎる。
くわくさつ（する）（他）攫殺、くびきりころす（敵を）。
くわくさう（する）（他）攫抓、つかむ、つまむ。
くわくさく　霍筴、はかりごとを工夫する、十はかりごと。
くわくしよう（名）確證、たしかなるあかし、ましかしるし、十一する（他）たしかにあかしする。
くわくしつ（名）確執、あちそひ、かたくとること、又一する（他）あちそひする。
くわくしつぷ或**かくしつぷ**（名）鶴膝風、雨降の赤く腫れて痛む病。
くわくしう（する）（他）確收、たしかにうけとる。
くわくじう（する）（他）鑛充、ふしひろむる、鑛張。
くわくしやう或**かくしやう**（名）鶴髦、つるのけごろも（鶴毛にて織れる衣）。
くわくしやく（形副）霍鑠、たつしや、すこやか、とやうぶ多く老人につきて用ふ、強健。
くわくしふ（する）（他）攫集、かきあつむる。
くわくしゆ　敵賞、くびきる、くびはねる。
くわくせい（自他形）廓清、ひろくきよめる、サツパリしてひろき。
くわくぜん（副形）廓然、ひろびろ、十さつぱり、はつきり。
くわくぜん（副形）劃然（判然區別拓を立る貌）、十髣髴物を切る音。
くわくぜん（副）寡然、驚き或は恐れたる貌。
くわくん　寡君（己れの君公を人の前に謙遜して呼ぶ詞）。
くわくん（名）事勳、てがら、いさほし、いさを、いそし、大勳。
くわくやちのとうしゆ　華陽之公、主内親王を稱していふ。
くわくやく（名）課役、わりつけやく（昔し官府にて人民に命じて爲さしめし役事、公役）。
くわくやく（名）火藥、てつぽうぐすり、彈藥（鉄鉤の發射藥）。
くわくやくいれ（名）火藥角、だんやくいれ。
くわくやくこ（名）火藥庫、だんやくぐら。
くわくやくせいざうしよ　火藥製造所、だんやくをつくるところ、火藥局支那。
くわくま（名）花蘭（數學の迷記的略書（支那）。
くわけ（名）區分、くにわかつこと、區畫、ところわけ、十區別、わかち。
くわけい（名）花鍵、あとり（動物）。
くわけい（名）火刑、ひあぶり刑名。
くわけい（名）花莖、はなばたけ、はなつくれるところ、花壇。

くわげい（名）　華鋏、華鑷、華鑷、華鐘、瓦鐘の文飾あるものを云ふ。

ぐわけい（名）　臥閨、ねや、ねま、臥房、ふしど、寢室、閨房。

くわけつ（名）　火極、ほぐし、火串、炬火等をしばりつける木、火串。

くわけつ（形名）　果決、果斷決行なるを云ふ。

くわげつ（名）　花月（太陰曆三月の異名、十花鳥風月の略稱。

くわげつ（名）　火月（七八月の異時を然か云ふ）。

くわげつちやう　花月町（東京市本所區の町名）。

くわけう（名）　果檎、きまもり、殘果（樹の果の久しく枝につきて殘るもの）。

くわげき　過隙、ひまゆく日々。

くわげき（形）　過激、はげしすぎる、あまりはなはだしき、過甚。

くわげき（名）　罅隙、すきま、われめ。

くわげきたち（名）　過激黨（政黨等の過激なるもの）。

くわけん（名）　過愆、あやまち、とが、過失。

くわげん（形）　過嚴、きびしすぎる、過酷。

くわげん（名）　戲言、ねなしごと、うそばなし、浮戲、流戲。

くわげん（名）　過言、いひすぎ、十はめすぎ、過美。

くわげん〔する〕（動）（自他）化現、かはりあちはる、又かはりあちはす。

くわげん（名）　詩言、こげん、ほこり、じまん。

ぐわけん（名）　畫稍、えぎぬ、十るあるきぬ。

くわふ（名）　花斑、はなまだら、（た。

くわふ（名）　花布、はなぎぬ、きちさ。

くわふ（名）　幕幃、やもめ、棺棚、祭（夫をうしなへる女を云ふ。

ぐわふ（名）　瓦缶（支那に於て天を祭る時に用ふる土器。

ぐわふ（名）　畫譜、えほん、畫本、畫帖。

くわふつ（名）　貨物、しろもの、しなもの。

くわふつれつしや（名）　貨物列車、荷物汽車（荷物運搬用の列車）。

くわふう（名）　和風、わふう、はるかぜ、柔風、あたたかきかぜ。

くわふうびやう（名）　花風病、いろきちがひ（婦人に云ふ）。

くわふく　禍福、わざわひさいはひ、吉凶禍福、幸不幸。

くわふきふ　過不及、すぎたるもよばぬ、あまれるたらぬ、過不足。

ぐわふきん（名）　畫布巾（五色の雲を畫きたる祭器の幕）。

くわふん（名）　花粉、はなこ、しべこ、蕊粉。

くわふん（形）　過分、ぶんにすぎる、過實、非分。

くわと（名）　花戶、うるきや、はなや、十にはつくり、園戶。

くわと（形名）　過去、すぎされる、いぬる、すぎにしとき。

くわと（名）　瓜瓠、ふくべ、（うたん。

くわと（名）　花瓶、花尊、花甕、はないけびん、はなたてがめ。

くわど（名）　過誤、錯誤、あやまり、あやまち。

くわど（他）　戲語、なまりことば、轉語、鳥語、鳥。

くわとちやう（名）　過去帳、經名簿、佛寺にて死亡者の名等を記しをく帳簿を云ふ。

くわとつ（名）　踝骨、くるぶし、つぶねき（脚の）。

くわとう（名）　火攻、ひぜめ、十やきうち。

くわとう（名）　火鉤、とびぐち（火事に用ふる）。

くわとう（形）　窮痴、もぢただしき、窮多。

くわとう（名）　化工、造化の工を云ふ、天工、天造。

くわとう（名）　火口、ほぐち、ひぐち（鐵砲の）。

くわとう（名）　禾鈎、いねかぎ、いねをかくるかぎ。

くわとう（名）　花紅林檎を云ふ（植物）。

ぐわとう（名）　瓦工、かはらやき、かはらし。

ぐわとう（名）　畫工、えし、えかき、畫師。

くわとうざう（名）　花江豆、はなさげ（植物）。

くわとうし（名）　花公子、だてしや、はづかき、しやれもの（支那）。

くわとのしちぶつ　過去七佛（毘婆尸、尸棄、毘舎、俱留孫、拘那含、迦葉、釋迦）。

くわとせ（名）　過去世、まへのよ、前生。

くわどん（名）　過言、失言、いひすぎ、不智の言、無禮の語。

くわてい（名）　課程、ふむべきみち（學校にての）、日課の行程。

くわてい（名）　瓜蒂、うりのへた、はぢ（藥用にも供す）。

くわてい（名）　華蔕、よきさしき、うるはしきちん、華樹。

くわてい（名）　花燕、やかたぶね、あそびぶね。

くわていさよ（名）　靴底鳥、くつそこがれひ（動物）。

くわてう（名）　花蝶、むつ（動物）。

ぐわてふ（名）　畫帖、えほん（畫を集めたる書物、畫譜）。

くわてん（名）　編菜、かたつぶりのあと（文字に似たれば云ふ）。

くわでん（名）　瓜田、うりばたけ（瓜田に履を納れずなど諺に云ふ）。

くわでん（名）　訛傳、あやまりのうはさ、浮說。

くわあり（名）　禍殃、わざはひ、禍害、禍災。

くわあふ（名）　花押、かきはん。

くわさ（名）　過差、まちがい、ありまり、十よけい。

くわざ（名）　花筵、はなござ、花席。

ぐわざ（名）　臥筵、ねござ、しきござ。

くわさい（名）　禍災、わざはひ、災害、難。

くわさい（名）　火災、やける、くわじ、火難。

くわさい（名）　火祭、ひまつり（火を焚きて神を祭ること）。

くわざい（名）　貨財、たかち、又かね。

くわざい（名）　過罪、つみとが、あやまち。

ぐわさつ（名）　畫冊、えほん、畫帖。

くわさう（名）　花莊、はなやしき、花園。

くわさう（名）　花相、弓弭、しやくやく（植物）。

くわさう（名）　火葬、やきはうむり、茶毘、下火（死體を焼くことを云ふ）。

くわさう（名）　花草、はなぐさ、十かちくさ（模樣の）。

くわさう（名）　火鎖、ひやり（支那の武器）。

くわざう（名）　窠藏、ぬすびとやど、十けいづかひ。

ぐわざう（名）　畫像、えすがた、えざう。

ぐわざん（名）　火山（火を噴き出す山）、噴火山。

くわざん　花山（山城國山科にあり）。

くわざん（名）　華山（支那の山にして陝州に在り頂上に池ありて千葉の蓮花を生ず、よりて華山と呼ぶ）。

くわざんてんわう　花山天皇（人皇六十五代の帝、紀元一千六百四十五年（西洋紀元九百八十五年）より一千六百四十六年迄、在位二年御譲四十一にして崩ず）。

くわざんがん（名）　火山岩、噴出石（火山より流れ出づる石）。

くわさ（名）　果殺、果敢、こころよき、大膽。

くわさ（名）　火戲、はなび。

くわさ　過期、ときすぎる（日限を經過する）。

くわさ（名）　火巻、ひいれ、十また錢瓶。

くわさ（名）　花芹、はなもの、はなのさくさき。

くわさ（名）　火氣、ひのけ、ほてり、ほとぼり。

くわさ（名）　禍機、わざはひの催し來るはずみ）。

くわさ（名）　和議、わぎ（なかなはり、和談。

くわさ（名）　花妓、げいしや、げいこ。

くわさ（名）　戲僞、いつはり、よこなまり。

ぐわさ（名）　五巻、かはもち。

くわさ（名）　菓子、もさ、ちしや（植物）。

くわさよ（名）　過去（くわこ）を見よ）。

くわさよ（名）　寡居、やもめぐらし、ごけずまひ。

くわさよ（名）　過失、やりすぎ、しすぎ。

くわさよ（名）　科擧（支那の文官試驗をいふ）。

くわさよ（名）　火葬、かながしら（動物）。

くわさう（形）　寡慎、たぐひすくなき。

くわさう（名）　蝸牛、かたつぶり、ででむし（動物）。

くわさふ（形）　寡腳、はばき、行脚、むかばき。

くわさふ（名）　火急（極急なるをいふ）大急。

くわさんそ（名）　花金瓜、しまれづみ（動物）。

くわめい（名）　花名、あだな、綽號。

くわみやく（名）　火脈、ひのみちすぢ（火氣の通る地下の脈管）。

くわし（名）　課試、しけん（試驗）。

くわし　花姿、はなのすがた、美姿、美容（美人の姿に云ふ）。

くわし（名）　花枝、あふりいか（動物）。

くわし〔する〕　詩示、こし、はとりしめす、みせびちかす。

くわし（名）　菓子、乾糕（ひぐわし、餻餅（もちぐわし、蒸餻、うまきくひもの。

くわし（名）　花磁、そめつけやきもの、そめつけせともの。

くわし（名）　戲字、あやまりしもじ、轉字。

くわし（俗）（名）　火事、火災、火難、やけごと。

くわし（名）　花見、かたゐ、こびき。

ぐわし（名）　畫師、えかき、畫工、えし。

くわしばをり（名）　火事羽織、救火衣（火事の時に着る外套）。

くわしばん（名）　菓子麺餅、蕈炕麺餅、あぢつけばん、くわしとしてくふばん。

くわしぼん（名）　菓子盆（菓子をのせる盆）。

くわしぢり（名）　菓子盒（くわしいるるぢうばこ）。

くわしぬすびと（名）　搶火（火災に乘じて物を盜む人）。

くわしをり（名）　菓樓、くわしいれをり。

くわしよ（名）　花所、はなどころ。

くわしよう〔する〕（自）　詩稱、ほこる、粉飾。

くわしよう（名）　過剩、あまり、よぶん。

くわしよう（名）　五松、いはれんげ、かはちまつ（植物）。

ぐわしよう（名）　畫乘（繪畫を集錄したるものをいふ）。

くわしよく（名）　華飾、かざり、十花簪、はなかざり。

くわしよく（名）貨殖、かねまうけ、たからをふやすこと。
ぐわしよく（名）臥褥、しきぶとん、しとね。
くわしよぶね（名）過書舟、小さき運送船の名）。
くわしたう（名）窠蘇糖、あるへいたう。
くわしたんす（名）菓子厨、くわしいれだんす。
くわしつ（名）過失、あやまち、とが、過誤。
くわしつ（名）花漆、はなうるし、うつくしきぬりいろ。
くわしつ（名）果實、くだもの、このみ、きのみ、みづがわし。
くわしつ（名）火銃、はくち（火を發す芝）。
くわしや（形名）華奢、はで、はなやか、十もどり。
くわしや（名）火舍（香爐を云ふ）。
くわしや（名）花車、山車、だし、たんじり（祭の、十また鶴母遊女屋即も姐家の妻を云ふ、をんなくつわ。
くわしや（名）菓子屋、菓子商、くわしうり。
くわしや（名）火車、ひのくるま（罪人の魂魂を載する）、十又ひのもゆるくるま（神などが乘るといふ）。
くわしや（名）火叉（置獄をいふ）。
くわしや（名）冠者（くわんじやを見よ）。
くわしやう（名）火傷、やけど火の。
くわしやう（名）支那支那のはこ）の名）。
くわしやう（名）火精、ひとりだま、陽燧（くわしゆを見よ）。
くわしやう（名）花匠、はなや、はなつくり、うゑきや。
ぐわしやう（名）瓦鴈、かはらけさかづき。
ぐわしやう（名）畫匠、ゑかき、ゑし、畫家。

ぐわしやう（名）臥床、臥牀、ねどこ、ふしど。
くわしやう（他）過實、ほめすぎす、過美過譽。
くわしやうやく（名）火傷藥、やけどぐすり。
くわしやうやく（名）和爲鳥、ばうずうを、を美過譽

くわんろく　官祿(官府より賜ふ所の祿)。
くわんばつ〔する〕　燒發、かがやきいづ(大詔燒發などと云ふ)。
くわんはつしう　圓八州(武藏、相模、安房、上總、下總、上野、下野、常陸)。
くわんはう(名)　觀覽、みせものどころ、ものみぶたい。
くわんはう　寛保(日本自二千四百一年至二千四百三年、西洋自一千七百四十一年至一千七百四十三年)年號。
くわんぱう(名)　官報(政府にて事を報知する新聞紙)。
くわんぱう〔する〕(自)　觀望、みはらす、ながめる。
ぐわんぱう(名)、—する(自)　願望、ねがひのぞみ、十ねがひのぞむ。
くわんぱういん(名)　印防印、候印(書畫の初めに押しする印をいふ)。
くわんはうひんじのまじはり　等齊賓時交(齊國の管仲と鮑叔との交情百年一日の如くなりしを稱する語)。
くわんはく(形)　寛博、ひろき、十ゆたか。
くわんばく(名)　關白、攝陸侯、總己百官、執柄(天下の政を天子に代りて掌る最高官の人)。
ぐわんばく(形)　頑薄、はくじやうなる、なさけなき。
くわんばふ(名)　觀法(心を落ち着け佛法を觀念するをいふ)。
くわんばん(名)　官板(官府にて發行する書籍をいふ)。
くわんばん(名)　盤餐、たちひ、てうづだうひ。
くわんにん　寛仁(日本自一千六百七十七年至一千六百八十年、西洋自一千七百一年至一千七百五年)年號。
くわんにん(名)　官人、やくにん、官吏、つかさびと。
ぐわんにん(名)　願人、ねがひにん、ねがふひと、ねがひぬし。
ぐわんにんばらず〔俗〕(名)　頑忍坊主(世俗僧侶を罵つて然かく云ふ)。
くわんぬ〔する〕(自)　緩歩、しづかにあゆむ、そろそろあるく(遊び等に)。
くわんぬ(名)　荒淵、あむしろ、しきござ。
ぐわんぬぐき〔俗〕(名)　願願、願願、願願、

くわんより〔する〕(他)　換用、くりかへもちふる。

くわんようく(名)　慣用句、つかひなれたること ば、イヂオム。

くわんたい〔する〕(他)　緩怠、ゆるかせにすること。

くわんたい〔する〕(他)　歓待、てあつくあしらふ、よくもてなす、厚遇、優待。

くわんだい(名)　眼鏡、ものみだい、十さじき。

くわんだい(名)　管内、よのうち、よのなか、宇内、天下。

くわんだい(形)　寛大、こころひろき、ゆるやかなり、ゆるやか。

くわんだいく(名)　棺匠、ひつぎし、くわんをけやはやをけづくり。

くわんたる(形)　冠冕一たるを云ふ。

くわんだか(名)　貫高、収額の値を云ふ。

くわんたち〔する〕(他)　勧導、すすめみちびく、誘導。

くわんたく(名)　官宅、やくにんのいへ(政府にて官吏に無賃にて貸與して住ましむる家宅、但し重に高地位の官吏に限る)。

くわんたん(名)　売買、あむしろ、ござ。

くわんだん(名)　款段、ありさま、樓子、十また鳥の名。

くわんだん(名)　歓談、款談、たのしきはなし、れんごろのはなし。

ぐわんたん　元旦、正月の一日を云ふ。

くわんれい　官令、かみのふれ、政府の出す令。

くわんれい(名)　官領、くわんりやう、宰、つかさ、をさ。

くわんれい(名)　還礼、(んれい、回礼、謝辭を返しなほすこと)。

くわんれい　喚鈴、よびがね(僕婢を喚ぶ鈴)。

くわんれい〔する〕(他)　勧勵、すすめはげます。

くわんれい(名)　慣例、しきたり、しなちし、習慣、なれ、ならはし。

くわんれう〔する〕(自)　完了、をはる、しまふ、はたす。

くわんれき(名)　還暦、はんけがへり(甲子の歳よりを起算して六十年目には再び甲子に復するを云ふ)、六十歳。

くわんれんせつ　観蓮節(太陰暦六月二十四日を云ふ)。

くわんそ　算租、みつぎをゆるくする。

ぐわんそ(名)　元祖、もとのおや、十はじめて創始者、鼻祖。

くわんそく(名)(—する)(他)　観測、はかること(天體等を)、はかる。

くわんぞく(名)　貫属、貫族、其身の籍の屬する所を云ふ(屬籍)。

くわんつう〔する〕(自)　貫通、つらぬきとほる(意味等が)。

くわんつうさう(名)　貫通創、うちぬききず(銃丸の)。

くわんづめ〔俗〕(名)　鑵詰肉類野菜を鑵に密封したるもの)。

くわんねん(名)(—する)(他)　観念、かんがへさとること、きとりあきらむる。

ぐわんねん　元年、はじめのとし(天子即位の年又改元の年を云ふ)、初年。

くわんない　或くわんだい　管内、しはいうち、管下、治下、支配下。

くわんぱく(名)　黒難、なやみ、わざはひ、艱苦。

ぐわんらい(副)　元来、原来、從来、もとより、本来、はじめより。

くわんらく(名)　歓楽、たのしみ、よろこび、喜樂。

ぐわんらく(名)　玩樂、なぐさみ。

くわんらん〔する〕(他)　観覧、みる、のぞむ、ながめる。

くわんらん　観瀾、なみなみる波浪を見る。

くわんらん(形副)　汍瀾、涙の流るる貌。

くわんらんしや(名)　観覧車、大勢一時に高く登りて観望するを得べき回轉車。

くわんむ　官務、公務、官署の事務。

くわんむだん(名)　歓舞團、たどん。

くわんむてんわう　桓武天皇、人皇第五十代の帝、紀元一千四百四十二年(西洋紀元七百八十二年)より一千四百六十五年迄、在位二十四年、御齢七十歳にして崩ず。

くわんり　関羽、歌舞伎十八番の一、また支那にて劉備玄德の義兄弟たりし三國の豪傑の名)。

くわんのう　勧農、農事を勧めはげますこと)。

くわんのう(名)　官能、動物の器官のはたらき)。

くわんの逆(名)　鬼木(くわんぬき)に同じ)。

くわんぐ(名)　農具、かはあちひだうぐ、たちひなど、洗面器。

くわんぐ〔する〕　完具、まつたくそなはる。

ぐわんぐ(形)　頑愚、かたくなこりかたまれる、おろか。

くわんくわ(形名)　躍躍、かまびすしき、やかましき、喜譁。

くわんぐわい　管外、しはいそと。

くわんぐわつ(形)　寛闊、ひろびろしたる、ゆるやか(服装などに云ふ)。

くわんくわつ(名、—する)(他)　管轄、支配、管理すべをさむる、十つかさどる。

くわんくわう(形)　寛廣、ひろき。

くわんくわく(名)　棺槨、ひつぎ、くわんをけ。

くわんくわとどく　鰥寡孤獨、老いて妻なきを鰥と云ひ、若いて夫なきを寡と云ひ、幼にして父なきを孤と云ひ、老いて子なきを獨と云ふと孟子に見ゆ(やもを、やもめ、みなしご、こなし)。

くわんくわん(副形)　緩緩、のろのろ、そろそろ、のろく。

くわんくわん(副形)　圓圓(和らぎ親しむ貌、また和ちぎ鳴く貌)。

くわんくわん(形副)　燦燦、きらきら、十あきらか。

くわんくわん(形副)　款款、ねんごろ、まごころの、十まごころのまま。

くわんくわん(形副)　桓桓(威勢ある貌、武夫の勇ましきをいふ、また憂ふる貌、耿耿)。

くわんぐわん(名)　官官(支那宮廷に事ふる閹人)にして、古來往々勢力を弄せり)。

くわんぐん　還軍、いくさをひきかへす、旋師(兵を退くるを云ふ)。

くわんぐん(名)　官軍、官兵、皇師、禁兵、禁軍(天子の兵の方)。

くわんや(名)　棺屋、くわんをけや、くわんだい く、ひつぎし。

くわんやう(名)　館陽(内親王を云ふ)、ひめみこ。

くわんや(名)　緩緩、ゆるめぐすり。

くわんや(名)　管鑰、かぎ、鍵。

くわんや(名)　九鑰、まろめぐすり。

くわんまつ(名)　巻末、はんのをはり、ふみのすゑ、巻尾。

くわんまう　寛猛、ゆるやかたけき。

くわんまん(形)　緩慢、おこたる、おこたりおち、のろい、おそい。

くわんけ〔する〕(他)　勧化、すすめくわする(衆生に誘ふ、また俗寺院への寄附金を募る)。

くわんけい(名)　桓主、支那の公爵の用ふる「しやく」。

くわんけい〔する〕　歓啓、つつしんでまうす、恐啓者。

くわんけい〔する〕(他)　款惠、あはれむ、めぐむ。

くわんけい(名)(—する)(自)　関係、かかはり、かかはる。

くわんげい(名)(—する)(他)　歓迎、よろこびむかへる。

ぐわんげい　元慶、日本自一千五百三十七年至一千五百四十四年、西洋自八百七十七年至八百八十四年(年號)。

くわんげいもん(名)　歓迎門、人を歓迎すべく特に設けたる門)。

くわんけつ〔する〕(自)　完結、完了、をはる、できあがる。

くわんげふ　勧業、わざをすすむる(人民の職業或は工業を勧ますをいふ)。

くわんげふさいけん(名)　勧業債券(勧業の目的を以て發行する公債の類)。

くわんげふぎんかう(名)　勧業銀行(勧業の目的を以て開ける銀行)。

くわんげふ　官機、ふれがき(官府の)、官報。

くわんけん　官權、政府の權力をいふ。

くわんけん(形名)　躍躍、かまびすしき、さわがしき。

くわんけん　管見、せまきけんしき。

くわんけん(名)　関鍵、かぎ、十また要處、かなめのところ。

くわんげん　寛元(日本自一千九百三年至一千九百六年、西洋自一千二百四十三年至一千二百四十六年)年號。

くわんげん　管絃、いとなげ、ふきものなりもの(音樂器)。

くわんふ(名)　寡夫、やもを(妻を失なひし男また老いて妻なき者)。

くわんふ(名)　官府、官廳、官署、政府をいふ。

くわんふ〔する〕(他)　還附、かへす、もどす。

くわんぷ　頑夫、かたくなをとこ、ものしらず。

くわんぷつ(名)　灌佛(四月八日の誕生會に釋迦の像に甘茶を灌ぐこと、佛生會)。

ぐわんぶつ(名)　玩物、おもちや、もてあそびもの。

くわんぶつそ(名)　灌佛會(四月八日の佛生會にして此日甘茶を釋迦の像に灌ぐを常とす)。

くわんぶり(名)　鰥寡、孤独、かつけ病者)。

くわんぶく　官服、官職を表する所の衣服。

くわんぷん(名)　官粉、白粉、おしろい。

くわんぶん　寛文(日本自二千三百二十一年至二千三百三十二年、西洋自一千六百六十一年至一千六百七十二年)年號。

くわんと〔する〕(自)　躍呼、よろこびよばはる。

くわんと（名）官庫官府の倉庫。
くわんと（名）管庫、くちばん、くちもり（倉庫を守る人）。
くわんと（形）歓喜、よろこび、なぐさみ。
ぐわんと（形）頑固、かたくな、かたいず。
くわんとつ　換骨、其意を取りて其語を換ふるを云ふ、脱胎換骨を見よ。
くわんとつ（名）完骨、みみのほね。
ぐわんとつ（形）頑骨、かたくなな、いぢはる。
くわんとう　算弘（日本自一千六百六十四年至一千六百七十一年、西洋自一千四年至一千十一年）年號。
くわんとう（形）算洪、おほまか、おほやう、ひろちか。
くわんとうば（名）勅工場（工藝品を廣く陳列して賣る場所、バザル。
くわんとく（すると）（他）勅告、すすめつげる。
くわんてい（名）還程、かへりみち、歸程。
くわんてつ（すると）（自）貫徹、とほる、いたりつらぬく。
くわんてん　貫天、てんをつらぬく。
くわんてん（名）算典、ゆるやかなるおきて、ゆるやかなるしよち。
くわんあい（すると）（他）歓愛、したしむ、いつくしむ。
ぐわんあく（形）頑惡、かたくなにあしき、わんぱく。
くわんさ（名）國左（國東に同じ）。
くわんざ（名）冠者元服すべき年齢の人又無官の六位の人を云ふ。

くわんさい（名）灌祭（酒や獣血等を灌ぎて神を祭むること）。
ぐわんさい　頑才、かたくなごころ。
くわんさいのきんなん　官才三難（人物知り難く、愛憎防ぎ難く、情偽明らかに難し）。
くわんさつ（名で—する）（他）觀察、しらべ、たづね、たづねきはむる活眼を以て觀察する）。
くわんさう（名）觀想（靜かに思想を廻らすこと）。
くわんさう（名）官倉、かみのくら（政府の倉庫）。
くわんさう（名）莞草、菌草、いんう（植物）。
くわんさう（名）萱草（けんさう）、無憂草、蘐草、鹿蔥、丹蝶、忘憂、宜男草、わすれぐさ（植物）。
くわんさく（形）讙噪、さわがしき。
ぐわんさく（すると）（他）玩愛、あぢはひしちぶる、よくあぢはふ。
くわんさん（すると）（自）渙散、こぼれちる、ちりゆく。
んわんぎん（すると）（自）元三正月一日を云ふ（元旦）。
ぐわんさん（名）還宣、のがれかくる。
くわんさ（すると）（他）喚起、よびおこす、よびさます。
くわんさ　緩期、にちげんをのべる、ときをゆるくする。
くわんさ　算哥（日本自一千八百八十九年至一千八百九十一年、西洋自一千二百二十九年至一千二百三十一年）年號。
くわんさ（名で—する）（自）歎喜、よろこび、よろこぶ。
ぐわんさ（名）玩具。

くわんさい（名）貫採、貫聚、うちじろ、おにわちび（植物）。
くわんさよ（名）官許、允許、かみのゆるし（政府の許可）。
くわんさよ（すると）（自）隱居、ひとりずまひする（男が）。
くわんさよ（名）還御（天子の御歸りを云ふ、還幸）。
くわんさよ（名）鼈魚、あめのうを（動物）。
くわんさよう（名）環拱、はなのかかえ、かかえ。
くわんさよく（名）歓曲、よしみ、したしみ。
くわんさう（名）菅眩、うまやをつかさどるもの、べつたう。
くわんさうふ（名）菅眩夫、べつたう（馬を守る人）。
くわんさやく（すると）（他）還却、かへししりぞくる、もどす。
くわんさやく（すると）（自）歓躍、じやちつく、おどける。
くわんさふ（すると）（他）還給、かへしてやる。
くわんさふ　緩急、ゆるやかいそぎ、ゆるききびしき、十事變、ふやのべきこと。
くわんさふしや（名）緩急車汽車などの緩急を加減する車。
くわんさん　官金、かみのかね（政府の金子）。
くわんさん（形）頑嚚、かたくなにかまびすしき。
くわんさんひせう（名）官金費消、かみのかねのつかひこみ、十監守盜。
くわんゆ（形）算裕、ゆるやか、十おほやう。
くわんゆ（すると）（他）勅諭、すすめさとす。
くわんめ（名）貫目、めかた、はかりめ、おもみ。

くわんめん（すると）（他）算免、ゆるやかにしてゆるす。
ぐわんみ（すると）（他）歓味、よくあぢはふ、もてあそぶ。
くわんみん　官民（政府と人民）。
ぐわんみん　頑民、かたくなのたみ。
くわんし（名）官司、つかさ、官署、やくしよ。
くわんし（名）卷子、へそ、鎮纜。
くわんし（名）冠詞（外國語の名詞の上に冠らせて其定不定等を定むる詞、日本語には之れ無し）。
くわんし（すると）（他）觀示、しめす、しらせる。
くわんし（名）卷耳、葛耳、をなもみ（植物）。
くわんじ（副）恋爾、につこり、にこにこ。
くわんじ（名）還解、へんじ、かへりごと。
ぐわんし（名）鈎子、くぎぬき。
くわんしよ（名）患處、なやむところ（病氣のあるところ）。
くわんしよ（名）官署、やくしよ、官廳（政府の事務を執り行ふ處）。
くわんじよ（すると）（他）緩舒、ゆるやかにする、ゆるす。
くわんじよ（すると）（他）算恕、ゆるやかにする、十のばす。
ぐわんしよ（名）願書、ねがひしよ、ねがひがき。
くわんしよう（名）喚鐘、よびがね、よびりん、喚鈴人を喚ぶに鳴らす鐘。
くわんしよく（名）官職、やくめ、つとめ（政府の）。
ぐわんじつ　元日、はじめのひ（正月の第一日を云ふ、元旦）。
ぐわんじつさう（名）元日草、福壽草（植物）。

くわんしう（名）貫聚（くわんじゅを見よ）（植物）。
くわんしう（すると）（自）環周、めぐる、まはる。
くわんしや（名）官舎（官省に附屬する家にして其官吏を住ましむるに供す）。
くわんしや（名）館舎、やかた、おほいなるいへ。
くわんしや　官社（官幣社をいふ）。
くわんじや（名）患者、びやうにん（病人）、やむひと。
くわんじや或**くわんざ**　冠者（貴顯の年少き者を昔し然か云へり、即ち初めて加冠する人、また加冠すべき年の人などを常に然か云へり）、うひかうむりするひと。
くわんじや（名）宦者、みやつかへするひと。
くわんじや（すると）（他）勧奬、すすむる、はげむ。
くわんしよ（名）貫採（くわんじゅを見よ）（植物）。
くわんしよう（すると）（自）環遊、めぐる、まはる。
くわんしやく　官爵、やくくちゐ（官職と爵位）、官位。
くわんじやく（形）緩緩、まだるき、のろい。
くわんしふ（名）慣習、しきたり、ならはし、十くせ、習慣、風習、風俗。
くわんしき（名）歓式、もやう、しくみ、樣子。
くわんしき（名）歓諭、藉歓書藉に其罪者の名を表する印。
くわんしゆ（形）慣手、てだれ、くろうと。
くわんしゆ（名）貫首（山門の座主即ち一宗の長たる僧を云ふ）。
くわんしゆ（名）管守、つかさ、まもりて。
くわんしゆ（名）琴首、かぶろ、かむろ。
くわんじゆ（名）貫聚、百頭草、風頭、うちじろ、やぶそてつ、くまわちびのたびひ（植物）。
ぐわんしゆ（名）願主、ねがひぬし、ねがひて、ほうがのねがひぬし。
くわんしゆたう（名）貫手蝦、ゆびぬき。
くわんじゆう（すると）（他）算縱、ゆるやかにする。
くわんじゆん（すると）（自）慣順、なれる、十しなれる。
くわんしん（すると）（他）喚喚、よびだしてしらべる。
くわんしん（名）歓心、歓心、よろこび、歓心、よくおもふところ。
くわんしん（名で—する）開心、管心、ところにかかる、こころにかくる。
くわんじん（形）算仁、あわれみふかき、なさけふ

くわんしやうたい（名）觀音草、天文草を云ふ。
くわんしうし（名）管城子、筆の異名。
くわんじやうし（名）官賢、やくくちゐ（官職と爵位）、官位。
くわんじやく（形）緩緩、まだるき、のろい。
くわんしふ（名）慣習、しきたり、ならはし、十くせ、習慣、風習、風俗。
くわんしき（名）歓式、もやう、しくみ、樣子。
くわんしき（名）歓諭、藉歓書藉に其罪者の名を表する印。
くわんしゆ（形）慣手、てだれ、くろうと。
くわんしゆ（名）貫首（山門の座主即ち一宗の長たる僧を云ふ）。
くわんしゆ（名）管守、つかさ、まもりて。
くわんしゆ（名）琴首、かぶろ、かむろ。
くわんじゆ（名）貫聚、百頭草、風頭、うちじろ、やぶそてつ、くまわちびのたびひ（植物）。
ぐわんしゆ（名）願主、ねがひぬし、ねがひて、ほうがのねがひぬし。
くわんしゆたう（名）貫手蝦、ゆびぬき。
くわんじゆう（すると）（他）算縱、ゆるやかにする。
くわんじゆん（すると）（自）慣順、なれる、十しなれる。
くわんしん（すると）（他）喚喚、よびだしてしらべる。
くわんしん（名）歓心、歓心、よろこび、歓心、よくおもふところ。
くわんしん（名で—する）開心、管心、ところにかかる、こころにかくる。
くわんじん（形）算仁、あわれみふかき、なさけふ

き。

くわんじん〔する〕〔名〕〔他〕 勸進寺院等の爲に寄附金を勸め募るをいふ。

くわんじんちやう 勸進帳 市川家歌舞伎十八般の一。

くわんじんたいど 寛仁大度、こころひろくあはれみふかき。

くわんじんもと 勸進元 相撲演劇等の金主をいふ。

くわんえい〔する〕〔自〕 貫登、みちつちぬく、罪惡等が。

くわんえい 寛永 日本自二千二百八十四年至二千三百三年、西洋自一千六百二十四年至一千六百四十三年）年號。

くわんえいつうはう 寛永通寶 錢貨の名、今の二厘錢なり俗に之を背錢といふ。

くわんえいのさんぽ 寛永三補 土井利勝、青山忠俊、酒井忠世の三老中をいふ、德川家光を輔佐したる人々なり。

くわんえつ〔する〕〔自〕 歡悅、よろこぶ、たのしむ、喜悅。

くわんえん〔名〕 蓆延、ござ、ゐしろ。

くわんえん 寛延 日本自二千四百八年至二千四百十年、西洋自一千七百四十八年至一千七百五十年）年號。

くわんび〔名〕 官貫、かみのつひえ、政府にて費用を支出するをいふ。

くわんび〔する〕〔自〕 完備、まつたくそなはる、全備、完具。

くわんもつ〔名〕 官物、かみのもの、政府に屬する物。

くわんもん〔名〕 關門、せきしよ、通路に設けて人の出入を檢する處。

くわんもん〔名〕 願文、ねがひぶみ、願書之文。

くわんぜ〔名〕 坂戸、謠の觀世。

くわんぜ 觀世 氏。

くわんぜい 管聲、ふえのね、ふきもののもと。

くわんぜい 寛政、ゆるきまつりごと。

くわんぜい 寛正 日本自二千百二十年至二千百二十年、西洋自一千四百六十年至一千四百六十五年）年號。

くわんぜい〔する〕 完濟、還濟、はらひずみ、はらひすます、はらひきる。

くわんぜい〔名〕 關西、坂西、關西 函根以西をいふ、關東に對す。

くわんぜい 寛政 日本自二千四百四十九年至二千四百六十年、西洋自一千七百八十九年至一千八百年）年號。

くわんぜい〔名〕 關稅、輸出入物稅 稅關にて取立つる金。

くわんぜいれき 寛政曆 天保以前に用ひし所の曆をいふ。

くわんぜれん 觀世音 觀音菩薩をいふ。

くわんぜつ〔名〕 貫節、貫穿、うちとぢ、ぬにわらび、植物。

くわんぜつ〔名〕 關節、つがひ、ふし、手足等の。

くわんぜつ〔名〕 管節 竹を以て作りたる支那の「ありふ」の名。

くわんせつ〔する〕〔他〕 待遇、款接、よくもてなす、款待を見よ。

くわんせつ〔する〕〔他〕 勸說、ときすすめる。

くわんせつ〔する〕〔自〕 冠絕、すぐれる、ぬきんでる。

ぐわんせつ〔名〕 丸雪、あられ、霰、十（う）。

ぐわんぜない〔俗〕〔形〕 無頑是 小兒の如く物事の是非善惡を辨じ得ざるをいふ、あどけなき。

くわんぜう〔する〕〔自〕 環繞、まはる、周圍を、めぐる、めぐりかこむ。

くわんせふ〔名、—する〕〔自〕 關涉、かかはりつきあひ、かかはる、かかはりあふ。

ぐわんせき〔名〕 頑石、あらいし、きちがいし。

くわんぜじる〔名〕 觀世汁 料理法にて豆腐を薄くきりて混入し蒸を引きたる味噌汁をいふ。

くわんせん 官選、かみのえらみ、政府或は官廳にて選擧するをいふ。

くわんせん〔する〕〔他〕 貫穿、つらぬく、つきとはす。

くわんせん〔する〕〔自〕 環旋、めぐる、まはる、めぐるぐる。

くわんせん〔形〕 完全、まつたき、かけなき。

くわんせん〔名〕 勸善、よきことをすすむる。

ぐわんせん〔名〕 頑癬、なまず、たむし 皮膚のやまひ。

くわんせんちようあく 勸善懲惡、よきをすすめあしきをこらす、教訓。

くわんせんより〔名〕 紙縒、紙撚、こより、かうより、かみより。

くわんせんむけつ〔形〕 完全無缺、毫も缺點なくして全きをいふ。

くわんせんきよく 管船局、ふねのつかさ、船舶の事を主る官署。

くわんす〔名〕 貫主、佛家にて宗の長を指か云ふ。

くわんす〔名〕 鐵子、茶の湯を煮る具、今通じて釜と稱す、くわんし。

ぐわんす〔名〕 頑子、ばかもの、人を罵りていふ語。

〔圖の子鐵〕

くわんする〔する〕〔自〕 緩乘、たるむ、ゆるくたれる、絲等が。

くわんするいちご〔名〕 蓬蘽子 筑前の方言、くさいちご、植物。

くわんずる〔他〕 觀、みとめる、さとる。

くわんすう 卷數、まつかず、本の、まきのかず。

くか〔名〕 若布、にがなすび、植物。

くか〔する〕〔自〕 歌呵、わらふ、笑。

〔くが〕 久賀、久我、こが、氏。

くが〔名〕 陸、りく、をか、海に對す、乾土。

くが〔名〕 狗牙、きば、いときりば。

くがい〔名〕 苦界、苦海 遊女町をいふ、うきかはたけ。

くがいさう〔名〕 九蓋草、草本、威靈仙、ゐれいせん、植物。

くがへ〔名〕 探湯釜、探湯鼎、くがたち、の湯を沸かす釜。

くがぢ〔名〕 陸路、をかぢ、くがみち、海路に對す。

くがだち〔名〕 賢神探湯、うちなひ、の一の仕方にて神に祈誓を立て沸湯に手を入れ其手の腐爛すると否とに因りて正邪曲直を判別すること。

くかり〔する〕〔自〕 肝衝、あどろきみる、驚見驚。

くがく〔する〕〔自〕 苦學、くるしみてまなぶ。

くがくせい〔名〕 苦學生、家貧に學資乏しくして苦しみ働きつゝ學問する人。

くかどほり 玖珂郡 周防國の郡の名。

くがみち〔名〕 陸路、くがぢ、くがのみち、旱路、陸途。

くがひ 久貝、氏。

くかん〔名〕 苦寒 太陰曆十二月の異名。

くかん〔名〕 苦蔵、はげき、植物。

くかん 苦甘、にがきあまき、くるしみたのしみ。

くかん〔名〕 鑵幹、かち、體軀、み。

くようわう〔名〕 狗蠅黃、くさひばり、動物。

くよく〔名〕 鷗鷁、八哥、はばう、動物。

くよくよ〔俗〕〔副〕 憂悶、心に憂（思ふ）鬱、くやくや。

ぐよぐよ〔俗〕〔副〕 うようよとに同じ。

ぐだ〔名〕 管、管子、竪、篠、篌、筵、等（すべて竹の如く中の空なる細長き具をいふ。

ぐだ〔名〕 驢、ろにやぐ、ちうろ、やくはちひ。

ぐだ〔形〕 愚、愚、あはう、おろか。

くたばる〔俗〕〔自〕 斃、たふれる、しぬる。

くたに〔名〕 苦膽、龍膽 一名、植物。

くたにやき 九谷燒 加賀國の九谷にて製造する陶器。

くだざめ〔名〕 管留、管鎖 管のとめ。

くだり〔名〕 件、行、文字 を長く書き列ねたる一行をいふ。

くだりはら〔名〕 瘧、瘧病、瘧病、泄瀉、はらくだり、げり、下痢。

くだりあめ〔名〕 飴、ひづあめ、食物。

くだりぶね〔名〕 順流船、川下に赴く船。

くだる〔自〕 降、降服、かうさんする、したがふ。

くだる〔自〕 下、降、さがる、十おる、おりる、下降、下來。

くだかけ〔名〕 蒙霧、かけ、にはとり、動物。

くだかけどり〔名〕 雞、くだかけ、にはつどり、いつどり、動物。

くたかしま 久高島 琉球中部諸島の一にて神繩島の東岸に在る小島。

くたたま〔名〕 管玉 上古珍重せし玉にて其形管の如し。

くたら〔名〕 百濟 上古三韓の一たりし國。

くだらぬ〔俗〕〔形〕 不下、愚妄、つまらぬ、もろか、ばかもしき。

くたらがは 百濟川 攝津國平野川の古稱。

くたらまつ〔名〕 朽斧松、まつのたぐひ、植物。

くだらごと〔名〕 箜篌、くご、琴の一種。

くたり〔名〕 苦桃、にがもも、植物。

くたり或ぐたり或ぐちより〔形〕 愚、愚、もろか、ちうろ、なき、あはう。

ぐだう 求道、みちをもとむる、宗教の道を求むるをいふ。

くたのを〔名〕 管繩、ておもみのを、管鎖の。

くだのふえ〔名〕 管笛、小角、戰時に用ふる笛。

くたく〔名〕 苦澤、甘草、かんぞう、植物。

くたく〔他〕 碎、搗、破碎、粉碎、破壞、破毀、擊破、打破、打碎、鑛物、搗壞、うちこはす、搗。

くたくだし〔形〕 瑣瑣、瑣瑣、瑣瑣、瑣瑣、瑣瑣、わづらはしき。

くたやり〔名〕 管鎖、くだのつきたるやり。

くたさる 被下、たまはる、あたへる、やる。

くたみ 朽藤、雪後 國直入郡の地名。

くたしぐすり〔名〕 下側藥、つうじぐすり。

くたびれる〔俗〕〔自〕 草臥、勞倦、疲勞、倦怠、つかれる。

くだもの（名）果、木實、果實、菓、草實、きのみ、このみ、みぐやわし。
くだものかご（名）果物籠、くだものをいるるかご。
くだす（他）瀉、はらよりいだす（病病にて）。
くだす（他）下、降、さげる、おろす、十鵬、ひくくする位を。
くたん（名）苦膽（膽膽の一名）（植物）。
くたんのごさし　如件（文書の終りに用ふる詞にて前限の如しと云ふ義に當る）。
くれ（名）呉氏。
くれ（名）榑、きのな（植物）、十又やねいた。
くれ（名）暮、晩、昏、ひくれ、ゆふがた。
くれはざり　呉織（支那呉縣の女工の雄略帝の朝に本朝に來りし者を然か名づく）。
くれはし（名）呉橋、やねのあるはし。
くれぢ（名）暮程、暮途、くれがたのみち、くれごろとはるみち。
くれる（俗）（他）與、あたへる、やる。
ぐれる（俗）（自）顛、狂、まちがふ、そこねる。
くれわりづち（名）堀槌、木斫、鑄、つちわりづち。
くれがた（名）副）暮方、薄暮、日暮、黄昏、夕陽ゆふぐれ、たそがれ。
くれたけ（名）呉竹（植物）。
くれつかた（名）日暮、薄暮、ゆふがた、くれがた。
くれなる（形名）紅、紅色、ふかくあかき、緋（赤と白との間色）。
くれなるの（名）呉藍草の名（植物）。
くれなるの　呉藍（あさばののう）（うつつ心等の枕詞）。
くれのはじかみ（名）生薑、しやうが（百韓雲、辛菜植物）。
くれのれも（名）與茘、蘡香、ひるのたぐひ（植物）。
くれぐれ（名）饒能登に産する魚（動物）。
くれぐれ（副）呉呉、諄諄、丁寧、反覆、かさねがさね、かへすがへす。
くれまつ　久迹松氏。
くれまさちやう　榑正町（東京市日本橋區の町）。
くれまさきむら　呉崎村（豐後國西國東郡の村名）。
くれき　眞繰氏。
くれんじ（名）苦楝子（植物）。
くれ（名）屎、糞、ふん、だいべん、はこ。
くれ（名形）苦楚、なやみ、くるしみ、くるしき、いたき。
くそばへ（名）蓄蠅（動物）。
くそさび（名）鷲、鷹、鵰、まぐそつかみ（動物）。
くそわた（名）小鵰、せうもやう。
くそわたぶくろ（名）胃、ろのふ。
ぐそう　愚僧、おろかのばうず（又僧但諺遜の辭に用ふ）。
くそうじ（名）屎組、壁蝨、推丸、まるむし（動物）。
くそうざまり　九鬼泊（陸奥國下北郡の海港）。
くそく（する）（他）拘束、しばる、そくばくする。
ぐそく　愚息、おろかのせがれ（自分の男子を人に向ひて指す詞）。
ぐそく（俗）（名）具足（金盥のまま煮たるいせえび、多くは輪切りにする）。
ぐそくに（名）具足鎧兜（靴を足にはめるに用ふる具）。
くそぐる（他）等閑、くすぐる、こそぐる、おかしくみちする。
ぐそくたね（名）具足額（四十八棚の一）。
ぐそくぐら（名）具足蔵、よろひぐら。
ぐそくまち　具足町（東京市京橋區の町）。
ぐそくし（名）具足師、鎧人、鎧匠、よろひづくり、
ぐそくひつ（名）具足櫃（具足を入れおくひつ）。
ぐそくろ（名）胃、ろのふ。
くつ（名）履、はきもの、十鞋（靴、かはぐつ、靴、香、鞋、鞋）
わらぐつ（この圖は往昔舞の樂に用ひしもの、大和國東大寺八幡宮新倉藏）。

くつ（自）朽、くされる、くちる。
くづ（名）屑片、すたりどころ（物の）、十屑布、ぼろ。
くづいと（名）屑絲（絹絲の粗なるもの）。
くづいつさう（名）屈輪草（植物）。
くつろかに（副）寛、ちくに、くつろいで。
くつろぐ（自）寛、放寛、甘、ちくにゐる、ざをくづす。
くつろぎどの（名）便殿、休息所、やすみどころ（儀式の時等に行きて休む處、便所）。
くつはらひ（名）靴掃、くつばけ。
くづはらひ（名）屑掃、ごみはちひ。
くつばけ（名）靴刷毛、靴刷子、くつこすり。
くつばみ（名）馬銜、銜、鐵、くくみ、はみ、くつわ（馬の）。
くづほる（他）類、衰頽、よわる、おとろふ、やせる。
くつほぐ（自）寛、くつろぐ、ちくにゐる。
くつへら（名）香鬻、靴篦（靴を足にはめるに用ふる具）。
くつざう（名）髄頭、きりかぶ、斬株。

くつち（名）癡狂、きちがひ、癡狂人。
くつちやみ（名）顛癇、てんかん、顛狂（病の名）。
くづりゆうがは　黒鐵川（越前國の有名の川、美濃の界より出づ）。
くつぬぐひ（名）靴拭、くつこすり。
くつぬぎ（名）香殿入口の土間。
くつぬぎいし（名）屋殿石（入口の土間にある石）、くつぬぎ。
くつる（自）朽、くさる（くちるをみよ）。
ぐづる（俗）（自）哄、咳、つぶやく、こごといふ。
くづをれる（自）顛折、顛墮、よわりかがむ、ちかちなくなる。
くつわ（俗）（名）忘八（遊女屋の事にて孝悌忠信禮義廉恥の八を皆忘るるが故にしか書く）、馬伯六、馬鹿、孤老、十鶴母、鶴子、をんなくつわ。
くつわ（名）轡、鑣、銜、馬勒、汗顔、排末、馬銜（馬の口に含ます金具にて口の中に在る部分を馬勒（はみ）と呼び口の兩角に出でたる部分を鑣（かがみ）と云ふ）本圖なるは豐臣秀吉公所用といふ。

轡の圖

くつわがひ（名）馬珂螺（動物）。
くつわだ　轡田、七寸五分氏。
くつわづら（名）鐔轡、くつわ。
くつわむし（名）轡蟲、鐔蟲、鑾蟲、聒聒兒、紡績娘、蟀蟋蛬、がちやがちや（動物）。
くつわざき（名）轡前、くつわづらの前。
くつがは　黒津川（近江國に在る川）。
くづかはむら　久津川村（山城國久世郡の村名）。
くつがへりたふれる（自）顛倒、ひつくりかへる。
くつがへる（自）はろびる。
くつがた（名）靴型、靴に形を與ふる器。
くつがけ　香掛（尾張國愛知郡の地名、また下總國銚島郡の村名）。
くつかけえき　香掛驛（信州小縣郡なる有名の宿驛にして追分驛に隣れり）。
くつかぶり（名）香冠、和歌の一體にて第一の句の末の字を次の句の初に冠らしめ次次に然かするもの。
くつかき（名）香蜆、牡蠣の一種（動物）。
くつかみ（名）屑低、かみくづ、すたりがみ。
くづたか（名）鵄尾、屋背に載する瓦の名、とりぶすま。
くつだら（する）（自）屈纏、たゆむ、きおをれる。
くつたく（俗）（名）（—する）（自）屈託、しんぱい、わづらひ、くよくよおもふ。
くづれる（自）崩、類、隤、こはれる、やぶれる、崩潰、潰敗、陵夷、土崩瓦解。
くづれや（名）敗宅、破屋、あばちや。
くつぞこがれひ（名）靴底魚、したびちめ（動物）。
くつつく（俗）（自）野合、私通、ひそかにちぎりあふ（男女が）、苟合。
くつつくり（俗）（自）結著、ねばりつく。
くつつくり（名）履工、靴工、くつをつくるひと、くつや。
くづね（名）方頭魚（動物）。
くつう（名）苦痛、くるしみたみ、苦惱。
ぐつう（する）（他）弘通、ひろめる教法を。
くつのと（名）口籠（くつこを見よ）。
ぐづぐづ（俗）（副）遲緩、のろのろ、てまどりて。
くつくつぼうし（名）鷹峰（動物）。
くつくつわらひ　驕笑、ひそかわらひ、ぬすみわらひ。
くつくき（名）鳳藤（植物）。
くつや（名）靴工、くつつくり。
くづや（名）屑屋、屑商、かみくづかひ。
くづや（名）茅屋、草蔵、わちや、くさや。
くつまき（名）履紐、矢足（矢の篠を矢幹に縛りつけたる處）。
くつけつ（名）窟穴、いはあな、はちあな。
くつげん　屈原（楚の學士にして三閭大夫となり後ち讒せられて汨羅と云ふ河に沈めり）。
くつぶく（する）（自）屈伏、かがみふす、したがふ、まける。
くつどつ（形副）嶇嶇、たかくそびえたる山にいふ。
くつて（名）香代、くつをかふぜに古語、靴價。
くつてどり（名）香代鳥、子規、ほとぎす（動物）。
くつあ　朽木氏、また近江國に在る有名の地。
くつき（する）（自）嶇起、たかくおこる、そびえる。
くつきり（俗）（副）明白、はつきり、きつぱり。
くつきよ（する）（自）屈居、ちぢかまる、かがみをる。

くつきよく（する）（自）　屈曲、かがまる、まがる。
くつきり（名）　鷸鴕、いかるが（動物）。
くつきのそま　朽木杣（近江國高島郡の谷の名）。
くりきやり（形）　究竟（きうきやう）、つまりの、最後、蹂躙。
くつきやり（形）　倔強、つよき、たつしや、十又はどよき。
くつし　屈指、ゆびをかがむる、ゆびをり。
くづしがき（名）　省筆、略筆、りやくしがき、十草書はしりがき。
くつじよく（する）（他自）　屈辱、はづかしむる、はづかしめられる。
くつした（名）　靴下、襪、靴の下にはく足袋。
くつしくわ（名）　屈子花、にうめんちん（植物）。
くつしき（名）　履屐、履底の敷物を云ふ。
くつじゆう（する）　屈從、かがみしたがふ、屈服。
くつしゆく（する）（自）　屈縮、ちぢむ、ちぢかまる。
くづししきり（名）　九頭師子草、はぐろさう（植物）。
くつしん　屈伸、のびちぢみ、伸縮。
くつ糸つ（名）　鏡鋏、ねりぬきがね。
くつひも（名）　紐鞋、くつのむすびを。
くつせつ（する）（自）　屈折、をりかがむ、まがる。
くづす（他）　崩、こはす、十やぶる。
くつすり（名）　靴摩、くつをすりへらすもの。
くつする（自）　屈、かがむ、十したにつく（人の）。
くつずみ（名）　枕根、笹、籬、かきね、まがき、いけがき。
くねぼ（名）　九年母、乳柑、くねんぼ（植物）。

くねりみち（名）　曲道、まがりまがりたるみち。
くねる（自）　屈曲、まがる、うねくる。
くねんぼ（名）　九年母、香橘、委橘、乳柑（植物）。
くねんしゆ（名）　九年酒、ふるきさけ。
くね　勿來、くるな、きたるなかれ。
くないだいじん（名）　宮内大臣（宮内省の長官）。
くないきやう（名）　宮内卿（古への官名、今の宮内大臣）。
くないしやう（名）　宮内省（天子の御家の事を管理する官廳）。
くなたぶれ（名）　頑狂、なはりがたききちがひ、かたくなきもがひ。
くなう（名）　苦惱、くるしみなやみ。
くなじりどほり　國後郡（千島國の郡の名、國尻とも書く）。
くなん（名）　苦難、くるしみ、なんぎ、なやみ。
くら（名）　倉、庫、蔵、金銀器物等を蔵むる所、十廩、こめぐら。
くら（名）　鞍（馬の背に置きて其上に座する具）。

鞍の圖

（甲）（前）　（後）（甲）　（乙）

（甲圖は大和國貴山本禪院藏梅正成御所用、乙圖は美濃國大井驛長國寺藏根津是行所用）。

くらる（名）　位、すわるところ（天子の、十ゐかい（位階）、はまれのしな。
くらるにつく　即位（天子が帝位に即きたまふをいふ、みよしろしめす、登極。
くらるやま　位山（飛彈國大野郡に在る山）。
くらはし　倉橋（氏）。
くらはし　倉梯（崇峻天皇の都したまひし地にして大和國に在り）。
くらはしだいとん（名）　椋橋薬酪（和泉國椋橋に産する大根）。
くらはしやま　椋橋山（大和國及び丹後國與謝郡に在る山）。
くらはせる　令喫、くはせる、たべさする「くちふ」の他動詞。
くらばん（俗）（名）　管庫、くらつかさ（倉庫を守るひと）。
くらはんかぶね（名）　不食乎船（昔し伏見より平方に通ふ三十石船と云ふ客船を中途に泊りて飯理に食品を乘客に賣りつけたる小船を然か呼べり其「くらはんかぶね」に乘る船頭等は昔し家康を助けし功によりて此特許を與へられたるなりと云ふ）。
くらぼね（名）　鞍貫馬の鞍の木。
くらべる（他）　比、較、比較、較比、方、較對、あはせみる、參酌（くちぶるを見よ）。
くらべうま（名）　競馬、きそひうま、けいば、うまかけ。
くらち　倉地（氏）。
くらぬき　鞍貫（氏）。
くらねぼひ（名）　鞍乾、鞍挽、くらかけぎぬ（馬具）。
くられく　鞍蔵、くらかけを、くらつける。
くられきざころ（名）　携鞍肉（馬の背の鞍を載すべき部、うまのせなか。

くられきうま　鞍馬、鞍置馬、くらかけたるうま。
くらがへ（俗）（名）　鞍替、すみか（遊女が他の娼家に移ること、鞍替する或させるなど云ふ）。
くらかどべ　倉門部（氏）。
くらがり（俗）（名）　暗處、くらきところ。
くらがりたちげ　暗樹（大和國生駒郡に在りて河内國中河内郡に跨る山）。
くらがだけ　鞍ケ岳（加賀國石川郡及び肥後國阿蘇郡に在る山）。
くらがのまち　倉賀野町（上野國群馬郡の町名）。
くらかけ（名）　鞍架、くらのせだい、くちをかけあくうつは。
くらかけまめ（名）　斑豆（植物）。
くらかみ（名）　上座、かみざ、しやうざ。
くらよしまち　倉吉町（伯耆國東伯郡の町名）。
くられう（名）　内藏寮（官内省に屬して帝室の御物を納めし所）。
くらつぼ（名）　鞍屑（鞍の上の座する處）。
くらつかさ（名）　内藏寮、くちれう。
ぐらつく（俗）（自）　動搖、ぐちぐちする、十うどきゆれる、十まゐ（目が）くるめく。
くらつくり（名）　鞍工（鞍を製造する人）。
くらなしのはま　倉無濱（紀伊國の地名）。
くらら（名）　苦蓼、くじん、くさえんじゅ、まひりぐさ（植物）。
くらむ（自）　暗、くちくなる（心が、十眩、瞑（目が））。
くらう（名）　劬勞、くるしみつかれ、ほねをり、十子の爲めのくるしみ。
くらう　苦勞、ほねをり、十なんぎ、なやみ。
ぐらう　愚老（老人の自ら稱する謙辭）。

くらうど（名）　蔵人（古へ禁中校書殿の御蔵書を管理したる職の稱）。
くらうどどころ（名）　蔵人所（「くちんどどころ」を見よ）。
くらうち（名）　鞍匠、鞍子匠、くちつくり、うまのくちをつくるひと。
くらのかみ（名）　内藏寮頭、倉藏衣服金銀を掌る官、唐の倉部郎、少府監、倉衣寮卿、藏帑令とれに當る）。
くらのつかさ（名）　内藏寮、ないざうれう。
くらのすけ（名）　内藏助（古への官名、唐の倉部員外郎とれに當る）、十内藏允（助に亞ぐ者にて大少に分る、唐の倉部丞、少府丞これにあたる）。
くらく　苦樂、くるしみたのしみ、憂喜。
ぐらぐら（俗）（副）　動搖、ぐちつきて、十ゆりうごきて、十めがまひて。
くらぐらに（副）　黄昏、たそがれに。
くらやみ（名）　黒暗、闇夜、まつくらなるところ。
くらやしき（名）　倉屋敷、廩地、とめぐちのあるところ。
くらまへ　藏前（東京淺草區の地名、德川時代の米廩即ち納藏の所在地）。
くらまがは　鞍馬川（山城國大悲山より出でて賀船川に合す）。
くらまくら（名）　鞍枕（鞍の上に設けたる枕の如きもの）。
くらまやま　鞍馬山（山城國愛宕郡に在る山）。
くらまさり（名）　狄牡丹（植物）。
くらまぎれ（形）　紛暗、くちきにまぎれこむ。
くらまじ　鞍馬寺（山城國に在る有名の古寺）。
くらます（他）　令暗、くちくする、十眩惑、みえなくする目を）。
くらげ（名）　海月、海母、海鏡（動物）。
くらふ（他）　喫、食、噉、啖、喰、餐、喫、哩、咀嚼、咀嚼、飯食、喫食、たべる、くふ、かみてのむ（口にて）。
くらぶ（名）　倶樂部、くみあひ、よりあひ、會（英語club）。
くらぶる（他）　比、角、方、比較、對照、競、較、比方、あはせみる、てらしあはせる（「くらべる」を見よ）。
くらふね（名）　倉船、廩船（貨物を容れ置ふる爲めの船）。
くらぶやま　暗部山（山城國愛宕郡に在りて和歌に名高し、また暗部の野といふあり）。
くらて　鞍手（氏）。
くらてごほり　鞍手郡（筑前國の郡の名）。
くらあぢ（名）　鞍味、のりどころ、のりどころ馬に乘りたる具合。
くらあづかり　藏預、主藏奴、くちばん。
くらき（形）　暗、昏、闇、冥、暝、昏冥、昏黒、幽暗、黒暗、闇夜、暗昧、曖昧、冥濛、曖蒙、暗冥、昏暗、曖昧、暗晦、あかるくなちぬ、十蒙昧、ひちけぬ、十盲昧、めがみえぬ。
くらきごほり　久良岐郡（武藏國の郡の名）。
くらきみち　冥途（めいど）、よみぢ、泉下、黄泉（くわうせんを見よ）。
くらめに（副）　黄昏、たそがれに、ひぐれがたに。
くらめつけ（名）　瞎官、くちかた、くちをつかさどるつかさびと。
くらみつ　倉光（氏）。
くらし（名）　活計、活業、農業、營業、家計、すぎはひ、なりはひ、よすぎ。

くらじり（名）下座、しもざ、まつざ。
くらしかた（名）暮方、暮事、よすぎ、度生、渡世（とせい）。
くらしき（名）食敷、膳料、くらだい（倉庫の貸賃）。
くらしき（名）鞦鞍、鞦韆、鞍、ばせん、くちのしきもの（馬具）。
くらひとむ〔俗〕〔自〕食込、しばちなる、とち（ちな、かちぬちなる盜賊）。
くらす（自）暮、消光、生活、ひをあくる、よをわたる。
くらずれ（名）鞍擦（馬などの背に鞍のために生ずる傷、又くちのこすれ。
ぐらすど　哥拉斯哥、蘇格土蘭の都府。
くらんどどころ（名）藏人所（繼體天皇の弘仁元年に初めて之を置く、支那の侍中内侍の職に模す、くちうどどころ。
くむ（他）組、あむ、十交、又、拱、こまぬく、ぶつちがへる。
くむ（他）汲、酌、挹、斟、斟酌、拒返、すくひあぐる（水等を）。
くう（名形）空、そら、蒼空、穹空、虛空、十むなしき、かち。
ぐう（形）偶、おもはざる、まぐれ、ふとしたる、十ちやう歌の。
ぐう〔する〕〔自〕偶、つれだつ、つれをふ。
ぐう〔する〕〔他自〕寓、よせる、ふくませる、意味を、たくする託、やどる、とどまる。
ぐうい（名）偶意、ぐうきごころ。
ぐうい（名）寓意、よせたるこころ、いみをふくまする事と觀判などの意味を文中に含ませたるをいふ。
くうろん　空論、むなしきろん。
ぐうはい（名）偶配、つれあひ、夫婦。
くうはう　空砲、かちづつぱう、からたいはう。
くうばう　空房、あきべや、からのま、十又をつとの妻をこぬれや。
くうばく（形）空漠、ぼつとしたる、ぼんやりしたる、ひろくてなにもなき。
ぐうばふ（形）空乏、とぼしき、むなしき。
ぐうほう　偶逢、ふとあふ、たまたまあふ。
くうち（名）空地、あきち、あき、すき。
ぐうちよく（名）寓直、とまりばん、宿直。
くうちう（名）空中、そらなか。
ぐうちう（名）偶中、まぐれあたり。
くうちやう（名）空理、實物の無き道理。
くうり（名）空屋、あきや、からや。
くうき（名）空氣、あきべ、あきい、。
くうか（名）空家、あきや、からや。
ぐうか（名）寓宅、やどりきやく、かりやどりのひと。
ぐうがふ〔する〕〔自〕偶合、ふとあふ、ふいにあふ、であふ。
くうかん（名）空函、あきばこ。
くうかん（名）空間、虛空、こくう、空中、そら。
くうかんり（名）空間梨、ろくなし植物。
くうたく（名）空宅、あきい、空屋。
くうだん（名）空談、むなしきはなし、むだばなし。
くうそ（形）空疎、きばち、あちきき間が。
くうくわ　空花、そらにみゆるはな、そらにちらつくはなのごときもの、十あだばな、むだばな、みのならぬはな。
ぐうくわい〔する〕　遇會、あもはずあふ、ふとあふ、遇逢。
くうくうじやくじやく（形）空空寂寂（全く空にして一物も無きを云ふ）。
くうやしやうにん　空也上人（仁明帝の承和頃の王の男にして六波羅密寺の住職）。
くうまい（名）空米（正物なくして賣買する米を俗かいふ）。
くうけつ〔する〕〔自〕空缺、つきる、なくなる。
くうげき（名）空隙、すきま、あき。
くうけん（名）空拳、からこぶし、赤手、かちて。
くうげん（名）空言、むなしきことば、そらごと。
ぐうげん〔する〕〔自〕遇見、あひみる、たいめんする。
ぐうげん（名）寓言、よそへごと、たとへばなし、なぞらへごと。
くうふく（名形）空腹、すきはら、ひもじき、ひだるい。
くうと（名）空曠、あきぐち、かちぐち。
くうさい（名）空菜、空草、ははくり（具母の一名）（植物）。
ぐうざう（名）偶像、つくれるかたち（石佛木像等をいふ）。
くうき（名）空氣、大氣、空中に充滿する氣、其動く時は風となる。
くうき（名）空慨、あきびつ、かちびつ。
くうき（名）空嘆、ためいき。
くうきぬき（名）排氣機、空氣を器の中より取り出だす具。
くうき（形）空虛、むなしき、から、すき、かちつぽ。
ぐうきよ（名）寓居、かりずまひ。

くうきらんぷ（名）空氣洋燈（空氣を多量に給する洋燈の名）。
くうきまり（名）空氣毬、空氣をつめたる毬。
くうきまくら（名）空氣枕、空氣をいれたる枕）。
くうきぶくろ（名）空氣嚢（空氣を入れたるふとん）。
くうめい（名）空視、そらめ、そらみ。
くうし（名）空名、そらな、むなしきな（有名無實なるにいふ）。
ぐうし（名）官司、みやつかさ、かんぬし、ねぎ。
くうじる（他）供、そなへる、ささげる。
くうしよ（名）空所、あき、すき、空隙。
くうしよう（名）空鍾、獨樂、とうごま。
ぐうしう　隅州、大隅國をいふ。
くうしや（名）空舍、あきや、空屋。
くうしゆ（名）空手、すで、かちて、空拳。
ぐうじん（名）偶人、にんぎやう、ひとがた。
くうもう（名形）空耗、とさめ、十くちきき、うつたうしい。
ぐうもく（名）寓目、めをよする、めをつける。
ぐうもく（名）寓木、ほや、やどりき、寄生植物。
くうせつ（名）空說、ねなしごと、無稽の言。
ぐうせつ〔する〕〔自〕遇接、あしちふ、もてなす。
くうせん（名）空船、あきふね、かちふね。
くうせん（名）空煎、あだや、むだや、それや、。
くうせん（名）空氣、かちぼり、水なき釜。
ぐうぜん（副形）偶然、おもひがけなく、ふと、たまたま、不圖、おもはぬ、ふいの。
ぐうする（他）遇、あしちふ、あつかふ、接遇、待遇、接待。
くうきらんぷ（名）空氣洋燈（空氣を多量に給する洋燈の名）。
くうきまり（名）空氣毬、空氣をつめたる毬。
くうきまくら（名）空氣枕、空氣をいれたる枕）。
くうきぶくろ（名）空氣嚢（空氣を入れたるふとん）。
くうめい（名）空視、そらめ、そらみ。
くうし（名）官司、みやつかさ、かんぬし、ねぎ。
くうじる（他）供、そなへる、ささげる。
くうしよ（名）空所、あき、すき、空隙。
くうしよう（名）空鍾、獨樂、とうごま。
ぐうしう　隅州、大隅國をいふ。
くうしや（名）空舍、あきや、空屋。
くうしゆ（名）空手、すで、かちて、空拳。
ぐうじん（名）偶人、にんぎやう、ひとがた。
くうもう（名形）空耗、とさめ、十くちきき、うつたうしい。
ぐうもく（名）寓目、めをよする、めをつける。
ぐうもく（名）寓木、ほや、やどりき、寄生植物。
くうせつ（名）空說、ねなしごと、無稽の言。
ぐうせつ〔する〕〔自〕遇接、あしちふ、もてなす。
くうせん（名）空船、あきふね、かちふね。
くうせん（名）空煎、あだや、むだや、それや、。
くうせん（名）空氣、かちぼり、水なき釜。
ぐうぜん（副形）偶然、おもひがけなく、ふと、たまたま、不圖、おもはぬ、ふいの。
ぐうする（他）遇、あしちふ、あつかふ、接遇、待遇、接待。
くの　久野氏。
くのへがは　九戸川、陸中國九戸郡に在る川。
くのへごほり　九戸郡、陸中國の郡の名。
くのうざん　久能山、九能山、駿河國安倍郡に在る山（ふだらくやま）。
ぐのめ（名）野、五目、ごのめ（雙六に云ふ所）。
くのえかう（名）薰衣香（衣服に香氣を焚きつくる香）。
くく　九九、積數八十一（かけざんのことば）。
くく（形）區區、まちまち、十ちひさき。
くく（他）結、くゆる（針目の見えぬ樣に縫ふをいふ）。
くく（形副）嘔嘔、やさしき聲、又よろこぶ聲。
くぐ（名）鴨子苗（植物）。
くくり（名）括、しばり、束、つかね。
くくり（名）括、しめくくり、十とざめ、をはり、結（ゆ）。
くぐり（名）窶、くぐりど、耳門、子門、門邊の小さき入口。
くくりばかま（名）括袴、縛袴、綿袴、紙袴、腰に括れる袴。
くぐりど（名）耳門、くぐり。
くくりを（名）括緒、くくるひも。
くくりぞめ（名形）縛綬、編染、しぼり染色にいふ。
くくりまくら（名）綿枕、括枕、縛枕、中に柔かきものをつめたる枕。
くくりさる（名）括猿、紋所の名）。
くくる（他）括、機、縛、拾、收括、總括、しゆくくる、まとめる。
くくる（他）綰、編、括、綴、縛、束、綰、編錢、編束、綰紫、しばる、ゆはひる。
くぐる（自）潛、潜、みつくぐる、もぐる（水中を）。
くぐる（自）僥出（物の下を潛みて通る）、植出。
くくわ（名）苦花、具母、ははくり（植物）。
くくわ（名）苦瓜、にがうり、つるれいし、れいし、くされいし（植物）。
くくわい　區會、區の會議。
くくわい〔する〕〔自〕驅回、かけまはる馬にて）。
くくわつ（名）九月、一年の第九の月なり、太陽曆に於ける九月の異名は大凡左の如し、長月（ながづき）、無射、玄月、授衣、姜塲、凉秋、鴻雁、沙秋、菊月（きくげつ）、窮秋、暮商、暮序、季秋、季商、暮秋、紅葉月（もみぢづき）、曉秋等なり）。
くぐわつせつく　九月節句、重九、重陽、菊節、菊酒、菊の九月九日をいふ）。
くくわく（名）區劃、かぎり、十わかち、區劃。
くくわん（名）苦思、くげん、くるしみ、なやみ。
くくたち（名）菫立、菫子、菫蕾、あをなのたち（植物）。
くぐつ（名）傀儡、でく、にんぎやう、十また傀儡子、にんぎやうつかひ、十（俗）しゆくばぢようろ、めしもり。
くぐつまはし（名）傀儡子、にんぎやうつかひ。
くぐつめ（名）傀儡女、にんぎやうつかひをんな、十又下等遊女、いやしきぢようろ、しゆくばぢようろ。
くくむ（他）食、ふくむ（口に水などをいれてたもつを云ふ）。
くくく（名）谷口鳥、鶯の鳴く聲。
くぐまる（自）屈、腦踵、ちぢかまる、かがむ、十僂僂、せかがむ。

くくめる（他）噛、くちにいれてやる（小兒の口に物を入れて食はする）。

くくみ（名）馬銜、はみ、くつばみ、くつわのはみ（くつわを見よ）。

くくみぐすり（名）含嗽劑、ふくみぐすり。

くくし（名）鵂、鶚、くくりぜめ、しぼり殺物。

くぐひ（名）鵠、天鵞、はくてう動物。

くぐもる（自）冥滓、濁淆として生氣を中に含むをいふ。

くくせ（名）傴僂、跛背、佗背、曲背、せむし。

くくせん（副）羅羅然、きよろきよろと驚き見る貌。

くぐす（名）傀儡、いやしきあそびめ（くぐつこの轉）。

くやつ（代名詞）此奴、このやつ、こやつ（人を賤めていふ詞）。

くやむ（自）悔、悔恨、懺悔、嗟歎、遺憾、ざんねんがる、十くゆる、遺憾を。

くやう（名、一する）（他）供養、ささげものすること、やしなふこと、ものささげる、やしなひたてまつる。

くやくし（名）苦藥子、解毒子、げどくし植物。

くやみ（名）弔詞、弔問、とむらひ、十慰問、弔慰、なぐさめ。

くやしがる（自）悔恨、くやしくおもふ、殘念。

くま（名）熊、熊化、猛獸の名）動物。

くま（名）岡、阿山の曲れる處、十隅、澳曲（水の曲り入る處）、十隈、はじ、はて、十又くちきところ、くもり。

くまい（名）供米（神佛に供ふる米）。

くまい（名）口米（古へ本租以外に微收せし年貢米）。

ぐまい（形）愚昧、おろか、愚暗、愚蒙、愚鈍。

くまゐちやう（名）熊井町、東京市深川區の町。

くまばち（名）熊蜂、馬蜂、蜜蜂、動物。

くまぼくち（名）山牛蒡、やまごぼう、くまとりぼくち）植物。

くまべ（名）隈部氏。

くまどり（名）彩、宣彩、各種の色を以て境界等を彩どること、彩、いろどり。

くまどる（他）彩、くまどりする、（くまどり）を見よ、彩、いろどる、讀取とも書くなり、種類に選取るなど云ふ。

くまどやま（名）熊坂山、筑後國浮羽郡に在る山、熊門山とも書く。

くまわらび（名）貫衆（やぶそてつの一種）植物。

くまがい（名）熊谷氏、また地名。

くまがいがさ（名）熊谷笠、ふかあみがさ。

くまがいまち（名）熊谷町、武藏國大里郡の町名）。

くまがいふとれり（名）熊谷太織（熊谷より出づる太織）。

くまがいさう（名）鳥骨草（植物）。

くまがいざくら（名）熊谷櫻（小輪八重の白櫻にして淡色を帶ぶ）植物。

くまがは（名）球磨川、球磨川、肥後國の南方に横はる大河にして八代より海に注ぐ）。

くまかづら（名）紫草、紫草（植物）。

くまがし（名）茂櫪、は（しげりたるかしのき）。

くまたにむら（名）熊谷村、備中國阿哲郡の村名）。

くまたか（名）鷹、角鷹、鳥鷹、耳鷹、耳部に長き羽たちをりて角の狀を成す）動物。

くまたけらん（名）熊竹蘭、高良薑の一種）植物。

くまそ（名）熊襲（太朝の上古の西戎の名、東夷は蝦夷、えみし）と云へり。

くまつづら（名）馬鞭草、鳳頸草、鶴子草）植物。

くまのい（名）熊膽、熊の肝にある物にて驚に用ふ（いを見よ）。

くまのい（名）人參、草の名、（かのにげぐさ）を見よ）植物。

くまのたねごころ（名）熊掌、熊蹯、熊の足の肉にて八珍の一。

くまのはつしやう（名）熊野八荘（野上、松川、湯淺、阿瀬川、小原、平鍋、中津川、玉置）。

くまのさんしよ（名）熊野三所（本宮、新宮、那智をいふ、また熊野三山と云ふ）。

くまのどほり（名）熊野郡、丹後國の郡の名）。

くまのさん（名）熊野山（近江國高島郡に在る有名の山、また紀伊國東牟婁郡に在る有名の山）。

くまのさんざん（名）熊野三山、熊野三所に同じ）。

くまのさく（名）熊野菊、はまぐるま、しはかぜ（植物）。

くまのゆり（名）熊野百合（紀伊國熊野に產する百合）植物。

くまのしやじん（名）熊野沙參（つりがねにんじんの類）植物。

くまのせき（名）隈關、山雲國の地名）。

くまやなぎ（名）隈柳、すみぞみ、はうぼう。

くまやなぎ（名）九蜈柳、薄柳、山藤、かなふぢ）植物。

くまばちむら（名）熊町村、備城國雙蓮郡の村名）。

くまげどほり（名）熊毛郡、大隅國及び周防國の郡名）。

くまごほり（名）球磨郡、肥後國の郡の名）。

くまで（名）熊手、鷹手、鍬搭、花子、鍬杷、抓子、棒（物掻く鍬の具）。

くまあり（名）蚍蜉、動物）。

くまさ（名）曲峽、まがりを、まがれるみね。

くまざさか（名）熊笹、篁、やきばざさ（山に生る短き竹、山白竹、ちまきざさ、霜行）植物）。

くまきやま（名）隈城山、薩摩國薩摩郡の山）。

くましろ（名）神稻、神代、氏）。

くましね（名）稗米、うちまき、散米、神米（神に獻ずる精米）。

くましやりまち（名）隈庄町、肥後國下益城郡の町）。

くまびる（名）馬蛭、動物）。

くまびき（名）九萬四（勒爲（いち）の異名）動物）。

くまもと（名）隈本、熊本氏、また地名）。

くまもとけんちやう（名）熊本縣廳（肥後國熊本市に設置す）。

くまもとし（名）熊本市、肥後國飽託郡白川の兩岸にある市）。

くげ（名）公卿、おほやけ、朝家、十公家衆。

くげ（名）公家、公卿、昔し天子に直屬したる貴族、武家に對していふ）。

くげ（名）公廨、まんどころ、政廳。

ぐけい（名）愚計、つたなきてだて、おろかなるはかりごと。

くけばり（名）絎針、ぬひあはせばり。

くけぢ（名）匿路、にげみち、かくれみち、十機道、くげみち。

くけぬひ（名）匿縫、絲目をかくして縫ふを云ふ。

くける（他）絎、ぬひあはせる、くけぬひする。

くけつ（名）口訣、くでん（口傳、要訣、祕訣、おくぎ、十くちづたへ、口授、ひみつ、奥義。

くけあな（名）匿穴、ぬけあな、にげあな。

くげき（形）苦劇、はげしき、きびしき。

くけみち（名）間道、ぬけみち、十にげみち、くけぎ、匿路。

くげん（名）苦患、くるしみ、なやみ。

くふ（他）食、喰、喫、啖、餐、啗（くちふをみよ）。

くふ（他）巢、食獸の巢をつくるを云ふ、すくふ。

ぐふ（名）九分十分の九。

ぐふ（名）愚父、子が己の父を人の前に言ふ謙辭。

ぐふ（名）愚夫、おろかなるをとと。

ぐふ（名）供奉、おとも、行幸啓の時御供したてまつること。

ぐふにん（名）供奉人、ともびと、行幸啓の。

ぐふつ（名）愚物、おろかもの、あほう。

ぐふう（名）工夫、心機、手段、方法、かんがへてだて。

ぐふう（名）鳳、あちし、はやて。

ぐふうやく（名）鳳凰、かざすり。

くふくわい（名）區部會、區だけの職員の會議をいふ。

くふさ（名）屬利、くぼさ、利潤、まうけ。

くふん（名）—する（他）區分、わかち、くわけ、わけ、わかつ。

くと（名）梅杞、天積、羊乳、地骨、甜菜、地仙、却老、仙人枝、四王母枝、根皮を地骨皮と云ふ、女兒その果を取りて酸藥（はうづき）の代りに用ふ、十又その若芽を、ごまあへに作り或は飯にまぜて食ふ）植物。

くど（名）笠子、くわん。

くど（名）壺焼、くちごと（百濟國の琴）。

くどろ（名）供柳、おもの天子の御食。

くとつ（名）苦蕺、にがひきご）植物。

くとつ（名）苦竹、苦蔘、くちち）植物）。

くとつ（名）狗骨、とりもちのき冬青科に屬する樹）植物。

くどのせ（名）供柳瀬、近江國栗太郡に在り）。

くどぶ（名）口襲、くちのわざ。

くどめし（名）枸杞飯、枸杞の若芽を取りて米に和して炊ぎたるもの。

くどもち（名）枸杞餅、餅料理の一種）。

くどもる（自）口澁、訥、ことばつかへる、十どもる。

くとん（名）九蜈三三九度をいふ、又酒を指して戯かいふ）。

くていれき（名）苦茗蘆、いぬなづな植物）。

くでう（名）口調、よみくち、よしてうし、しらべ。

くでう（名）九條氏、また渡邊の別にいふ）。

くでま（俗）（名）工手間工人の手間、しごとでまし、しごとちん、作料）。

くてん（名）句點、漢文章句の點をいふ）。

くでん（名）口傳、くちづたへ、口授、おくぎ。

くでんぐでん（俗）（副形）愚頑愚鈍、酒に甚だしく酔ひたる貌）。

ぐあい（形）愚鈍、おろかばか。

ぐあひ（俗）（名）具合、あてはまり、はまりかた。

ぐあん（形）愚暗、おろかもの、ちゑなき。

ぐあん（名）愚案、愚按、わがかんがへ（己の考案を謙稱する詞）。

くき（名）茎、軸、莖（堅き幹を有せざる植物をすべて茎といふ）。

くさ（名）糞、てきもののたぐひ（皮屑上の、香猫。
くさ（名）種、いろ、たね、さま。
くさい（する（他）臊備、かりもよほす。
くさい（名）苦菜、にがな、のげし、けしあざみ（植物。
くさい（名）物臭、いぬなづな（植物。
くさい（名）區貨、區の負債として募る金。
くさい（名）緋鳥、とびうをのたぐひ（動物）。
ぐさい　愚才、つたなきはたらき。
ぐさい　愚妻、わがつま、己の妻を指していふ謙稱、
　細妻、山妻。
くさいろ（名）錄色、みどりいろ。
くさいちご（名）蓬蔓子、つるいちご、やぶいちご（植物。
くさいなご（名）負蠻、へひりむし、へときむし（動物。
くさゐなき（名）野鶏、ゐのしし（動物）。
くさは（名）鞘葉、くさのは。
くさはき（名）鞘帯、帯草等にて作れる帯）。
くさばな（名）草花、くさのはな。
くさはら（名）草原、くさのしげれるのはら、草地。
くさばさみ（名）鞘鉗、鞘鋏、くさかりがま。
くさにんじん（名）竹葉、せんとうさう（植物）。
くさぼたる（名）草螢、宵行（動物。
くさぼけ（名）檀子、上元紅、貼地梅葉、のぼけ（植物。
くさぐりは（名）草鈎、刻鍬、くさきりぐは、くさをきるくは。
くさり（名）腐物の腐爛したるをいふ、腐敗、腐爛。

くさり（名）鎖、鏈、鎖、釘鑁、銅絲連鑁鋼等を鎖にして繋げるもの）。
くさりばかま（名）鎖袴、昔し戰時に用ひし物。
くさりかたびら（名）鎖子鎖、鎖帷子、くさりにてつくれるしたぎ、昔し戰時に用ひしもの、甲圖は日本の製、乙圖は西洋の製）。

［圖の鎖子鎖］

くさりよろひ（名）鎖子鎖、くさりのよろひ、くさりにてつくれるよろひ。
くさりなは（名）鎖縄、くさりつくり、くさりや。
くさりし（名）鎖子匠、くさりのつくり。
くさりじかけ（名）鏈装鏈にて装置したる）。
くさる（自）腐、腐敗、腐朽、爛、くさる、あざれる。
くさかべ　日下部、草壁氏。
くさかり（名）草刈氏。
くさかり（名）草芟、くさかること、十芟、くさかるひと。
くさかりわらべ（名）牧童（馬駿の草を刈る童子、芟子、芟牧兒。
くさがくれ（名）草隠、くさにかくるること草中に隠るるをいふ。
くさかげの　草陰之（あちゐのさきの枕詞。

くさかご（名）草籠、くさいれかご。
くさよめぎ（名）臭蒐、黄花蒐、五行草、ごぎやうさう（植物。
くさたち（名）草立、くさむら。
くさたちばな（名）草橘、白橘の一種（植物。
くさたぶ（名）接骨草、頻蕎、にはとこ、そくづ（植物。
くされいりよう（名）草零陵、いひなはぎ（植物。
くされいりようかう（名）草零陵香、芫香（植物。
くされじゆしや　腐儒者、へんくつじゆしや、かたくなじゆしや。
くされえん　腐縁俗に夫婦の恩縁にして而も離れがたきものを然かいふ。
くさそてつ（名）草蘇鐵、をきくさ（植物。
くさつ　草津、上野國吾妻郡に在る有名の温泉場にして病客輻湊す、また近江國栗太郡にも同名の地あり（名物饅が餅此處にあり）。
ぐさつ　厩札、己の書翰を指して云ふ。
くさつつみ（名）慈「つつみ」慈つつがを見よ。
くさつくどり（名）杜鵑（ほととぎす）の一名、（動物。
くさつやま　草津山、上州吾妻郡に在る山。
くさつげ（名）黄楊木、和命樹、ひめつげ（植物。
くさねむ（名）合歓、くさねぶ（植物。
くさなぎ（名）草薙、くさをかること、十また薙草芟、くさかりつは。
くさなぎのつるぎ　草薙劍（三種の神器の一。
くさなぎやま　草薙山、駿河國安倍郡に在る山にて久能山に對せり）。

くさらかし（名）腐爛、くさらしぐすり。
くさむら（名）叢、薄草、叢薄、くさやぶ、くさぶけ。
くさむし（名）馬陸（動物。
くさう（名）蜩、はりねずみ（動物）。
くさうづあぶら（名）臭水油、越後國より出づる石油）、燃水、石脳油、石燭。
くさのいぼり（名）草毫、草蘆、くさや、わちや、くさぶきのしづのや。
くさのや（名）白屋、布衣の人の茅屋をいふ、くさのいぼり、しづのや。
くさのあるじ（名）草主、きく（菊の異名）（植物）。
くさざく（名）孔雀、くじやく、とりのな（動物）。
くさざくたもの（名）蔬草の實の食ふべき物）。
くさくら（名）廣葉藻を積む倉、くさつみ。
くさぐと（名）白英（植物）。
くさぐさ（形副）種種、いろいろ、さまざま。
くさくも（名）草蜘蛛、ささぐも（動物）。
くさぐすり（名）狼牙草、こまつなぎ（植物）。
くさや（名）草屋、わちや、くづや、十茅屋、かやや、茅舍。
くさやまぶき（名）金絲梅（植物）。
くさまくら　草枕（たびの枕詞、十又（名）たびね。
くさまき（名）臭被、被、まき（植物）。
くさふぢ（名）天人藤（植物）。
くさふづまち　草生津町、越後國古志郡の町名。
くさぶけ（名）草葺、くさやぶ、叢、くさむち。
くさあはせ（名）鬪草、草卉を互に持ち來りて優劣を較ぶること。
くさざりし（名）草雙紙、博史、にんじやうぼん、あかはん（元は臭雙紙と書けり、德川時代の一種の小說にして淺草紙の濫觴しに印したるが故に臭氣ありとて斯くは名づけたりしとぞ）。
くさき（名）臭、臭氣ある、あしきにはひある。
くさき（名）常山、海州常山、蜀漆、臭梧桐、野梧桐、やまうつぎ（植物。
くさきり（名）刻、刻殘、刻刀、ゐしぎり（草を細かに切る具）。
くさきる（自）縛、転、くさをきりとる（田の）。
くさめ（名）、—する（自）嚏、噴嚏、はなひる。
くさみ（名）臭味、くさきあぢはひ。
くさじしのあそび　草鹿遊、草にて作りし鹿等を射る遊。
くさび（名）楔、尖木、輪木と木との間又は穴等に插す木片金具等をいふ。
くさび（名）熠火、ゐにび、ひとだまのひ。
くさひば（名）石長生、いはひば、いはごけ（植物）。
くさひばり（名）鴾蟋蟀（黄蟋蟀）（圖）黄（動物。
くさびがた（名形）楔形、尖木形、くさびのかのたち。
くさびら（名）菌地に生ず、蕈木に生ず、きのこ、茸（同植物）。
くさびらいし（名）石茸、いしのな。
くさびゆ（名）腰萇、野茸（植物）。
くさびえ（名）捲子（植物）。
くさびもち（名）草餅、艾糕、艾蒸餅、餻よもぎもち、くさもちひ。
くさもの（名）蔬、くさきもの（蔬、菜、蔬等の野菜を云ふ）。
くさす（俗）（他）誹謗、輕悔、そしる、わるくいふ。
くさずり（名）腰甲、甲裳、草履、甲冑、下腹、下敷、よろひのすそ、鎧の上に垂れ下る鎧の部分。
くさすぎかつら（名）天門冬、てんもんどう、きじかくし（植物。
くさ　九鬼氏。
（くき）　梅杞（くことよむ）（植物。
くき（名）岫、岑、みね、たかみ（山の）。
くき（名）莖、草の幹。
くぎ（名）釘、かなくぎ、十木釘、校、きくぎ。
くぎ（名）口義、口訣に同じ。
くぎり（名）句讀、句讀、よみきり、十よみきりじるし。
くぎぬき（名）釘拔、釘を拔く器、鉗子、科桙、萬力、鑢子、方科、桁模、曲料、千斤、まんりき。
くぎぬき（名）貫木（とざしを固くする爲めの横木）。
くぎかくし（名）釘隱、金鋪、鋪鋲、釘鋪、鋪釘の頭を隱す飾具。
くぎがさき　久（圖）岐蟋蟀、駿河國の蟋。
くきよ（名）苦苴、にがな（植物。
くきよたい（名）苦苴苔、いはたばこ（植物）。
くきよく（名）梅餅、ゐちんだごこ、ゐにごこ（植物。
くきたけ（名）苽茸、きのこのたぐひ（植物）。
くきづけ（名）苽漬、苽を漬けたる漬物）。
くぎづけ（形）釘著、釘にて打ち著けたるをいふ）。
くきら（名）鷸鷸鳥の名、（ととぎす（動物）。

くきやか（形）　皎、明皎、あきらか、くもりなき。
くきやう（副）　究竟、きうきやう、畢竟、つまり。
くきやう（名）　公卿、攝政、開白、大臣、大中少納言及び三位以上の人の稱、轉じて殿上人の總稱。
くきやう〔する〕（他）　恭敬（きようけい）、うやまふ、あがわる。
くきやう　苦行、くるしきぎやう、あらきぎやう、難行。
くきやく〔する〕（他）　苦虐、しへたげる、いぢめる、くるしむる。
くきさちち　久鬼崎（對馬國南埼玉郡の町名）。
くきさき（名）　桧木、せんのき。
くきん（名）　苦薑、石菖蒲、たがらし（植物）。
くきん（名）　九斤、一種の雞種雞、洋雞と和雞との混種（動物）。
くきんまん（名）　狗筋蔓、なんばんはこべ、つるせんのう（植物）。
くきんけい（名）　九斤雞（「くきん」を見よ）（動物）。
くゆ〔する〕（自）　悔懺、わらひよろこぶ。
くゆ（形）　苦臭、ゆがめる、十よわき、もろき（物品などに云ふ）。
くゆる（自）　悔（くいる）、くやむ、十くやしくおもふ、十懺悔、悔恨、くいあらたむる。
くゆる（自）　燻、もゆる（香が）、ともる。
くゆらかす（他）　燻、けむらかす、くすぼらかす。
くめ　久米氏。
くめい（形）　愚冥、もろか、くらき、愚昧。
くめぢのはし　久迷路橋（信濃國にありし橋にて和歌に名高し）。
くめだのいけ　久米田池（和泉國泉南郡に在る池、天平神護二年僧行基これを穿つといふ）。
くめむら　久米村（美作國久米郡の村名）。
くめのいははし　久迷岩橋（大和國にありし橋）。
くめのさらやま　久米佐良山（美作國の山）。
くめまひ（名）　久米舞（大嘗會の時に行はれし上古の舞の名）。
くめどほり　久米郡（美作國の郡の名）。
くめしま　姑米島（琉球中部諸島の一）。
くめん（俗）（名）　工面、くらしむき、十又さんだん、てうだつ金の。
くみ（名）　興冨、なかま、ともがら、十隊、伍、いくさのくみ、十部、ぶてる。
くみ（名）　苦味、にがみ、にがきあぢはひ。
くみ（名）　組、むむこと、十綬、帶綬、あみたるもの、くみいと。
くみ（名）　組、會社、なかま、しや。
ぐみ（名）　茱萸、虞茱子、胡頽子、うまきみのなるき（植物）。
くみいと（名）　組絲、あみいと、さなだひも、綬。
くみはかる（他）　酌量、きつしやる。
くみど（名）　閨、中壽、ねや（夫婦のともねするところ）（古語）。
くみさる（他）　酌取、すくひとる（水等を）、十又さつしる。
くみさる（他）　汲取、柄杓にて汲みて取る。
くみちゆり（俗）（名）　組置、いれこぢゆうばこ。
くみを（名）　組緒、さげを、くみたるを。
くみれひ（名）　綬帶、さなだおび、くみひも。
くみかはす（他）　交酌、たがひにさしつさされつする（酒を）、ともにさけのむ。
くみがみ（名）　辮髮、編髮、あみたるかみ（支那人の如く）。
くみがしら（名）　組頭（一組の長、十隊長、たいちやう）。
くみたてる（他）　組立、構成、構造、しつちふ、こしらふ、いとなむ、十つくりたつ、こしらへる。
くみつく（自）　組附、しがみつく。
くみうち（名）　組討、とりくみてもみあふこと、戰場にて。
くみのみなど　久美浜（丹後の湖港）。
くみや（名）　紋綾錦、くみものや、ひもや、くみいとうるい（）。
くみまくら（名）　組枕、あみまくら。
くみふせる（他）　組伏、くみしく、したにねしふせる。
くみと（名）　組子、部子、でさき、とりて、逐捕。
くみてんじやう（名）　組天井、木を組み飾りて交へ作れる天井（猿井、天花板）。
くみてがた（名）　組手形、外國（は紛失を防ぐため往々算替手形同一のものを三枚出すことあり）之を一組の手形と稱す。
くみあはせる（名）　組交、あみてひとつにする、まぜあはせる。
くみあげる（他）　汲上、うへ（くみだす（水等を））。
くみあひ（名）　組合、結社、會社、聯合、むすびあひ、なかま。
くみさかづき（名）　蓋盃、蓋杯、三組等の如き杯をいふ（いれこさかづき）。
くみしく（他）　組敷、くみふせる。
くみひも（名）　組紐、組帶、あみひも、さなだ。
くみする（自）　與、冨、聯合、なかまになる、なかにはいる。

くし（名）　櫛、梳、琵、くしけづるだうぐ、かみすき。
くし（名）　鯨鯢、むしば、むしくひば。
くし（名）　串物を貫きさす具、十又まくし（事を張る柱を云ふ）。
くし（名）　狗子、いぬころ（動物）。
くし（名）　酒、さけ（古語）。
くし（名）　髮、かみ、おぐし。
くし（名）　茵子、茵蘚（植物）。
くし〔する〕（他）　驅使、おひつかふ。
くし（名）　公事、おはやけごと（朝廷にて行はるゝ儀式の總稱）。
くし（名）　鬮、籤、抽きて當る當ちぬ等を定むる物）。
くし（俗）（名）　公事、訴訟、訟詞、うつたへごと。
くし　九字（九字の法術にて惡魔を攘ふに之を行ふ、十又兵法に云ふ所）。
くしろ（名）　鍋、かながき農具）。
くしろ（自）　釗、うづめ、うづぬき。
くしろ（名）　釧路、北海道中の國名。
くしろつく　釧附（「たぶしのさき」の枕詞）。
くしろどほり　釧路郡（釧路國の郡の名）。
くしば（俗）　公事場、訟庭、さいばんしよ、しらす。
くしはらひ（名）　櫛子、櫛帶（櫛の齒を清むる具）。
くしばと（名）　櫛匣、くしだうぐいればこ、くしげ、櫛笥。
くじり（名）　鬮取、抽籤、抽鬮、探鬮、くじびき。
くじり（他）　挟、剔、えぐる。
くじる（他）　拈鬮、くじをひく、抽籤。
くじをさる　奕櫃、願下、解所、解職、和解、私和、示談、うつたへをやめる。
くじをやめる　裁判、裁決、裁許、判決、裁斷、處斷、處決、うつたへをさばく。
くじをさばく　平反、平翻、覆審、再審、さばきをしなをす、翻案。
くじか（名）　麝、麞、鹿に似て小さく、角なくて黄黑の獸（動物）。
くじかは　久慈川（常陸國及び陸中國の川の名）。
ぐしかはしま　具志河島（琉球諸島の一）。
くしがき（名）　串柿、乾柿、白柿（貫きて乾したる柿、はしがき、あまぼし）。
くしがひ（名）　串貝（串に貫きたる貝）。
ぐしよ　愚書（己の文書を指して云ふ）。
くじよう（名）　狗囃、いぬば（動物）。
くしよく（名）　苦蓚、敗醤、ちめぐさ、せんなりはづき（植物）。
くしたがは　櫛田川（伊勢國飯南郡に在り）。
くしだちぐ（名）　櫛道具、かみゆひだうぐ。
くしぞく（名）　器子類、けし（植物）。
くじら（名）　鯨、なくじら、いさな、十說、雌、めくじら、十海鯨、海鯨（魚の最も大なるものにて胎生なり色は背黑を帶びて鱗なく鼻の骨隆起し首の部に氣孔ありて水を吹き出し舟板を覆すことあり又平常は海底の洞に住むと云ふ、[圖の鯨]）。
くじらなみむら　鯨波村（越後國刈羽郡の村名）。
くしらむら（名）　櫛羅村（大和國南葛城郡の村名）。
くじらのあぶら　鯨油、鯨脂。
くじらのひげ　鯨鬚、鯨骨屬。
くじらくわる（名）　鯨醋姑、蓋姑をよく摺り昆布の黑燒にしたるをまぜ二分ほどの厚さにのべ其上に右の蓋姑に葛粉を少し入れ鯨の肉のごとくのべ薄く切り油にて揚げたるもの。
くじらやま　鯨山（安房國安房郡に在る山）。
くじらざし（名）　鯨尺、鳥鬚尺、竹尺、たかはかり（尺度の名）。
くじらじる（名）　鯨汁（鯨を入れてこしらへたる味噌汁）。
くじらじやく（名）　鯨尺、たちぬひものさし、くじらざし尺度の名）。
くじく（他）　折、挫、挫折、挫傷、ひきくじく、をる、やぶる。
くしや（名）　物會、いぬざや犬をわかす處）。
くしや（名）　櫛匠、櫛工、くしげくり、くしひき。
くしや（名）　愚者、もろかもの、ばかもの。
くしやど（舊俗）（名）　公事宿（訴訟人の宿る家）。
くしやう（名）　苦情、つぶやき、こごと、十不平、かれこれいふこと。
ぐしやう（名）　愚將、もろかなるいくさぎみ。
ぐしやう（名）　宮掌、かんぬし、神官。
ぐしやう〔する〕（他）　具狀、つぶさにまうしあげる上長官などに具さに申告する）。
ぐしやうしよ（名）　具狀書（上官などに上つる報告書をいふ）。
くじやく（名）　孔雀、鳳友、金翠、雀（孔雀の至りて尾羽の長くして最も美しき鳥にて熱國に多く產す）（動物）。

[圖の鯨]

[圖の孔雀]

くじや(名) 萬蹟、こんにやく植物。
くじやくさう(名) 孔雀草、石長生、ぬりばし、くじやくしだ(石竹の如き黄色の花さく丈ひくき草)(植物)。
くじやくしだ(名) 孔雀齒朵、くじやくさう(植物)。
くじやくせき(名) 孔雀石、石綠、蝦蟆帶石(孔雀の羽色せる石の名)。
くしやさよ(名) 物沙魚、ねこまに(動物)。
くしやみ(俗)(名)、—する(自) 嚏、くさめ、はなひり、くさめする。
くしまき(名) 櫛卷、櫛に卷きつけたる婦人の髮、十まき、鬟髮、つのじりがみ。
くしげ(名) 櫛匣、櫛筥、くしばこ、髮奩、かちくしげ。
くじける(自) 挫、よわる、十折、跌、十傷、いたむ、けがする。
くしけづる(名) 梳、櫛を以て髮をとき又むすぶを云ふ。
くしふ(する)(他) 蠶集、かりあつめる。
くじふ(形) 苦澁、しぶき、十くるしき。
〔くじふくはつ〕 九十九髮(つくもがみ)を見よ。
くじふくり 九十九里上總國の海邊の地名)。
くしと(名) 海參、いりこ、乾海參。
くしと(名) 串海鼠(なまこを串にさして乾したるもの)。
くしどほり 久慈郡(常陸國の郡の名)。
くしとざいく(名) 格子細工、かうしざいく。
くしあはび(名) 串鮑、くしざしあはび。
くじあひて(名) 公事對手、對頭、さいばんあひて。

くじさい(名) 物見櫓、がんくびさう(植物)。
くじさばきやく(名) 法官、裁判官、判官、さばきびと。
くしざし(名) 串貫、貫鰯、くしにつらぬくこと(死人等を)。
くしき(形) 奇、妙、ふしぎ、あやしき、くすしき、(形) 折傷、いため、そこなひ、けが。
くしゆ(名) 苦酒、おさけ(酢の一名、十又ビール、麥酒)。
くじゆ(名)、—する(他) 口授、口傳、くちにてさづくる奥義等を。
ぐしゆん(形) 愚蠢、もろか、ばか。
くしし(俗)(名) 公事師、訟師、代言人。
くしび(名) 除火、くしきひ、燐火、鬼火。
くしひき(名) 櫛引、櫛工、櫛匠、くしつくり、十くしや。
くしもと 久志本氏。
くしん(名)(形) 苦辛、くるしき、つらき、つらき。
くしん(する) 苦心、こころづかひする、こころをくるしむる。
くじん(名) 苦蚤、苦骨、地機、水機、蒐機、白蚤、くらち、まひりさき(植物)。
ぐしん(名) 具臣、六邪臣の一)。
ぐしん(する) 具申、つぶさにのべる、まうしあぐる長官等に)。
ぐじん(名) 愚人、もろかびと、ばかもの。
くず(名) 垢穢、けがれ、よごれ、きたなさ。
ぐえい 愚誅己の誅みたる詩歌を云ふ)。
くえにち(名) 凶會日(太陰曆中段の凶日の名)。
くえる(自) 讒、くづれる(山及び塩等が、くげる、つひえる。
くえう 九曜(羅睺、土曜、水曜、金曜、日曜、火曜、計都、月曜、木曜の九星をいふ)。
くえう(名) 苦笑、さはあざみ(植物)。
くえまり(名) 打毬、けまり(遊戯の名)。
くえき(する)(他) 驅役、もひつかふ、驅使。
くえびさ(名) 窠山子、かがし(田畑のおどし物)。
くえん(名) 枸櫞、かぶす、まるぶしゆかん(植物)。
くえん(名) 苦鹽、にがり、にがしほ、めだれ。
ぐえん(名) 虞淵、禹淵(太陽が沒して入る處)、にしのはてのうみ、咸池、昧谷。
くえんさん(名) 枸櫞酸、ぶしゆかんず。
くひ(名) 牛蛟、牛馬の皮の中に住む蟲(動物)。
くひ(名) 杭、杙、樁、地にうちこむ木片の長きもの)。
くび(名) 首、頭、かうべ、つぶり、十頸、くびすぢ。
ぐび(する)(自) 具備、そなはる、そろふ。
くひいる(自) 食入、くひこむ、十蝕入、くまりこむ。
くひにげ(名) 食逃、物を食ひ慣をはちはずして逃げ去ること。
くひざめる(他) 吃止、ふせぎとめる、防遏、防止。
くひぢ(名) 獺獸類を捕ふるわなの類。
くひちがふ(自) 齟齬、牴牾、支牾、牴觸、矛盾、經麻、いりちがふ、あはぬ。
くひちがひ(名) 齟齬、ゆきちがひ。
くひちがひ 喰違、東京市赤坂區の地名。
くびちやう(名) 首帳、軍中にて斬獲の數を記るす書。
くびりだい(名) 絞殺臺、縊架、くびりころすだい(罪人の)。

くびりころす(他) 絞殺、縊殺、しめころす。
くびる(他) 縊、絞、搦、扼、經、のどしめる。
くびをはねる 刎首、斬首、斷頭、くびをきる。
くびれぼし(名) 脩鯉(車牛の領の上の衣)。
くびをさる 取首、くびをうる、くびをきりとる。
くびをかける 梟首、くびをさらす、ごくもんにする。
くひわける(他) 食分、くらひわかつ(昧等を)。
くびがね(名) 頸鉗、頸胴鉗(刑具にして頸に掛くるもの)。

くびかぎり(名) 領鉤、えりかざり。
くびかき(名) 解首刀、よろひどほし(九寸五分ばかりの短刀にて首をかくに用ひたるもの、くすんどぶ。
くびかし(名) 枷刑具、くびかせに同じ)。
くびかせ(名) 頸械、頸械(枷桎、脚枷、くびにはめる械)。

くびだい(名) 首代、贖銀、贖死銀、死を贖ふ金子)。
くびだかり(名) 短髭佗香、もつかう、木香(植物)。
くひたくね(俗)(形) 素飧、徒食、くひつぶし、ごくつぶし。
くびだま(名) 頂珠、首環、頸綻、くびかざりのたま。
くひたぶし(俗)(名) 食客、ゐさうろう、かかりうど、寄食兒。
くひたふす(他) 食倒、人の家に寄食して損をかくるを云ふ、くひつぶす。
くひたき(俗)(形) 食慾、くふことをねがふ。
くびれちやう(名) 鷹狩、あたまのあしきどもの。
くびれる(自) 縊、經、くびくくりしぬる。
くひれう(名) 食料、食用となるべき材料、十食物の代金。
くびれじに(名) 縊死、雉經、くびくくり。
くひぞめ(名) 百祿兒、小兒の始めて物を食ふ祝、大抵生れてより百日目か百十日目に之を行ふ。
くひぞめわん(名) 喰初椀(鍋蟲の赤繪きたは金銀の模樣つきたる椀にて喰初に用ふるもの)。
くひづね(名) 頸鐵(飼物などの頸に著くる鐵、犬枷。
くひつく(自) 吃著、かみつく、噛著。
くひつぶし(名) 食潰借字、くひつぶすひと、十又白嚼、ごくつぶし、やくにたたぬひと。
くひつぶす(他) 喰潰、食耗、無用の人の入り來りて食ひ費すを云ふ、或は又人の家を食ひ潰すとも云ふ、くひたふす。
くひつめる(他) 嚙、くひしばる。
くひつめる(俗)(他)(自) 食詰、くひつくす、十ねどころをうしなふ、やられなくなる。
くひつみ(名) 食積、春盤、新盤、松枝米蜜柑等を載せて正月の初にかざる小さ盞をいふ。
くひね(名) 水雞、秧雞、夏雞、鷸鶏、鵯鶏鳥(稻田の中などに住む水鳥)(動物)。
くびのくぼみ 頸窩、くびすぢのくぼみ、ぼんのくぼ。
くひや 張毘那、釋迦の二夫人の一)。
くびまき(名) 領卷、風領、頸巾、襟卷、衿卷、頸鐵、首環、えりまき。
くびげいこ(名) 首藝子(京都祇園町遊郭にて藝子の藝のよきと器量のよきとを讃めて首といふ)。
くひあはせる(他) 合食、ともにくらふ(二三の物を同時に)。
くひあらす(他) 鼠食、くひみだす、くひちらす(料理等を)。
くひあまり(名) 食餘、殘、くひのこり。
くびさう(名) 物尾草、ゑのころぐさ(植物)。
くびき(名) 軛、よこぎ、馬牛の頸に載する横木。
くびきりば(名) 斷頭場、くびはねば、斬罪場、しあきば、法場、成敗場。
くひきる(他) 噬切、噬斷、齧決、吃斷、嚙斷、かみきる。
くびきる 首斬、くびをはねる、誅、刎頸、斷頭。
くびきれちやう(名) 斷刑場、のどにいづるはれもの、のどちやう、頸瘤。
くびきごほり 頸城郡(越後國の郡の名、東中西の三に分る)。
くひしばる(他) 咬緊、かみしめる。
くひしめる(他) 咬緊、かみしばる、十かたくしめる。
くひしめす(他) 咬殺、かみてぬらす。
ぐびじんさう(名) 虞美人草、鬼罌粟花、ひなげし(植物)。
くびひき(名) 頸引、故河戸二人して頸に綱をかけて引きあふこと、十又せりあひ、きそひ。
くびもたせ(名) 蕎麥、くびをよりかからするいす。
くひもの(名) 食物、饌、たべもの。

くひぜ（名）株、きかぶ、かぶ、きのきりかぶ（木を伐りたる後に殘れる部分）。

くひせがは　杭瀬川（美濃國に在り、伊吹山の東北に發す、揖斐川とも書く）。

くびす（名）踵、跟（足の後の方をいふ、かかと（東京にて云ふ）、きびす。

くびすぢ（名）首筋、頸、くび（喉の後の方をいふ）。

くびすをつぐ　接踵、ひきつづく、絡繹。

くびすをめぐらさず　不旋踵、あしをかへすまもあらず（其だ迅きをいふ）。

くひん（名）雲、雲彩（水氣の蒸發して空中に凝集するもの）。

くも（名）蜘蛛、杜公、網蟲、蜘蛛（空中に網をはる蟲、腹大にして闇く色黑きものを藥に用ふ之を「まるぐも」といふ）動物。

くもゐ（名）雲居、くものゐるところ、なかぞら。

くもゐねす　如雲居（心いざよひの枕詞）。

くもばねれ　雲濱（遠きくにべの枕詞）。

くもはま　雲濱（若狹國の地名）。

くもどり（名）雁、まがん、かり、動物。

くもとりやま　雲取山（紀伊國牟婁郡に在る山）。

くもぢ（名）雲路、くものみち（雲深き道また雲上の道）、雲衡、天路。

くもりはれ　陰晴、晴曇。

くもりガラス（名）曇玻璃、くもれるガラス、十又すりガラスの類。

くもりよの　曇夜之「たどきもしらず」（つまよへる）等の枕詞。

くもりび（名）曇日、ひのみえぬひ、曇天。

くもる（自）曇、翳、霧、暗、陰、陰曇、闇曇、くもづる、くらくなる（雲にて）。

くもかくがみ（名）彩雲鮓（常陸國上り閖出する鮓の一種）。

くもがくれる　雲隱、くもにかくれる（投雲中）、くもにおはれる。

くもがひ（名）蜘貝、蜘貝（圖の）

くもたこ（名）蜘蛸、塗吉古動物。

くもつ（名）供物、そなへもの（神佛等に）。

くもつ　久茂津、雲津氏。

くもつがは　雲津川、雲出川（伊勢國一志郡天瀬より出づる川、また氏）。

くもつがさき　雲津崎（伊勢國の崎）。

くもつだい（名）　供物臺、おもりものだい、ささげものだい。

くもらせる（他）　今曇、くもをおとす、十曇、くもくする、かすまする、不透明にする。

くもり（形）　愚蒙、もろか、つたなき、にぶき。

くものい（名）　蜘蛛絲、くものいと（蜘蛛のからだよりいだす粘液）。

くものいと（名）　蜘蛛絲、蜘蛛のからだよりいだす粘液、くものい。

くものかけはし（名）　雲梯（飛梯とも云ひて城を攻むる武器の一）。

くものうへ　雲上（禁中をも然かいふ）。

くものうへびと（名）　雲上人（昇殿を許されてある人を云ふ、くげ）。

くものことさし　如雲（人の其だ多きを云ふ）。

くものみね　雲峯（夏の雲の起るを山に見たてていふ）。

くものびんづら　雲鬢（美人の頭髮を稱して然かいふ）。

くものす（名）　蛛網、絲網、蜘蛛網、蛛絲、くものい。

くもまき（名）　雲間、くものたえま、くもぎれ。

くもまきのひれ（名）　雲巻鰭（鮫魚の尾の上端）。

くもまひ（名）　雲舞、都鷹、上竿奴（高き竿に上りて舞をすること、また其もの）。

くもで（名）　蜘手（幾つにも行き違ひたる道路等をいふ）。

くもで　口分田氏。

くもあし（名）　雲足（蜘蛛などの雲の形に刻みたる足、十天空に雲の奔る有樣）。

くもきは（名）　雲際（雲の止る高き處をいふ）。

くもきりさう（名）　雲紹草、がんぜぎぼうし（植物）。

くもきれ（名）　雲絹、ものたえま、くもま。

くもみのさき　雲見崎（伊豆國に在り）。

くもひぢき（名）　雲臂木（家屋の破風の屋根の形に云ふ）。

くもすけ（俗）（名）　雲助、遊樂、賤しき奴夫、かどかき、十わるもの。

くもすき（名）　雲透、くものすきま。

くもん（名）　公文、おほやけのふみ（官府の文書）。

くもん（名）（自）　苦悶、くるしみもだへる。

くもんりゆう（名）　九鼓龍（桑の一種（植物））。

くもんじよ（名）　公文所（源頼朝の置きたる官署）。

くせ（名）　癖、慣習（人の特に好みて爲ること）なの人の群るをいふ）。

れ、十習癖、あしきならはし。

くせ　久世氏。

くせい（名）　鷗鷺、のねずみ（動物）。

ぐせい（名）　弘誓、すくひ、救拯（佛の）。

ぐせいのふね　弘誓の舟、すくひのふね（佛の）。

くせぢ（名）　口舌（くぜつに同じ）。

くせつ（名）　口說、口舌、苦情、紛議、あらそひ、ものいひ。

ぐせつ（形）　愚戇、もろかなるせつ（また己の戇を常に然か云ふ）。

くせつさう（名）　狗舌草、さはをぐるま（植物）。

くせむら　久世村（和泉國泉北郡、また山城國乙訓郡の村名）。

くせむま（名）　駿、多慾馬、わるきくせのうま。

くせの　久世野（山城國の地名）。

くせのさ　九世渡（丹後國の天の橋立をいふ）。

くせぐせし（形）　偏頗（物にかたよるを云ふ）。

くせまち　久世町（美作國眞庭郡の町名）。

くせまひ（名）　久世舞、まひおどりのたぐひ、能の類。

くせとほり　久世郡（山城國の郡の名）。

くせとど（名）　曲學、きよくど、あしきこと、惡事。

くせな（名）　狗脊、おにぜんまい（植物）。

くせもの（名）　曲者、あやしきもの、十わるもの。

くせん（する）　苦戰、くるしみたたかふ、はねありてたたかふ。

くせん（名）　苦韻、ふれやみ、ふなよひ。

くせん（名）　口宣（口上にて述ぶる勅命）。

くす（名）　樟木の名、くすのき（植物）。

くず（名）　葛、くさのな（其根を取りて食物を調し又其葉を以て衣を作る）植物、十又そのねのこな。

くずは　葛葉氏。

くずばかま（名）　葛袴（葛を織りて製したる袴）。

くずはら　楠原氏。

くずはらむら　葛原村（美濃國山縣郡の村名）。

くずぼる（自）　燻烟にて黑くなる。

くすぼむら　楠甫村（肥後國天草郡の村名）。

くすべころす（他）　燻殺、いぶしころす。

くすどいげ（名）　柞木、巴蕊、奴怙（植物）。

くすり（名）　藥、藥材、病を治する物。

くすり（名）　釉、やきものぐすり。

くすりばこ（名）　藥箱、藥匣、くすりいればこ。

くすりぢやわん（名）　藥茶碗、くすりをのむちやわん。

くすりがり（名）　藥符、採藥、くすりとり（山等に入りて藥を）。

くすりだんす（名）　藥簞笥、くすりいるるたんす（醫者が）。

くすりなべ（名）　藥鍋、藥鑵、くすりになべ。

くすりのはかし（名）　醫博士、いはかせ。

くすりのつかさ（名）　典藥寮、てんやくれう。

くすりや（名）　賣藥商、くすりうる、藥舗、藥店。

くすりふるひ（名）　藥篩、羅合、くすりをふるふもの。

くすりと（名）　藥子（元日天子に屠蘇酒を獻ずる時藥司の童女に先づ之を嘗めしむ、其童女を藥子と云ふ）。

くすりきざけ（名）　藥酒、藥用酒、くすりになるさけ。

くすりきざみ（名）　藥刀、くすりをきざむに用ふるこがたな。

くすりゆび（名）　無名指、なしゆび。

くすりし（名）　醫師（「くすし」に同じ）。

くずぬの（名）　葛布（葛にて織りたる布にて夏服に用ふ、絺綌、くずぶ）。

ぐする（他）　具、めしつれる、したがへる。

ぐずをか　葛岡氏。

くずかつを（名）　葛松魚（鰹魚を蒸して葛をつけたるもの）。

くずかけ（名）　葛掛（料理の名にしてあつものに葛粉を鍋り入れたるもの）。

くずがみ　葛上氏。

くすたま（名）　藥玉、續命縷、五色絲、長命縷（昔し五月五日にさげし飾物にて五色の絲或は紙にて作れる球）。

くずだまり（名）　葛溜（料理に用ふる汁の名）。

くずたけ（名）　葛花菜（植物）。

くずたけ（名）　葛茸（葛と松茸とを料理したる食物、また葛粉を熟き湯にてこれ和茸の形を手にて作り湯にて水に投じ出すもの）。

くすねる（他）　竊取、ひそかにぬすみとる。

くすね（名）　拘呂、ものいみ、ものえんりよ、ひきこもり。

くすむ（自）　沈默、ことばすくなくなる、おちつきてある、十默、くろみがかる、十じみなる。

くずらを（名）　國栖魚（和州吉野にては年魚（あゆ）を然か云ふ）動物。

くすのかみ（名）　尙藥、醫藥を天子に供することを司る女官。

くすのこ（名）　葛粉（葛の根を粉にしたる物）。

くすのき（名）　楠、樟、豫樟、烏樟、にはひよきき（植物）。

くすのき　楠氏。
くすのきむら　楠村　伊勢國桑名郡の村名。
くすのきのはつしん　楠八臣　和田、恩地、矢尾、湯淺、志貫、橋本、安満、早瀬。
くすく（名）　城　琉球語にして城の字にあたる、例へば金城、與那城の如し。
くすぐる（他）　抓搔、格揖、こそぐる、わちはせる。
くすぐつたい（俗）（形）　痒、肉癢、こそつばい、わちひたくある。
くすくす（副）　竊笑、ひそかに笑ふ貌、くつくつ。
くずや（名）　葛粉、くさや、かやや。
くずやき（名）　葛燒　葛を調理したる食品）。
くすまゆ（名）　極島　極にたかる蠶蛾。
くずまんぢう（名）　葛饅頭　葛の粉にて製したる饅頭。
くずふ（名）　葛布、くずおりぬの、くずのぬの。
くずふまち　葛生町　下野國安蘇郡の町名）。
くずと（名）　葛粉、くずのこな。
くすどほり　玖珠郡　豐後國の郡の名）。
くずきり（名）　葛麺、くずぞうめん。
くずゆ（名）　葛湯、くずかきゆ　飲料）。
くすめ　楠目氏。
くすみ　久須美、久住氏）。
くすし（名）　醫師、方伎、醫生、いしや。
くすしき（形）　奇、妙、あやしき、ふしぎなる、くしき。
くずびき（名）　國栖人　大和國吉野の土人）。
くずひき（名）　葛引　食物の上に葛粉をとかして引くを云ふ）。
くずもち（名）　葛餅、蘋運餅　くずをねりて製したる食品）。

くすんごぶ（名）　九寸五分、くびかき、よろひどほし　短刀の一種）。
くん（名）　君、きみ　常に人を尊び呼ぶに用ふ）。
くん（名）　訓、をし、〈さとし。
くん（名）　勳　むかし、いさをし。
ぐん（名）　郡、こほり　國の小分）。
ぐん（名）　群　むれ、むらがり、十よりあつまり。
ぐん（名）　軍、いくさ、十いくさびと、兵。
くんい（名）　郡衣、も、裳、すそ。
くんゐ（名）　勳位　功を賞する位）。
ぐんい（名）　軍醫　軍隊に屬する醫者。
ぐんい（名）　郡醫　郡役所に屬して其郡のために勤むる醫員）。
くんいかう（名）　薰衣香、くのえかう。
くんいう　薰蒿、よきかをりあしきかをり、十善
くんいう（名）　薰鬱、くすべゐろり、香爐、かうろ。
くんろ（名）　薰顆、ふせご。
くんろくかう（名）　薰陸香、乳香　香の名、木よりいづる脂なり）。
くんばい（名）　無煤、すす。
ぐんばい（名）　群輩、あはくのともがち、十むれ。
ぐんばい（名）　軍配、いくさのくばり、十また軍
ぐんばいづる（名）　軍配蔓、つるくさのなを　軍配菜、過藍菜　植物。
ぐんばいなづな（名）　軍配菜　軍配菜、過藍菜　植物。
ぐんばいうちは（名）　軍配團扇、方扇、たううちは　軍配團扇　軍事のさしづに用ふる團扇。

くんばつ（名）　勳閥、いさをし、いさを、てがち。
くんばう（名）　薰芳、かうばしきにはひ。
ぐんばう（名）　軍防、いくさのやうじん、兵備。
ぐんばう（名）　群氓、あはくのたみ、人民。
ぐんばふ（名）　軍法、いくさのはふ。
ぐんばふくわいぎ　軍法會議　海陸軍中にて罪の有無を裁判する會議）。
くんぼ（名）　訓誨、てほん、をし〈。
ぐんぼう　軍鋒、いくさのほこさき。
ぐんぼく　群牧、くにぐにのつかさ。
くんどく（名）　訓讀、よみ　漢文の日本讀解）。
ぐんぢ（名）　軍持　梵語にて水瓶をいふ、佛教哲學に多く出づ、みづがめ、瓶。
ぐんぢう　軍中、いくさのなか。
ぐんぢやう（名）　郡長、こほりのをさ　一郡の長）。
ぐんちん（名）　軍鎮　鎮臺を云ふ）。
ぐんぢん（名）　軍陣、いくさのそなへ。
ぐんり（名）　郡吏　郡役所の役人）。
ぐんりよ（名）　軍旅、いくさ、ぐんぜい、つはもの。
ぐんりつ（名）　群立、むらたつ、そばひたつ。
ぐんりつ（名）　軍律　軍人に關する法律、いくさのおきて。
ぐんりやく（名）　軍略、いくさのはかりごと。
くんりん（名）（自）　君臨　一國に君となつて治むるを云ふ）。
ぐんるゐ（名）　群類、あはくのともがち。
くんれん（名）　君恩、きみのめぐみ。
くんかい（名）　訓誡、をしへいましめ、いけん。
くんかう（名）　薰蕕、はひ　臭等を嫌く。
ぐんかう（名）　軍港　海軍區ごとに鎮守府を置き

其所在地を軍港と云ふ。
くんかうさい（名）　薰蕕菜、ふだんさう　植物）。
くんかく（形）　熾赫、あつき、雲熱。
ぐんがく（名）　軍學、いくさのがくもん、兵學。
ぐんがくしや（名）　軍學者、兵學家　兵法の達人）。
ぐんかん（名）　軍艦、いくさぶね、艦艦。
ぐんかん（名）　軍用、いくさにつかふこと、いくさのよう。
ぐんようきん　軍用金、いくさのいりがね、軍費。
ぐんようひん　軍用品、軍需、いくさのいりよう　もの。
くんたい（名）　郡領、ゆもじ、ゆまき、こしまき、下帶。
ぐんだい（名）　郡代、だいくわん　舊官名にて今の郡長の如き名）。
くんたつさい（名）　碧蹟菜、たうちさ　植物）。
くんたう（名）（他）　薰陶、をしへ　みちびく、しこむ、しつける。
くんたう（名）　訓導、をしへみちびくこと、又學校の教官の稱。
ぐんたう（名）　群黨、なかま、ともがち。
ぐんたう（名）　群盜、あはくのぬすびと、賊黨、ぬすびとのひとくみ。
くんたん（名）　沼瀦　十二支の申の異名）。
ぐんたん（名）　軍團、いくさのくみ、軍旅。
ぐんたん（名）　軍談、いくさばなし。
ぐんたんし（名）　軍談師、讀史、いくさはなしか。
ぐんれい（名）　軍令、いくさのふれごと。
ぐんれう（名）　群僚、どうやくしゆう、あはくのなかま。
ぐんそつ（名）　軍卒、いくさびと、兵卒、兵士。
くんそく　君側、きみのそば、きみのかたはら。
ぐんぞく　軍屬　軍事に屬する人を云ふ）。
くんねつ（する）（他）　薰捏　薰陶に同じ）。
ぐんない　郡內　甲斐國の地名）。
ぐんないれり（名）　郡內縞　甲斐國の郡內より出づる織物の名）。
ぐんないふろ（名）　積雪草　國牛兒苗の一種）。
ぐんらう（名）　動勞、てがち、いさをし。
ぐんむ（名）　軍務、いくさのつとめ、軍事。
ぐんく（名）　郡區、こほり及まちわけ。
くんくわい（する）（他）　訓會、をしへる、さとす。
くんくわう（名）　曛黃、ゆふぐれ、たそがれ。
くんくわん（名）　郡官、だいくわん　郡代を見よ）。
くんくわん（形副）　薰薰、かをる、にほひよく。
くんやく（名）　燻蒸、いぶしぐすり。
くんやくしよ（名）　郡役所　一郡の事務を取り扱ふ官署）。
くんまう（形）　曛蒙、くらき、あかるくあらぬ。
くんまごほり　群馬郡　上野國の郡の名）。
くんけい（する）（自）　薰啓、にほひわたる　香氣が一かをる。
ぐんけい　郡縣、こほりあがた　國內の小區分の名）。
ぐんげん（名）　群言、あはくのひとのことば。
ぐんけんのせい　郡縣の制　今日の日本の如き制度をいふ、封建に反對す）。
くんぶ　君父、きみちち。
ぐんぶう（名）　薰風、かはりかぜ　春風をいふ）。
ぐんぶくわい（名）　軍服、いくさぎもの。
ぐんぶくわい　郡部會　其一郡だけの事に關はる會議）。
くんと（名）　訓詁、よみ、くんどく、ときあかし　漢文の）。
くんとう（名）　勳功、いさをし、てがち。
くんとう（名）　君公、きみ、主君。
くんとう（名）　君侯　諸侯の敬稱）、とのさま。
ぐんとう（名）　軍功、いくさのいさを、武功、武勳。
ぐんとう（名）　群口、あはくのひとのことば。
ぐんとく（形）　曛黑、はのぐちき、うすぐちき。
ぐんとく（名）　軍德　軍卒をなしをる德。
くんてん（名）　訓點、よみかなのしるし　漢文の）。
ぐんあ　群鴉、むらがらす、衆烏。
くんさい（名）　薰蕕、くさきあをもの　惡臭の類を云ふ）。
ぐんさう（名）　軍曹　下士官の役名）。
ぐんさう（名）　軍葬、いくさよほひ。
ぐんさん（名）（自）　軍算、いくさのかんが〈。
ぐんさん（する）（自）　群參、むれまゐる。
ぐんざん　群山、あはくのやま。
ぐんき（名）　軍機、いくさのかけひき。
ぐんき（名）　軍器、いくさのうつはと、兵器。
ぐんき（名）　軍紀、いくさのかきもの、軍志。
ぐんき（名）　軍議、いくさのさうだん。
ぐんき　群議、衆議、あはくのひとのさうだん。
くんきよ（名）　郡渠、すそ、もすそ。
ぐんきよぞくぶつ（名）　群居動物　平常群れ居る下等動物。

ぐんき 群記、多くの人の嘲弄。
くんゆ〔名〕 訓諭、いひきかせ、をしへさとし。
ぐんゆう〔名〕 群雄、多くの英雄。
くんめい〔名〕 君命、きみのおほせ。
くんみんどうち〔名〕 君民同治、君と民と共に和して世を治める政體をいふ。
くんみんきょうち〔名〕 君民共治、君民同治に同じ。
くんし〔名〕 君子、貴き人又貴き性質品格の人。
くんし〔する〕〔他〕 訓示、をしへ、さとし、諭言。
くんし〔名〕 訓辭、をしへことば、さとし、諭言。
ぐんし〔名〕 軍市、奈良の東南に在る十三星の名。
ぐんし〔名〕 軍師、いくさのはかりて、謀士。
ぐんし〔名〕 軍資、いくさのいりがね、軍用金。
ぐんし〔名〕 軍士、つわもの、兵士。
ぐんじ〔名〕 郡司、こほりつかさ、中古郡を司りし官吏をいふ。
ぐんじ〔名〕 軍事、いくさのこと、兵事。
ぐんじ 郡司氏。
くんしかう〔名〕 君子香、うめのはな。
ぐんしよう〔名〕 軍費、いくさぶみ、兵費、兵志。
ぐんしよく〔名〕 軍食、ひやうちう。
くんしのさんゐ 君子三畏、天命、大人、聖人言。
くんしのしじ 君子四時、朝は政を聽き、晝は訪問し、夕は今を修め、夜は身を安んず。
くんしやう〔名〕 勳章、てがちのしるし、いさをのしるし、名譽の徽章。
ぐんしやう〔名〕 軍將、いくさぎみ、たいしやう、軍帥。
ぐんじやう〔名〕 群青、白青礦物の名、繪の具に用ふ。
ぐんじやう〔名〕 群生、萬人を云ふ。
ぐんじやうとほり 郡上郡、美濃國の郡の名。
くんしやく〔する〕〔他〕 寵妃、ふすべる、いぶす。
くんしやく〔名〕 訓釋、ときあかし。
ぐんじとうさい〔名〕 軍事公債、軍國のために募りたる公債。
くんしふ〔する〕〔他〕 群拾、ひろひとる。
ぐんしふ〔する〕〔自〕 群集、むらがりあつまる。
くんじゆ 群衆、あほくのひと、一する〔自〕
くんじゆ〔名〕
くんじゆ〔する〕〔自〕 群衆、むらがりあつまる。
くんじゆどくさい 君主獨裁、君主の一意見にて自由に政治を行ふ政體。
ぐんしゆう〔名〕 群衆、あほくのひと、くんじゆ。
ぐんじゆう〔名〕 軍鏡、いくさづつ、いくさづつはう。
くんしゆせんせい 君主專治、君主獨裁に同じ。
くんしゆせんせい 君主擅制、君主獨裁に同じ。
くんしん 勳臣、てがちあるけらい、いさをあるあみ、功臣。
ぐんしん 群臣、あほくのけらい、けらいざう。
ぐんしん〔名〕 軍神、いくさがみ、ゆみやがみ。
ぐんじん〔名〕 軍人、いくさびと、つはもの。
ぐんえい〔名〕 軍營、ぢんや、いくさのぢん。
くんえかう〔名〕 薰衣香、かをりもの、くのえかう。
ぐんえき〔名〕 軍役、いくさしごと、いくさ、たたかひ。
ぐんぴ 軍費、いくさのつひえ。
ぐんぴ〔する〕 群飛、むらがりとぶ鳥などが。
ぐんぴやう〔名〕 軍兵、いくさびと、軍人。
くんもう〔名〕 訓蒙、初學の者に教ふるをいふ。
くんもく 薰沐、こころもちをかをらしかみをあらふ（化粧をいふ）。
ぐんもん〔名〕 軍門、軍營の門、幕門。
ぐんせい〔名〕 軍政、いくさのとりしまり。
ぐんせい〔名〕 軍制、いくさのさだめ。
ぐんせい〔名〕 群生、もろもろのいきもの、十また庶民、衆庶。
ぐんせい〔名〕 郡制、こほりのさだめ（郡の制度を云ふ）。
ぐんせい〔名〕 軍勢、つはもの、軍兵。
くんせいにしん〔名〕 燻製鯡、いぶしにしん。
くんせつ〔する〕〔他〕 訓戒、をしへさとす。
ぐんせう〔名〕 群小、つまらぬものども、衆小人。
くんせき〔名〕 勳績、てがち、いさをし。
くんせん〔する〕〔自〕 薰染、かほりしみゐ、そまる、十あやかる。
ぐんせん〔名〕 軍船、いくさぶね、ぐんかん。
くんせんし〔名〕 君選子、さるがき、しなのがき、まめがき（植物）。
くんす〔名〕 君子僧侶の下腹、としまき。
ぐんすゐ〔名〕 軍帥、いくさつかさ、將帥。
くんずる〔他〕 訓、よむ（漢文を日本風に）。
くんずる〔自他〕 薰、くゆる、くゆらす。
くんずる〔自他〕 薰、かをる、かをらす。

や

や 耶、乎、歟、邪、哉、夫、也（疑を言ひあらはす詞）。
や〔名〕 屋、室、宇、家、いへ。

や〔名〕 矢、箭（弓につがひて射出だすもの（本圖なるは大和國釜口長岳寺藏能登守教經所用）。

や〔名〕 輻、車の轂と輪の間に在る多くの竪の棒にて輪を支ふるもの。
や〔名〕 夜、よる。
や〔形〕 八、やつ、四を二あはせたる數。
や〔名〕 谷、たに、やつ。
やい〔名〕 野、の官朝に對して人民の方を野といふ）。
やいば〔名〕 夜衣、よぎ、よるのもの。
やいばた〔名〕 刃、劍鋩、白刃、かたなのは、十つるぎ。
やいばた 鑿、やきはた、野原などの燒跡にひらきたる畑を云ふ。
やいざ〔名〕 灸、きう。
やいざばね〔名〕 牛皮漆、女青、くそかづら（植物）。
やいざばし〔名〕 艾火灸、灸をすゑるはし。
やいと〔名〕 再從兄弟、三從兄弟、またいとこ。
やいう〔名〕 夜遊、よあそび、よあるき。
やいくさ〔名〕 矢軍、ゆみいくさ。
やいとめ〔名〕 糯米、やきごめ。
やいひ〔名〕 炙、きう、やいと。
やいずみ〔名〕 燒炭、やきずみ、やきたるすみ。
やいん〔名〕 夜飲、よるのさかもり。
やいん〔名〕 夜陰、よかげ、よる、夜中。
やろう〔名〕 藥籠、やくろう。
やば〔名〕 矢場、射場、射圃、ゆみいるところ（俗に楊弓店を然かいふ）。
やば〔名〕 野馬、のうま、十又いとゆふ、かげろふ。
やば〔名〕 野蕨、やまうば。
やばい〔名〕 野梅、のうめ（植物）。
やばにしきぎ〔名〕 衝矛（田雲の方言、くそまゆみ、植物）。
やはり〔俗〕〔副〕 矢張、仍、なほしく。
やはか〔副〕 豈、いかでか。
やはかげ〔名〕 柔鹿毛、織田信長愛馬の一）。
やはだいい 野馬臺、耶馬堆（古昔支那より日本を指していへる稱にして其實は「やまと」と讀むべし）。
やはだいのし 野馬臺詩、古昔吉備の大臣が支那にて讀み解きたりといふ日本將來の讖言書をいふ是もと僞書なり。
やはたのじふにけい 八幡十二景、德山鹿社、落陽殿霞、石水清潭、鹿飼夕月、天台積雪、淀橋舒照、孤川征帆、伏澤落雁、難波捨浪、山崎晚鐘、嵯峨暮雪、御山晴嵐。
やはたやまのこせい 八幡山、山城國男山の一名）。
やはたやまのこせい 八幡山五井、石清水、鵜飼水、阿伽水、藤井清井。
やはたまち 八幡町、山城國綴喜郡の町名、また上總國市原郡、下總國東葛飾郡に同名の町あり）。
やはたさう〔名〕 八幡草、ものとめさう、植物。
やばね〔名〕 矢羽、矢に附ける羽。
やはら〔名〕 柔術、じうじつ、拳法、相撲の類。
やはらざり〔名〕 柔術家、拳法の達人）。
やはらか〔形〕 柔、柔軟、かたからぬ、十軟弱、軟脆、よわよわしき。
やはらかに〔名〕 和賣、料理にて堅き肉類を和らかく賣ること。
やはらぐ〔自他〕 調和、調和、和睦、和解、和柔、親睦、なかなほりする、十穩、雙、諧、適、あひかなふ。
やはらくさ〔名〕 黃氏、ゐうぎ、戴勝草（植物）。
やはらすぎ〔名〕 櫛杉（植物）。
やはり〔名〕 野稻、野戰に用ふる大砲。
やはくる〔自〕 弦、矧、矢を作る。
やはけい 耶馬溪、豐前國下毛郡の地名）。
やはと〔名〕 矢鞆、鬙、やいればと。
やはぎ〔名〕 矢人、作矢者、やづくり。
やはぎ 矢作氏。
やはぎがは 矢矧川、矢作とも書く、參河の國に在り、其末流を鷲塚川と云ふ。
やはぎのうら 矢矧浦（三河國の海濱にして和歌に名あり）。
やばせ 矢橋、近江國に在る有名の地。
やばせまち 八橋町、伯耆國東伯郡の町名）。
やばせみなと 八橋港、近江國栗太郡老上村大字八橋に在る港）。
やはず〔名〕 矢筈、はづ、矢の元の叉）。
やはずにしきぎ〔名〕 衝矛、くそまゆみ、かはくまつづち（植物）。
やはずやま 矢筈山、薩摩國伊佐と出水二郡の山）。
やはずあざみ〔名〕 雞頭草、ひれあざみ（植物）。
やはずさう〔名〕 雞頭草（植物）。
やはん〔名〕 夜半、よは、よなか。
やばん〔名〕 夜番、よばん、よまはり。
やばん〔名形〕 野蠻、野番、ひらけぬくにびと、未開國民、ひらけぬ、あちあちしき、みちをしらぬ。
やはんらく〔名〕 夜半樂、平調の曲の名）。
やに〔名〕 隨目の、膠、めくそ。
やに〔名〕 脂、きのあぶら、樹脂。
やには〔名〕 村落、むらさと。

六七四

やにはに（副）矢庭、暴卒、たちまちに、たちまち。
やにれ（名）檢、にれ（木の名）植物。
やにき（名）齊墩果の一種植物。
やほ（名）重帆船の前の方の帆をいふ。
やほ　八百はつぴやく、十駿多。
やほ（俗）形）野暮、ひちけぬ、ひなびたる、せけんなれぬ、するなちぬ、不粋。
やほにより　彌百土吉（いきつきの宮の枕詞）。
やほち（名）夜發、辻君（つじきみ）、よたか、やはつ。
やほよろづ　八百萬、莫大の數をいふ。かずかぎりなき。
やほよろづよ　八百萬代、無窮の年代を云ふ。
やぼたん（名）野牡丹、のぼたん（植物）。
やほつ（名）夜發、よたか、辻君（つじぎみ）、さうかぬ、やはち。
やほつまち　八百津町（美濃國加茂郡の町名）。
やぼくくわ（名）野木瓜、むべ、むべかつら、ときはあけび（植物）。
やほや（名）八百屋、あをものうり。
やほやもの（名）蔬菜、あをもの、やさいもの。
やへ　八重、やつがさね、彌重（やへの潮路などいふ）、十重齒花等が幾重も重なるをいふ。
やべ　野平（氏）。
やへば（名）八重歯、鯛、重鯛、かさなりば。
やへがきぢやう　八重垣町（東京市本郷區根神の町名）。
やへがきやま　八重垣山（田雲國八東郡に在る山、松江市の東）。
やへたたみ　八重畳（「へぐりの山」の枕詞）。
やへそでがき（名）八重袖垣（幾重も結びめぐらして作れる垣の名）。
やへなり（名）鼓豆、ぶんどう（植物）。
やへなりあん（名）八重成餡（鼓豆を煮て造りたる餡）。
やへむぐら（名）八重葎、踏殃殃（植物）。
やへの　八重野（氏）。
やへのざうじばい（名）八重冬至梅（八重淺紅の梅花にして冬開く（植物）。
やへやま　八重山（相模國の山）。
やへざくら（名）八重櫻、花の數層なる櫻（植物）。
やへざき（名）小牡丹（植物）。
やへもも（名）百葉桃（植物）。
やへすまち　八重洲町（東京市麹町區の町名）。
やど（名）宿、やどり、とまり、宿駕、宿舍、十また篤藏、ぬすびとやど。
やどろく（俗）名）宿六（己の夫等を賤しめて語る時に用ふる詞）。
やどとり（名）宿取、十知領間、やどわり。
やどとり（名）取矢者、やをとるもの（一人の射る弓の矢を取る者）。
やどり（名）宿、寄宿、舍、とまり。
やどりこ（名）宿下、やどあり、やぶいり。
やどりご（名）宿下兄、やどありのこども。
やどぬし（名）寄生木、はや、寓木（植物）。
やどぬし（名）宿主、寓主、やどするもの（博奕宿賭場等の）。
やどれり（名）宿下、やどさがり、やぶいり。
やどわり（名）宿割（兵衆等の寄に宿るべき家家を定むること）、十また知領使、やどわりするひと。
やどがへ（名）宿替、轉宿、やどやをかへること。
やどかり（名）寄食者、寓客、寄居者、かかりうど、よりうど。
やどかり（名）借屋人、しやくやかり、たなかり。
やどかり（名）寄居蟲、おうな（動物）。
やどたより（名）家信、わがいへよりきたれるてがみ、家間。
やどなし（形名）無宿、いへなきもの、十無籍、とせきなき罪科人等にいへり。
やどや（名）逆旅、客舍、旅店、旅館、客館、客亭、歌家、はたごや、とまりやど。
やどふだ（名）宿札、やどとれるひとのなふだ。
やどと（名）鉄、鉄鉗、やつとこ。
やどころ（名）人寄、ひとさと、十居宅、いへ。
やどさがり（名）宿下、やどあり、やどり。
やどきん（名）房金（遊客浮浪子弟などを宿して取る金をいふ）。
やどめ（名）柞木（加賀越前の方言、いぬつげ（植物）。
やどび（名）屋、舘、やとふこと、十屋人、やとはれびと。
やどびにん（俗）名）屋人、やとはれたるひと。
やどびと（名）屋人、やとひびと。
やどびちん（名）雇賃、ひようちん。
やどびぬし（名）屋主、やとふひと。
やどびかむろ（名）屋売（昔し江戸芳原にて紋日物日に近邊より屋ひ使ふ禿）。
やどびなかゐ（名）屋仲居（別に世帶を持ちて茶屋のいそがはしきときに屋はる、仲居）。
やどびき（名）野引、宿引（道路に在つて往來の客を己の家に引きて宿らする者）。
やどびびき（名）舘工、屋人、やとはれたるひと。
やどもり（名）宿守、るすな、るすばん。

やさせ　八歳、八年。
やざせん（俗）名）宿錢、はたごれう、とまりせん、宿料。
やざす（他）宿、とまらする、やどかす。
やちよ（名）野猪、いのしし、のしし、くさゐ（動物）。
やちう（名副）夜中、よなか、よなか。
やぢうま（名）驛馬、はいま、えきば。
やぢうま（俗）名）野治馬（人の爭論を買つて出る如き人をいふ）。
やちぐさ（名）八千種（物の種類のかず多きを云）。
やぢやう　新鏡、かぎいろ、ちちはは。
やちん（名）家賃、家税、屋税、屋錢、屋租、徹直、いかしれう。
やり（名）鎗、槍、鉾（人を突く武器、甲圖は本朝の鈎鎗、乙圖は西洋古代のもの）。

やりいか（名）鎗烏賊、いかのたびひ（動物）。
やりいかだ（名）槍筏、棒筏、排筏、いかだのな。
やりば（名）遣場、やるべきところ、十かたづけば。
やりばなし（俗）形）遣放、太簡、なげやり、不注意、疎放。
やりど（名）遣戸（上より垂れたる格子戸をいふ又上下の溝にはめこみたる戸）。
やりかけ（名）鎗梁、やりをかけおくうつは。
やりがんね（名）鎗鉋、鐵、はそきかんな、曲刀。
やりよくさう（名）野蔵豆、いぬやへなり（植物）。
やりたて（名）闕詩、兵欄、鎗を立て並ぶる仕組の巻。
やりだし（名）船嘴、頭槍、船の突き出たる處。
やりそとなふ（俗）名）遣損、しそんずる、しそこなふ。
やりうめ　鎗梅（中輪の白梅花にして淡紅色を帶び佳香あり）植物。
やりくる（俗）名）植物。
やりぐさ（名）地楊梅、すずめのやり（植物）。
やりちやう（名）鎗屋町（東京市京橋區の町名）。
やりとめる（俗）他）遣込、いひこむる、いひかつ、緘口。
やりて（名）遣手、皮裟（遊女屋内の取締りをする女にて姐妓の行狀を監督し大いに勢力ある者なり其凡ての事に拔目なく手を遣ふ故に遣手といふ京都島原にては之を大夫の乳母と呼ぶ、やりてばば。
やりさず（名）槍撥、やりにてつかれたるきず。
やりみづ（名）遣水、ひきみづ（庭にせきいれたる水）。
やりじるし（名）槍號、槍幟、槍につける小旗。
やりじあひ（名）槍仕合、比槍、較槍、やりのてあはせ。
やりもち（名）槍持、昔し大名等の行列の時に槍を執りたる下人。
やりもち（名）雜劍（阿波の方言、かたつむがに。（動物）。
やりすぎす（他）遣過、とはりすぎしむ。
やりぬし（名）戸主、家主、いへのあるじ、又おはや、いへもち。
やぬし（名）箭主、やのぬし、やをいたるひと。
やる（自）敗、やぶれる、くづる。
やる（他）遣、行、遣行、發遣、派遣、つかはす、十又與、あたへる。
やる（他）破、やぶる。
やる（他）殺、なす、する。
やるど（名）碼（英國所用の寸尺の名にて我曲尺三尺一分一厘に當る。
やるかた　遣方、やるべきかた。
やるかたなき（形）無遣瀬、やるかたなき。
やるせなき（名）無遣瀬、やるかたなき。
やをら（副）徐、しづかに、そろそろ。
やれもて（名）矢面、矢表、やのまへ（矢の來る前面、矢表に立ちふさがるなど云ふ。
やわたり（名）家渡、あをだいしやうの一名、紆んで人家の棟木などを渡る故に然か云ふ。
やわたむら　八和田村（武藏國比企郡の村名）。
やが（名）野蚕、あをかり（動物）。
やかいかう（名）野艾蒿、ひめよもぎ（植物）。
やかいだう（名）野海棠、はしかんぼく（植物）。
やかはむら　八川村（田雲國仁多郡の村名）。
やがかり（名）矢掛、やごろ、やのとどくところ。
やかた（名）館、おはいなるいへ、たち。
やかたぐるま（名）雲車、轜車（ごしよぐるま。
やかたぶね（名）屋形舟（樓船、屋船、花船、いへのごとくにつくれるふね。
やがため（名）鎗宅、いへしそめ家を守護すること。

やかつ（名）野葛、のくず、いぬびえ、いぬくず、つたうるし植物。
やから（名）族、眷族、族類、うから、一族、親族、戚族、親戚。
やがら（名）荊三稜（河内の方言、みくり）植物。
やがら（名）蒋草、香附子（讃州の方言、はますげ）植物。
やがら（名）矢幹、矢竿、の、箭幹（矢の竹等をいふ）、また鏃なき矢も然かいふ。
やがらを（名）矢幹魚、火箭嘴、鱵（細鳥、馬鞭魚、體の矢幹あるひは竹筒の如くなる魚類）動物。
やかり　野宵、あなかのくひもの、山者。
やかり（名）野航、ふなわたし。
（やかり）（名）夜更、よふけ。
やかり（名）—する（自）夜行、よるあるく。
やかり（名）夜航、よふね（夜中船にて行くこと）。
やがら（名）夜鷹、よるのあひとばし。
やかく（名）野客、ぬすびと、盜賊。
やがく（名）夜學、よるのものまなび、よるのがくもん。
やがくさう（名）夜學燈、書燈、書燈（夜學にともす燈）。
やかましき（俗）形）囂、喧聒、かまびすしき、喧囂、喧嘩、囂囂、囂然、囂囂、噪、さうざうしき、十又くちやかましき。
やがふ（名）—する（自）野合、くつつきあひ（男女の「くつつきあふ」、苟合、男女が）。
やがふさう（名）夜合蘭、うばかづら（植物）。
やがふくわ（名）夜合花、ねむのはな。
やがて（副）軈和字、頓、乃、すなはち、すぐに、とりもなほさず、十（俗）やがてありて。
やがみ　鎮神氏。
やかず（名）家數、い（かず）。
やかん（名）射干、ひあふぎ（植物）。
やかん（名）野狐、野干、きつね（動物）。
やがん（名）夜眼、よめ（馬の脚の名所にいふ）。
やより　冶容、みやびやかなるすがた、美貌。
やよく い（名）野基菖、じゆずだま、ずずたま（植物）。
やよひ（名）彌生、三月、暮月、いやもひ（太陰暦の三月の異名）。
やよひちやう　彌生町、東京日本橋區の町名、また本郷區向ケ岡の町名）。
やよひあめ（名）彌生雨、檜莢雨、はるさめ（三月の交に降る雨）。
やた　矢田、八田、氏。
やた　八咫、一咫は四寸なりといへども詳かならず。
やたい（名）屋臺、櫓車（人を多く乘する車にて祭礼の時囃跳の用に供す）。
やたいみせ（名）屋臺店（小さくして運搬せらるる店）。
やだいじん（名）矢大臣（神祠の左右に安置する守護の大臣をいふ）。
やたばね（名）箭把、箭束、矢を一つに束ねたるもの）。
やたべまち　谷田部町、常陸國筑波郡の町名。
やたがらす（名）八咫烏、古昔神武天皇の御狩導をなしし烏にて後に神と崇められる、陽烏。
やたがひ　谷田貝氏。
やだね（名）矢種、やのたくは（、やのそな（、矢種が竭くるなど云ふ）。
やたら（俗）形）副）矢鱈、むやみ、みだりに。
やたらさがし（俗）（名）亂搜、むやみにさがしまはること。
やたう（名）夜盜、よたう、よぬすびと、ぬしこみ。
やたのかがみ　八咫鏡（内侍所、伊勢内宮の神體）。
やたけ（形）勇誠、いきはひさかんなる、はやる（心氣が）。
やたけ（名）箭竹、矢竹、篇竹、鈴鳳箭、篠竹、篇竹、篠（植物）。
やたて（名）矢袋、靫、すみいれ、墨貯、墨を貯へ携帶して不時の需に供する具、其形種々あり。
やたてうら　矢立浦、下總國匝瑳郡の海岸。
やたてやま　矢立山、對馬國に在る山。
やそ　耶蘇、いえす、基督教の創立者にして教主たる者。
やそ　八十、はちじふ、又只多き事にいふ。
やそさものを　八十伴緒（衆多の軍人を然かいふ）。
やそぢ　八十歳、はちじつさい。
やそかみ（名）八十神、もろもろのかみ。
やそう　野僧、沙門の謙辭、愚僧。
やそうぢびと　八十娘人、もろもろのかばねの人。
やそのみなと　八十湊、近江國の湊。
やそくま　八十隈、そこここのすみ。
やそくさに（副）八十種、さまざまに、色色に。
やそけう（名）耶蘇教、基督教（西洋の教法の名、きりしたんしうもん、いえすけう）。
やそしう（名）耶蘇宗、耶蘇教に同じ。
やそしま　八十島、やほくのしま。
やそせがは　八十瀬川（伊勢國の鈴鹿川の一名）。
やつ（名形）八、四と四とを合せたる數）。
やつ（名）谷、たに、や。
やつ（名）奴、人をさげすみて呼ぶ詞）。
やつ　谷、谷神氏。
やつばり（俗）副）矢張、はやり、同樣、同前。
やつばら　奴等、奴儕、奴輩、やつら。
やつはしのわたし　八橋渡、三河國の地名。
やつぼ（名）矢壺、やづつ、つぼやなぐひ。
やつぼ（名）矢壺、やごろ、矢所、矢をはなつ手頃のねらひどころ。
やつざ（俗）副）辛、やうやく、やうやう、かろうじて。
やつざと（名）鑢鉗、鍛冶等が物を挾むに用ふる鋏具。
やつり　八鈎頭、宗天皇の都したまひし地にして大和國に在り。
やつるぎのみや　八劍宮、尾張國愛知郡熱田宮を云ふ。
やつをのつばき（名）八峯椿、植物。
やつをまち　八尾町、越中國婦負郡の町名。
やつか　八束、やつかみ、其だ長きをいふ。
やつかほ（名）八束穗、ながきいねは。
やつがれ（名）奴僕、しもべのをとこ（やつこ）を卒者せよ。
やつがれ（代名詞）僕、小生、小子、賤子、わたくし、吾。
やつかごほり　八束郡、田雲國の郡の名。
やつがしら（名）大薯、九面芋、百基芋、植物。
やつがしら（名）蠻勝、きくいただき、頭に羽冠を戴きて之を意の如くに起伏せしむ其形は美なれども也雲中に生ずる昆蟲を食ふが故に顔る臭氣あり）動物。

［圖の蠻勝］

やつかひげ（名）八束鬚、やつかみあるひげ、ながきひげ。
やつかれる（自）憔悴、癒、癒、やせもとろへる、おじける、罷癈。
やつづつ（名）矢筒、箭、えびら、やいれ。
やつらのまひ（名）八俗舞、やつちのまひ（支那周代のまひの一）。
やつむねづくり　八棟造、八の棟を設けたる家。
やつうま　駑、八駿の馬を云ふ（動物）。
やつくち（名）賠、小兒或は婦女の袖の内の方の開きたる處をいふ。
やづくり（名）屋造、屋作、屋形、いへのつくりかた。
やつやつしき（形）饗、やせもとろへたる。
やつやま　谷山、武藏國品川驛の北に隣し東京灣に臨む、柳殿山は其西南にあり。
やつやまむら　八ツ山村（伊勢國一志郡の村名）。
やつまさ　八的、扇、蟲、小刀、花英、鉄筆、拜、柳葉、針をいふ、七ツ道具の類。
やつまささげ（名）花豆、植物。
やつぶさのうめ（名）八房梅、八蕾梅、一蕾八實を結ぶ故に名づく（植物）。
やつこ（名）奴、僕、僕僕、しもべ、琴、臣僕、賤奴、否頭、僕琴、奴僕、十また徒卒、芳原にて不義の女を戒むる爲に鼎の動をさするをやつこまたは役年といふ。
やつで（名）金剛蕚、八角金盤、植物。
やつざき　八裂、八割、やつにさくこと。
やつさもつさ（俗）名副）矢早腦雜、人群雜遝して喧しき說、やつさもつさの大入など云ふ）。
やつ甚（俗）形）種慣、いかも、はもたつ。
やつ宮ばや（形）矢繩速、矢をつがへる事の神速なるをいふ。
やつめうなぎ（名）鰻魚、鳥鰻、文魚、寶鯉、八目鰻、鰻動物。
やつめのかぶら　八目鏑、鳴鏑、八の目ある鏑矢。
やつめさす　獨芽（いづの枕詞）。
やつみみ　八耳、聰即も聽くに迅く敏きをいふ。
やつし（名）（浪花新町にて若き色男を然かいふ）。
やつし　八代氏、また地名。
やつしろ　八代氏、また地名。
やつしろかはのり（名）八代川苔、肥後國八代の產物。
やつしろまち　八代町、肥後國八代郡の町名。
やつしろどほり　八代郡、肥後國の郡及び甲斐國の郡の名。
やつしろさき（名）紫菜、植物。
やつしし（名）省寫、破眞、くづし書。
やつす（他）省書法に云ふ、欠畫、破眞、はぶく。
やつす（他）削投、畫、かへていてたつ（容貌を、變裝。
やね（名）屋根、屋背、字覆、いへのもはひ。
やねいた（名）屋根板、木瓦、やねふいた。
やねがへ（名）復葺、やねのふきかへ。
やねうら（名）屋根裏、やねのうち、天井板。
やねや（名）屋根屋、瓦屋匠、やねふくもの。
やねぶね（名）屋根舟、鹿舟、やかたぶねのもひさきもの、やねあるふね。

やねふき（名）屋根葺、茅屋、やねふくこと、十又やねや。

やな（名）簗、魚梁、魚沼（魚をとる具）、十筍、やなゞ。

やないば（名）柳蕎（やのね）の名。

やないばた（名）柳蕎田氏。

やないばと（名）柳苫、やなぎがうり。

やなるつまち（名）柳井津町（周防國玖珂郡の町名）。

やなり（名）舍電、い（なり）家の鳴ること。

やなか　谷中（東京下谷區上野公園の後にある地）。

やながは　柳川（梁川氏、十梁川陸中國に在る川の名）、十柳川（筑後國山門郡の町名）。

やながはちやう　八名川町（東京市神田區、また深川區の町名）。

やながはつむき　柳川紬（筑後國柳川產の絹）。

やながはまち　柳河町（筑後國山門郡の町名）。

やなかまち　谷中町（東京市下谷區の町名）。

やながせ　柳ケ瀬（近江國に在る有名の地）。

やながせのしちほんやり　柳瀬七本鎗（加藤清正、頼島正則、加藤嘉明、脇坂安治、糟谷武則、平野長泰、片桐且元）。

やなだ　梁田氏、また下野國日光道中の驛。

やなぐひ（名）胡簶、胡籙、ヤブつ。

胡簶

やなどほり　八名郡（安河國の郡の名）。

やなぎ（名）柳、楊柳、小柳（植物）。

やなぎは　柳葉（況鏡の一種）。

やなぎはら　柳原氏、また地名。

やなぎはらちやう　柳原町（東京市本所區、及び山城國紀伊郡の地名）。

やなぎばえ（名）鱸、白鱸、うをのな（はやを巻看せよ）。

やなぎちやいろ（名）柳茶色（染色の名）。

やなぎちやう　柳町（東京市京橋區の町、また牛込區市ケ谷の町、また小石川區の町、また神田區の町名）。

やなぎがうり（名）柳行李、やないばこ、こりのたぐひ。

やなぎがうらむら　柳ケ浦村（豐前國宇佐郡の村名）。

やなぎだ　柳田氏。

やなぎだる（名）柳樽（結納の時に酒を入れて用ゐる樽、十また誤刺の歌の類）。

やなぎたけ（名）柳貫、柳茸、きのこのたぐひ（植物）。

やなぎらん（名）柳蕙菜、やなぎさう（植物）。

やなぎのいど　柳絲（柳の枝を絲に見なせるもの）。

やなぎのはな　柳花（柳絮、やなぎわた）。

やなぎとり（名）柳行李、やなぎがうり。

やなぎさは　柳澤氏。

やなぎさう（名）柳蕙菜、草宜、くまれだまいわうさう（植物）。

やなぎしまよとちやう　柳島横町（東京市本所區の町名）。

やなぎしままち　柳島町（東京市本所區の町名）。

やなぎも（名）柳葉魚、みゞさのな（植物）。

やなぎもどむら　柳本村（大和國磯城郡の村名）。

やなせ（名）柳瀬、笠瀬（氏）。

やなせ　柳瀬、笠瀬氏。

やなず（名）鱈賓、筍、すだれのやな、すのやな、鱈、山城國紀伊郡の地名。

やなぎばえ（名）鱸、白鱸、うをのな（はやを巻看せよ）。

やなぎちやいろ（名）柳茶色（染色の名）。

やなぎちやう　柳町（東京市京橋區の町、また牛込區市ケ谷の町、また小石川區の町、また神田區の町名）。

やなぎがうり（名）柳行李、やないばこ、こりのたぐひ。

やなぎがうらむら　柳ケ浦村（豐前國宇佐郡の村名）。

やなぎだ　柳田氏。

やなぎだる（名）柳樽（結納の時に酒を入れて用ゐる樽、十また誤刺の歌の類）。

やなぎたけ（名）柳貫、柳茸、きのこのたぐひ（植物）。

やなぎらん（名）柳蕙菜、やなぎさう（植物）。

やなぎのいど　柳絲（柳の枝を絲に見なせるもの）。

やなぎのはな　柳花（柳絮、やなぎわた）。

やなぎとり（名）柳行李、やなぎがうり。

やなぎさは　柳澤氏。

やなぎさう（名）柳蕙菜、草宜、くまれだまいわうさう（植物）。

やなぎしまよとちやう　柳島横町（東京市本所區の町名）。

やなぎしままち　柳島町（東京市本所區の町名）。

やなぎも（名）柳葉魚、みゞさのな（植物）。

やなぎもどむら　柳本村（大和國磯城郡の村名）。

やなせ（名）柳瀬、笠瀬（氏）。

やなせ　柳瀬、笠瀬氏。

やなず（名）鱈賓、筍、すだれのやな、すのやな、鱈、かま（る）。

やらい（副）夜來、よごゝ。

やらい（名）櫓、さく、行馬、行落柴、柵、槍衾、竹虎、かき。

やらいぎち　矢來町（東京市牛込區の町名）。

やらいもん（名）櫓門、やぐらのもん（櫓を以て門とせるもの）。

やらかす（俗）（他）遣、やる、いたす、おこなふ。

やらう（名）治郎、あそびをとこ、たはれを。

やらう（名）野郎、ひやくしやう、十やつ（人を罵るに用ふ）、十田童、牧童、かげま十又さかやきをすりたるひと、十又（俗）をとこのこ。

やらう　野老、あなかのもきな。

やらふ（他）延、おひはらふ、追放。

やらん　夜闌、よたけなはなる。

やらん　蕙蘭、疑ひて逃よる調。

やらんかたなし（形）無遺方、いかんともしかたなし。

やむ（自）止、罷、歇、暮、弭、屢、輟、停止、禁止、已、をはる、すむ。

やむ（自）病、痾、疾、やまひをやむ、疚。

やむを（名）縲夫、をとこごけ、やもを。

やむことをえざる　不得止、ぜひなき、よんどころなき。

やむめ（名）冪蘭、をんなごけ、やもめ。

やう（名形）陽（陰陽の陽）、十あらは、おもてむき。

やう（名）洋、なだ、おほうみ、うなばら。

やう（名）羊、ひつじ（動物）。

やういい（名）洋男、えびす、蠻夷、外夷。

やういい（名）瘍醫、外科、げくわいしや。

やういつ（すする）（自）洋溢、あふるる、みつる。

やういう　養由基（漢土の弓の達人）。

やういく（名）—する（他）養育、やしなひそだてる。

やうろ（名）楊櫓、たにうつぎ（植物）。

やうばい（名）楊梅、やまもも（植物）。

やうばいさう（名）楊梅瘡、ふきでがさ（病名）。

やうばいひ（名）楊梅皮、ももかは（土佐國の產物、藥品）。

やうはつ（する）（自）揚髮、あがる、のぼる。

やうはつ　養髮、けをはやす、けをのばす、蓄髮。

やうばない（名）羊酪奶、ふさざくち、やまばうし（植物）。

やうはく（名）洋白（洋銀ともいひて銀の如く白くして僧磨き金屬）。

やうにう（名）羊乳、つるにんじん（植物、十又ひつじのちち）。

やうほ（名）羊步、ひつじのあゆみ（屠所に行く羊の懼れて迅く進まぬ樣をいふ）。

やうぼ（名）養母、やしなひはは、義母。

やうぼく　洋北、そちまけ、いつはりてにくる。

やうへき（名）洋癖（西洋風を真だしく好むこと）。

やうざう（名）羊頭（ひつじのあたま、懸羊頭賣狗肉とは人を誑著する也、十又やうぐ）。

やうざう（名）洋燈、ランプ。

やうざう（する）（自）揚騰、うへへあがる、まひのぼる。

やうざさい（名）羊肚菜、ひちたけ（植物）。

やうち（名）偉痴、そちばか、つくりばか。

やうち（名）家內、いへのうち、十また舉家、國家、うちぢう。

やうちよ（名）養女、やしなひむすめ、もらひむすめ。

やうちう（名）陽中（太陰曆二月の異名）。

やうちやう（形）羊腸、つゞらをり、九折、まがりくねり。

やうわ　養和（日本一千八百四十一年、西洋一千百八十一年、一年にて終る元號）。

やうか　八日、やつのひ、十また第八の日。

やうかい（名）洋海、大海、おほうみ。

やうかいちば　八日市場（甲斐國の地名）。

やうかいちまち　八日市町（近江國神崎郡の町）。

やうかう（名）洋行、海外の國（へ行くこと、西洋行）。

やうがう（名）羊蕎、ひつじのけ（羊の子）。

やうがく（名）羊蕎、ひつじのけ（羊の子）。

やうがく（名）洋學（西洋の學問）。

やうかくくわ（名）羊角瓜、あさうり（植物）。

やうがくしや（名）洋學者（西洋の學問に通じたる者）。

やうかふ（する）（他自）養狎、かひならす、かはれてなれる、なじむ（獸等が）、釜鬲。

やうかん（名）羊羹、羊肝菓子の名、三盃の下を見よ。

やうよ（する）（他）揚言、はゆあぐる。

やうたい　俳諧、いつはりしりぞく。

やうたい（俗）（名）樣體、容體、ありさま。

やうたいがき（名）容體書、思訣、病狀の診斷書。

やうたう（名）羊桃（植物）。

やうたう（する）（自）偉造、いつはりにくる。

やうたう（する）陽道（陰陽の陽の道）。

やうたう　羊僧、沙門（自稱の謙辭、愚僧）。

やうそう　俳走、いつはりてにげはしること。

やうそう（名）洋燕、たまねぎ、たまゝき（植物）。

やうぢ（名）羊頭、南瓜、やうづかぜ、又（やうとう）を看よ。

やうつり（名）家移、轉宅、移轉、ひきこし。

やうなし（形）無益、むえき、むだ、だめ。

やうらう　養老、おいたるをやしなふ、十また年號（日本自一千三百七十七年至一千三百八十三年、西洋自七百十七年至七百二十三年）。

やうらうがは　養老川（上總國夷隅郡より發する川、また但馬國の川）。

やうらうのたき　養老瀑布（美濃國養老郡に在る有名の瀑）。

やうらく（名）羊酪（羊の乳にて製したる食物）。

やうらく（名）瓔珞、くびだま、くびにかくるたま。

やうらくつつじ（名）瓔珞躑躅（植物）。

やうらくけいざう（名）瓔珞雞冠、みだれけいとう（植物）。

やうらくごけ（名）瓔珞苔、地梟、あたごごけ（植物）。

やうらん（名）羊欄、ひつじごや。

やうらう（名）陽鳥、金烏、曦鳥（天日を云ふ）、太陽。

やうくわ（名）揚火、はなび。

やうくわ（名）揚花、さんぐわつだいこ（植物）。

やうくわのてん（名）陽光、ひのひかり、日光、養花天（はなぐもり（三四月の曇天）。

やうやう（形副）洋洋、みちあふるる樣。

やうやう（副形）揚揚、じまんらしく、はしりか。

やうやう（副形）漾漾、水の盛んなる樣。

やうやく（副）漸、次第、漸漸、愛、だんだん。

やうま（名）羊糜、蕨、うぐち（植物）。
やうまう（名）羊毛、ひつじのけ。
やうまうそ（名）羊毛機、ひつじのけさばき。
やうまうきり（名）羊毛剪、ひつじのけをきるに用ふるはさみ。
やうけ（名）借屋賃、たなうけ、いへがりしよう。
やうまく（名）羊膜（胎盤のある哺乳動物の胎兒が包まれる膜）。
やうけい（名）陽谿（腹中の上側隅筋の間に在る穴の名）。
やうげつ（名）陽月（太陰暦十月の異名）。
やうけん（名）洋劍、サアベル（西洋風の劍）。
やうけん（名）洋犬（西洋の犬）（動物）。
やうげん（名）（する）（自）陽言、おもてむきにいふ。
やうげん（名）佯言、そちごと。
やうふ（名）養父、やしなひちち。
やうふう（名）洋風（西洋の風）。
やうふう（名）鸞鳳飛、せんごくどほし。
やうふく（名）陽復（太陰暦十一月の異名）。
やうふく（名）洋服（西洋風の衣服）。
やうふくぢ（名）洋服地（洋服を作るに用ふべき織物）。
やうふしよくさう（名）羊不食草、れんげつつじ（植物）。
やうぶん（名）洋文（西洋の文章、歐文）。
やうぶつ（名）陽物（陰茎をいふ、陰物に對す）。
やうご（名）洋語（西洋の語）。
やうとう（名）養口、すぎはひ、くちすぎ。
やうとう（名）洋紅、たうべに。
やうとう（名）陽俾、おほなみ、大浪。
やうとく（名）暘谷（日の出づる所の地、また日本の一名）。

やうてい（名）羊蹄、ぎしぎし、しのね、うしのした（植物）。
やうてう（名）陽鳥、くろづる（動物）。
やうてきちよく（名）羊躑躅、きれんげつつじ、こうれんげ、きつつじ、わうれんつつじ（ももつつじの類）（植物）。
やうてん（名）洋簟、紺青（西洋の藍靛）。
やうさ（名）佯詐、いつはり、うそごと。
やうさん（名）養蠶、かいこをかふこと、こがひ。
やうさん（名）洋算（西洋の算法）。
やうさ（名）陽氣、あたたかのき、十（份）にぎやかさ。
やうさよ（する）（他）揚擧、あげひろむる（名零を）。
やうさう（名）羊蕖、蓼門冬（植物）。
やうさう（名）楊弓、ちひさきゆみ（玩具）。
やうさう（名）陽丘、たかきをか。
やうさう（名）洋牛（西洋のうし）。
やうさや（名）佯狂、そらたはけ、そちきちがひ、つくりきちがひ。
やうさふ（名）佯從、そらなき、うそなき、いつはりなき。
やうさし（名）羊机子、おほさんざし（植物）。
やうさひ（名）楊貴妃（玄宗皇帝の妾、また梅花の名にして花の形越中梅の如く實は小なり）。
やうさせき（名）陽起石、雲母根、きちちのね（礦物）。
やうさん（名）洋琴（西洋琴）、ピヤノ。
やうさん（名）洋芹、おちんだぜり（植物）。
やうさん（名）洋銀（西洋銀貨、メキシコドル、十また洋白銀色製の金貨）。

やうめいぐの（名）洋冥、おほうか、諸侯。
陽明門の前に在り）。
やうめいもん　陽明門（禁裡の門の名）。
やうし（名）養子、もらひこ、やしなひご。
やうし（名）洋紙（西洋の紙、また西洋風の紙）。
やうし（名）楊枝（齒木、馬牙棒、はをみがくもの、十又こやうじ、馬齒蘚）。
やうじゐれ（名）楊枝入（馬齒蘚匣、こやうじばこ）。
やうしよ（名）洋書（西洋の書籍）。
やうしよう（する）（他）揚揚（ほめそやす）。
やうしよく（名）洋食（西洋風の食物）。
やうじやを（名）楊枝魚（動物）。
やうじやう（名）養生、衛生、からだのやしなひ。
やうしまご（名）養子孫、毛孫、やうしのこ、やうしのうまごこ。
やうしふ（名）洋習（西洋の風習）。
やうしきり（名）洋紙切（西洋紙を切る小刀）。
やうしゆ（名）洋酒（西洋の酒）。
やうしゆん（名）陽春（正月の異名）。
やうしゆん（名）陽尋、あたたかきはる。
やうしん（名）養親、やしなひおや。
やうじん（名）洋人（西洋の人）。
やうしんがしち　楊震四知（天知り、地知り、人知り、我知る）。
やうえう（形）陽饒、ひるがへる風雨に。
やうえん（名）陽焰、陽炎。
やうひたふ（名）楊妃櫂（布團つきの長椅子）。
やうひとう（名）楊妃垢、かがみのさび（鏡の錆）。

やうもん（名）陽門（廬樓の東北に在る二星の名）。
やうせい（する）（他）養成、やしなひなす、そだてる。
やうせいてんわう　陽成天皇（人皇第五十七代の帝、紀元一千五百三十七年（西洋紀元八百七十七年）より一千五百四十四年迄、在位八年御齡八十二歳）。
やうせん（名）洋船、おほまはり（神をかよふ船、十また外國船）。
やうせん（名）鷹扇（唐笠、たうみ）。
やうす（名）樣子、ありさま、もやう（樣子を賣るとは夢點を無ほふを云ふなり）。
やうする（名）陽睡、たぬきねふり、佯眠、そらねいり。
やうする（名）養水（稻を養ふに用ゐる水）、用水。
やうする（名）陽璇、ひとりだま（天日より火を取る水晶）。
やうすう（名）陽數、奇數、はん。
やうの（名）矢野氏。
やうの（名）矢篦、やだけ、やがら。
やうは（名）矢羽、箭羽（矢につくる羽）。
やうへ（名）屋上、いへのうへ。
やうへのことば（名）屋上若、屋遊、やねのこけ（植物）。
やうさ（名）門戶、かどのと。
やうたけ（名）矛竹、篤竹、箭簳竹（植物）。
やうね（名）矢根、鏃、やじり（矢の尖）（矢の鏃にて形根の種種あり是は陸奥國佐場野醫王寺の所藏）。

やうねいし（名）石砮（上古矢の鏃に用ひし石）。
やうねどらう（名）矢根五郎（歌舞伎十八般の一）。
やうむね（名）屋上、屋棟（屋背、屋嶺）。
やうのかみやま　矢野神山（伊豫國に在る山）。
やうのくらまち　矢倉町（東京市日本橋區の町名）。
やうのしまだけ（名）矢野島竹（安藝國の產物）（植物）。
やく（する）（他）約、つづむる（十やくそくする）。
やく（名）役、つとめ、職務。
やく（他）燒、焚、燃、火爲、焙、燒、もやす、（十炎、焰、炮、あぶる（肉等を火にて）、厄、わざはひ、厄災）。
やく（名）厄、わざはひ、厄災。
やく（名）約、約束、やくそく。
やく（名）夜具、ねだうぐ、ふすま、臥具。
やくゐん（名）役員、やくにんなかま。
やくろ（名）藥罐、くすりたたち、くすりわかすかまど。
やくろう（名）藥籠、くすりいれ（醫者が携ふる）。
やくば（名）役場、やくしよ（役所）。
やくはらひ（名）厄拂、厄除、厄除（厄祓、わざはひをはらふこと又もの）。
やくはう（名）藥方、くすりのはうがき。
やくにたたぬ（俗）無益、不中用、廢、もちひにならぬ。
やくにたつ（俗）役立、益立、有用、えきになる、ようをなす。
やくにん（名）役人、有司、つかさびと、官吏。
やくほ（名）藥鋪、くすりや、藥店。

やくほ（名）藥圃、やくゑん、くすりばたけ。
やくほん（名）譯本（翻譯したる書物）。
やくへう（名）藥氣、いんろう。
やくさく（名）役得、つとめまうけ。
やくどく（名）藥毒、くすりのさはり。
やくどし（名）役年（やつこ徒僕を見よ）。
やくどし（名）厄年（一生の中に數度ある厄難の年にして、男は七歳、二十五歳、四十七歳などを厄年とし、女は七八歳、十九歳、三十三歳、四十二歳などを厄年とす、此等の年には動もすれば大病死亡災害等の厄難に遭ふと信ぜらる西洋の所謂クリマテリク是に當る）。
やくち（名）益智（植物）。
やくち（名）騷池、ひざら（鐵砲の一）。
やぐちむら　矢口村（武藏國荏原郡の村名）。
やくちう（名）藥廚、くすりだな。
やくぢやう（名）（する）（自他）約定、とりきめ、とりきめる。
やくちし（名）益智子、ししり（植物）。
やくり（名）譯吏、つうじ（舌官、象胥、通辯）。
やくりやく（する）（他）約略、つづめる。
やくわ（名）野火、のび（野山の草木の燒けること）。
やくわい（名）夜食、よあつまり（遊宴飲酒等の爲の）。
やくわいさい（名）野灰菜、はまあかざ（植物）。
やくわう（名）夜光、螢、はたる（動物）。
やくわうがひ（名）夜光貝、錦貝、にしきがひ（動物）。
やくわうじまへまち　藥王寺前町（東京市牛込區市ヶ谷の町名）。

やくわん〔する〕 捉腕、うでまくりする。
やくわん（名） 藥鍋、くすりわかし、十〔俗〕ゆわかし。
やくかい〔する〕〔他〕 露解、はんやくしてとく。
やくかい〔俗〕〔名〕 厄介、係累、せわ、わづらひ、十家累。
やくかいにん（名） 厄介人、かかりうど、ゐさうちう。
やくがへ（名） 役替、つとめがはり、轉役。
やくかう 拒吭、のどをくびる。
やくがひ（名） 錦貝〔貝の名〕〔琉球の產にして「やくこ」といふ所にてとれる故に然か名づく〕、十さかづき〔やくがひにを以てつくれる盃〕。
〔**やくたい**〕 藥袋、みなゐ〔氏〕。
たくたいなし〔俗〕〔形〕 無藥袋、やくにたたぬ、つまらぬ、わけのわからぬ。
やくたち（名） 藥鐘、くすりなべ、やくさう。
やくたち（名） 藥刀、くすりこがたな。
やくだく（名）、—する（他） 約諾、しようち、うけひく。
やくそく（名）、—する（自他） 約束、とりきめ、いひかはせ、しばること、けいやくする、しばる。
やくそく〔する〕〔他〕 拒塞、ふさぐ。
やくそくのひれ（名） 約束鰭、鰯魚「まなかつを」の背鰭。
やぐつづら（名） 夜具葛籠〔夜具を入るる葛籠、但し是は京都島原の娼妓が用ふるものなりと云ふ〕。
やくなり（名） 藥鑵、たまぐすりいれ。
やくなん（名） 厄難、なやみ、さいなん。
やぐら 谷倉氏。
やぐら（名） 櫓、城中の望樓、ものみのたふ、戍樓、十穀樓、穀倉、穀倉、穀倉

やまがた（名）山鳥、やまのはた。
やまがた（名）山形　射場の後ろに矢を防ぐ爲めはりたる幕を云ふ。
やまがた　山縣氏。
やまがたな（名）山刀、かりうどのさすかたな。
やまがたけんちやう　山形縣鄙（羽前國山形市に設置す。
やまがたどほり　山縣郡（美濃國及び安藝國の郡の名）。
やまがたし　山形市（羽前國村山郡の市。
やまがそだち　山家育（山家にて生長してあること。
やまがつ（名）　山兒（山中に住む賤人、きこり、そまびと。
やまがら（名）　山雀、山陵鳥、鳩、山連、鷽動物。
やまがらし（名）　赤棟蛇（蛇の一種、やまかがち（動物。
やまからし（名）　十字花の一種植物。
やまがらす（名）　山鴉、赤嘴鳥、鵲、大鴉、烏鴉、はしぶとがちす動物。
やまかまち　山鹿町（肥後國鹿本郡の町名）。
やまかげどうふ（名）　山陰豆腐（豆腐の料理の名）。
やまかけそば（名）　山掛蕎麥、蕎麥の料理の名）。
やまかぶ或やまかぶら（名）　蕎麥葉貝母、みづゆり（植物。
やまかご（名）　山轎、かごのたぐひ、のりもの（山を越す等に用ふるもの。
やまがき（名）　鹿心柿柿の小長なるもの（植物）。
やまがめ（名）　山龜、いしがめ、泰龜動物。
やまがひ（名）　山峡、やまあひ。
やまがすみ（名）　山霞、やまにたなびくかすみ、山霧。
やまだ　山田（伊勢國度會郡の地にして大神宮の所在地、また伊賀國山田郡の地名。
やまだ　山田氏。
やまたにかご（名）　山谷籠、よつでかご。
やまたにぶね（名）　山谷船、ちよきぶね。
やまだち（名）　山賊、山蘆、山宮、線枕、ゐひはぎ（山中にこもりて賊をはたらく者。
やまたちばな（名）　山橘、金柑、きんかん（植物。
やまたちばな（名）　橙、だいだい、あへたちばな（植物。
やまたちばね（名）　紫金牛、やぶかうじ（植物。
やまたづの（名）　山鏈、やまにてきをきるなの。
やまたまち　山田町（陸中國東閉伊郡の町名）。
やまたどほり　山田郡（上野國の郡の名）。
やまたし（俗）形）　山田、ぼつとて、田舍より都府へ始めて出でたるをいふ。
やまだしどう（名）　山田銅、銅の礦。
やまづさ（名）　山苞、山かちのみやげ。
やまつづき（名形）　連山、やまのつらなり、やまつらなる、連峰、連岡。
やまづたひ（名）　山傳、いはがねさうの一種。
やまつなみ（名）　山津波（山の崩れて急に水の出づること、やまぬけ。
やまつみ（名）　山祇、やまのかみ。
やまねこ（名）　山猫（野生のねこ）動物。
やまねこ（名）　山猫（京都東山料理屋にて呼ぶ山藝子をいふ、また江戸時代に牛込赤阪邊に住みし密賣淫婦の稱。
やまねこ（名）　山猫（江戸時代のにんぎやうつかひの一種）。
やまねこまはし（名）　山猫舞（江戸時代の人形舞しの一）。
やまな　山名氏。
やまなり（名形）　山形、山鬼、やまのかたち、やまのかたちにになる。
やまなか　山中氏。
やまなかむら　山中村（美濃國不破郡また三河國領田郡の村の名）。
やまなかと　山中湖（甲斐國都留郡に在る湖）。
やまなまち　山名町（遠江國の町名）。
やまなし（名）　山梨、扈梨、植物。
やまなしけんちやう　山梨縣鄙（甲斐國甲府市に設置す。
やまなしどほり　山梨郡（甲斐國の郡の名）。
やまなすび（名）　曼陀羅花、まんだらげ、山茄植物。
やまうば（名）　山姥、山媼、野叟、山に居る女性の怪物といひ傳ふるもの）。
やまうばがたけ　山媼岳（信濃國水内郡に在る山）。
やまうるし（名）　山漆、三七、さんしち植物。
やまうつぎ（名）　常山、くさぎ植物。
やまのゐ（名）　山井氏。
やまのゐ（名）　山井、やまのゐど、やまのなかのゐど。
やまのゐの　山井之（あさき心）の枕詞。
やまのいも（名）　薯蕷、山藥、玉延、佛家餞、つくねいも、ながいも、じねんじやう、薯蕷植物。

やまのは　山際、山端、やまのはな。
やまのへのもり　山邊森（大和國の地名）。
やまのさねん（名）　山賊、やまぬすびと、やまだち。
やまのを　峯、やまのみね、山嶺。
やまのかみ　山神、山祇、山靈、魑魅山を主る神（十俗に惡妻を山の神といふ。
やまのかひ　峽、やまのあひだ、山間。
やまのかせぎ（名）　麁、しか、かのしし（動物）。
やまのうち　山内氏。
やまのうつぼり（名）　雉、きじ（動物）。
やまのとし　山腰、山腹、やまのよこなかば。
やまのしたたり　山雫、やまみづ、やまよりながれおつるみづ。
やまのしくまち　山ノ宿町（東京市淺草區の町）。
やまぐは（名）　山桑、雛桑、花桑、桑、ささぐは（蕃岐ありて薄きもの）植物。
やまぐに（名）　山國、やまゐはきくに、やまのなかのくに。
やまぐちまち　山口町（周防國吉敷郡の町名）。
やまぐちけんちやう　山口縣鄙（周防國吉敷郡山口町に在り）。
やまくづれ（名）　山崩（大雨などの爲めに山岡の崩るること）。
やまやなぎ（名）　山柳植物。
やまやなぎ（名）　山燒（春の頃新草のよく發達するためとして山の枯草をやくこと）。
やままゆ（名）　天蠶（野に產する蠶蟲にして是より製したる絲

［圖の天蠶］

はその光澤佳美その質堅剛なるが故に外邦人は動章綬椅子布團軍旗等を造るに最も稱美して用ふと云ふ）動物。
やまふさところ（名）　山岡、やまあひのひくきところ。
やまふぢ（名）　地檢、われもかう植物。
やまふたり（名）　山蒲萄、えびかづら、いさぶだう（植物。
やまぶき（名）　線葉花、柳帶花、茶麿、黃色の花さく樹）植物。
やまぶきいろ　棣棠色、黃色、きいろ。
やまぶきちやう　山吹町（東京市牛込區の町名）。
やまぶきの　山吹之（やもときもなく、「にはへる妹の枕詞）。
やまぶきのさき　山吹崎（近江國の崎）。
やまぶきのせ　山吹瀬（山城國の地名）。
やまぶし（名）　山伏、修驗者（僧の類にして神佛に祈願するを業とする者）。
やまぶしだけ　山伏岳（駿河國駿東郡に在る山）。
やまぶしまち　山伏町（東京市牛込區市ケ谷の町、また下谷區の町）。
やまと（名）　嫗（老いたる婦をいふ）植物。
やまとばう（名）　商陸、蕭蕭、夜呼草（赤花のものを赤昌と云ふ）植物。
やまとほり　耶麼郡（岩代國の郡の名）。
やまとし（名）　山腰、やまのこし、やまのわき、やまのかたはら、山腹。
やまとし（名形）　山越、やまをこすこと、やまをとえくる。
やまとしのみだ　山越彌陀（比叡山橫川の峯に於て阿彌陀佛が尊容を現したるを遇心僧都の拜して寫せしものと云ふ。
やまともり（名）　山雞（山中にともり居ること）。
やまとんにやく（名）　山蒟蒻、てんなんじやう（植物。
やまでら（名）　山寺（山中の寺院。
やまあらし（名）　山嵐、やまかぜ、山霧。
やまあらし（名）　豪豬、小獸、動物。
やまあげ（名）　起腹、ふくれ、もちやがり（痴猫の陸腹をいふ。

［圖の豬豪］

やまあぎみ（名）　山蔭（植物。
やまあひ（名）　山間、やまのあひだ、たに。
やまさぎ（名）　甚驚、あはみるぢさ（植物。
やまさぐ（名）　山里、やまが、やまなかのさと。
やまさけ（名）　山桑、やまのえもの。
やまさけ（名）　芍藥、しやくやく（植物）。
やまざき　山崎（山城國乙訓郡の地名）。
やまざきがは　山崎川（尾張に在る川の名）。
やまざきまち　山崎町（播磨國揖東郡の町名）。
やまさは（名）　山陰、やまのきは、やまのそば。
やまめ（名）　石斑魚（山の川などに居る魚の名）動物。
やまめぐり（名）　山帶、雨ふる前に山にかかる靄をいふ。
やまみち（名）　山路、山徑、やまのなかのみち、やまぢ、十鳥道。
やまみづ（名）　山水、やまよりいづるみづ、十山雫、やまのしたたり。

やまみつば（名）　變豆菜、うまのみつば（植物）。

やまみづてんぐ（名）　山水天狗（山水といふ文字を以て畫きなせる天狗の形）。

やまし（名）　坑戶、かなやまし、かなやまをもてるひと。

[狗天水山]

やまし（名）　山師、殺機者、やまをやるひと、十さうばし。

やましじろ　山城、やまにあるしろ、山砦。

やましろちやう　山城町（東京市京橋區の町名）。

やましろぎく（名）　野粉團兒（植物）。

やましたちやう　山下町（東京市京橋區、また下谷區上野の町）。

やましね　山科氏。

やましねむら　山科村（山城國宇治郡の村名）。

やましのね（名）　山羊蹄、酸模、すかんぽ（植物）。

やましのぎく（名）　鐘梅菖（植物）。

やましぐさ（名）　菊、きく（菊の異名）（植物）。

やましし（名）　竹雞、うばしぎ、泥鰍獵（動物）。

やましし（名）　山猪、ゐのしし。

やましび（名）　眼姑、しやこ（動物）。

やましびさ（名）　仙人、せんにん、僊人（人と神との間に居る長壽者といふ者）十また山人、やまびまひのひと。

やまひつじ（名）　山羊、羚羊、かもしか、のひつじ（動物）。

やまびと（名）　山獸、こだま、やまのかみ（山に響く音響を常に然かいふ）、嬉、魑魅、山響、十反響。

やまひめ（名）　山神、やまをまもるをんながみ。

やまもざ　山本、山下、ふもと、十また氏。

やまもざちやう　山元町（東京市麹町區の町、また麻布區の町）。

やまもざちやう　山本町（東京市神田區の町、また深川區富岡門前及び深川の町名）。

やまもも（名）　楊梅、きのな、聖梅（植物）。

やまぜり（名）　山芹、當歸、文無、山蘄、やまにんじん、白芹（植物）。

やますげ（名）　麥門冬、やぶちん（植物）。

やますげの　山菅之「そがひ」、「みならぬ」、「やまず」の枕詞。

やますげのはし　山菅橋（下野にありし橋の名）。

やますみ（名）　山澄氏。

やますみ（名）　山核、さるなし（植物）。

やますみ（名）　山鳥、やまどり（動物）。

やけ（名）　紅氣、絳氣、夕ばえ、ひは朝に時として見ゆる紅霞、あさやけ、ゆふやけ。

やけ〔俗〕（名）　自暴自棄、やけくそ。

やけ（名）　夜警、よるのいましめ、よるのようじん。

やけい（名）　野徑、のみち。

やけい（名）　野雞、きじ、やまどり（動物）。

やけいへ（名）　燒家、やけたるいへ。

やけいくわん（名）　燒石、やけたるいし、あつくやけるいし。

やけはら（名）　燒原、やけの、十やけあと。

やけど（名）　灼傷、火燒、ひやけど、禪火傷、ゆやけど火或は湯にてなしたる傷。

やけつめい（名）　燒山、休火山（一たび噴火して發けたる山）、十又やまくわじにあたるやま。

やけやま　燒山（信濃國安曇郡に在る山）。

やけやまばた（名）　畦、はたけ（やいばたを參看せよ）。

やげふ（名）　夜叉、よなべ、よしごと。

やけし　八祜氏。

やけん（名）　野莫、いぬびえ（植物）。

やげん（名）　藥研、藥碾、くすりおろし。

やげんぼりちやう　藥研堀町（東京市日本橋區の町名）。

やげんざか　藥研坂（東京市赤坂區の高陵の名）。

やけんぎう（名）　稚魚を捕る具、もり、やす。

やふ（名）　野夫、野郎、みなかもの。

やふ（名）　數草木竹等の生ひしげる處、また氏。

やふいり（名）　數入、走百病（正月七月の十六日に叔姪に問暇を與ふるを云ふ、やどもり「留下」を見よ）。

やふいしや〔俗〕（名）　數醫者、庸醫、へたのいしや、つたなきいしや、草醫人、十又やぶ。

やふいも（名）　水斑、みづいも（小兒に發する病にして小粒狀の發疹をなし且つ傳染するもの）。

やふは（名）　山茶豆の一種、ぬすびとはぎ（植物）。

やふにら（名）　蕓、ちつきやう（植物）。

やふにらみ（名）　邪睨、邪睛、歌目、ひがちめ、通視、斜視。

やふにくけい（他）　數肉桂、數桂（植物）。

やふにんじん（名）　野胡蘿蔔、野人參、竊衣、やぶじらみ、のにんじん、ながじらみ（植物）。

やふる（自他）　破、壞、敗、毀、傷、こぼつ、こはす、いためる。

やふる（名）　破（太陰曆中段十二直の一名）（稱にして從來世俗は之に依りて萬事の吉凶を判せり、破とは斗柄の相衝破する所なり故に破といふ）。

やふか（名）　數蚊、豹脚蚊、しまが（大なる蚊にして山間及び數澤に多く生ず）（動物）。

やふかからし（名）　曷蔡苺（植物）。

やふかうじ（名）　紫金牛、山橘、やまたちばな（植物）。

やふたばと（名）　天名精、いのしりぐさ（植物）。

やふたなま（名）　數玉、馬勃、きつねのちやぶくろ、まぐそだけ。

やふれいへ（名）　破屋、壞屋、こはれや、あばちや。

やふれる（自）　破、敗、破壞、くづれる、又こはれる。

やふれどろも　破衣、弊衣、されたるきもの、襤褸。

やふつかほんまち　數塚本町（上野國新田郡の町名）。

やふらん（名）　數蘭、麥門冬をいふ。

やふう（名）　野鳳、のわき、おきあちし。

やふく（名）　野服、いやしききもの。

やふどほり　養父郡但馬國の郡の名）。

やふさか（形）　吝、慳、恰、りんしよく、ものをしがる、鄙吝、慳。

やふさめ（名）　流鏑馬、馬をはしらせながら弓射る法式の名。

やふき　矢吹氏。

やふみ（名）　矢文、矢書、鏑矢に書を插みて射るもの、射書。

やふみやうが（名）　數若荷、草牛草、鴨跖草科、みやうがさう（植物）。

やふじらみ（名）　竊衣、蛇床、（のにんじん）を見よ）（植物）。

やふせき（名）　矢筋、射芝、やとりびとがやをふせぐもの。

やふすま（名）　矢衾、矢を一齊に射出すこと）。

やふん（名副）　夜分、よる、よのま。

やと（名）　野鳧、のぎつね（動物）。

やど（名）　野蕎、ゐもひじき、きせるさう、なんばんきせる（植物）。

やどろ（名）　矢頃、殺、やつぼ、やがかり。

やとうがさう（名）　野胡蘿蔔、のにんじん、ながじらみ（植物）。

やとう（名）　冶工、いものし、いもじ。

やとく（名）　夜工、よなべ、よしごと、夜作。

やとく（名）　夜哭、よなき、よるなくこと。

やとふ　八國生氏。

やとゑ（名）　雉聲（雉のしばなく聲をいふ、「やとゑのとりのなくこゑ」は雞鳴時刻なり）。

やとゑのとり（名）　八聲鳥、にはとり、かけ（雞鳴など云ふ）。

やてい（名）　野亭、のなかのやすみどころ。

やてん（名）　夜店、よみせ。

やてんくわ（名）　野甜瓜、かちすうり、王瓜、土瓜（植物）。

やはせ（名）　矢合、矢を互に射あふこと）。

やあちん（名）　野鴆、藥刺巴（植物）。

やあらつば（名）　野菜、野蔬、あをもの、蔬菜、菌菜、はぼたん（植物）。

やさい（名）　野鶏、ぐんどう（植物）。

やさを（名）　雙男、みやびを、たはれをとこ。

やさか　八坂、山城國の地名。

やさかにのまがたま　八坂瓊曲玉（三種神器の一、古代に飾りとせし曲れる玉をいふ、うるはしきまがたま）。

やさかたち（名）　獲形、やせたるかたち。

やさかむ（自）　獲、やせる（古語）。

やさがし（名）　家搜、家宅搜索、家宅搜査（家の中をさがすこと）。

やさう　野三氏。

やさく（名）　夜作、よなべ、よしごと、夜工。

やざま（名）　矢狹間、箭眼、箭窓、十銃眼、砲窓、鉄窓司鐵砲を放ち出すべき石垣の孔）。

やさき（名）　鏑、やじり、やのね。

やさび（名）　矢叫、矢を射て呼ばはる聲）。

やさし（形）　雙、綺、優美、有情、こころやはらか、十みやびやか、十また容易、たやすき。

やざゑもんちやう　彌左衛門町（東京市京橋區の町名）。

やさんさう（名）　野蠶豆、いぬそらまめ（植物）。

やさんやく（名）　野山藥、薯預、やまいも、とねんじやう（植物）。

やさ（名）　夜氣、夜中心裏に浮ぶ觀念）。

やさ　野木、八木氏。

やさ（名）　櫛子梔、やしのき（植物）。

やさ（名）　野羊、山羊、やまひつじ（動物）。

やさいへ（名）　燒屋、燒家、借字、やくべきいへ（木造の家屋をいふ、是れ火事の時は棄て火に委するが故なり、塗屋土藏などに對す）。

やさいし（名）　遍石、をんじやく。

やきいひ(名) 烘飯、やきめし、燒飯(掘りて火にやきたる飯、やきむすび。

やきいも(名) 燒芋、やきたるさつまいも。

やきいん(名) 燒印、烙印、火印、やきつくるいん。

やきば(名) 火葬場、燒戸場、化人場、茶毘所(死人を焚く所、ひとやきば、十ひや。

やきば(名) 燒刃、焼文、焼刃(火に燒きて適宜に水に渡し鍛へ上げたる刃)。

やきはちはいどりふ(名) 燒八杯豆腐(豆腐を細かに切り藁の上に並べ又藁にて覆ひ火を付け藁を燒き蹈し其儘水甕に取り幾度も水を流せば自然に藁灰去り豆腐に薄く燒目つくべし之を吸物料理などに用ふ。

やきばた(名) 火田、聖田、やきたるたはた、舊藁株等を焚きたる田圃。

やきばたらき(名) 燒働、戰爭の時の放火を云ふ。

やきばはらふ(他) 燒拂、もやしのぞく。

やきばざさ(名) 山白竹、くまざさ(植物)。

やきばり(名) 火鍼、外科の腐器。

やきはん(名) 燒判、やきいん、烙。

やきほろぼす(他) 燒亡、もやしたやす。

やきべり(名) 火耗(金等を火に燒きて重量の減じたるをいふ。

やきどうふ(名) 燒豆腐(豆腐を用に刺して燒きたるもの。

やきねさす(名) 燒落、やきたふす。

やきがり(名) 燒狩、燒獵(火を放ちてする獵。

やきがた(名) 燒模形(麩菓子などを流しこみて燒く器。

やきがね(名) 火鍼、燒針(往古鍼治に用ひし具。

やきがね(名) 焼鍼、炮烙、やきてあつるかね(燒印をつくる爲に用ふ。

やきよう(名) 燒興、よあそび(夜遊)。

やきたちを　燒太刀(「となみのせきの枕詞。

やきたちの　燒太刀之(「ところ」「つかふ」等の枕詞。

やきつかう　燒津港(駿河國の地名。

やきつける(他) 燒附、燒貼、鍍金、鍍、やきてかぶせる金銀などを。

やきなべ(名) 燒鍋(肉を燒く鍋、或は卵カステーラなどを燒く器をいふ、焙鍋。

やきなべ(名) 瓷鍋、どなべ、つちのなべ。

やきうち(名) 野牛、ひじき(動物)。

やきうち(名) 燒打、やきせめ、火攻。

やきうしなふ(他) 燒失、やきはらほす。

やきくくわ(名) 野菊花、あぶらぎく(植物)。

やきくさ(名) 燒種、もやすべきもの。

やきぐし(名) 燒鉄、燒申、ものやくくし、うをぐし。

やきやう(名) 夜行、よあるき、よるあるくこと。

やきやうれう(名) 夜行貪(夜中に火を氣づける者、ひのばんぢち。

やきやち　八木町(大和國高市郡の町名)。

やきふ　柳生氏。

やきふで(名) 燒筆、木炭筆、木筆(檜木などを燒きて筆として畫をかくもの)。

やきところす(他) 燒殺、あぶりころす。

やきとて(名) 焼鍋、やきてあつるこて、ひのし鮮理にもいふ。

やきとめ(名) 模米、いりごめ、燒米。

やきて(名) 燒手、やくもの。

やきしほ(名) 燒鹽、形鹽、やきたるしほ。

やきしやうむら　八木莊村(近江國愛知郡の村名)。

やきしめ(名) 燒注繩(馬の毛などを燒き畠に立てて鹿猪などを除ける具。

やきゑ(名) 燒印、やきいんを見よ。

やきひばち(名) 燒火鉢(下層に木の船を設けて水をたたへ、おき、其上に火鉢を二重に載せ、上の土火鉢の底に小孔を穿ちおきて下の水の蒸するに從ひて火のよくもえる樣にしかけたるもの)。

やきもどし(名) 復燒、やきをかへすこと。

やきもち(俗)(名) 燒餅、麩餅、烘餅、やきたるもち。

やきもの(名) 燒物、燒肉、しつと、ねたみ、そねみ。

やきもの(名) 炙魚、あぶりうを、やきざかな。

やきもの(名) 燒器、陶器、すゑもの、瓷器、甎器、せともの。

やきものいし(名) 燒物石(燒物に用ふる石)。

やきものがま(名) 陶竈、やきものをするかま、かはらがま。

やきものごすり(名) 沙鍋、ちやわんごすり(陶器の上にかくる物)。

やきものし(名) 燒物師、陶工、窰戸、せともの屋。

やきす(名) 燒酢(酢を茶椀の中へ設み從火を投じ溢したるものにて至極早手廻しなり)。

やきず(名) 矢疵、箭疵、矢瘡、箭傷(矢にいためられし傷)。

やきずみ(名) 燒炭(鹿の油を煤に和して竹に塗り畠に立てて鹿などを近づけぬもの)。

やきん(名) 夜食、よぎ、かいまき。

やめ(名) 止、やむること。

やめいしゆ(名) 夜明珠、やくわうのたま。

やめる(他) 止、よす、廢すること。

やめられたるつま　妻離(田舍)、さられたるつま、だされたるをんな。

やみ(名) 闇、くらきこと、くらさ。

やみ(名) 野味、ののあぢもの(獵夫が獵り得る獸類をいふ)、また其肉野臭を參看せよ。

やみほりける(自) 病疲、やみやつれる。

やみよなす　如暗夜(「ぬばたまとはひしの枕詞)。

やみぞ(名) 溝檀、いしゆみのやみぞ。

やみつく(自) 發病、やまひになる、罹疾。

やみうち(名) 闇討、暗殺、あんさつ、暗擊、暗刺、ふいにとるすこと。

やみのよ　闇夜、くらきよる。

やみくも(俗)(副) 暗雲、むやみに、みだりに。

やみあがり(名) 病後、やまひあげく。

やみあがりびと(名) 病起人、やまひのなほれるひと。

やし(名) 野士、處士、居士(官に就かざる士)。

やし(名) 海螺子(螺鈿に似たる貝)(動物)。

やし(名) 野師、やまし(藥賣り齒拔きの類をいふ)。

やし(名) 矢師、箭師、やはぎ、やつくり。

やし(名) 野子、かくしご、龜子。

やし(名) 野史、野乘(官にあらざる人の作れる史乘又は之を作る人)。

やし(名) 椰子樹、やしを、やしは東西の印度に產する樹(椰子樹にて高さ六十樹子(圖の英尺に至る)。

やじ(名) 野次、のじく(野宿)、のやどり。

やしろ　八代、屋代、矢代(氏)。

やしろ(名) 社、祠、廟、后土、寶殿、神社、廟社、みや、はこち。

やしろまち　屋代町(信濃國埴科郡の町名)。

やしはご(名) 玄孫、やしやご(第三世の孫をいふ、ひひまご)。

やしほつつじ(名) 彌潮躑躅、どうだんつつじ(躑躅の一種(植物)。

やじり(名) 矢鋒、鏃、やのね(矢の尖の鐵)。

やじりきり(名) 穿倹、掛樫、銀倉倉庫家屋などをきり穿りて物を盜む者)。

やじよう(名) 野乘、野史(私人の作れる歷史また稗史の類)。

やしよく(名) 夜食、晩餐、晩食、よるくふめし、ゆふめし。

やしよく(名) 野色、のげしき、ののありさま平野の光景。

やしなたらげ　矢科嶺(山城國紀伊郡に在る山)。

やしなふ(他) 養育、はぐくむ、そだてる、十字(民を、十餌兒を、十飼畜畜を、十鎮、畜養、培養、牧養、養養、育養、深養、撫養。

やしなひたちち(名) 養父、やうふ。

やしなひれや(名) 養母、やうぼ。

やしなひむすめ　養女、もちひむすめ。

やしなひど(名) 養子、もちひこ。

やしう　野州(下野國をいふ)。

やしう(名) 野臭、ののにほひ(獵師の衣服等の臭をいふ、野味を參看せよ。

やじうま(俗)(名) 彌次馬(人の噂論に傍より立の長さ十四五英尺樹頂に寶を結ぶ)(植物)。

やし(名) 冶者、かぢや、鍛冶。

やしや(名) 夜叉、藥叉(梵語にて惡鬼をいふ)。

やしやがしら(名) 夜叉頭、ねづみこやし、牛蒡、ごぼう(植物)。

やしやらい(名) 夜叉權城に取り附く敵を擊つ具。

やしやう(名) 夜商、よあきなひ。

やしやう(名) 夜鳴、やしよく、よるのめし。

やしやうび(名) 野薔薇、のばら、さくらばら(植物)。

やしやぶし(名) 赤鳴毬(植物)。

やしやど(俗)(名) 玄孫、やしはご(孫の孫をいふ、ひまごのこ)(子孫といふ語の下を見よ)。

やしやぜんまい(名) 夜叉芋、みなもとさう(植物)。

やしま(名) 野芝麻、輕斷(植物)。

やしま(名) 八島(だんのうら)の下を見よ、また近江の國の島にて和歌に名高し)。

やじま　矢島氏。

やしまぐに　八洲(日本國の古名)。

やしまやま　屋島山(讃岐國木田郡に在る山)。

やしまはち　矢島町(羽後國由利郡の町)。

やしふ(名) 夜襲、よるおそふと敵人等を、ようち。

やしき(名) 屋敷、宅地、家のある地、邸宅、居邸、第、い(どこと。

やしきもり(名) 番莊、やしきをまもるひと(大名等の下屋敷を守る人)。

やしゆ(名) 櫛子油、やしのあぶら。

やしゆ(名) 野陸、ゐなかのもちぬき。

やじゆ（名）　佛閣「やしを見よ」植物。
やしゆたら　耶輸陀羅釋迦牟尼の夫人。
やしゆく（名）　野宿、のじゆく。
やじゆん（名）　夜巡、よまはり。
やしん（名）　野心、みちならぬこころ、逆心。
やじん（名）　野人、ゐなかもの、ものしらず。
やえい（名）　野營、野陣、のぢん。
やえん（名）　夜經、よさかもり、夜宴。
やえん（形）　冶艶、はでやか、あだつぽい、うつくしき。
やゑんどう（名）　野豌豆、はまえんどう、いぬぞちまめ（植物）。
やひ（形）　野鄙、いやしき。
やひろ　八尋常に只長大なるに譬へ用ふ。
やひろぼと（名）　八尋老、ながきはと。
やひろどの（名）　八尋殿、ひろきやかた。
やひろのはま　八尋濱「豐前國の地名。
やひらで（名）　八拍手「神を拜する時やつひらでをうつを云ふ。
やも　八面、やつのかた、八方、東西南北及び四維。
やもり（名）　壓虎、守宮（あもりの類にして壁に住む蟲）動物。
やもり（名）　屋守、家守、ゐすゐ、ゐすばん。
やもを（名）　鰥、曠夫、鰥夫、妻なきもの、妻を失ひたる者、をとこやもめ。
やもめ（名）　寡婦、孀、鰥、櫛鰥、未亡人、夫を失ひたる婦、ごけ。
やもめがらす（名）　鰥烏、病鶴、病める烏の義にて夜中に鳴きさわぐ烏鶴を然か呼ぶ、可憐の病鶴よ夜半夜中に人を驚かすなど云ふ「動物。
やもめたふし（名）　梔杷、いなとき、いねとくつは、せんば、此の器山來て寡婦ども業を失ひし故に然か名く。
やもめぐらし（名）　寡居、夫を失ひて一人にて生活しをること、やもめじよたい、ごけじよたい、寡婦の生活。
やもひ（名）　病、やまひ。
やもい（代名詞）　野生、わたくし、野子（自ら卑下して呼ぶ詞）
やせい（名形）　野生、じねんなえ自然生、のにはえたる。
やせい（名）　夜精、雄黃に同じ。
やせいくわべう（名）　野西瓜苗、てうろさう、ぎんせんくわ、しやどうろう「植物。
やせち　瘠地、痩地、瘠土、痩殺地、薄瘠地、地味の惡しき田地をいふ。
やせる（自）　痩、瘠、衰、痩、痩瘠、羸、痩、痩枯、瘠枯、にくゐちる、からだはそくなる、やつれる。
やせねさろへる（自）　羸、痩、にくゐちよわる、かじける、やつれる。
やせがたち　痩形、痩態、痩狀、やせたるすがた、又はそやかなるすがた。
やせがまん（俗）（名）　痩我慢、まけじごころ、まけをしみのつよさ。
やせた（名）　瘠田、瘠田、やせぢのた、下田。
やせたる（形）　瘠、痩、にくゐちたる、はねばかりなる、十はをき、きやしや。
やせつ（形）　野拙、ひなびてつたなき、屬閥。
やせむら　八潮村山城國愛宕郡の村名。
やせり（名）　夜飛、はたる動物。
やせり（名）　野蝦、いぬざんせう「植物。
やせぶたり（名）　鰒翼、のぶだう、えびつる「植物。
やせこける（自）　痩虛、羸、憔悴、にくゐちはそる。
やせ（名）　汗矢、やふせぎ。
やせ（名）　痩體、やせがたち、やせすがた。
やせじよたい（俗）（名）　痩世帶、貧乏生活、まづしきくらし。
やせん（名）　野蠶、のいくさ野蠶にての戰爭、ひろばのいくさ。
やせん（名）　夜戰、よいくさ、夜中の戰鬪。
やせん（名詞）　夜前、まへのよ、十前夜、さきのよ。
やす（名）　急笑、銛、稍、もり、鏃等を稱く具。
やすい　安眠、うまい、熟睡、ことちよくねむる。
やすゐ　安井氏。
やすはら　安原氏。
やすさき　藥時、鎌倉第三の執權職にて北條義時の嫡子なり「はうでうくだいを見よ。
やすさみ　安富氏。
やすり（名）　鑢、銑、銼、錯子、金屬を磨り減ちし或は切る具。
やすりぬの（名）　磨研布、みがきぬの、金剛沙紙の類。
やすりがみ（名）　磨研紙、金剛沙紙、みがきがみ。
やすりのざ（名）　矢摺藤、ゆづかの上部を卷きたる籐を云ふ。
やすりや（名）　刺磨匠、やすりつくり。
やすりしげざら（名）　矢摺重藤弓の異にいふ。
やすかは　安川氏。
やすがは　野洲川「近江國にあり、横田川とも云ふ。
やすかべ　安綱氏。

やすかた（名）　善知鳥、うたう「動物。
やすだ　保田、安田氏。
やすたしまま（名）　保田綱讃州より織り出す綾。
やすね　安直、廉價、低價、賤價、やすきねだん。
やすらに（副）　安然、無事、やすちかに、ぶじに。
やすらか（形）　安然、靖、安寧、晏如、坦然、平安、無事、安穩、心配苦難なき貌。
やすらふ（自）　休憩、いこふ、十又たちやすらふ。
やすむ（自）　休、憩、息、休憩、休息、いこふ、みをやすむる。
やすう（俗）　屋敷、いへかず、戶數。
やすのわたし　矢洲渡、近江國の地名。
やすくに（名）　安國、よく治まれるくに。
やすくにじんじや　靖國神社、別格官幣社、東京九段坂上に在り國の爲に戰死せし者を祀る。
やすやす（副）　安安、平平、無事、無異、やすちかに。
やすごほり　野洲郡、近江國の郡の名。
やすで（名）　馬陸、蜈蚣に似たる小蟲にて水邊濕地に多く生ず「動物。
やすざらしぬの（名）　野洲晒布、近江國より製出する晒布。
やすき（形）　瓊、賤、あたひひくき、貧物の。
やすき（形）　安、泰、易、寧、安寧、安寧、安康、安逸、安靖、安綏、平安、治安、やすちか、ゐだやか、安然、安穩。
やすめぢ（名）　休地、閑田、間田、荒地、あきた。
やすめづる（名）　休弦、弦を脫しにる後にかくるいと。
やすみどころ（名）　憩亭、歇亭、休憩所、休息所、いこひどころ。
やすみしし　安如「わがあはぎみの枕詞。
やすもの　低價物、低廉物、下直物、ねやすもの。
やすんずる（自他）　安、寧、康、安處、やすちかにする、又やすちかにする。
やんべ　山家、氏。
やんぬるかな　已哉、已矣、しかたがない、もうぜひなし。
やんや（感）　喝采、拍手喝采、はめことば、演說等に與ふる。
やんま（名）　蜻蛉、老青、山蜻蛉、えんば、とんぼのたぐひ動物。
やんどさなき（形）　貴、尊、たふとき。
やんどさなきひと（名）　無稱人（高貴の人を指して然か呼ぶ。
やんめ（名）　病眼、やまひめ、わるいめ。

ま

ま（名）　麻、麻履、麻、麻、是は、むの父音とあの母韻と相合して生ずる音にして五十音の中に在りては第七行第一段に位す。
ま（名）　間、隙、あひだ、さは十をり、十いへのひとつのしきり。
ま（名）　目、眼、め、まなこ（多く連語に用ふ。
ま（形）　眞、まこと、實質、十又まんなかなる、もなかなる。
ま（名）　魔、あに、惡魔、惡鬼。
ま（名）　麻、あさ「植物。
まい（名）　麻衣、あさごろも、あさぬのごろも。
まい（名）　屬牛、くろうし「動物。
まい（形）　每、つれ、ごと、いつもの。
まい（名）　枚、ひら、板紙一片、十及び卷、卷、卷を倒する具「ばいを見よ。
まい或べい（名）　米、こめ、五穀の第一「よね。
まいば或まきば（名）　繼樹、轉車絲を卷く具、まきわく。
まいはだ十まきはだ（名）　捲、横、横、樺皮、ひのきかは、船の漏る處につめこむ物。
まいばく（形）　昧、眞、はのぐちき、うすぐちき、はのぬく。
まいはけ（名）　眉掃、婦女が白粉をぬる具にて「まゆはけ」の俗語。
まいはん（する）（他）　昧犯、をかす、きげんをそこなふ、きにさはる長上對主等の。
まいばん　每晩、よるよな、よごと、每夜、每夕。
まいにち　每日、ひごと、ひび。
まいぼつ（する）（他自）　埋沒、うづめる、沙土等にて、うづまりかくれる、十上にしれぬ。
まいど　每度、たびごと、十たびたび、いつも、每回。
まいちど　今一度、いまひとたび、尙一回。
まいる（名）　哩、英里、英國の一里にして我が十四町四十三間一尺三寸六分餘。
まゐる（自）　參、詣、ゆく、きたる、いたる、十又まうでる「神社佛閣に。
まいるか（名）　海豚魚、いるか「動物。
まいるか（名）　鼠類魚、いるか「動物。
まいた（名）　蒔田氏。
まいたい（名）　枚、發、ひらめ、ひろきもびやうのもの（うはもをみよ。
まいたけ（名）　雞頭、くもたけ、國の名「植物。
まいたん（名）　昧旦、あけがた、よあけ、あけぼの、しののめ。
まいたん　每旦、まいあさ、あさごと、あさなあさ

な、毎朝。

まいねん 毎年、としごと、毎歲、年年、歲歲、としどし。

まゐらする（他）進上、たてまつる、獻、進獻、進呈、進薦、さしげる。

まいのは（名）蟷車、蟷車「かせ」を轉る具）。

まゐのぼる（自）登上、のぼりゆく（高堂都等へ）。

まいくわ（名）埋火、いけび、うづみび（灰の裏に活けたる炭火）。

まいくわい（名）玫瑰、はまなす、あかばう植物。

まいくわいくわ 玫瑰 [圖]

まいくわいしよく 玫瑰色、はまなすのはなのいろ。

まいや 毎夜、よなよな、よごと、連夜、累夕、夜夜。

まいまい（副）毎毎、いつも、つねづね。

まいまい（形）昧昧、くらき、をぐちき。

まいげつ 毎月、つきづき、月月。

まいふく〔する〕（自）埋伏、かくれふす、十まちぶせする。

まいと 毎戸、いへごと、いへいへ、軒別。

まいとく（名）昧谷、ひのいるたに（日が夕に沒する谷の名）、灌記。

まいて（副）況、いはんや。

まいてう 毎朝、まいあさ、あさあさ、あさなあさな、毎旦。

まいさら（名副）昧爽、はのほのあけ、よあけ、しののめ、早旦、あけぼの。

まいさう（名）〔する〕（他）埋葬、ほうむり、のべおくり、はうむる、うづむる、死人を。

まいざうぶつ（名）埋藏物、うづめおけるもの（土中等に、ひめもきもの、かくしもの。

まいさ（名）妹背、交鄙美人の名。

まいさよ〔する〕（他）枚擧、かぞふる、かんがうする。

まいし 昧死、いのちをかけ、君を思諜する爲に身命を擲つが如きをいふ）。

まいじ 毎事、ことごと、何事に於ても。

まいしう 毎週、ひとまはりごと、毎七日。

まいじやう（副）毎度、いつも、つねづね。

まいしゆん（形）遇俊、すぐれたる、ぬきんでたる。

まいじん 毎人、ひとごと、ものものの、ひと、ひとびと。

まいせい（名）妹壻、いもとむこ、妹の夫。

まいせい 毎實、よひごと、毎夕、毎晩。

まいせき 毎度、せきごと（田舍の都度）。

まいせき 毎夕、ゆふべごと、毎實、毎晩（まいばん）、〜よひよひ。

まいす（名）賣買、なまぐさぼうず、おべつかぼうず、十俗僧、惡僧を云ふ。

まいす（名）佞奸、諂諛、へつらひ、十また納幣賣子、ごまするもの、おべつかつかひ。

まろ（名）麻呂、天子の自ら呼ぶ語また公家衆も用ひたり、聯此字は天子に限る、われ。

まろばし（名）獨木橋（まるきばしにあなど）。

まろばす（他）轉、ころばす（轉き物をまはしやる如きをいふ）、ころげゆかしむる。

まろがち（代名詞）汝、君、人を尊敬して呼ぶ詞。

まろがしら（名）圓頂、まるきあたま。

まろね（名）丸屬（まるねにあなど）、蟋蟀、蛄蟀、くそむし、推丸車、推丸屎、黑牛兒、動物。

まろくかう（名）摩勒香、乳香、にうかう。

まろぐら（名）囲、とめぐら、廐。

まろくする（他）令圓（まるめるをみよ）。

まろや（名）丸屋、かりにたてたるいへ。

まろぶ（自）轉、ころげる、編轉、ころころまはる、蒐轉、十ころぶ、たふれる、蹉、蹉、跌遺、つまづく。

まろぶし（名）轉臥、まろびね、ごろね。

まろき（形）圓、まるき、まとか、角なくして滿月の形の如きをいふ（十輪、かどなき、まる。

まろきばし（名）圓木橋、獨橋、ひときばし、まるきばし、いつぽんばし、釣。

まろきぶね（名）圓木舟、まるきぶねに同じ。

まろめる（他）成圓、令圓、まるくする、十また輪、かどをとる、かどをつぶす。

まろびさ（名）寢醒、ごろね。

まろびね（名）轉寢、ごろね。

まば（名）眞羽、鷲羽、たかのは、矢にはぐ。

まはり（名）廻、めぐる、回轉、まはること。

まはり（名）周圍、周經、圓經、めぐる、四方、邊、あたり。

まはりばん 輪番、かはりばん（職務等に當る時をいふ）。

まはりどほき（形）汪遠、汪回、とほまはりする、てぬるき、すみやかなちぬ。

まはりどちがね（名）鍋鎖、馬具の一。

まはりどうろう（名）回燈籠、影燈、走馬燈、火勢にて中に設けたる人形等の廻る燈籠、幻燈。

まはりどし（名）輪年、むかはりどし。

まはりがうろ（名）香毬、鍾（四方上下に轉環しても挾のこぼれぬ機に作りし香爐、そくがうろ。

まはりかぎ（名）轉鈎、まはるかぎ（物を吊す爲めなる）。

まはりだい（名）轉登樓の自在にまはるもの）。

まはりづつ（名）轉砲（船の邊即ち舷上に設くる小砲を云ふ）。

まはりつくり（名）輪作（詩歌等を順番に作ること）。

まはりあはせ（名）遭遇、しあはせ、十巡合、數。

まはりみち（名）迂途、迂遠路、紆路、とほまはりなるみち、ちかみちならぬみち。

まはる（自）廻、回轉、廻轉、旋轉、めぐる、くるくるうごく。

まはだ（名）膚膏、はだつけ（鞍の下にあてる布の具）。

まはだか（名）眞裸、赤裸身にすこしも衣をきざるをいふ。

まばたき（名）眴、めばたき、瞬（目をしばたたくこと）。

まばら（形）扶疎、疏疎、蕭疎、稀疎、空疎、あひだあらき、ばらばらなる、稠密ならぬ、しげからぬ（草木其他の物などの此處彼處に散ちばりて密なちぬに云ふ）。

まはふ（名）魔法、ふしぎのわざ、妖術、あやしきじゆつ。

まはぎ（名）鱗魚、しゆんぱはぎ、動物。

まはぎ（名）眞萩、はぎ（植物）。

まばゆき（形）眩曜、まなこをいる（日光等が、盛明、怕明、めがあけぬ（光りの爲めに）。

まはしちやうちん（名）廻提灯（廻男の持ち歩く提灯、次を見よ）。

まはしをとこ（名）廻男（京都祇園町遊郭の女郎藝子の送り迎へをする男にて家内の事を掌る）。

まはしがつば（名）廻合羽、廻後檢（外套の短くして身に纏はるもの）。

まはしぜ（名）回手、まはすて（器具等の柄に云ふ）、まはるて。

まはしぎり（名）漆鑽、まはしもむきり、まひぎり、ろくろぎり。

まはしもの（名）門鑑、しのびもの、細作、間者。

まはせ（名）蝦虎魚動物。

まはす（他）廻、めぐらす（まはる）の他動體）。

まはす（他）合舞、をどらせる、まはしわる。

まはにはうじゆ（名）摩尼寶珠、如意寶珠、たふときたま。

まにまに（副）隨、ごとく、とほり、まかせて。

まにあふ（自）間合、ようだつ、やくにたつ、十又おくれぬ、十又かなふ。

まにあひ（名）間合、後巧、權變（一時の都合で、十また紙の名、摩紙等に貼る）。

まにし（名）正西、まことのにし。

まにしゆ（名）摩仁珠、如意、によい。

まにん（名）廐人、あさのみ、廐實。

まほ（名）眞帆、あひてのは（帆を帆と直角に上げて順風を受くるをいふ）。

まほ（名）眞向、まむき、まつすぐむかひ。

まぼろし（名）幻、夢幻、ゆめごとち、十又異象、ことなるあらはれ（神物の示現の如き）。

まほに（副）正磯、まさしく、まさに、たしかに、（古語）。

まはる（他）貪、むさぼる、ほしがる古語）。

まぼつ（名）馬勃、めつぶれだけ（「ばぼつ」を見よ）（植物）。

まほめつさ（名）馬呤默多（回回教を創めし人の名）。

まほめつさけう（名）馬呤默多教、回回教（耶蘇教より轉ぜし宗教にして亞剌比亞、印度等に多く行はる、ふいふいけう）。

まへ（名副）前、以前、先、さき、つかた、さき、十又おもて、かほのさき、面前。

まへ（名）除前、男女の陰部をいふ、かくしどころ。

まへいし（名）前石（茶廳に掘うる大石の一、廐語法に云ふ所）。

まへば（名）前場氏、。

まへば（名）前歯、むかば、板歯、門牙、門齒、唇の下の齒。

まへばらのこ（名）前腹兒、前家子、婢が前に孕したる家にて產める子。

まへばし（名）前橋（上野國群馬郡の市の名、廐橋とも書く）。

まへばしら（名）前艄、船の帆柱の前にあるもの。

まへど（名副）前度、異日、まへのひ、さきのひ。

まべちがは（名）間都地川、陸奥國に在る川、馬淵川とも書く）。

まへれき（名）前鹿、まへこうじやう、序文、緒言、はしがき。

まへわ（名）前輪、鞍の前の山形を云ふ。

まへわたし（名）前渡、先渡、豫渡、さきばらひ、金の、まへもつてはらふこと。

まへかど（名）前廉、まへのくだり、十まへかた。

まへがり（名）前借、豫借、さきがり（給料等の）。

まへかた 前方、こしかた、さきのかた、過去、さぎにしとき。

まへかなで(名) 前奏、したしらべ(琴等の)。

まへかけ(名) 前掛、鞦韆、まへだれ、襟、敵陣、ひざかけ。

まへがき(名) 前書、まへおきがき、序、はしがき。

まへがき(名) 鞦、くは農具。

まへがみ(名) 髻、ぬかがみ、ひたひがみ、額髪。

まへがんな(名) 前鉋、あちがんな。

まへだ 前田氏。

まへだれ(名) 前垂、鞦韆、敵陣、布陣、ひざかけ(「まへかけ」を見よ)。

まへだて(名) 前立(兜の前額の處に設けたる飾物、本圖なるは某家の所藏にて武田信玄所用の物なりと云ふ。

まへつかた(名) 前方、まへかた、そのいぜん。

まへつきみ(名) 殿上人、公卿、うへびと。

まへらど(名) 前平戸(まひらど)、櫺戸、かがみど、かうしど。

まへうしろ(俗)(名) 間柏子、へうし。

まへうしろ 前後、前面後面、あとさき、先後。

まへの 前野氏。

まへのをつさ 前夫、さきのをつと。

まへのよ 前世、さきのいのち、十又前代、さきのじだい。

まへのつま 前妻、さきのつま、うはなり。

まへのうみ 前海(肥前肥後及び筑後に包まれたる入海の名、之を有明神といひ又筑紫海と稱す)。

まへのけ 陰毛、陰所に生ずる毛。

まへのもの(名) 陰部、ひとのかくしどころ。

まへまへ(副) 前前、さきざき、まへかた。

まへざはまち 前澤町(陸中國膽澤郡の町、また同郡の町。

まへさん(名) 前金、ぜんきん、(さきばらひがね。

まへじま 前島氏。

まへび(名) 前日、きのひ(其日の前日をいふ)。

まへびろに(副) 前廣、まへかた、まへもつて。

まへびき(名) 豫折、まへもつてのれまけ、れびき。

まへびき(名) 前彈(「まへかなで」に同じ)。

まへひきをが(名) 前挽大鋸、まへひきのこぎり。

まへもつて(俗)(副) 前以、ぜんもつて、まへかたより、あらかじめ。

まへもつてのやくそく 前約、豫約、さきぎめ、あらかじめのとりきめ。

まど(名) 眞砥、砥、なめらかなるといし。

まど(名) 的弓鍋稙を遠射する爲の具、十候鵠、射場、正鵠、臭まとのはし)。

まどぐち(名) 窓、窗、牖屋屋壁に設けたる風を入れ光を取る口。

まどぐみ(名) 圖居、圓欒、くるまざ、まるくするわること、一家族等が。

まどろむ(自) 間眠、微睡、目睡、うたたねする、かりねする、とろとろとする。

まどろす(名) 船人、水手(下等水夫をいふ、俗語或は蔑語より來れるもの)。

まどば(名) 的場、射場、的を設けたる地(いば。

まどはる(自) 眩、めまはる、まつはる(「まとひつくをみよ)。

まどはす(他) 合邁、まよはす、十誘惑、いざなひそそのかす、十幾惑。

まどほ(形) 間遠、(だたる、ほどとほき、はなれたる。

まどほのひれ(名) 間遠鰭(鯉の尾の上端の鰭、はたはたのひれ。

まどり(名) 鵜、しまつどり(動物)。

まどり(名) 鵜、わし、つばさたまどり(動物)。

まどり(名) 間取、まのあたりかた(建物に云ふ)。

まどりば(名) 眞島羽(鷹の尻羽に云ふ、たかのは。

まどるい(俗)(形) 間懶、まだるい、とろい、のろい、ゆるき。

まどわく(名) 窓框、まどぶち。

まどか(形) 圓、圓、まろき、まるき、九、十刻、かどなき。

まどかに(副) 圓、まるく、かどなく。

まどがらし(名) 窓柊、柊、櫺子、れんじまど、かうしまど。

まどかけ(名) 窓掛、とばり、窓幔、まどのたれぬの。

まどかざり(名) 窓飾、窓花、窓に飾せる飾物。

まどがひ(名) 海月、くらげ(動物)。

まどう 摩應(天竺の僧にて佛教を支那に始めて攜へ來りし者、マタンガ。

まどのほし 正鵠、まとのめあて、はし。

まどのこ 櫺、まどがうしのき。

まどのめあて 正鵠、まとのはし。

まどやか(形) 鮮明、あざやか、あきらか、十有餘光月に云ふ。

まどまる(自) 結收、圓集、ひとつになる、あつまる、十又ととのふ。

まどまらし(名) 司旗(射場にありて旗を以て矢の當りを報ずる人)。

まどふ(自) 纏、絡、繞、紆、纏綿、からまる、まとひつく、まつはる。

まどふ(他) 纏、きる、みにつける衣を、十著、衣、十紐、おほふ。

まどふ(他) 賠償、つぐのひかへす、つぐのふ。

まどふ(自) 惑、疑惑、惑亂、迷惑、まよふ(心が)、十狼狽、躊躇。

まどぶた(名) 窓蓋、まどのと、まどびら、むさう。

まどころ或まんどころ(名) 政所、廳、せいふ(政事をとり扱ふ所)。

まどめる(他) 纏、ひとつによせる、十集、よせあつめる。

まどしき(形) 貧、まづしき(古語)。

まどひ(名) 纏、征機、纏繞(往昔職場にて大將の居所などに建て士卒をまとひる目的と爲したるもの)。

まどひ(名) 纏、祀旗、めじるしばた、はたじるし(消防火夫等の)。

まどひ(名) 惑、疑惑、こころまよひ、まよひ、まちがひ、あやまり。

まどひ(名) 賠償、辨償、つぐのひ、つぐのひかへすこと。

まどひつく(自) 纏著、貧縛、はひまとふ、躊躇、かちみつく、纏綿。

まどびら(名) 窓蓋、眞鍮、風が船の尾に眞向きに當るをいふ、十又まひき。

まどまち(名) 窓邊、まどのと、窓戸、まどとびち。

まどもり(名) 眞鍮、風が船の尾に眞向きに當るをいふ、十又まひき。

まどすだれ(名) 窓簾、まどのす。

まち(名) 町、あきうどのすむところ、街衢、市井、坊間、いちまち。

まち(名) 襠、袴跨(袴羽織等に縫ひいれて兩片の布の間を足す三角形の布片をいふ)。

まち(形) 貧、まづしき。

まち(名) 町醫者、市醫、町家の間に居る普通の醫者、閭閻醫。

まちにん(俗)(名) 町人、街坊人、坊賈、まちんど、あきうど。

まちどほき(形) 待遠、まちわびる、まちかねる、まちひさしき。

まちどほしき(形) 待遠敷(「まちどほきに同じ)。

まちどしより(名) 町年寄、坊正、町内の役人。

まちわり(名) 區分、くわり(市町の境界を立つるを云ふ)。

まちわびる(自) 待怠、まちかねる、まちどほしくある。

まちかねる(自) 待兼、まちわびる、まちどほしがる。

まちかねやま 待兼山(攝津國の山。

まちかける(自) 待掛、まちつける、まちをる。

まちかき(形) 間近、接近、不遠、ほどちかき、ちかくある、とほからぬ。

まちがひ(俗)(名) 間違、失錯、錯誤、錯謬、舛誤、てうがふ。

まちあはせる(自) 待合、たがひにまつ(友の來あやまり、あやまち。

まちよ(名) 廂、あさを。

まちよ(名) 廂陵、まよひ、わざはひよけ。

まちよりき(名) 町與力、街吏、まちのよりき(「よりき」を見よ。

まちつかれる 鍊磨、待勞、まちあきる、まちくたびれる。

まちつける(自) 待著、まちうける、まちをる。

まちうける(自) 待受、接待、迎接、まちをる、まちつける。

まちの 町野氏。

まちのをさ 町長、まちのかしら。

まちぐわいしよ(名) 町會所、町役人の寄合する地物。

まちくらす 待暮、俟もて日をくらす(十ながくまつ。

まちや(名) 町屋、町家、市戶、市店、市樓、あきうどの(市人の居宅。

まちまはり(名) 巡街、まはりめつけ(德川時代に在りし巡査の類。

まちまち(形) 區區、いろいろ、さまざま。

まちまちける(他) 待設、期待、こころがまへしてまつ、したくしてまつ。

まちぶさやう(名) 町奉行、市尹(今の府知事と同じ)。

まちぶせ(名) 待伏、かくれまつこと、埋伏(人を不意に害せん爲め等に物陰に隱れること)。

まちぶせする(自) 待伏、かくれてまつ、かくれてうがふ。

まちあはせる(自) 待合、たがひにまつ(友の來

る等を。

まちあかす（他） 待明、待ちて夜を明かす。よどはしまつ。

まちあふ 待合、まちあはせる、あひまつ。

まちあひ（名） 待合、茶の湯の會にて客人を待合はする室を然か云ふ、十又まちあひぢやや。

まちあひぢやや（名） 待合茶屋、人を待合する爲めに、また集會の爲などに集る家。

まちざけ（名） 琴酒、沽酒、市酒、まちにてうるさけ。

まちぎみ（名） 公卿、殿上人、うへびと。

まちん（名） 番木鼈、苦實把豆、馬錢子、藥材。

まちんど（名） 町人、まちにん、あきんど。

まり（名） 鞠、てまり、手にてつく毬、彩鞠、十けまり、蹴にて蹴る。

まり（名） 碗、わん、水等を盛る器。

まり（名） 鹼、あまりの約。

まりば（名） 鞠場、毬場、蹴鞠坪、まりあそびば、けまりどころ、まりがかり。

まりがかり（名） 毬場、まりば、上の語を見よ。

まりうち（名） 鞠打、打毬、馬に乘りて毬を打つ遊びの名。

まりく（名） 馬陵、をさむし（ばりく）をみよ。動物。

まりくくり（名） 毬工、まりをつくるひと、毬工。

まりしてん（名） 摩利支天、佛教の神の名。

まぬるい（俗）（形） 間遠、てぬるい、もどかしき。

まぬかれる（自） 免、脫、逸、免脫、のがれる、さけ

まぬけ（俗）（名形） 間抜、ふぬけ、ばか、十呆漢、ものかもの、脫奴。

まる（名） 丸、圓、まるきもの、圓點、わ。

まる（名） 謾、罵、まるる。

まるいちねん 滿一年、周歲、ひとまはりどし、期年。

まるいけ 丸池、武州志村原に在る池、其形圓なるを以て丸池と云ふ。

まるばいちご（名） 圓藜、つるいちご（植物）。

まるばち（名） 丸蜂、動物。

まるばちしやのき（名） 圓葉荳、紫草の一種植物。

まるばれもだか（名） 圓葉澤瀉、稗（植物）。

まるばわらせい（名） 圓葉黃精（植物）。

まるはだか（形名） 赤裸、あかはだか、まつぱだか、裸身、赤身。

まるばたらき（名） 圓葉當歸（植物）。

まるばのはこべ（名） 圓葉繁縷（植物）。

まるばのにんじん（名） 杏葉沙參（植物）。

まるばのほろし（名） 白英、植物。

まるばぐみ（名） 胡頹子（植物）。

まるばやなぎ（名） 青楊樹、白楊、楊搖（植物）。

まるはじかみ（名） 胡椒、こせう（植物）。

まるぼし（名） 圓點、虛心、まるきはし、まるてん、まるぼつ。

まるぼん（名） 丸本、淨瑠璃の脫本に丸本と云ふ、是は大序より大團圓まで五段を凡て一冊にしたるより名づけたる者なりと云ふ。

まるどり（名） 金取、すべてとること、みなとること。

まるぢやうちん（名） 丸提燈、毬燈、ほほづきぢやうちん。

まるをかきぬ（名） 丸岡絹、越前國坂井郡丸岡より製出する織物。

まるれび（名） 丸帶、兩側を同じ品にて合せ作れる女帶をいふ。

まるわなり 丸輪形、金環狀、まるわかた、まるるきわのかたち。

まるがはら（名） 丸瓦、陽瓦、覆瓦、うはがはら、筒瓦合せ目にかぶせる瓦。

まるがほ 圓顏、まるきかほ、豐顏。

まるがち 金鳳、金鷄、ことごとくかつこと。

まるがま（名） 莞、ゐはの植物。

まるがめ 丸龜、讃岐國仲多度郡に在る市の名。

まるがしら（名） 圓首石碑の頂の圓きもの。

まるた（俗）（名） 丸太、圓材、丸木、源木、まるるき。

まるだち（名） 侍女、ものとびと、こしもと。

まるたぶね（名） 櫂木船、「まるきぶね」に同じ。

まるづくゑ 圓案、圓几、まるきテイブル。

まるね（名） 不脫衣而寢、ごろね、きものきたるまねねること。

まるぬ（名） 鞠蕉、まるぶさな動物。

まるのこぎり（名） 圓鋸、工匠の用具。

まるのみ（名） 圓鑿、推鑿、工匠の用具。

まるのみ（名） 丸呑、かまずに呑む事、源當登下。

まるぐは（名） 白桑、圓桑、魯桑、まくは（植物）。

まるぐけ（形） 丸帶、まるくくけたる帶等の、「圓結」。

まるぐも（名） 圓蜘蛛、蜘に用ふる腹大きく圓くして色くろき蜘蛛（動物）。

まるやちやり 丸屋町、東京市京橋區の町名。

まるやま 丸山、氏、また東市京芝區增上寺の所在なる高丘。

まるやまちやり 丸山町、東京市小石川區小石川の町名。

まるやましんまち 丸山新町、東京市本郷區の町名。

まるやけ（形） 全燒、みなやけたる家等が、そうやき、全體を切り離さずに燒くこと、また殘らず焚きつくすこと。

まるまげ（名） 圓髻、既婚の婦人が結ふ髮。

まるぶさん（名） 圓博圓、輪布、圓鞠、まるきしとに。

まるぶしゆかん（名） 枸櫞、れもん（植物）。

まるこぶね（名） 丸木舟、木をくりて作りたる船。

まるどし（名） 丸腰、むこし、刀を佩びざるを云ふ、「殷刀鐵」。

まるで（俗）（副） 全、まつたく、のこらず。

まるてんじやう（名） 丸天井、圓頂樓、丸き室の天井。

まるき（名） 丸、圓、圓、圓、まとか「まろき」をみよ。

まるき（名） 丸木、源木、鋸割せざる木。

まるきばし（名） 獨木橋、獨梁、まるたばし、いつぽんばし。

まるきり（名） 圓錐、身の圓き錐。

まるきぶね（名） 丸木舟、源木船、刳木船、巨木をえぐり造れる船、まるたぶね、獨木舟。

まるめろ、或**まるめる**（名） 榅桲果木の名（植物）。

まるめろかう（名） 榅桲糕、椒養になる菓子の類。

まるめる（他） 令圓、まるくする、まろめる。

まるも（名） 丸毛、丸孜氏。

まるもの（名） 丸物、樹木の刈りこみて圓くしたるものをいふ、茶庭は天然を寫す故に丸物を植ゑずといふ。

まるもののあそび（名） 圓物遊、弓射る遊の名。

まるせいいる（名） 馬耳蓼、佛蘭西國の港の名。

まるすげ（名） 莞、莎草、ますげ、かやつりぐさ（植物）。

まるぞ（名） 麻苧、あさ、からむし（植物）。

まるさと（名） 私夫、かくしをとこ、そばを、傍夫、密夫、姦夫。

まをかまち 眞岡町、下野國芳賀郡の町名。

まをかもめん（名） 眞岡木綿、下野國芳賀郡眞岡より織り出だす物。

まをこも（名） 眞小薦（植物）。

まをし及**まをす** 申、此語は凡て今日の用法に類ひてまうし、「まうす」の下に出せり。

まをしか（名） 牡鹿、をじか（動物）。

まをもて 正面、まむき、まむかひ。

まわた（名） 眞綿、蠶綿、きぬわた。

まわた（名） 壓帶、壓の骨の横木即ち壓中の横帶。

まわら（名） 魔王、悪魔の王。

まわら（名） 麻黃、かつねぐさ、麻沙、皐相、皐鹽（植物）。

まか（形） 摩訶、梵語にて大と云ふ義、正くは「マハ」と讀む。

まが（名） 禍、わざはひ、凶事。

まかい（名） 魔界、悪魔の世界。

まかい（名） 櫂、ふねのかい。

まがい（名） 磨研、いしうす。

まかは（名） 鹼、まぶた。

まがはしき（名） 紛、まぎらはしき。

まがほ（名） 眞顏、まじめがほ。

まかべ 眞壁、氏また常陸國の有名の地。

まかへる（他） 紛、まぎらす、十まちがひみる。

まかべまち 眞壁町、常陸國眞壁郡の町名。

まかべとほり 眞壁郡、常陸國眞壁郡の郡名。

まがり 勾、近江國に在る有名の地、上勾下勾あり。

まがり（名） 蘇麿、杯盞の類。

まがり（名） 曲、勾、ゆがみ、すぐならぬこと、曲折。

まがり（名） 環餅、饅子、菓子の名。

まかりいでる（自） 罷出、しりぞきいでる、貴人の前より、十（俗）まかる、ゆく、かはだしする。

まがりほと（名） 曲鉾、山劍、鎗の鉾の山字形なるを云ふ。

まかりぢ（名） 罷道、かりみち、歸路。

まがりを（名） 曲峽、懿德天皇の都したまひし地にして大和國高市郡に在り。

まがりかど（名） 曲角、轉角、みちのまがれるところ。

まがりかね（名） 曲尺、矩、勾尺、しやくがね、大工等の用ふる。

まかりむかふ（自） 罷向、まかりむく。

まがりくねる 屈曲、曲折、うねくる、まつすぐならぬ、十羊腸、九折。

まがりぶち 曲淵、氏。

まかりとす（自） 罷越、まかりでる、まかる、ゆく。

まかりある（自）　罷在、ある、をる、十又ひかへをる。

まかりあし　反脚、そりたるあし。

まかりき　曲木、まがれるき、十また氏。

まかりみち（名）　曲路、曲逕、うねりみち、ゆがみたるみち。

まかる（自）　罷、辭退、しりぞきいづる（貴人の處より）、退出。

まかる（自）　逝去、死、ゆく、しぬる。

まがる（自）　曲、屈折、屈撓、彎曲、撓揉、屈曲、反曲、卷屈、矯屈、曲迂、鑵勾、ゆがむ、十まつすぐならぬ。

まがゐみ（名）　禰神、邪鬼、わざはひなるかみ、あしきかみ。

まかた　目賀田氏。

まかたち（名）　侍牌、あそばをんな。

まがたま（名）　曲玉、勾珠、瓊瑤、日玉、いびつなる玉。古昔貴人富者等が頸飾などに用ひし寶石。

まかたこく　摩伽陀國、摩竭提國、摩羯陀、印度中央の地の名。

まがつびのかみ　狂津日神、惡しき神の名。「わざはひがみ。

まがね（名）　眞鍮、くろがね、てつ。

まがねふく　眞鍮鳴「にふの枕詞。

まかねふ（他）　金魚子、まがねむし（動物）。

まかなふ（他）　供食、搭食、給食、くはせる、十又てあてする衣食の。

まかなひかた（名）　供食者、給食者、食物を給するを司る人、十笞案、だいどころがかり。

まかなひれう（名）　給食料、米飲錢、くはせちん（寄宿者の食料）。

まかなもて　以眞鉤（ゆげの河原の枕詞）。

まがら　嵐栖氏。

まかふ（自）　馬蝨、みづがひ（動物）。

まかふ（自）　綴、相混、まぎれる、十まちがふ。

まかふち（名）　喧、まぶち、めのふち、眼。

まかぶら（名）　喩「まがは」を見よ。

まかごと（名）　禰言、禰事、あしきことば、あしきこと。

まがき（名）　籬、笆、籬垣、垣籬、藩、かきね、かき。

まがきのしま（名）　籬島、陸奥國の島。

まがみ（名）　猥、もはかみ。

まかみべ　眞髮部氏。

まかみふる　眞髮觸「くしなだひめ」の枕詞。

まがしら（名）　目鉤、內皆、うちまなじり、めのうちかたのかど。

まがひ（名）　擬、まね、にせ。

まがひかは（名）　擬革、にせかは、紙を革の如くに作れるもの。

まがも（名）　眞鴨、鳧、かものたぐひ（動物）。

まかせる（他）　任、委、ゆだぬる、委任、委托、信任、たのみゐく、十また放任、うちすてゐく。

まかす（他）　令負、まけさする、かつ。

まかず　問數、ざしきのかず、（やかず。

まかん（名）　麻幹、あさがら、をがら（麻の茎）。

まがん（名）　鳳、かり（動物）。

まよはしざり（名）　迷鳥、狐の異名と云ふ。

まよはす（他）　迷、まどはす、十こころをうばふ。

まより（名）　眵淚、めやに、めのかす。

まよなか　眞夜中、よなか、夜半、よは、さよなか。

まよう（名）　摩厲、このり（動物）。

まよけ（名）　魔除、あくまよけ、わざはひはらひ（柳符の類）。

まよふ（自）　迷、まどふ、いかがせんとまどふ、十まちがふ、十さまよふ、十失路、ふみまよふ、十又うつつをぬかす、戰、鬪。

まよひ（名）　迷、もものひあやまり、まどひ、まよふこと。

まよひ（名）　破綻、ほころび、やぶれ、ほつれ。

まよひご（名）　迷子、迷兒「まひご」を見よ、はぐれたること。

まよひきの　眉引「よとやまの枕詞。

また（名）　股、股、股の一種（動物）。

また（副）　又、はかに、十亦、そのうへ、も、十也、十復、ふたたび、十遍。

また（名）　又、まだ、十授、きのまた、十岐、わかれ（道路の）。

また（名）　股、腰、跨、ものふたまた。

また（名）　未、いまだ、十又なほ。

まだ　萬田氏。

またいざこ（名）　從兄弟、再從兄弟、再從姉妹（兄弟の子の子等互に相呼ぶ名）。

または（副）　又、あるひは、或、十かつは。

またどなり（名）　又隣、隔隣、いつけんおいてつぎのとなり。

またたち（副）　暴地、忽然、たちまち、まつち。

まただるい（形）　日倦、疲慢、怠緩、はかばかしからぬ、てゐるい、ぐづぐづする。

またをば（名）　從祖祖姑、ぢぢのあねいもと。

またをぢ（名）　從祖祖父、ぢぢのあにおとと。

またをひ（名）　從孫、あにおとのまご。

またかはす　俱川洲薩摩國の地名。

またがり（名）　轉借、にぢうかり（人の借りたるを又かりること）。

またがる（自）　跨、ふみまたがる（足を兩方に一本づゝ踏みかくるをいふ）、十わたる、こえる。

またがし（名）　轉貸、にぢゆうがし（人に借りたるを又他に貸すこと）。

またがひ（名）　轉買、やへがひ（人の買ひたるを又買ひとること）。

またたく（自）　瞬、めばたきする、まばたきする、めをしばだたく。

またたくうち　瞬間、すこしのま、しばしのま。

またたび（名）　木天蓼、木天蓼、辛檀、荊蓼、わたたび、ねこのこのみもの（植物）。

またぞろ（俗副）　又候、またしても、ふたたび。

またづゑ（名）　丁杖、丁字杖（兩足の跛たる者が倚りて歩く杖）。

またね（名）　復寢、ねなほし、ふたたびねること。

またなは（名）　望陀縄、やへなは。

まだら（形）　斑、駁、ぶち、ふいり、ぼつぼつある。

まだらがひ（名）　文蛤、いたちがひ（動物）。

まだらたけ（名）　斑竹（植物）。

まだらねずみ（名）　松鼠（動物）。

まだらうま（名）　駁馬、ぶちうま（動物）。

まだらうし（名）　駁牛、犗牛、犗、斑牛、ぶちうし（動物）。

まだらぐも（名）　絡新婦（尻の方に黃白色の環ある蜘蛛、ぢよろうぐも）。

まだらまく（名）　馘羅、まんまく。

まだらげ　駁毛、斑毛、ぶちなるけ、ぶちけ。

まだらじま　斑島（和歌の上にて豐岐國の群島をいふ）。

またらしん　摩多羅神、野州日光山に在り源頼朝の靈廟。

まだらびやう（名）　斑點病（稻の葉の斑點を生ずる病にして多少實りの上に害ありと云ふ、俗に「蕪そば」と呼ぶ。

まだらすずめ（名）　麻雀、とりのな（動物）。

またらだ（名）　魔羅、魔の道また魔界。

またらけ（名）　又受、かさねてうけゐふこと（再び證人となること）、十またうけゐふ。

またのよ（名）　來世、のちのよ、十翌夜、あすのよ。

またのね（名）　別名、一名、ほかのな、かへな。

またのあした（名）　翌朝、よくちやう、あすのあさ。

またく（副）　全、すべて、かけなく、ことごとく。

またぐら（名）　股、股下、裡胯、うちまた（股の內方を云ふ）、うちもも。

まだま（名）　眞玉、まことのたま、ほんだま。

まだまた（副）　又又、ふたたび、かさねて。

またまたがめ（名）　又又龜、かめのたぐひ（動物）。

またまつく　眞玉附「をちこち」「をちの書原等の枕詞。

またまご（名）　雛孫、まご（をひ）甥の子を云ふ、十昆孫（兄の孫、十從孫、祈妹の孫、十甥孫の子）。

またけ（名）　眞竹、黑竹、苦竹、くろちく、ごまだけ（植物）。

またふ（名）　麻搭、麻搭、麻搭、

まつ（名）松、稙下樑、蒼髯叟、遵覺、細き針の如き葉の常緑木、十八公、五大夫、植物。

まつ（名形）末、すゑ、をはり、すゑのかたの。

まづ（副）先、第一、はじめに。

まつる　松井氏。

まづい（俗）形）不味、うまかちぬ、不美、不旨。

まつるちやう　松井町、東京市本所區の町名）。

まつるだまち　松井田町、上野國碓氷郡の宿驛）。

まついし（名）松石石絨の類、いしわた。

まつろ（名）末路、をはり、すゑ、ゆくすゑ、人の）。

まつろはぬ　不順、不遵、したがはぬ、不臣、そむきもとる、天子に）。

まつろふ（自）服、歸伏、歸降、歸順、ふくする、かうさんする。

まつば　末派、ながれ、すゑのともがち、末流。

まつば（名）松葉、まつのは、まつのきのは。

まつばぼたん（名）松葉牡丹、ひげりさう）夏花さく小さき草にて日光を喜ぶもの）植物。

まつばちやう　松葉町、東京市淺草區の町名）。

まつはる（自）纏繞、絡繞「まとひつく」及「まとはるを見よ、十綢繆、からまる（帶などが）、十まとまる、達する（或る念願などに）。

まつばがみ（名）松葉紙、かみのな。

まつはだ（名）松皮、まつのかは。

まつばらまち　松原町（常陸國多賀郡の町名）。

まつばらん（名）松葉蘭、吉利子、地柏、ちくらん（植物）。

まつばりど（名）龍鬚　龍鬚菜天門冬の類にして今を去ること三十餘年北米合衆國より徳川幕府

〔圖の龍鬚菜〕

〔圖の龍鬚菜〕

まつばぐさ（名）香茅、植物。

まつばやし（名）松林、まつのもり（松森）。

まつばふ（名）末法、すゑののり（末世の佛法、十條教）。

まつはぎさう（名）玉毬花、植物。

まつはし（名）玉毬花、植物。

まつはしのりへのきぬ（名）縫掖「かりぎぬ」の一種）。

まつはしまち　松橋町、肥後國下益城郡の町。

まつほど（名）茯苓、ぶくりやう）植物。

まつほのうら　松帆浦、淡路國の海濱）。

まつぼくり（名）松毬、まつふやり、まつかさ。

まつどまち　松戸町、下總國東葛飾郡の町。

まつざみちやう　松富町、東京市神田區神田の町名）。

まつち（名）爛枝、洋火奴、はやつけぎ、すりつけぎ「つけぎ」を見よ。

まつち（名）眞土、よきつち、壤、墳、土墳、墳壤、裘面に横はる土にて埴と沙と植物質などが混合したる肥土をいふ。

まつぢよ（名）末女、おとむすめ、すゑむすめ。

まつちや（名）抹茶、碾茶、ひきちや、こなちや。

まつちやか（名）抹茶家、ちやのゆし（茶湯を事とする人）。

〔まつぢやう〕（名）秣場、くさば、まぐさば、まき。

まつちやま　眞土山、東京市淺草區聖天町に在る山。

まつり（名）祭、祀、祭祀、祠祭、祭典、祭儀（神佛等を禮拜讃美する儀式）。

まつり（名）茉莉、まうりんくわ、もしろいばな（植物）。

まつりう（名）末流、すゑのながれ、すゑのりうぎ、末裔。

まつりや（名）廟、祭舎、たまや、十又まつりをするいへ。

まつりごと（名）政、政事、政治（國家を治むるの術）。

まつりごと（名）祭事、まいれい、祭禮、神事「まつりをみよ」。

まつりごとはじめ（名）政事始（一月四日に行はるる例延の儀式）。

まつりごとどの（名）廟、政事殿、まんどころ。

まつりごとびと（名）祐「いうこ」を見よ、十また大進、たいしん、十勘檢非違使の一官、之を判官と稱す）。

まつる（他）祭、祀、崇祭、祭祀（神佛を禮拜讃美するを云ふ、十又あがむる、かみにまつる。

まつをでら　松尾寺（大和國添上郡なる有名の大寺）。

まつか（俗）形）眞紅、鮮赤、はんあか、あかき、十又あちはなる（まつかの嘘など云ふ）。

まつかはちやう　松川町、東京市京橋區の町名）。

まつがちやう　松賀町、東京市深川區深川の町名）。

まつかた　松方、氏。

まつがたにうら　松谷浦、伯耆國の浦）。

まつがねの　松根之「まつの枕詞。

まつかう（名）林檎、はちまき、鉢巾、ひたひづつみ、づきん。

まつかう（名）眞向、まむき、正面、眞朝、まびたひ、

まつがうら　松賀浦、讃岐國の地名）。

まつがうらじま　松賀浦島、陸奥國の地名）。

まつがく（名）抹額、まつかうを看よ）。

まつがく（名）末學、おそくまなぶもの、後進、十弟子。

まつかげのすずり　松陰硯、すずりのな（相模國鎌倉光明寺藏にして平清盛が支那より將來せしものと云ふ）。

〔圖の硯隆松〕

まつかふくじら（名）眞甲鯨、動物）。

まつかさ（名）松毬、まつふやり、まつぼくり、松實、松子。

まつかさがひ（名）蚌、動物。

まつかさうを（名）茅枝魚、動物。

まつがさきむら　松ケ崎村（山城國愛宕郡また羽後國由利郡の村名）。

まつがえちやう（名）松枝町（東京市小石川區小日向の町名）。

まつがえでんぶ（名）松枝田夫「でんぶ」の一種）（食品）。

まつかぜ（名）松風、松の枝に當りて鳴る風聲、松籟、松鐘。

まつかぜ（名）松風、千草子の名、また「するめいかを醤油にて燒たる者」。

まつかぜのたき　松風瀧（攝城國石城郡に在る瀧の名）。

まつよひ（名）待宵、幾望（太陰曆十三四日の夜にして月が幾んど滿ちんとする時をいふ）。

まつだ　松田、氏。

まつだい（名）末代、すゑのよ、末世、季世、後世、よのをはり、遺季之世。

まつだちやう　松田町（東京市神田區の町名）。

まつだたなか　眞正中、まんなか、もなか、中央。

まつたけ（名）松蕈、松茸、松茸、松茸植物）。

まつたまち　松任町（加賀國石川郡の町名）。

まつたき（形）全、完、完全、完備、完具、具備、かけなき、そなはれる、十みちたれる。

まつだひら　松手、氏。

まつね（名）蘚蕈、蘚蕈、海邊に生ずる草の名）植物）。

まつね（名）問刑、すぎな）植物。

まつねが　松永、氏。

まつながちやう　松永町（東京市神田區の町名）。

まつねぐさ（名）地錦、地膚、つた）植物。

まつねみ　松波、松浪、氏。

まつらがは　松浦川、肥前國杵島郡後藤山より發し唐津灣より海に入る）。

まつらうら　松浦浦、肥前の松浦潟を和歌にて熟か云ふ）。

まつらぐほり　松浦郡、肥前國の郡の名）。

まつらん（名）賀子殷、肥前の方言、ぼうちん）植物。

まつむらちやう　松村町（東京市深川區深川の町名）。

まつむし（名）松蟲、蛬、なつのむしのな）動物。

まつむしさう（名）山蘿蔔、玉穂草、鐘仙花、りんばうぎく）植物。

まつうら　松浦、氏。

まつうらのうみ　松浦海、肥前國の海）。

〔圖の蟲松〕

まつのはね　松花、松黃、松蕊、松に咲く花。

まつのかど（名）松門、幽栖、世を避けて隱逸したる人の住み家をいふ。

まつのくらゐ（名）松位（秦始皇帝の故事に因みて大夫なる爵位を昔し然か稱號せりと云ふ）。

まつのけぶり（名）松煙、墨、すみ。

まつのぶ　松延、氏。

まつのみ　松子、まつかさ、まつぼくり、まつふやり、松毬。

まつのぜにごけ（名）苔、植物。

まつくろ（形）眞黑、純黑、烏黑、黝、黛、黶、まつたくくろき。

まつくわん　末幾、すゑのまた當籍の。

まつくわん　末歟、すゑのかど、をはりのかぞう）規則等の。

まつくら（形）眞暗、眞闇、まつたくくらき。

まつくら　松倉、氏。

まつくらちやう　松倉町、東京市本所區本所の町名）。

まつやに（名）松脂、松膏、松より生ずる堅き脂）。

まつやちやう　松屋町、東京市京橋區の町名）。

まつやま　松山、伊豫國溫泉郡の一大都會）。

まつやまちやう　松山町、東京市淺草區の町名）。

まつやまち　松山町、武藏國比企郡の町名）。

まつまへ　松前、氏、また渡島國松前郡松前郡白神鎮の奥に在る都會）。

まつまへまき（名）松前卷、魚の「すりみ」若しくは野菜などを昆布にて卷き煮たるものにて「かまぼこ」に類す）食品。

まつげ（名）睫毛、眼の邊の毛。

まつぶたち（名）内風消、まつふさ、うしぶだう

（植物）。

まつふぐり（名）　松毬、まつかさ、まつぼくり。

まつぶさに（副）　委曲、こまかに、くはしく。

まつこう（名）　末項、すゑのかぢう、末款。

まつざ（名）　抹茶、ひきちや（まつちやを見よ）。

まつさを（形）　眞青、純青、まつたくあをき。

まつざかちやう　松坂町（東京市芝區三田の町、また本所區の町、また伊勢國飯南郡の町）。

まつさかさま（形）　眞倒、さかさま、あたまをしたにして。

まつざかじま　松坂縞（伊勢國松坂より織り出せる木綿）。

まつさつ（する）（他）　抹殺、けす、けしさる、みえなくする、塗抹、ぬりけす。

まつさき（形名）　眞先、最先、いちばんさき、いやさき、はな、最初。

まつき　松木氏。

まつぎ（名）　末技、はげい、すゑのわざ、いやしきわざ、つまらぬげいごと。

まつきよ（する）（他）　抹去、けしさる、けしのぞく。

まつきよちやう　松清町（東京市淺草區の町名）。

まつきん（名）　抹巾、ふきん、ふくきれ（茶碗等を）。

まつみねまち　松嶺町（羽後國飽海郡の町名）。

まつし（名）　末子、おとご、すゑご、ばつし。

まつし（名）　末枝、ほつえ、すゑのえだ、とげる。

まつじ（名）　末寺（本山に屬する下の寺院を云ふ、支院、末院、下院。

まつしろ（形）　眞白、純白、まつたくしろき。

まつしろ　松代（信州埴科郡にある町）。

まつしろちやう　松代町（東京市本所區本所の町名）。

まつしよ（名）　末書（註解註釋の書を云ふ）。

まつしぐらに（副）　墓直、墓地、いつさんに、まいちもんじに、ただちに。

まつしや（名）　末社（本社に附屬する小社を云ふ）。

まつしや（名）　末者（幇間、たいこ、たいともち、むかひ。

まつしま　松島（陸前國の海上に在る日本三景の隨一なる名所にして此に有名の金華山あり）。

まつしまのはつけい　松島八景（松島秋月、鐘島晚鐘、海浦早春、霞浦曉雁、瑞岩鹿鐘、竹浦夜雨、鹽竈暮煙、江縣殘花）。

まつしぼ（形）　貧、ゆたかならぬ、貧困、窮、とぼしき、かねなき。

まつえちやう　松江町（東京市神田區八東郡の都會）。

まつえし　松尾、ほつを、をすゑ。

まつぴら（俗）（副）　眞平、ひらに、なにとぞ、どうぞ。

まつもと　松本氏。

まつもとちやう　松本町（東京市淺草區の町名）。

まつもとし　松本市（信濃國に在る都會）。

まつもとむら　松本村（信濃國東筑摩郡の村名、また豐後國直入郡に同名の村あり）。

まつもとさうり（名）　却脊鯉、まつもとせんのうげ（植物）。

まつもとせんのうげ（名）　却脊鯉、まつもとさう（植物）。

まづもつて（俗）（副）　先以、第一、まづ、さきに。

まつせ　末世、すゑのよ、よのすゑ。

まつせつ　末節、をはり、すゑ（人生等の）。

まつせき　末席、しものせき、したのすわりば。

まつすぐ（形）　眞直、直線、なほき、まがちぬ、

まつすみちやう　松住町（東京市神田區の町名）。

まつね（名）　眞似、擬似、にせること、模倣。

まつねば　萬年葉氏。

まつねる（自）　擬似、模倣、なちふ。

まねく（他）　招、よぶ、招請（ふるまひに、十召、ぬす、十竈、さしまねく、てまねきする。

まねぶ（他）　學、習、まなぶ、ならふ（古語）。

まねき（名）　機謎、はたのふみぎ（機器）。

まねきあつめる　召集、よびつどふ、よびあつめる。

まな（名）　魚、いを、うを、さかな（動物）。

まな（名）　眞字、楷字、積書、しんじ、しかくもじ。

まなる　魚井氏。

まないた（名）　俎、肉案、魚俎、肉机、刀俎、碁板、枡（凡切九、砧案、きりばん（魚を載せて切る臺）。

まなばし（名）　眞那箸、生膾箸、魚箸、魚鮨（魚を調理するに用ふる箸）。

まなばん（名）　眞南斑、眞那斑（沈香の屬の香木）。

まなべ　眞鍋、間部氏。

まなべまち　眞鍋町（常陸國新治郡の町）。

まなか（名）　眞男鹿、牡鹿、をしか（動物）。

まなか（名）　正中、中央、まただなか、まんなか。

まながつを（名）　學鯉、鯉鮒魚、鮒、鯉鮒（動物）。

まなかぶら（名）　眞鍋、鍋縫、餓鍋（灰白色にして眞端黑く鬚類の赤き鯛（動物）。

まなづるがさき　眞鍋崎（相州足柄下郡の地名にして鎌倉が杉山の敗に難を避けし處なり）。

まなづるむら　眞鍋村（相模國足柄下郡の村名）。

まなく（副）　無間、すきなく、ひまなく。

まなくり（名）　厨、くりや、れうりどころ、だいどころ。

まなぶ（他自）　學、學問、講學、講習、微習、よみなちふ、まねぶ、十又まねする。

まなぶた（名）　瞼、眼瞼、まぶた。

まなこ（名）　眼、め（面上に在りて物を見る官能）。

まなご（名）　愛兒、かはゆきこ、あいし。

まなご（名）　繊砂、じやり、まさご。

まなごぢ（名）　砂路、じやりはち、じやりみち。

まなごなす　眞子如（こちの枕詞）。

まなごむら　眞名子村（下野國上都賀郡の村名）。

まなざし（名）　目訣、めつき、めのありさま。

まなし（形）　無目、すきめなき、籠等の「めのなき」。

まなじり（名）　外眥、目角、眼尾、睚（目の外の方の角）。

まなせ　曲直瀬、曲瀬、曲菅氏。

まなん（名）　磨難、なやみ、くるしみ、艱難。

まら（名）　陰莖、陰茎、陽物、玉茎、男根を云ふ。

まらいじん（名）　馬來人（世界五人種の一、まれいじん。

まらたけうらさ（名）　程芋蕷草の名（植物）。

まらうど（名）　賓客、きやくじん、まれびと、まれうど（家の主人に對す）。

まらうどぞう（名）　客間、きやくま、ざしき。

まらうどがらす（名）　喜鵲、かささぎ、よろこびかちす（乾鵲（動物）。

まらうどさね（名）　上座、じやうきやく。

まむき（形名）　眞向、まむかひ、十まゐもて、正面、表面。

まむし（名）　蝮、蝮蛇、反鼻、蝕、蚖、雷蛇、はみ、蟲蝮（動物）。

まむしばらみ（名）　蝮孕（胚胞して腹りに蛾跡するをいふ）。

まむすび（名）　眞結、死結、こまむすび、かたむすび。

まら（名）　毛一厘の十分の一、十又けすぎ。

まら（形）　安、みだりなる、十まことならぬ。

まらゐ　猛威、たけきいきほひ。

まらば（名）　毛蔓、毛蔓（孟蔓、かぜのかみ風を主る女神の名、また十八綾と呼ぶ、共に麥那にて用ふる所の名なり、鳥（かぜのかみ）の下を見よ）。

まらはつ（名）　毛髮、けかみのけ。

まらはう（名）　毛毬、けかりぬの。

まらに（副）　猛、はげしく、いきほひづよく。

まらぼ（名）　孟母（孟子の母）。

まらへんし（名）　毛邊紙（唐紙をいふ、たうし。

まらざ（名）　賓客、きやくじん、まらうど。

まらざら（名副）　毛頭、けすぎ、十すこしも、けすぢはども。

まらざら（名）　孟冬（三冬の初をいふ、即ち太陰曆十月の異名）。

まらちよ（名）　鋼岑、あみそ、あみすくを。

まらちよ（名）　毛岑、あさいと。

まらうぢよ（名）　宦女、めくちをんな、閹女。

まらぢよさい（名）　毛女菜、あきのはこべ（植物）。

まらぢら（名）　毛鳥、蛄蟪、いちむし、けむし（動物）。

まらちや（名）　宦腸、腹の一部分の名。

まらちやうえん（名）　宦腸炎（宦腸に炎衝を起こす危險の病）。

まらちきみ（名）　大臣（古昔の大臣の和名）。

まらりやう（名）　魁、魁、みづのかみ（また天物破仰の類をもいふ）（動物）。

まらりやう（名）　四兩、かげぼふし又上を見よ）。

まらりんくわ（名）　茉莉花、もしろいはなと（植物）。

まらわく（名）　孟夏（太陰曆四月の異名）。

まらか（名）　孟軻（孟子を見よ）。

まらかい（名）　毛鬢、つがひ（動物）。

まらかく（名）　毛角、かむりげ（鳥の頭上に聳立する所の角の如き毛）。

まらたん（名形）　安諂、いつはり、うそ、まことなちぬ。

まらたん（名）　毛圓（狐の異名なりと云ふ）。

まられつ（形）　猛烈、たけくはげしき、ひどき。

まられんさい（名）　毛蓮菜（かうどりな（植物）。

まらそつ　猛卒、たけきつはもの。

まらそうちく（名）　孟宗（母に事へて至孝なりし國人）。

まらそん（名）　毛長、やうしまご、やうしのこ。

まらぬん（名）　妄念、みだりのおもひ、もあかのかんが（「愚疑念、十（俗）いろどころ。

まうら〔する〕(他)　綱羅、ひきつつむ、ひきくるめる、のたもずいれる。

まうらう(形)　孟浪、みだりがはしき、よくまとまちぬ、まんちん、杜撰。

まうらう(形副)　莽蒼、ひろくあはいなる、曠漠。

まうらう　毛良、きんぼうげ(植物)。

まうらう　猛雨、つよきあめ、はげしきあめ。

まうらのぼる(自)　參上(まゐのぼる)に同じ。

まうらのぼる　參昇(「そそうぢひと」の枕詞)。

まうくわ　猛火、はげしきひ、烈火。

まうくわん(名)　毛管、はくき(鳥の羽翼の毛の軸)。

まうやう(名)　孟陽、太陰暦一月の異名。

まうまく(名)　網膜、眼の奥にある膜、また下の方の腹を包む膜。

まうけ(名)　利益、利潤、利得、花利、くぼさ、かねまうけ、り。

まうけ(名)　設、備、整備、そなへ、したく、十設立、こしらへ、たておき。

まうける(他)　設、設置、設立、設備、設置、こしらへる、つくる、たてる、十儲、そなへる。

まうける〔俗〕(他)　得利、贏、贏、りをえる、える(金を)。

まうけつ(名)　毛蕨、いぬわらび、いのゞ(植物)。

まうけう(名)　毛蕨、けあな身體中の。

まうけのきみ(名)　儲君、儲宮、ひつぎのみこ、太子、王位をつぐべき君、東宮、春宮、儲貳。

まうけのみや(名)　儲宮、東宮(まうけのきみに同じ)。

〔まうけん〕(名)　毛見(けみ)、けんみ(米麥の豐凶熟否を檢査すること)。

まうげん(名)　妄言、いつはりごと、うそ、十みだりなること。

まうふ(名)　毛布、けあり、ぬの、けぬの。

まうふ〔する〕(他)　問蹟、しふる人を偽りて訪ふる。

まうふう　猛風、つよきかぜ、はげしきかぜ、暴風。

まうふせき(名)　望夫石、をつとあもひのいし佐用媛が化したりといふ石。

まうこ(名)　網戶、網戶、あみど、とあみ。

まうこ(名)　猛虎、たけきとら(動物)。

まうこ(名)　妄語、いつはりことば、うそ、虚言。

まうとう(名)　猛氛、猛烈の水銀(藥品)。

まうで(名)　詣、まゐること(神佛等へ「さんけい」ゆく。

まうでる(自)　詣、まゐる(神社佛閣へ)をがみに

まうあ　盲啞、めくち及ちあふし。

まうあがくかう(名)　官廳學校、官人と醫者とを教ふる學校。

まうあく(形)　猛惡、むごたらしくあしき、十たけくあしき。

まうさいくわん(名)　毛細管、けぼそくだ(身體中の)細血管。

まうさう(名)　妄想、みだりなるかんが(へ)とりとめなきかんが(へ)、あやまれるおもひ。

まうさう(名)　莽草、くさむら、くさやぶ、十また草名、しきみ(植物)。

まうさう(形)　莽蒼、曠野或は沙漠の如く漠然廣大なる觀。

まうさう〔俗〕(名)　妄想、夜中睡眠の間に精被を漏すこと。

まうよ(名)　毛樣、いぬぶな(植物)。

まうきう(名)　毛毬、いがいがぐり。

まうきのふぼく　官蓋浮木、思ひよらぬしあはせに逢ふこと。

まうきん(名)　網巾(支那の帽の名)。

まうゆう(名)　猛勇、たけき、つよき、ををしき。

まうめい(形)　冒冥、くらき、あきらかならぬ。

まうし　孟子(支那紀國の人にて、名は軻、字は子輿といふ儒道の學士また其人の作れる書の名)。

まうし(名)　毛剪、けはり、けのはり。

まうし　猛士、たけきつはもの、十勇士。

まうしわたしがき(名)　申渡書、宣告書、さいばんいひわたしがき。

まうしわたす(他)　申渡、宣告、いひわたす(裁判等を)。

まうしわけ(名)　陳雜、分疏、辯解、いひわけ。

まうしかすめる(他)　申掠、いひくるめる。

むうしようくん　孟嘗君、齊の湣王の相にして食客三千人をおきし人。

まうしたつする(他)　申達、いひふれる、ふれしめす政府より。

まうしたてがき(名)　申立書、上申書、まうしあげがき官府へ(の)。

まうしそ(名)　毛剪貝、けはりねずみ(鎖ろ)の下を見よ(動物)。

まうしし(名)　孟秋、太陰暦七月の異名。

まうしし(名)　毛髮、けばうき羽毛にて作れる箒。

まうじう　猛獸、たけきもの(動物)。

まうしうける(他)　申受、もちふ、十ゆづりうける。

まうしのべる(他)　申述、陳述、いひたてる、いひのべる。

まうじや(名)　亡者、なきもの、しにたるもの、死者、死人。

まうしやう(名)　四象、みづはのめ(水神)。

まうしやう　猛將、たけきたいしやう、勇將。

まうしふ(名)　妄執、しふぢやく、しふねん、こりかたまり。

まうしふみ(名)　申文、訴訴、うれへぶみ。

まうしふん〔俗〕(名)　申分、缺點、たらぬところ、あしきところ、きず、かけ(靈に申分をしと用ふ)。

まうしご(名)　申子、前子(神佛に祈りて授かりし子)。

まうしでる(自)　自首、自告、自訴、みづかちうつたへる。

まうしあげる(他)　申上、言上、啓上、まうしたてる、いひあげる長上の前に。

まうしゆん(名)　孟登、正月の異名。

まうしひらく(他)　申開、辯解、分疏、いひとく、いひひらく。

まうじん(名)　盲人、めくら、めしひ、盲目者、瞽者。

まうえい(名)　毛穎、ふで、筆の異名にして文房四友の一。

まうもく(名)　盲目、めくちめ、瞽、みえぬめ。

まうせい　猛勢、たけきいきほひ、猛威。

まうせい〔する〕(自)　猛省、深く自ち省みる。

まうせつ　妄說、うそばなし、いつはりのはなし、虚說。

まうせん(名)　毛氈、けおりのしきもの、けおりぬの。

まうす(名)　帽子、冒倒の延。

まうす(他)　申、啓、白、奏、言、告上、上申、上のべる、い上(古假名まをす)。

まうするし(名)　毛錐子、ふで。

まうすう(名)　孟陬、太陰暦一月の異名。

まのの　眞野氏、また大和近江攝津陸奥の地名。

まのむら　眞野村、近江國淺賀郡の村名。

まのはま　眞野濱、近江國の濱、一の入海、一の浦とも云ふ。

まのつぎはし　眞野繼橋、攝津にありし橋。

まのまへ　目前、眼前、まのあたり、かはのまへ、面前。

まのあたり〔副〕　目前、面前、現前、親眼、目擊、めのまへに。

まく(名)　幕、帳幕、帷幕、帷幔、帷帳、とばり、たれぬの。

まく(他自)　卷、捲、捲、からみつける、まきつける、十纏、かちまる。

まく(名)　瓔皮肉の際に在る薄皮、うすかば。

まく(他)　描金銀泥粉等を以てまきえを作るをいふ。

まく(他)　暗、播、撒草木の種を地にもちす。

まく(他)　撒、撩、そそぐ、水を。

まぐろ(名)　鮪、佳鰹魚、金鎖魚(動物)。

まくは(名)　甜瓜、まくはうり(植物)。

まぐは(名)　馬鍬、方鍬、うまぐは、馬にひかせて田をたがへす農具。

まくばり(名)　幕張、まくはると、十幕屋、てんと。

まくはうり(名)　眞桑瓜、甜瓜、甘瓜、あまうり(植物)。

まくはひ(名)　交合、まじはり(男女間中の「交接」(古語「みとのまぐはひ」)。

まくち(副)　墓場、まつしぐらに、いつさんに、まいちもんじに、

まぐち(名)　間口(家屋の前面の廣さをいふ)。

まくり(名)　紹麻、苧、麻、雄菜、薯仁草、割麻、蘆(植物)、「どくまくり」(此物草に下痢の力ありとて赤子に煎じ飲ましむ)。

まくり(名)　攻撃、うつこと、十月見、批判、論まくり杯いふ。

まくりやき(名)　餐機、鋼を燒きたる料理の名。

まくりで(名)　掛脇、掛脇、うでまくり。

まくる(他)　掛脇などを、袋かかげる、衣の裾等を、開開。

〔まくわう〕(名)　麻黃、まわうを見よ(植物)。

まぐれる(自)　紛紜、まぎれこむ、はぐれる、紛錯、十まどふ、迷。

まぐれあたり　偶中、ふとあたること、あもはずあたること。

まぐれざいはひ(名)　僥倖、徼倖、こぼれざいはひ、おもひまうけぬしあはせ、偶然の幸福。

まぐそ(名)　馬糞、うまのくそ。

まぐそたか(名)　鷲、(まぐそつかみに同じ)動物。

まぐそたけ(名)　馬勃、もにふすべ、みみつぶし、めつぶれだけ、きつねのちやぶくろ、半屋裏、南屋(「ほぼつ」を見よ)植物。

まぐそつかみ(名)　鷲、鷲鷹、まぐそたか(「やつがしら」の下に圖あり鷲て見るべし)動物。

まくづはふ　眞葛生、かずらの枕詞。

まぐねしあ（名）廐側捏矢亞藥名。
まぐねぎ（名）蠟鮫、かつをむし動物。
まくら（名）枕寢る時に頭を載する具。十また竹奴、竹夫人、たけまくら。
まくらべ（名）枕邊、まくらもと。
まくらちん（名）枕狗、馬鐘狗（至つて小さき犬の類）動物。
まくらがり（名）眞黑暗、暗黑、皆黑、闇黑、くちやみ。
まくらがたな（名）枕刀、まもりがたな（夜分枕頭に備ふる刀）。
まくらがみ（名）枕紙、まくらつつみがみ（枕の布團を覆ふ紙）。
まくらがみ（名）枕頭、まくらもと、枕邊。
まくらがひ（名）文蛤動物。
まくらたち（名）枕太刀、まくちがたな。
まくらたと（名）枕册紙（枕に常にあたる處の皮の硬くなれるもの）。
まくらつく　枕册（つまやの枕詞）。
まくらねずみ（名）鼠（動物）。
まくらのしたのきりぎりす（名）　促織、こはろぎ動物。
まくらぶくろ（名）枕囊、まくちのゐび、枕袋。
まくらことば（名）枕詞、冠辭、まくらきことば（詩文等にて下の詞を長くする爲め又は美しくする爲などに上に冠らする詞、例へば久方（ひさかた）の天（あめ）に於るが如し）。
まくらざうし（名）枕册子（雜記の册子にて、講少納言の作本世に名高し）。
まくらざうし（名）春畫、枕畫（わちひぼん）に同じ、まくらえ。
まくらぎ（名）枕木（鐵道の下に伏る堅き木材）。
まくらめし（名）枕飯（死人の枕頭に供ふる盛り飯）。
まくらゑ（名）枕繪、笑畫、春畫、秘戲圖、わちひぼん、まくちざうし、いろえ。
まくらびやうぶ（名）枕屏風（二枚折屏風等にて枕許にたつるもの）。
まくらもさ（名）枕畔、枕邊、まくちべ、まくちのそば。
まくのち（名）幕耳、まくのひもとはし、ち。
まくぐし（名）幕用、幕環、まくのはしち。
まくや（名）幕屋、天幕、幕にて作れる家、てんと。
まくとつ（副）基盤、たちまち、まつしぐらに。
まくてつ（名）鐵鎖、かたきくろがね。
まくあひ（名）幕間、まくのあひだ（劇場にて此段と後段との間に暫く幕を張れて休む其間をいふ）。
まぐさ（名）秣、芻、芻草、馬草、かひば（馬を養ふ草）。
まぐさば（名）秣場、草場、まぐさかりば、十又うまをはなしかふところ。
まぐさをけ（名）槽、かひばをけ（馬牛に食を與ふる桶）。
まぐさかる　眞草苅（あれのゝの枕詞）。
まぐさきり（名）、草刀、秣刀、くさぎりをし。
まぐし（名）眞梶、すきぐし、櫛。
まぐしかける（自）敬言、溜々而言、はばからず（まくしかけてのゝたてるなど云ふ）。
まくひね（名）秧鷄、くひな（動物）。
まくず（名）眞葛原（なにのつてとの枕詞）。
まくずはら（名）眞葛原（なにのつてとの枕詞）。
まぐん（名）魔軍（大六天の魔王等凡て惡魔の軍勢）。
まや（名）眞屋、あもや、もや、母屋、はんたてもの、厩、うまや、むまや。
まやかしのもの（名）偽物、にせもの。
まやく（名）廐舎、しびれぐすり、廐酥劑。
まやふじん　摩耶夫人（舞迦國武庫郡に在る山）。
まやまや（名）乳母、うば、傅姆、仕字は支那の俗語、ちちうば、めのと。
まや（副）問問、ときどき、しばしば、往往。
まや（名）飯、いひ、めし、くひもの。
まや（名及後置詞）儘、任、隨、如、領、とおり、ごとく。
まやいも（名）蕪蛛、めかけばちのいもうと。
まやはは（名）繼母、蕪母、假母、實母に非ざる母。
まやちち（名）繼父、假父、ままちち。
まやのる　眞間井（下總國東葛飾郡に在り）。
まやのつぎはし　眞間橋（下總の國にして和歌に名あり）。
まやのうら　間間浦（下總の國にして和歌に名あり）。
まやこ（名）繼子（前妻の子にて實子に非ざる子）。
まやごと（名）飯事（小兒が遊戲にする饗膳の眞似）。
まやせ（名）眞母兄、はちちがひのあに。
まげ（名）負、まけること（まけるを見よ）。
まげ（名）髮、髻、わげ（髮を頭上に結び擧げたる形の名、俗に丸髷を特別に略して髷か呼ぶ）。
まけいろ（名）負色、敗色、やぶれるありさま、まけるけしき。
まげいれ（名）髻入、まげがた（紙にて作れる髻の形）。
まけいしゆら　摩醯首羅（佛教にて大自在天を云

ふ、マヘスバラ、摩盧遮伎羅）。
まげぼん（名）　曲木盆、木をたわめて造りたる盆、（まげぼん、まげものぼん）。
まける（自）敗、負、取敗、敗績、敗北、輸、まかされる、やぶれる（勝負に）。
まげる（他）枉、曲、撓、たわめる、まがらせる、彎、彎曲、捏曲、歪、委曲、十僕、かがめる。
まける（俗）（他）傾瀉す、こぼす、あける。
まけをしみ（名）負惜、負けながらも負けぬ風をすること。
まけかちち　雞雄、輪鳳、しようぶ（勝負）、まけること、かつこと。
まげがた（名）髻形、わげがた（髻の形を紙にて作れるもの）。
まげて（副）枉、曲、しひて、こころならずも。
まけじだましひ（名）不負魂、きかぬこころ、かちき、きかぬき人に負けじとする精神。
まけじごころ（名）不負心、まけじだましひ。
まげもどす（他）反曲、まげかへす、ためもどす。
まげもの（名）曲物、撓器、木の薄片を曲げて作れる器にて食物を入るるに用ふ。
まげものびしやく（名）撓杓、木を曲げて作れる柄杓。
まけん（名）廐驗、ゐばたづち、いもがほ。
まふ（名）舞、倆、をどり、まひする、踊躍。
まふ（名）廐布、あさぬの、あさもりごろも。
まふ（名）間夫、私夫、情夫（遊女等が密に親しむ男　即ち色密なり、いいひと、いろをとこ。
まぶ（名）坑、鉛山、礦山、金銀坑、銅鑛坑、石炭坑の類を凡て含めていふ、かなやま、十また礦、鑛、あちがね、鑛物、ふきわけぬかれ（例へば銀鑛を「しろかねのまぶ」と云ふが如し）。
まぶち（名）馬淵（氏）。
まぶち（名）眼眶、めのふち（目の上下の蓋皮の端）。
まぶちがは　馬淵川（陸奥國三戸郡八戸港にて海に注ぐ川にて土人之を「まべちがは」と云ふ）。
まぶちむら　馬淵村（近江國淺生郡の村名）。
まぶかに（副）　目深、頭巾を深くかぶりて顔をかくすにいふ、ふかふかと。
まぶた（名）眼瞼、眶、目をおほふ皮、めのふた。
まぶれる（自）塗、まみる、よごれる（泥等に）。
まぶう（名）魔鳳、あしきかぜ、ゐはかぜ。
まぶくた（名）山伏、優婆塞、しゆぎやうじや、うばそく。
まぶさん　廐生山（播磨國飾磨郡に在る山、昔たた之を攝津富士と稱す。
まぶしづか　馬伏塚（遠州の地名、今これを眞土塚と呼ぶ）。
まぶしき（形）　眩、幕明、まぶしき、まぶゆき、めくちぶ（光線の爲に）。
まぶす（他）塗、ぬる、ぬりつける。
まぶふん（名）廐糞、をのみ、あさのみ。
まと（名）魚子、さかなのたまご。
まと（名）廐妓、西王母の侍女の名なり、又まごのて。
まと（名）孫子の子、うまご。
まと（名）馬子、馬丁、馬士、馬奴、馬醫、うまかた、くちとり。
まとざ（形）　誠、實、眞、允、忱、諒、眞摯、眞實、誠誠、悃欵、忠良、誠實、信孚、諒直、實實、實直、正實、いつはりなき、まごころある、まめやか。
まとざに（副）實、確、誠、眞、允、ひつに、はんに、いつはりなく、げに、十固。
まとざらしい（形）誠敬、まこととみゆる、まことにたる、如眞實。
まとざしやかに（副）似眞的、まことらしく、はんたうらしく。
まとち（名）正東風、まひがしのかぜ。
まどをひ（名）離蹇、またまど。
まどよめ（名）蕊蘂、まどのつま、まどのにようば。
まどたらうむし（名）蕊太郎蟲、山生蟲の類にして驅用に供す（動物）。
まどつく（自）振興、うろたへる、まどまどする。
まとづみの　眞木積之（いづみの川の枕詞）。
まとう（名）磨工、とぎや、研刀、かたなとぎ。
まとのて（名）廐姑手、爪杖、搔杖、搔背、背を搔く手形の器。

［廐姑手の圖］

まどや（名）蕊屋、つくりつけたるいへ（母屋に）。
まどころ（名）赤心、丹心、眞心、眞情、誠心、誠神、まことのこころ、しんじつごころ。
まどでし（名）蕊弟子（他人の弟子を預りて己の弟子としたる者を然か云ふ）。
まとみや（名）皇蕊、すめみまと（天子の御子の子）。
まとしん（名）摩蕊嗔、きしめと、ふてたけ、ひちたけ（植物）。
まどひ（名）鯉魚、こひ（動物）。
まとも（名）眞馬、馬、薦、菱、眞席を作る草（植物）、十また席、ともむしろ。

まともむしろ（名）蒸藺、蒸にて造りたる敷物。
まて（名）縄、竹縄、馬刀、馬鮫、かみそりがひ（動物）。
まで（名）雙手左右の手を云ふ。
まで（後置詞）迄、迫、いたる、とどく、に、へ。
まてい（俗）（形）遐鈍、にぶき、のろい。
まてばしひ（名）馬手蕉椎、まてがし、さつましひ（植物）。
までのこうぢ　萬里小路氏。
までのこうぢむら　萬里小路村、筑後國山門郡の村名。
まあ（名）馬田舎の方言、むま（動物）。
まあ（俗）（副）稚且、まづ、かりに、しばらく。
まあぢ（名）竹筴魚（動物）。
まあか（形）眞赤、純紅金く赤き。
まあひ（名）間合、すき、あひだ。
まさ（名）正理、恒、まつすぐのすぢ（木理に云ふ）、正太紋。
まさ（する）（他）摩擦、とぐ、みがく。
まさ（する）（他）摩擦、なでさする。
まさに（副）正、たしかに、まさしく、十賞、しかるべく、十將、いま、十方、ちやうど、まさかりに。
まさりおとり　優劣、勝敗、甲乙、まけかち。
まさりがほ（名）賢面相、優顔、えたりがほ、したりがほ。
まさりぐさ（名）菊、きく（菊の異名）（植物）。
まさる（自）優、勝、賢、愈、長、とゆる、すぐるる。
まさを（形）純青金く青き、ごくあをき。
まさか（俗）（副）正敵、さりとても。
まさかさやま　勝門山、下總國長生郡に在る山。
まさかり（名）鉞、鍾たつき、腐刃斧、十鈇鉞、斫斧、いくさ[illegible]

戰斧、いくさのをの（支那戰斧）。
古代の兵器、斧の［圖］

まさかのさ　危急の時、存亡の秋、臨大事、不虞、緩急、ことあるとき。
まさかま（形）嬉笑、まつすぐにさかさまなる。
まさかき（名）眞賢木（神前にささぐる木の名）、さかき。
まさつ（名）ーする（他自）摩擦、すれあひ、こすれる。
まさつち（名）正土、まつち（眞土）。
まさなき（形）邪、佞正、よこしま、あしき。
まさやかつかちはやびあまのをしほみみのみこと　正哉吾勝速日天忍穗耳尊、埴神第二代の神にて天照大神の御子なりと云ふ。
まさこと　政子、鎌倉第四の將軍にして尼將軍と號す、頼朝の夫人也。
まさご（名）眞砂、こいし、砂礫、いさご。
まさごちやう　眞砂町、東京市本郷區の町名。
まさごのひれ（名）眞砂鰭（鯉の背に立てる大鰭「ちやひとのひれ」に同じ）。
まさざまに（副）正確、まさに、たしかに、まさしく。
まさき　正木、眞木氏。
まさきづら　正木葛（たたきあざはり、「つぎてゆければ」に同じ）。
まさきのかつら　正木葛（たたきあざはり等の枕詞）。
まさきく（副）眞幸、安全、無事、ことなく、無難。
まさきくも（副）幸、無事、さひはひにも、ぶじにも。
まさきゆめ（名）正夢、實夢、まことのゆめ、ふしぎのゆめ。
まさめ（名）殿豆、や（なり）（植物）。
まさしく（副）正理、正木理、すぐなるすぢめ、まさ。
まさし（名）（副）正敵、まさに、まことに。
まさし（名）（副）槙、椹、蹴鞠、槙、蹴鞠、たきぎ、たくき、もやす、しば。
まさ（名）槙、椹、蹴鞠、槙、蹴鞠、たきぎ、たくき、もやす、やまき（植物）。
まさ　腐臭、ぜだう、あくま、まもの、惡魔。
まさ（名）眞木、牧氏。
まさ（名）卷書籍の一部をいふ。
まさ（名）馬場、牧、牧場、馬を飼ひ立つる場、また羊牛にも通じ用ふ、「まきば」、まぐさば。
まさいか（名）卷鹽、食品。
まさろくろ（名）祿轆轤、鼓車、くるまき、くるくるまき、鼓鑑。
まさば（名）牧場、うまかひば、うしかひば（「まき」を見よ）。
まさば（名）轔車（「まいば」に同じ）。
まさは（名）眞蹶、とき、をり、あひだ。
まさはだ（名）槙、蔦、船筵、船等の水漏を防ぐにつめこむ物、「まいはだ」。
まさはしら　眞木柱（「ふとき心の枕詞」）。
まさべや（名）薪部屋、薪蹴、たきぎべや。
まさちらす（他）撒、撒布、散布、撒布、ちらしとばす（花火等を）。
まさぢく（名）卷軸、まきもの（書籍の「かけもの」）。

まさちやう　槙町、東京市京橋區の町。
まさりがはら（名）底骨、船骨（船のしきをいふ）、即ち船の底の眞中の心骨。
まさりゆう（名）竟鄙天子著服の横縑に用ふ）。
まさぬ（名）馬衣、馬被、馬褐、ばぎぬ（馬にきせる衣）。
まさる（他）問遍、船の方向をもぢるに云ふ詞。
まさわり（名）槙割、をの、薪斧、たきぎわるをの。
まさわら（名）稚藁、草把（弓の稽古などに用ふる藁の的）。
まさかへす（他）巻返、まきもどす。
まさがり（名）巻狩、圍獵、とりまきがり（山をとりまきて其中の獸を逐ひ出し獵ること）。
まさがみ（名）巻紙、ふみがみ、書簡用紙、てがみがみ。
まさた（名）蒔田、牧田氏。
まさたばこ（名）捲煙草（煙草の葉を捲きたるもの、また洋紙に捲き込めたる煙草をもしか云ふ）。
まさたひ（名）巻鯛（料理の名、鯛の身をおろし薄くきりて葛粉をふりかけ五枚なり十枚なり適宜にかたく巻きて蒸（こしき）にて蒸す也）。
まされる（自）紛、續紛、紛亂、紛雜、いりみだれる、みだれまじる。
まされこむ（自）紛込、いりまじりてはいる。
まされもの（名）紛物、まやかしもの、ものまた間者、まはしもの。
まさぞへ（名）連累、連逮、連坐、ともにつみをうること（犯罪の）。
まさそく（名）撥付、まいば、いとまくうはは。
まさづけ（名）巻漬、漬物の類。
まさつける（他）巻著、綴綴、まきめぐらす。
まさらはしき（形）紛敷、みわけがたき、まがふべき。
まさらかす（他）紛、ごまかす、みまがはする。
まさむらむら　槙村、牧村氏。
まさやま　巻向山、大和國磯城郡に在る山、其一の川、一の山、一の檜原など見ゆ。
まさむくやま　巻俣括、俣括に味をつけ二寸ほど仙一の岸、一の川、一の山（巻俣括）（名）巻俣括、俣括に味をつけ二寸ほどに切り千枚漬の雲蹴の葉又は菰菱草（はうれんさうの葉などにて巻きたる食物。
まさうを（名）巻魚、料理の名、巻鯛を巻沓せ上。
まさの　牧野氏。
まさのをやま　槙雄山、山城國に在る山。
まさのたつ　眞木之立（「あれやまこの枕詞」）。
まさくさ（名）地膚、にはくさ、はうきぐさ。
まさぐさ（名）牧草、かひばぐさ、馬牛の。
まさやうじん（名）厩頭、妖魔の住む所。
まさけんちん（名）巻蒸珍、料理の名。
まさふで（名）巻筆、巻をしぼりつけたる筆。
まさぶみ（名）巻文、巻書、巻軸。
まさとむ（他）巻込、捲入、まきいれる。
まさあげる（他）巻上、捲揚、うへ（まきのぼす。
まさざつば（俗）（名）撒網、なげあみ、とあみ。
まさく　眞木割（ひのみかど）、檜の板戸（「ひのの、まき、わりき。
まさきぬ（名）眞木割（ひのみかど）、檜の板戸（「ひの枕詞。
まさきぬ（名）巻絹、きぬのまけるもの。
まさめぐる（名）巻回、ぐるぐるめぐる。

まさ（名）蒔絵、描金（鑑に金箔をまじへて高く塗れるもの。
まさふは宮（名）蒔繪萩、ひめはぎ（胡枝子の一種（植物）。
まさふふで（名）蒔繪筆、描金筆（鑑にて畫く筆）。
まさあし（名）蒔繪師、描金匠、まきえするひと。
まさもぐす（他）巻戻、まきかへす、捲反。
まさもの（名）軸、巻軸、巻物、かけもの、十又たんもの。
まさものうり（名）賣殷屋、たんものうり、ものや。
まさもめん（名）綿覆、巻木綿、綿布（創口等を包む布）。
まさせんべい（名）巻煎餅、菓子の名。
まさずるせん（名）巻水仙（料理の名、吉野葛をよく溶き水仙鍋にうすくながして湯葉の中に入れ十分につけ置きて後まして熱く切る）。
まさずるめ（名）巻鯛（「するめいか」を調理したる食物）。
まさん（名）馬芹（「ばさん」を見よ）。
まゆ（名）眉、まゆげ、まみげ、目の上の毛。
まゆ（名）繭、蠶、絹、蠶衣、かひこの作る室にてこれより絹絲をとる）。
まゆはけ（名）眉刷毛、眉掃、眉作、まゆつくり（婦人が粉白を面につけるに用ふる刷毛）、まいはけ。
まゆかしら（名）眉頭、まゆげのさき。
まゆつくり（名）眉作、眉掃、眉刷毛、まゆはけ（婦人の具）。
まゆげ（名）眉毛、まみげ、まゆ。
まゆどもり（名）繭隣（かひこの繭にはいるを云ふ）。

まゆあひ（名）眉間、みけん、まゆのあはひ。
まゆみ（名）檀、はひまゆみ、こまゆみ、桃藥術者、作檀類物。
まゆみ（名）檀弓、まゆみのきのゆみ。
まゆびき（名）喉（まゆ墨を以て眉をひくこと）。
まゆずみ（名）燒、繊條、銷に黑點を施して眉に伐ふるもの、かきまゆ。
まゆ（名）肉刺、摩擦に由つて生ずる堅き皮或は塊を云ふ、胼胝。
まめ（名）蔵、大豆植物。
まめ（俗）（形）健、すこやか、たつしや、壯健。
まめ（名）了雲、かわろ遊女屋の女小使。
まめ（形）忠實、まめやか。
まめはんめり（名）高上京長、まめむし動物。
まめに（副）忠實、正直、ねんごろに、こまやかに、しんじつに。
まめどり（名）蟲鳥、いかるが動物。
まめをさこ（名）蟲鳥、實男、まめやかなるひと、十又標寄、いろをとこ、いろごとし。
まめわり（名）蟲鳥（筑後の方言）、いかるが（動物）。
まめがに（名）鬢蟹、金錢蟹、こがに動物。
まめがら（名）豆茎、だいづがら、まめのくきさや。
まめがさ（名）痘瘡、もがさ、胸豆瘡、瘡瘡、痘瘡、天然痘はうさう。
まめがき（名）君遷子、さるがき、しなのがき、丁香子植物。
まめがゆ（名）豆粥、まめをいれてつくるかゆ。
まめたらし（名）蔦絲子、ねなしかづら植物。
まめたまち　豆田町豐後國日田郡の町名。
まめぞう（名）諧語人、諧謔の問答などして金錢を受くるもの。
まめつ（する）（自）　磨滅、へりつくる、すりつぶれる板木が。
まめつばり（名）　蟲鳥、いかるが（動物）。
まめつか（名）　鴨抱、がはう植物。
まめづた（名）　蠟燭草植物。
まめむし（名）　豆斑猫、まめはんめう（動物）。
まめうち（名）　撒豆、節分の夜豆をまきて鬼を逐ふ式、まめまき。
まめのは　豆葉、鬢、豆に生ずる蟲。
まめのと　豆粉、きなこ、まめのこな。
まめのさや（名）　豆莢、まめのかち、莢。
まめやか（形）　忠實、忠亮、誠忠、忠良、忠信なるをいふ、みさをただしき。
まめまはし（名）　豆甘鳥、まめうまし、蟲鳥動物。
まめまめしき（形）　篤實、律儀、じつていなる、まめやか。
まめふ（名）　豆生、まめばたけ。
まめめとき（名）　豆扱、まめたたき。
まめめし（名）　豆飯、まめをまぜてたくめし。
まめん（名）　麟、糜、稍糜、みだぬき動物。
まみ（名）　魔魅、あくまのたぐひ。
まみはらまち　馬見原町肥後國阿蘇郡の町名。
まみれる（自）　塗、涴、淪、滑、繰、汚、まぶれる、よごれる、混雜、まぶれる。
まみづ（名）　眞水、淡水、あまきみづ、あさはひきみづ（海水鹽水に對す）。
まみや　間宮氏。
まみあな　狸穴、貉穴（東京市麻布區の地名、蓋し麻布には昔時の狸穴存し其處狸多きに因つて狸穴と呼ぶに至れるなり）。
まみえる（自）　見、覲、謁見、貴人の前に見參するをいふ。
まし（名形）　勝、優、まさること、すぐれること。
まし（名）　麻苧、をごけ、をうみをけ。
まし（名）　增、益、ふえまさり、くははり。
まし（名）　麻絞、あさいと。
まし（代名詞）　狡、猛、ましら、さる動物。
まし（名）　間風、西南隅より來る風。
ましろ（形）　眞白、雪白（至つて白きをいふ）、まつたくしろき。
ましろに（副）　皎白、きはめてしろく、しんにしろく。
ましろく（自）　明、曉、明、旦、またたく、まばたきする。
ましば（名）　眞柴、こえだ、十又ちひさき。
ましはり（名）　交際、つきあひ、交遊、往來、交通。
ましはり（名）　交合、交媾、ひとつねすること（人に云ふ、十琴尾、交尾、つがふこと、禽獸に云ふ）。
ましはる（自）　交、交會、交際、交通、したしくする、つきあふ、十また交接、交合男女が。
ましり（名）　眞尾、外貌、皃、眦、目眦、眦尾、まなじり、めじり。
ましりたね　雅種、いりまじりのたね、雜種。
ましりもの（名）　混合物、まざりもの。
ましる（自）　雜、雜、渾、混、混淆、いりまじる。
ましを　增尾氏。
ましより（名）　麻繩、あさなは。

ましよ（名）　麻績、をみ氏。
ました　眞下氏。
ましだ　增田、ますだ氏。
ましだごほり　益田郡飛彈國の郡の名。
ましなひ（名）　呪詛、呪術、禁魘、符呪、禁呪、法を以て退治すること。
ましなひし（名）　呪禁師、まじなひするひと。
ましら（名）　猿、さる、猿、猴、猴、動物。
ましらげのよね　糳米、きはめてよくしらげたるよね。
ましらふ（名）　鷹、たか、蒼鳥動物。
ましらひ（名）　交接、いりまじり、混和。
ましやう（名）　魔障、あくまのさはり、わざはひ。
ましやうもの（名）　眞情者、まにんげん。
ましやく　馬尺（凡を馬は四尺を以て常とす而して未だ四尺に滿たざるを駒と稱す四尺一寸を一寸とし二寸を二寸とす以下之に倣へ、八寸に超えたるを長（たけ）に剩ると云ふ。
ましやく（名）　間尺、まづもりものさし。
ましやく（名）　麻雀、まだちすずめ（動物）。
ましま　眞島氏。
ましま　馬島（石見國那賀郡の島名、また周防國大島郡の島名）。
ましまちやう　眞島町東京市下谷區谷中の町。
ましまし（副）　張目、めをひらきて、まばたきするさま。
まします（自）　御座、在、います、あらせらる、あるさま。
（尊敬の語）。
ましげごほり　增毛郡天鹽國の郡の名）。
ましげみなと　增毛港天鹽國增毛町にある港）。
ましと（名）　鳴、突厥雀、てりましと（動物）。
まして（副）　況、剩、いはんや。
ましき　間數、へかちず（動詞の語尾につけて形容詞を作るもの）。
ましきり（名）　間切、琉球語にして、土地の區劃を表するもの、あたかも郡のごとし。
ましきごほり　益城郡肥後國の郡の名）。
ましゆつ（名）　魔術、あやしきわざ、まはふ。
ましめ（形）　清醒、うはつかぬ、たしか、十又よはぬ、しらふ。
ましみづ（名）　清水、しみづ、きよきみづ。
ましも　眞下氏。
ましもの（名）　蠱毒、まじなひわざ。
ましん（名）　痳疾、はしか（病名）。
ましん（名）　魔神、まがつみ。
ましえばら　米原近江國に在る有名の地）。
ましえふくわ（名）　麻葉花、みやまあさがほ（植物）。
ましび（名）　舞、まふこと、をどり、跳舞。
ましび（する）（自）　痳痺、しびれる、きかなくなる（身體が）。
ましび（名）　問日、あひだのひ。
ましびいしやう（名）　舞衣裳、舞衣、まひぎぬ、をどりぎもの。
ましびと　眞人氏。
ましびどむら　舞戸村陸奥國西津軽郡の村名）。
ましびの（名）　舞殿、舞臺、をどりどの。
ましびりぐさ（名）　苦參草の名（植物）。
ましびる（名）　正午、亭午、正晝、ひるなか、ひなか。
ましびる（名）　蒜、にんにく、ひる（植物）。
ましびをんな（名）　舞女、舞妓、舞姐、をどりこ、をどるをんな、ぜいこ。
ましわらは（名）　舞童、をどりこ、まふわらべ。
ましがし　正東、まつすぐひがし。
ましかぜ（名）　旋風、つむじかぜ、まきかぜ、ふきまはしかぜ。
ましだけ（名）　舞茸、きのこのたぐひ（植物）。
ましづる（名）　舞鶴、翔鶴、かけるつる（羽翼を張りたる鶴の形にて紋に用ふ）。
ましづるのみなと　舞鶴（後丹後國に在りて軍港となれり）。
ましづるまち　舞鶴町丹後國加佐郡の町。
ましなひ（名）　賄賂、賄賂、賄賂、賂遺、そでのうち、あくりもの、つかひもの（他人にとりいる爲めにする）。
ましらぶ（名）　眞平戸（ましらどをみよ）。
ましのれもて　假面、舞樂用の物品なり、「がくめん」を參看せよ、めん。
ましのかつら（名）　雲炬、舞炬、舞樂の炬り物、まひかわり。
ましのかしら（名）　雲炬（ましのかつら）に同じ。
ましのくつ（名）　鞦韆、伶人のはく靴。
ましびく（他）　間引、間拔、間與、生見を殺すを云ひ、又野菜を畑より幾分か引き拔くを云ふ。
ましまひ（名）　鎌牛、土牛見、かたつぶり、ででむし（動物）。

まひまひつぶら（名）蝸牛、土牛兒、かたつむり、ででむし動物。
まひまひむし（名）舞兒、舞蛾、舞妓、まひひめ、げいこ歌舞の妓女、をどりこ。
まひご（俗）（名）迷子、暦子、迷兒、まよひご、道路にて親或は家路を失ひたる小兒、はぐれたること。
まひとのはま　舞子濱　播磨國明石郡垂水村に在る勝地。
まひどふだ（名）迷子札、招子牌、小兒の服に附けて其家を示す札、まよひごふだ。
まひあがる（自）躍揚、まひの匡る、顚翻上、飛揚。
まひあふぎ（名）舞扇　踊舞の時に用ふる扇子、をどりあふぎ。
まひきかまち　舞坂町　遠江國浜名郡の町名。
まひさし（名）眉廂、眉庇、めのうへのさしで、冠り物に云ふ。
まひきり（名）舞鞠、張鞠、蹴鞠、ぜんまいぎり、ろくろぎり。
まひきぬ（名）連綿、かちきを、櫛麥等を打ちぬとす種、其圖は、かちきをこの下に出ず。
まひゆ（名）馬莧、家莧、白莧　植物。
まひしくひ（名）鴉、ひしくひ　動物。
まひしやく（名）馬杓、うまひしやく。
まひびと（名）伶人、舞人、まふひと、能樂等をする士、まひて、をどるひと。
まもり（名）守、護符、神符、神佛の札にて魔を除くといふもの。
まもりがたな（名）護身刀、ふところがたな、用心刀。
まもりぶくろ（名）守囊、守袋、ふだぶくろ。
まもる（他）守、衛、固、守護、保護、防衛、護衛、つきまもる。
まもの（名）魔物、妖怪、ばけもの。
ませ　鍵河、四瀬氏。
ませ（名）籬、たけがき。
ませる（他）柜、梧、架馬をとむる木。
ませがき（名）雜蕪、混淆、かきまぜる。
ませつ（名）雜蕪、發垣、藩篠竹を立てたる垣、まがき。
ませなます（名）交鱠、大根、くるみ等を切りまぜたる鱠。
ませらん（名）馬寮蘭　植物。
ませあはせる（他）混和、混合、混淆、攪拌、かきまぜる。
ませんし（名）馬錢子、まちん、番木鼈　植物。
ます（名）升、枡、斗盤、大斗、梁斗、舛　穀物等を量る器。
ます（他）增、益、加、倍、增益、倍加、添加、稗補、加增く、くは（へる、おぎなふ。
ます（自）在、います、ある、まします。
ます（名）鱒、鮭、赤眼魚、鯛魚、さけのたぐひのうを　動物。
ますする（する）（自）痳醉、しびれる、ねむる、ねぼる、をなくなる。
ますゐはふ　痳醉法　愚者を痳醉せしめて外科術を施す法にて一千八百四十六年米國モルトンエーテルを以てこれを制し、今はコロロフヽームを用ふ。
ますいか（名）鳳瓦、いかのぼりのたぐひ、たこのたぐひ。
ますゐざい（名）痳醉劑、ねぶりぐすり、まやく。
ますほ　十寸穂、ながきほ。
ますざり（名）斗頭、ますをもてはかるひと、十たはらまはし。
ますかがみ（名）眞澄鏡、十寸鏡、素銅鏡、一德鏡、きよきかがみ。
ますかがみ　眞澄鏡「かげ」「きよき」「ために」「君を」「てる」「床の」「さちず」「とざし」「ふたかみ山」「ますめ」「見」「みともあかめや」「ひぬめの捕」「むかみ」「おもかげ」「さちず」等の枕詞。
ますがた（名）升形、城の表門の前なる廣場にて兵士をはかる所なり、故に然か呼ぶ。
ますがた（名）斛、斛槽、柱の上にすゑる斗形の顚木、とかた。
ますかき（名）欅、とかき、斗格、斗の上をなちすゑ樣。
ますたまち　益田町　石見國美濃郡の町名。
ますらを（名）增荒男、武夫、丈夫、健男、たけきをとこ、たけを、勇士。
ますらをの　勇士の、たゆひが裾の枕詞。
ますらたけを（名）大丈夫、勇士、つよきをとこ。
ますう（名）結、あかきつも又あかきいも。
ますやま　增山氏。
ますます（副）益、愈、倍、いよいよ次第次第に多くなるをいふ。
ますげ（名）菅草、まるすげ、くぐ　植物。
ますげよし　眞菅吉「そがのかはちの枕詞。
ますめ（名）升目　穀物酒漿等を升にて量ること。
　ますばかり、ます。
まん（名形）萬、よろづ（十千をいふ）。

まん（形）滿、すべての、いちめんの（獨山、滿座など用ふ）、十又みつる滿願など用ふ）。
まん（形）漫、みだりなる、十そぢろの。
まんい（する）（他）慢易、あなどる、かろしめる。
まんいち（副）萬一、ひよつと、もしも。
まんいつ（する）（自）滿溢、みちあふれる。
まんろく（形）平直、たひら（平座するをいふ）。
まんろく（名）漫錄、種種見聞せる所等を書きたる書、雜記。
まんばつ（俗）（名）萬八、うそいつはり。
まんばら（名）翻車　魚、うきき動物。
まんに（副）漫、みだりに、十そぢろに。
まんべんなく（俗）（副）無滿偏、あまねく、くまなもちず。

[圖の魚車翻]

まんどう　萬燈、あはくのともしび。
まんどころ（名）廚、まつりや、政所、政廳、まつりごとどころ（また圓白の內室を然か呼ぶ）。
まんぢ　萬治　日本自二千三百十八年至二千三百二十年、西洋自一千六百五十八年至一千六百六十年（年號）。
まんぢう　滿仲　攝州多田の人にして和歌を能くす、「みつなか」。
まんぢう（名）饅頭、蒸菓子の名、蒸餅、饅餅。
まんぢうせき（名）饅頭石、だんごいし。
まんぢやく（する）（他）瞞着、すかす、だます、あざむく、ごまかす。
まんり（名）饅頭、うなぎ動物。
まんり（名）漫理、みだれやぶ（刀劍の燒刃に云ふ、「みだれやきを見よ」）。
まんりやう（名）砒砂根、百陽金、はたちばな　植物。
まんりてん（名）醴鑑店、うなぎや、うなぎみせ。
まんりき（名）萬力、起重機、捲揚機、しやちくるまきろくろ（重き物を曳くに用ふる具、十刑具）。
まんりき（名）（昔し犯罪人を鞫するに用ひし刑具、十また千斤、くぎぬき。
まんるゐ（する）（名）（自）蔓延、はひまとはる。
まんるかう（名）迷迭香、まんねんろう　植物。
まんかい（名）滿開、はなざかり、さきそろひ。
まんがちに（副）目勝、慢勝、われさきに、われがちに。
まんかう（名）漫行、そぞろあるき。
まんかん　滿干、みちひ　海水のさしひきを云ふ。
まんかん（形）漫汗、はてなき、かぎりなき（大祥の如く）。
まんがん（名）滿俺、鏑物の名。
まんだい（名）漫題、ちくがき、いたづらがき。
まんだい（名）萬代、よろづよ、萬世。
まんだいまつ（名）萬代松　植物。
まんだら（名）曼陀羅、曼荼羅、三摩耶形、壇と譯す。
まんだら（名）曼陀羅　佛菩薩などの畫像ひとりにせしものにて當麻の蓮絲の曼陀羅また豐前國極樂寺の髮繩曼陀羅などの類をいふ。
まんだらげ（名）曼陀羅花、山茄子、鳳茄子、てうせんあさがは、はりなすび、やまなすび、きちがひなすび　植物。
まんだらきう（名）曼荼羅弓、蛇頭弓（古代の弓）。
まんたく（名）蔓延、つやつやしき、てり。
まんぞく（名）（する）（自）滿足、みちたる、じふぶん。
まんねん　萬年氏。
まんねんちやり　萬年町　東京市深川區、また下谷區の町。
まんねんかう（名）迷迭香　植物。
まんねんかけひ　萬年筧　東京廢河堀の後にて神田川に架したる樋。
まんねんがみ（名）萬年紙、黃漆紙、うるしひきがみ。
まんねんらん（名）呂宋蘭、りうぜつらん　植物。
まんねんのとうしゆ　萬年之公主　內親王の美稱。
まんねんぐさ（名）佛甲草、ぶつかふさう、雌雄の別種ありて路傍陰所林下及水側に生ず、雄は苗の高き六七寸葉は細厚にして五六月の頃に五瓣の黃色花を開く、雌は苗の高さ三寸葉は雄よりは狹小にして密なり五六月に花咲く其形狀雄に同じ。
まんねんさう（名）佛甲草　雌、まんねんぐさ　植物。
まんねんし（名）萬年枝、ねづみもち、冬青　植物。
まんねんしよう（名）萬年松、玉柏、たまがしは　植物。
まんねんじゆ（名）萬年樹、桃葉珊瑚、あをき、樹、あはき　植物。
まんねんせい（名）萬年青、おもと、あをぎさう　植物。
まんねんず（名）萬年酢、すのたぐひ、かはちぬす。

まんな（名） 眞字、眞字、しなもじ。
まんなか（名） 眞中、正中、ただなか、中央。
まんなぶみ（名） 漢文、漢籍、しなぶん、からぶみ。
まんらく〔すろ〕（自） 蔓絡、はひまとふ草が、かちむ。
まんう（名） 蔓芋、ちうやじさ（植物）。
まんのう 萬能、よろづのちから、全能、十いろのわざ、もろもろのげい。
まんのうかう（名） 萬能香、香爐の名）。
まんのうなは（名） 萬能鍬、農器。
まんくわ（名） 漫火、とろとろび、とろいひ。
まんぐわ（名） 漫蔓、とばえ、狂蔓、十いたづらえ、ちくがきえ。
まんぐわ（名） 漫蔓、萬繁、（ちさぎ）動物）。
まんくわい（名） 饅膾、ぬたなます。
まんくわはやう（名） 萬花鎖、にしきめがね。
まんぐわん（名） 滿願、結願、ぐわんがけのをはり。
まんぐわんじたき 滿願寺湯（和泉國泉北郡に在る有名の湯布）。
まんまど〔俗〕（副） 盲目、うまうま、うまく、さしつかへなく。
まんまる（形） 眞圓、正圓、まどか、まるき。
まんまく（名） 幔幕、たれまく、まく、帳幕、てんと。
まんまん（形副） 漫漫、ひろき、はてしなき、かぎりなき（大詳の如く）。
まんまん（形副） 蔓蔓（草等のふひはびこる貌）。
まんけい（名） 蔓荊、はまつばき、はまがう、はまばひ、はましきみ（植物）。
まんけつ 滿缺、みちかけ月に云ふ）。

まんげつ（名） 滿月、みつるつき、望月、十また臨月、産人出産の期限を云ふ、うみづき。
まんげん（名） 慢言、はこりごと、ほこることば。
まんげん（名） 漫言、みだりなることば。
まんふ 鳧鷖、うるはしきはだ、きめこまかなるはだ（へ）。
まんぷ〔する〕（他） 慢侮、たかぶりあなどる。
まんぷく 萬福、よろづのさいはひ。
まんぷく（形） 滿腹、はちにみつる。
まんどふ 萬劫、いつまでも、永久、萬世、永遠。
まんてう 滿朝、朝廷に在る者總體をいふ）。
まんてう（名） 滿潮、みちしほ、さしほ、あげしほ。
まんてん 滿天、そらいつぱい、滿空、一天。
まんてん（名） 饅店、うなぎや。
まんてんか 滿天下、あめがしたぢう、全地球。
まんてんさう（名） 萬年草、いとごけ（植物）。
まんてんせい（名） 滿天星、はくてうげ、たんちやうぼく（植物）。
まんざ 滿座、さしきいつぱい。
まんさい〔する〕（他） 滿載、いつぱいにのせる（舟車などに）。
まんざい（名） 萬歲、よろづとせ、萬年。（新年に三河より出て各處をまはる道歌樂人の名）。

まんざいらく 萬歲樂（祝ひ詞にいふ所、また地震を避くるにも唱ふ）。
まんざら〔俗〕（副） 眞更、眞の有無に關する語、まつたくは。

まんさう（名） 蔓草、つるくさ（植物）。
まんさく（名） 金縷梅、年脳（植物）。
まんさく 滿作、みのりよきつくりもの、豐作、上作。
まんざやま 萬座山上野國利根郡に在る山）。
まんさん（形） 漫散、しまりなき、くくりなき、みだりにしてちらばる。
まんさん（形副） 蹣跚、よろよろ、よろめきて。
まんさん（名） 滿散、法會の結願をいふ）。
まんざん 滿山、やまいちめん、全山。
まんさ（名） 慢氣、たかぶりごころ、慢心。
まんさやちふり（名） 慢驚風（小兒の常常ひきつくる病）。
まんめん 滿面、かはぢう、かはいつぱい。
まんじ（名） 鳧鷖、うるはしきことば。
まんじ（名） 卍（萬字或は滿字といひて佛德を表する印）。
まんしう 滿洲（亞細亞洲中の國名にて支那の東北に位す、清朝發祥の地）。
まんじゆ（名） 鳧雛、ながいき、眉壽、長命。
まんじゆ 萬壽（日本自一千六百八十四年至一千六百八十七年、西洋自一千二十四年至一千二十七年）（年號）。
まんじゆるん（名） 鳧珠論（山城國愛宕郡修學寺の東南に在り）。
まんじゆちく（名） 萬壽竹、たうちくちん、かぐちざさ（植物）。
まんじゆきく（名） 萬壽菊、てんりんくわ、せんじゆぎく（植物）。
まんじゆしやげ（名） 蔓珠沙花、しびとばな、すてごばな（梵語にして石蒜花（ひがんばな）を云ふ）

（植物）。
まんじゆせつ（名） 萬壽節（支那にて天子の誕生日をいふ、天長節）。
まんしん（名） 慢心、はこるこころ、うぬぼれ、慢氣。
まんしん 滿身、かちだぢう、全身。
まんえい〔する〕（自） 滿盈、みちみつる、みちあまる。
まんえつ 滿悅、じふぶんのよろこび。
まんえふてい（名） 萬葉集（古昔の歌を集めし書）。
まんえふしふ 萬葉集（古昔の歌を集めし書）。
まんえん〔する〕（自） 蔓延、ひろがる、さかんになる、のびひろがる。
まんえん 萬延（日本二千五百二十年、西洋一千八百六十年、一年にて終る）（年號）。
まんび（形） 曼美、うつくしき、うるはしき。
まんびつ（名） 漫筆、そぞろがき、隨筆。
まんびやう 漫評（漫然と書きたる評）。
まんびやう 萬病、よろづのやまひ、諸病。
まんびき〔俗〕（名） 萬引、扒手、掏盜、みせさきぬすみ。
まんもく 滿目、めにみつる、めいつぱい。
まんせい（名） 蔓菁、かぶちな、かぶ、すずな（植物）。
まんせい（名） 慢性、だらだらのたち、ながびくたち病にいふ）。
〔まんせいや〕 滿生野、みぬのゝ（氏）。
まんせう（名） 蔓椒、いたちはじかみ、いぬさんせう、はをき（植物）。
まんせん（副） 漫然、みだりに、いきなりに、十もぞろに。
まんする〔する〕（自） 滿醉、十分にまふ。

け

け（名） 卦、くわ（易の八卦の卦にして下宮の象）。
け（名） 獸、けい、すぢ、ひきすぢ（紙にひく、界、十寫格、十頂格、うへのけ）。
け（名） 毛、身體或は頭上に生ずる細きもの）。
け（形名） 氣、き、十けしき、けぶり。
け（形） 怪、あやしき、もののけ。
け（名） 褻、いへ。
け（名） 食饌、くひもの。
け（名） 獸、獣、すぢ、けい。
け 微（きまるの略）。
け〔に〕（副） 疎、とに、十ますます。
げ（名） 質、はと、いれもの、うつは（食品を盛る器）。
げ（名形） 下、しも、した、ひくき、十あしき。
げ 碑、きはり、さまたげ。
げ（名） 偈（佛經中の詩の如きもの）。
げ（名）—する（他） 解、ときあかし、さとる、しりわける。
げ（名） 牙、きば、するどきは。
げ 夏、なつ、十また結夏、なつやすみ（僧徒自恣の時）。
けい（名） 歪二十八宿の一にして文學の神と崇めらる、歪運、陵盛など云ふが如し）。

けい（名） 獸、ひきすぢ、すぢ、けい（けの下に詳かに見ゆ）。
けい（名） 敬、うやまふこと、敬禮。
けい（名） 兄、あに、え、十又としうへ、めう（人を尊稱する詞、例へば人を呼びて某兄など云ふが如し）。
けい（名） 計、はかりごと、かんがへ。
けい（名） 勢、鼠尾草、みそはぎ（物植）。
けい（代名詞） 卿、きみ、なんぢ（王侯等が臣下其他の貴人を呼ぶ詞）。
けい（名） 鳥、すぢ、十くみたち。
けい（名） 鼓、けしき、ありさま（遺鼓美鼓など用ふ、又獨立しても用ふ、十又（形）あはいなる、大鼓鐘など云ふが如し）。
けい（名） 型、鑄形、いかた。
けい（名） 京、みやこ、京都。
けい（形） 勁、つよき、強剛。
けい（名） 磬、たたくいし（石磬樂器）。
けい（形名） 怪、異、あしき、あやしきもの。

けい（名） 形、かたち、すがた（圓形角形など用ふ）。
けい（名） 刑、罰人を罰すること）。
けい（名） 戰、わざ、技術、ぎのう、ぎじゆつ、ぎげい、げいごと。
げる（名） 外、そとの外に居ること）。
けいい（形） 輕、易、てがる、輕便。
けいい（名） 褻衣、きやはん、はぎもはひ。
けいい 敬意、うやまふこころ。
けいいる 經綸、たてよこ（機又東西の）。

けいゐ〔する〕(他) 經緯治理するをいふ。
けいいう(名) 鯨油、くじらあぶら。
けいいうし(名) 經緯師、おりものし、おりや。
けいいん(名) 契印、わりいん(公書類に施す割印をいふ)。
げいいん〔する〕 鯨飲、いたくのむ、あほざけのむ、くじらのごとくのむ(大酒を飲むをいふ)。
けいろ(名) 經路、經路、はそみち、こみち、逕路。
けいろう(名) 經調、ちろう(鶴人稱)。
けいろう 環櫑、たまのざしき。
けいろう(名) 餐籠、はたるかご。
けいろく(名) 鶏肋、にはとりのあばら(無用無價値なるものをいふ)。
けいろうぞう(名) 雞冀肩(寶瓶)此圖なるは大和國淵田明神藏。

[圖の肩寶雞]

けいば(名) 競馬、くらべうま、きそひうま、十文字うまかけ。
げいは(名) 鯨波、あはなみ、十文字きのころ、とき。
けいはい 輕輩、かるきともがら、賤人。
げいばいう(名) 迎梅雨、うのはなくたし(三四月の雨を云ふ)。
けいばたち(名) 競馬太刀(下の圖なるは大和國東大寺八幡宮所藏)。

[圖の刀太馬競]

けいはつ〔する〕(他) 啓發、ひらく、智力等を、ひらけしめる。
けいばつ(名) 刑罰、しもき、つみなひ。
けいばつ(形) 警拔(文章の警策ありて奇拔なるをいふ)。
けいはう(名) 警報、いましめのしらせ、火事等の。
けいばう(名) 閨房、ねや、ねま。
けいはうぢやう(名) 掲榜場、たかふだば、制札場、掲示場、ふだのつじ。
けいはうきよく(名) 警保局(警察上の事を監察する官署)。
けいはく〔する〕 敬白、つつしみてまうす。
けいはく(形) 輕薄、はくじやう、なさけすくなき。
けいばく(名)、—する(他) 繋縛、しばり、つなぎ、つなぐ、しばる。
けいはふ(名) 刑法、つみするおきて(罪人を)。
けいはん(名) 畦半、ひとあし、十又かたあしのあゆみ。
けいにく(名) 雞肉、にはとりのにく。
けいにくけれい(名) 雞肉傑列(雞の骨肉中の骨)。
けいにん(名) 養分を風じ取りたるもの。
けいにん(名) 藝人、わざおぎひと、十又(藝を賣る人をいふ)。
けいぼ(名) 繼母、ままはは、假母。
〔けいぼう〕 瓊矛、ぬぼこ、たまのほこ。
けいぼく(名) 鶏鬚、をしどり(動物)。
けいへい 啓閉、あけたて、開閉戸等の)。
けいへい(名) 經閉、婦人月水の停滯を云ふ)。
けいへい(名) 勁兵、つよさつはもの、強兵。
けいへい(名) 覺屏、びやうぶ。
けいべつ〔する〕(他) 輕蔑、ないがしろにする、さげすむ、みさげる。
けいへう〔する〕(他) 啓表、まうしあげる(天子などに)。
けいへき(名) 圭璧、玄那の天子諸侯の昔し執りたる璧。
けいへき(名) 刑辟、つみなふこと、刑罰。
けいべん(形) 輕便、てがる、あつかひよき。
けいざ(名) 毛氈、絨毯、けのいと(毛にて作れる絲)。
けいど(名) 經度(地球上にひける南北に度る縱線を云ふ)。
けいざう〔する〕 惠投、寄贈、投與、めぐみあたへる、やる、あくる人に物を)。
けいさう(名) 圭寶、せまきい、寶門。
けいざう(名) 繁燥、だいつきのともしび。
けいざう(名) 雞頭、ひきがね鐘鼓の)。
けいざうさう(名) 雞頭草、とさかぐさ、雞冠花(植物)。
けいざく(形) 勢獨、ひとりなる、みよりなき。
けいさせい(名) 計都星、三惡星の一)。
けいさん(名) 經餉、きんとん(食品の名)。
けいち(名) 景地、けしきのよきところ、勝地。
けいち〔する〕(他) 携持、ひつさげる、たづさへる。
けいちよ(名) 閨女、(やすみむすめ(をとめを見よ)。
けいちよく(形) 勁直、こはくなはきをはめてただしき。
けいちつ(名) 啓蟄二十四節の一)。
けいちう 閨中、ねやのうち、中閨。
けいちやう(名) 兄長、あになどのめうへ。
けいちやう〔する〕(他) 傾聽、かたむききく。

けいちやう 慶長(日本自二千五百五十六年至二千二百七十四年、西洋自一千五百九十六年至一千六百十四年)年號。
けいちやうさう(名) 雞頂草、雞冠草、はこべ。
けいちやうゆう 輕鬼、おもきかるき。
けいり(名) 警吏、警察の官吏、十みまはりやく。
けいり(名) 荊棘、いばなし植物。
けいりつ(名) 刑律、しもきのおきて、刑罰。
けいりう〔する〕(自) 婦貿、とどまる、十とどこはる。
けいりう(名) 溪流、たにがは、たにまのながれ。
けいりく(名) 刑戮、刑罰に同じ、つみすること。
けいりやく(名) 計略、はかりごと。
けいりやく〔する〕(他) 輕略、ゆるがせにする。
けいりと(名) 蝋蚪(蛙幼の方言)、かへるこ(動物)。
けいりん(名、—する(他) 經綸、をさむること(天下國家等を)、ととのふ。
けいりん(名) 藝林(藝國に同じ)、十文國。
けいりんゐん(名) 惠林院(足利義植の稱號)。
けいるゐ(名) 係累、あしてがちみ、わづらひ、じやま。
けいれう 慶應(日本自二千五百二十五年至二千五百二十七年、西洋自一千八百六十五年至一千八百六十七年)年號。
げいれん(名) 鯨聲、かねのおと(遠寺の鯨音寺かに聞ゆなど云ふ)。
けいわくせい(名) 奚爵星、ひなつぼし(火星の異名)。
けいか 荊軻(燕の國の壯士にして秦王を刺さんとせし者)。
けいが(名、—する(他) 慶賀、いはふこと、よろこび、よろこびいふ、いはふ。
げいが〔する〕(他) 迎送、むかへ、いでむかへる。
けいかい(名)、—する(他) 警戒、儆戒、いましめ、ようじん、いましめる。
けいかい(名) 經界、さかひ、さかひめ。
けいかい(名) 境界(きやうかい)、さかひ、くにざかひ。
けいかい(名) 荊介、假蹊、ありたさう(植物)。
けいかい(名) 臨蹊、ししびしほ。
けいかい(形) 気介、ひとり、獨身。
けいがい(名) 形骸、からだ、身體。
けいがい(名) 警欬、しはぶき(警欬に接すと云ふ)。
けいがい〔する〕(他) 驚駭、驚駭、おどろく、きもをつぶす。
けいかい(名) 鯨海、おほうみ、あをうみ、海海。
けいかつ(名) 隙闊、たにあひのみち。
けいかう〔する〕(他) 輕浮、月經、をんなのつきのもの。
けいかう〔する〕(自) 經行、月經、をんなのつきのもの。
けいかう〔する〕(自) 磨行、いでたつ、たびだつ。
けいかう〔する〕(他) 計較、くらべる、くらべみる。
けいかう(名) 馨香、かうばしきにほひ、かをり、香氣。
げいかう(名) 迎香、禾髓の上一寸鼻孔の旁五分にある穴)。
けいかうてんわう 景行天皇(人皇第十二代の帝、紀元七百三十一年(西洋紀元七十一年)より七百九十年迄、在位六十年御壽百六歳)。
けいかく(名) 圭角、かどかどしさ、とがり、十つの。
けいかく〔する〕(自) 驚愕、おどろく、びつくりする。
けいがく 學學(學問學苦學をいふ)。
けいがく(名) 鶏髦、たに、ふかきたに。
げいがふ〔する〕(自) 迎合、むかへあふ(人の意を慇懃ひ迎へて之に順ふをいふ)。
けいかん(名) 雞姦、男色をいふ、ぬかま。
けいがん(名) 啓龕、開帳、開扉、とびらひらき、神佛の)。
げいかん(名) 迎樂、太陰曆八月の異名)。
けいがんさう(名) 雞眼草、やはづはぎ、やはづさ(植物)。
けいよ(名) 輕與、よつてかご、かるきかご。
けいよう(名) 經用、經費、いりやう、いりか。
けいよう(名形)、—する(他) 形容、かたち、みなり、すがた、なぞらへる、たとへいふ。
けいようし(名) 形容詞(名詞等の性質を表する詞にて大小長短の如きものをいふ)。
けいようひ(俗)(名) 形容費(誇侈費をいふ)。
けいたい(名) 形態、なり、ふり。
けいたい(名) 形體、かたち、十形骸、からだ。
けいたい〔する〕(他) 携帶、たづさへる、ゆしつれる。
けいだい(名) 境内、さかひのうち、寺に寺社の)。
けいたいのきみ 雞體君、よつぎのきみ、世子、嗣君(先帝王に繼嗣したまふ君すなはち嗣王をいふ)。
けいたいふ 卿大夫(諸侯の最高臣の名稱)。
けいたいてんわう 繼體天皇(人皇第二十六代の

帝、紀元一千百六十七年(西洋紀元五百〇七年)より一千百九十一年迄、在位二十五年御壽四十三歳、一説に八十二歳)。

けいたいじ(名)　雛慶兒、つちぐり、ぶくりやうきう植物。

けいたつ(名)　闌闌、れやのいりくち。

けいだつ〔する〕(他)　磨達、まうしのぶる書狀にて。

けいだう〔する〕(他)　磨場、あんないする、みちびく。

けいだく　輕諾、やすうけあひ、たやすくうけがふ。

けいだく(名)　契諾、ちぎり、やくそく。

けいたん(名)　契丹、きつたん支那の北胡の名)。

けいたん(名)　雞且、あけがた、曉天、よあけ。

けいたん(名)　溪潤、たにのはやせ(谷川の急流をいふ)。

けいれい(名)、—する(他)　敬禮、うやまひ、うやまふ帽を脱して敬禮を表すなど云ふ。

けいれき(名)、—する(他)　經歷、ためし、經驗、ふる、へる、とはる、わたる。

けいれん(名)　痙攣、ひきつり、つりかがみ。

けいれんさう(名)　壓膊瘡、はぎがさ、すねがさ、がんがさ。

けいそ(名)　鷄鼠、はつかねずみ動物)。

けいそ(名)　雞蹴、ぢんちやうげ植物)。

けいそつ(形)　輕卒、かるがるしき、かるはづみ。

けいそう(名)　競走、かけくら、はしりくらべ、ひとかけ。

けいそう　景慕、はたるびのあかり動學に云ふ)、十課書潰、まなびとろ。

けいそう〔する〕(他)　惠順、惠送、めぐみおくる、おくりあたふる。

けいそく〔する〕　輕屬、かする、すこしふれる、はつる。

けいぞく〔する〕(他自)　繼續、つづく、つづける。

けいそくぼく(名)　瀾蹴木、くろがき植物。

けいそん(名)　雞足山(下野國足利郡に在る山)。

けいづ(名)　系圖、家譜、いへすぢ。

けいねん(副)　切年、このとしごろ、十としつづき。

けいなり(名)　景巖、はたるぶくろ。

けいらく(名)　京洛、みやこ、京師。

けいらく(名)　經絡、脈絡、もちのすぢ體中の)。

けいらん(名)　雞卵、にはとりのたまご、卵。

けいらん(名)　鳳闕、紫晨、黄鳳、しちん植物)。

けいらんしゆ(名)　雞卵酒、たまござけ。

けいりん(名)　慶雲、めでたきくも史記曰若煙非煙、煙、若雲非雲、郁郁紛紛、蓋紫輪囷、是謂慶雲、十惠雲、景雲。

けいりん　慶雲日本自一千三百六十四年至一千三百六十七年、西洋自七百四年至七百七年)年號。

けいりん(名)　慶雲文運(學文の時運をいふ、慶雲の下を見よ)。

けいりんゐん　慶雲院(足利義勝の謚號)。

けいのう(名)　藝能、わざ、げいごと。

けいぐ(名)　形具、からだ、むくろ。

けいぐ(名)　惠具、くろくわゐ植物)。

けいぐ　敬具、つつしみまうす、敬白。

けいぐ(名)　警衆、ようじん。

けいくわ〔する〕(自)　計過、つもりすぎす。

けいくわ〔する〕(自)　經過、ふる、すぎる、とはる。

けいくわ(名)　景火、はたるび、はたるのひかり。

けいくわい(形)　輕快、かがる、てばやき、すみやか、ことばやすくなりたること。

けいくわい〔する〕(他)　經廻、へめぐる、ゆきめぐる。

けいくわう(名)　烟光、ひかり、かがやき。

けいくわく(名)、—する(他)　計畫、もくろみ、たくむ、もくろむ。

けいくわん(名)　警官(警察の官吏)。

けいくわんぼく(名)　雞冠木、かへでのき、雞頭樹植物)。

けいくわんさう(名)　雞冠草、とさかぐさ、けいとう植物)。

けいくつ〔する〕(自)　磬過、かがむ、こしまがる。

けいや(名)　警夜、よまはり。

けいやうぼく(名)　夜叉木(庭園内の中島に植うる大いなる木を然か呼ぶ)。

けいやく(名)　契約、結約、約束、約諾、やくそく、十ちぎり、十ちかひ。

けいやくはふ　契約法、やくそくのしかた、法律の語)。

けいゆ(名)　桂馬、將棋の駒の名)。

けいまうざい(名)　雞毛筆、つまみを植物)。

けいまん〔する〕(他)　輕慢、かるんずる、けなす、くさす、さげすむ。

けいけい(副)　輕輕、かるがるしく。

けいけい(名)　經傳、はそみち、せまきみち。

けいけい(副)　發發、かがやき、ひかひか。

けいけつ(名)　鷄塊、くじち動物)。

けいけつ　詣闕、參内、天子の御所に詣る。

けいげつ(名)　霽月、ひつくりかへる、さがれるつき。

けいげつ(名)　桂月、かつちづき八月の異名)。

けいげふ(名)　輕業、かるわざ、つなわたり。

けいけん(形名)　敬虔、つつしむ、十信心。

けいけん(名)、—する(他)　經驗、ためし、ためす。

けいけん(形)　勁健、つよくすこやか。

けいげん〔する〕(他)　輕減、へらす、ひきさげる。

けいふ(名)　繼父、ままちち。

けいふ(形)　輕浮、うはつく、きだまちぬ。

けいふ(名)　系譜、系圖、家譜、けいづ。

けいふ〔する〕(自)　警怖、おどろきおそる。

けいふ〔する〕(他)　輕侮、かろんずる、あなどる。

けいふ(名)　刑部、唐の官衙の名、我刑部省(ぎやうぶしやう)に同じ。

けいふ(名)　警部、巡査の上に位する警察官吏)。

けいふ〔する〕(自)　輕舞、をどる、かるくまふ。

けいふぢ(名)　警部補(眞の警部に非ずして警部の職を行ふ者)。

けいふつ(名)　景物、天地間の山川草木の類の色をいふ、景物中有人など云ふ、又商家にて開業式賣出しなどの際に客人に贈る物品を俗に然か云ふ)。

けいぶらうちう(名)　刑部郎中、唐の官名、我刑部大丞また少丞に同じ)。

けいふう(名)　景鳳、南風の異名、又太陰曆五月の異名)。

けいふう　輕風、そよかぜ、微風。

けいふう(名)　惠風、太陰曆三月の異名)。

けいふく　慶福、ゐはいなるさいはひ。

けいふく　敬復、敬んで返答するをいふ)。

けいふく〔する〕(自)　敬服、つつしみしたがふ。

けいふく〔する〕(自他)　傾覆、ひつくりかへる、くつがへす。

〔けいふく〕　鯨伏、いさふし(豐岐國豐岐郡の村名)。

けいふし(名)　輕浮子、輕薄子、うはつきもの。

けいぶじらう(名)　刑部侍郎、唐の官名、我刑部大輔若しくは少輔に同じ)。

けいぶしやうしよ(名)　刑部尚書、唐の官名、我刑部朝の刑部卿に同じ)。

けいぶしゆじ(名)　刑部主事、唐の官名、我刑部錄に當る)。

けいふん(名)　輕粉、はちや、水銀製の物)。

げいぶん　藝文(藝術と學文を云ふ)。

けいと(名)　蛾姑、あきのせみ、ひぐらし動物)。

けいと〔する〕(他)　惠顧、かへりみる、十めぐむ。

けいと〔俗〕(名)、—する(他)　稽古、なちひまなぶこと、なちふ。

けいど(名)、—する(他)　警固、かため、いましめ、かためる、まもる。

げいど(名)　桂園、かいど、あやまち、あやまり。

げいど(名)　藝子、げいしや(唄三味線もて座敷の興を持つ婦人、また樂子の類をいふ、まひをんな、まひひと。

げいど(名)　讃語、ねごと、寢語、寢言。

けいとば(名)　幕古場、ものちひば、だうぢやう。

けいとつ〔にする〕(他)　輕忽、ゆるかせにする、ゆるそかにする。

けいとつ(名)　輕忽、ゆるかせにする。

けいとう(名)　經候、ゆぐり、さはり(婦人の月經)。

けいとう(名)　兄公、ことうと(夫の兄をいふ)。

げいとう(名)　霓虹、にじ(雨の日に映じて生ずる色)。

けいとうさんざん　京口三山(支那の京口城の近傍にある北固山、金山、焦山を云ふ)。

げいとうせき(名)　倪口石(紀州雜賀の産にあり)。

けいとく(名)　溪谷、たに、山谷(山間の窪處)。

けいとく(名)　經國、くにををさむる。

けいとく(名)　頃刻、しばらく、しばし。

けいとく　傾國、くにをかたむくる美人の勢力を譬ふに用ふ)。

けいとく(名)　製獻、ひとやにつなぐ。

けいてい(名)　逐鹿、ちがひ、ゆきちがひ、たがひ、相違。

けいてい(名)　聽亭、やすみどころ、茶屋。

けいてい(名)　兄弟(きやうだい、あにおとうと、はらから。

けいてい(名)　製弟、おとうとぶん。

けいてい(名)　桂丁、はたけつくり、さくをとこ。

けいてつ(名)　頻鉄、つまづきたふる。

けいてつ〔する〕(自)　京兆左右の京職をいふ。

けいてつ(形)　輕佻、かるらか、うはつく、輕薄。

けいてつろくじ(名)　京兆錄事、唐の官名、我左右京の大少屬にあたる。

けいてつのるん(名)　京兆尹、唐の官名、我朝左右京大夫をいふ。

けいてつのせりるん(名)　京兆少尹、唐の官名、我朝左右京の亮にあたる。

けいてつしろく(名)　京兆司錄、唐の官名、我左右京の大進少進にあたる。

けいてき　勁敵、つよきてき、てごはきあた。

けいてき〔する〕(他) 磨通、ひちきみちびく。
けいてん(名) 經典、經書家とし敬ふ書籍。
けいてんさう(名) 景天草、べんけいさう(植物)。
けいてんきよし(名) 景天鄙魯、きりんさう(植物)。
〔けいあ〕(名) 京鴉、けいあん、くちいれどころ。
けいあい〔する〕(他) 敬愛、うやまひあいする。
けいあん(名) 慶奄、京鴉、請狙(うけやど)、くちいれやど。
けいあん 慶安(日本自二千三百八年至二千三百十一年、西洋自一千六百四十八年至一千六百五十一年)年號。
けいき〔する〕 繫鎖、つなぎしばる。
けいさい 荊妻、わたくしのつま、我妻己れの妻をいふ。
けいさい〔する〕(他) 掲載、かかげのする。
けいざい(名) 經濟、一國又は一家の會計の攝理法をいふ、十ま左政治。
けいさつ(名) 警察、社會の攝亂を編壓して秩序を正うすること。
けいさつくわん(名) 警察官、警察のことに預る官吏。
けいさつしよ(名) 警察署、警察事務を取扱ふ處。
けいさり(名) 繫爪、かけつめ。
けいさり 經紮、みがるのいでたち、かるきよそはひ。
けいそう(名) 競觀、ひぎくらべ、ふなかけ。
けいさう(名) 冥草、零陵香、れいりようかう(植物)。
けいさう(形) 經濟、かるがるしき、かるはづみなる。
けいさう〔する〕(自) 稽綱、ぬかづく、ひれふす。
けいさく(名) 計策、はかりごと。
けいさん(名) 計算、つもり、かんぢやう。
けいさん(名) 珪酸、珪石の酸化。
けいさん(名) 輕粉、かるきん(半殺引の名)。
けいさん(名) 卦算、歷石、文鎭、かがみし、かみみさへ。
けいさんりよう(名) 荊三稜、みくり、うきやがら(植物)。
けいさ(名) 京畿、朝廷皇家の御料地を然か呼べり、即ち後内五畿國これなり、みやこどころ。
けいき(名) 經紀、あきなひ、十まいとりのわざ。
けいき(名) 景氣、やうす、ありさま(商賣の)模樣。
けいき(名) 驚怪、もどろき、びつくり。
けいき 慶喜(よしのりを見よ)。
けいき〔する〕 刑期、刑罰の期限。
けいぎ(名) 藝技、うたひめ、げいしや、十まひこ。
けいきん(名) 經紀人、あきうど、十まいとり。
けいよ(名) 輕擧、かるがるしきわざ、かるはづみのひ。
けいよ(形) 輕越、かるがるしき。
けいよ(名) 觀焦、くじち、十又さんせううを。
けいよう〔する〕(他) 歌舞、うやまひあがめる。
けいよよく(名) 荊棘、いばら、ばら、むばら(植物)。
けいよよく(名) 圭玉、わりま(昔し支那にて官吏が携帶せし)。
けいよよし(名) 鑑距子、けんぼなし(植物)。
けいらう 輕裘、かるきかはごろも、獘服を云ふ。
けいらくわい(名) 競技會、わざをきそふあつまり(技藝家などがもよほす者)。
けいりやう(名) 景況、ありさま、狀況十樣子、もやう。
けいりやう(名) 傾尚、かたむき、十このみ、ところむき。
けいりやくさい(名) 離岡藥、ところてん(植物)。
けいりようふちう(名) 離弔鳥、はちし鑑の(動物)。
けいりようう(名) 輕氣球、かざよくる風船。
けいきん(名) 麗巾、はばき、やはん。

けいきんどく 輕禁獄、かるきあしこめ(刑名)。
けいめい(名)—離明、とりなきどき、五更、時且(即も舊の丑の刻をいふ)。
けいめい(名) 啓明、あかぼし、明明星、十よあけ。
けいめい(名) 刑名(刑法治罪法の類をいふ、また刑家及び名家の學を指すとも云ふ)。
けいめいのさんじ 離鳴三時(初鳥(一番鳥)、中鳥(二番鳥)、暮鳥(三番鳥)を離鳴三時といふ)。
けいめう(形名) 輕妙、かるくた(なる、あもくるしかちぬ(文章の輕快靈妙なるなどを云ふに用ふ)。
けいし(名) 京師、みやこ、京都。
けいし 經史(經書と歷史)。
けいし(名) 繼子、ままこ、うまぬこ、なまぬこ。
けいし 經死、くびれじに、縊死、くびくくりじに。

けいし(名) 鄉子、きんだち、公子(王侯の子)。
けいし(名) 璟枝、ばんや(植物)。
けいし(名) 罫紙、界紙、すぢいりがみ、けびきがみ、罫絲欄。
けいし(名) 計史(唐の官名、我朝の算師にあたる)。
けいし(名) 警視、警察の事務を司る官人。
けいし(名) 桂枝、肉桂(藥品)、桂心。
けいし(名) 家司、攝家、清華、親王家の家長。
けいし(名) 屐子、あめふりのはきもの、あしだ。
けいし(名) 型紙、かたがみ(物の模形を作れる紙)。
けいし〔する〕 輕視、かろんじみくびる、みさげる、みくびる。
けいし〔する〕 掲示、かかげしめす(布告等を)。
けいし〔する〕 刑罪、民事と異なる所の罪惡にて監禁放火等の事をいふ)。
けいし(名) 禊事、はちひ、みそぎばちひ(神道の)。
けいし 慶事、よろこびごと、めでたきこと、賀事、婚儀などに云ふ)。
げいし 鯨脂、くじちのあぶら。
げいし(名) 觀鯨、ちごのは。
けいしば(名) 掲示場、ふだば、ふだのつじ、掲榜場(布告類を掲げ示す處)。
けいしちやう 警視廳、警察事務を取扱ふ官署。
けいしちやう(名) 雞兒鳥、よめな(植物)。
けいしよ 經書、四書五經の類、經典。
けいしよ(名) 經綸、(を)儻の足につくる絲。
けいしよ〔する〕 敬承、拜承、敬聽、つつしみうけたまはる。
けいしよ〔する〕(自) 繼承、つぐ、うけつぐ。
けいしよう 形勝、けしきよき、景勝。
けいしよう(名) 警鐘、半鐘、ひじやうがね、はやがね。
けいしよう(名) 雞距、ねずみたけ(植物)。
けいしよく(名) 景色、けしき、ありさま、光景。
けいしよくき 啓書記(後柏原帝の時の人野州宇都宮の畫工)。
けいしそうかん 警視總監、警視廳の總長官)。
けいしつ(名) 繼室、後妻、のちぞひ。
けいしつ(名) 雞鐘、はむし、にはとりのだに(動物)。
けいしつ(副) 形質、かたち、十たち、形體。
けいしつ(副) 頃日、ころひ、このごろ。
けいしつ(名) 親舟、ちぎくらべ、ふなかけ。
けいしつ(名) 桂舟、かつちのふね。
けいしつ(名) 桂林太陰曆八月の異名)。
けいしう 藝州、安藝國をいふ。
けいしう〔する〕(自) 傾斜、かたむく、ゆがむ。
けいしや〔する〕(他) 傾瀉、こぼす、あける、水をまきける。
けいしや(名) 輕車、かるくるま、遊び車。
けいしや(名) 藝者、藝妓、まひをんな、うたひをんな、げいこ、うたひめ。
けいしやう(名) 珪璋、たま。
けいしやう(名) 卿上、公卿、くげ。
けいしやう(名) 形象、かたち物の)。
けいしやう(名) 兄嫂、兄公、こしうと、夫の兄をいふ。
けいしやう(名) 形狀、やうす、ありさま、かたち。
けいしん(名) 經林(機の經絲をまく具)。
けいじやう〔する〕 啓上、まうしあげる(書簡文の語)。
げいしやうい(名) 驚愛羽衣、唐の玄宗の愛する所の樂の名、又樂人伶人の著る副副たる衣裳をいふ、長恨歌に霓裳羽衣曲と見ゆ。
げいしやとじき(名) 楊花、げいしやのことき。
けいしふ〔する〕(他) 繼襲、つぐ、うけつぐ、ひきつぐ。
けいじさいばんしよ 刑事裁判所、罪惡を訊問する法廷。
けいじさう(名) 雞兒草、よめな(植物)。
けいしき(名) 形式、かたし、しるし、十外形、外觀。
けいしゆ(名) 警手、息居を守る警吏を云ふ。
けいしゆ〔する〕(自) 精貧、ぬかづく、低頭、叩頭。
けいじゆつ〔する〕(他) 惠恤、めぐみほどこす。
けいじゆつ(名) 藝術、わざ、技術、たくみわざ。
けいじゆん(名) 警巡、いましめきけり警察の爲に巡視すること。
けいじゆん 經包、十日を經過するを云ふ。
げいしゆんくわ(名) 迎春花、わうばい(植物)。
けいじゆんさ(名) 刑事巡査、刑事に當る人に係はる巡査)。
けいしん 敬禮、かみをうやまふ。
けいしん(名) 桂心、肉桂と同じ。
けいしん(名) 輕信、かるがるしくしんずること、安信。
けいじん(名) 桂花、のちえ、紫蘇(植物)。
けいじん〔する〕(自) 驚震、つきる、たえる。
けいえい(名)—する(他) 經營、いとなみ、し

つちひ、十いとなむ、たくみ、かんがへ。

けいえい　形影、かげかたち。

けいえい（名）、—する（他）警衛、まもり、警固、かためる、守衛、まもる、かためる。

けいえつ（する）（自）謁、いたりまみゆる、參上拜謁。

けいえん（名）　饗宴、いはひのさかもり。

けいえん（名）　形顕、やきしは。

けいえん（名）　驚蟄、掛軸の風帶をいふ（ふうたい）。

げいゑん（名）　藝園、文學世界を云ふ。

けいひ（名）　雞皮、とりはだ。

けいひ（名）　經費、きまりのつひえ、ものいり。

けいび（形）　輕微、輕少、わづか、いささか。

けいび（名）　警備、ようじん、儆備、そなへ。

けいひつ（名）　警蹕、さきばらひ、天子の行幸の時の。

けいびやう（名）　繼病、あとみつはり。

けいびき（形名）　罫引、罫行、界格、鳥絲欄、すぢひき紙にいふ。

けいびきがみ　罫行紙、界紙、すぢひきがみ。

けいびん（する）（他）　惠愍、あはれむ。

けいも（名）　黄櫨、かしゆう、いものたぐひ、植物。

けいもん（名）（する）（他）　警聞、よびさます、十いましむる。

けいせい（名）　形勢、ありさま、いきはひ。

けいせい（名）　奎星、文学を司る星辰。

けいせい（名）　景星、德星、星の名。

けいせい（する）（他）　形成、かたちづくる、つくりなす。

けいせい（名）　景勢、ありさま、光景、いきはひ、もやう。

けいせい　傾城、しろをかたむくる古來美人のために王侯が城を傾け國をはろぼせし故に此語を以て美人を形容す、また傾國とも云ふ、尚次の語を見よ。

けいせい（名）　傾城、大夫たいふ、遊女、うかれめ、あいちん（京都にては芝居を然か云ふ）。

けいせい（する）（他）　警醒、いましめさます、人或は世を。

けいせいまち（名）　傾城町、いろざと、遊女街、ぢよろやまち。

けいせいけいとく　傾城傾國、傾城の下を見よ、傾城傾國の美人などいふ。

けいせいし（名）　雞栖子、鳥類、

けいせつ（する）（自他）　磬折、をりまがる或をりまげる、かがめる、背など。

けいせつ（する）（他）　迎接、むかへる客等を、むかへもてなす。

けいせつかう（名）　雞舌香、丁子といふ香物の一名。

けいせう（する）（他）　繼紹、うけつぐ。

けいせう（形）　輕少、すこし、些少、わづか。

けいせふ（する）（自）　經渉、ゆきわたる、へわたる、歩渉。

けいせふ（形）　勁捷、すばやき、みがる。

けいせき（名）　珪石、石の色白くして稍透明なるもの。

けいせき（名）　景石、はたるいし、石の名。

けいせき（名）　磬石、うちなちすいし（けいを見よ）（磬器）。

けいせき（名）　經籍、ほん、ふみ、書冊。

けいせき（名）　形迹、あとかた、あと、十しるし。

けいせき（名）　蠑螈、はたはた、ばつた動物。

けいせん（形）　輕賤、いやしき、みがるの（地位の下等なるをいふ）、下賤。

けいせん（名）　經線、たていと、たてすぢ。

けいせん（名）　還川、たにがは山中の川。

けいせん（名）　幷先、奏選、けふめい、植物。

けいせんくわ（名）　白頭翁（備前美作の方言）、ねきぐさ、植物。

けいする（名）　經水、めぐり、てなし（婦人の月水をいふ）、つきのさはり。

けいすう（する）（他）　計數、かぞへる。

げろ　下呂、飛騨國の地名。

けば（名）　鶏、はそきけわた（衣服等の上に在る）。

げば（名）　下馬、下乘、うまより（馬より下ること）。

げはい　下輩、いやしきものども。

けはりねずみ（名）　毛刺鼠、蝟、蝟鼠、はりねずみ、くさふ、蝟、ゐを見よ（動物）。

けばだつ（自）　發毛、けわだつ、衣服等に。

けはなし（名）　鐵放、もんのしきみ、門限、門閾。

けはなす（他）　鐵放、けりてあける、戸等を。

けはらひ（名）　毛掃、毛刷、けブラシ（毛製の雜掃）。

けはりき或**けばはき**（名）　毛箒、とりのけのはくもの。

けばうし（名）　毛帽子、毬帽、毛皮製の帽子。

けはふ（名）　肢法、めくちまし、てづま。

けはふ（名）　外法、外道に同じ。

けはふだ（名）　下馬札、馬より下ることを命ずる爲に建てたる札、下乘標。

けいせき（名）　經籍、ほん、ふみ、書冊。

けいせき（名）　形迹、あとかた、あと、十しるし。

けいせき（名）　蠑螈、はたはた、ばつた動物。

けいせん（形）　輕賤、いやしき、みがるの（地位の下等なるをいふ）、下賤。

けいせん（名）　經線、たていと、たてすぢ。

けいせん（名）　還川、たにがは山中の川。

けいせん（名）　幷先、奏選、けふめい、植物。

けいせんくわ（名）　白頭翁（備前美作の方言）、ねきぐさ、植物。

けいする（名）　經水、めぐり、てなし（婦人の月水をいふ）、つきのさはり。

けいすう（する）（他）　計數、かぞへる。

げろ　下呂、飛騨國の地名。

けば（名）　鶏、はそきけわた（衣服等の上に在る）。

げば（名）　下馬、下乘、うまより（馬より下ること）。

げはい　下輩、いやしきものども。

けはりねずみ（名）　毛刺鼠、蝟、蝟鼠、はりねずみ、くさふ、蝟、ゐを見よ（動物）。

けばだつ（自）　發毛、けわだつ、衣服等に。

けはなし（名）　鐵放、もんのしきみ、門限、門閾。

けはなす（他）　鐵放、けりてあける、戸等を。

けはらひ（名）　毛掃、毛刷、けブラシ（毛製の雜掃）。

けはりき或**けばはき**（名）　毛箒、とりのけのはくもの。

けばうし（名）　毛帽子、毬帽、毛皮製の帽子。

けはふ（名）　肢法、めくちまし、てづま。

けはふ（名）　外法、外道に同じ。

けはふだ（名）　下馬札、馬より下ることを命ずる爲に建てたる札、下乘標。

けばざた（俗）（名）　下馬沙汰（下馬評に同じ）。

けはしき（形）　嶮、險、峻、岨、險岨、險峻、崎嶇、險隘、崔嵬、あちくするどき山道等が。

けはひ（名）　粧、艶粧、けしやう、ぬつくり、ぬしまひ、女の。

けはひ（名）　景勢、形勢、ありさま、けしき。

けはひどころ（他）　粧所、粉粧所、けしやうべや（女の）。

けはひれう（名）　粧料、脂粉資、けしやうがね（女に與ふる、十したくきん）。

けはひやう（俗）（名）　下馬評、賤夫の評言、巷說。

けはひざか　假粧坂（相州鎌倉郡に在り）。

けはひする　粧飾、化粧、けしやうする、ぬつくりする。

けに（副）　特優、すぐれて。

けに（副）　實寔、まことに、誠、實。

けにし（名）　奈牛子、けんごし、あさがはのたね。

けにも（副）　誠、實、まことに、じつに。

けにん（名）　家人、いへのこ、いへつきのけらい。

けにん（名）　化人（まものの人にばけたるもの）。

けにん（名）　下人、めしつかひ、しもべ、十しもじも。

げにん（名）　解任、免官、罷職、官職を罷めさすること。

けぼり（名）　毛彫、錺彫、鈒鏤（細き毛絲の彫刻）。

けぼりし（名）　毛彫匠（毛彫をする人、鈒花工、いふ）。

げほくめん（名）　下北面（仙洞御所守衛の官人を云ふ）。

げぼん（名）　下品、いやしきしな、げひん。

けど（する）（他）　化度（佛語にて濟度に同じ、すくふ、すくひとる）。

けさばす（他）　蹴飛、けりてとばす。

けざる（他）　暗貪、うすうすさとる、みてとる。

けざう或**かざう**　下帋、しものくちろ（等級の上に云ふ、十あしきしながら）、ひくきく。

げざう（名）　戲劇（東奥仙臺の風習にて年歳初春に城東の野に集りて武を講ずるをいふ）。

げざく（名形）　解説、どくけし藥に云ふ。

げざくぐわん（名）　解説丸（どくけしの丸藥の名）。

けざくざい　解説劑、どくけしくすり。

けざくし（名）　解説子、地不容植物。

けち（俗）（形名）　怪知、あやしき、あやしきこと。

けち（俗）（形）　吝嗇、しわき、惜嗇、ものをしみする。

けち（名）　闕、缺員、かけ、あき、けつゐん官吏杯の。

けち（名）　天雙、または地妖、あやしまこと、異異、變異、妖。

げち（名）—する（他）　下知、さしづ（指圖、指揮、さしづする職守にて）。

げぢよ（名）　下女、下婢、めしつかひをんな、はしため。

けちらす（他）　蹴散、けりてとばす（諸方に）。

けちぐわん（名）　結願、願がけの終りの時。

げちやう（名）　戲場、しばゐ、しばゐごや、十ぶたい。

げちやく（する）　下着、くだりつく（京より）。

げぢき　下直、やすね、やすきあたひ、廉價。

けぢめ（名）　差別、わかち、區別、きは。

けちみやく（名）　血脈、ちすぢ、十血屬、ちすぢのわかれ。

げちじやう（名）　下知狀、御教書をいふ（さとしぶみ）。

けちえん（名）　結緣、えんむすび（佛との）。

けちえん（形）　揚焉、いちじるしき、いやちこ。

けり（名）　水鳥、かいつぶり、鳰鳥、みづとりの名（動物）。

げり（名）　外吏、都の外にある官吏を云ふ。

げり（名）　下痢、はらくだり、痢病、くだし。

けぬき（名）　毛拔、鑷子、鑷子、摺毛、毛を拔く具。

けぬきがね（名）　毛拔金、火鑷鉄の金具の名。

けぬきだんじやう　鑷彈正（歌舞伎十八般の一）。

ける（他）　蹴、足にてはねてやる、蹴、蹴、けとばす。

けをはやす　養髮、寄髮、かみのけをのばす。

けれさざる（自）　壓倒、おしまかされる（已れより勝れる者の爲に）。

けれり（形名）　毛織、毛織、毛織（毛にて織れる、十又けありぬの、毬衣、毛布。

けをそる　剃髮、剃髮、かみのけをすりおとす。

けをされる　氣壓、おしまかされる（被動態）。

けが（名）　怪我、負傷、傷、きず、疵、十また錯誤、あやまち。

げかい（名）　下界、したのせかい（此世をいふ）。

けがはり（名）　毛更（動物の毛等の脫けて更に生ずること）。

けがにん（名）　怪我人、負傷人、きづきたるひと。

けかへす（他）　蹴返、けりてもどす。

けがれる（自）　汚穢、汚穢、汚染、汚濁、汚穢、點汚、汚濁、きたなくなる、よごれる。

けがらはしき（形）　穢穢、汚穢、きたなき、十いまはしき爲にけがれるを見よ。

けがらひ（名）　穢、けがれ。

げかち〔する〕〔自〕　下向、くだる、くだりきたる（都より）。
けがまち　氣賀町（遠江國引佐郡の町名）。
けがみ〔名〕　界紙、けいびきがみ、格罫紙。
げかん〔名〕　下澣、下院、下旬（月の末の十日）。
げかんさう〔名〕　下痢、陰證、ちやく（陰虫の病）。
けた〔名形〕　桁、よこぎ（橫木）、よこぬき。
けた　氣多氏。
けた〔名形〕　方、しかく（四角）。
げた〔名〕　下駄、下駕、木履、はきもの。
げだい〔名〕　外題、なま（本また狂言等の）、笈、外笈、表題。
けだい〔する〕〔自〕　懈怠、おこたる、なまける。
けたぼう〔名〕　桁棒、よこぎ、ぬき、けた。
けだち〔名〕　氣發、蒸發、ゆげたつ。
けだるま〔名〕　毛達摩、中年以上の婦人の結ぶ下品なる髮の一。
けだかき〔形〕　氣高、たふとげなる、いやしからぬ、高尚。
けたたましき〔形〕　喧騒、さわがしき、やかましき。
げたつ〔名〕　解脫（六道の輪廻を免かるをいふ）すくひ（佛語）。
げたつ〔名〕　解脫（歌舞伎十八穀の一）。
げたつしやうにん　解脫上人（名は貞慶、官祿を厭ひ笠置山に入り苦修したる人）。
げたり　外道、邪道（佛教外の教說をいふ）。
けたり〔する〕〔他〕　化粧、をし（みちびく（佛僧が信者を）。
げたりのめん　外道之面（馬鹿踊などにかぶる邪相の假面）。
けたりじん〔俗〕　毛唐人（鄙俗の傳言にて外國人をいやしみ言ふ詞）。
けたふす〔他〕　蹋外、蹴倒、けりてころばす。
けたで〔名〕　毛茸、紅草、水荊、藺、遊蘭、馬蓼（植物）。
けたてる〔他〕　蹴立、けりあげる（足にて塵等を）。
けたし〔名〕　蹴出（舞人の下裝の名）。
けたし〔副〕　蓋、おほかた、あるひは、おもふに（發語の調）。
けだしくも〔副〕　蓋、あるひは、ひよとしたら、けだし（古語）。
けだもの〔名〕　家畜、かふけもの、十また獸類、けもの（動物）。
げだん　下段、したのだん、したのかまへ。
けれども〔俗〕　唯、いへども、しかれども。
けれつ〔形〕　下劣、いやしき、ひくき、おとれる。
けそろへぐし〔名〕　髮擂櫛、整髮櫛、かみそろへぐし。
げそう〔名〕　巡送、擂蓮、鎖蓮、もちはこび。
けそく〔名〕　帶足（佛壇等の飾り脚をいふ）。
げそく〔名〕　下足、はきもの、げた。
げそくだい〔名〕　花束、花たてだい（寺院の）。
けそん〔名〕　榮、榮枯、いへのきず、家疵。
けつ〔名〕　榮、榮枯、はりつけ。
けつ〔名〕—する〔他〕　決、さだめ、きめ、とりきめる。
けつ〔形名〕　闕、かけたる、たらぬ、不足、かけ。
けつ〔名〕　闕、宮廷、御所、帝王の居室、きんり。
けつ〔名〕　瓦一枚の半分（ページ、半面紙）。
けつ〔名〕　月、つき。
けつい　決意、かくご、決心、決志、きめたること。
けついん〔名〕　血脈、ちすぢ。
けついん〔名〕　訣飲、わかれのさかもり、はなむけ。
けつろ〔名〕　血路、にげみち、戰場にて取り卷かれたる時に切り開く逃げ道）。
けつろう〔名〕　缺漏、かけ、不足。
けつばつ　結髮、かみをいふ。
けつばく〔形〕　眞白、いさぎよき、きよき、潔淸。
げつばく〔名〕　月迫、つきせる、月末、また迫識、迫師十二月の末を云ふ。
けつばふ〔名〕—する〔自〕　缺乏、かけ、ふそく、たちはぬ。
けつばん〔名〕　血判、ちのいん（神文誓詞等に用ふる）。
けつにく〔名〕　血肉、ちすぢ、しんるゐ、親戚。
けつぼ〔名〕　榮步、かに（動物）。
げつぼう〔名〕　月俸、つきてあて、月給。
けつぼん〔名〕　萩盆、きいちご、いちご、覆盆子（植物）。
けつべつ〔名〕　訣別、いとまごひ、わかれ、別離。
げつぺう〔名〕　月卷、つきづきのかきたて。
けつべん〔名〕　血便、血の屎に雜り下る病）。
けつどう〔名〕　結頭、むすびめ。
けつどう〔名〕　血脈、ちすぢ、血統。
けつざう〔名〕　決鬪、はたしあひ、ころしあひ、眞劍勝負。
けつぞく〔名〕　結髮、はねがちみ、より（鬘髮の）。
げつさく　月德、太陰曆中段の吉日の名。
げつちう　月中、なかのとをか、中旬。
けつぢやう〔する〕〔自他〕　決定、きまる、さだまる、さだめる。
けつちやく〔する〕〔自〕　決着、とりきまる、十〔俗〕則ぎりぎり、どくどく。
けつり〔名〕　血瘤、ちくだり、下血。
けづりばな〔名〕　削花、けづりかけ（初春十五日に門戶に飾る物にて柳の枝をふさふさに削りて造る）。
けつりやく〔する〕〔他〕　闕略、かきはぶく。
けづりひ〔名〕　削氷、かきごほり、ゐろしごほり。
けつりん〔名〕　血淋、血の下る淋病。
けづる〔他〕　腕、擡、くしけづる（髮をとかすをいふ）。
けづる〔他〕　削、刻、鑄、削硯、削去、剛却、刻去、刮剛、うすくそぐ（鉋等にて）、十刪、刪除、のぞく。
けつるゐ　血淚、ちのなみだ。
けつるめ〔名〕　白馬、しろうま。
けつか〔名〕　結痂、かさぶた。
けつか〔する〕　結跏、ひざをくむ、あぐちかく（けつかふざを見よ）。
けつか　闕下、天子の宮殿の下）。
けつかい〔名〕　血海、下焦の陰血。
げつかれう〔名〕　月下霧、むすぶのかみ、えんむすびのかみ、月下氷人。
けつかつ〔形〕　桀黠、わるがしこき、かしこくしてあしき。
けつかう〔する〕〔自〕　頡頏、ひきあふ、つりあふ、たぐふ、十又とびあがりとびがる、十又形奇怪、あやしき（きつかう）とも擧かす。
けつかう〔する〕　決行、さだめおこなふ。
けつかう〔する〕　挈行、つれゆく、たづさへゆく。
（けつかう）〔名〕　結樓（さきやうとよむ）植物。
けつがう〔形〕　桀驁、はしいままなる。
けつかうくわ〔名〕　結香花、みつまた（植物）。
けつかく〔名〕　結核、かたまれるもの（病に云ふ）。
けつがく〔名〕　月額、さかやき、ひたひのそりたるところ。
けつがふ〔名〕—する〔自他〕　結合、むすびあひ、むすびあはせる。
けつかふぎ　結跏趺坐、吉祥坐、あぐちかく、あしくみてすわる佛の如く）。
けつかん〔名〕　玦環、ゆがけ（弓を射るに用ふる具）。
けつかん　血汗、ちあせ、ちのごときあせ。
けつよ〔名〕　血鯢、かみのをち、ぬけげ。
けつたい〔名〕　蟲帶、いはたをび。
（けつだい）〔名〕　月代、さかやき、月額。
けつたう〔する〕〔自〕　蹶倒、ころび、つまづきたふる。
けつたう　結嚢、くみをむすび。
けつたん　血痰、ちのたん。ちのまじれるたん。
けつたん〔名〕　缺短、ふゆきとどき、たらぬところ。
けつたん〔名〕—する〔他〕　決斷、さだめ、とりきめ、きはめる、さだめる、とりさばく（訴訟などを）。
げつたん〔名〕　月旦、つきがしら、つきはじめ、十同じ）。
けつたんれい〔名〕　決斷令（唐の官名、我大判事に府）。
けつたんしよ〔名〕　決斷所（裁判所をいふ、十官
げつれいじ〔名〕　月鈴兒、すずむし（動物）。
けつれつ〔する〕〔自〕　決裂、さける、やぶれる。
けつれう〔する〕　結了、をはる、すむ、とぢまる。
けつそく〔する〕〔他〕　結束、ゆはへる、しばる、たばねる。
けつぞく〔名〕　血族、血屬、ちつづきびと、ちすぢのみより、因緣。
げつそく　別足、あしきる（刑罰にて）。
けつそく〔する〕〔他〕　闕損、かく、そこなふ。
けづね〔名〕　毛綱、けのなは。
けつねふ〔名〕　結綱、ゆひれ、ゆひなふ。
けつらい〔する〕　挈來、たづさへきたる、ひつさげくる。
げつらう〔名〕　月老、むすぶのかみ、えんむすびのかみ。
けつろん〔名〕　血暈、たちぐらみ、めまひ。
けつく〔名〕　結句、をはりのく、十（俗）副）いつそ、あげくのはて。
けつくわ〔名〕　結果、ぐきはえ、み、なりはて。
けつくわ〔名〕　結塊、かたまり（一つの團體をいふ）。
けつくわい〔名〕　血塊、ちのかたまり（胎內より出づる奇妙の物をも然か名く）。
けつくわい〔する〕〔自〕　決潰、くづれる、つぶれる堤等が）。
けつくわつ〔形〕　剪闊、へだたる、はなれる（親友などが遠く長く離れをるをいふ）。
けつくわつ〔形〕　桀黠、わるごすね、わるがしこき。
げつくわう〔名〕　月光、つきのひかり、つきあかり。

けつくわく 闕叢、省文(天子等の綱名の文字の一叢を省くこと。

けつくわん 結款、したしくなる、締款。

けつくわん (名) 血管、氣血の通ずる管を云ふ。

けつくわん 闕官、闕職、あきたるやくめ。

けつや 月夜、つきよ、つきあかりのよる。

けつやく 結約、とりきめのやくそく、契約。

けつまつ (名) 結末、結尾、をはり、けつきよく。

けつまづく (自) 躓、つまづく。

けつげ (名) 結夏(僧家にて云ふ四月十五日の安居のこと)。

けつげ (名) 結解、計算を云ふ。

げつけい (名) 月經、つきのさはり、めぐり、經の一。

げつけい (名) 月桂、つきのかつら(文學上の譬を得るを月の桂を折るといふ)、月桂樹。

げつけい (名) 月卿、三位以上の公卿を云ふ。

げつけいりんかく 月卿雲客、殿上人を云ふ。

げつけいじゆ (名) 月桂樹、勝利の徴に用ふ。つきのかつら、ローレル(植物)。

けつけつ (名) 子子、ぼうふりむし(動物)。

けつけつ (名) 缺月、かけたるつき、ゆみはりづき

げつけつ (名) 月血、ものもの、つきのもの、めぐり女の。

げつけん (名) 月劍、上代鋒、(三ケ月形の鋒を云ふ。

げつぷ (名) 月賦、つきわり(借金等を還す爲の、つきづきがへし。

げつぷ (俗)(名) 嗳氣、ものくび(腹中より喉に出る氣。

けつぷん 闕文、かきもとし、脫字。

けつぷんけん (名) 闕文編、かのこぎぬ。

けつこう (名) 結喉、のどだんご。

けつこう (名) 結構、かまへ、つくり、十(俗)形)み

ごと、うつくしき。

けつこく (する)(他) 訐告、あばきつぐる、つぶやちする。

けつごく 獄獄、つみをきばく、獄獄、治罪。

けつこせい (名) 決獄、つみをさだめる罰囚の。

の漢冠博士に當る。

けつこん (名) 聖愛正唐の司天臺の一官、我朝

けつこん (名) 血痕、ちのあと、のりあと。

けつこん (名) 結婚、えんぐみ、結綵、結親。

けつてい (名) 闕廷、禁闕、朝廷をいふ。

けつてい (する)(他)(自) 決定、さだめる、きまる。

けつてい (名) 缺闕、名馬の稱。

けつてい (名) 欠亭、やすみどころ、十ちやや。

けつてい (する)(他) 挈提、ひつさげる、たづさへる。

けつてつ (名) 噛鐵、けものの全(動物)。

けつてう (名) 鵁鳥、はとぎす(動物)。

けつてん (名) 缺點、疵瑕、きず、かけめ、ふそく、たらぬところ(不完全の箇處をいふ、蓋此語は西洋語に擬して作れる也、次を見よ)。

けつてん (名) 缺典、闕典、典禮の缺たるをいふ、十又かけめ、きず、前の語を參看せよ、殊舟曹が盤說和尚に與ふる尺牘に云く、俟重蹈覆轍庶補此缺典耳)。

けつあん 結案、しらべをはること(罪人罪狀等を。

けつさ (名) 譎詐、いつはり、うそ、詐僞。

けつさい (名)—する(自) 懷資、ものいみ、ものいみする。

けつさい (名) 血祭、ちまつり(軍門の首途にする祭。

けつさつ (する)(他) 結紮、ゆはへる、たばねる、十また醫語、動靜脈の出血を防ぐために結ること、リガチュル。

けつさう (名) 傑倉、松の異名(植物)。

けつさうちう (名) 結草蟲、みのむし(動物)。

けつさく 傑作、よきつくり、名作(詩文章にいふ)。

けつさん 決算、かんぢやうしあげ。

けつき (形) 血氣、はやごころ、少年の。

けつき (名) 結崎、こんがう氏。

けつき (名) 決議、とりきめ(會議して決すること)。

けつき (名) 譎鳴、いつはり。

けつきよ (名) 穴居、あなずまひ。

けつきよ (名) 血虛、血液の不足して循環運動せざるを云ふ。

けつきよく (名) 結局、をはり、つまり、はて。

けつきよじん 穴居人、あなずまひするたみ。

けつきつ (名) 月橘、十里香、くだものの(植物)。

けつきう (名) 月蝕、つき。

けつきうでん 月宮殿、月の中の宮殿。

けつきうくわ (名) 月季花、長春、かうしんばち、しきさきばち、うしさきばち(植物)。

けつきふ (名) 月給、つきてあて、ふちかた。

けつきん (名) 月琴、支那の樂器(本圓なる胴前山商琴月國岡案河の本又圖三郎所藏)。

けつぐめ (名) 蹴爪、距、あごを(雞雉等の足にある堅き爪指を云ふ。

けつめい (名) 決明、えびすぐさ、いたちぐさ、馬鐘決明(植物)。

けつめい (名) 厥明、あかつき。

けつみやく (名) 血脈、けちみやく、ちすぢ。

けつし (名) 訣詞、わかれのことば、別離之語。

けつし 決死、しなんときめる。

けつし (名) 血祀、血食、せんぞまつり(先祖祭)。

けつし (名) 傑士、すぐれびと、まされるひと。

けつし (名) 撰梓、はんはり、板木屋。

けつし (名) 闕字、崇敬の爲め文字の間を明けて書くを云ふ、空字、空格。

げつし (名) 月事、つきのもの、つきのさはり、月經、天癸。

げつし (形) 月次、つきなみ(毎月に起るをいふ、つきごと。

けつしよ (名) 闕所、收公、没收、官没、没入、籍没、抄劄、抄没(罪のために家藤住居資財等を取り上げるを云ふ)。

けつしよ (名) 血糊、あかがし、あはばかし(植物)。

けつじよ (する)(他) 闕如、かきてもく。

けつじよう (名) 結繩、なはをむすぶ(支那古代の風に云ふ)。

けつしよく (名) 血食、せんぞまつり(先祖の祭祀、血祀。

けつしよく (名) 血色、ちのいろ、いろつや。

げつしよく (名) 月蝕(月が地球に掩はれて光を失ふこと)。

けつしたい (名) 決死隊(死を覺悟して出る人人の一群)。

けつしう (する)(自) 結終、をはる、とぢまる。

けつしう (する)(他) 結收、まとめる、ちくちやくさせる。

げつしう (名) 月收(一ケ月の收入)。

げつじくわい (名) 月次會、つきなみあつまり(毎月一回もよほす集會をいふ)。

けつしや (名) 結社、くみあひ、なかま。

げつしや (名) 月謝、つきづきのれいがね。

けつしやう (名)—する(自) 結晶、むすびかたまる、結かしたるものが。

けつしやうたい 結晶體、かたまるかたち。

けつしふ (する) 結集、よせあつめる、まとめる(散逸せる文書などを)。

けつして (副) 決、きはめて、かならず。

けつしゆつ (する)(自) 傑出、ぬきんでる、すぐれていづる。

けつしゆつ (する)(他) 抉出、くじりだす、ほりだす。

げつじゆしゆ (名) 月受珠、みづとりたま、水晶。

けつしん (名) 缺脣、いぐち、みつくち。

けつしん (する) 決心、覺悟、こころをきめる。

けつしん (名) 結寢、結案、しらべずみ(裁判所の)。

けつしん (名) 結親、えんぐみ、こんいん。

けつしん (名) 月信、つきやく、めぐり、月經(婦人の常經)。

げつえうび (名) 月曜日(七曜日の一)。

けつえき (名) 缺液、わきあひ、關腋。

けつえき (名) 血液、ち(體中の)。

けつえん (副形) 掲焉、いちじるしく、いやちこ、あきらか。

けつび (名) 結尾、結末、をはり、とぢめ。

けつもく (名) 闕目、かけめ。

けつもん (名) 闕門、禁門(天子の宮殿の門)。

けつせい (形) 潔清、潔白、いさぎよき、きよき。

けつせい (名) 血稅(徴兵服役などの義務をいふ)。

けつせつのひと 結舌之人、ものいはず、唖者。

けつせき (名) 血石(礦物の名)。

けつせき (する) 闕席、不參を云ふ、まゐらぬ、いでぬ。

げつせき 名 月夕、大陸曆八月の異名。

けつせん (名)—する(自) 血戰、はげしきたたかひ、はげしくたたかふ。

けつせん (する) 決戰(死をきはめてたたかふを云ふ)。

けつせん (名) 血癬(病名)。

けつすう (名) 決水、ながし、十みづはき。

けつする (名) 月水、つきのさはり、めぐり(女の)。

けつする (自) 結、かたくなる(大便が、便秘。

けつする (他) 決、さだめる、きめる。

けつねん (名)—する(自) 懸念、こころがかり、ところにかける。

けつがじか (名) 長毛鼠、鼲、けのながきしか(動物)。

けつげ (形) 強健、勇健、健氣、有勇氣、つよき、いきましき。

けつしいも (名) 石蒜、まんじゆしやげ(植物)。

けつす (他) 輕視、ゐとしむ、ゐるくいふ、くさす。

げつん (名) 下男、しもをとこ、しもべ。

けら (名) 蠟蛄、天蛄、仙蛄、土梟、石鼠(動物)。

けら (名) 鴉鷄、よしはちすずめ(動物)。

けらい (名) 家來、家臣、家僕、家令、家類、家人、家

丁、いへのこ。

けらつつき（名）　鴛、啄木鳥、てらつつき、きつつき動物。

けらう（名）　下郎、下臈、下賤、いやしきもの。

けらく（名）　快樂、たのしみ、喜樂。

けらく（名、—する（自）　下落、したむき、さがる（慣）。

けらましま　計羅摩島（琉球中部諸島の一）。

けらけら（副）　咲咲、えちえち（聲）を出して笑ふ貌。

けらふ（名）　下臈、としのすえ、歳末、年尾。

けらふ（名）　夏鳳、法歳（佛家の語）にて夏の休日をいふ。

けむ（名）　家務、家事、家政、うちのしごと。

けむい（俗）（形）　爛、いぶる、けぶる、生煙、十けむたくもも。

けむり（名）　煙、烟、けぶり、焚き火、炭等より生ずる所のいぶる氣。

けむりかへし（名）　烟返、火鑪、鉄の火皿の上筒に附けたるうすき金具なり。

けむりだし（名）　烟窓、煙突、烟筒、烟樓、煙窓、吐煙管、けぶりだしまど、けぶりぬき。

けむたい（俗）（形）　煙度、けむい、いぶい。

けたむい（俗）（形）　欝、けむい、いぶる。

けむし（名）　蛞蝓、いらむし、毛蟲、蠶毛蟲、蛞蝓動物。

けむしろ（名）　毳氈、毛席、毳、氈、けむりじきもの。

けう（名）　孝親に能くつかふるを云ふ。

けう（形）　希有、あることまれ、まれにある、めづらしき。

けう（形）　皎、しろき月光に云ふ。

けう（名）　梟、はは、くひどり、ふくろう（動物）。

けういつ（名）（自）　驕逸、をごりたのしむ。

けういく（名）、—する（他）　教育、をしへそだつること、をしへそだつる、教養。

けうい（名）（自）　講經、をごりたはける。

けういん（名）（する）（自）　教院、教會、教務を設ふ寺院。

けうゐん（名）　教員、教師、學校等の。

けうろ（名）　礫崗、いしぢめん（不毛の地を云ふ）。

けうは（名）　教派、しうもん、をしへはわかれ（宗教の分派）。

けうはく（形）　皎白、まつしろ、しろき。

けうばく（名）　蕎麥、そば（植物）、また其實にて作れる食物。

けうばくえふばいも（名）　蕎麥葉貝母、そばゆり、がはゆり、うばゆり（植物）。

けうはふ（名）　教法、をしへ（宗教を云ふ）、教門。

けうはふし（名）　教法師、みちををしふるひと、教師、十また法律學者。

けうぼく（名）　香木、たかきき、高榎、大木、灌木に反す。

けうぼく（名）　梟木、くびかけ、さらしぎ、獄門臺（罪人の首級を切りて掛くる木架）。

けうぼもん（名）　雞母門（皇太后宮、ゐはきさき）。

けうへい　講兵、をごるつはもの、かちはこれるつはもの。

けうへい　橋梁、わるきしくせをなはす。

けうさき（形）　氣疎、うとましき、うとうとしき、十ものさみしき、ひとのかよはぬ山野などに云ふ、十又もろかなる、ばかちしき、愚是は氣疎き事をもはせ候もの故など用ふ。

けうち（する）（他）　覺知、さとる、しりわける。

けうち（名）　鷸雉、をながきじ（動物）。

けうち或**かうち**（名）　礫地、いしず、礫磧地、沙石多くして作物に適せざる地。

けうちよ　婦女、うつくしきをんな、美女、美人。

けうちよく　婦勢、みことのりをいつはる勅に非ちざるを勅と稱する也。

けうちやう（名）　教場、をしへどころ、をしへば（學校の）。

けうり（名）　教理、をしへのすぢみち（宗教の道理）。

けうり（形）　淺薄、すえ、淺季、なりくだれる世に云ふ。

けうりやう（名）　橋梁、はし、川に架する橋。

けうりやう（する）（他）　校量、はかりくらべる。

けうりせん（名）　膠匙風、往古髪を結ぶに用ひしもの。

けうを（名）　毛鳥、琉球に產する動物。

けうか（名）　橋架、はしぐひ、十はしげた。

けうか（名）　驕慢、あさがすみ、あさぼらけ。

けうかい（する）（他）　教誡、をしへいましめる。

けうがう（名）　講俊、たかぶり、おごり。

けうがう（する）（自）　講俊、おごる、たかぶる、いばる。

けうがう（する）（自）　叫號、さけび、こゑあげる。

けうかう（名）　佛像、ほとけ、いはひ、もつけのさいはひ、ごうぜんのさいはひ、まぐれあたり。

けうかく或**かうかく**（形）　磽确、いしずなる、みのりあしき土地にいふ。

けうがふ（名）、—する（他）　校合、よみあはせ、よみあはする、印刷物を。

けうがふずり（名）　校合刷、校合する爲に印刷したるもの。

けうよく（する）（他）　驕欲、はしがる、このむ。

けうたい　婚體、みやびすがた、やさすがた。

けうたい（形）　驕慢、おごる、たかぶる。

けうだう（名）　婚道、たをやか、やさしき、うるはしき。

けうだう（名）　教堂、をしへどころ。

けうだう（する）（他）　教導、をしへみちびく。

けうだうだん（名）　教導團（下士官を教導する兵學校の名）。

けうだうしよく　教導職、をしへみちびくやくめ、教法家（神官僧侶の輩を然か名く）。

けうれい（名）　教令、訓令、をしへ、さとし。

けうれん（する）（他）　教練、をしへねる（兵を）。

けうらに（副）　潰、きよく、いきぎよく、うるはしく。

けうくわ（する）（自）　驅蹄、おごりたかぶる。

けうくわ（名）　教化、をしへみちびき（教師の感化）。

けうくわ（名）　蕎花、がんぴ（植物）。

けうくわい（名）　教會、をしへのよりあひ（宗教家の會合、また其會する堂）。

けうくわい（名）　教誨、をしへ、訓誨、をしふること。

けうくわう（名）　曉光、あかつきのひかり、あけぼの、曙光。

けうくわん（する）（自）　叫喚、わめく、さけぶ。

けうくわんぢごく　叫喚地獄、さけびぢごく（佛教の地獄の一）。

けうぐう（名）　僑寓、かりずまひ、やどり、寄留。

けうくん（名、—する（他）　教訓、をしへ、教誨、教戒、さとし、いひきかせ。

けうやう（名）　孝養、親に忠實に事ふるを云ふ。

けうやう（名）　驕陽、はなはだしきあつさ（夏日の炎暑をいふ）。

けうやう（する）（他）　教養、をしへしたてる生徒を、しつける。

けうまつ（名）　澆末、よのすえ、末世、季世、おとろへたるよのなか。

けうまん（名）　驕慢、おごりたかぶること。

けうけ（名）　接毛板（けをうくるいた）、髮を刷るに用ふる具。

けうげ（名）　教化（けうくわ）に同じ。

けうげべつでん　教外別傳（禪家にいふ所にて經文を離れて眞理を會得せしむるをいふ）。

けうけつ（形）　皎潔、いさぎよき、わだかまりなき。

けうけう（形副）　皎皎、きよき、しろき、しろくかがやく。

けうけう（名副）　喨喨、喝喝（鶴等がはえなく聲）。

けうけう（形副）　翹翹、木等のたかき殺また殺殺として高き貌。

けうけう（形）　嶢嶢、其だ高き處、いとたかき。

けうけん（形）　驍健、つよき、すこやか。

けうふ（名）　輜夫、ろくしゃく、かごかき、のりものかき、舁夫。

けうふ（名）　驍武、たけくつよき武士の如く。

けうふう　矯風、風俗を矯正する也。

けうふくわい　矯風會同上を目的とする會。

けうぶしやう（名）　教部省、昔し神佛の二教を管理せし官廳。

けうと（名）　驍勇、たけくつよき武士の如く。

けうとく（する）（自）　叫號、さけびなげく。

けうどく（名）　梟獄、さらしくび、梟首、獄門。

けうでう（名）　教條、はつとがき、をしへおき。

けうてん（名）　曉天、あかつきのそら、曉月、よあけ。

けうあ　曉鴉、あけがらす、よあけをつげわたるからす。

けうさ（名、—する（他）　教唆、そそのかし、すすめいざなふ、おだてる、煽動。

けうさい（名）　驕妻、おごれるつま、わがままなるつま、夫に順はぬ妻をいふ。

けうさ（する）（自）　僑寄、かりやどする、寄留。

けうさ（名）　教義、をしへのすぢ（宗教の義理、教理。

けうさ（名形）　嬌僞、いつはり、うそ。

けうさ（名形）　淺季、淺末、末世、季世、すえのよ、よのすえ、なりさがれる、くだれる世に云ふ、あしくなれる。

けうさよ（名）　僑居、たびずまひ、かりやどり、かりずまひ、寄留。

けうさよ（名）　驕魚、にごひ（動物）。

けうゆ（名、—する（他）　教諭、をしへさとすこと、十又をしへさとすひと（學校の）、十をしへさとす。

けうゆう（名）　梟雄、わるゞよきいくさびと。

けうめい　矯命、みことのりをいつはる婦詔を見よ。

けうめい（名）　曉鳴、雞鳴三時の一にして即ちしばどりに當る、鼓きて見るべし。

けうし（名）　教師、をしへびと、をしへるひと（學校の）、十また傳道者。

けうし（名形）　譏誣、はしいまま、わがまま。
けうし（形）　譏卑、わがまま、はしいまま。
けうし（名）　教訓、をしへのむね、教義。
けうし（名）　驕侈、おごり、ぜいたく。
けうじ（名）　驕兒、だだつこ、わがままこども。
けうじ（名）　香鼎、かうすくひ、かうさじ。
けうじより（名）　曉鐘、あけのかね、よあけにうつかれ、あけむつ。
けうしや（名）　驕奢、おごり、ぜいたく。
けうしや（名）　轎車、こぐるま。
けうしや（名）　鴆炙、ふくろのやきもの（八珍の一）。
けうしやう（名）　教章、をしへぶみ、ふみ。
けうしゆ（名）　驍首、さちしくび、ごくもんくび。
けうしゆ（名）　教主、をしへのぬし宗教の元祖。
けうじゆ（名、—する）（他）　教授、をしへさづくること、十又をしへて、十をしふる。
げうえう（名）　細首、くびをもたげる。
けうえん（形）　繕艶、あてやか、うるはしき、うつくしき。
けうゑん（形）　嬌嬈、うつくしき、やさしき女の如く。
けうせい（名）　教正（僧官の稱）。
けうせい（すろ）（他）　矯正、ただす、なほす惡弊などを。
けうせう　矯詔、みことのりをいつはる天子の命を僞る。
けのにどもの　毛柔物、毛和物柔き毛の動物。
けのむら　毛野村（下野國足利郡の村名）。
けのころも（名）　袈衣、私服、ふだんぎ（常に着る衣服）。
けのあらもの（名）　毛荒物毛の顯き動物。
げのあき（名）　解夏、かいげ（天下の僧尼舊四月十五日に安居を給め七月十五日に至りて之を解くを然か云ふ）。
げくわ（名）　外科（外部疾病金瘡等を療すること、次を見よ）。
げくわい（名）　外科醫（身體の外部を療治する醫者）。
げくわん　解官、解職、解任、やくめをとくこと。
げぐわん　下弦月の末の十日。
げぐつ（名）　毛皮、靴、長蹄皮（毛の付きたる皮）。
げぐう（名）　外宮（伊勢太神宮の傍の豐受宮を云ふ）。
けぐさき（形）　毛臭、けのもゆるにはひする。
げや（名）　下屋、つくりたしや（母屋の外に作りそへたる建物）。
けやけき（形）　明瞭、明晰、はつきり、あきらか。
けやき（名）　毛焼、けをやくこと（鳥獸の）。
けやき（名）　槻、つき、樗、鬼槻、樗槻堅き木の名（植物）。
けまり（名）　蹴鞠（蹴て遊ぶ鞠、また其の遊戯）。
けまないまち　毛馬内町（陸中國角鹿郡の町名）。
けまり（名）　希望、のぞみ。
けまん（名）　華鬘、はなかづら（佛像の上に冠らする冠物）。
けまんさう（名）　華鬘草、かさぐさ、ふぢぼたん、荷包牡丹（植物）。
けげ（名）　茅下（上草履の類）。
けけれ（名）　心、ところ（甲斐などの方言）。
げけつ（名）　下血、ちくだり。
げけね（名）　碎米薺、れんげばな（植物）。
けけし（名）　鸕鷀、よしむしり、創葉、反舌草、百舌鳥（動物）（よしむしりを見よ）。
けけしき（形）　奇妙、くすしき、あやしき。
けげん（名）　戲言、たはむれごと。
けげん（すろ）（他自）　化現、つくりあらはす（不思議の相等を）。
げげん（名）　下弦、しものゆみはり（滿月より下の十五日をいふ）。
けふ（名副）　今日、いまのひ、このひ、本日。
けふ（名）　鋏、鞘、つか（刀の）。
げふ（名）　業、わざ、しわざ、十なりはひ、すぎはひ。
げふ（名）　解剖、ときべ。
げふ（名）　下部（下體の腰より下即ち大小便所迄をいふ）下體。
けふい（名）　來衣、裟裟、あはせ。
けふい（俗形）　慳、けむい、けぶりにむせぶ。
けふいん（名）　叶音（漢字の聲のかよひて韻を同じくするもの）。
けふはく（すろ）（他）　骨迫、おびやかしせまる、おどす。
けふにん（名）　俠任、をとこだて。
けふべい（名）　茨廷、がまずみ（植物）。
けふざり（名）　茨豆、さやまめ（茨にある豆）。
けふどり（すろ）（自）　協同、ちからをあはせる。
けふちくたり（名）　茨竹桃（植物）。
けふり（名）　氣狐、そぶり、みま。

けぶり（名）　烟、煙（けむりをみよ）。
けふりよく　協力、ちからをあはす、戮力、合力。
けぶりだし（名）　竈突、煙突、けむりぬきどころ。
けぶりだしのあな（名）　煙筒孔（竈の頭の前の方に在る二箇の小孔をも然か呼ぶ）。
けふりつらう（名）　協律郎（唐の官名、樂うたのかみに當る）。
けぶりくらべ（名）　氣競（男女互に情合をくらべあふこと）。
けぶりぐさ（名）　烟草、たばこ。
けぶりしま　烟島（紀州の海の小島）。
げふかう（名）　茨萬、くろくさ（植物）。
けふかく（名）　俠客、をとこだて、俠者、うでだて。
けふがふ（すろ）（自）　協合、あふ、いつちする。
けふだ（形）　怯懦、よわよわしき、ものびやう。
けふだつ（すろ）（他）　劫奪（ごふだつ、おどしうばふ、うばひとる）。
けふそく（名）　脇息、よりかかりだい、おしまづき、凡竹夫人。
けふなり（名）　挾斷、どうちん。
けふのほそぬの（名）　希姑絺布（東夷の土産）。
けふくわ（すろ）（自）　協和、やはらぎあふ。
けふまり（名）　挾鞠、さて、すくひあみ（漁具）。
けふげき（名）　挾擊、はさみうち（敵を攻むる法）。
けふけんざり（名）　挾劍豆、なたまめ（植物）。
けふふく（すろ）（自）　骨逼、おどしせまる。
けふこつ（名）　頰骨、つちぼね、ははぼね。
げふてい（名）　叢體、骨鎖をいふ、なりはひ、しやうばい。
けふさく（形）　狹窄、せまき、すぼき、ひろかちぬ。
けふき（名）　俠氣、をとこだてごころ、をとこぎ。
けふぎ（名）　—する（自）　協議、いひはかること、さうだん、かたちふ。
けふゆう（名）　俠勇、をとこぎ、たけきこころ。
けふめいかつ（名）　俠名葛、さなかつち、さねかつち（植物）。
けふし（名）　脇士（本尊の左右に立つ佛像を云ふ）挾持、わいだち、わきだち。
けふし（名）　俠士、をとこぎのさむらひ。
けふしよう（名）　茨鐘（太陰曆二月の異名）。
けふしや（名）　頰車、つちがまち、あごぼね。—又（耳の下曲頰の端前に近き陷中に在る穴）。
けふしや（名）　俠者、いさみ、をとこだて、俠客。
けふしや（名）　狹斜、くるわ、いろざと、いろぞよ、まち。
けふしや（名）　怯者、ものびやうもの、こはがりて。
けふしやかう（名）　茨沙糅、蓋子の名。
けふじやく（形）　怯弱、よわき、かよわき。
けふしゆ（すろ）（他）　劫取（ごふしゆ）、かすめとる、そばひとる。
けふじゆう（すろ）（他）　骨從、おどしふせる。
けふひ（名）　茨皮、さや（豆等の）。
けふせう（名）　峽樹、あさくらさんせう（植物）。
けふせう（形）　狹小、せばき、せまき。
けふん（名）　花豆、はなまめ（植物）。
けと（名）　毛子、稚蠶、わかきかひこ。
けと（名）　家子、いへのこ。
けど（名）　麁子、くひもの。
けど（俗名形）　下尸、きけざらひ、さけのまぬ、浅食、小戶。
けどろも（名）　褻衣、つねぎ、ふだんぎ。
けどろも（名）　裘、毛衣、毛皮の衣。
けどろもを　裘衣（はるの枕詞）。
けとむ（他）　蹴込、けりていれる。
けとみ或**けとみ**（名）　蹴込（芝居にて舞臺の樣の下の處を云ふ其處へ切られたる人などを蹴こむが故に云ふ、また人力車の前の部分にて足を踏みとむる處）。
げとん　下根（精神力の薄弱なるを云ふ、こんきのわるい。
けどんのたき　華嚴瀧（下野國河内郡日光山に在る有名の瀧布）。
けどんしう　華嚴宗（佛法八宗の一、聖武天皇天平八年唐の道璿華嚴の疏義を寶し來りて之を開く）。
けてう　怪鳥、あやしきとり、ばけとり、化鳥（動物）。
げてん（名）　外典（佛道にて儒書を云ふ詞なり又俗典とも稱す）。
げでん　下田、あしきた、薄田、瘠田。
けあはする（他）　蹴合、たたかはする（雞等を）。
けあがる（自）　氣上、のぼせる、とりのぼせる。
けあな（名）　毛穴、毛孔（身體の毛の孔）。
けあまり（名）　毛餘（白毛、敷皮の下部末端を云ふ）。
けあがる（他）　蹴上、けりてのぼす（上の方へ）。
けあひ（名）　闘雞、とりあはせ（雞の相闘ふこと）。
けあん（名）　下案、したがき。
けさ（名）　袈裟、無垢衣、功德衣、運花衣、忍辱鎧、出世服、離塵服（僧が肩より脇にまとふもの）。
けさ（名副）　今朝、このあさ、けふのあした。
げざ（すろ）　下坐、したにをる貴人等の前にて席

を離れて坐するを云ふ。

げさい（名）採工、かれはり、磧夫。

げざい（名）下劑、くだしぐすり。

けさばき（名）機毛者布團に入るる馬の毛等をとかす人。

けさら（名）假粧、ものくり容貌を作り飾るを云ふ。

けさら〔する〕〔自〕戀想、おもひをかける、はれる。

げさら（名）外相、うはべ、そとのみえ。

けさらぶみ（名）戀想書、いろぶみ、くどきぶみ、ちわぶみ、艷書。

けさらことば（名）艷言、やさしきことば。

けさらびと（名）戀想人、心をよせたる人。

げさく（名）外嘱、はばかたのみうち。

げさく（名）戯作、たはむれに拵へること。

げさくにん（名）下作人、こさくにん、たをかり、てつくるひと、佃戸。

けざやか（形）氣爽、きのさわやかなる、すがすがしき。

けさん（名）下敷、草褥、くさずり〔鎧の〕。

けさん或けいさん（名）卦算、かざをさへ、文鶴、かみかぞさへ、歴尺、書尺。

げさん（名）下山、やまをくだる修驗者等が。

げさ（名）鷸、水鳥にて多く船首に置く、鷸〔動物〕。

げさ（形）劇、はげしき、きつひ、ひどい、烈。

げさ（名）劇、しばゐ、演劇。

げさ（形）激、はげしき。

げさ（名）外記、古昔の官名にて大少あり唐の外史、門下録事に當る。

げぎ（名）藝衣、常衣、ふだんぎ、つねぎ。

〔げきろ〕（名）逆櫓、さかろ、船を逆にこぐために設くる櫓。

げきろん（名）激論、はげしきいひあらそひ。

けきば（名）毛際、はぎは髪の毛の。

げきば〔する〕〔他〕擊破、うちやぶる。

げきば〔する〕〔自〕激發、おこりたつ。

げきへん　劇變、はげしきかはり、急變。

げきど或きやくさ（名）逆徒、むほんにん。

げきど或きやくさ〔する〕〔他〕逆誅、まへもつてみぬく、前知。

げきど〔する〕激怒、はげしくいかる。

げきど〔する〕〔自〕激動、おこりたつ〔人氣等が、十はげしくうごく。

げきち（名）隙地、あきぢめん、あきち。

げきぢやう（名）劇場、しばゐ、しばゐや。

げきりよ（名）逆旅、やどや、かりのやどり、たびやどり。

げきりう　激流、はやせ、はやきながれ。

げきりん（名）逆鱗帝王の怒怒を云ふ。

げきわう（形）逆横、はしいまま、したがはぬ、むきもとる。

げきかう〔する〕〔自〕激昂、いかりたつ、さかちはれてはちたつ。

げきかん（形）間隙、しゐか、こゑなき、おとなき。

げきかん　劇寒、はげしきむさ。

げきよ　戀魚拷鳳の構造に云ふ、けんぎよ。

げきよ（名）下仰、天子が與輦駕馬等より下らるるを云ふ。

げきよせ（形）氣清、こころさよき。

げきたく（名）擊柝、ひやうしぎうち、夜番人。

げきたん（名）激湍、はやせ、はやながれ、急流。

げきたん　劇談、はげしきかけあひ。

げきれい〔する〕〔他〕激勵、いさめはげます。

げきれつ（形）激烈、はげしき、あらあらしき。

げきらう（名）逆浪、さかなみ、さかまくなみ。

げきらう（名）激浪、あらなみ。

けきらひ（名）毛嫌、牝犬等が交尾時に或る牡犬を嫌ふことをいふ。

げきむ　劇務、はげしきつとめ、いそがはしきやく。

げきく（名）隙駒、ひまのこま、ひまゆくこま、はしりすぐるこま、光陰のはやく過ぎにたとふ。

げきやく（名）劇藥、はげしきくすり、猛藥。

げきけい（名）辰砂、はなを。

げきけつじやく（名）鳴鏑、いすか〔動物〕。

げきけん（名）擊劍、つるぎうち、しあひ、劍術。

げきぶん（名）檄文、ふれぶみ、ふれまはしがき。

げきとく〔する〕〔他〕撃碎、うちくだく。

げきさい〔する〕〔他〕撃殺、うちころす。

げきさつ〔する〕撃殺、はげしくあらそふ。

げきさう〔する〕辰砂、はきもの、十くつ、十あしだ。

げきし（名）隙駒、ひまのこま、隙駒を見上。

げきし（名）劇樂、いそがしきつとめ、はげしきつとめ。

げきしつ　劇疾、はげしきやまひ。

げきしつ（名）戟嫉、支那の天子のたてものの名。

げきしやう　擊壤、つちをうつ〔歌ふ時に、鼓腹〕藥平の象にいふ。

げきしゆ（名）讎首舟の名。

げきしやうし（名）劇詐者、演劇の巧拙などを批評する人。

げぎつ（名）越舌、わかちぬことば、さへづりことば、學人の語をいふ。

げきせき（形）閑寂、さびしき、ものおとせぬ、ものしづか。

げきせん　劇戰、はげしきたたかひ。

げきせん〔副形〕闃然、ひつそり、ものおとなき。

げめんによぼさつないしんにようしや　外面如菩薩內心如夜叉（婦女が陽に溫柔を飾り陰に邪毒を懷くをいふ）。

けみ（名）檢見、田畑作物の熟不熟を見分するを云ふ、毛見。

けみやう（名）假名、かりな、いつはりのな。

けみする（他）閲、しらべみる、檢査、點檢、十また閲讀、よみあぢはふ。

けし（名）罌粟、米囊、米罌、粟、米囊、柳米花、黑白の二種あり阿片は此白罌より製造す〔植物〕。

けし（名）下司、したやくにん、したやく。

けし（名）牙子、ちうげ〔植物〕。

けし（名）夏至廿四節の一候。

けしばうず〔俗〕〔名〕芥子坊主、頭の眞中に髮を殘して餘は皆剃りたるをいふ。

けしにん（名）解死人、人を殺たる者として其罪を受る人、償命者、十また下手人、ひとごろし。

けしにんなやう（名）芥子人形、小さき人形を云ふ。

けしかる（形）駕怪、可怪、あやしき、ふしぎなる、奇怪、怪異。

けしからぬ（形）可怪、わけのわからぬ、あやしき（上を見よ）。

けしかける（他）嗾、はげましかからする、犬を、十また教唆、唆嗾、囑動、使嗾、挑發、おだてる。

けしよう（名）下乘、下馬、うまおりる、馬より下ること。

けしように（副）顯證、あちはに、あきちかに〔古語〕。

けしつぼ（名）浮紅、ひけしがめ、すみけすつぼ。

けしなる（自）就寢、ねる、とこにいる〔ぎよしなる〕の轉訛。

けじらみ（名）毛風、陰蟲、蝨風〔陰毛に生ずる蟲〕〔動物〕。

けしのはな　芥子花、米囊花、柳米花。

けしのから　罌粟殼、けしのはなのから。

けしのやに或けしのあぶら（名）阿美寧、けしよりとれるあぶら、阿片、あへん〔植物〕。

けしく（名）—する〔自〕下宿、やどとり、やどりする、貫に遣方より來れる書生等が。

けしやう（名）—する〔他〕化粧、みづくろひ、粉粧、けはひ、ものくり〔娼女の〕。

けしやう（名）化生、くわせいて、かはりうまるること。

けしやう（名）牙璋、支那にて軍中に用ふる璽の名。

けしやう（名）解決、目安書を云ふ。

けしやういくさ（名）假粧軍、體裁のみものしく飾って其實確かなる勝負を決せぬ戰爭。

けしやうぼこ（名）化粧箱、粧箱、ものくりばこ（女の）。

けしやうがは（名）鑑革、ぬひとりかは、可の具。

けしやうかがみ（名）化粧鏡、けはひかがみ、ものくりかがみ。

けしやうだい（名）化粧臺、けはひだい、ものくりだい。

けしやうだち（名）化粧立、力士が假に立ち試むるをいふ。

けしやうだうぐ　化粧道具、粧奩、けはひどな。

けしやうれう（名）化粧料、粧銀、脂粉費、したくきん、婦人に與ふる、けはひれう。

けしやうのいた（名）狹隙板、鏡の附屬具。

けしやうのま（名）化粧間、鏡の間、けはひべや、ものくりべや。

けしやうのもの（名）化生者、ばけもの。

けしやうぶみ（名）艷書、けさうぶみ、ちわぶみ、いろぶみ。

けしやうとさば（名）艷言、なまめきたることば。

けしやうしやほん（名）化粧石鹸、ものくりしやぼん。

けしやうばら〔俗〕〔名〕下借腹、貴人が賤妾に生ませたる子に云ふ、妾腹、腰出。

けしやき（名）芥子燒、ごまだき、僧侶が物の化を祓ふ時、けしを雜へてたく故に「ごまをたく」を轉かして呼ぶ。

けしまく（名）消幕、黑き小さき幕の類にして舞臺にて死人などに打ちかけて取のくるもの。

けしげし（名）馬疫、馬陸、馬疇、馬蹠、革蛙蟲、刀環蟲、かぢはちむし、千足、蜈蚣、やすで〔動物〕。

げじげじ（名）石龍芮（尾州の方言）、たがらし（植物）。

けじけじのまないた（名）白頭翁、うないこ（植物）。

けしあざみ（名）苦菜、白耳、のげし（植物）。

けしき（名）景色、風光、景勝、風色、風景、みえ、ありさま（土地山川草木等の）。

けしき（名）氣色、こころもち。

けしきばかりわらふ　氣色計笑（少女などが微笑するに云ふ）。

けしきばむ　呈氣色、けしきづく、十いろづきをむる花、少女などが、十はちむ。

けしきづく　氣色付、いろづく、にぎやかになる。

けしきのもり　氣色森（大隅の地名）。

げしゆ　下種、たねをくだす、たねをまく、播種。

げしゆにん（名）下手人（殺人などに自ら手を下したる人）、げにん。

げしゆく（名）下宿（「げしく」をみよ）。

けじゆす（名）毛繻子（織布の名にて繻子の下等なるもの）。

げじゆん　下旬、しものとをか（月の二十一日より三十日までをいふ）。

けしみかん（名）實柑（之一種植物）。

げしせん（名）夏至線（夏の候に太陽の通る道）。

けしずみ（名）焐炭、鼓炭（けしたるおき）。

けしん（名）化身（うまれいで（神佛が此世に假に生るること）、後身）。

けひ　氣比（氏）。

けびゐし（名）檢非違使（けんびゐし（古代の官職にて世人の非行を檢察するもの）。

げびる（俗）（自）下卑（いやしくある）。

げびた（俗）（形）下卑（いやしげなる）。

けびらひ（名）氣色、模樣（ありさま、け（氣）。

けびのうみ　飼飯海（越中國の海にて和歌に名高し）。

けびやう（名）假病（つくりやまひ、いつはりやまひ、作病）。

げびざう（俗）（名）下卑藏（いやしげなるもの、げひんのひと）。

けびき（形）界行（けいびき、けいひける、すぢひける紙に云ふ）。

けびきがみ（名）界行紙（けいし、すぢひきがみ）。

けびきふで（名）界筆（すぢひくふで、けいをひくふで）。

けびん　下品（いやしき）。

けも（名）竭歷（かつま）。

けも（名）毬胡蘆（つぶて（植物））。

けもの（名）獸（四足の毛物にして野に在るもの、十種、けだもの（家に飼ふもの）。

けものいしや（名）獸醫（獸畜の病を治する人）。

けものだな（名）肉棚、肉店、獸店（にくや、ももんじや）。

けものどや（名）獸欄、獸柵（けものをり）。

けもの（名）毛桃（けあるもも（植物））。

けせる（他）著、きせる、きしむる（衣服などを）、かぶせる。

げせつ（代名詞）下賤、やつがれ、わたくし（自己を卑下する詞）。

げせん（形）下賤（いやしき、ひくき）。

けせん（名）氣仙沼（陸前國本吉郡の沼、（けせんぬま）とも云ふ、また其地を氣仙郡と云ふ）。

けせんかど（名）氣仙雄（陸前國氣仙郡より出づる雄）。

けせんどほり　氣仙郡（陸前國の郡の名）。

けす（他）消、きえしむる、十塗抹、白消、塗抹、ぬりけす。

げす（名）下司（下種、いやしきもの、しもべ、卑賤者をいふ）。

げする（名）下水（逕渠、暗渠、陰渠、街渠、溝渠、うめみぞ、十又どぶみぞ、どぶれみぞ）。

げすばる（俗）（自）下司張（いやしきおとなひする）。

けすぢぼう（名）毛筋棒（けすぢたてぐし）。

けすぢたてぐし（名）毛筋立櫛（長き柄の櫛で、けすぢぼう）。

げする（他）解、さとる、しりわくる、かいする。

けん（名）奚（がた、しようもん）。

けん（名）驗（しるし、きめ、功驗）。

けん（名）旺（の、き家を數ふるに用ふ）。

けん（名）乾（八卦の第一にて天を云ひ又西北の方位をいふ、あめ、いぬゐ）。

けん（形名）妍（うつくしき、きれい（研を卑ふは美を親み也）。

けん（形名）件（くだり、十ことがら）。

けん（形名）賢（かしこき、かしこきひと）。

けん（形名）權（膽の鑑（物））。

けん（形名）權（かりの、一時の、當座の、かりなること、かりのはかちひ、十又ちから、すぢ、權利、十又いきほひ）。

けん（名）愛（くわんづまき（書籍の一冊をいふ））。

けん（名）學（こぶし、にぎりこぶし）。

けん（名）拳（拳法、柔術）。

けん（名）劍（つるぎ（甲圖は山城國六角堂藏、乙圖は紀伊國高野山藏光の院藏大師新兩の時用ひしもの）。

甲　劍　總長二尺七寸七ト

乙　身長二尺寸七ト

けん（形）險（けはしき、けんそ）。

けん（名）間（六尺を一間といふ）。

けん（名）縣（あがた（我國の政治上の區劃））。

けん（形名）倹（つゞまやか、けんやく）。

けん（名）鯀（比翼鳥をいふ（動物））。

けん（名）埏（埏土を燒きて作れる笛にて六孔ありこれを吹く、つちぶえ）。

げん（形）嚴（おごそか、きびしき、りりしき）。

げん（形）減（へる（ちす））。

げん（形）現（いまの、十まのあたりの、十ありのまの）。

げん（名）原（はら、ひろの、ひろのこはら）。

げん（名）元（支那にて十二萬九千六百年を一元と云ふ）。

げん（名）元（支那朝廷の一宗に代りて起り明に滅ぼされる）。

げん（名）源（みなもと、水源）。

げん（名）弦（ゆみづる、つる）。

げん（名）鼦（おはがめ（動物））。

けんい（名）眉（衣、かたぎぬ）。

けんい　險（険、けはしきたひちか）。

けんゐ（名）權（賢（賢を強くする））。

けんいう（名）懸（挑、さがりふすべ、さがりこぶたたるこぶ、たれこぶ）。

〔けんいう〕（名）鎌（鎌、かまいたち）。

げんいう（名）原（由、もと、ゆゑよし、いはれ、十ものこり）。

げんいうるんでん　嚴有院殿（德川四代將軍家綱の謚號）。

げんいうく（する）（他）衒（ひけらかす）。

けんいん（名）檢（印、みとめじるし、しちべにしるし官府の）。

けんいん　健（飲、おはさけのみ、鯨飲）。

げんいん（名）弦（音、つるおと）。

げんいん（名）原（因、おこり、もと、十わけ）。

けんろ（形）嚴（嚴、あらは、あきらか）。

げんろ（名）言（路、ことばのみち（君王に言語を進むる道））。

けんろう（名）輪（難（輪をむす蒸籠）。

げんろく　元（祿（日本自二千三百四十八年至二千三百六十三年、西洋自千六百八十八年至千七百三年（年號））。

げんろん（名）言（論、ものいふこと、あげつらひ、言談）。

けんば（形）險（険、けはしくたかひける）。

けんば（名）虔（襪（やりてばば（女郎屋の））。

げんば（名）玄（蕃（外國に關する事務を取扱ひし官））。

けんばい　獻（盃、さかづきをたてまつる、さけをさす）。

けんばい（名）獻（梅（太陰曆四月の異名））。

げんばい（する）（他）街（賣（てらひうる、かざりうる））。

けんばいしやう（名）肩（背傷、にげすぢ、うしろきず（逃る時に負ひたる傷））。

げんばれう（名）玄（蕃寮（ほふしまうどのつかさ（諸蕃の事務に當る尼崎の事を掌りし官署、支那にて鴻臚寺と云ふ））。

けんばつ（名）閥（閥（文字の四方に施して四聲を判つ所の字讀點、點聲、半聲））。

げんばつ　嚴罰（きびしくしつみすること）。

けんはう　建（保（日本自一千八百七十三年至一千八百七十八年、西洋自一千二百十三年至一千二百十八年）年號）。

けんばち（名）健（忘、ものわすれ、わすればやきこと病の類）。

けんばうちやう　幾房町（東京市芝區の町）。

けんばうさう（名）元寶草（つきぬきおとぎり（植物））。

けんはく（名）卷（帛（いはひば、いはびけ（植物））。

けんばく（名）皤（白（政府に上つる建言）。

けんばく（名）綁（帛（きぬもの））。

げんばく（形）玄（蒼（ひろくあはいなる））。

けんばくろん　堅（白論（堅（辯の論をいふ））。

けんばふ（名）寵（法（ふきて、のり、十また根本法）。

けんばふ（名）權（利（義務を確定する法律））。

けんばふ（名）拳（法（やはら、柔術））。

げんばふ（名）創（法、創道、けんじゆつ、しあひのみち）。

げんばふ（名）減（法（或歌の中より若干數を減ずる算法）、ひきざん）。

けんばん（名）靈（霊、のり、きだめ）。

げんに（副）現（在、いま、目下、十まのあたり）。

げんにふ（する）（自）還（入、かへりいる（本の所

に、遥拝。

けんにん（形）　堅忍、こちへしのぶ、かたくこちへる。

けんにん　建仁（日本自一千八百六十一年至一千八百六十三年、西洋自一千二百一年至一千二百三年）年號。

けんにん〔する〕　兼任、かねる（二官を兼帶する）。

げんにん　元仁（日本一千八百八十四年、西洋一千二百二十四年、一年にて終る）年號。

げんにん　現任、現在官に在るを云ふ。

けんにんじ　建仁寺、山城國に在る有名の古寺。

けんにんじがき（名）　建仁寺垣（大竹を割りて其表を並べて造れる垣）、けんねんじ。

けんぼなし（名）　枳殼、白石梨、金鉤木、雞瓜子、雞距子、木鍋、太瑠瑚、雪風樹、植物。

けんぼう（名）　儉逸、驕逸、まつな、植物。

けんぼう（名）　權謀、かりのてだて、まにあはせのはからひ。

げんぼう（名）　元謀、とうどり、かしちぶん、ちやうぼん。

けんぼうじゅつさく　權謀術策、はかりごと、かりのてだて（いちじのまにやはせごと）。

げんぼん（名）　原本、もとのほん。

けんべい（名）　鍵閉（房宿の上に在る星の名）。

けんべい（名）　權柄、ゐせい、いきほひ。

けんべい〔する〕（他）　兼併、かねあはせる、十あはせとる。

けんべい（名）　鎧兵、市傳を巡邏する帶劍兵。

げんべいたう（名）　源平桃（紅白咲き分けの桃）、金銀桃、色花桃、二種桃、日月桃、植物。

けんべつ　軒別、いへごと、いつけんいつけん。

けんべつ〔する〕（他）　區別、みわける、わかつ、區別。

けんべう（名）　縣標（一縣の里程を算へ始むる本元地）、ありだしぐひ。

けんへう（名）　券票、きつて、てがた。

けんへう（名）　硯屏、賞翠屏、硯箱の具。

けんべき（名）　疵瑕、かたのはり、かたのとり。

けんべん（名）　權變、まにあはせ、かりのてだて、十ベテン。

けんべん（名）　軒冕、官位冠縫をいふ。

けんべん（名）　玄冕、支那の卿大夫の衣冠の名。

けんど（名）　憤怒、いかり、しかること。

けんど（名）　玄兎、月の異名、玉兎。

けんど（名）　豪頭、たいこもち。

けんど（名）　見頭、目當（つぼうのねちいを用くる具、より わり（けんたう）を見よ）。

けんど（名）　倒頭、けんがしち、かたなのかしち。

けんとう　堅凍、あつごほり、かたごほり。

けんとう〔する〕（自）　健鬪、たけくたたかふ。

けんとう（名）　玄冬（太陰曆十月の異名）、嚴冬（極寒の時候を云ふ）、きびしきさむさ（太陰曆十月の異名）。

げんとう（名）　幻燈、うつしゑあんどん。

げんとう（名）　紋燈（船に點じて他船に示す燈）。

げんとう（名）　減等、とうを（ちすゝ）（罪人の）減等。

けんどう　原動、はじめてうごくこと、起初運動力（發動力をいふ、主動力）。

けんざ　建造（日本自二千三十年至二千三十一年、西洋自一千三百七十年至一千三百七十一年）年號。

けんざく（名）　見得、假面、めん。

けんざく〔する〕（他）　鑑賞、せめただす、いましめる。

げんざく　元德（日本自一千九百八十九年至一千九百九十年、西洋自一千三百二十九年至一千三百三十年）年號。

けんざん（名）　慳貪、むさぼり、よくばり、十又（俗）形）ヒやけん、こはごはしき、なさけなき。

けんち（名）　縣治（縣の政治をいふ）。

けんち（名）　軒輊、まさりをとり、優劣。

けんち（名）　妍醜、美醜、好惡、よしあし、顏きたは心の。

けんち（名）　檢地、方量、丈量、さめんあちため、なはいれ。

けんち（名）　硯池、すずりのうみ（硯の中の深き處）。

けんち　建治（日本自一千九百三十五年至一千九百三十七年、西洋自一千二百七十五年至一千二百七十七年）年號。

げんち（副）　現地、あかちさまに。

けんちちやう（名）　檢地帳、みづちやう。

けんちかた（名）　方量官、けんちのやくにん、丈量官、けんちぶぎやう。

けんちよ（形）　廝者、いちじるしき、あきらか。

けんぢよ〔する〕（他）　鑑驗、のぞく、とりのぞく。

けんぢよ　賢女、かしこきをんな、賢婦。

げんちよ（名）　玄豬、みのこ（動物）。

げんぢよ〔する〕（他）　減除、ひきもとす、さしひく。

げんぢよ（名）　街女、みがきたてるをんな、きかざるをんな、しやれをんな。

けんちよく（形）　嗜慾、ふみまき、はん。

けんちつ（名）　絹紬（天蠶の絲を以て織れる絹）。

けんちう（名）　元中（日本自二千四十四年至二千五十二年、西洋自一千三百八十四年至一千三百九十二年）年號。

げんちう（名）　玄胄、いへがちのいへ、くちろよきいへ。

けんちく（名）〔する〕（他）　建築、造營、ふしん、しつちひ、たてきづくこと、たてきづく。

けんちくか（名）　建築家、とうりやう、いへたて、いへつくり。

けんちやう　建長（日本自一千九百九年至一千九百十五年、西洋自一千二百四十九年至一千二百五十五年）年號。

けんちやう（名）　縣廳、あがたやくしよ（縣の政治を施す官府）。

けんちやう（名）　儀仗、將軍より判授する官名）。

けんちやうじ　建長寺（相模國鎌倉に在る有名の古寺）。

げんぢやく〔する〕　還著、かへりつく。

げんぢやう〔する〕　還住、かへりすむ（本の處に）。

げんぢゆう（形）　殿賢、きびしき。

けんちん（名）　餐食（野菜物を種種まぜて油にて熟りて煮たるもの）。

けんり（名）　權利、ちから、すぢ、わけ。

げんり（名）　原理（根本の道理）、大法、大則。

けんりよ（名）　賢慮、きみのおもんぱかり（他人の思慮を云ふ）。

けんりよく（名）　權力、ちから、いきほひ。

けんりよくさ（名）　權力差、ちからをはかるうつは。

けんりつ（形）　縣立（縣にて立てたるをいふ）。

けんりつ〔する〕（他）　建立（こんりふ）、つくりたてる（寺宮等を）。

けんりう（名）　泪瘤、わづかのたまりみづ。

けんりう（形）　賢良（才德言行衆にまさるをいふ）。

げんりう〔する〕（他）　原諒、たづねあきらむふ（かしこき）。

げんりやう〔する〕（他）　原料、たづねあきらむる、十さつしやる。

けんりやく（名）　權略、はかりごと。

けんりやく　建暦（日本自一千八百七十一年至一千八百七十二年、西洋自一千二百十一年至一千二百十二年）年號。

けんりしや（名）　權利者、要求者、請求者、かしかた。

けんりん（形）　慳吝、ものをしむ、しわい、けち。

けんを〔する〕（他）　源義（廻の類にて其名を源義和尚より得たり）、攻石樓。

げんれう　元應（日本自一千九百七十九年至一千九百八十年、西洋自一千三百十九年至一千三百二十年）年號。

げんれうをしやう　源義和尚（祐前の人にて空外と號す、後深草帝の命を奉じて奈須野原に殺生石を碎度したりと云ふ）。

けんをんき（名）　驗遠器（遠鏡の度を試みる器）。

げんり（名）　原理（根本の道理）、大法、大則。

けんりよく（名）　權力、ちから、いきほひ。

けんりよくさ（名）　權力差、ちからをはかるうつは。

けんりつ（形）　縣立（縣にて立てたるをいふ）。

けんりつ〔する〕（他）　建立（こんりふ）、つくりたてる（寺宮等を）。

けんりう（名）　泪瘤、わづかのたまりみづ。

けんりう（形）　賢良（才德言行衆にまさるをいふ）。

げんりう〔する〕（他）　原諒、たづねあきらむふ（かしこき）。

げんりやう〔する〕（他）　原料、たづねあきらむる、十さつしやる。

けんりやく（名）　權略、はかりごと。

けんりやく　建暦（日本自一千八百七十一年至一千八百七十二年、西洋自一千二百一年至一千二百二年）年號。

けんりしや（名）　權利者、要求者、請求者、かしかた。

けんりん（形）　慳吝、ものをしむ、しわい、けち。

けんを〔する〕（他）　源義（廻の類にて其名を源義和尚より得たり）、攻石樓。

げんれう　元應（日本自一千九百七十九年至一千九百八十年、西洋自一千三百十九年至一千三百二十年）年號。

げんれうをしやう　源義和尚（祐前の人にて空外と號す、後深草帝の命を奉じて奈須野原に殺生石を碎度したりと云ふ）。

けんをんき（名）　驗遠器（遠鏡の度を試みる器）。

げんわ　元和（日本自二千二百七十五年至二千二百八十三年、西洋自一千六百十五年至一千六百二十三年）年號。

けんわく〔する〕（他）　眩惑、まよはす、めくらます。

けんか　縣下（縣内をいふ）。

けんか〔する〕（自）　膝下、へりくだる、みをさげる。

けんか（名）　蒹葭、よしのたぐひ、あしのたぐひ、（植物なり、蒹葭に對して蒼蒼を感ずる或は蒹葭蒼蒼と云ふは秋色の凄涼なるをいふ、また蒹葭玉樹に倚ると云ふは例へば蒹葭は婦女にして玉樹は男子になぞらへたるものにて夫婦が相愛し相助けて安心するをいふ、即ち弱き葭たる女が強き玉樹たる男に倚ると云ふ也）。

けんが　犬牙、いぬのきば（物の突出突入したるに譬ふ）。

げんか　元價、もとね、原價。

げんか　減價、ねをさげる、あたひをひく。

げんか　絃歌、ことひきうたふこと。

けんかい（形）　狷介、つゝしみふかき、うちばなる。

けんかい（名）　見解、みどころ、十げしかた、十さとりかた、ときかた。

けんかい（名）　懸崖、きりぎし、けはしきがけ。

けんかい　嚴戒、きびしきいましめ、きびしきようじん。

げんかい（名）　限界、かぎり、さかひ。

げんかいなだ　玄海灘（筑前肥前の北方にある有名の灘）。

げんかいじま　玄界島（筑前國唐泊崎の北方に在る小島）。

けんがたけむら　劍宮村（越前國坂井郡の村）。
けんかう（名形）　健康、すこやかなること、たつしや、ぢやうぶ。
けんかう（名）　乾綱、天子の政治を云ふ、帝業、王業。
けんかう　兼好　後宇多帝の時の人和歌を能くす世に吉田兼好と云ひ、和歌四天王の一人にて徒然草の作者。
けんかう（名）　權衡、はかり、量目を量る具、十又つりあひ。
けんがう（形）　軒昂、けだかき（人の擧止または意氣の高きをいふ、十又たかやかなる（高樓大廈の如きをいふ。
げんかう　言行、ことばおこなひ。
げんかう　元亨（日本自一千九百八十一年至一千九百八十三年、西洋自一千三百二十一年至一千三百二十三年）年號。
げんかう（名）　原稿、したがき。
げんかう（する）（自）　減耗、（へる、すくなくなる。
げんかう（名）　玄香　麝のこと。
げんかうはん　現行犯、まのあたりおかせること（罪を）。
けんがのべん　懸河之辯、みづのながるるごときはなしぶり（能辯をいふ）。
けんかく（する）（自）　懸隔、かけへだたる、とはくはなれる。
けんかく（する）（自）　研覈、みがきはむる、しらべきはむる。
けんかく（形）　堅確、かたき、たしか。
けんかく（名）　劍客、けんじゆつつかひ、擊劍家。
けんかく（形）　度恪、つつしむ、つつしみぶかき。
けんがく（形）　眷閑、ただしき、へつらはぬ。
けんがく　兼學、かねまなべる（二三の學等を）。
げんかく（形）　嚴格、きびしき、おごそか。
げんかく（名）　肩胛、かひがね、かたぼね。
けんかふ（名）（する）（他）　密合、ひきあはせる、とじつける。
けんがあひまじはる　犬牙相錯（土地の突入突出したるをいふ）。
けんがさう（名）　犬牙草、こまつなぎ（植物）。
けんかん（名）　閑樓、けものをり、けものかご。
けんかん（名）　險竿、かるわざ、さをのぼり（かるわざ）を見よ。
けんがん（名）　乾鬧、そしらぬかほ、とぼけがほ。
げんかん　嚴寒、きびしきさむさ。
げんかん（名）　阮咸（四絃十柱又は五絃十三柱の月琴の類）。
けんよ（名）　權輿、はじめ、はじまり。
けんよ（名）　肩輿、轎、かたごし、かご、あげごし（肩に載する輿）。
けんより（名）　懸壺、懸瓶、いしきばす、しりねぶと。
けんより（する）　兼用、かねもちふる。
けんようげん　兼用言（上下相方に係る語をいふ）（文法語）。
けんようする（名）　懸瓔珠、のどのひこ。
げんよく　玄獸（十干の壬の異名）。
げんだ（名）　蚖蛇、たひらむし（動物）。
けんたい（する）（自）　後退、（りくだる。
けんたい（する）（他）　倦怠、うみをこむる、あきる、くたびれる、倦退。
けんたい（する）（自）　聲荷、かけもちにする、かねもぶる。
けんたい（名）　見憂、書架、棚架、はんのせだい（書をたてかけて讀む具）。
けんたい（名）　雀憂（だんじやうだい）を見よ。
げんたいちやりとうしゆ（名）　玄大長公主（內親王の稱、ひめみこ）。
けんたか（俗）（形）　權高、おほふう、たかぶる。
けんたつ（する）（自）　顱逕、ぬきんでる、いちじるしくなる、ひいでる。
けんたつばわり　乾闥婆王（佛教にいふ鬼神の名）。
けんたり（名）　鱗鬚、あるいたう、菓子の名。
けんたり（俗）（名）　見當、めあて、めのつけどころ。
けんたり（名）　見當、前照星、桑、前星（鐵砲の上に狙を定むるために設けたる二の星の中の前なるものを云ふ也、手許なるをすりわり）と云ふ、照星、照門（けんとうを見よ）。
けんたり（名）　肩衡、そで、かたそで。
けんたり（名）　劍道、けんじゆつ、しあひわざ。
けんたり（名）　權道、かりのてだて、まにあはせはかちひ。
げんたり（形）　現當、いまのち、現世當來。
けんたらし　遣唐使（古昔唐朝へ派遣せし使節の稱）。
けんたらしき（名）　獻堂式（耶蘇教にて新築の會堂を神に獻ずるの式）。
けんたく（する）（他）　權度、はかる、つもる。
けんたま（名）　跑毬、小兒の玩物。
けんだとく（名）　健陀鉢　安息香樹の一名（植物）。

げんたゆふ　源大夫　尾州熱田の社家。
けんたん（名）　軒端、のきば、のきさき。
けんたん（名）　健啖、おはぐちひ、大食。
けんたん（名）　寃丹、おにゆり、かのこゆり（植物）。
けんだん（する）（他）　檢斷、しらべきだめる。
けんだん（名）　健男、ますらを、つよきをとこ。
けんだん（形）　喧嘩、あたたか、ぬくい。
けんれい（名）　縣令（地方長官の稱、今は知事となれり）。
けんれい（名）　寃令、おきて、のり。
けんれい（名）　黔黎、たみ、黔首、黎民、人民。
けんれい（名）　隙間、ちうや、ひとや。
げんれい　嚴令、きびしきふれ。
けんれいもん　建禮門、おをうまのぢん（禁裡の南門）。
けんれん（する）（自）　眷戀、密戀、こひしたふ、とひたがれる。
けんれん（名）　蓮蘆、よしヂ、よしすだれ。
けんそ（名）　謬訛、はほふくれねヂみ（動物）。
けんそ（形）　險阻、けはしき、嶮岨、さかしき（山道などに云ふ）。
げんぞ（名）　見證、證人、はしようにん。
げんそ（名）　元素（物質の根本なり、化學などに云ふ）（玄素）。
けんそう（名）　密窓、ひきまど。
けんそうてんわう　顯宗天皇（人皇第二十三代の帝紀元、千百四十五年（西洋紀元四百八十五年）より一千百四十七年迄、在位三年御壽三十八歲）。
けんそく　賢息、かしこきむすこ（人の子を貴びていふ詞）。
けんぞく（名）　眷屬、やかち、十又つきびと。
げんぞく（する）　還俗、ぼんぞにたちかへる（僧侶が髮をはやして俗人になるをいふ）。
けんそん（名）　謙遜、（りくだる。
げんそん（する）（他）　減損、（へらす、すくなくする。
げんそん（名）　玄孫、やしはご、やしやご（子孫といふ字の下を見よ）。
げんづ　原圖、もとのゑづ。
けんつく（俗）（名）　鬚突、借字なり、東京などにて人を叱咤するを鬚突をくはせると云ふ。
けんつきづつぱう（名）　鬚附鐵砲（鬚が筒先に附きたる小銃）。
けんねうき（名）　檢尿器、いばりはかり、せうべんだめし。
けんねん　懸念、こころにかける、きにかかる。
げんねん　元年（ぐわんねん、はじめのとし）。
けんなふ（する）（他）　獻納、大納言、だいなごん。
けんなふ（名）　劍難、つるぎのわざはひ（劍に死ぬる等の災をいふ）。
けんらう（名）　獄牢、をり。
けんらう（形）　堅牢、かたき、つよき、ぢやうぶ。
けんらうゐん（名）　元老院（國家の元老の集りて法律を議する處）。
けんらん（名）　建闌、するがちん、をちん（白蘭を云ふ）（植物）。
けんらん（する）　玄覽、ふかくみる、熟閱。
けんむ　兼務、かねつとめる。
けんむ　建武（日本自一千九百十四年至一千九百九十五年、西洋自一千三百十四年至一千三百三十五年）年號。
げんむ（名）　原憂、ゆめあはせ、國憂、ゆめはんじ。
けんうち（名）　弓手、さをとり、げんちかたのやくにん。
けんうつ　遣鬱、きをはらす、きさんじ。
けんうん（名）　歧曇、たちぐもり、ゆまひ。
けんのう（名）　賢能、かしこきひと。
げんのう（名）　玄翁、攻石槌、おはかなづち（げんおうを見よ）。
けんのみ（俗）（名）　劍呑、吐噶、しかること、せめ。
けんのしようと（名）　稲牛兒苗、圓牛兒（植物）。
けんぐ　賢愚、かしこきおろか、愚愚。
けんくわ（名）　喧嘩、喧譁、やかましき、かまびすき、がやがや、十又（俗）あらそひ、たたきあひ。
げんくわ　嚴科、きびしきしあき。
げんくわ（名）　光花、ふぢもどき、みづさりぐさ（植物）。
けんくわい　縣會（一縣內の財政の審問に應じ且つ費額を議定する會）。
けんくわい（形）　喧騒、かまびすしき、さわがしき。
げんくわい（名）　元會（太陰曆一月の異名）。
げんぐわい　言外、ことばのほか。
げんくわう（形）　炫煌、かがやく、ひかる。
げんくわう　玄黃、くろ及き天を玄といひ地を黃といふ。
げんくわう（形）　玄曠、ふかくひろき。
げんくわうき　驗光器、太陽の光等を見る器。
げんくわく（名）　驗煥、あざやか、きらびやか。
けんくわく（形）　縣官（一縣の事務を執る官人）。
けんくわん　縣官（一縣の事務を執る官人）。

けんくわん 衆官、かねやく(本官に非ざる官職)。
げんくわん(名) 玄関(家の正面の入口をいふ)。
けんくつ〔する〕(自) 窘屈、まきかがまる、十まがる。
けんくう 懸空、そらにかかる。
げんくん 厳君、もちゐや(人の父を尊稱して云ふ語)。
げんくん(名) 元勳、もつともいさはしあるひと。
げんや(名) 原野、はら、のはら。
けんやら〔する〕(他) 養養、かひやしなふ。
けんやう〔する〕(他) 搖揚、まきあげる。
げんやう(名) 元陽、太陰暦六月の異名。
けんやく(形) 倹約、つゞまやか。おごちぬ。
けんま 肩摩、かたをする、こみあふ、おしあふ、雜遝。
けんま〔する〕(他) 研磨、みがく、智力等を。
げんまい(名) 玄米、くろごめ、つかぬこめ。
けんまん(形) 倦慢、なまける、おこたる。
けんげ(名) 謙下、謙退(へりくだり)。
げんけ 源家、みなもとのい(平家などに對す)。
けんけい(名) 賢兄、あにうへ。
けんけい(名) 眷兄、あにうへ。
げんけい 厳刑、きびしきしおき。
げんけい 現形、ありのまま、十いまのありさま。
げんげばね(名) 砕米菜、くさのな植物。
けんげつ(名) 欠缺、かけ、たちぬところ。
げんげつ(名) 玄月、ながつき(舊九月の異名)。
げんげつ(名) 弦月、ゆみはりづき弓形の月。
けんげり(名) 検校(官人の官級の名)。
けんげふ 衆薬、かねわざ、かたてましど。
けんげき(名) 懸戟、たちほこ、いくさのうつは、はもの。
けんけん(副形) 析析、うつくしく、はなやか。
けんけん(副形) 泪泪、水涙等の流るる貌。
けんけん(形副) 嘐嘐、かまびすしき、やかましくがやがや。
けんけん(形副) 軒軒、高く跳り揚る貌、また十分満足したる貌。
けんけん 嗙嗙、けはしきみね(山の)。
けんけん〔する〕(他) 検見、あらためみる、しらべみる。
けんけん〔する〕(他) 検驗、ためす、ところみる、十しらべる。
けんけん(副形) 縒縒、相結びつながる貌。
けんけん(副形) 綣綣、親しく相結び合ひたる貌。
けんけん(形副) 倦倦、拳拳(懇到切實なるをいふ)。
けんげん(名) 權限(附與せられたる權利或は權威の限界をいふ)。
けんげん(名) 建言(政府に思告勸告などすること)、建議。
けんげん(名) 獻言(前と同義にて、前よりは多少の敬意あり)。
けんげん 乾元(日本一千九百六十二年、西洋一千三百一年に終る(年號)。
げんげん 陵陵、きびしきせめ、厳責。
げんげん 原憲(魯國の人にて孔子の弟子)。
げんげん(名) 元元、あはくのたみ、萬民、百姓。
げんげん(名) 言言(一つ毎のことば)。
けんぶ 賢婦、かしこきをんな、賢女。
けんげふ(名) 懸戟、たちほこ。
けんぶ(名) 綿夫、ひきふれするひと。
けんふ(名) 粉符、わりふ、てがた。
けんふ(名) 絹布、きぬ、きぬあり。
けんふ(名) 玄夫、かめ(動物)。
げんふ 厳父、ちちおや、家父(己の父をいふ)。
けんぶつ(名) 見物、遊觀、ものみ。
げんぶつ 現物、しやうぶつ、はんもの。
げんぶう 厳風、ふゆのかぜ(冬風)。
けんぶうき(名) 驗風器、かぜをためすうつは。
けんぶく(名) 元服、うひかうぶり、首級、給冠(男兒が成長して始めて冠を著くるをいふ)。
けんぶん〔する〕(俗)(他) 見分、みわける、十しらべみる。
けんぶん(名) 見聞、みきき、みるときくこと。
けんぶん(名) 縛文、あや、もやう。
けんぶん(名) 原文、もとのふみ、ことば(原書の文)。
げんぶん 元文(日本自二千三百九十六年至二千四百年、西洋自一千七百三十六年至一千七百四十年(年號)。
けんと(名) 巻頭、かしらみ、めぐみ、なさけ。
けんと(名) 懸鼓(軍事に用ふる二人にて舁く大鼓を云ふ)。
けんと(名) 建鼓(支那の變器の名)。
けんと(形) 堅固、かたき、堅牢、ぢやうぶ。
けんと(名) 検語(すること、審問しきことば)。
けんと(名) 原語、もとのことば(原本の語)。
けんと(名) 言語、ことば、ものいひ。
げんとがく(名) 言語學、(國語の根本研究文は規則等を研究する學)。

けんとつ(名) 顴骨、ほほぼね、頬骨。
げんとつ(名) 拳骨、にぎりこぶし。
げんどらうむし(名) 源五郎蟲、蹈鼠、ごきあちひむし(水源五中の蟲)(動物)。

げんどらうぶね(名) 源五郎船(近江の琵琶湖に生ずる魚圖の船)。
にて通常の鮒よりは大なり此鮒を炊きたての飯上につみかされ重き石などを蓋の上に置きて汁の出づるまで漬け置き後出だして鹽につくり食ふ。
けんとう(名) 鏟匁、まがり器具。
けんとう(名) 鏟工、刀鞘造るひと。
けんとう(名) 元后、古昔天子の稱、君公、おほきみ。
げんとう 元弘(日本自一千九百九十一年至一千九百九十三年、西洋自一千三百三十一年至一千三百三十三年(年號)。
げんとう 元功、おほいなるいさはし、元勳。
けんとうし(名) 懸鉤子、きいちご、はすいちご(植物)。
げんとうじ 元興寺(大和國添上郡にある大寺)。
けんとく 建國、くにをたてる始めて國を起すこと、肇基。
げんとく(名) 原告、うつたへかた、人を法廷に訴ふる人。
げんとく(形) 厳酷、きびしき、ひどい、むごい、厳刻。
げんとくにん(名) 原告人(原告に同じ)。
けんどし(名) 密牛子、あさがほのみ。
けんとん 乾坤、あめつち、天地。
げんとん(名副) 現今、いま、目今、ただいま。
けんてい(名) 楷廷、しのまき錦の。
けんてい〔する〕(他) 検定、しらべさだむる、特に歌員の資格を。
けんてい〔する〕(自) 獻替、君主などの過に獻策などするをいふ。
げんてい(名) 絃撥、ふなばたのはしご。
けんてつ(形名) 賢哲、かしこき、すぐれたるひと。
げんてう(名) 玄鳥、つばめ(動物)。
けんてき(名) 涓滴、しづく、しただり(水又は涙等の)。
けんてん(名) 典、さばき、罪囚の。
けんてん(名) 圍點、まるじるし、まる。
けんてん(名) 肢轉、めまひ、たちぐらみ。
けんてんしけん(名) 検定試驗、歌員の資格を定むる試驗。
けんあい(名) 衆愛、諸人を平等に愛するをいふ、支那古代の墨翟は之を道德上の主義としたり)。
けんあい(形) 険隘、けはしくせまき、さがしき(路等が)。
けんあく(形) 検惡、さがしくあしき、あぶない(道路が、又人の性質及び事物にもいふ)。
けんあん(名) 議案、さばきがき、きようじよがきいひわたしがき(刑事上の)。
げんあん(名) 原案、議會に提出する預定の草案、又もと立てたかんが(へ)。
けんさ〔する〕(他) 研磨、みがく、とぐ(玉等を)。
けんさ(名)〔する〕(他) 検査、あらため、しらべ、けみする、しらべる、ただす。
けんざ(名) 賛者、きたうじや、しゆげんじや。
けんさい 賢才、かしこきち、十すぐれたるひと。
けんさい 現材、視を造るに用ふる石材)。
けんさい(名) 欽議、ききんどし、因年、あしきとし。
けんさい(名) 堅鑄、かたきとりで。
げんさい(名) 元宰、國家第一の重き官人、宰相。
げんさい〔する〕(他) 減殺、へらす、そぐ。
げんさい(名形副) 現在、いま、いまの、ただいま、目今、目下、時下。
けんざを(名) 間竿、度竿、間地棒、はかりざを田地の廣狹を量る竿。
けんさつ〔する〕(他) 検察、しらべみる。
けんさつ 賢察、他人の察することを尊びいふ詞。
けんさつくわん(名) 検査官、公廷人を法庭に告訴する官人、めつけやく、けんじ。
けんざう(形) 喧噪、かまびすしき。
けんざう(形) 健壯、たつしや、すこやか。
けんざう(名) 蘐草、萱草(わすれぐさ)をみよ)(植物)。
けんざう(名) 鉗鎖、かぎやり。
けんざう〔する〕(他) 建造、たてつくる、建築。
げんざう〔する〕(他) 現像、寫眞にて第一板を以て物像を現出するをいふ。
けんざうぶつ(名) 建造物、たてもの、いへ。
けんさくわん(名) 推鑿、つぼのみ。
けんさくわん(名) 検査官、しらべるつかさびと、とりしらべやく。
けんさき(名) 建先、北斗中の破軍星の尾をいふ、斗柄。
けんさきぼし(名) 劍鋒星(破軍星をいふ)。
けんざきぬ(名) 箭鏃、なのたぐひ(植物)。

けんさん（名）　密鎖、ろくろぎり、まひぎり。
けんさん（名）—する（他）　研鑽、研磨し鎖切するをいふ。
けんざん　創山　備中國阿哲郡に在る山。
げんざん（名）　原蠶、かひこのなつ〻動物。
げんざん（俗）（名）　見参、めみえ、まみゆること。
けんき（する）（他）　密起、ひきあげる。
けんき（する）　嫌忌、いみきらふ、いとふ、いやがる。
けんき（形）　健気、けなげ、あくせぬこころ。
けんき（形）　嶮崛、けはしくたかき山が。
けんき（名）　聰識、意見考案を政府に上ること、けんばく。
けんき（名）　權宜、かりのとりはからひ。
けんき（名）　讖識、さばき、いひわたし（刑事上の）。
けんき（名）　嫌疑、うたがひ、うたぐり、讒疑、あやしみ。
げんき（名）　玄亀、かめの一種の動物。
げんき（名）　元気、心中の氣力、十また（俗）形いきほひよき。
げんき（名）　厳密、くしばこ。
げんき　元亀　日本自二千二百三十年至二千二百三十二年、西洋自一千五百七十年至一千五百七十二年（年號）。
げんき（名）　絃枝、うたひめ、げいしゃ。
[けんきよ]（名）　鱰魚　かつをの（動物）。
けんきよ（名）　懸魚　魚尾の形を作りて棟桁の端を隱すもの蓋し水物を以て火を防ぐの意

懸魚

げんきよ（名）　言語、ことば、ものいふこと。
けんきよ（名）、—（する）（他）　檢舉、しらべあげ（罪人などを檢べて拘引し或は出頭さする也）。
けんきよ（名形）　謙恭、へりくだり、へりくだる、恭謹。
けんきよ（する）（自）　虔恭、つつしむ。
けんきよ（する）（自）　喰唄　魚が濁水の上にの、あしきはめる。
けんきう　建久　日本自一千八百五十年至一千八百五十八年、西洋自一千百九十年至一千百九十八年（年號）。
けんきう（名）　犧牛、ことうし動物。
けんきう（名）　密牛二十八宿の一、牛宿の一名。
けんきう（名）　絃弓、ときうゑ樂器。
げんきう　元久　日本自一千八百六十四年至一千八百六十五年、西洋自一千二百四年至一千二百五年（年號）。
げんきう（名）　元宮、清廟二十八宿の一、室宿の一名。
けんきうくわ（名）　密牛花、あさがは植物。
けんきうせい（名）　密牛星、いぬかひぼし、をたなばたぼし織女と會するといふ星の名。
けんきやう（名）　密強、こじつけ、むりひきあはせ。
けんきやう（形）　健強、すこやか、たつしや。
げんきやう　現況、いまのありさま目下の景況。
げんきやう（名）　弦聲、つるおと弓の。
けんきやうふくわい　密強附會、こじつけ、しひてこじつけ。
げんきふざう（名）　玄及藏、さねかづら植物。
けんきん（名）　讒謗、つつしみ、ひかへめ。
けんきん（する）　謹動、かねつとめる用三殺を同時に。
けんきん（名）　謹斧、獻芹物を贈るす志をいふ。
げんきん　厳禁、きびしきさしとめ。
げんきん　現金、そくきん即座に出して買ふ其金をいふ。
げんきん（名）　現銀、ありがね、いまあるかね、十げんきん。
けんゆう（形）　健勇、たけき、つよき。
けんめい（形）　賢明、かしこくさとき。
けんめい　懸命、いのちがけ、いのちにかかる。
げんめい　厳命、きびしきおほせごと、きびしきいひつけ。
けんみ（俗）（名）　檢見、田畑の熟不熟を見分すること。
けんみつ　顯密、あらはなるかくれたる佛教の二義、顯教と密教と。
げんみつ（形）　厳密、きびしき、十ひどい。
けんみつのりやうしゆう　顯密兩宗　顯は天台宗をいひ密は眞言宗をいふ。
げんみやうてんわう　元明天皇　人皇第四十三代の帝紀元一千三百六十八年（西洋紀元七百八年）より一千三百七十四年迄、在位七年（御齢六十一歳）。
げんみやうふん（名）　玄明粉　朴硝をいふ。
けんし　賢子、かしこき。
けんし　密絲、いとをひく絲をよるに云ふ、又御絲の網を作るにも云ふ、密絲の綫をもむとは夫婦のとくこと。

けんし（名）　卷子、へそ、いとまきだま、まきいと、たまいと。
けんし（名）　檢屍、しがいあらため（變死者の僧の檢査）。
けんし（名）　監師、いくさのけんし、いくさのめつけ、軍監。
けんし（名）　絹絲、きぬいと。
けんし（する）　檢視、しらべみる（官吏等がて十驗視、ところみる。
けんじ（名）　諫辭、へりくだりていふことば。
けんじ　劍璽　つるぎもしで寶劍と印とにて天子の柳家の璽卷。
けんじ（名）　檢事（公罪人を告訴する官人）。
けんじ（名）　卷耳、をなもみ、みみなぐさ植物）。
けんじ（名）　健兒、こんぢい、ちからわざびと、すまひとり。
げんし（名）　幻視　眼に幻影をみとむるをいふ。
げんし（名副）　元始、はじめ、よのはじめ。
げんし（名）　幻師、まはふつかひ。
げんし（名）　街士（自ら己れを政府等に薦めて仕官を求むる人の類をいふ）。
げんし（名）　彦士（男を尊びいふ語）。
げんし（名）　原子、もとのかたち、もと（物質の〻根本、分子。
げんし（名）　言詞、ことば、言語。
げんし（名）　言辭、ことば、言語、ものいふこと。
げんじ　源氏、みなもとうぢ。
けんしにん（名）　檢屍人、しがいあらためをするひと。
げんしどうぶつ（名）　原始動物　進化程度の極めて淺き動物、原生動物、プロトゾア。
けんじせい　檢事正　地方裁判所の檢事局の長。
けんじり（名）　劍璽、「やのねの名。
けんじりよう（名）　厳子綾　漢の光武と同學なる嚴子陵の光武を以て即位の後ち隱れども出でずして富春山に耕やせり）。
けんじる（他）　獻、たてまつる、ささげる。
けんじる（自他）　現、顯、あらはれる、みえくる、あちはす、しめす。
げんじる（自他）　減、へる、へらす。
げんじがゆ（名）　源氏粥　白粥を常の如くにたきて蕃麥の「したじと同じ藥味を入れて上より掛けたる食物。
けんしよ（名）　駒蹄、たみ、人民、黎民。
けんしよ（する）（自）　驀過、軒蔣、はばたきしてあがる、まひあがる、とびあがる鳥の如く。
[けんしよ]　賢所、かしこどころ天子の御宮殿内の祖先崇拜堂。
けんしよ（名）　答書、てがた、かきつけ。
[けんしよ]（副）　權且、しばらく、かりに。
けんしよ（名）　推知、まきはだ、さいはだ。
げんしよ　原書、もとのかきもの（原文の書。
げんしよ　厳書、きびしきあつさ。
けんしよう（名）　見證、あかし、しるし、しようこ。
けんしよう（名）　懸强、つりがね大鐘の名。
けんしよう（名）　健訟　訴訟を枉げて起すをいふ、訴訟すき。
けんしよう（名）　健脚、すこやか、十すぐれたる。
けんしよう（名）　檢證、みとめしよう。
けんしよく　衆職、かねやく〻一人にして兩職を兼ぬるをいふ。
けんしよく　健食、おはくくらふこと、大食。
けんしよく　顯職、高官、おもきつとめ官府の、言職、君主を諫官する官人。
げんしよく　原質、もと、もとのたち物質の。
けんしつき（名）　檢證簿　鳴雨を鼎知する器。
けんしつ　獻酬、とりやり、さしつおさ（つするとと杯を）。
けんしつ（名）　寒蒲、蘇妁、なかうど、なかだち。
けんしつ（名）　拳銃、ピストル（短き手銃）。
げんしつ（名）　元戎、支那の軍車の名にして兵士を乘するもの。
げんしつのちやうじ（名）　元修藥、そうまめ植物。
けんしくわん（名）　檢屍官、しがいあらためする官。
けんしや　縣社、あがたやしろ縣より幣を奉る社格の神社。
けんしや（する）（他）　顯彰、あきらかにする、あらはす。
けんしや（名）　繁蕋、おきて、のり。
けんしや（名）　檢査、しらべるし、こつくい、やきいん官府の。
げんしや（名）　絃唱三絃琵琶などにあはせて歌ふをいふ。
けんじやう（する）（他）　獻讓、せむる、とがめる、しかる。
けんじやう（名）　獻上、さしあげる、ささげる、たてまつる。
けんじやう（名）　券狀、しようもん、てがた。
けんじやう（名）　檢證、つつしみ、へりくだり。

けんじやう（名）議論、へりくだり、けんそん、ゆづり。
げんしやう（他）現象、あらはれたるありさま（天地間の種々の出來事をいふ）。
げんじやう　現然、いまのありさま。
げんじやう（名）玄上琵琶を云ふ。
げんしやうらく（名）還城樂、乞食調の曲の名。
けんしやうのしやうじ（名）賢聖障子（昔し大内の紫宸殿に在りしもの）。
けんしやうくわん（名）乾政官（だいじやうくわんを見よ）。
げんしやうてんわう　元正天皇、人皇第四十四代の帝、紀元一千三百七十五年（西洋紀元七百十五年）より一千三百八十三年迄、在位九年、柳營六十九歳にして崩ず。
げんじやうさんざう　玄奘三藏、唐太宗の時の人にして印度を十七年間歴遊せしといふ。
けんしやのざし　懸車、年七拾歳を云ふ。
けんじやく（名）　乾鵲、まちうどがちす（動物）。
げんじやく（名）　玄雀、くろと（動物）。
げんじまめ（名）　源氏豆、菓子の名にて豆に砂糖衣をかけたるもの。
げんしさい（名）　元始祭（一月三日祭典の初として行はせらる）。
けんじさう（名）　景天、いきくさ、べんけいさう（植物）。
けんしき（名）　見識、かんが（へ、おもひ。
けんしゆ（名）　拳手、にぎりとぶし。
けんしゆ（名）　駸貧、たか、ひや、くしやう、人民、黎庶、黎民。
げんしゆ（名）　元首、帝王をいふ。
けんしゆつ〔する〕（他）　檢出、みいだす、しらべだす。
けんじゆつ（名）　劍術、つるぎつかふわざ、つるぎうち、しあひ、擊劍。
けんじゆつ（名）　權術、まにあはせのてだて。
げんじゆつ（名）　幻術、まほろ、妖術、あやしきじゆつ。
げんじゆつしや（名）　幻術者、まほろつかひ、いづなつかひ。
けんじゆう（名）　侯從、ともびと、こしやう。
げんじゆく（形）　嚴肅、きびしき、おごそか、げんぢゆう。
けんしゆん（名）　獸春、太陰暦一月の異名。
けんしゆん（形）　險峻、けはしくたかき。
げんしゆん（名）　彥俊、すぐれびと（男の美稱）、俊髮、英髮。
けんしゆんもん　建春門、禁中の東面に在り之を左衛門の陣と云ふ。
けんしん　欠伸、あくび及のび、あくびするのびする。
けんしん〔する〕（他）　獻進、たてまつる、さしたてまつる。
けんしん（名）　權臣、いきはひあるけらい、きりもの。
けんじん（名）　儀人、ともびと、從者。
けんじん（名）　拳蚕、いぶきとちのを、おしくさ、ごまのはぐさ（植物）。
けんじん（形）　堅靭、やはらかにして つよき、しんねりづよき。
けんじん（名）　賢人、かしこきひと、賢者、
げんしん（名）　現身、うつせみ、いまのみ、このかちだ。
げんしん（名）　慇懃、ねつこしねもごと。
げんじん（名）　街人、めくらまし、詐人、てづまし。
げんしんき（名）　檢機憂、ぢしんばかり。
げんゑ　玄蕃、日本に於ける禪宗説の主唱者にして後ち僧となり法印に敍す、正平五年六月、八十歳にて寂。
けんえい（名）　卷繞、むすびひも、冠帽の紐。
けんえい　建永（日本一千八百六十六年、西洋一千二百六年、一年にて終る三年號）。
けんえい（名）　軒檢、のき。
げんえい（名）　幻影、まぼろしかげ。
げんえい　元永、日本自一千七百七十八年至一千百七十九年、西洋自一千百十八年至一千百十九年）（年號）。
けんえつ（名）、—する（他）　檢閲、しらべ、しらべけみする。
けんえう（形）　權要、かんじん、かなめ、おもき。
げんえう〔する〕（自）　炫耀、かがやく、ひかる、蔀均、燈籠五彩炫耀など書く。
けんえき　檢疫、えやみしらべ、疫疫檢査。
けんえきせん（名）　檢疫線、檢疫の範圍。
けんえん（名）　權厭、たいくつ、あき、うむこと、いとふこと。
けんえん（名）　軒簷、のき、家屋の下邊をいふ、やねさき。
けんえん（他）　權厭、あぐねる、いやになる、きらふ。
けんゑん（名）　軒轅、星宿の北方に在る十七の星の名。
けんゑんし　軒轅氏、支那上代の王、黄帝をいふ。
けんび〔する〕（自）　憊疲、うみつかれる、よわる、

衰勞。
けんび〔する〕　警備、かねそなはる。
げんび　原被、原告被告をいふ（開造）。
げんび（名）　元妃、いちのきさき、まことのきさき、正妃。
けんびるし（名）　檢非違使、けびゐし、世の非行を正す官。
けんびより（名）　堅氷、あつごほり、かたきごほり。
けんびう（名）　愆謬、あやまち、あやまり。
けんびやう（名）　視屏、すだりびやうぶ、視頭に立てて風塵をふせぐ具。
けんびき（名）　疲癖、けんべき、かたのこり、かたのはり（病名）。
けんびきやう（名）　顯微鏡、むしめがね、小さき物を大きく見る鏡。
げんびんやき（名）　元賓燒、尾州産の陶器の名にして明末の亡臣陳元贇の傳授に係る。
けんもつ（名）　監物、おろしもののつかさ（中務の屬官にて大小の二等あり唐の城門郎に同じ又主藍と云ふ）。
けんもん　遣聞、おもひやる、うさをはらす。
けんもん　見聞、けんぶん、みきき。
げんもん（名）　絃門、船艤の昇降道、ガンクウェイ。
けんもん（名）　權門、くちゐたかくいきほひつよきいへ。
けんもんしや（名）　顯紋紗、横機を織り出したる稱の名、うきをりもの、うんけん。
けんせい（形）　妍晴、はれわたりたる（天氣に云ふ）。
けんせい（名）　鑽星、牢固の背に在る六星の名。
けんせい　研精、ちからをいだす、せいだす。
けんせい（名）　權勢、いきほひ、みせい。
けんせい〔する〕（他）　強制、おさへつける、おさへつけ、〈とめる（家側運動など云ふあり）。
げんせい（名）　花精、あをはんめう（青斑猫）（かんたりすず動物）。
げんせい（形）　嚴正、ものがたき、ただしき、てがたき、きつぱり。
げんせい（形）　儼整、ちやんとしたる、ただしき、よくととのひたる。
げんせい（名）　現世、このよ、いまのよ。
げんせいどうぶつ（名）　原生動物、原始動物に同じ。
げんせいせき　元精石、石の名。
けんせつ〔する〕（他）　建設、たてる、しつらふ。
けんせつ〔する〕（自）　懸絕、かけへだたる、とはくはなれる。
けんせう（形）　直諒、さわじ。
げんせう〔する〕（自）　減少、〈なる、すくなくなる、減殺、減損、減省。
けんせき　顯跡、たしかなるあと。
けんせき（名）、—する（他）　譴責、とがめ、せめ、とがめる、せめる。
げんせき〔する〕　嚴責、きびしくとがめる。
げんせき　原籍、もとのにんべつ（己れの出でたる所の籍）。
けんせん（名）　獻饌、そなへもの（神佛に供する食物）。
けんせん（形）　健全、すこやか、たつしや。
けんぜん（副）　軒然、笑ふ貌、笑ふ貌。
けんぜん（副形）　顯然、あらはに、十あきらか。
げんぜん（形）　現然、ありありと、まのあたり。
げんぜん（副形）　儼然、嚴然、いかめしく、おごそかに威儀を正しうし尊嚴を示したる貌。
げんぜん（副形）　泫然、涙の落つる貌、はらはら。
げんぜん〔する〕　現前、まのあたりにある、まへにある。
けんぜんがく（名）　健全學、養生の學をいふ。
けんする（名）　懸鍾、ふんどう（權衡のおもり）、十又さげふり。
けんする（名）　建水、みづこぼし（器の名）、十ひるめし（農家の）。
げんする　元帥、軍勢の總大將、いくさぎみ、大將軍。
けんすち　軒敷、いへかず、家數。
けんすう　間數、みちのり一間（一間の數）。
げんすけちやう　源助町、東京市芝區の町。

ふ

行第三段に位す。
ふ（名）　父、ちち、翁、てておや。
ふ或ふう（名）　夫、をつと、ていしゅ。
ふ（名）　婦、十つま、又をんな、をなご、婦女。
ふ或ぶ　不無、しといふ意にて語の頭に冠らする詞。
ふ（名）　生、くさきたけなどのはえたるところ、おひたてるところ草生、園生、竹生など云ふ。
ふ（名）　府、大都會、おほまち、城邑。
ふ（名）　譜、へう表、十かきもの。
ふ（名）　負、ひきざんのしるし算術にて減マイナ

ス)を負と稱す、正に對する也。

ふ(名) 靨、ざうふ、はらわた、六腑。

ふ(名) 布、ぬのゐりもの。

ふ(名) 斑、まだら、ぶち、禽獸の毛及び草木の葉に云ふ。

ふ(名) 符、ふだ、まじなひ等の、きもりふだ十又しるし、官府の。

ふ(名) 傅、かしづき、相當正四位上、周名太子大傅。

ふ(名) 獸、死んだしらせ。

ふ(名) 麩、麩筍、小麥の粉にて製したる輕き餅樣のもの。

ふ(名) 埠、上陸の場所、つきだしたるどて(海への)、はとば。

ふ(名) 步、將軍の駒の最も身分卑しきもの。

ふ(する)(他) 賦、あたふる、天より、十又つくる(詩を)。

ふ(名) 步、ひとつ、匹、六尺四方、十又わり、わりつけ、わりまへ。

ふ(形名) 武、たけき、十いくさの、十いくさのみち、文に對す。

ふ或む 無語の頭に蒙ちせて無きの意を之に與ふる詞。

ふ(名) 分、數量に云ふ所にて一寸の十分の一。

ふ(名) 部、かぶ、十くち、くちわけ、十ところ、十又かず。

ふい(名) 布衣、ぬのごろも(位官なき草莽民間の庶人をも然か云ふ、是れ彼等これを著たれば也)。

ふい(形) 不意、おもひよらぬ、おもはざる。

ふい(名) 扶綏、ざいふりぼく、してざくち(植物)。

ふい(名) 負房、攝政、せつしやう。

ふい(名) 翻衣、支那にて天子の坐せらるる後に設けたるものにて其制屏風の如し柄なき斧を畫く其柄なきは設けて用ひざるの義を表すと云ふ。

ふる(する)(自) 怖長、こはがる、おそれる。

ふい(俗)(名) 風琴、衣嚢に附けうなり鼓蔵に附けて風に鳴らす具)。

ふい 無異、かはることなき。

ふる(名) 無鶯、不鶯、なすことなきこと(むだを見上)。

ふる(名) 武威、當歳のうぜんかづら(植物)。

ふる(名) 武威、つはものゐのいきほひ、いくさのいきはひ、武力、兵力。

ふいど(副) 不意、不料、おもひがけなく、はからずも、ふいに。

ふいちやう(名)(する)(他) 風鬪、吹鬪、拔鬪、いひひろめ、いひひろめる、つげしらする。

ふいり(形) 斑入、斑點、ぼつぼついり、草木の葉及び獸皮に云ふ。

ふいがは(名) 鞴、鍛冶の用ひて火を吹きおこす具にて吹革の義なり、ふいがう、ふいど。

ふいがう或**ふいど**(名) 風鑄、手鞴、吹鞴、蕎蕎、鞴たたら、鍛冶の用ひて火を吹きおこす器。

ふいがうを(名) 風爐魚、嘲叭魚、歌羅巴地中海にて見上)動物。

ふいがうまつり(名) 蕎蕎祭、太陰曆の十一月八日に鍛冶場に多く祭る。

ふいう(名) 富有、とみ、とみたること。

ふいう(名) 蜉蝣、ひをむし、朝に生れて夕に死ぬ

といふ蟲(動物)。

ふいのひさ(名) 布衣之人、ただのひと、高貴ならぬもの。

ふいく(する)(他) 撫育、やしなひそだてる、撫養はごくも。

ふいふいけう(名) 回回教、亞剌比亞に起りし教法にて即ちマホメット教是れなり)。

ふいど 風爐「ふいがうを見よ」。

ふいどうを(名) 風爐魚、一名嘲叭魚と云ふ其形狀至つて奇なり此魚地中海に多し(動物)。

ふいどまつり(名) 蕎蕎祭(太陰曆十一月の八日に鍛冶の徒が行ひし祭典の名)。

ふいん 不理、不犯、持戒の僧等に云ふ所にて女と交はらぬをいふ。

ふいん(名) 訃音、凶報、つげ、しにたるしらせ(人の死をつぐる報知)。

ふゐん(形) 不音、さたなき、たよりなき。

ふいん(俗)(形) 無音、おとづれなき、たよりせぬ。

ふろ(名) 附路、關道の南傍に在る屋の名)。

ふろ(名) 風呂、蒸室(漆器を乾かす室)。

ふろ(名) 風鑪、ちひさきかまど、茶の湯に用ふる具なり、本圖なるは大和國法隆寺の所藏。

[圖の鑪風]

ふろ(俗)(名) 風呂、すゐふろ、ゆあみをけ。

ふろいせん 普魯士、歐羅巴の國名、プロシア。

ふろば(名) 風呂場、浴室、浴堂、混堂、澡堂、ゆあみば、ゆどの。

ふろをけ(名) 浴桶、ゆあみをけ。

ふろがま(名) 浴槽、ゆがま、ゆぶね、ゆあみぶね、ゆあみをけ。

ふろうし(する)(他) 侮弄、なぶる、あなどる、ひやかす、愚弄。

ふろく(名) 附錄、かきたし、つけくはへがき。

ふろく(名) 符籙、ふだ、まもりふだ、まよけふだ。

ふろやかた(名) 湯室、ふろば、ふろのいへ。

ふろふき(名) 風呂吹、熱き室にいりて其熱氣にて生ずる汗によりて身體の垢を落すこと。

ふろふきだいこん(名) 風呂吹大根、大根を熱くゆでて食ふもの、又ただ風呂吹ともいふ。

ふろてすたんざけう(名) 耶蘇新教、天主教即ち舊教に對して云ふ。

ふろしや(名) 普魯西、歐羅巴の國名にて獨逸聯邦の盟主)ぷろいせん。

ふろしき(名) 風呂敷、包袱、ものをつつむもの。

ふは 不破氏、十また、歌舞伎十八般の一。

ふば(名) 駙馬、支那にて天子の女を娶りたる者を然か名づく、また之を駙馬とも呼ぶ、蓋し後者は滿洲人の用ふる所なり、むこ、ざみ、天子の)。

ふはい(名)(する)(自) 腐敗、くさり、くさること、くさる、あしくなる。

ふばる(俗)(自) 武張、ぶばる、兵卒軍人などの如く勇武の狀を身に顯はすをいふ。

ふばつ(名) 不拔、ぬけぬ、かたき、つよき、だいぢやうぶ。

ふはう(する)(他) 謗、ぼう、わるくいふ、そしる。

ふはうざう(名) 扶芳藤、つるまさき、まさきかづら(植物)。

ふはうらう(名) 符寶郎、唐の官名、我主鈴に當る。

ふはのせき 不破關、美濃國不破郡に在りし古代の關門。

ふはく(名) 布帛、ぬのきぬ、十おりもの。

ふはく(形) 浮薄、かるがるしい、ういたる、はくじやう。

ふはふ(形名) 不法、ちんぱう、みだり。

ふはふは(副形) 柔軟、物の軽く柔ちかなる趣。

ふばこ(名) 文筥、文箱、文匣、文函、てがみいれば(書狀を挾む杖の如きもの)。

ふばこほり 不破郡、美濃國の郡の名。

ふばさみ(名) 書挾、文挾、てがみばさみ、ふづる

ふはん(名) 負板、戶籍人口簿を負ひたる者。

ふはん(名) 武班、ぶしのなかま、武士の列。

ふはん(名) 不如意、こころのごとくならず、不勝手、まづしき。

ふにく 腐肉、くされにく、くさりじし。

ふにあひ(俗)(形) 不似合、不像似、ふさはしからぬ、にあはぬ。

ふにん(する)(他) 赴任、任地へ往く。

ふにんたり(俗)(形) 無人島、小笠原島をいふ、波寧。

ふにんさう(俗)(形) 不人相、ひとあしらひわるき、ひとつきよからぬ、あいそのない、十又つちにくげなる。

ふにんじやう(俗)(形) 不人情、なさけしらず。

ふぼ 父母、ちちはは、かぞいろ、ふたおや。

ふぼつ(する)(自) 蕪沒、はろぶる、なくなる。

ふぼく(名) 符木、わりふ、きのわりふだ。

ふぼく(する)(他) 俯伏、たたく、うつ。

ふぼん 不犯、不淫に同じ。

ふへい(形名) 不平、こころよからず、不滿、まんぞくせぬこと。

ふへう(する)(自) 浮瓢、うかびただよふ。

ふへう(名) 浮標、うきじるし、海上の。

ふへん(する)(自) 浮泛、うかぶ、うきてながる(水上に)。

ふへん(形) 不變、かはらぬ、不易。

ふへん(する)(自) 俯僕、うつぶくし、したをむく。

ふへん(形) 不便、つがふよからぬ、たよりよからぬ、ちようはうならぬ。

ふへん(形) 不辯、言語の爽かならぬを云ふ、ふべんぜつ。

ふへん(名) 武邊、武道、武事、いくさごと。

ふべん(名) 武弁、武家、武士、ぶけ、いくさびと。

ふべんり(形) 不便利、ふつがふ、つがふあしき、不便。

ふへんじ(俗) 不返事、不挨拶、ぶあいさつ、よくへんじせぬこと、いやいや、へんじ。

ふど(副) 不國、はかちず、偶然、不意、おもはず。

ふど(名) 浮屠、浮圖、梵語にて佛と云ふことに當れども或は僧侶又は僧の義にも用ふ。

ふど(名) 伏鬼、館註、あげもち、菓子の類、あぶちあげのもち、油煎餅。

ふど(名) 府帑、政府にて米穀貨財を入れ置く倉庫。

ふさ(名) 蟻子、蚋子、飛區動物。
ふさい(形) 太、おはきい。
ふさる(名) 太鼓、鼓、水鼓「おはら」及くわんを參看せよ」植物。
ふさるごさ(名) 蕊經、ゐむしろ(蕊を以て織りたる敷物)。
ふさろごほり 太總郡後志國の郡の名。
ふさぢち(名) 太鐸、ぎだい ふげいこ。
ふさばら(名) 太腹、おはきなるはら、十大腹。
ふさどき(俗)(形) 不良、不婦に同じ。
ふさぬの(名) 太布、荒布、たふ、綜、さよみ、粗布。
ふさる(自) 太肥、肥大、肥滿、こえる、十おはきくなる。
ふされり(形名) 太鐸下を見よ。
ふされりつむき(名) 太織紬(太い銅絲にて織れる紬)。
ふさつ(名) 扶突(人迎の後ろ一寸五分に在る穴)。
ふさむき(名) 太麥、おほむぎ、鮮植物。
ふさり(形) 不等、ひとしからぬ、そろはぬ。
ふさら(名) 埠頭、はとば、あげば、ふなつき、にあげば、あがりば。
ふざら(名) 莩豆、いちごまめ(植物)。
ふざら(する)(自) 浮騰、うかびのぼる。
ふざら(名) 不動、うごかぬ。
ふざら(名) 不動明王の一、大聖威怒王、十また歌舞伎十八般の一。
ふざら 不同、あなじからぬ、ちがふ。
ふざら(する)(自) 浮動、うかびうごく。
ふざら(名) 舞貫、まひわちそ。
ふざらいし(名) 不動石(守護石の一名)。
ふざらたけ 不動岳(遠州磐田郡に在る山)。

ふざらそん(名) 不動尊、阿逸羅尊、佛教の神の名、ふどう。
ふざらのにざりじ 不動二童子、矜迦羅及び制多迦(ゐふ)。
ふざらさん(名) 不動産、土地田園家屋等の所有をいふ。
ふざらみやうわう 不動明王(不動尊に同じ)。
ふざの(名) 文殿、文廏、ふみどの(書籍を納れ置く室、または屋)。
ふざく(副) 太、おはきく、十こえて。
ふざく 嬉鶴、をんなのとく(獵人たるの道)、淑德。
ふざく 不德、とくなき帝王等が饒舌して自ら稱する詞、不肖。
ふざく 負德、とくにそむく、をんをしらぬ。
ふざくい(形) 不得意、こころえぬ、十なれぬ、じやうずならぬ。
ふざくたくまし き 太逞、こえてつよくみゆる(馬等にいふ)。
ふざくしん(俗)(形) 不得心(納得せざるを云ふ、不承知)。
ふざやかに(副) 太、肥、おはきく、ふとく。
ふざまに(名) 太古(太古の古トを云ふ、うちなひわざ)。
ふざところ(名) 樓、樓中、樓閣、もれ。
ふざところがみ(名) 樓中紙、はながみ。
ふざし(名) 褌禪(ふんどし)をみよ)。
ふざしきたつる 褌立、ふとくもしたつる(官柱などを)。
ふざもの(名) 太物、ぬの、もめんもの、呉服。
ふざもも(名) 太股、股の内部のふくらんだ所。

ふさん(名) 布團、湿團、蓐團、寢團、臥被、臥廏、しきぶとん(寢る時に用ふる、十又しきもの、坐褥。
ふち(名) 淵、瀾、みづふかきところ。
ふち(名) 緣、邊、へり、餌器物の。
ふち(俗)(名、—する)(他) 扶持、ゆしなふこと、俸給、ゆしなふ(俸給を與ふ)。
ふぢ(名) 藤、ふぢかつら、黃環、淺臭、就萬、招豆藤、紫藤、植物。
ふち(俗) 打(此假名を以て始まる字は「うち」の下を見よ、是うちの俗語なり)。
ふち(名) 樓、策、鞭(むちをみよ)。
ふち(形) 斑、駁、まだら、駁。
ふちいろ(名) 紫藤色、うすむらさきいろ。
ふちばかま(名) 藤袴、蘭草、氣、白蘭、零陵香、水香、香草、千金草、孩兒菊(藤の如く垂れて花さく草にて秋の七草の一)植物。
ふちはなす(俗)(他) 打放、うちはなす。
ふちはら 藤原(持統文武二帝の都したまひし地にして大和國に在り、十また姓)。
ふちはらむら 淵邊氏。
ふちべ 藤戸(備前國の有名の地)。
ふちさのわたし 藤原村(下野國鹽谷郡の村名)。
ふちさめる(他) 打止、うちとめる。
ふちぬの(名) 藤布、あちぬの、あちきぬの。
ふちぬく(他) 打拔、うちつらぬく。
ふちをかまち 藤岡町(上野國多野郡の町、また下野國下都賀郡の町)。
ふちかは 藤川(參河國に在る有名の川)。
ふちかた(名) 扶持方(扶持を渡す役人)。
ふちかづら(名) 藤、ふぢ、黃環、植物)。
ふちかけ 藤懸氏。

ふちかざり(名) 鍬飾、(りかざり)。
ふちかんざり(名) 山茶豆(植物)。
ふちよ(名) 巫女、かんなぎ、あづさみこ、あがたみこ。
ふちよく(形) 不直、なほからぬ、ふしやうじき。
ふちた 藤田氏。
ふちたに 藤谷氏。
ふちたね(名) 藤嶺、藤架(藤を蓋はせたる棚)。
ふちつこほり 藤津郡(肥前國の郡の名)。
ふちねずみ(名) 藤鼠(染色の名)。
ふちな(名) 御公英、たんぽぽ、つづみぐさ、金簪草(植物)。
ふちなでしこ(名) 富牛麥、はまなでしこ(植物)。
ふちなみ 藤波氏。
ふちち 府中郡守の居所、十國府。
ふちち(形) 不忠、まめやかならぬ(君に)。
ふぢつき(名) 酵魚茸、魚覆、てうじざくら(植物)。
ふちうま(名) 斑馬、まだらうま、駮馬(動物)。
ふちうし(名) 斑牛、まだらうし、犗(動物)。
ふちうえき 府中(武藏國北多摩郡の宿驛の名)。
ふちのたもと(名) 藤袖(「ふぢごろも」を參看せよ)。
ふちのもり 藤森(山城國の有名の地)。
ふちくだく(俗)(他) 打碎、うちくだく。
ふちやばん(名) 普茶盤(普茶料理を出だす盤即ち膳)。
ふちやう(名) 府廳(府の事務を取り扱ふ官廳)。
ふちやう(名) 符兆、うりものの、ねだんじるし又あきうどのかくしことば。
ふちやう(形) 不定、ふていてきだまらぬ。

ふちやく(する)(自) 附著、つく、くつつく。
ふちまい(名) 扶持米、給米、ふちのこめ。
ふちまめ(名) 稻豆、黎豆(植物)。
ふちげ 邊毛、(りげ)。
ふちふさ 藤房(萬里小路實房の男なり、年卅九にして出家し妙心寺の二祖となる)。
ふちどろも 藤衣(なれ、「まど」は等の枕詞)。
ふちとろす(俗)(他) 藤衣、穩衣、褻服、もふく、衰傷衣、いろ。
ふちとはす(他) 打殺、毆殺、擊殺、うちころす。
ふちとむ(他自) 打込、うちこむ、うちいれる、はまりこむ。
ふちこま(名) 斑馬、まだらうま(動物)。
ふちあける(他) 打開、うちひらく、十うちあかす。
ふちあんない(形) 不知案內、ふあんない、しらない。
ふちさはれほさみまち 藤澤大宮町(相模國鎌倉郡藤沢の町名)。
ふちきん(名) 藤鯨氏。
ふちきん(名) 鍍金、きんのふち(器具の)。
ふちゆりい(形名) 不注意、ゆだん、十ふこたり。
ふちみ(名) 藤身(身體の無感覺の如くにて之をつめるも切るも毫も其痛を感ぜざるを然か云ふ。
ふちじ(名) 府知事(府廳の長官)。
ふちしろちやう 藤代町(東京市本所區の町)。
ふちえだ 藤枝、ふぢえ氏。
ふちえだまち 藤枝町(駿河國志太郡の町名)。

ふちもどき(名) 荒花、ちやふきくら(植物)。
ふちもりのやしろ 藤森社(山城國紀伊郡に在り早良太子の廟)。
ふちせ(名) 淵瀨(事物の變遷しやすき譬への詞)。
ふちん 浮沈、うきしづみ、盛衰。
ふちん(する)(他) 布陣、しきつらぬる。
ふちんし(名) 浮塵子、ぬかが、うんかの動物)。
ふり(形) 不利、ためにならぬ、りなき。
ふり(名) 態、形容、容儀、姿、態度、風體、風儀、風俗、すがた、しくさ。
ふり(名) 振、ふること、ふれること、ゆれ。
ふり(形) 不理、ふすぢ、無理。
ふり(名) 鱗、おはきなるうをのな動物)。
ふりいも 名) 振子吸物料理の名)。
ふりはへ(名) 態、ふり、なりふり。
ふりはなつ(他) 振放、ふりわかつ。
ふりはらふ(他) 振拂、ふりのける。
ふりわける(他) 振分、ふりわかつ、わかつ。
ふりわけがみ(名) 振分髮、放髮、頭上にて二つに分ちたる髮。
ふりかへる(自) 回顧、回首、回頭、かうべをめぐらす、あとをみかへる。
ふりかへす(俗)(自) 再發、ふたたびおこる病が)。
ふりかける(他) 漬、まきかける、水などを。
ふりよ(名) 俘虜、とりこ、いけどれるもの。
ふりよ(形) 不慮、はからぬ、ふもはぬ。
ふりたまご(名) 振玉子(料理の一法、先づ深き茶碗にて雞卵の白身ばかり入れ茶筅にて振りながら搏湯をつぎかける也黃身少しにてもまじる時は手ぎはわるし)。

ふりだし（名）振出器、ふりてものをいだすうつは（金米糖を入るるに多く用ふ）。
ふりだしにん（名）振出人、かれをふりだすひと。
ふりだしぐすり（名）泡劑、浸劑、湯にてひたして飲む藥。
ふりだしてがた　振出手形、銀行より振り出だす一種の預り金券、爲替手形の下を見よ。
ふりだす（他）振出、搖出、ふりていだす。
ふりそそぐ（自）降注、そぼふる雨雪が。
ふりそで（名）振袖、長袖、衣半袖、ながそでのきもの。
ふりつづく　降續、ながくふる雨雪などが。
ふりつづみ（名）鼓鼓、搖鼓（振りて鳴らす鼓）此圖なるは大和國信貴山藏。

鼓の圖

ふりつける（俗）（他）振著、あしくもてなす、わるくあしらふ（重に遊女などが）。
ふりつき（名）馬口鐵、鐵葉、白葉鐵（船茶の薄き板金の名にて錫と鐵をまぜたるもの）。
ふりつきや（名）馬口鐵匠（ブリキ物を造る家）。
ふりづんばい（名）礫遊、飯石、いしなげ（小兒の遊戯に用ふる石投具）。

礫の落

ふりむける（他）振向、むけかへる、むかはする。
ふりうり（名）振賣、過賣、ぼてふりうり、よびあるきてうるひと、貨物を擔ひて道を賣りあるく人、また其こと。
ふりうりあきなひ（名）過賣商、よびうりあきなひ、ぼてふりあきなひ。
ふりくつ（俗）（名）不理屈、わけのわからぬ、十すぢのとほらぬ。
ふりやう（名）浮樂、うきはし、ふなばし。
ふりやう（形）不良、さがなき、よからぬ。
ふりやうじん　不良人、ろくでなし、よからぬひと、わるもの。
ふりやく（名）武略、いくさのはかりごと。
ふりまはす（他）振廻、あちらこちらにふる。
ふりと（名）振海鼠（なまこを調理したる食物）。
ふりどさ（名）振事、しよさごと（芝居師などにやる女の所作）。
ふりとめられる　被降問、そとにいでられぬ（雨の爲めに家にこもるを云ふ）。
ふりあき（名）振明秋の後部の縫ひのあき。
ふりあひ（俗）（名）振合、なちはし、しきたり。
ふりさい（俗）（形）降相、ふるちしき雨が。
ふりさけみる（自）振離見、はるかにみわたす、ながめわたす。
ふりき（名）鐵葉（ぶりつきを見よ）。
ふりきる（他）振切、ふりてきりはなす。
ふりしじみ（名）振蜆、蜆貝の貝殼を去りたるもの。
ふぬけ（形）腑虚、ばか、もろか、ちゑのなき。
ふる（形）古、舊、ふるき、十むかしの。
ふる或へる（自）經歷、經由、更歷、經過、とはる、わたる、すぐる。
ふる（自）觸、ふれる、さはる。
ふる（他）振搖、搖、揺、ふるふ、ふるはす。
ふる（自）降、下、くだる（雨雪が）。
ふるいへ　故宅、舊宅、舊屋、古第、古屋、古家、舊家、ふるや、としへたるいへ、十敗宅、敗邸、あばちや。
ふるいち　古市（河内國南河南郡に在る有名の地、安閑天皇の山陵あり）。
ふるぼり　古堡、廢堡、廢城、すたれぼり、ふるくなりたるほり（城の）。
ふるほん　古本、古冊、ふるきほん、あたらしからぬほん。
ふるほんや（名）古本商、ふるほんあきうど。
ふるべつごぼり　振別郡（千島國の郡の名、ふうれべつごほりと讀む）。
ふるさし　舊年、客年、舊歲、客歲、昨年、前年、まへのとし。
ふるち（名）古血、經血、經水、宿經、ひさしいぬすびと、十ふるきわるもの、老根。
ふるぬすびと　老盜、宿盜、ひさしいぬすびと、十ふるきわるもの、老根。
ふるをや　古尾屋氏。
ふるおきな（名）青宿、ものごとになれたとしより、古老。
ふるわた　古綿、舊絮、經衣服に一度いれたりし綿、ぬきわた。
ふるかはまち　古川町（飛彈國古城郡、また陸前國志田郡の町名）。
ふるかね　古鐵、舊鐵、ふるきかなもの。
ふるた　墾田、ふるきた。
ふるた　古田氏。
ふるたうぐ　古道具、骨董、古董、ふるきうつはもの。
ふるたうぐや（名）古道具屋、骨董店、ふるきうつはものをうるいへ。

ふるつはもの　老兵、おいたるつはもの、十なれたるつはもの。
ふるつか　古墳、古塚、としへたるはか、十敗墓、やぶれがか、ふるはか。
ふるね（名）古根、陳根、宿根、ふるきれ（雜草の）。
ふるなじみ　舊知己、竹馬友、舊相識、ふるきしりあひ。
ふるうどぼり　古宇郡（後志國の郡の名）。
ふるのたき　布留瀑（大和國山邊郡に在る瀑の名）。
ふるのやしろ　布留社（大和國山邊郡に在り、石上社）。
ふるくさき（形）古臭、陳腐、ふるびたる。
ふるや　古屋、老屋、ふるきいへ、ふるいへ。
ふるや（名）古谷（氏）。
ふるやたに　古屋谷（氏）。
ふるまふ（自他）周旋、擧止、ふるなふ、する、十饗應、もてなす、ちそうする。
ふるまひ（名）饗應、饗宴、置酒、會宴、さかもり、十ちそう、馳走。
ふるまひ（名）周旋、擧動、動止、ふるなひ、十みもち、行跡。
ふるふ或ふるへる（自）戰慄、をののく、わなふるふ。
ふるふ（他）掉、震、振、奮、揮、振蕩、震動、振揮、ふるはす。
ふるふ（他）篩篩にてとはす。
ふるふる（副）振振、戰戰、ふるひわなふるふ、ふるふる。
ふるふるさう（名）續斷（肥前の方言、をどりこばな（植物）。
ふるふで　敗筆、退筆、つかひかちしふで、十禿筆、もびふで。
ふるところも　古衣（ふるちすてびと、「きなちの山」、「まつちの山」の枕詞）。
ふることほり　古郡氏。
ふることば（名）故事、ふるきことがら、舊事。
ふることめ　古米、陳米、陳穀米、ひねごめ。
ふるて（俗）名　古手、ふるぎ、古服。
ふるでら　古寺、ふるきてら、十廢寺、やぶれでら。
ふるさと　故郷、本郷、舊里、故山、家山、故國、郷里、ふるところ。
ふるさけ　古酒、老酒、としへたるさけ。
ふるき（名）古木、老木、老樹、おいき。
ふるき（形）古、舊、故、むかしの、十陳、ふるびたる。
ふるき（名）黑鼠、鼠鼠、とつぴ（鼠の類にして其皮珍重せらる、多く朝鮮に產す）動物。
ふるぎ（名）古衣、舊衣、としへたるきもの（一度着用したる衣服を凡て然かの名く）。
ふるきかり　舊債、宿債、ふるきしやくきん。
ふるきなじみ　舊識、舊知、舊交、故舊、舊知己、舊友、故友、ふるきしりあひ。
ふるきや（名）古著屋、ふるぎものうるいへ。
ふるきやまひ　宿病、宿病、痼疾、ひさしきやまひ。
ふるきふみ　古書、古文、舊記、むかしのかきもの、古典、典籍。
ふるきあと　陳迹、舊跡（きうせき）、古跡（こせき）。
ふるきず　古瘢、ふるきず。
ふるゆきの　降雪之（いもじろいもじろ）、ぬかに「しろ髮」の枕詞。
ふるひ（名）篩、篩、とほし、篩、篩羅（物をふるふ鰯の如き底ある器）。
ふるひざ（名）舊人、老人、十むかしなじみの人。
ふるびる（自）帶古色、古、ふるくなる、十ふるくさくなる。
ふるひわける（他）篩分、どほしわかつ（篩にて）。
ふるひつく（自）疫、瘧疾（瘧寒に云ふ、みぶるひする）（寒くて）十接近、そば（ひつつく）。
ふるひうつ（他）奮擊、ちからをいだしてうつ。
ふるひどる　顫慄、ぶるぶるふるへる（ふるふ）。
ふるせ（名）稅、ふつせ（船の自ら生ずしもの）。
ふるす（他）古、ふるくする、十よごす、十又わすれはつる。
ふるす　古巢、故巢、ふるきす（鳥の）。
ふるかすがやかす　輝武、武威を天下に張る。
ふれち（名）舊酒、よめのちちぬや。
ふをく（名）布屋、でんと、天幕。
ふわ（名）不和、なかたがひ、なかわるさ。
ふわり（名）分割、くにざかひのすぢ、さかひめ。
ふわり（俗）（名）步割、ぶあひ。
ふわり（名）誣任、いつはりしふること。
ふわけ（名）腑分、解剖、かいぼう。
ふわけじゆつ（名）解剖學、ふわけするみち。
ふわふわ（俗）輕浮、柔軟（かるくなびく穀、また柔らかなる穀）。
ふか（する）（他）負荷、あひになふ、かつぐ、任。
ふか（する）（他）附加、つけくはへる。
ふか　不可、よろしからず。
ふか　府下、みやこのうち。
ふか（名）浮案（船を云ふ）、怪宅、うきいへ。
ふか　斧柯、をのかち、をのの柄。
ふか　富案、かねもち、とめるいへ、十ぶげん。

ふか（名）沙魚、鱶鮫、鶴魚、さめ、鱘魚動物。
ぶか（名）部下、でした、したにつくひと。
ふかはまち　布川町（下總國北相馬郡の町名）。
ふかがはく　深川區（東京市十五區の一）。
ふかそぎ（名）深除（小兒の髮を剃る式にて男子は五歳、女子は三歳の時に之を行ふ）。
ふかつ　深津、武津氏。
ふかづめ　深爪（爪を切るに深く肉の處まで及ぼすをいふ）。
ふかむらさき（形名）深紫、こむらさき、濃紫。
ふかう（形名）不幸、ふしあはせ、十又死亡、凶事。
ふかう（する）扶行、たすけゆく（老人等を）。
ふかう（形名）不孝、親に善く事へざるをいふ）。
ふがう（名）富豪、おほがねもち、ものもち。
ふかうるめ（名）鱶鱭、はしひれ（對馬國の産物）。
ふかく（俗）（名）不覺、まけ（不覺を取るとは戰爭などに敗北するをいふ、十又あきらめあしきこと（不覺の涙をながすなど云ふ、不覺悟の涙といふ義なり）。
ふがく（形）不學、ものしらぬ（學文なき）。
ぶがく（名）舞樂、まひはやし。
ふがく（名）武學、兵學、兵法、いくさのがくもん。
ふかぐつ（名）深履、長ながくつ、靴。
ふかくさのの　深草野（山城國紀伊郡の地名）。
ふかや　深谷氏、また地名。
ふかやまち　深谷町（武藏國大里郡の町名）。
ふかやすどほり　深安郡（備後國の郡の名）。
ふかまぐるひ（名）密夫狂、まぐるひ（遊女の）。
ふがふ（する）（自）符合、よくあふ。
ふかで（名）深蕨、蕨（名）蕨、ふかき、ふかきぞ。

ふかざめ（名）鱶、ふか（動物）。
ふかき（形）深（下に長き）、十遠、はるか、おくまりたる、幽、玄、おくふかき。
ふかきたに　深谷、幽谷、幽壑（山奥の谷）。
ふかきやま　深山、みやま、おくふかきやま。
ふかみどり（名）深緑、こきみどり。
ふかみるの（枕）深海松（ふかめ）の枕詞。
ふかみぐさ（名）牡丹、はつかぐさ、ぼたん、なとりぐさ（植物）。
ふかしぎ（形）不可思議、ふしぎ、おもひはかられぬ。
ふかしぎろん（名）不可思議論（萬物の本は知るべからずといふ哲學論）。
ふかえ　深江氏。
ふがひない（俗）（形）醜無甲斐、卑怯未練、おくびやう、十やくにたたぬ。
ふかぜい（名）附加稅、つけたしぜいきん。
ふかす（他）蒸、むす（蒸氣にて煮る）。
ふかんにん（俗）（形）浮世、俗之を、あこがれるの字に假用す）。
ふかんがん　不堪忍、はちだちつぽい、がまんせぬ、しのばぬ。
ふよ（形）不瑜、すぐれぬ、不例、ふかげん（高位の人の病あるを云ふ）。
ふよ（する）（他）賦與、天より、附與人に於て、あたへる、さづける。
ふより（名）附庸、屬國、大國に屬する小邦。
ふより（俗）形）不用、いちぬ、ようなき、もちひぬ。
ふより（名）美學、遜の異名、はちす、はす（植物）。
ふより（名）蜘蛛、かたかへり（動物）。

ふよりい　不用意、ことろをもちひぬ、ものづかちなる、十不注意、ゆだん。
ふよりほう　芙蓉峯（富士山を美か名づく、是れは富士を八葉の蓮花に見たてたる也）。
ふよりじん（俗）形　不用心、無用心、ようじんせぬ、うつかりしたる、十あぶない。
ふよく（する）（他）覆翼、おほひたすくる、かばふ。
ふた（名）蓋、おほひ、おひ（器物の）。
ふた（名）蓋瓦、かまぶた、ぐきものかは。
ふだ（名）簡、牘、繰、札、牌、籌、札牌、牘票、帖、ものかけるかみ或いた。
ふた（名）豬、家猪、猴、羔、豕、小豚、十大豬、封豕、おほぶた（動物）。
ふたい（する）附帶、つきてある、つきそふ、十ともなふ。
ふたい（名）不退、あとしざりせず、しりぞかぬ。
ふだい（名）譜代、世世代代の義にして代代主家に臣屬したるをいふ、此の如き臣下を譜代相傳の臣といふなり、是れよりして德川將軍の直臣なる大名を譜代大名と呼びまた門譜代衆とも呼び、之に反するを外樣大名と稱す。
ふたい（名）舞臺、劇場の演劇場（舞臺、戲臺、十まひどの）。
ふたいさと（名）判從兄弟、またいとこ。
ふたいてり（名）舞對鳥、ふうてう（動物）。
ふたば（名）二葉、ふたつのは、めだちのは。
ふたばちやう　二葉町（東京市芝區の町）。
ふたへ　二重、ふたかさね、十また二層。
ふたへまぶち　層披目（眶の二重なるもの、重瞼）。
ふたへどし（名）春腰、おとびどし、まがりどし。

ふたへ　重瞼、にがゆうひとみ。
ふたり　兩人、二人。
ふたりしづか（名）雙巳（植物）。
ふたぬき（名）二貫、ふたのなを古（の）。
ふたれや　雙親、兩親、もろおや、父母。
ふたがる（自）塞、ふさがる古語。
ふだがみ（名）標紙、札紙、かみのふだ。
ふたより（副）二度、ふたたび、にど。
ふたたび（副）再、兩回、二回、再度、復、にど（二度）。
ふたたびしらぶる　再審、しらべなほす。
ふたつ（名）布達、おふれ（官府の）。
ふたつ（名形）二、貳、兩、弐、二個、兩個、双、雙、對。
ふたつかしらのへび（名）兩頭蛇、岐首蛇、越王蛇、枳首蛇（動物）。
ふたつねき（形）無二、無比、無類、無雙、またとなき、たぐひなき。
ふたなり（名）二形、半陰陽、女男人、半月陰、半月（陽一體にて男女を具たるものを云ふ、人痾、半月、はにわり、をとこおんな）。
ふたらく（名）補陀落、佛經の語にて觀世音の願出せし地名、また觀世音を指して云ふ。
ふたり（形）不黨、とたうせぬ、かたよらぬ、不偏。
ふたり（形）不當、あたらぬ、十あたりがたき、十ふさはしからぬ、ふてきたう。
ふたり（自）仆倒、たふる。
ふたり（形）不捲、たわまぬ、ひるまぬ。
ふたり（名）舞踏、をどり。
ふたり（形）無道、不道、みちならぬ、みちたがき、よこしま、あしき。
ふたり（名）葡萄、草龍珠（植物）。

ふたり（名）武道、武邊、いくさのみち、十たたかひのみち。
ふたりいし（名）葡萄石（遠江殿河などより出づる一種の石）。
ふたりねう（名）不倒翁、おきあがりこぼふし（小兒の玩弄物、だるま）。
ふたりかん（名）葡萄糖（醸理の石、葡萄の種子を取り擂鉢にてすり葛粉を入れ鹽にて味をつけ火にかけ能くねりて箱に流しさめて後庖丁にて切るなり）。
ふたりづる（名）葡萄蔓、葡萄棚、ぶだうのき（植物）。
ふたりしゆ（名）葡萄酒、ぶだうさけ（葡萄にて造れる酒）。
ふたらせき（名）葡萄石、蛇蛻石（石の名）。
ふたの（名）腰布、こしまき、脚布。
ふだのつじ（名）札辻、高札場（布告を公示せる場）、制札場。
ふだのつじ　札辻（東京市芝區芝田町にて三田へ通ずる角をいふ）。
ふたのあぶら　豕脂、豚油、ぶたよりとるあぶら。
ふたく（する）（他）附托、あづける。
ふたぐ（他）塞、塡、ふさぐ（古語）。
ふたくちどえ　二口越（陸前國柴田郡に在る山）。
ふたまた　兩叉、岐枝、屋頭、雙生、二股、又生、ふたつのえだ、ふたつつめ。
ふたまたたけ（名）雙岐竹、扶竹、天竺竹、相思竹、雙生竹、雙頭竹（植物）。
ふたまゆ（名）鰈鯖、ふたつまゆ、ふたごもり。
ふたふ（名）鷹刮、ほりもの、文身。
ふたふ（名）舞踏、をどり、まひ（西洋流の）。

ふたど（名）蒙、孖、雙兒、雙生兒（一時に二人生れたるもの）。
ふたといと　二股絲、雙絲（二本の股を綯りたるいと）。
ふたとれり（名）二子織（織物の名）。
ふたどや（名）豚小屋、家豬（ぶたを入るる小屋）。
ふたどやま　二子山（相模國足柄下郡、また下野國安蘇郡に在る山）。
ふたごころ　二心、ふたつのこころ、十反心、そむくこころ（君に）。
ふたともり（名形）二難、ふたつまゆ、ふたまゆ、かさなれるまゆ（繭の）。
ふたあぶ（名）蓋明劇場（開くを俗に然か云ふ、札差（幕府の時に諸官員の扶持米を金に易ふること）を勤めしもの）。
ふため（俗）（形）不益、不利、ためにならぬ、がいある（有害）。
ふためく（自）狼狽、はせまどふ、あわてる。
ふたみがうら　二見浦（伊勢國の海濱なる名勝の地にして二見潟とも云ふ）。
ふたしよ（俗）（名）札所、順禮（巡三十三所の觀音堂及び八十八所の大師等の靈場をいふ）。
ふたもの（名）蓋物、ふたのあるせもの。
ふたもじ（名）（一する）（他）負擔、おひになふこと、にもひになふ、かつぐ。
ふたん（名）焊鐵、鉄鉛、けしすみ、けしたるすみ。
ふたん（俗）（名）副）不斷、たえず、十（俗）つねに、平生。
ふたん（ぶたん）（副）無談、ふるめかしきはなし、陳腐語。
ふたふ（名）舞踏、をどり、まひ（西洋流の）。

ふだん（形）武斷、武力を以て斷行する。
ふだんかう（名）不斷香、佛前に焚く常香をいふ、無壓淵とも名づく。
ふだんさう（名）甜菜、碧蓮菜、たうぢさ（植物）。
ふだんざくら（名）不斷櫻、十月に花の咲く櫻、かへりばなさくさくら（植物）。
ふだんぎ（名）便衣、褻衣、つれぎ。
ふれ（名）村、むら（古語）。
ふれい（名）布令、ふれごと官府の。
ふれい（形）不例、つねならぬ、ことちがしき、違例、不豫、少し病ある、ふかげん。
ふれい（形）負疋失禮に同じ。
ふれいいかう（形）無禮、れいなき、ぶさはふ。
ふれる（名）無禮講、上下長幼の差別なく隨意に談論飲食する會を云ふ。
ふれる（自）觸、接觸、さはる、十抵觸、さしあふ、十磨觸、とすれる。
ふれる（自）狂、くるふ、十搖、うごく。
ふれがき（名）觸書、布達書、布告書、府の。
ふれだす（他）公布、ふれしめす、十廣告。
ふれつ（する）（他自）敷列、つらねる、しく、つらなる。
ふれつてんわう（形）武烈、はげしき、たけき。
ふれつ（形）武烈天皇（人皇第二十五代の帝紀元一千百五十九年（西洋紀元四百九十九年）より一千百六十六年迄、在位八年御譯一說に十八歲）。
ふれり（名）風鈴、ふうりん、鐸鈴。
ふれり（名）無聊、たのしみなき、たのしかちぬ。
ふれりけん（俗）（名）不了簡、こころえちがひ、十あしきかんがへ。
ふれやく（名）傳令者、ふれつたふるもの。
ふれぶみ（名）公布文、ふれがき、十回文、回狀、まはしぶみ。
ふれあそび（名）遊戯、たはむれあそび。
ふれじやう（名）觸狀、公布狀、回文、ふれがき。
ふれん（形）不讓、高慢、あたひたかき、やすかちぬ。
ふれん（名）賦斂、ねんぐのとりたて。
ふそ（名）父祖、ちち、おや、先祖。
ふそ（する）（他）咬嚼、かみこなす、よくあぢはふ、嚼。
ふそ（名）賦租、みつぎもの、ねんぐ。
ふそ（形）扶疎、まばら、ばらばら（木の枝等が）、扶疎、しげれる木の枝等が。
ふそろひ（俗）（形）不揃、不齊、區區、そろはぬ。
ふそう（する）（他）髯鬚、はしけ、小舟にて大船へ。
ふぞう（名）賦贈、おくりもの（貴人の家へ）。
ふぞうふげん（形）不增不減、まさず へらず。
ふそく（形名）不足、たらはぬ、十たらぬこと。
ふそく（形）不調、はかられぬ、不思議、常に、ふしぎ、とよむ、「ふしぎ」を見よ。
ふぞく（名）（—する）（自）附屬、つきもの、つきそふ、つきまとふ。
ふたん（形）不遜、おごる、たかぶる、あはへい。
ふつ（名）佛、金仙、覺者、ほとけ。
ふつ（名）物、もの、しな。
ふつ（他）打、うつ、たたく。
ふつろん（名）物論、時論、物議、世間の議論。
ふつばち（名）佛鉢、はとけのとがめ。
ふつに（副）全、まったく、さらさら。
ふつほふ（名）佛法、はとけのみち。
ふつぼふそう（名）佛法僧、はとけ及ばうず之を三寶といふ。
ふつぼふさう（名）佛法僧三寶鳥、とりの名（動物）。
ふつぼつ（名）拂梵、まひぎれ。
ふつさ（副）全、更、まったく、さらに。
ふつさ（する）（自）拂塵、わきあがる、にえかへる。
ふつさうさん（名）拂塵散、曹達と酒石酸との混和物。
ふつさうきく（名）佛頭菊、はまぎく、だるまぎく（植物）。
ふつさうする（形）拂塵水、ふつとうさんのみず。
ふづとめ（俗）（形）不動、なまけ、おこたる。
ふつぢよ（する）（他）戒除、はちひのぞく。
ふつちやうづら（名）佛頂面、おこりがほ、はちたちがほ。
ふつぢん（名）拂塵、きいはい、ちりはらひ。
ふつり（名）物理、もののわけ、事物の道理。
ふつりがく（名）物理學（物の形體、性質、作用、現象等を究むる學問）。
ふつりあひ（俗）（形）不釣合、つりあひあしきこと、十ふにあひ。
ふつりき（名）佛力、はとけのちから。
ふつりんく（名）佛林狗、ちん、狆、（佛林國より來るをもつて此名あり）動物。
ふつるる（名）物類、種類、たぐひ。
ふつれん（名）佛恩、はとけのめぐみ。
ふつか（名）二日第二の日また二個の日、十勞死鳩、近死鳩。
ふつか（名）佛家、てら、十又ばうず。
ふつか（名）物價、もののあたひ、ねだん。
ふつが（名）物我、外物と我、ものとわれ。
ふつがい（名）佛蓋、天蓋に同じ。
ふつかよひ（名）宿酢、宿酲、ながよひ、酒の（さけあたり。
ふつかく（名）佛閣、堂宇、伽藍、てら、佛を安置したる大寺院をいふ。
ふつかけ或**ふつかけめし**（俗）（名）打掛、借字なり、褥を打ちかけて食ふ飯、即ち茶漬の類なり、一筒のぶつかけ一鬱の小半酒など云ふ。
ふつがふ（俗）（形）不都合、かつてあしき、ぐあひよからぬ、よろしからぬ。
ふつかふさう（名）佛甲草、いはれんげ、はそばのまんねんぐさ、をのまんねんぐさ、ほとけのつめ、植物。
ふつかぎ　二日著、京都島原の遊女が正月二日に著る衣裳をいふ。
ふつだ（名）佛陀、ほとけ、浮屠、佛、梵語。
ふつたい（名）物體、ものの、かたち。
ふつたう（名）佛道、佛法、ほとけのみち。
ふつだう（名）佛堂、佛宇、てら、佛閣。
ふつたふす（俗）（他）打倒、うちたふす。
ふつたん（名）佛壇、佛像を安置する龕或は小舍。
ふつそ（副）佛壇、佛法開基の始祖を云ふ。
ふつつり（俗）（副）拂然、さつぱり、斷然、すつかり。
ふつつか（俗）（形）不束、ふゆきとどき、ぶてうはふ。
ふつつける（他）打當、うちつける、なげつける。
ふつふつ（形副）拂拂、湯のわきかへるる音、又人ゆつぶやく壁に云ふ。
ふつらうし（名）佛郎愛、ふちそことくり。
ふつう（形）不通、とほちぬ、もとなはれぬ、十しちぬ。
ふつう（形）普通、あたりまへ（なみなみなる、十又あまねくとほる。
ふつう（名）佛字、佛閣に同じ、てら。
ふつうよう（形）不通用、とほちぬ、惡貨幣等が。
ふつのかくれす　富津陽洲上總國の地名。
ふつく（名）佛供、ほとけのそなへもの、佛餉、佛饌。
ふつぐ（名）佛具、ほとけのうつは、佛器、ぶぐ。
ふつくり（俗）（形副）豐益、ふくちか、ふくれて、ぽつちやり。
ふつくわ（名）佛果、ほとけのくわは う終に佛と成るの事をいふ。
ふづくわ（名）物貨、しろもの、しなもの。
ふづくむ（自）悉、いかる、怒、はちたつ。
ふつくさ（名）蔘薬、仙人草（植物）。
ふづくろ（名）文机、書案、書物を載せて見る机。
ふつやう（する）（自）拂塵、わきたつ、にえくりかへる湯が。
ふつま（名）肥馬、ふとりたるうま。
ふつまち（名）佛間、佛壇を安置する處。
ふつまつ（名）拂沫、あわだち、あわ、水の。
ふつけ（名）佛案、「ぶつかた」に同じ。
ふつけう（名副）拂曉、あけがた、未明、よのひきあけ、あけぼの。
ふつけう（名）佛教、ほとけのをしへ、佛法。
ふつふつ（形副）拂拂、ほのか、十かすかに。
ふつぶつ（副）拂拂、湯のわきかへる音、又人ゆつぶやく壁に云ふ。
ふつほ（名）佛頭、ふちんすことば。
ふつど　佛語、ほとけのことば、佛經中にある句を也然か名づく。
ふつと（する）（自）物故、みまかる、しぬる。
ふつとろ（名）愧、ふところ。
ふつとう（名）佛工、佛像佛具などを作る人（佛師、ぶつし。
ふつとく　佛國、ふちんすのくに（歐羅巴洲の國の名）。
ふつてい（俗）（形）拂底、そこをはらふ、すくなきまれなる、とぼしき。
ふつてん　佛典、ほとけのふみ、佛書、佛籍、內典。
ふつでん（名）佛殿、佛閣と同じ、てら。
ふつざ（名）佛座、ほとけをすゑまくところ、蓮華座、蓮座。
ふつさう（俗）（形）物騷、ものさわがしき、おだやかなちぬ。
ふつざう　佛像、ほとけのざう。
ふつざうげ（名）佛桑花、扶桑、朱槿、赤槿、日及、はとれいばら（植物）。
ふつさん（名）佛發、ほとけまうで、てらまゐり。
ふつさん（名）物產、なりいでもの（土地にて產出する貨物をいふ。
ふつさんか（名）物產家、物產を起す人。
ふつさ（する）拂貨、腦貨、あがる、のぼる（物價等が）。
ふつさ　富貴、ふうき、とめるたふとき。
ふづさ（名）拂騷、騷論、騷論、やかましいぎろん。
ふつさ　佛發、ほとけのうつは、佛具。
ふつさ　物騷、とりざた、うはさ（世間の批評をい

ふ、世評。

ふつきり　幾錢、まひぎり。

ふつきやう　佛經、ほとけのふみ(佛道の經書)。

ふつきあひ(俗)(形)　不附合、つきあはぬ、不交際。

ふつめんちく(名)　佛面竹、ほとけざさ(植物)。

ふつし(名)　拂子、あせぼ、あせいも、夏生ずる小さきふきて物。

ふつし(名)　佛師、佛工、佛匠、ほとけづくり、ほとけし。

ふつじ(名)　佛事、法會、死者の爲に備す法會)。

ふつじ(名)　佛寺、編鐘、鬪若、てち、おちん。

ふつじ(名)　佛耳、ほとけぐし(植物)。

ふつしよ　佛書、佛典、佛經、經卷、ほとけのほん。

ふつしよく〔する〕　拂拭、はらひぬぐふ、ふく。

ふつしよく(名)—する(他)　物色、もののいろ(鳥獸草木などの象景また人相をいふ、記名字物色など云ふ、うかがふ、たづぬる、遣人物色など云ふ、また罪人を人相書に由りて探索するをいふ。

ふつしつ(名)　物質、もののかたち、もの、かたちあるもの。

ふつしや(名)　佛者、佛法を信仰する者、又佛法を主張する人。

ふつしやう　佛性、ほとけのたち、ほとけのこころ。

ふつじやう(名)　物情、世人の心情をいふ。

ふつしやう(名)　佛餉、佛饌、佛供米をいふ、ほとけにさゝげるこめ。

ふつしやうしよ(名)　佛常體、つくりも、つくねいも(植物。

ふつしやう系(名)　佛生貪、太陰、暦四月八日の釋迦誕生の節を云ふ、佛誕日、灌佛會。

ふつじさう(名)　佛耳草、ほとけのざ(植物)。

ふつしゆ　佛穢、ほとけのたれ、ほとけとなるべきちなみ。

ふつしんしゆう(名)　佛心宗、禪宗を云ふ。

ふづ系(名)　文杖、ふみをはさむつゑ、ふばさみ。

ふつえん　佛縁、佛業、ほとけのえすがた。

ふつぴん(名)　佛錢、ほとけのちなみ。

ふつもん(名)　物品、しなもの、貨物、しな。

ふつせ(名)　佛門、佛道をいふ。

ふつせ(名)　稚「ふるせ」を見よ(植物)。

ふつせつ(名)　佛利寺を云ふ、梵刹、てち。

ふつせつ(名)　佛說、ほとけのとけることば。

ふつせん(名)　沸泉、わきいづるいづみ。

ふつせん(副)　沸然、ふつつり、きつぱり、斷然。

ふつせん(副)　艴然、怒る貌、くわつと、やつき。

ふつせん(名)　佛龍、ほとけのまへ。

ふね(名)　船、舶、舟、艦、船舶、船艦、巷海、浮家、記宅、河海を乘りわたる具、十柯、艇こぶね、はしけぶね。

ふね(名)　榾酒樽、水樽、馬糟等あり、いれものを

ふねい(形、代名詞)　不佞、不才と同じくして謙退遜謂の詞、わたくし。

ふねにのる　乘船、搭船、上船、ふねにいる。

ふねがひ(名)　船具、あまをぶね(動物)。

ふねう(形)　豐饒、ほうぜう、ゆたか、たくさんある、あまりある。

ふねのへ　船舳、ふねのまつさき、みよし。

ふねのへさき　船首、船舳、みよし、ふねのはな。

ふねのわたりいた　艫板、あゆみいた、さんばし、棧橋。

ふねののめ　櫓、みづのもりをふさぐわたのるゐ。

ふねのまをざし　破浪神(船に祭る神)。

ふねやみ(名)　紅曇、船曇、苦船、ふねによふこと、ふなやもひ、ふなけ、ふなゑひ。

ふねん(形)　無念、うつかり、不注意「ねんを參看せよ。

ふな(名)　船、舟、船舶、ふね。

ふな(名)　鯛、鮒、吉魚(動物)。

ふないかり(名)　鐵錨、鐵十字、いかり。

ふないれ(名)　船廠、船をいれおく處、ふなどや。

ふないうれい(名)　船幽靈、水鬼、溺船して死にたる者の亡魂。

ふないくさ(名)　水軍、うみかはのいくさ。

ふなるどほり　船井郡、丹波國の郡の名。

ふなば(名)　船場、ふなつき、みなと。

ふなばり(名)　舟樂、ふなげた。

ふなばた(名)　舷、船側、船縁、ふなべり、ふねのふち(船の間邊をいふ、船端の義なり。

ふなばら(名)　船腹、ふねのはらのかた(船の中程をいふ。

ふなばらさう(名)　白蘆(植物)。

ふなばし　舟橋、船橋、浮樂、浮橋、船を多く並べ浮べて橋となせるもの。

ふなばし　船橋氏、また下総國東葛飾郡の地名。

ふなばしご(名)　船梯子、ふねのはしご(船に附きたる梯子)。

ふなぼりがは　船堀川、武州隅田川の東に通ずる溝渠。

ふなべり(名)　舷、船邊なり、船の間邊をいふ、ふなばた。

ふなど　道祖氏。

ふなどのかみ　道祖神、みちのかみ、道路の神の名。

ふなどまり(名)　船泊、ふながかり、ふなつき、みなと、船にて泊ること、また船にて泊るべき處。

ふなどめ(名)　船禁、鎖港、つどめ、船舶の出入を禁ずること。

ふなどひや(名)　船問屋、船の出入を扱ふ商人。

ふなとも(名)　船艫、艫尾、ふねのうしろ、とも。

ふなどんや(名)　船問屋「ふなどひや」の轉。

ふなぢ(名)　船路、航路、水路、水程、うみぢ、ふねにてゆくみち、十ふねのたびぢ。

ふなちやう　舟町、東京市四谷區の町。

ふなちん(名)　船賃、船錢、ふねにのるあたひ、十ふねにものつわるあたひ、ふねのだい。

ふなぬし(名)　船長、ふなをさ、ふねのかしら、キャプテン。

ふなれろし(名)　船下、進水式(新しき船を海におろすこと、しんざうおろし。

ふなをかやま　舟岡山、山城國愛宕郡に在る山、また和泉國泉南郡に在る山の名。

ふなをさ(名)　船長、ふねのかしら、キャプテン。

ふなわたし(名)　渡船場、津路、渡口、ふなわたり、馬頭、わたしば。

ふなが　船河原町、東京市牛込區市ケ谷の町。

ふながかり(名)　船繋、船泊、碇泊、停泊、ふなやどり、港に船の止ること。

ふなかた(名)　船奴、榜人、ふねこぐひと、水手、かこ。

ふなかつせん(名)　船合戰、船鬪、船戰、ふないくさ。

ふなき(名)　山毛欅(植物)。

ふなのすずめやき(名)　鯛之雀燒、鯛を用に買きゝ燒きたるをいふ。

ふなぐら(名)　船蔵、船倉、船中に設けたる貨物を入れおく處。

ふなくらべ(名)　競渡、競漕、ふなかけ、船にて迅さを競ふ戲、こぎくらべ。

ふなやど(名)　船宿、船頭水夫等の旅舍、また遊客に船を貸す家。

ふなやかた(名)　篷屋、舫舘、ふねのあはひ、ふなやね、船上の屋をいふ。

ふなやもひ(名)　苦船、ふなゑひ、ふなけ(ふねやみを見よ。

ふなまど(名)　船窗、篷窗、ふねのまど。

ふなまつちやう(名)　船松町、東京市京橋區の町。

ふなまんぢう(名)　船饅頭、船に往きて淫を賣る女、ふねぢようろ。

ふなぞこ(名)　舟底、ふねのそこ、船底、船の內部或は外部の最も卑き處。

ふなつな(名)　船綱、ふねのつな。

ふなつまち(名)　船津町、飛彈國吉城郡の町名。

ふなつき(名)　船着、埠頭、船場、波戸場はとば、みなと、港、海口。

ふなづみ(名)　船積、船につみたる貨物。

ふなむし(名)　船蛆、海蛆、船の底にたかる海蟲(動物。

ふなうた(名)　船歌、欸乃、櫓歌、水手の謠ふ歌。

ふなうんじやう(名)　船運上、船稅、ふねのぜい。

ふなのへせん　船上山、伯耆國東伯郡に在る山。

ふなのり(名)　舟子、せんどう、ふなこ。

ふなげた(名)　舟桁、ふねのけた。

ふなこ(名)　舟子、棹卒、ふなびと、篙師、淵客、舟人、棹子。

ふなことほれ(名)　船道祭、船にて救はれたる人、たすかりて。

ふなどや(名)　船小屋、ふないれ、ふねいれどや、船廠、十造船廠。

ふなどけ(名)　船底苔、ふねのそこにはゆるこけ。

ふなとし　船越氏。

ふなとしのひれ(名)　船越鰭、國の調に應して生たる左のひれ、「ひぎやうのひれ」に對す、鰭て見よ。

ふなて(名)　船隊、艦隊、海軍、水兵、ふないくさびと。

ふなで（名）船出、解纜、しゅつぱん。
ふなあそび（名）船遊（船にて遊びに出づること、ふなゆさん。
ふなあらため（名）查船、ふねしらべ、ふねのけんさ。
ふなあきんど（名）舶商、海賈（船にて商賣する人）。
ふなあし（名）舟脚、吃水（船の底の方の水に入る處）。
ふなざを（名）船棹、篙、さを、浮棋、ふねこぎを。
ふなさし（名）船差（船舶會社支配人の命を受けて船頭に船舶の出入を差圖するを役とする人）。
ふなき　舟木氏。
ふなき（名）船材、艤材、ふねをつくるざいもく。
ふなきほひ（名）競船、ふねのはしりくらべ。
ふなぎみ（名）船長、せんちやう。
ふなゆさん（俗）（名）船遊山、ふなあそび。
ふなみち（名）舟路、船道（船の通ふべき路）。
ふなみまち　舟見町（越中國下新川郡の町名）。
ふなじるし（名）船印、ふねのはた。
ふなゑび（名）船蟲、ふねにゑふこと（ふねやみ）を見よ。
ふなびと（名）舟子、ふなこ、榜人、舟人、賈頭郎、船人、ふねこぐひと、かこ。
ふなひき（名）拽夫、緋夫、ひきふねするひと。
ふなもち（名）船持、船主、船戸、ふねあるひと、ふねをもつひと。
ふなもやひ（名）舫、艢、隋船を並ぶるを云ふ。
ふなん（形）無難、なんなき、きはりなき。
ぶらい（形）無賴、たのみになちぬ、たのもしげなき、わがままなる、はしいままなる。
ぶらいもの（名）無賴者、ならずもの、わるもの、はしにもぼうにもかからぬひと。
ぶらちな（俗）（形）不粹、ふとどき、つつしみなき。
ぶらちな（名）白金（金屬の中の最も堅きものにて其價金にも勝る（洋語）。
ぶらちやうちん（名）紐提燈（其形丸くして柄の先に付けてブラブラ持ち歩く提燈）。
ぶらり（俗）（副）偶然、ゆくりなく、ふとして。
ぶらつく（自）躊躇、ぶらぶらする、十また疊旋、めがまふ。
ぶらねる（名）弗蘭絨、朋絨（西洋の毛織物）。
ぶらり（名）父老、としより、長老。
ぶらり（形）不老、としよらぬ、おいぬ、もいず。
ぶらり（形）浮浪、さまよふ、ぶらつく、やどなし、流浪。
ぶらりさ（名）浮浪徒、ちうにん、さすらひびと。
ぶらりがひ（名）不老貝、かひの名（動物）。
ぶらりし（名）不老枝、えぎのき（植物）。
ぶらく（名）部落（一群の居民をいふ、直に野蠻人に用ふ、むら）。
ぶらぶら（副形）吊鬣、ぶらさがりて（瓜等の如く）。
ぶらぶらやまひ（名）緩病、慢性病、だらだらやまひ、ながびくやまひ
ぶらと（名）鞦韆、ぶちんと。
ぶらじる　伯西爾（南亞米利加の地名）。
ぶらす（他）令降、ふるやうにする（雨を）。
ぶらすと（名）佛狼爽、玻璃瓶、がらすびん（西洋風の）。
ぶらん（する）（自）腐爛、くされただれる、くさる、爛敗。
ぶらんく（名）法（佛蘭西の貨幣の名にして我が二十錢程に當る）。
ぶらんけつと（名）龍子、けありしきもの。
ぶらんと（名）鞦韆、半仙戲、ゆきはり（空に懸りて身を搖かす戲）。
ぶらんぢ（名）蜂蜜、たまごをかけうつは。
ぶらんす　佛蘭西（歐羅巴洲の國名）。
ぶむ（他）風、踏、蹂、躪、蹂、蹂、蹂、蹂、足にて踏む、足の下にして）。
ぶむな（俗）（形）不向、ふさはし、うれぬ、よくはけぬ、十又ふさはしからぬ。
ふう（名）風、俗、風習、ありさま、ならはし。
ふう（名）風、かぜ（空氣の動搖するもの）。
ふう（名）風、か（植物）。
ふう（する）（他）風牛馬牝牡相誘ひ相戲るるをいふ、十（自）外氣に觸れ變しむ。
ふう（する）（自）諷、それとなくいやがらせする、にはは す。
ふう（名）、—する（他）封、符、ふうじ、のりつけ、縅封、のりつけする（書信を）。
ふういう（する）（他）風誘、はのめかす、にはは する。
ふういん（名）風韻、みやびたるおもむき。
ふういん（名）封印、縅印、ふうじじるし、のりつけ。
ふうろ（名）風鑪、あきのつゆ（秋夜秋風の吹きて成せる鑪をいひて物憐れなる形容に用ふ）。
ふうろさう（名）風蘆草、牧牛兒苗、げんのしようこ（植物）。
ふうは　風波、なみかぜ、あれ海上のぐうみあれ。

ふうはう（名）風砲（かざでつぱう（空氣にて打ち出す鐵砲）。
ふうはく（名）風伯、かぜのかみ、風神、しなつひこ、風師。
ふうばきう　風馬牛（牝牡相戲るる牛馬、また風馬牛相及ばずとは地の遠く隔りたるにいふ也）。
ふうはん（名）風帆、ふねのほ。
ふうへう（名）風標、かざじるし、かざみ。
ふうさう（名）風囊、風袋、包袋（貨物の外包の畳目をいふ）。
ふうさう（名）封筒、狀袋、じやうぶくろ、ふうじぶくろ、ふうじぶくろ、封套。
ふうざう（他）風動感動するをいふ。
ふうざうかつら（名）南藤、土蔓藤（植物）。
ふうざく（名）風致、風雅、風韻、みやびたるありさま、がち雅致。
ふうちびやう（名）風地病（琉球八重山島に固有なる腦病にして同島に住するものは大抵これが爲に死すと云ふ）。
ふうちん（名）風鐸、かざあさへ、ぶんちん。
ふうぢん（名）風塵、ちりほこり（世上の事柄に譬へ云ふ）。
ふうりう（名）風流、みやびわざ、風雅、ふうが、風致、都雅。
ふうりん（名）風鈴、風鐸、齊鐸、齊馬（風に吹かれて鳴る鈴）。
ふうりんさい（名）風鈴菜、くるまばな、櫻川草（植物）。
ふうりんさう（名）風輪草、さくらさう（植物）。
ふうか（名）富家、とめるい（かねもち）。
ふうが（名）風雅、みやびたること、がちあること。
ふうがい（名）風蘂（風采に同じ）。
ふうかふ（名）風蛤、あかがへる（動物）。
ふうかん（名）風寒、太陰曆十一月の異名）。
ふうかん（名）諷諫、それとなくいさむること、君を、にははしていさむること、なぞらへていさむること。
ふうがん（名）風眼、眼病の名）。
ふうたい（名）風袋、包袋（貨物の外包の畳目をいひて封皮紐帶の略と云ふ）。
ふうたい（名）風帶、驚蟄（掛軸に施す緣（ふち）を）。
ふうたい（俗）（名）風體（「ふうつき」の下を見よ）。
ふうたう（名）封套、ふうじぶくろ（「ふうとう」を見よ）。
ふうたく（名）風鐸、ふうりん、鐸鈴、風拳。
ふうれい（名）風領、えりまき、えりあたため。
ふうれい（名）風鑢、れんじ。
ふうぞく（名）風俗、よのならはし、ふり、てぶり、慣例、しきたり。
ふうぞくぐわ（名）風俗畫（當時の人物工藝等を寫せる畫、うきよえ。
ふうそん（名）風損、大風より生じたる損害。
ふうつき（俗）（名）風著、そぶり、かちだつき、ふうてい。
ふうらい（形）風來、ふときたる、おもはずきたる。
ふうらふ（名）封蠟、火漆、ふうじのり（書簡を封ずる堅き蠟）。
ふうらん（名）風蘭、桂蘭、仙草（植物）。
ふうう（名）風雨、あめかぜ、あらし。
ふううしん（名）風雨鍼、晴雨儀（晴天雨天等を豫め見る機械）。
ふうのり（名）封緘、封粉、ふうじのり（書簡を）。
ふうくわ（名）風化、感化するをいふ、十又空氣に逢ひて細粉となる。
ふうくわう（名）風光、けしき、ありさま、みる。
ふうけい（名）風景、けしき、ありさま。
ふうけつ（名）風穴、かざあな、かぜとはしあな。
ふうげつ　風月（春風秋月の光景をいふ）。
ふうけう（名）風教、風儀（國民の良風俗をいふ）。
ふうふ　夫婦、をつとめ、めうと、配偶、伉儷、つれあひ、夫妻。
ふうぶん（名）風聞、ほのかにきく、とりざた。
ふうつ（名）風骨、風姿、すがた、かたち、かちだ、こつがち。
ふうとう（名）風候、かざみ（風の方向を見る具）、俠風、檜風。
ふうとうのはちぢん　風后八陣（天、地、雲、風、飛龍、虎翼、鳥翔、蛇蟠）。
ふうてい（名）風體、なりふり、みなり、すがた、やうす。
ふうてう（名）風鳥、鳥風（鷹鳥、無對鳥、練鵲、うるはしきとりの名）動物。
ふうてう（名）風潮、よのいきはひ（時勢の赴く所をいふ）。
ふうてう（名）風蝶（詩歌の音調をいふ）。

［圖の］

ふうてん（名）風顛、きちがひ、狂氣。
ふうさ（名）—する（他）封鎖、はうさを見上。
ふうさい（名）風采、をとこぶり、みかけ、やうす、ふうてい。
ふうさい（名）風災、かぜのわざはひ。
ふうさう（名）風霜、かぜとしも。
ふうさ（名）風紀（風習上の規律）。
ふうさ（名）風氣（氣候、十ならはし、十風邪、かぜひき。
ふうさ　富貴、とめるたうとき。
ふうぎ（名）風儀、ならはし、ふり、てぶり。
ふうぎ（名）風戯、あそび、たはむれ。
〔ふうきつ〕　風吉、かざきり氏。
ふうきむら　富貴村（尾張國知多郡の村名）。
ふうきん（名）風琴、オルガン（西洋琴の一種）。
ふうきん（名）調錦、それとなしにときさとすこと。
ふうゆ（名）風味、あぢはひ、かをり。
ふうみ（名）夫子（大夫以上及び才藝道德の秀でたるもの）。
ふうし（名）風師、かぜのかみ、風伯。
ふうし（名）風姿、すがた、かたち、風采。
ふうし（名）諷刺、あてこすり、みみこすり、それとなしにそしること、とはまはしにそしること。
ふうじる（他）封、緘、綱封、糊封、蠟封、のりづけにする（書翰等を）。
ふうしよ（名）封書（封じたる書狀）。
ふうしよう〔する〕諷誦、よむ、となへる（歌などを）。
ふうしよく（名）風色、けしき、みえ、ありさま。
ふうしつ（名）風疾、つうふう、風邪、ルウマチズム（病名）。
ふうじむらふ（名）封蝋、ふうじるちふ。
ふうじのり（名）封糊、ふうじるのり。
ふうしや（名）風車、かざぐるま、かぜにてまはすくるま。
ふうじや（名）風邪、かぜひき、ひきかぜ、感冒。
ふうしやう（名）風痼（癇）、ふいご。
ふうじやう（名）風情、ふぜい、あもむき、ありさま、趣致。
ふうしふ（名）風習、ならはし、習慣、しくせ、しきたり。
ふうじぶくろ（名）封袋、封嚢、ふうとう。
ふうじとめる（他）封筒、なかにふうじいれる、十とぢこむる。
ふうじゆ（名）風樹、かへて植物。
ふうじめ（名）封綱、ふうじ、のりづけ（書翰の）。
ふうしん（名）風珍、かざはろし。
ふうしん（名）風神（積神を云ひて詩などに用ふ）。
ふうじん（名）風神、かぜのかみ、風伯、しなつひこ。
ふうひ（名）封皮、ふうじぶくろ、封套。
ふうび〔する〕（他）風靡、なびかす、うごかす（世などを）、風動。
ふうひやう（名）風評、とりざた、ひやうばん。
ふうもん（名）風門（灸穴をいふ）。
ふうせい　風聲、かぜのおと、うはさ。
ふうせつ（名）風説、とりざた、ひやうばん。
ふうせん（名）風癬、たむし（病名）。
ふうせん（名）風船（空中へのぼる船、輕氣球）。
ふうす（名）副寺（禪家の會計を司る僧の稱呼）。
ふうん　浮雲、うきぐも。
ふうん（形）不運、ふしあはせ、ふきいはひ。
ふうん　武運（武士の運命、いくさのさち）、海運、海運、布雲、鹿角菜、粉者植物。
ふのり（名）不能、やくたたずもの。
ふのう（名）
ふのごとう　婦五等（后、夫人、孺子、婦人、妻）。
ふのしけう　婦四教（言、德、功、容）。
ふく（他）拭、ふる、ふるふ（古語）。
ふく（他）葺屋根をやねをふふく、葺。
ふく（他自）吹（口より氣を吐き出す、十又笛等を鳴らす、十又空氣が風となりて動搖するなどをいふ）。
ふく（名）福、さいはひ、幸福、福祉。
ふく（名形）則、そふもの、そへもの、六、十又たすくるもつだふ助。
ふく（名）幅、はば、十又かけもの。
ふく（名）—する（他）眼、きもの、十ひとつつみ（羅の、十きる衣を、十又のむ）。
ふく（名）腹、はら。
ふぐ（名）河豚、鯸魨、鯸鯸、鰒鯸、氣包魚、吹壯魚、江豚、河徒、どくあるうを動物。

［圖の河豚］

ふぐ（名）不愚、まさかのとき、ふいのわざはひ、緩急。
ふぐ（形）不具（五體具備せざるをいふ、又書翰の結尾に云ふ詞にて章を畫きずといふ義に當る）。
ふく（名）衷服、ものきもの、十又ものひかず。
ふぐ（名）武具、ものぐ、いくさのうつは。
ふくい（名）覆衣、あはせごろも。

ふくる　腹位、くちるにかへる。
ふくるちやう　福井町（東京市淺草區の町）。
ふくいう（名）福祐、さいはひ、たすけ（天の）。
ふくいく（形）馥郁、にはやか、かうばしき、芬郁、芬馥。
くふいく（名）馥郁、にしやどち（動物）。
ふくるけんちやう　福井縣（越前國福井市に設置す）。
ふくるし　福井市（越前國足羽郡の大都會）。
ふくいん（名）伏陰（夏の中の寒氣を云ふ）。
ふくいん（名）福音、さいはひのおとづれ、よろこばしきおとづれ、耶蘇教の救拯の道をいふ）。
ふくるん（名）幅員、ひろさ、地の、はば。
ふくろ（名）囊、袋、嚢、ものいれるきれのうつは、十又うちがへ、袋底なき袋。
ふくろど（名）袋戸、ふくろとだな、ふくろだな。
ふくろだね（名）袋戸棚、とこのまとだな。
ふくろがひ（名）囊貝（動物）。
ふくろたたき（名）袋敲（袋に入れて打つが如く痛く甚だしく擦つをいふ）。
ふくろだたき　袋田湯（常陸國久慈郡に在る有名の湯布）。
ふくろだね（名）袋胤、とこのまとだな。
ふくろづの（名）袋角、はるかかりたるしかのつの。
ふくろう（名）梟、鵩、山鶚、梟鴟、猫頭鳥、ははくひどり（動物）。
ふくろくさ（名）景天草（南部の方言、いきくさ（植物）。
ふくろくじゆ（名）福藤寿（七福神の一）。

［圖の貝囊］

ふくろまち　袋町（東京市神田區駿河臺の町、また牛込區にも同名の町あり）。
ふくろまち（名）袋町、袋衝、死巷、ゆきどまりまち、ぬけられぬみち、いきづまりのまち、ふくろこうぢ。
ふくろご（名）袋子、生るる時に膜に包まれて出づる子。
ふくろとうぢ（名）袋小路、ゆきづまりのはそきまた、ふくろまち。
ふくろさがし（名）囊搜（囊中の物を探るが如くに隅隅まで細かに搜すをいふ）。
ふくろさねだ（名）袋眞田（袋の如く中を空にしたる組紐）。
ふくろぶぼし（名）袋烏帽子、かたちふくろにたるるぼし。
ふくろびる（自）縱、はころびる（田舍の俗語）。
ふくろもの（名）袋物、煙草袋、煙管筒等の類の總名。
ふくろものあらためどころ　袋物改所（昔し德川時代に長崎に設けありし輸出品の檢査所の名なり、此にて同物品の性質に隨ひて之が等級を定めて玉石混合の弊を防ぎしと云ふ）。
ふくは　福羽氏。
ふくば（名）副馬、そへうま、のりかへうま。
ふくはい〔する〕腹背、はらせ、前後、まへうしろ。
ふくばち（名）覆鉢塔（佛教にて幸福のある形のもの）。
ふくはら　福原（安德天皇の都したまひし地にして攝津國に在り）。
ふくはう　福報、さいはひのむくい、よきむくい。
ふくはう（名形）寡方（難側に云ふ所なり、難方に反す）。
ふくはく〔する〕（他）覆白、くりかへしまうす。
ふくはく〔する〕（自）逼迫、せまる、せめよする。
ふくにち（名）復日（太陰曆中殷の吉凶相半する日の名）。
ふくぼつ〔する〕（自）覆沒、くつがへる（船等が）。
ふくぼん　覆盆、ぼんをくつがへす（大雨に譬ふ）。
ふくぼんし（名）覆盆子、いちご、とつくりいちご、かちいちご、くさいちご（食膳に供するに其味甚だ美なり）。

［圖の覆盆子］

ふくべ（名）瓠、瓜、をりひさご、うたん、諷、壺（植物）。
ふくへい（名）伏兵、ふせぜい、かまり、ふせあはるつはもの。
ふくへい（名）副兵、そへぜい、そへつはもの。
ふくざく（名）福鶴、さいはひ、よきこと。
ふくざく（名）〔する〕（他）復讐、さちふ、よみがへらはする。
ふくさみ　福富氏。
ふくち（名）福祉、さいはひ、幸福。
ふくち　福地氏。
ふくちう　腹中、はらのなか、十胸中。
ふくちのその（名）福地園（佛教にて幸福のある所といふ語）。
ふぐちやうちん（名）河豚提燈（河豚の皮の提燈）。
ふくちやま　福知山（豐前國企救郡に在る山）。

ふくちやまぎち 福知山町(丹波國天田郡の町)。
ふぐり (名) 陰嚢、きんたま。
ふぐり (名) 松毬、まつかさ、まつふぐり、まつぼつくり、まつのみ。
ふぐりかぜ (名) 痲氣、きんたまばれ(病名)。
ふぐりだま (名) 睾丸、きんたまのたま、腎子、外腎卵子。
ふぐりやり (名) 茯苓、伏靈、伏鬼、不死麪、松腹、まつはだ植物。
ふくりやうさい (名) 葆苓菜、雞眼兒(植物)。
ふくりふ (俗)(名) 腹立、はらたつ、いかる。
ふくりん (名) 覆輪、輪郭、まはりのふちわ(馬具等に施せる飾り邊)。
ふぐるま (名) 文車、書物を載せて運轉する臺。
ふくをかまち 福岡町(下總國匝瑳郡、越中國礪波郡及び陸奥國二戸郡の町名)。
ふくをかけんちやう 福岡縣廳(筑前國福岡市に設置す)。
ふくわ (する)(自) 附和、ついてうたふ(人の歌ふに)、十くみする、雷同。
ふくわ (する)(他) 賦課、わりあてる、とりたてる(租稅をいひつくる也、課、徵、貢課、おはする、いひつける。
ふくわ (名) 浮華、はでやかなること、みえかざり、浮麗。
ぶくわ (名) 武火、はげしきひ、つよきひ(文火を參看せよ)。
ふくわい (形) 不快、こころよからぬ、病あるを云ふ。
ふくわい (名)、—する(他) 附會、こぢつけ、こぢつける、おしつける。
ふくわいぼく (名) 不灰木、色白くして石に類し之を煙として用ふるに一夜に僅か二寸燃ゆるのみと云ふ。
ふくわう 福王氏。
ふくわうるん 普廣院足利義歡の稱號。
ふくわく (名) 郭郭、くるわ、そとがま(城の)。
ふくわく (名) 俘獲、とりこ、とらはれびと。
ふくわん (形) 不完、まつたからぬ。
ふくわん (形) 不換、かへず、かへられぬ、とりかへられぬ。
ぶくわん 武官(武事に身を委ねたる官人)。
ふくがい (する)(他) 覆蓋、おほふ、かぶせる。
ふくかう (名) 腹橋、はらのうちのかんがへ(詩文を作るなどの腹中の考案をいふ)。
ふくかうしん (名) 馥香、にほひ、かをり。
ふくがみ (名) 福紙、えびすがみ、たちもれがみ(腹本なるとて紙を裁つときに折とみありて裁もちしたる餘り紙)。
ふくかん (する)(他) 復看、みなほす、みかへす。
ふくより 福依氏。
ふくより (する)(自) 服屠、むねにとめる、こころにしをす。
ふくよく (名) 伏翼、かはほり、かうもり(動物)。
ふくよしちやう 福吉町(東京市赤坂區の町)。
ふぐたいてん 不俱戴天(不俱戴天の父の仇などと云ふ、君父の仇は俱に天を戴かずの語より出づ是非とも命の取遣りせねばならぬをいふ)。
ふくたむ (自) 鞋鞋、そそけだつ(髮の毛が散り亂るるをいふ)、十ちらばる。
ふくたう (する)(自) 覆倒、くつがへりたふれる。
ふくたう (名) 副刀、わきざし、さしぞへ。
ふくだう (名) 復道、かまなりみち(高閣に設くる)。
ふくだめ或ふぐたみ (名) 福多味、小具醬、鰒醬、ひしほのたぐひ(食物)。
ふくれい (名) 復禮、(へんれい、れいがへし。
ふくれる (自) 膨脹、膨脹、もつくりたかくなる、十脹はれあがる。
ふくそ (名) 復祚、天子の再び位に即きたまふを云ふ、重祚、再祚。
ふくそう (する)(自) 輻輳、よりあつまる、輻湊、こみあふ。
ふくそうさい (名) 副總裁、たすけそうさい。
ふくつ (形) 不屈、かがまぬ、まけぬ、たわまぬ、不撓。
ふくつう (名) 腹痛、はらいたみ。
ふくねんぎよ (名) 伏念魚、いかりうを、うしぬすびと動物。
ふぐら (名) 文鰒、しとものつぐら。
ふくらいり (名) 服鮝(魚肉をふくちかに露たるもの)。
ふくらはぎ (名) 膨脛、こむら。
ふくらに (名) 膨亮、服煎(鰒などの魚肉をふくちかに煮たるもの)。
ふくらか (形) 豐滿、ふつくり、ふくれたる。
ふくらむ (自) 膨、ふくれる、ふくらかになる。
ふくらまち 福良町(淡路國三原郡の町名)。
ふくらみ (名) 膨脹、ふくれ、ふくれあがり。
ふくらしは (名) 冬菁(植物)。
ふくらすずめ (名) 服雀、膨雀(雀の羽をひろげたるもの)。
ふくむ (自) 含、中にある、十花つぼむ。
ふくむ (他) 含、銜、包含、含蓄(口あるひは腹にいれたくはへる)、十いれこめる。
ふくらん (名) 福運、さいはひ、利運。
ふくのまち 福野町(越中國礪波郡の町名)。
ふくくわ (名) 復和、なかなほり、講和。
ふくくわ (名) 復花、かへりばな、狂花。
ふくぐわ (する)(自) 伏臥、うつぶす、ふす。
ふくくわつ (名)、—する(自) 復活、いきかへり、よみがへる。
ふくくわん 復官、もとのつとめにかへる(官吏が)。
ぶぐぐら (名) 武具庫、武器庫(武器を容るる庫)。
ふぐぐん (名) 副軍、そへぐはもの、ひかへつはもの。
ふくやく 服藥、くすりをのむ。
ふくやま 福山氏、また大隅國の地名)。
ふくやまちやう 福山町(東京市本郷區駒込の町、及び備後國深安郡の町の名)。
ふくま 福間氏。
ふくまく (名) 腹膜(腹の內にある薄皮)。
ふくげ (名) 雜穢、ふふげ(鳥の毛の柔らかなるものを云ふ)。
ふくけい 副曆、つけそへがき、追書。
ふくげつ (名) 復月、太陰曆十一月の異名。
ふくけうし 副教師、たすけけうし、助教師。
ふくけん (名) 復權、失ひし權利を回復すること。
ふくふくし (名) 腹部、はら。
ふくぶん (名) 福分、さいはひ、しあはせ、幸運。(古語)。
ふくむ (自) 復故、ふるきにかへる、復舊。
ふくと 復古、むかしにかへる。
ふくとう (する)(自) 復興、ふたたびもとる、一旦衰(たるが)。
ふくてつ 覆轍、くつがへれるあと前の車の)。
ふくてん (する)(自) 伏轉、ふしまろぶ。
ふくでんい 福田衣、袈裟の異名)。
ふくでんえ (名) 福田衣、ふくでんい。
ふくあけ (名) 服明、いみぶくのをはり。
ふくさ (名) 服紗、服紙、帛、つつみぎぬ、おほひぎぬ。
ふくざい 服罪、つみにおつる。
ふくさいしゆ (名) 副祭主、そへさいしゆ。
ふくざは 福澤氏。
ふくさう (名) 福草、さきくさ(植物)。
ふくさう (名) 福相、しあはせよきすがた。
ふくさう (名) 服喪、いみぶく、ものゑんりよ。
ふくざうり (名) 福草履(屋內に用ふる鼻緒ふとき草履)。
ふくざうなく (俗)(副) 無腹藏、つつみかくしなく、うちあけて。
ふくさ (名) 服忌、いみぶく、ゆがれ、ゑんりよ(親戚の死亡より生ずる)。
ふくさ (自) 復歸、かへる、たちもどる。
ふくさ (名) 伏犧支那太古の帝王にして五帝の第一)。
ふくさ (名) 服闋、いみあけ、ぶくあき。
ふくさちやう 副議長、議長の次に在りて議長差閊ある時議長の代理を行ふ)。
ふくさ (名) 復舊、ふるきにかへる、もとにかへる。
ふくさう (名) 伏牛花、隔虎刺花、ありどおし、へびのぼちず(植物)。
ふくさぶ (する)(自) 逼急、せまる、切迫、逼近。
ふくさし (名) 伏犧氏(支那五帝の一にして易の八卦及び書契を作りし人)。
ふくさん (名) 幅巾(冠の上を包む支那人の服)。
ふくめい (する) 復命、かへりごとまうす、へんじをもちきたる。
ふくめる (他) 哺、ノもにいれてやる、のませる(乳等を)。
ふくめだひ (名) 覆面鯛(動物)。
ふくめつ (する)(自) 覆滅、ほろぼす、くつがへる。
ふくめん (名) 覆面、かはもはひ、かはかくし。
ふくみがね (名) 嚼金、銜、くつばみ。
ふくみつまち 福光町(越中國礪波郡の町名)。
ふくみぐすり (名) 含藥、含嗽劑(口中嗽劑などを除する爲めに口に含む藥)。
ふくし (名) 副使、そへづかひ(外國公使等の副官たるもの)。
ふくし (名) 腹管(腹中に知識を藏むる府)。
ふくじ (する)(自) 服事、つかへる、つかふまつる。
ふぐし (名) 柳刀、はぐし、こがたな(葉を揃み等する小刀(古語)。
ふくしよ (名) 伏犧(太陰曆四月の異名)。
ふくしよ (名) 副書、そへがき、そへてがみ(本書への)。
ふくしよう (名) 腹膜、たちはれ、はちのはれ。
ふくしよく 復飾(天子が喪飾せられたるを止めて故に歸ちるるをいふ)。
ふくしよく (名) 復職、もとのやくめにかへる、復官。
ふくしよく (名) 服色、きものいろ。

ふくしよくしさう 服色四等(二三品は紫、四五品は緋、六七品は綠、八九品は碧)。
ふくしり (名) 復縫、あたがへし、十かたきうち。
ふくしや (名) 福者、しあはせよきもの、かねもち。
ふくしや (名) 副車、そへぐるま。
ふくしや 覆車、くつがへるくるま。
ふくじや (名) 蝮蛇、まむし(動物)。
ふくしやう (名) 副將、そへたいしやう、副元帥。
ふくしやう (名) 服章、もんどころ、衣服の紋。
ふくしやうぐん (名) 副將軍、將軍の次に並びて輔くる人。
ふくしま 福島氏、また地名。
ふくしままち 福島町(上野國北甘樂郡、信濃國筑摩郡及び近江國八女郡の町名)。
ふくしまけんちやう 福島縣廳(岩代國福島市に設置す)。
ふくしゆ (名) 副手、てつだひ、すけ、たすくるもの。
ふくしゆ (する)(自) 輻輳、あつまる、よる。
ふくしゆ (する)(他) 復讐、さらふ、復讐、よみかへす。
ふくじゆう (する)(自) 服從、したがふ、まつろふ。
ふくじゆさう (名) 福壽草、側金盞花、長春花、賀正蘭、獻歲菊、元日草、びわんじつさう(植物)。
ふくしん (する)(他) 覆審、くじをきなほす、しなべなほす。
ふくしん (名) 腹心、はらのうち、はら、こころ。
ふくしん (する) 復申(官署長官などの問に應へて上申するを云ふ)。

ふくじん (名) 伏神、松の根に結びて茯苓に似たり(植物)。
ふくじん (名) 福神、きいはひのかみ、ふくのかみ。
ふくじんづけ (名) 福神漬(即席に煮て越後味噌漬の如き味に拵へたる漬物)。
ふくふ (名) 服機、いみぶくのけがれ(死人ありて身の穢れたること)。
ふくえき (名) 服役、つとめ、兵士の服務。
ふくびやう (名) 腹病、黄胆病、はらいたみ。
ふくびき (名) 福引、善き物を籤して取る戲。
ふぐもどきじる (名) 魚鐵(皮むき魚をいれて調理せる味噌汁)。
ふぐせ (名) 土瓶子(土を焼る具)。
ふくせい (する) 復生、いきかへる、復活、蘇生。
ふくせき 復籍(最初の處に人別籍をかへすをいふ)。
ふくす (名) 被子、つつみぎれ、ふくさ。
ふくすゐ 覆水、こぼれたるみづ(覆水盆に歸らずとは大公望の妻の傳說より出づと云ふ、蓋し事の恢復しがたきに譬ふ)。
ふくする (自他) 服、もとにかへす、十又くりかへす。
ふくする (他) 服、したがふ、まつろふ、あそれいる、十又の御藥を。
ふくすう (名) 複數(二つ以上の數をいふ)。
ふくすけ (俗)(名) 福助(身のたけ極短かくして出頭なるもの)、せびく、ちさご。
ふくずみ 福住氏。
ふくずみちやう 福住町(東京市深川區の町)。
ふくん (名) 府君、邦伯、くにのきみ。

ふくん (形) 不君、きみちしからぬ(君たる德なきをいふ)。
ふや (名) 文屋、ふみどの、ふどの、文庫、ふみおきどころ。
ふや 武野、むさしの(古智武藏の國は野原多かりしに因りて此名あり、「ぶげみづ」及「むさしの」を參看すべし)。
ふやう (する)(他) 撫養、なでやしなふ、撫育、十又やすんずる民等を。
ふやう 武陽、武藏の南部をいふ。
ふやうじやう (形) 不養生、かちだをそまつにする、不攝生、養生を怠るをいふ)。
ふやのはかせ (名) 文屋博士(古今和讀の學に通じたる人にて古への大學寮の博士をいふ)。
ふやく (名) 賦役、くさらかし、くさらしやすり。
ふやく (名) 賦役、丁役、官府の用に遣はるること。
ふやく (する) 無蹟、まひをどる。
ふやける (自) 湿大、うるはひてゐはきくなる。
ふやじやう 不夜城(萬燈暗を照して晝に違する城の戲なり、遊郭などをも云ふ、よるなきまち)。
ふやす (他) 殖、ふえさする、ます。
ふま (俗)(形) 無間、きのきかぬ、のろま。
ふまい (名) 夫米、夫食、くひぶち、糧米。
ふまう (形) 不毛、草木の生育せざるをいふ、あれたる、荒蕪。
ふまう (他) 踏、ふまへる、ふみおさへる。
ふまう (名) 誣罔、しゆうとこと人を。
ふまうのち (名) 不毛地、土地瘠せて五穀を生ぜざる所。
ふまき (名) 文卷、文巻、封皮、てがみつつみ、ふうぐつ。

ふまき (名) 鉄、ちつ冊子を覆ふもの。
ふまん (名形) 不滿、不平、ふそくごころ、あきたらぬ。
ふまん (名) 布幔、まくたて、幕屑。
ふまん (する)(他) 侮慢、あなどる、ばかにする。
ふまんぞく (形名) 不滿足、不足、あきたらぬ。
ふけ (名) 頭垢、靈瘡、いろこ、あたまのふけ。
ふけ (名) 樹深泥を云ふ、泓、渟、ふかどろ。
ふけ (名) 武家、もののふのいへ、さむらひ、武井。
ふけい (名) 夫兄、をつとあに。
ふけい (名) 譜系、けいづ、いへすぢがき。
ふけい (名) 符爽、あひじるし、わりふ。
ふけい (形) 負敬、失敬に同じ。
ふけい (名形) 不敬、不謹、失敬、いやなき。
ふけい (形) 不經、ただしかちぬ、よこしまなる、左道。
ふけい (形) 無精、いつはりなる、うそ、まことならぬ。
ふげい (名) 武藝、いくさのわざ、たたかふみち、武術十八般を見よ。
ふけいけん (形) 不敬虔、つつしみなき、不信心。
ふけいき (俗)(形) 不景氣、さみしき、にぎわはぬ(商業にいふ)。
ふけばひ (名) 風化石灰、石灰の儘に在りて粉になれるもの、石灰の下を見よ。
ふける (自) 老、としよる、ゐいてみゆる年齡に云ふ。
ふける (自) 闌(夜間の時刻のおそくなるをいふ)、たけなはになる。
ふける (自) 耽、はまる、はまりこむ(酒色等に)。
ふける (自) 黴、かびる。

ふけた (名) 淵田、深田、ふかだ、どろふかきた。
ふけそう (名) 普化僧、うまひじり、こもそう。
ふけつ (形) 不潔、いさぎよからぬ、きたなき、けがれたる。
ふけり (名) 浮橋、うきはし、十ふなばし(船橋)。
ふけまい (名) 陳米、ふるごめ、陳倉米、古米、紅米、ひねごめ。
ふげき (する)(他) 撃、うつ、たたく。
ふげしどほり 風至郡(能登國の郡の名)。
ふけん (名) 符驗、しるし、きめ。
ふけん (形) 負嵌、ひなたぼこ。
ふけん (形) 不實、不敏、かしこからぬ。
ふげん (名) 浮言、ねなしごと、むだごと。
ふげん (形) 不謹、ちぬ、不謹。
ふげん (名) 侮言、あなどることば。
ふげん (俗)(名) 薬萬、とみ、ものもち(次を見よ)。
ふげんしや (俗)(名) 分限者、富人、富豪、臺戸、あはがれもち、富者。
ふこ (名) 武夫、たけを、ますらを、いくさびと。
ふこ (名) 琉球玉に似たる石の名)。
ふこざり (名) 夫不鳥、鳧鳩、としよりごひ、やまばと、布穀(動物)。
ふこむ (他) 貪、ふくむ(花のまだひらかぬにも云ふ(古語)。
ふこりりう (形) 無風流、みやびなちぬ、殺風景。
ふこく (する)(自) 俯伏、ふす、ひれふす、うつむく、俯俛。
ふこく (形名) 不服、したがはぬ、ふくせぬ、十異議、異論、異見。
ふこまる (自) 食薯、ふくまれる(古語)。
ふこげ (名) 雛襪、ふくげ(鳥毛の柔かに生ひたるものを云ふ)。

ふこぶき (名) 降吹、吹雪、ゆきあらし、ふきめぐるゆき、ゆきあれ(雪國の冬に多くして往往旅人を殺すに至る)。
ふこぶき (名) 斑髮、斑白、しらがまじりのかみ。
ふこぶき (形) 班白、まだら、しろくろのまじれる。
ふこぶきかん (名) 吹雪鍋、料理の名)。
ふこぶせ (名) 斑髮、しらがまじりのかみ(「ふぶき」に同じ)。
ふこん (名) 膚癬、きめ、はだへのあや。
ふこん (名) 節分、ときわ、分。
ふこんかい (名) 武文藝、たけぶんがに動物。
ふこんみやう (形) 不分明、はつきりせぬ、あきらかならぬ。
ふこ (名) 符驗、をかとき(植物)。
ふこ (名) 富實、もほあきびと。
ふご (名) 封戸(古(皇族及び諸臣に賜はりたる戸口、其戸口より納むる田租の半額及び調庸を收入とす)。
ふご 居語、ふるびたることば、陳言。
ふご (名) 養かご、つちかご、又ゆかご。
ふこ (名) 武士、ぶきぐち。
ふこつ (名) 狀骨、あしのかふぼね。
ふこつ (俗)(形) 武骨、ぶつきらぼう、そこつ、なかふうなる、無骨、粗惡、粗雷、粗深、風流解美なちずして荒くなるを云ふ)。
ふこつそ (名) 無骨蘇、ほねのくさるやまひ(病名)。
ふこつぎよ (名) 無骨魚、もるすか(動物)。
ふこつもの (名) 無骨者、そこつもの(「ぶこつ」を見よ)。

ふとう 武功、いくさのてがら。
ふとく(名) 布告、布令、ふれしめし政府の)。
ふとく(名) 布穀、ふふとり、きじばと(動物)。
ふとく(代名詞) 不穀(支那戰國時代の語にて、君王が自己を指して云ふ詞)。
ふとく 富國、とめるくに、十又くにをとます。
ふとく〔する〕(他) 誣告、しひうつたへる。
ふとくさやうへい 富國強兵、くにをとましつはものをつよくす。
ふとし 武藏司、ぶきぐちのつかさ。
ふどしよ(名) 布護署(はいとのつかさを見よ)。
ふで(名) 筆、筆、筆、不硯、毛錐子、毛穎、管城子、文鋒、分直、ものかくうつは。
ふてい(形) 不逞、不庭、まめやかならぬ、そむく。
ふてい〔する〕(他) 扶提、たすけみちびく。
ふてい(名) 靜樂、はしけぶね。
ふてい 武帝、漢代の天子にして年に璽あること此帝より始まる。
ふてい 武帝、梁の天子にして甚だ佛法を信じ侯景の反逆の爲に臺城にかこまれ終に餓えて崩ず。
ふでいれ(名) 筆船、筆架、ふでかけ。
ふでいのさ 不逞之徒、わるもの、あしきともがち。
ふていさい(形) 不體裁、みぐるしき、みにくき。
ふでばつな(名) 天花粉、土筆、つくし(植物)。
ふでばと(名) 筆匣、筆箱、筆函、筆筥、ふでいれば と。
ふでとり(名) 熟筆、史、ものかき、いうひつ。
ふてる(自) 恨、ねこる、はらたつ。
ふでをふるふ 揮毫、運筆、走筆、飛筆、染筆、ふでをもてあそぶ、ふでをめぐらす。

ふでかけ(名) 筆架、筆掛、筆閣、ふでのするもの。
ふでがき(名) 鹿心柿、軟柹、やまがき、宵心柿(石見國の名産、人丸の社の傍にありと云ふ(植物)。
ふでかし(俗)(形) 不出來、ふでき。
ふでたけ(名) 孵蕨、蕨(植物)。
ふでたて(名) 筆筒、筆格、筆筒、ふでづつ。
ふでづか(名) 筆管、ふでのぢく。
ふでつかひ 筆法、筆意、ふでのはこび。
ふてうはふ(俗)(形) 不調法、ふなれ、なれてもちぬ、たくみなちぬ、十失粗、十できぬ。
ふでのぢく 筆軸、ふでのつか、筆管。
ふでのながれ 筆法、ふでのつかひかた。
ふでのうみ 筆海(讃岐國の海にて和歌に名高し)。
ふでのあと 筆跡、かいたるもんじ。
ふでのさや 筆帽、筆鞘(筆の尖にかぶせる管)。
ふでのさきさら 筆尖、ふでのさき。
ふでのしり 筆軸、ふでぢく。
ふでのや(名) 筆架、ふでかけ、筆閣。
ふでのせ(名) 筆屋、筆工、筆匠、ふでつくり、ふでし。
ふでやまはり〔俗〕(形) 不手廻、てまはりかぬる、十まづしき。
ふでやめ(形) 健筆、よくものかく、十好書、かくことをこのむ。
ふてふ(名) 符牒、子號、暗號、かくしごゑし。
ふてふ(名) 郭煙、くるわのぬりえい(城の)。
ふでと(名) 筆子、てならひでし、でし、學生。
ふてとさ(名) 惡行、奸曲、あしきわざ、よかちぬと。
ふであらひ(名) 筆洗、筆を洗ひきよむること、また其物。
ふでさう(名) 石龍膽(植物)。
ふてき(形) 不敵、おそるることなき、大膽。
ふでき(俗)(形) 不出來、粗造、惡しく造りしをいふ。
ふてきは(俗)(形) 不手際、てぎはあしき、へた、たくみなちぬ。
ふできりとがたな(名) 批筆刀、修筆刀、刀仔、小刀、鉛筆を削る小刀。
ふてきたり(形) 不適當、ふさはぬ、十あてはまちぬ、十かなはぬ。
ふでゆひ(名) 筆匠、筆工、ふでし、ふでや。
ふでし(名) 筆師、ふでつくり、ふでや、ふでゆひ。
ふてん(形) 不腆、いささか、わづか、輕小、ささい。
ふてん(名) 普天、あめがした、普天之下、天下。
ふてんそつと 普天率土、あめがした、全天下をいふ。
ふあいさつ(俗)(形) 不挨拶、あいさつのわるい、ろくろくあいさつせぬ。
ふあいそう(俗)(形) 不愛相、あいさうのない、きてはなとつたやう。
ふあう(名) 布襪、ぬのこ、ぬのごろも。
ふあふ(名) 鳧鴨、かも(動物)。
ふあしらひ(俗)(名) 不會釋、待、ふとりあつかひ、あしきあつかひ。
ふあひ(形) 不合、意氣の合はぬを云ふ、不和。
ふあひ(名) 歩合、わりまへ。
ふあん〔する〕(他) 撫安、なでやすんずる。
ふあんない(俗)(形) 不案内、ところえぬ、しらぬ、ところみぬ。
ふあんしん(俗)(形) 不安心、こころやすかちぬ、十しんぱいなる。

ふさ(名) 浮橋、いかだ、十ふね。
ふさ(名) 流蘇、纓、ふさふさしたるたれもの(紐の端等に設けたる)。
ふさ〔する〕(他) 扶佐、たすくる、扶助。
ふざ(名) 趺坐、あぐち、あしくむこと(けつかふざを見よ)。
ふさい〔する〕 覆載、おほひのする(天と地とに云ふ)。
ふさい(名) 負債、おひめ、かり。
ふさい 夫妻、をつとつま、夫婦、めうと。
ふさい(名) 阜財、富財、かね、たから。
ふさい(形) 不才、無才、ちゑなき。
ふざい(形) 不在、るす、をちぬ家に)。
ふさいく(俗)(名) 不細工、てぎはあしきこと。
ふさはぬ(形) 不祥、ふさはしからぬ。
ふさばけ(俗)(形) 不捌、よくうれぬ、うれがわるい、さばけぬ。
ふさはふ(俗)(形) 不作法、ぶしつけ、失禮。
ふさはし(形) 相應、にあはしき(古語)。
ふさに(副) 饅、さはに、おほく、たくさん。
ふさがる(自) 塞、窒、壅塞、閉塞、つまる、いつぱいになる。
ふさた(俗)(形) 無沙汰、うとうとしき、とほどほしき、疎音。
ふさつ〔する〕 俯察、うつむきてかんがへる、地上の事物を。
ふざつ(形) 蕪雜、いりみだれたる、いやしき文辭上に云ふ)。
ふさねる(他) 總、總束、ひとつにあつめあはする、十ふさにする。
ふさなり(形) 離離、すゞなり(果實の多く結びたるに云ふ)、纍纍、十しなだれたる。
ふさり(形) 浮譏、かるはづみなる、輕浮。
ふさり 扶桑(日の出づる所の地の名、之をもて日本の異名とするもあり)。
ふさら(名) 鼓蕾、はしか(病名)。
ふさり(形) 無雙、ならびなき、無比。
ふさりれう(俗)(形) 不相應、にあはぬ、十ふさはしからぬ。
ふさりうくわ(名) 扶桑花、佛桑花(植物)。
ふさりうとく 扶桑國日本の一名と云ふ)。
ふさりうじゆ(名) 扶桑樹(植物)。
ふさりく(俗) 不作、凶作、荒作(作物の結實あしきをいふ)。
ふさぐ(他) 塞、窒、杜、杜絕、壅塞、閉塞、堰塞、とどめる、とはちなくする、十つめる。
ふさくざし 不作年、凶年、凶歲、荒歲、みのりあしきとし。
ふさくのあと 斧鑿之痕(餘りに手のこみ過ぎたる美術品に云ふ)。
ふさやか(形) 如織、ふさふさ、ふさのごとき。
ふさやかに(副) 如織、ゆたかに、たくさんに。
ふさやうじ(名) 總楊枝(齒を磨くふさふさしたる楊枝)。
ふさまち 布佐町(下總國南相馬郡の町名)。
ふざける(俗)(自) 狎戲、たはふれさわぐ。
ふざくら(名) 羊蹄、雲蕓、たにくは(植物)。
ふさも(名) 聚藻、ふさふさしたるも(植物)。
ふさせる 令臥、ねかす(ふす)の他動體)。
ふさん〔する〕(他) 布算、かんぢやうする。
ふさん(名) 唐珍、はだぎ、したぎ、シヤツ。
ふさん 不參、まゐらず、きたらず。
ふざんぼく 釜山浦(朝鮮の地名)。
ふさ(形) 不穩、ものにかまはぬ、自由、放縱、暴慢。
ふさ(名) 禎衣服の裾の端を云ふ。
ふさ(名) 款冬、款東、蕗薬、虎鬚草、蕗(植物)。
ふさ(名)〔する〕(自) 不軌、むほん(君王に叛くこと)。
ふさ(形名) 不義、みちならぬ、十あしき、よこしま、十みもかどと、姦通。
ふさ(名) 浮戲、ざれ、しやれ、ふざけあそび。
ふさ(名) 浮蟻(酒の上に浮かむ滓)、さけのうきかす。
ふさ(名) 武器、兵器、武具、いくさだうぐ。
ふさい(名) 舞妓、まひこ、まひをんな、まひめ。
ふさいだす(自他) 噴、噴出、ふきあがる、十ふきあげる(水に云ふ)。
ふさはなつ(他) 吹放、ふきとばす(息或風にて)。
ふさはらふ(他) 吹拂、ふきとばす、ふきのぞく(息或風が)。
ふさざほす(自) 吹透、吹通、ふきぬける風が)。
ふさやとる(他) 拭取、拭去、拭去、ぬぐひとる。
ふさちらす(他) 吹散、ふきとばす(風等が)。
ふさり(俗) 不義理、みちならぬこと、ぎりにあはぬこと。
ふさりやう(俗)(形) 不器量、不器容、醜、みにくき、十又無能、ちゑなき。
ふさぬき(名) 吹貫、風通物の類、また風の吹き通る所)。
ふされくる(他) 吹送、ふきてきたる風が香氣等を。

ふきわれ（名）吹割（借字、白石英（佐渡國の金銀坑の中より出る六稜の石、土俗之を水晶とも呼ぶ）。

ふきわける（他）鎔分（金屬を火にとかして善きと惡しきとを分つをいふ）。

ふきがは（名）吹革（鞴、ふいご（鍛冶の火をおこす道具）。

ふきがは（名）拭革（時計など拭く魚皮）。

ふきかへる（他）拜賀（ふきなほす屋根を）。

ふきがへし（名）吹返（兜の一部）。

ふきかける（自）吹掛（ふきあてる風が）。

ふきよ（形）浮虛（うはつく、十うきたる、十わなしき）。

ふきよ（名）芙蓉（はす、はちす（植物）。

ふきよ（名）浮蝶（うきたるわざ、かるはづみ、かるがるしきおこなひ）。

ふきよ（名）傳槻（おもり（王子等の「かしづき）。

ふきよ（名形）不興（たのしかちぬ、十おもしろかちぬ、不機嫌）。

ふきよう（形）不恭（不敬、ぶれい）。

ふきよう（俗）（形）不器用（物事をするに拙きを云ふ）。

ふきよく（名）樂曲（まひ）。

ふきよくせい（名）武曲星（北斗第六の星）。

ふきよせめし（名）吹寄飯（食物の類）。

ふきたけ（名）吹竹（ひふきだけ）。

ふきたふす（他）吹倒（ふきとろばす（風等が）。

ふきつ（形）不吉（よかちぬ、凶、えんぎあしき）。

ふきづつ（名）吹筒（ふきやのつつ、ふきづつばう）。

ふきつづける（他）吹續（ながくふく風が、又は笛などを）。

ふきながし（名）吹流（雲月、野槻、流旗、風に吹きながす旗の如きもの、十又ふきながし）。

ふきならす（他）吹鳴（ひかすこと）。

ふきならす（他）吹鳴（ふきてをとをいだかせる笛、喇叭等を）。

ふきり（形）不利（くちぬ、くさもぬ、いつまでもたもつ）。

ふきり（する）（自）篩杓（くさる、くちる）。

ふきりばく（名）富牛蒙（ふとなでしこ、はきなでしこ（植物）。

ふきりつる（他）吹蔓（ふきすつる、ふきちらす（古語）。

ふきのたう（歌冬蕾（歌冬の花の蕾をいふ、歌冬花、蹈凍、氏冬、鑄凍、蕗冬、蕗呑、虎鱗、ふきのしうとめ（蹈姑）。

ふきぐら（名）武藏庫、武庫、武具庫、ぶきをいれおくくら）。

ふきや（名）吹筩（吹筒にて吹く矢、吹矢、吹箭）。

ふきやむ（他）吹止（ふきをはる、ふきしづまる風が、又は笛などを）。

ふきやり（形）傍仰（うつむくあふぐ、俛仰）。

ふきやり（名）奉行（つかさ、總監、官名）。

ふきやりき（俗）（形）不行儀（ぶしつけ、ぶさはふ、亡狀）。

ふきやりしちしよ（法）武經七書（孫子、吳子、司馬法、尉繚子、三略、六韜、太宗問對）。

ふきやりじやう（俗）（名）不行狀（不品行、ふみもち）。

ふきやりせき（俗）（名）不行跡（ふみもちあしきこと、ふみもち）。

ふきけす（他）吹滅（吹消、ふきてけす燈を）。

ふきげん（俗）不機嫌（きげんあしきこと、よろこばぬこと）。

ふきふ（する）（自）普及（ゆきわたる、あきねくゐよぶ）。

ふきふ（する）（他）扶鈴（合力、ものをほどこす）。

ふきふ（名）負笈（おひをおふ（書籍を入れたる箱を負ふの義にて書生の遊歷に云ふ）。

ふきふ（名）不及（およばぬ、とどかぬ）。

ふきとぼれる（自）噴溢（あふれでる、わきあふれる）。

ふきとむ（他）吹込（ふきいれる）。

ふきでちやう（名）茸手町（東京市芝區の町）。

ふきでのはま（俗）（名）吹手濱（豐前國の地名）。

ふきでもの（俗）（名）吹出物（腫物、疔子、腹疹瘡）。

ふきでもの（名）噴水臺、湯臺、みづふき、みづをふきあげるきかい）。

ふきあげ（名）噴水臺、湯臺、みづふき、みづをふきあげるきかい）。

ふきあげはま（名）吹上濱（庭園中庭池に沿ふ所の長濱を云ふ）。

ふきあげる（他）吹擧（ふきのぼす上の方へ）。

ふきあげきんぶん（他）吹上禁苑（東京皇城內本丸の背に在る御苑をいふ）。

ふきさらす（他）拭掃除（掃掃、ふきはき（室內の）。

ふきたる（自）吹來（ふきいたる風が）。

ふきゆきさう（名）虎耳草（ゆきのした（植物）。

ふきもの（名）笛（篠、ふえ、十ふきなちすうの）。

ふきん（名）布巾、麻巾、拭巾、ふきぎぬ）。

ふきん（名）扶筋（背骨、ぜんまい、いぬわらび、おにわらび（植物）。

（ふきん）（俗）（形）不動（ふゞとめ、おこたる（職務を）。

ぶきん（名）賦金（貸座敷などより取たつる稅金）。

ぶきん（名）歩銀（ぶあひがね）。

ふゆ（名）冬（四季の最後の季節にして最も寒き時）。

ふゆいちご（名）寒苺（蕪莒（植物）。

ふゆわらび（名）陰地蕨（はなわらび（植物）。

ふゆつかた（名）冬方（ふゆのころ）。

ふゆづた（名）冬蔦（常春藤（きづた（植物）。

ふゆねぎ（名）冬葱（凍葱（植物）。

ふゆゆう（名）武勇（つよさ、いさましさ、たけきこと）。

ふゆのかぜ　冬風（寒風、陰風、朔風、貧風、勁風、勵風、嚴風、ふゆふくかぜ）。

ふゆどもり（名）冬籠（冬の間鳥獸蟲等が穴或は木の洞等に身を潛め居ることをいふ）。

ふゆどもり　冬籠（春さりくれば「の枕詞）。

ふゆあふひ（名）冬葵（植物）。

ふゆざんせう（名）冬山椒（日本名）、竹蕉椒、花椒（植物）。

ふゆき（名）常蕉樹（ときはぎ（冬蕉の略ちぬ木）。

ふゆき（名）冬眠（冬衣、寒衣、ふゆきるきもの）。

ふゆきさどき（俗）（形）不行屆（きのつかぬ、ゆきとどかぬ）。

ふゆきまち　冬木町（東京市深川區深川の町）。

ふゆめく（自）帶冬色（ふゆちしくみゆる）。

ふめい（形）不明（あきちかならぬ、ぼんやり）。

ふめい　負盟（ちかひにそむく）。

ふめく（自）賢（武名、武術の名譽）。

ふみ（名）書（ぶんとなく（紙の聲などに云ふ）。

ふみ（俗）（形）十文（文章（俗に蜀人の書簡を特に然かいふ）。

ふみ（俗）（形）不味（商業界にて賣れ行きの悪敷なるをいふ、不印）。

ふみいた（名）踏板（しきいた（脚の下、十歩板、あゆみいた）。

ふみいし（名）踏石（碾歩石、踐石、くつぬぎいし、ふみてのぼるいし（下駄靴などを脱ぐ處に備ふる石）。

ふみはだかる（自）踐蹠（あしをひろげてたつ（俗に「ふんばだかる」と云ふ）。

ふみはづす（他）踏失（失脚、失足、ふみそこなふ（踏まんとして誤るをいふ、梯子を踏失して落ちるなど云ふ）。

ふみばこ（名）笈（文箱、ほんいれはこ、ほんぶくろ、ふひ）。

ふみはじめ（名）讀書始（正月に至りて始めて書を讀むこと）、よみぞめ。

ふみにじる（他）蹂躪（ふみつぶす）。

ふみさどまる（自）踏留（ふみとた（ゞ）、にげずにとどまる）。

ふみぞの（名）文庫、書庫（ふどの）。

ふみぬき（名）踏貫（ふみとはし（足の底に針釘などを踏みたつるをいふ）。

ふみねさす（他）踏蹈（ふみてゐもしむる）。

ふみわる（他）踏破（ふみてわかつ）。

ふみわけいし（名）踏分石（平庭に設くる踏段の三つ目の石をいふ）。

ふみかためる（他）踏固（踏堅、ふみてかたくする）。

ふみがき（名）文體（てがみのぶんてい）。

ふみよみ（名）博士（はかせ、だいがくしや）。

ふみたい（名）踏臺（踏桀、登高、発、ふみつぎ、あしのせ）。

ふみたけ（名）踏竹（機具の稱呼の一）。

ふみたん（名）踏壇（ふみのぼるだん、あがりだん、踏梁（踏みて上る段）。

ふみづかひ（名）文使（くるわひきやく（組織より客人の方へ遣る手紙の使者）。

ふみつく（名）書凡（ふづくえ、ほんづくえ、ものかくつくえ）。

ふみつける（他）踏附（踏下、踏壓、あしのしたにふむ、十毅機、しのぐ、なやます）。

ふみつぶす（他）踏潰（ふみこはす）。

ふみつき（名）文月（太陰曆七月の異名）。

ふみねぼす（他）踏直（ふみかへる脚を）。

ふみならす（他）踏鳴（ふみかへるをいだす）。

ふみならす（他）踏慣（ふむことになれる）。

ふみならす（他）踏均（ふみてたひらにする）。

ふみうす（名）踏磨（地磨、かちうす、ぢかち（足にてふむうす）。

ふみぐるま（名）文車（ふどるま）。

ふみくたく（他）踏碎（ふみてこはす）。

ふみや（名）書儲（ほんや、書肆）。

ふみまよふ（自）踏迷（踐迷、慣惑、あるきまよふ（途に）。

ふみまきかは　書卷川（下關國豊島郡に在り）。

ふみとろす（他）踏殺（ふみてしなしむる）。

ふみこさば（名）文語、ぶんのことば。
ふみこむ（自）踏込、ふみいる、はいる。
ふみこえる（他）踏越、跨躍、ふみてわたる物の上を。
ふみあらす（他）踏荒、ふみてそこなふ、ふみていためる。
ふみき（名）踐機、さぬばたのふみき、十もゆんばたのまねき。
ふみきり（名）踏切（鐵道の此方より彼方へ越ゆる一定の場）。
ふみしだく（他）踏踐、踏拉、ふみしく、あしのしたにふむ。
ふみしく（他）踏踐、ふみしめる、したにふむ、ふま（る）。
ふみしめ（名）立岡地、ふみどころ、たちどころ。
ふみゑ（名）踏繪（昔し長崎港等にて耶蘇の像を新渡來の異國人及び日本人に踏ましめたること、是れ其耶蘇教徒即ち切志丹なちざるを驗するものなりき、ゑぶみ。
ふみひろげづき（名）文披月（太陰暦七月の異名）。
ふみびつ（名）書櫃、はんばこ。
ふみもち（俗）形名）不身持、みもちあしき、あしきおこなひ。
ふみすべる（自）蹉跌、あしすべる。
ふし（名）曲節、てうし、あや（音曲歌謡）。節、關節、つがひ、十又たけのふし（節）、十歳、きのふし、十結頭、顏、ふしこぶ蘇の。
ふし（形）不死、しなぬ、長生。
ふし（する）（他）布示、ふれしめす。
ふし（名）筇、しば、たきぎ、ふししば。
ふし（名）荻子、蘆荻子、蘆荻子、蘆梅子、蘆樣子、木蘆、五倍子、ぬるで、こぶし（植物）。
ふし（名）父子、おやこ、ちちこ。
ふし（形）浮事、うきたること、十とりとめなきこと。
ふし（形）不次、ついでによらぬ、十とびとえる（超階躐等のことに云ふ）。
ふし（形）不慈、いつくしみなき、無慈悲、あはれみなき。
ふし（形）不時、ときならず、臨時。
ふし（名）武士、つはもの。
ふし（名）附子、黑附子、川附子、とりかぶと（藥材）。
ふし（名）巫子、なてこ、石竹（植物）。
ふし（名）撫子、なでこ、かんなぎ、いちこ。
ふし（形）無酵、無雜の詞をいふ。
ふし（形）無事、ことなき、かはりなき。
ふし（形）無似（不肖に同じ）、おろか（みづから謙稱する詞）。
ふし　武事、いくさごと、たたかひごと。
ふしいう（形）不自由、ままならぬ、じいうならぬ、不如意。
ふしはかせ（名）節博士（節の長短高低を示す篇に譜物の文の傍に打つ點、樂譜）。
ふしぼね（名）臼骨、はれのつがひ。
ふしど（名）臥房、ねどころ、ねま、ねや。
ふしぬま　富士沼（駿河國富士山の麓に在る沼、浮島沼）。
ふしはかせ（名）節博士（節の長短高低を示す篇に譜物の文の傍に打つ點、樂譜）。
ふしぼね（名）臼骨、はれのつがひ。
ふしど（名）臥房、ねどころ、ねま、ねや。
ふしぬま　富士沼（駿河國富士山の麓に在る沼、浮島沼）。
ふしるし（俗）形）不印、ふむき、うれくちのある商品に云ふ）。
ふしをがむ（他）伏拜（頭をさげて禮拜する）。
ふじかは　富士川（甲斐國より出でて駿河國の富士郡と庵原郡との境にそうて海に注ぐ有名の川）。
ふしかへる（自）臥轉、ねかへる、寐返、十ねがへりする。
ふしかねぞめ　荻子鐵漿染（四位以上の人の殆の色に云ふ）。
ふじかうろ　富士香爐（富士山の峯尖りて擂鉢狀にして煙穩空を凌ぐを香爐の煙に見たてたる也）。
ふじふき（名）柴垣、しばがき。
ふじよ（名）柴垣、しばがき。
ふじよ（する）（他）扶助、たすける。
ふじよ（する）（他）部署、てわけする、てくばりする、ひきゐくばる配下の人人を引率するを謂ふ、また名同上。
ふしよぞん（俗）（名）不所存、あしきかんがへ、十ところ〳〵ちがひ。
ふしよう（名）浮腫、むくみ、十うきばれ。
ふしよう（俗）形）不肖、すぐれぬ、はつきりせぬ（天氣等が）。
ふしよう（名）鉄鐵（支那の樂器）。
ふしよう（名）笛聲、ふだるし。
ふしよう（名）鳥鐵、ゐはがれ。
ふしようち（俗）不承知、がてんせぬ、うけひかぬ、ききいれぬ。
ふしよく（する）（他）腐蝕、くされとむ、十くさらす（金屬等を）。
ふしよく（名）不食、くひすすまぬ（食事のすすまぬをいふ）。
ふしよく　負荷、はぢをかく。
ふじよく（名）、—する（他）侮辱、あなどりはづかしむること、十ものしる。
ふじよまい　扶助米、合力米、はどこしごめ。

ふじよき（名）不如意、はとときナ（動物）。
ふしたか（名）牛蒡、いのとづち、こまのひざ（植物）。
ふしだら（俗）（名）不羈體、ふしまつ、あしきおこなひ。
ふしつ　不悉、つくさず（略して悉皆いはぬ）、不宣。
ふしつ（名）鉄鎖、をの、まさかり。
ふしつ（形）不實、まことなちぬ。
ふじつ（副）不日、ひなちず、ちかきうち、とはからず。
ふしづけ（名）節曲、節附、てうしつけ。
ふしづけ（名）椽、柴を水中に積みて魚を捕ふる具（羅椿、しばつけ、したき）。
ふしつけ（俗）形）無樂、雜戯作法を知らぬ）。
ふしし（名）（する）（自）浮泡、あよぐ。
ふしし（名）（する）（自）俘囚、とりこ、めしうど。
ふししう（名）武州、武藏國をいふ。
ふしちふ（名）富士八葉藥師嶽、觀音嶽、地藏嶽、淺間嶽、大日嶽、不動嶽、阿彌陀嶽、釋迦嶽。
ふじのはつこ　富士八湖（富士山麓に在る浮島沼、蓮湖、川口湖、山中湖、西湖、本栖湖、精進湖、四尾連湖の總稱）。
ふじのすその　富士裾野（駿河國富士郡の中央にして富士山の南麓に在る野及び甲斐國に於ける富士山の麓の野）。
ふしぐろ（名）剪夏羅、がんぴ（植物）。
ふしや　府社（府にて奉幣する神社）。
ふしや（名）附子矢、毒矢、えぞびとのや。
ふしや（形）不祥、つまびらかなちぬ。
ふしや（形）不祥、よからぬ、えんぎあしき、不吉。
ふしや　負傷、きずをおふてをゐふ。
ふしやう（形）不祥、不穩、きたなき、けがれたる。
ふしやう（俗）（形）不精、なまける、おこたる。
ふしやう　撫摩、拊摩、拍摩、てをうつ、たなごころをうつ。
ふしやり　武附、いくさぎみ、いくさたいしやう。
ふしやり　武城、江戸城を云ふ。
ふしやうぶしやう（俗）副）不甘心、いやいやながら。
ふしやうごま（名）陀螺、ばい（小兒遊戯の具）。
ふしやうもの（俗）名）無精人、懶人、なまけもの、おこたりもの。
ふしやく（名）不借、廂履、あさぐつ。
ふしやく（名）負荷、はひたか（動物）。
ふしやまと（名）步射的、馬上ならず步みて可を射る武法）。
ふしまろぶ（自）臥轉、輾轉、たふれまろぶ、ころげる、展轉。
ふじまへちやり　富士前町（東京市本郷區駒込の町）。
ふじまちのつき　臥待月（太陰暦十九日の夜の月をいふ、ねまちづき）。
ふしまつ（俗）名）不始末、ふつがふ事務取扱上に私ある如きをいふ）。
ふしまつ（名）蓬萊松、かちまつ（植物）。
ふしまつつき　臥待月（太陰暦十九日の夜を云ふ）。
ふじまりで　富士詣（太陰暦六月朔日に行ひし東京淺草田圃（あさくさたんぼ）の富士權現の祭禮をいふ）。
ふしまき（名）節卷（司の職に云ふ）。
ふしふ（する）（自）俯伏、おそれる。
ふしころぶ（自）屈轉、轉臥、たふれころがる、ねがへりする。
ふじごほり　富士郡（駿河國の郡の名）。
ふしとる（自）節髮、かどだつ、いかりかどだつ（古語）。
ふしとぶ（名）木賊、木蝋木の太く腹れたる處をいふ、きこぶ。
ふしとめしげさう（名）節羅重陣（司の職に云ふ）。
ふしあはせ（名）不仕合、不幸、失志、失望、薄命、わざはひ、ゐはきこと。
ふしあな（名）木喫、きのふしのあな（節孔）。
ふじさん　富士山、不盡山、不死山、不二山（駿河國富士郡を中央として相模甲斐に跨る日本第一の名山にして其高さ千五百丈に達す、芙蓉峯、ふじかうろ、するがふじ）。
ふしき　伏木（越中國射水郡の地名）。
ふしき（形）不調、はかられぬ、はかりしられぬ（神または天の如く測りて知られぬを云ふ、ふしぎ（次の語を參看せよ）。
ふしぎ（形名）不思議、あやしき、さとられぬ、奇怪、怪奇、奇、くすしき、ふかしぎ、不調。
ふじぎ（名）夫食、食米、食料の米、糧米。
ふしきあん　不識庵上杉謙信の號。
ふじゆ（名）厲鯖、くされじゆしや。
ふじゆ（名）符呪、まじなひ。
ふしゆかん（名）部手、みかど、でした。
ふしゆかん（名）佛手柑、枸櫞、まるぶしゆかん（植物）、十また菓子の名。

ふじゆつ　武術、武藝、武技、いくさわざ。
ふじゆつ〔する〕〔他〕　撫恤、いたはる、めぐむ。
ふじゆつ〔名〕　巫術、みこのわざ、ものいはぬ。未慈、みのちぬ。
ふじゆく〔形〕　不受不施、うけずはどこさず、くれずもちはず。
ふじゆふせ
ふしゆび〔俗〕〔形〕　不首尾、しゆびあしき（主人等の機嫌を損ずるをいふ）。
ふじゆん〔形〕　不順、ぎやく（逆）、さかさま、ととのはず、そろはぬ（氣候の如く）。
ふしめ〔名〕　俯眼、したへむきたるまなこ（俯眼になると云ふは落膽してしほたれる如きをいふ）。
ふしめ〔名〕　節目、きのふし。
ふしめに〔副〕　俯目、去はれて、かちなく。
ふしみ　伏見（山城國紀伊郡なる有名の地名、伏見八景を見よ）。
ふしみちやう　伏見町（東京市芝區櫻田の町）。
ふじみちやう　富士見町（東京市麹町區九段坂上の町また麻布區の町）。
ふしみづ〔名〕　伏水、ながれぬみづ、死水、流水または活水に對す。
ふしみのはつけい　伏見八景（淀川歸帆、古城晴嵐、神宮夕照、香社曉鐘、指森秋月、三栖落應、蘆洲夜雨、京橋暮雪）。
ふしみてんわう　伏見天皇（人皇第九十二代の帝、紀元一千九百四十八年（西祥紀元一千二百八十八年）より一千九百五十九年迄、在位十一年御壽五十歳、持明院と號す）。
ふししば〔名〕　蒼柴、たきぎ、しば、柴新、ふし。
ふししづむ〔自〕　伏沈、したにふす。
ふしん〔名〕　脊膊（元は靈塔寺院の建築を言ひしものにて普く諸人の力を請ひて作ると云ふ義なりと云ふ）、建築、修造、建造、營築、造營、營繕、たてつくること。
ふしん〔名〕　不臣（不忠跋扈の臣をいふ）。
ふしん　士たる者の病あるを云ふ、又採薪の勞を云ひ、或は負薪、たきぎをあふ（薪炭の憂ともいふ）。
ふしん〔形〕　孚信、まこと、誠實。
ふしん〔名〕　負心（自負の心をいふ、うぬぼれぎ、十又ぬんをしらぬこころ）。
ふしん〔形〕　不審、いぶかしき、あやしき。
ふしん〔名〕　負債、やくにそむく。
ふしん〔名〕　符信、ありふ。
ふじん〔形〕　不仁、あはれみなき、なさけなき、十かちだがきかぬ、なくたる。
ふじん〔名〕　婦人、をんな、め、婦女。
ふじん〔名〕　夫人、ものがた（紳士の妻）。
ふじん〔名〕　富人、ぶげんしや、かねもち。
ふじん〔名〕　武神、いくさがみ、ゆみやのかみ。
ふしんば〔名〕　婦人、まひびと、伶人。
　營繕場、ふしんするどころ。
ふしんじん〔形名〕　不信心、不敬虔、神を敬まはぬをいふ。
ふえ〔名〕　吹、亢、鼻、肮、のどぶえ、氣管、いきするくだ（喉の）。
ふえ〔名〕　笛、ふきならすもの、ふき（本國なるは大和國吉野山藏、後醍醐帝の御物にて七文字と號するもの（本國なるは大和國吉野山藏、後醍醐帝の御物にて七文字と號する名笛）。

ふえ〔名〕　鏡（魚の腹の内に在るものにて之を以て魚歷（にべ）を調す）。
ふえい〔する〕〔自〕　浮泳、ぬよぎうかぶ、ぬよぎまはる。
ふえる〔自〕　殖、ぬはくなる、ます。
ふえさきる　絕吭、斷喉、のどをきる。
ふえつ〔名〕　斧鉞、をの、まさかり（大將のしるしに用ふ）。
ふえり〔名〕　扶搖、つじかぜ、つむじかぜ、旋風。
ふえふき〔名〕　笛生、笛伶、ふえふくもの。
ふえき〔形〕　不易、かはらぬ、不變。
ふえき〔する〕〔他〕　扶掖、たすくる、てつだふ。
ふえき〔名〕　無射（太陰曆九月の異名）。
ふえしやく〔俗〕〔形〕　不會釋、ぶあしらひ、ぶしつけ、ぶあいそ。
ふえん〔俗〕〔名〕　不錄、離錄をいふ、離婚。
ふえん〔する〕〔他〕　布衍、ぬしひろめる、敷衍。
ふえん〔名〕　無鹽、なまうを、十又あたしきもの。
ふえん〔形〕　無緣、えにしなき（むえんをみよ）。
ふえんりよ〔俗〕〔形〕　無遠慮、ぶんりよなき。
ふえんくん　無鹽君（齊國の女容醜甚だ醜なれども賢德あるを以て宣王之を妃となす）。
ふひ〔名〕　傅婢、もり、かしづき、紳士の兄貴の）。
ふひ〔形〕　浮靡、むなしき、いたづらなる、とりとめなき（談論に云ふ）。
ふひ〔名〕　膚皮、はだへ、かは。
ふひ〔名〕　腐婢、はまくさぎ、（植物）。
ふひ〔名〕　腐皮、ゆば。
ふび　不備、つくさず（書簡の結尾に用ふる語、不悉、不具）。
ふび〔名〕　武備、いくさのそなへ（つはものの用ゐ（武備を嚴にすなど云ふ）。

ふび〔形〕　嫵媚、うつくしき、艷美。
ふびさ〔名〕　史、ぶんをかきつづるひと。
ふびき〔名〕　分引、ありびき、十ねびき。
ふびん〔俗〕〔形〕　不憫、不憐、不憐、びんなき、あはれなる。
ふびん〔形〕　不敏、不才、不賢、不肖、無似、かしこかちぬ。
ふびんかち　不品行、あしきみもち、ふぎやうじやう、不行狀。
ふも〔する〕〔自〕　蕪茂、しげる（樹木等が）。
ふもさ〔名〕　麓、山足、山脚、やまのね、やまのねもと、山下。
ふもだし〔名〕　絆、うまをつなぎぬくつな。
ふもん　不問、とはず、かまはず（不問に措くは其罪などを問はず棄てぬく也）。
ふせ　布施氏、十（名）しきほどこすこと（僧侶に物を獻ずるを云ふ）。
ふせい〔名〕　賦性、うまれつき、天性。
ふせい〔形〕　不精、くはしからず、じやうずならず。
ふせい〔形〕　不實、ふそろひ、そろはぬ、ひとしかちぬ。
ふせい〔名〕　浮世、うきよ。
ふせい〔名〕　斧正、添削、刪正（人の詩文を改め正すこと）。
ふせい〔俗〕〔名〕　風情、ありさま、十又もてなし。
ふせい〔名〕　賦稅、課稅、稅金をとるをいふ。
ふせい〔俗〕〔名〕　無勢、無勢、軍勢の少なきをいふ。
ふせいはな〔名〕　蕪菁、かぶら、植物。
ふせいしつ〔形〕　伏庵、ちひさきたはれかかりたるいへ、ふせや。
ふせいしつ〔形〕　不世出、よにめづらしき、よにあまたなき人才に云ふ）。
ふせはら　伏原氏。
ふせぬひ〔名〕　伏縫、耕襦、錄を折りまげて二重に縫ふこと。
ふせる〔自〕　伏、臥、よこたはる、十ねる。
ふせがね〔名〕　蜂、かきがね（戸の）、十また金具、かなぐ。
ふせつ〔名〕　符節、わりふ、しるし。
ふせつ〔する〕〔他〕　布設、しく、十まうける、つくる（鐵道などを）。
ふせつ〔名〕　浮說、うきたるはなし、流言、讒言、讒傳、飛語、ねなしごと。
ふせつをあはする　合符節、わりふをあはする（善く合ふをいふ）。
ふせう〔形〕　不肖、無似（自ら謙遜して云ふ詞にて先人に似ざるの義即ち愚劣の謂なり）、わたくし、やつがれ。
ふせのうみ　布施湖（越中國射水郡の湖水）。
ふせぐ〔他〕　禦、防、拒、こばむ、防禦、抗拒、拒禦、さからひこばむ。
ふせや〔名〕　伏屋氏。
ふせや　臥屋、臥屋、ふすい（十ちひさきいへ、卑き人の家をいふ、廬屋）。
ふせやたつ　伏屋建（つまどひの枕詞）。
ふせやたき　伏屋燒（すすしきはひの枕詞）。
ふせど〔名〕　伏籠、大衣裳、笞、の火籠、鷹籠、きものあぶりかご（圖（次の上にふせて衣服を掛けて干す具）。

ふせき〔名〕　附籠、人の家に身を寄せて籍を其家に置く者）。
ふせき〔名〕　豐籠、けいご。
ふせき〔名〕　浮石、かるいし。
ふせきたたかふ〔自〕　防戰、さかちひていくさする（攻め來る敵に向ひて）。
〔ふふせきたり〕〔名〕　浮石臺、かるめち。
ふせきやま　布施城山（薩摩國薩摩郡の山）。
ふせきまもる〔他〕　防衛、防守（敵を禦きて我を守る）。
ふせせい〔俗〕〔名〕　伏勢、伏兵、まちぶせせるつはもの。
ふせん〔形〕　膚淺、あさはか、かんが（あさき、皮相的）。
ふせん〔名〕　布泉（支那上古の錢の名）。
ふせん　不宣、のべず（書訣の終りに書く詞にて意を盡さざるの謂なり、不備を見よ）、不備、不悉、不具、不審。
〔ふせん〕〔俗〕　富選、とみのふだ。
ふせん〔名〕　附箋、はりがみ、つけふだ、さげがみ、十ふしんがみ。
ふせん〔名〕　步錢、ぶあひのぜに。
ふせん　豐前（西海道の國名）。
ふす〔自〕　臥、偃臥、よこたはる、十伏、俯、俛、偃伏、したむく、うつぶす。
ふす〔他〕　伏、隱匿、ふせる、ゐはひかくす。
ふする　臥褥、よこたはれるゐのしし。
ふする〔名〕　符水、きたうのみづ（病を療するに用ふる神水）、ゐみづ。
ふする〔名〕　符瑞、しるしのたま（官吏の帶ぶる）。
ふする〔俗〕〔形〕　無粹、不粹、すゐなちぬ、きばけぬ、ひちけぬ。

ふすぼる〔自〕 燻、蔵、焙、酵、艶くすぼる、くろくなる、十いぶる。
ふすべ〔名〕 沙蚕〔動物〕。
ふすべ〔名〕 黒點、くろぼし、〔皮の上に顯はるるもの〕。
ふすべ〔名〕 脱、いぼ、附贅。
ふすべいろ〔名〕 艶色、くすぼれるごときいろ、すすいろ。
ふすべる〔他自〕 燻、ふすぼらしむる、十又ふすぼる、十ねたくあもふ、いぶる。
ふすべかは〔名〕 燻革、鞣革、くすぼらせるかは。
ふすべがほ〔名〕 鐵鞴面くすぼりたる如きかほ。
ふすべがね〔名〕 鳥銀、ふすべたるしろかね。
ふすべぢ〔俗〕〔形〕 不磨、不義、不理、みちならぬ。
ふすま〔名〕 殺、寢衣、十衾、ねまき、かいまき。
ふすま〔名〕 穂、かちかみ〔唐紙障子〕。
ふすま〔名〕 麥麩、小麥の屑皮。
ふすましやうじ〔名〕 襖障子、かちかみしやうじ。
ふすもる〔自〕 燻、ひもる、いぶる〔「ふすぼる」に同じ〕。
ふすん〔形〕 膚寸〔極めて身に接近したるをいふ、膚は指一本の廣さにて凡そ二寸に當る、猶は咫尺と云ふが如し〕。
ふん〔名〕 糞、くそ、十糞土、あくた。
ふん〔名〕 粉、こな。
ふん〔名〕 文、ふみ、かきもの、十また文理、あや。
ふん〔名〕 分、わかち、わけまへ。
ふんい〔名〕—する〔自〕 忿恚、いかり、はちたつ、おこる。

ふんい 文意、文章の意味を云ふ。
ふんいうのくわん〔名〕 分憂之官、國司をいふ。
ふんいく〔形〕 芥鬱、かうばしき、にほひよき。
ふんゐき〔名〕 雰圍氣、大氣、空氣、地球を圍む空氣をいふ。
ふんいん 分陰、すこしのひま〔一分の光陰〕。
ふんろく 文祿、日本自二千二百五十二年至二千二百五十五年〔西洋自一千五百九十二年至一千五百九十五年〕年號。
ふんば〔名〕 分娩、わかれ、えだわかれ。
ふんばい〔する〕〔他〕 文貝、こやすがひ、動物。
ふんばい〔名〕 分配、わりつけ、くばる。
ふんばる〔俗〕〔他〕 踏張、ふみはる、十踏張、ふみはだかる。
ふんばたかる〔俗〕〔自〕 跋扈〔「ふみはだかる」を見よ〕。
ふんばつ〔名〕—する〔自〕 蕃殖、ちかちをいだすこと、十ふるふ、やつきとなる。
ふんばり〔名〕 芥芟、かうばしき、よきにはひ、かをり。
ふんはう 文保、日本自一千九百七十七年至一千九百七十八年、西洋自一千三百十七年至一千三百十八年〕年號。
ふんぱう〔名〕 閑室、はまれ、よきこえ。
ふんぱう〔名〕 文房、文筆の器具を賞る處をいふ。
ふんぱうのしいう 文房四友、硯筆墨紙をいふ、硯は硯、筆は毛穎、墨は隃麋、紙は楮先生。
ふんぱうぐ〔名〕 文房具、ものかくうつは、筆紙の類。
ふんぱふ〔名〕 文法、文章の規則をいふ。
ふんぱふしよ 文法書、文法を論ずる書。

ふんぱん〔する〕〔自〕 紛糾、ひるがへる。
ふんぱ〔名〕 墳墓、はか、つか。
ふんぱ〔名〕 分母、わるもの〔分數にての、分子に對す〕。
ふんぼう〔する〕 分崩、分裂、潰亂、くづれる。
ふんぼのち 墳墓地、ふるさと、故鄕、父母先祖の地をいふ。
ふんぼく〔名〕 文墨、文學筆硯の事をいふ、是を弄ぶ人を文人墨客等といふ。
ふんぼてう〔名〕 蚊母鳥、蒐、かすひ、つつどり動物。
ふんぼさう〔名〕 蚊母草、むしくき植物。
ふんぼじゆ〔名〕 蚊母樹、いす、ひよんのき植物。
ふんぼん〔名〕 盤木、ゑのしたぎ、ゑしたぎぼん、ゑはん。
ふんべい〔名〕 閑雅、かぎびん。
ふんべい〔名〕 分秩、たもとをわかつ、わかれる〔別離〕。
ふんべつ〔名〕—する〔他〕 分別、わかつこと、十わきまへ、十わかつ、十わきまへる。
ふんべう〔名〕 糞壜、こえびしやく、こやしくむひしやく。
ふんべき〔名〕 粉壁、しろかべ、ぬりかべ。
ふんべん〔する〕〔他〕 分娩〔出産するを云ふ、うみおとす子を〕。
ふんさ〔名〕 糞牙、こえくみ、こえびしやく。
ふんさ〔名〕 忿怒、憤怒、忿恚、忿惱、忿懣、忿纏、はらたち、いかり。
ふんさ〔名〕 糞土、あくた、ちり、ごみ。
ふんさ〔名〕 墳土、あげつち。
ふんざり〔名〕 分捕、うばひとること、掠奪。

ふんどりもの〔名〕 劫奪物、劫掠物、かすめとれるもの。
ふんざう〔名〕 糞桶、こえをけ。
ふんざう〔する〕〔自〕 奮鬪、ふるひたたかふ、奮戰。
ふんざう〔する〕〔自〕 紛鬪、みだれたたかふ、いりみだれてたたかふ。
ふんどう〔名〕 噴筒、じやうご。
ふんどう〔名〕 分銅、ふんどん、法馬、權衡の錘、おもり。
ふんどう〔名〕 豌豆、蕃州の方言、えんどう〔植物〕。
ふんどう〔名〕 緣豆、や〜なり〔植物〕。
ふんどし〔名〕 犢鼻褌、褌、たふさぎ、なれぎぬ、てて、したのおび。
ふんち〔する〕〔自〕 忿懣、いかる、いきどほる。
ふんち〔する〕〔他〕 聞知、ききしる。
ふんちう 文中、日本自二千三十二年至二千三十四年、西洋自一千三百七十二年至一千三百七十四年〕年號。
ふんちう〔名〕 蚊帳、かや、かをさくるうつは、かちやう。
ふんちん〔名〕 文鎭、かみをさへ、書鎭、鎭紙、けいさん紙などの飛ばぬ樣に上にのせて鎭むる器。〔文〕
ふんり〔名〕 文理、めゝす、鎭ぢ、あやめ〔樹の紋にも云ふ〕。〔種〕
ふんり〔名〕—する〔自〕 分離、わかれること、十ゝつになる、わかれる。
ふんりう〔名〕 紛糅、雜糅、物の内にある糅〕。
ふんりう〔名〕 分流、支流、えだながれ。

ふんりやう〔名〕 分量、かさ、めかた、はかり。
ふんりやう〔する〕〔他〕 分領、わけをさむる〔土地等を〕。
ふんりやく 文歷、日本一千八百九十四年、西洋一千二百三十四年、一年にて終る〕年號。
ふんりん〔形〕 紛綸、いりくむ、いりみだる。
ふんりん〔名〕 文琳〔茶器の名〕。
ふんりん 分釐、極少の數量にして些少なることにいふ。
ふんるゐ〔名〕 分類、類別、しなわけ〔類に循ひて區別するをいふ〕。
ふんれう 文龍、日本一千九百二十年、西洋一千二百六十年、一年にて終る〕年號。
ふんを〔名〕 忿怒、いかり、忿怒。
ふんか〔名〕 分家、わかれいへ、ぶんけ。
ふんが〔形〕 文雅、風流、みやび、みやびやか。
ふんがい〔する〕〔自〕 憤慨、むつとする、いきどほる。
ふんかい〔する〕〔他〕 分解、ときわかつ、十まうしひらく。
ふんかつ〔する〕〔他〕 分割、ときてわかつ。
ふんかう〔名〕 糞坑、こえつぼ。
ふんかう〔名〕 文綱、したがき、草案。
ふんがく〔名〕 分毫、すこし。
ふんがくし〔名〕 文學文道をいふ。
ふんかふ〔名〕 文學士、文學の達人、また學位の名。
ふんがふ〔する〕〔自〕 粉匿、ゐしろいばこ。
ふんりう〔名〕 紛糅、雜糅、物の内にある糅〕。
ふんかふ〔名〕 文匿、ふみばこ、てがみばこ、ふばこ、文庫。

ふんかふ〔名〕 文鮑、いたやがひ、まだちがひ動物〕。
ふんたい〔名〕 粉黛、ゐしろいまゆずみ〔婦人のけしやうをいふ〕。
ふんたい〔名〕 粉苔、ふのり〔植物〕。
ふんたい 文體、文章の書き方〕。
ふんだい〔名〕 文案、ふづくえ、文案卓、ふみのする文臺〕。
るだい〔木蘭なるは大和國の吉野山吉水院藏、後醍醐帝御物といふ〕。
ふんだりけ〔名〕 芬陀利花、梵語にて白蓮花を云ふ。
ふんたつ〔名〕 聞達、きこえ、はまれ。
ふんたう〔名〕 文道、文事、文學の道。
ふんたん〔名〕 文段〔もんだん〕、文言、文句、文章の書き方〕。
ふんだん〔名〕 分段、ひとさり〔文章の一段一章などを云ふ、わかち〕。
ふんだん〔する〕〔他〕 分斷、わかつ、きりわかつ。
ふんだんくわ〔名〕 粉團花、てまりばな〔植物〕。
ふんれい〔する〕 奮勵、ふるひはげむ。
ふんれつ〔名〕—する〔自〕 分裂、あちそひわかれ、あちそひわかれる。
ふんれん〔名〕 粉蕾、ゐしろいばこ、粉匿、けしやうばこ。
ふんそ〔名〕 糞蛆、くそむし、せつちんむし、うじ〔動物〕。
ふんそ〔名〕 糞耳、こやし。
ふんそ〔名〕 鼢鼠、うごろもち動物。

ぶんそ〔する〕(他)　分疏、いひわけする、きうしひちく。

ふんぞる〔自〕　踏反、ふみそる(仰向きにそりかへる)。

ふんそく(名)　氣息、鼻氣、病氣、あしきき。

ぶんつう〔する〕(自)　文通、てがみにてものとづれる。

ふんらん〔する〕(自)　紊亂、いりみだれる、紛亂。

ふんむ(名)　噴霧器、きりふきかい。

ふんりん(名)　氣雲、くもかすみ、雲氣。

ふんりん(形)　紛紜、いりみだれてさかんなる。

ふんりん(名)—する(自)　紛紜、さしもつれ、もつれる、ごたつく。

ふんりん(名)　文運、奎運、奉運、文學の開け進む時節をいふ。

ふんのはかせ(名)　書博士(大學寮明法道の極官なり相當七位上、書爾と號す。

ふんのつかさ(名)　圖書寮、づしよれう。

〔ふんく〕(名)　文句(もんく)、文言、ことば、文章の。

ふんくわ(名)　噴火、ひをふく山等が。

ぶんくわ(名)　文火、ゆるやかのひ、とろび、武火を見よ。

ぶんくわ(名)　文化(日本自二千四百六十四年至二千四百七十七年、西洋自一千八百四年至一千八百十七年)年號。

ぶんくわ(名)　分課、それぞれのかかり、かかりわけ。

ぶんくわ〔する〕(他)　分課、わりつける、わりあてる(諸役人に事務などを)。

ふんくわい〔する〕(自)　分潰、わかれつひゆ、まけてもちばる。

ふんくわい〔する〕(自)　粉潰、こなみぢんにつぶれる。

ぶんぐわい(形)　分外、身分不相應の。

ぶんくわり(名)　紋輒、かや、はろがや。

ふんくわざん(名)　噴火山、ひをふくやま(浸間山の如く、火山。

ぶんくわん(名)　文官、文筆に從事する官員をいふ、武官に對す。

ぶんくわん(名)　文卷、ふみまき、ほん。

〔ぶんくわん〕(自)　聞慣、ききなれる、みみになれる。

ふんくん〔する〕(自)　芬薰、にはふ、かをる、よきにはひをはなつ。

ぶんや(名)　分野(此地を種種に畫して天上の星宿に配し當てたるものをいふ、十又ありさま、さま、もやう。

ぶんや(名)　文屋、文室、書室、ぶんと。

ぶんやわらは(名)　文屋童、ものまなびのこども、學生。

ふんやう　汾陽太上天皇を云ふ。

ふんやのはかせ(名)　文室博士(相當正六位下、明經道の極官なり、唐名大學博士と云ふ。

ふんやのつかさ(名)　大學寮、だいがくれう。

ふんやのやすひで　文室康秀、和歌の名人にて六歌仙の一人。

ふんやく〔する〕(自)　奮躍、ふるひをどる、こをどりする。

ふんまはし(名)　現、怪貫、筆規(闘き圍零を蓋くに用ひる巻)。

ふんまん(名)　忿懣、いかりもだへること、いきどほり、忿懣にたへずなど云ふ。

ふんけい(名)　分案、わかれいへ、えだわかれのいへ。

ふんけい　刎頸、くびをはねる(交誼の親密なるを形容するに用ふ。

ぶんげい(名)　文藝、文學の藝能をいふ。

ぶんけう(名)　文教、學文の教。

ぶんげふ(名)　分業、職業を分ちてすること。

ふんげき〔する〕(自)　忿激、いきどほりいちだつ、いかる、はらたつ。

ふんげきさつせん〔する〕　奮擊突戰、ふるひうちつきたたかふ、はげしくたたかふ。

ぶんけん(名)　閲見、みきき、經歷。

ぶんけん(俗)(名)—する(他)　分見、測量するをいふ。

ぶんげん(名)　分限、かぎり、みのほど、ほど(身分の境界)。

ぶんけんたうぐ　分見道具、そくりやうきかい。

ぶんけんゑづ　分見繪圖、そくりやうえづ。

ふんふん(形)　紛紜、いりみだれたる。

ふんふん〔する〕(他)　分賦、わりつける、くばる、わかちあたふる。

ぶんぶん〔する〕(他)　吟咏、いひつける(命令。

ぶんぶん　文武文學と武事。

ふんふん(副形)　芬芬、にはひよき、かうばしき。

ふんふん(副形)　紛紛、みだれたる體。

ふんと(名)　蔡殷、支那の樂器の名、もはつづみ。

ふんと(名)　雲霓、こやしつぼ。

ふんと(名)　噴霧、ひやうろ、みづまき。

ふんと(名)　文庫、ふみぐら(文藏)、ふや、ぶんや、書籍館。

ぶんと(名)　文庫、文匣、筆紙墨等をいれる箱。

ぶんど　豊後、西海道の國名。

ぶんどたけ(名)　豊後竹(植物)。

ぶんとつ　粉骨、はねをる、よくはたらく。

ぶんとつさいしん　粉骨砕身、はねをとにしみをくだく(勞力の甚だしきを云ふ)。

ふんとう(名)　黄紅、こやしつぼ。

ぶんどうめ(名)　豊後梅(豊後國大分郡府内の産の梅なり、眞名は鴛梅と云ふ)植物。

ふんどみ(名)　踏込、獨力衣(はかまの類、くくりももひき。

ふんとん(名)　無皆、くらきこと、くちさ。

ふんで(名)　筆、ふで。

ふんでい(名)　粉泥、すなご。

ぶんてい　文體、文章のすがた、ぶんたい。

ぶんてう(名)　文鳥(瑞紅鳥、とりのな動物。

ふんでうじさい(名)　黄蜂兒菜、しやうじやうばかま(植物。

ふんてん　墳典、支那の古書三墳五典をいふ。

ぶんてん(名)　文典、文法書、文法を論ずる書。

ぶんあん　文安(日本自二千百四年至二千百八年、西洋自一千四百四十四年自一千四百四十八年)年號。

ふんさ或**ふんちや**　粉茶、こちや、こなちや。

ふんさい〔する〕(他)　粉砕、うちくだく、こなみぢんにくだく。

ぶんさい〔する〕(他)　分裁、れわけする、わけてうる草木を。

ぶんさい(名)　文彩、いろどり、もやう。

ぶんざい(名)　分際、みのほど、分限、みぶん。

ふんざつ(名)　粉雜、いりくみ、いりみだれ。

ふんさう〔する〕(自)　紛擾、もつれあちそひ。

ふんさう(名)—する(自)　粉擾、よそほひ、よそほふ。

ふんさう〔する〕(他)　粉裝、いでたつ人の形體をまねるを云ふ。

ふんさう〔する〕(自)　紊騒、みだれさわぐ。

ふんさく〔する〕(自)　紛錯、いりくむ、いりみだるる。

ふんさん(名)　粉讚、ふのぐさち、ごふんざち。

ぶんさん(名)—する(自)　分散、しんだいかぎり、ばらばらになる、破産。

ぶんさんじや(名)　分散者、ばらばらもの、破産人。

ふんさ(名)　紛擾、もつれあちそひ、ごたごた。

ふんさ(名)　貴蔦、みつあしがめ(動物。

ふんさ〔する〕(自)　奮起、ふるひおこる。

ふんさ〔する〕(自)　墳起、うごもつ、むつくりふきあがる。

ぶんさ　文蟲(日本自二千百六十一年至二千百六十三年、西洋自一千五百一年至一千五百三年)年號。

ぶんぎ　文義、文意、ふみのところ、ぶんのいみ。

ぶんぎり(名)　藥管鐵砲の具。

ぶんきよ(名)　文官、ふばと、ふみばと、十はんばと、書函。

ぶんきよ　文魚、はも(動物)。

ぶんきようゐんでん　文華院殿(德川十一代將軍家齊の諡號)。

ふんきう(形)　紛糾、いりくむ、いりみだれる。

ぶんきう　文久(日本自二千五百二十一年至二千五百二十三年、西洋自一千八百六十一年至一千八百六十三年)年號。

ぶんきうえいはう　文久永寶(西鋼錢の名)。

ぶんきやう(名)　分境、さかひめ、さかひわけ。

ぶんきふ〔する〕　聞及、ききおよぶ、ききつける。

ぶんきんまげ或**ぶんきんたかまげ**(名)　文金髻、文金高髻(高き島田髻をいふ、良家の女子が結ぶものなり)。

ふんゆう(名)　貧勇、つよきいきほひ、勇氣。

ぶんめい(形)　分明(ふんみやう)、あきらか、はつきり。

ぶんめい(名形)　文明(人文の開けたるをいふ)。

ぶんめい　文明(日本自二千百二十九年至二千百四十六年、西洋自一千四百六十九年至一千四百八十六年)年號。

ぶんめいかいくわ　文明開化(人文の開けたるをいふ)。

ぶんめん(名)　文面、文段、文言、文句、ふみのことば。

ふんみやうに(副)　分明、あきらかに、たしかに。

ふんし(名)　粉詞(文法の詞にして、たのしみて、又はきたりつつといふが如き格をいふ)。

ぶんし(名)　分子(極微の物質をいふ)、ぶんし。

ぶんし(名)　分子、わかれるもの(分數に云ふ、分母に對す。

ぶんし〔する〕(他)　分賦、わけあたふる、わかちたまふ。

ぶんじ(名)　文事(文學の事業)。

ぶんじ(名)　分時、すこしのま(一分の間)。

ぶんしぼく(名)　紋子木、紋母木、ひよんのき、い

才(植物)。

ふんじよ(形) 紛如、いりみだれたる。

ふんしよ(名) 分署、ぐばりやくしよ(警察等の)。

ふんしよ(名) 文書、ふみ、かきもの。

ふんしよく(する)(他) 粉飾、よそほひかざる。

ふんしよく(名) 文色、あやめ、もやう。

ふんしよく(名) 文飾、よそほひかざり。

ふんしよぶくろ(名) 文書袋、ふみぶくろ(本圖なる文は大書袋和國の奈良[圖の東大寺の所藏])。

ふんしつ(する)(自) 紛失、まぎれうせる、なくなる。

ふんしつ 文買文飾と賀朴とをいふ)。

ふんしう(名) 雲舟、こえぶね、くそぶね、こやしをはこぶふね。

ふんしう(名) 文繡、文綉、ぬひもやう、ぬひとりがた。

ふんしやう(名) 文章、ふみ、かきもの。

ふんしやく(名) 雲灼、とえびしやく。

ふんじやく(名) 文弱(文事に流れて弱弱しくなることをいふ。

ふんしざ(名) 刎首、くびをはねる(刎頸を見よ)。

ふんしゆ 刎首、くびをはねる(刎頸を見よ)。

ふんしゆつせき(名) 噴出石、火山石、かるいし。

ふんじゆく(する)(自) 閑默、ものなれる。

ふんしん(名) 氣岐、あしきき邪氣。

ふんしん(名) 文身、ほりものからだ、みをもとろげること、刺繍。

ふんしん 分身、わかれみ(神佛の)、十又ことをうむこと(産子)。

ふんじん(名) 文人、墨客、文學を嗜む人、また文學に達した人。

ふんえい(名) 墳塋、はか、つか。

ふんえい 文永(日本自一千九百二十四年至一千九百三十四年、西洋自一千二百六十四年至一千二百七十四年)年號。

ふんえい(名) 分營分ち設けたる陣營。

ふんゑん(名)—(する) 憤怨、いかりうらむこと、いきどほる。

ふんび(形) 紛披、ひちぬく、ひちつく。

ふんび(名) 文被、ふまき、はんげつみ、帙。

ふんび(する)(他) 分泌(「ぶんぴつ」を見よ)。

ふんびつ(名) 文筆、文事をいふ。

ふんびつ(名)—(する)(他) 分泌(身體の中に諸液を發生するをいふ。

[ふんもく](名) 文目、あやめ、もやう、いろ。

ふんもん(する)(自) 貧門、貧の上口を云ふ。

ふんもん(名) 貧問、いかりもだへる。

ふんせい(名) 貧清、人中貧にんちうわう)。

ふんせい(名) 貧星、まだらぼし。

ふんせい 文正(日本自一千二百二十六年、西洋一千四百六十六年、一年にて終る)年號。

ふんせい 文政(日本自二千四百七十八年至二千四百八十九年、西洋自一千八百十八年至一千八百二十九年)年號。

ふんせい 紋紗、かゑあぶ。

ふんせい(名) 粉霽、とゆき、こまかきゆき、みぞれ、雪。

ふんせつくわ(名) 噴雪花、ゆきやなぎ、いはやなぎ(植物)。

ふんせう(名) 紛擾、みだれ、まぎれ、もつれ、ごたごた、もめ。

ふんせうるんでん 文昭院殿徳川六代將軍家宣の謚號。

ふんせき(名)—(する) 粉鑛、たうのつち。

ふんせき(名)—(する)(他) 分析、わかつこと物體の成分等を器械にて分解するをいふ)。

ふんせん(副形) 憤然、むつと、やつきと、いかりて。

ふんすゐ(名) 噴水、みづふき、ふきみづ。

ふんすゐ(名) 分水(大廣小圓の會する處をいふ)。

ふんすゐき(名) 噴水器、みづふきうつは。

ふんすう(名) 分數(算法にいふ詞にて一より以下の算をいふ。

こ

こ(名) 籠、かご、とりかご。

こ(名) 袴、股衣、はかま。

こ(名) 虎、とら(動物)。

こ(形名) 故、もとの、十又しにたる、十むかし。

こ(形名) 古、いにしへ(の、いにしへ、むかし、故。

こ(名) 股、くり(繩絲等の)、十又もも。

こ(名) 狐、きつね、野干(動物)。

こ(形) 互、きつよ、あはいなる。

こ 箇(物を數ふる時に用ふる詞にて例へば一箇二箇といふが如し)、個、か。

こ(名) 眼、くら、倉庫。

こ(名) 孤、みなしご、父母なき者、孤兒。

こ(形) 孤、ひとりたつ、はなれたつ、わかれをる、孤島孤村などを用ふ、孤立したるをいふなり)。

こ(形名) 固、かたき、十けんご、かため。

こ(形) 怙、かれたる、十しにたる。

こ(名) 氣、ゆみがた(圓形の外圍の一半を切りたる形)。

こ(名) 粉、こな、十こまかきもの。

こ(名) 蠱、かひこ、蚕ときま動物。

こ(名) 海鼠、なまこ。

こ(名) 兒、子、己の生める者、十また幼兒、ちご、十童、幼童、をなご、いとけなきこ。

こ(形) 小、ちひさき。

こ(名) 木、樹木、き。

こ(名)—(する)(自) 期、とき、きめどき、かぎり、十きつ、まちうける。

こ(名形) 五、伍、いつつ(四に一を加へたる數)。

ご 御、尊び言ふ時に冠らしむる詞なり、但し天子に就いて言ふ時は其語の末に置く、例へば還御出御等の如し、おん、み、ぉ。

ご(名形副) 後、のち、あと、のちの、あとの、のちに、あとにて。

ご(名) 豆精(大豆を水につけおきて磨りつぶしたるものをいふ、或は之を以て豆腐を製し或は之を以て塗物の色の相混ずるを防ぎ、又は之を以て汁を製す、豆乳酪。

ご(代名詞) 吾、われ、我。

ご(名) 語、ことば、言語。

ご(名) 午、うまどき、ひるどき。

ご(名) 碁、圍碁、黒白の石を以てする戯。

こい(名) 故意、ことさらのもひ、わざわざのこころ、ことさら。

こい(俗)(名) 肥料、こえ、糞汁、こやし。

こい 古衣、ふるぎ、舊衣、ふるきもの。

こゐ(名) 小院、幼僧、ちひさきぼうず。

こゐ 五井(上總國市原郡なる有名の地)。

こゐ(する)(自) 怪獲、たがふ、もとる、さからふ。

こいはねだ 深鍋、ときはないろ。

こいへ 小家、小屋、こや、ちひさきいへ。

こいざろ(俗)(名) 糞人、こやしくみ、汲除人。

こいざり(名) 肥取、さうぢや、荷馬、こやしくみ、汲除人。

こいちや(名) 濃茶、濃くたてたる茶)。

こいちでらてんわう 後一條天皇(人皇第六十八代の帝、紀元一千六百七十七年(西洋紀元一千〇十七年)より、一千六百九十七年迄、在位二十一年御譲廿九歳にて崩ず)。

こいぬ(名) 小狗、矮狗、いぬころ、ちんころ(動物)。

こいそのうら 小磯浦(相模國中郡の海邊)。

こいつ(俗) 這奴、こやつ、このやつ。

こいづみちやう 小泉町(東京市本所區本所の町)。

こいう(する)(他) 蠱誘、だましいざなふ。

こいう(形) 固有、もちまへ、もともとよりある。

こゐのくらんど(名) 五位藏人(古の官名にして唐の仙郎に當る)。

こいけ 小池氏。

こいふす(自) 轉臥、ふしまろぶ、ねがへりする。

こいで 小出氏。

こゐさき(名) 五位鷺、殘鳴(動物)。

こいき(俗)(形) 小意氣、すこしいきなる。

こいし(名) 小石、礫、いしくれ、礫、つぶて。

こいし(名) 蕗子(蕗をうつ黒白の石)。

こいしはらむら 小石原村(筑前國朝倉郡の村)。

こいしはまぐり(名) 蛤蜊、てうせんはまぐり(動物)。

こいしがひ(名) 海蛤(動物)。

こいび(名) 季指、小指、こゆび。

こいすね(名) 瘡足の腫れるをいふ、はれあし。

こいん(名) 語音、ことばのこゑ、とわれ、こゑ。

こいん 五音(宮商角徵羽の五樂音、支那にて用ふる音樂の調子、十また脣舌牙齒喉の五聲音にも云ふ)。

こいん(名) 梧陰、梧桐の陰をいふ、梧桐を見よ)。

こいん(形) 近陰、さむき、つめたき。

こいん(する)(他) 換婚、たはける(女に)。

こいんし(名) 胡麻脂、つるむらさき(植物)。

こいんし(俗)(名) 碌輪、ころばし、佗、おたちしやうつは、十轆木重き物を轉ずる爲に下にしく木片)。

ころ(名) 頃、比時、時刻、ころはひ、とき、をり、十あたり。

ころ(名) 胡蘆、壺蘆、ひさご、へうたん、ゆふがほ、瓠瓜(植物)。

ころ(名) 語路、ことばのつづけかた、くてう。

ころ(名) 呉羅、呉呂(織物)。

ころろだいん 格勞巻明尹(藥品)。

ころは(名) 胡蘆巴、苦豆(植物)。

ころぼつくぐる(名) 蹠下種族(蝦夷島に隈和人は之を稱して其土地を占領せり、「コロボックル」には即ち蹠下人の義なりと云ふ、敎等は小人にして蝦夷島の大蹠の葉の下に起臥せしに因りて此名ありしなりかと云ふ)。

ところほび（名）比、頃、ころ、とき。
ところりと〔俗〕〔副〕轉利、ころころ、ころげる貌。
ところをる（名）格魯兒、駱駝。
ところかき（名）轉牡蠣、牡蠣の一種（動物）。
ところがき（名）胡麗柿、乾柿、轉柿、白柿、はしがき（柿の未だ熟せざるものの皮を去りて乾して外面に霜質物を發せしめたるものをいふ）。
どろたいし〔俗〕〔名〕磊石、ごろごろいし。
どろつく〔俗〕〔自〕轉付、ごろごろする、十また蟲雷が、十又ごろごろするところもちする（目などが）。
コロップ〔俗〕〔名〕栓木、びんぐち、罐栓、罐瓶の柔木栓、コルク、キルク。
どろつき〔俗〕〔名〕破落家、ならずもの（恒産恒心なき不良の民）。
ところう（形）固陋、いやしき、かたくな。
ところう（形）鋼鞭、とうまるかご（罪囚をいるる）。
ところく（名）胡簶、えびち、やつぼ、矢筒、箙。
ところぶ〔俗〕〔自〕轉、ころげる、こ、轉倒、轉覆、顚倒、踣跌、倒滑、たふれる。
どろふくりん（名）羽紗、羽毅毛織物の名。
どろどろ（副）磙磙、石のまろぶ聲。
どろごろ（形副）轆轆、絢絢、轟轟、雷霆、車輪が回る時に土又は石に觸れて發する音をいふ。
どろどろ（形副）嘲嘲、猫が喜びて出す音。
どろどろ（形副）殷殷、雷霆、雷の鳴る音をいふ、また轆轆、轟轟、車の音をいふ。
ところし（名）臺匾子、ふくべ（植物）。
ところびね（名）假寢、かりね。
ところも（名）衣服、きもの、衣裳。
ところも（名）衣、きもの、十また稍衣、絡衣、裳裳、僧の著る。
ところも　舉母（參河國加茂郡の地名、衣とも書く）。
ところも　來臨、舉母氏。
ところもがは　衣川（陸中國磐源郡より流るる川、また岡部の有名の地）。
ところもがへ（名）更衣（太陰曆の四月の朔日と十月の朔日を然かいへり、此時よりして一は夏服一は冬衣に著かふればなり）。
ところもつつみ（名）衣襖、ふろしき、帕、十包袱、ふくさ。
ところものたき　衣瀑布（陸中國磐源郡に在る瀑）。
ところものせき　衣關（陸中國磐源郡の地名）。
ところもぐさ（名）衣草、孝廉、かちむし（植物）。
ところもて（名）　衣手（「たかやか」、「うちわのさと」の枕詞）。
ところもてを　衣手を「たかやか」、「たなかみやま」、「なぎの川」、「ひたち」、「まわかの浦」、「かくる峯の枕詞」。
ところす（他）殺、害、戮、屠、殺、殺死、殺戮、刺殺、誅殺、殺殺、殺殺、十しいする、弑、弑殺、君父を。
ところすつみ（名）大球、死刑、しけい。
ところすぶす　閑鶴、西班牙人にて始めて亞米利加洲を發見せし者。
どろんし　五輪師（馬蹄、鶴樹、提鞋、如意、無著）。
どろんし（名）木皮、きのかは。
どろば　胡馬、えびすうま、北胡の馬。
どろば　五顆、齊桓公、晉文公、秦穆公、宋襄公、楚莊王、五伯。
とばい〔する〕〔他〕　沽買、かふ、あがなふ。
とばいけん〔俗〕　強異見、つよきいけん、しかりいましむること。
とばいし（名）五倍子、鹽默子、きぶし（植物）。
とばいひ（名）硬飯、こはめし、赤飯、せきはん（強飯）。
とばはる〔俗〕〔自〕強直、こはくはりてをる、やはちかくあちぬ。
とばちす（名）睡蓮、どうがめばす（植物）。
とばりはら（名）硬頸、頑丹、はちのかたくなるやまひ。
とばる　小春（太陰曆の十月を云ふ、小陽春）。
とばがる〔俗〕〔自〕恐怖、怖畏、怖懼、戰慄、おそれる。
とばかま（名）小袴、ちひさきはかま。
とばた　小幡、強田氏、また山城國宇治郡の地名。
とばた（名）江鰐魚（動物）。
とばた（名）樸、きのかは、木皮。
とばた（名）小旗、幟、はた、のぼり。
とばたやま　小櫛山（山城國宇治郡に在る山）。
とばづ（名）鱧隱草、ぼさつまめ（植物）。
とばな（名）小鼻、鼻の孔の外皮を然かいふ、小鼻を廣げるなど云ふ）。
とばなはのたき　小塙瀑布（攝城國豐島郡に在る瀑の名）。
どばなぞのてんわう　後花園天皇（人皇第百二代の帝、紀元二千〇八十九年（西洋紀元一千四百二十九年）より二千百二十四年に至る、在位三十六年（御壽五十二歳）にして崩ず）。
とばら（名）小腹（少しく怒れるを云ふ時に小腹がたつと云ふ）。
とばむ（他）拒絶、拒斷、抗拒、はばむ、ふせぐ。
どばう（名）御坊、僧院を云ふ。
どばう（名）牛蒡、牛房、便家牛、ねずみねぎし、うまふぶき、きたきす（植物）。

どばうし（名）牛房子、ごばうのみ、藥質。
とばく〔副〕恐怖、おそろしく。
とばく（名）琥珀、江珠、阿濕摩揭婆（樹脂の化石）十また琥珀鞘。
とばくどうふ（名）琥珀豆腐（料理の一法、豆腐の水を搾りてくづし離卵を入れよく擂りまぜ葛粉を少しいれて丸くも細長くも適宜によく丸めて胡麻油にて揚ぐる也）。
とばくれり　琥珀織（織物の名、こはく）。
とばくか（名）胡蘆荷、積雪草、かきとほし（植物）。
とばくかんしや（名）琥珀甘蔗（琥珀甘蔗は何なる寒地と雖も培養する時は能く成長して之より善良なる砂糖を製出するを得（植物）。
とばくたう（名）琥珀鐵、たんきりあめ。
とばくきう（名）孤白裘、孤の腋下の毛皮にて造りたる衣。

とばくじま（名）琥珀縞（織物の縞の名）。
とばや（名）飛梁、はやふね、いそぎふね。
とばやかは　小早川氏。
とばやし　小林氏。
とばまめ（名）五葉豆、がんくひまめ（植物）。
とばふか（名）古法家（德川時代に醫の古法を守る者を然か呼べり、後世家に對す）。
とばふげん　古法眼（狩野法眼をいふ、文明八年に生れ永祿二年に歿す、有名の畫家）。
とばとば（副）傑傑、あぞあぞ、あそるあそる。
とばとば（名副）裳裙（衣服のなる聲、さらさら）。
とばな（形）強、頑、硬、かたき、十やはらかならぬ。
とばめし（名）強飯、こはいひ、せきはん。
とばみ（名）木食、もくじき（木の實のみを食ひ居ること）。
とばぜ（名）桃牙、骨板、牙藝、とめ（衣服などの）。
とばん（名）枯鑿、やきみやうばん。
とばん（名）虎斑、とらふ、虎文。
とばん（名）紅冠水鷄、とりのな、田鷄（動物）。
とばん（名）小判、黃金貨幣の一。
とばん（名）午飯、ひるめし、ひるめし、
とばん（名）碁盤、拝棋、碁局、ごをうつばん。
とばんにんぎやう（名）碁盤人形（京都祇園町幼き舞子、こどものまひこ。
とばんざき（俗）小半時、かたときたちず。
とばんちく（名）虎斑竹、しやこたんだけ（北海道産す植物）。
とばんちやう　五番町（東京市麹町區番町の一）。
とばんなり（名）小判形、橢圓形、いびつなり。
とばんのあづかりやく　堂塞官（天子の印を司る人）。
とばんのめ　碁盤格、碁盤。
とばんぎよ（名）印魚、喝機吹魚（動物）。
とばこ　後日、のちのひ。
とばこ（名）小荷駄、輜重、軍勢の荷物兵糧力。
とばりやく（名）蒟醤、こんにやく（植物）。
とばりやく〔する〕〔自〕帷入、さとりいる。
とばりやま　鄙山（大和國生駒郡及び碧代國安積郡の地名、又薩摩國薩摩郡の山）。
とばりまめ（名）氷豆、げんじまめ（菓子）。

とばとば（名副）裳裙（衣服のなる聲、さらさら）。
とばな（形）強、頑、硬、かたき、十やはらかならぬ。
とばめし（名）強飯、こはいひ、せきはん。
とばみ（名）木食、もくじき（木の實のみを食ひ居ること）。
とばぜ（名）桃牙、骨板、牙藝、とめ（衣服などの）。
とばん（名）枯鑿、やきみやうばん。
とばん（名）虎斑、とらふ、虎文。
とばん（名）紅冠水鷄、とりのな、田鷄（動物）。
とばん（名）小判、黃金貨幣の一。
とばん（名）午飯、ひるめし、ひるめし、
とばん（名）碁盤、拝棋、碁局、ごをうつばん。
とばんにんぎやう（名）碁盤人形（京都祇園町幼き舞子、こどものまひこ。
とばんざき（俗）小半時、かたときたちず。
とばんちく（名）虎斑竹、しやこたんだけ（北海道産す植物）。
とばんちやう　五番町（東京市麹町區番町の一）。
とばんなり（名）小判形、橢圓形、いびつなり。
とばんのあづかりやく　堂塞官（天子の印を司る人）。
とばんのめ　碁盤格、碁盤。
とばんぎよ（名）印魚、喝機吹魚（動物）。
とばこ　後日、のちのひ。
とばこ（名）小荷駄、輜重、軍勢の荷物兵糧力。
とばりやく（名）蒟醤、こんにやく（植物）。
とばりやく〔する〕〔自〕帷入、さとりいる。
とばりやま　鄙山（大和國生駒郡及び碧代國安積郡の地名、又薩摩國薩摩郡の山）。
とばりまめ（名）氷豆、げんじまめ（菓子）。
とばりづき（名）日課、太陰曆十一月の異名。
とばりうを（名）氷魚、凍魚、鮨（動物）。
とばりぐわし（名）冰菓子、アイスクリーム。
とばりやま　鄙山（大和國生駒郡及び碧代國安積郡の地名、又薩摩國薩摩郡の山）。
とばりまめ（名）氷豆、げんじまめ（菓子）。
とにき（名）外國王、はかのくにのあう（日本紀などに見ゆ）。
とにし　小西氏。
とにん〔する〕〔他〕　調諭、みあやまる、みちがへる、あやまりみとむる。
とぼ　古墓、ふるづか、古墳、ふるはか。
とぼ（名）　鈷鍋、ひのし、火熨斗。
とぼろき（名）　鷹馬、綠蟻、綠蟻、いとど、十又きりぎりす（動物）。
とぼざけたちげ　小師峠（相模の國境に在る山にて武藏國南多摩郡につづく、甲州街道第一の難所）。
とぼり（名）　冰、氷、こはれるみづ。
とぼり（名）　鄙、ぢん縣の小區分。
とぼりどうふ（名）　冰豆腐（冬の日寒地にて豆腐を水にて煮、霜に入れて高く懸け二三夜氷らせ後も乾して乾物とす）。
とぼりざけ（名）　氷解、とぼりがとけること。
とぼりわり（名）　冰霜、とぼりかき。
とぼりわろし（名）　伐氷器、とぼりきり。
どぼりかはてんわう　後堀川天皇（人皇第八十六代の帝、紀元一千八百八十二年（西洋紀元一千二百二十二年）より一千八百九十三年迄、在位十二年御壽二十三歳）。
とぼりづき（名）　日課、太陰曆十一月の異名。
とぼりうを（名）　氷魚、凍魚、鮨（動物）。
とぼりぐわし（名）　冰菓子、アイスクリーム。
とぼりやま　鄙山（大和國生駒郡及び碧代國安積郡の地名、又薩摩國薩摩郡の山）。
とにき—**とにで**　七八二

とにでうてんわう　後二條天皇（人皇第九十四代の帝、紀元一千九百六十二年（西洋紀元一千三百〇二年）より一千九百六十八年迄、在位六年（御壽二十四歳）。
とにきし（名）　外國王、はかのくにのあう（日本紀などに見ゆ）。
とにし　小西氏。
とにん〔する〕〔他〕　調諭、みあやまる、みちがへる、あやまりみとむる。
とぼ　古墓、ふるづか、古墳、ふるはか。
とぼ（名）　鈷鍋、ひのし、火熨斗。
とぼろき（名）　鷹馬、綠蟻、綠蟻、いとど、十又きりぎりす（動物）。
とぼざけたちげ　小師峠（相模の國境に在る山にて武藏國南多摩郡につづく、甲州街道第一の難所）。
とぼり（名）　冰、氷、こはれるみづ。
とぼり（名）　鄙、ぢん縣の小區分。
とぼりどうふ（名）　冰豆腐（冬の日寒地にて豆腐を水にて煮、霜に入れて高く懸け二三夜氷らせ後も乾して乾物とす）。
とぼりざけ（名）　氷解、とぼりがとけること。
とぼりわり（名）　冰霜、とぼりかき。
とぼりわろし（名）　伐氷器、とぼりきり。
どぼりかはてんわう　後堀川天皇（人皇第八十六代の帝、紀元一千八百八十二年（西洋紀元一千二百二十二年）より一千八百九十三年迄、在位十二年御壽二十三歳）。
とぼりづき（名）　日課、太陰曆十一月の異名。
とぼりうを（名）　氷魚、凍魚、鮨（動物）。
とぼりぐわし（名）　冰菓子、アイスクリーム。
とぼりやま　鄙山（大和國生駒郡及び碧代國安積郡の地名、又薩摩國薩摩郡の山）。
とぼりまめ（名）　氷豆、げんじまめ（菓子）。

とぼりどんにやく（名） 凍蒟蒻、こほらせたるこんにやく（陸前國の產物）食品。

とぼりざたう（名） 氷砂糖、石實、糖精、水晶糖（氷の如くかたまれる砂糖）。

とぼりもち（名） 氷餅（菓子の一種にて信州安曇郡仁科より出だす名物）。

とぼる（自） 凍、氷結、冱、十結晶、かたまる、わすびかたまる、こほりになる。

とぼれる（自） 澄、あふれる。

とぼれざいはひ（名） 僥倖、おもひよらぬしあはせ。

とぼつ（他） 毀、やぶる、壞毀、破毀、破壞、毀壞、敗、こはす。

とぼら（名） 小陵島（動物）。

とぼく 枯木、かれき。

とぼく 古木、ふいき、ふるき。

とぼけ（名） 樝子、くさぼけ（植物）。

とぼふ 轉法（佛教を廻轉するをいふ）。

とぼし（名） 承水、みづこばし、穢水。

とぼしかける（他） 飜注、そそぐ（水を）。

とぼしみづ 飜水、こぼしたるみづ、覆水。

とぼす（他） 傾瀉、覆、酬、かたむけそそぐ（水を）。

とぼん（名） 小本（遊里遊客の言行を寫せる德川時代の小戯本）。

とぼんなち（俗）（名） 子煩惱、こどもずき、こかはいがり。

とへい（「する」）（他） 鋤閉、とぎこむる、かたくとぢる。

とへい（名） 藁米（藁といふ水草の實にしてそれより粉を製す）。

とへい 古米、ひねごめ、ふるごめ。

とべい（名） 胡餅、ごまもち。

とへい 五兵司（鎧、矛、戈、戟を云ふ）。

とへい（名） 御幣、みてぐら、（いそく）。

とへいかつぎ（俗）（形名） 御幣擔、迷信、過信、ものにまよふひと。

とへいさい（名） 虎柄菜、ながひじき（植物）。

とべりつく（俗）（自） 粘著、粘甲、ねばりつく。

とべつ（名） 戶別、こわけ、いへ〳〵、こごと（けんやつに同じ）。

とへん（俗）（代名詞） 御邊、貴殿、あなた、同輩に向ひて呼ぶ詞。

とど（名） 言、辭、語、詞、ことば。

とど（名） 古都、ふるきみやこ、舊都。

とど（名） 琴、笥、琶、絃桐（此圖なるは大和國法隆寺の所藏のもの）。

とど（名） 事、物、辭、事件、事故、事物、事項、ものごと。

とど（名） 屎、糞、なげつるべ、屎桶（鍋をつけ投げこみて水を汲む桶）、かへをけ。

とど 故土、ふるさと、故山、故鄉、鄉里、桑梓、うまれどころ。

とど 五度分、寸、尺、丈、引。

とどいと 琴絲、ことのいと。

とどば（名） 言葉、詞花、言語、言辭、言詞、ことのは（口より出だす接續せる音聲）。

とどばがめ（名） 言葉貴、貴言（人のあげ足を取る）。

とどばかり（名） 商賣、賣（人のあげ足を取る）。

とどばがき（名） 小序、詞書、うたなどのじよぶん。

とどばよせ（名） 詞寄（借字、語集（字書の如く許多の語を集めたるものをいふ）。

とどばづかひ 言葉、ものいひざま。

とどばら（形名） 異腹、かはりはら（母の別なるをいふ）。

とどばらから（名） 異母兄弟、はちがはりのきやうだい。

とどばてんわう 後鳥羽天皇（人皇第八十二代の帝、建元一千八百四十四年（西洋紀元一千百八十四年）より一千八百五十九年迄、在位十五年御壽六十歳、隱岐院と稱す）。

とどばじち（名） 言質、證人の言を證據に取れるもの。

とどばじり（名） 語尾、ものいひのはし、十ひとのいひあやまち。

とどばじめ 事始、昔し十二月十三日に正月のことを始むるを然かいふ。

とどに（副） 特、殊、越、別、べつだんに、十べつして、わけて、とりわけ、ことさらに、特別。

とどほき（名） 叡、言書、いはふこと、いはひ（叡賀を述ぶる言）。

とどべい 五斗米（小祿をいふの譬に用ふ、小吏を五斗米先生と呼び又五斗米のために腰を屈むなど云ふ、陶淵明の故事より起れり）。

とどどをわたす（他） 離絲、りえんする、ひまやる、りべつする。

とどどふ（自） 言問、とふ、たづねる、きく。

とどどひ 言問（東京隅田川の東岸四ち向島をいふ、中將業平が隅田川に臨みて名にし負はば去來言問はん都鳥わが思ふ人はありやなしや」とよめること。

本づきて向島に此名存す、又言問團子てふものありて向島に名高し）。

とどどもる（自） 吃、訥、ことばつかへる。

とどどせぬ 不篤事、かまいつけぬ、十おそれぬ。

とどち（名） 琴柱、徽（琴の絲を支へる具）、ことのこま、こま。

とどち（名） 輪、よこぎ車の。

とどちさう（名） 桂草、くさのな（植物）。

とどり 小鳥、ちひさきとり（動物）。

とどり（名） 部領、ひとのひとむれのかしら、首領。

とどりばば（名） 產母、隱婆、とりあげばば。

とどりどまらず（名） 伏牛花、刺虎、（ひのぼちゞ（植物）。

とどをはむ 食言、約を違へるをいふ、やくそくにそむく。

とどれほ（形） 事多、事務多端、ようおほ。

とどれそき（形） 訥、くちごもる、十どもる。

とどをひく 彈琴、撫琴、ことをかなづる、ことをしらべる。

とどわり（名） 道理、わけあひ、すぢみち。

とどわる（他） 判、辨別、識別（事の是非曲直を判つを云ふ）。

とどわる（他） 謝斷、謝絕、辭退、固辭、こばむ、いなむ。

とどわざ（名） 諺、常言、世諺、俚語、鄙里諺、古來世人一般にいひ慣れたる格言。

とどわざ（名） 事業、事務、つとめ、なりはひ。

とどがら（名） 事柄、事故、事由、わけがら。

とどかく（自） 事缺、ようたらぬ、かけてある。

とどよざす（自） 任事、おふせる、めいずる、命（古語）。

とどよせる（自） 事寄、借字、托言、托、託、たくする、かこつける、いひよせる、とうじつとする。

とどたる 事足、用が足る、きにあふ。

とどたま（名） 言靈（言語の妙用をいふ、ことばのたましひ、ことばのちから）。

とどそき（形） 省略、せいりやく、はぶき。

とどづける（自） 事托、傳言、ことづてする、囑托、囑言、たのみやる。

とどづて（名） 言傳、ことづけ、たのみていひやる。

とどづめ（名） 琴爪、義甲、套甲、假甲（琴ひく時はめる假爪）。

とどねり（名） 小舍人（古官職人所の下司）。

とどなる（形） 異、別、異殊、別異、差別、特殊、特別、べつなる、ちがふ。

とどなく（副） 無事、閑暇、しづかに、のどかに。

とどねぐし（名） 酒、さけ。

とどる（名） 屎桶、なげつるべ。

とどる（名） 胡豆、いはふず、にはふず（植物）。

とどる（名） 苦蕓、たうちや（植物）。

とどる（名） 古實、ふるだうぐ、ふるうつは、骨董。

とどる（名） 後藤氏。

とどる（名） 梧桐、あをぎり、たうぎり（此樹の葉の秋色をいふに用ふ）植物。

とどらら（名） 虎頭蟬、かむりがひ、たうかむり（動物）。

とどらふ 五雩卿、天子之妃曰后、諸侯曰夫人、大夫曰孺人（禮曰內子）、士曰孺人、庶人曰妻（曲禮に出づ）。

とどらし 五雩死（天子曰崩、諸侯曰薨、大夫曰卒、士曰不祿、庶人曰死（曲禮に出づ）。

とどらしちらう（名） 五通七郎（山縣の類）。

とどのいと 琴絃、ことのを。

とどのは（名） 歌、辭、いひぐさ、うた、はなし。

とどのはぐさ 言葉種、ことばのたね。

とどのほか 籠外、おもいのほか、非常。

とどのを 琴絃、ことのいと。

とどのわけ 事由、事理、わけがち。

とどのじふにきう 琴十二操（將歸、猗蘭、龜山、越雀、狗鳴、岐山、履相、雉朝、別鶴、殘形、水仙、襄陵）。

とどく（形） 孤獨、みなしご、ひとりみ、孤獨。

とどく（名） 五德（道、良、義、儉、讓）。

とどく 五德、火栗三脚、鐵鳴脚、鐵栗火鉢に置く具）。

とどくに（名） 他國、外國、ほかのくに、ぐわいこく、いたく。

とどぐさ（名） 言種、ことばぐさ、はなしのたね、ことば、ていひぐさ。

とどやう（形） 異樣、いやう、ことさま、十ふうがはり。

とどげいと（名） 琴藝子（京都祇園町遊別の藝子にして琴を彈くもの）。

とどふる（自） 事養、ふるくさくある。

とどふれ（名） 託人、託者（神符を賣り歩き占卜等を爲すもの）。

とどぶき（名） 叡書、いはひ、ことはぎ。

とどぶきちやう（名） 御書町（東京市淺草區淺草の町）。

とどと 毎事、いちいち。

ことどとく（副）悉、咸、盡、盡、皆、みな、すべて、いちいち。
ことどとしき（形）事事敬、たいさうらしい、ぎやうぎやうしい。
ことどのみ（名）好事、ものずき。
ことどまやかに（副）事細、仔細、こまかに、くはしく。
ことばきへぐ　語嘔「かちの崎」「くだちの屋」などの枕詞。
ことばきらに（副）疾更、故、わざと、故意、故造、有意、ところありて。
ことばきれる（自）事切（借字、言斷、辭斷、いきたえる、しぬる、いきひきとる、死ぬるをいふ、撮早ときれて如何ともすべからずなど云ふ。
ことばし（名副）今年、このとし、是歲、今歲、今茲。
ことばし（名）琴工、ことをつくり、ことをつくるひと。
ことばし　如、若、猶、にたり、あなじきごとくあり。
ことばしろぬしのかみ　事代主神（大國主神の孫、屋鞏比賣神、父神を援けて國土經營に功績ありし神。屋鞏比賣神の御子大己貴神の長子にして御母は屋鞏比賣神、父神を援けて國土經營に功績ありし神。
ことばしげき（形）事繁、ことおほき、繁務。
ことばひ（名）特牛（ことひうし）を見よ。
ことばひらちやう　琴平町（東京市芝區の町）。
ことばひらやま　琴平山（讃岐國仲多度郡に在る山、象頭山と呼ぶ、有名なる讃岐の金毘羅の安置せらるる處）。
ことばひらじんじや　琴平神社（東京市芝區琴平町に在る有名の社）。
ことばひうし　特牛、をうし、十健牛、犗牛、閹牡牛、きんきりうし（動物）。
ことばひうし　大牛（みやの調の枕詞）。
ことばひき（名）彈琴者、ことひくもの。
ことばひき（名）訪問、はうばう（動物）。
ことばひきらら　琴彈述（讃岐國の海濱）。
ことども（名）子等、こち（ことの複數）、十また（俗）子、兒、小兒、をさなご、ちご、兒童、兒女、兒息。
ことどもらしき（形）如小兒、こどものやうなる、十又をとなげない。
ことすくなに（副）言少、ことばすくなく、ことばみじかく。
ことすくなき（形）簡、閑散、ひまなる、しごとなき。
ことち（名）鱗、牛尾魚、鯔、鯔、鰡、鰡動物。
ことち　胡地、えびすぐに。
ことち（名）故知、ふるきなじみ、舊しりあひ、知己。
ことち　故智（古人の故智をしたる智の謂をいふ、故智を襲ぐなど云ふ、ふるきなじみ、舊ぐな）。
ことち（名）東風、條風、ひがしかぜ、谷風。
ことち　湖池、みづかれたるいけ、ひあがれるいけ。
ことち（名）湖池、ためいけ、みづため、十瀦。
ことち（名）此方、こちら、こなた。
ことち（名）（する）他）諷持、持念、まもりたもつ（佛設等を）。
ことちさまりしま　東風泊島（對馬國の島）。
ことちかみ　子地上氏。
ことちかぜ（名）東風、こち、ひがしかぜ。
ことちよ（名）聲女、ごぜ、盲女、めくらをんな。

ことたく（副）言痛、うるさく、くだくだしく。
ことたき（形）言痛、ことばおほき、わづらはしき、うるさき。
ことち（名）孤注（特に目さすものをいふ）。
ことち　五蟲（鱗蟲（龍を長とす）、羽蟲（鳳を長とす）、毛蟲（麟を長とす）、介蟲（龜を長とす）、裸蟲（人を長とす）、支那の古說なり）。
ことち（名）役住（佛寺の前住職の後を嗣ぐ僧）。
ことちうはん（名）小食飯、こひるめし（三度の食の間に少しく食ふ所のもの）。
ことちく（名）梧竹（梧桐と竹、梧桐をみよ）。
ことちく　五畜（牛、馬、羊、牛、家）。
ことちや（名）粉茶、こなちや。
ことちや（名）鼓腹、はちふくれ、腹滿。
ことちや（名）伍長、こがしら（兵士の中の）。
ことちやう　御諚、おんおほせ、御命。
ことちやうさい（名）姑根菜、はうづき（植物）。
ことごち（代名詞）此方、こなたかなた（水をあびて身を清むること）。
ことちもく（名）小除目（臨時の除目を云ふ）。
ことちん（名）屋賃、やとひちん。
ことちん（名）伍陣、いくさのそなへ、行伍。
ことちん（名）後陣、あとぞなへ（軍勢の）。
ことり（名）逆纏、かちだきよめ（水をあびて身を清むること）。
ことり（名）凝結、こりかたまり。
ことり（名）孤狸、きつねたぬき。
ことり　行季（かうり）、骨董、ものいればと、宅舍、雜具、雜裏、やないばこ。
ことり（名）五里（附の上三寸裏面の大脈の中央に在る穴）。

ことり（名）黃頷魚、石伏魚、いしぶし（動物）。
ことりる（自）微、微省、いましめをうる、こりごりする。
ことりかたまる（自）凝結、凝固、結晶、凝聚、かたくまとまる、執着固執、いつしんになる、こる。
ことりよ（する）自）顧慮、かへりみる、おもんぱかる。
ことりつ（する）自）孤立、ひとりたつ（他に相並び相助くる者なくして獨離れて立つをいふ、獨立とは意味ものづかち異なり）。
ことりつ（する）自）殷賑、わななく、ふるへる。
ことりやう（する）他）估量、ねづもる、ねをつける、評價。
ことりやう（名）五量（龠、合、升、斗、斛）。
ことりやう（名）五兩、かざみかに（動物）。
ことりやう　柳領（おんりやう）、天領（昔し幕府の領地を特に然かいへり）。
ことりやうでん　後涼殿（禁裡の殿名）。
ことりやうゑ　柳營（會津城州葛野郡今宮疫神の祭）。
ことりどり（俗）（形）微微、おほとり（いたく微りたるをいふ）。
ことりとり（俗）（形）小利口、こざかしき、さかしらなもの。
ことりき（名）檣木、たきぎ（新山野にて伐り取れる木）。
ことりき　五力（佛家にて信、念、精進、定、慧の稱）。
ことりずまに（副）不微、こりずに、こりもなく。
ことりん　五倫（君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友の五の關係をいふ、また之を五品と云ふ）。
ことりん　五輪（地水火風空をいふ、また五個の石を積み寶塔をもいふ）。
ことぬか（名）小糠、米粃、こめのぬか。
ことぬかあめ（名）小糠雨、こさめ、きりさめ。
ことぬすみ（名）竊盜、こそどろ、ぬすみ。
ことぬすびと（名）小偷、鼠竊、こそどろ、ぬすびと。
ことる（他）機、きこる、柴材木などを。
ことる（自）凝、かたまる、むすぼる。
ことる（自）微、こりる、こりこりする。
ことりり（名）竹林鳥（動物）。
ことくのき（名）桧木（亞非利加及び西班牙、葡萄牙等に產する樹にて其皮より坡璃塗の塞子を製す）植物。

ことれろし（名）墮胎、はらみこをおろすこと。
ことれろしばば（名）墮胎婆、殷胎婆、こをおろすをんな。
ことをはらむ　懷妊、懷孕、懷胎（妊娠、こをやどす。
ことをどり（する）自）雀躍、とびあがりてまひ歡びて。
ことりぎち　桑折町（岩代國伊達郡の町名）。
ごをうつ　圖碁、對碁、對奕、對局、ごをかこむ。
ごをく　山產、分娩、分身（贈が身二つに成る）。
ごをうむ　孤屋、ひとつや、はなれや。
ことをく　琴尾、つるを（鳥獸の）。
ことれもひする　奚音（奚國の字音にて吾邦に古く用ひし所にて佛經は皆之にて讀めり）。
ことれん　壁色（地水火風空をいふ、また五個の石を積み寶塔をもいふ）。
ことわいろ（名）壁色、こえつき、こわね。
ことわいろつかひ（名）壁色使（他人の音壁をまねるもの、重もに俳優のこわねをまねるものを然か名づく）。
ことわいた（名）怪板、容板、ひきわれるといた。
ことわだか（形）聲高、こえたかき、おほごゑの。
ことわだかに（副）高聲、こえたかく、勵聲、こえつよく。
ことわづくろひ（名）聲嗽、せきばらひ、しはぶき（物言ふ前にする）、こわづくり。
ことわづくり（名）聲嗽、しはぶき、せきばらひ（上を見よ）。
ことわつき（名）壁色、こえつき、こわね。
ことわね（名）音聲（おんじやう）、こわいろ、こゑ。
ことわらべ（名）小童、豎子、竪子、飯童、わらんべ、ちひさきわらべ、孺子、こども。
ことわ（副）古往、そのかみ、むかし、いにしへ。
ことわ（名）牛賁、丑亥、うしのたま。
ことわりぬん（名）胡賁逸、たうやく、せんぶり（植物）。
ことわりこんらい　古往今來、いにしへ（もいまも、古今）。
ことわく（する）他）惑、まどはす、いざなひまどはす。
ことわき（名）小脇、脇の下をいふ。
ことわきざし（名）小脇差、匕首、あひくち、小刀。
ことか（名）估價、ねづもり、ねうち。
ことか（名）胡歌、えびすうた、夷狄の歌をいふ。
ことか　古歌、ふるうた、むかしうた。
ことが（名）椀、たる、桶。
ことが（名）古賀、久我氏。
ことが（形）古雅、みやびたる、有雅致。